岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第375集

上村遺跡発掘調査報告書

東北新幹線盛岡・八戸間建設事業関連遺跡発掘調査

日本鉄道建設公団盛岡支社
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

上村遺跡発掘調査報告書

うわ　むら

東北新幹線盛岡・八戸間建設事業関連遺跡発掘調査

序

本県には縄文時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地があり、平成12年度の岩手県教育委員会のまとめでは、10,500箇所に及ぶ遺跡が確認されております。これら先人の残した文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは私たち県民に課せられた重大な責務であります。

一方では、地域開発に伴う社会資本の充実も重要な施策であります。発掘により遺構が消滅することはまことに惜しいことでありますが、その反面それまで闇に包まれていた先人の営みに光明があたるのも事実であります。

このように埋蔵文化財の保護・保存と開発との調和も今日的課題であり、㈶岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センター創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、記録保存する処置をとって参りました。

本報告書は「東北新幹線盛岡－八戸間鉄道建設工事」に関連して、平成９年度および平成11年度、平成12年度に発掘調査を行なった二戸市上村遺跡の調査結果をまとめたものであります。本遺跡では、縄文時代の住居跡が数多く検出され、貴重な資料を得ることが出来ました。また近隣の遺跡との比較や関連を考えるうえでも有効な資料となると思われます。

本報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず、埋蔵文化財に対する理解あるいは啓蒙普及の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、これまで発掘調査および報告書作成にご援助、ご協力賜りました日本鉄道建設公団盛岡支社・二戸市教育委員会をはじめとする多くの関係機関・関係各位に深く感謝申し上げます。

平成14年２月

財団法人岩手県文化振興事業団
理事長　村　上　勝　治

例　　言

1．本報告書は東北新幹線盛岡－八戸間鉄道建設工事に伴う上村遺跡の緊急発掘調査の報告である。

2．本遺跡の岩手県遺跡登録台帳の遺跡番号と遺跡略号は、次のとおりである。

　遺跡番号　ＩＥ99－2391

　遺跡略号　ＵＭ－97（一次調査）、ＵＭ－99（二次調査）、ＵＭ－00（三次調査）

3．調査は三次にわたり、調査期間は次のとおりである。

　一次調査　…　平成９年４月９日～７月４日

　二次調査　…　平成11年４月13日～６月28日

　三次調査　…　平成12年８月１日～８月10日

4．野外調査の担当は次のとおりである。

　一次調査（平成９年度）…　下田隆衛、岩渕　計、佐々木志麻

　二次調査（平成11年度）…　前田　稔、星　雅之

　三次調査（平成12年度）…　星　雅之（岩手県教育委員会文化課）、日下和寿（岩手県教育委員会文化課）ほか

5．調査面積は一次調査が2,000㎡、二次調査が2,585㎡で、三次調査が286㎡である。

6．整理作業は一次調査については下田隆衛、岩渕　計、佐々木志麻が担当し、二次・三次調査は前田　稔、星　雅之が担当した。

7．執筆の分担については、Ⅲ章２（５）②に記載している。

8．石器・石製品の石質鑑定は、（株）長内水源工業　佐藤二郎氏と花崗岩研究会に依頼した。

9．柱材・炭化材の樹種同定は、木工舎「ゆい」に依頼した。

10．基準点測量は、（株）東開技術に委託した。

11．発掘調査及び整理・報告書作成にあたり次の機関及び方々のご指導・ご協力をいただいた。（敬称略）

　関　　豊　　門嶋知二　　鈴木　聡（二戸市教育委員会）　　佐藤嘉広（岩手県立博物館）

12．野外調査にあたっては二戸市と地元の方々に多大なるご協力をいただいた。

13．土層の色調観察は「新版標準土色帳」（農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修1989）を用いた。

14．調査成果はこれまでに調査略報に掲載してきたが、本書の内容が優先される。

15．本遺跡において出土した遺物及び調査資料・諸記録は、岩手県立埋蔵文化財センターが保管している。

[本　文　目　次]

序　例言　目次
Ⅰ　調査に至る経緯と経過 ……3
　1．調査に至る経緯 ……3
　2．調査の経過 ……3
Ⅱ　遺跡の立地と環境 ……6
　1．遺跡の位置 ……6
　2．地形と立地 ……6
　3．地質と基本層序 ……6
　4．周辺の遺跡 ……7
Ⅲ　野外調査と室内整理 ……13
　1．野外調査 ……13
　2．室内整理 ……16
Ⅳ　一次調査の報告
　1．検出された遺構と出土遺物
　（1）竪穴住居跡 ……23
　（2）土坑 ……53
　（3）竪穴住居状遺構 ……76
　（4）焼土遺構 ……78
　（5）溝跡 ……81
　（6）埋設土器遺構 ……81
　（7）柱穴状小土坑 ……86
　（8）その他 ……86
　2．遺構外出土遺物 ……90
　（1）土器 ……90
　（2）土製品 ……94
　（3）石器 ……94
　（4）石製品 ……96
　3．分析・鑑定 ……146
Ⅴ　二・三次調査の報告
　1．検出された遺構・水路跡 ……225
　（1）平成11年度で検出された水路跡 ……225
　（2）平成12年度調査で検出された遺構 ……228
　2．遺構外出土遺物 ……232
Ⅵ　まとめ ……271

[表　目　次]

第1表　周辺の遺跡 ……10
(一次調査)
第2表　遺構内出土土器観察表 ……129
第3表　遺構内出土土製品観察表 ……137
第4表　遺構内出土石器・石製品観察表 ……138
第5表　遺構外出土土器観察表 ……140
第6表　遺構外出土土製品観察表 ……144
第7表　遺構外出土石器・石製品観察表 ……145
(二・三次調査)
第8表　遺物観察表（1）……248
第9表　遺物観察表（2）……249
第10表　遺物観察表（3）……250
第11表　遺物観察表（4）……251
第12表　遺物観察表（5）……252
第13表　遺物観察表（6）……253

[図 版 目 次]

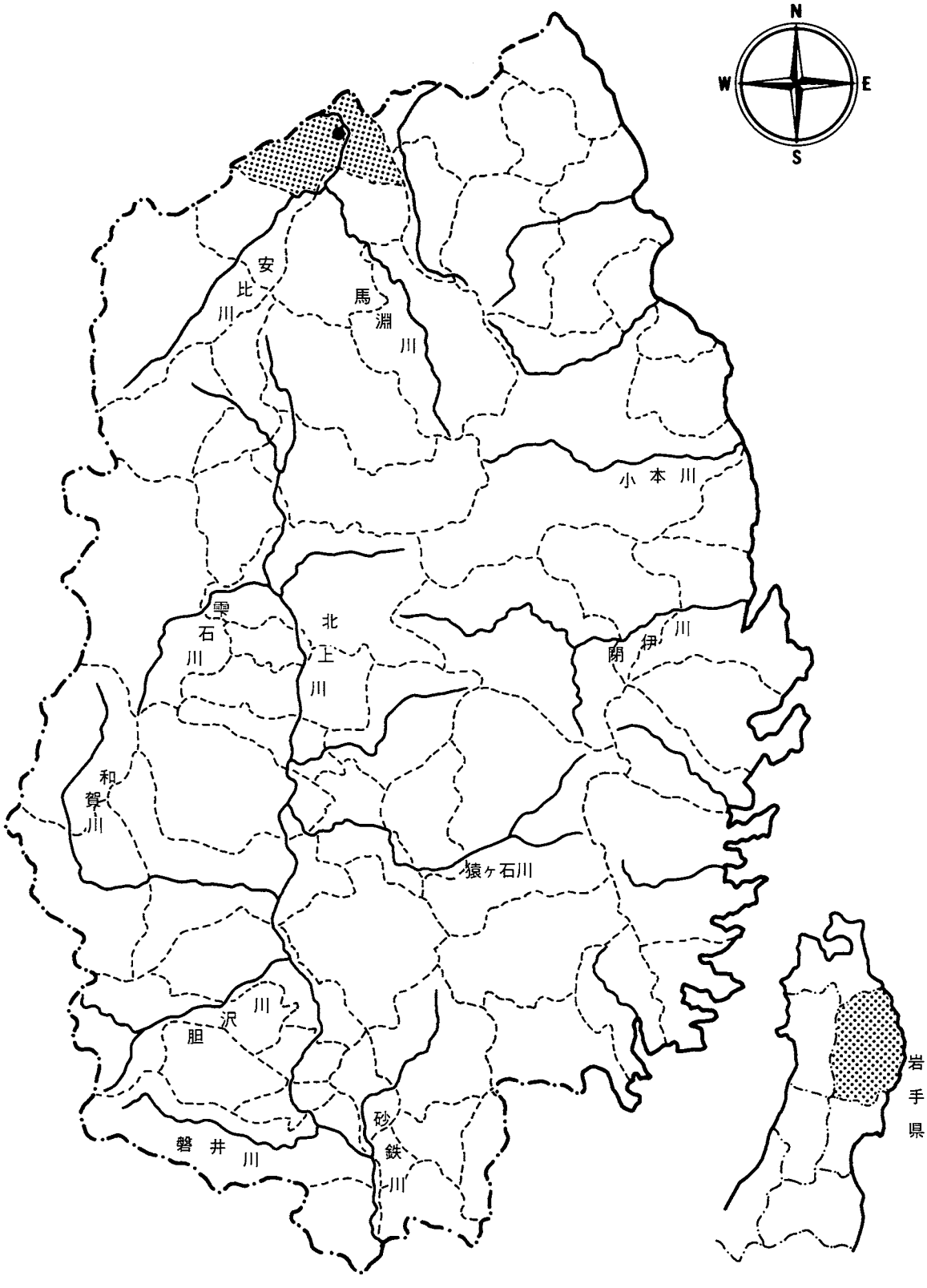
第１図　岩手県全図 ……1
第２図　遺跡位置図 ……2
第３図　周辺の地形図 ……4
第４図　地形分類図 ……5
第５図　基本層序 ……7
第６図　周辺の遺跡 ……12
第７図　グリッド配置図 ……14
第８図　１次～３次調査遺構配置図 ……18
(一次調査)
第９図　遺構配置図 ……21･22
第10図　１号・２号竪穴住居跡 ……24
第11図　３号・４号竪穴住居跡 ……26
第12図　５号・６号竪穴住居跡 ……28
第13図　７号・８号竪穴住居跡 ……30
第14図　９号・10号竪穴住居跡 ……32
第15図　11号竪穴住居跡 ……34
　　９号・11号・13号竪穴住居跡、46号土坑
　　重複関係図
第16図　12号竪穴住居跡 ……36
第17図　13号竪穴住居跡 ……37
第18図　14号竪穴住居跡 ……39
第19図　15号・16号竪穴住居跡 ……41
第20図　17号竪穴住居跡 ……43
第21図　18号・19号竪穴住居跡 ……45
第22図　20号竪穴住居跡 ……46
第23図　21号竪穴住居跡 ……48
第24図　22号竪穴住居跡 ……50
第25図　23号・24号竪穴住居跡 ……52
第26図　１号～６号土坑 ……55
第27図　７号～12号土坑 ……57
第28図　13号～17号土坑 ……60
第29図　18号～20号土坑 ……62
第30図　21号・22号土坑 ……64
第31図　23号～28号土坑 ……67
第32図　29号～32号土坑 ……69
第33図　33号～38号土坑 ……71
第34図　39号～44号土坑 ……73
第35図　45・46号土坑 ……75
第36図　１号・２号竪穴住居状遺構 ……77
第37図　１号～8号焼土遺構 ……80
第38図　１号・２号溝跡 ……82
第39図　１号～７号埋設土器遺構 ……85
第40図　柱穴状小土坑 ……88
第41図　遺物集中区 ……89
第42図　遺構内出土遺物（１） ……97
第43図　遺構内出土遺物（２） ……98
第44図　遺構内出土遺物（３） ……99
第45図　遺構内出土遺物（４） ……100
第46図　遺構内出土遺物（５） ……101
第47図　遺構内出土遺物（６） ……102
第48図　遺構内出土遺物（７） ……103
第49図　遺構内出土遺物（８） ……104
第50図　遺構内出土遺物（９） ……105
第51図　遺構内出土遺物（10） ……106
第52図　遺構内出土遺物（11） ……107
第53図　遺構内出土遺物（12） ……108
第54図　遺構内出土遺物（13） ……109
第55図　遺構内出土遺物（14） ……110
第56図　遺構内出土遺物（15） ……111
第57図　遺構内出土遺物（16） ……112
第58図　遺構内出土遺物（17） ……113
第59図　遺構内出土遺物（18） ……114
第60図　遺構内出土遺物（19） ……115
第61図　遺構内出土遺物（20） ……116
第62図　遺構内出土遺物（21） ……117
第63図　遺構外出土遺物（１） ……118
第64図　遺構外出土遺物（２） ……119
第65図　遺構外出土遺物（３） ……120

第66図　遺構外出土遺物（4）……121
第67図　遺構外出土遺物（5）……122
第68図　遺構外出土遺物（6）……123
第69図　遺構外出土遺物（7）……124
第70図　遺構外出土遺物（8）……125
第71図　遺構外出土遺物（9）……126
第72図　遺構外出土遺物（10）……127
第73図　遺構外出土遺物（11）……128
（二・三次調査）
第74図　グリッド位置図・トレンチ位置図 ……223
第75図　遺構配置図 ……224
第76図　流路平面図 ……226
第77図　流路断面図 ……227
第78図　25号竪穴住居跡 ……229
　　25号竪穴住居跡出土土器（1）
第79図　25号竪穴住居跡出土土器（2）……230
第80図　25号竪穴住居跡出土石器 ……231
第81図　遺構外出土土器（1）……236
第82図　遺構外出土土器（2）……237
第83図　遺構外出土土器（3）……238
第84図　遺構外出土土器（4）……239
第85図　遺構外出土土器（5）……240
第86図　遺構外出土土器（6）……241
第87図　遺構外出土土製品 ……242
第88図　遺構外出土石器（1）……243
第89図　遺構外出土石器（2）……244
第90図　遺構外出土石器（3）……245
第91図　遺構外出土石器（4）……246
第92図　遺構外出土石製品 ……247
（まとめ）
第93図　時期別遺構配置図 ……279

［写真図版目次］

（一次調査）
写真図版1　調査区全景 ……153
写真図版2　1号竪穴住居跡 ……154
写真図版3　2号竪穴住居跡 ……155
写真図版4　3号竪穴住居跡 ……156
写真図版5　4号竪穴住居跡 ……157
写真図版6　5号竪穴住居跡 ……158
写真図版7　6号竪穴住居跡 ……159
写真図版8　7号竪穴住居跡 ……160
写真図版9　8号竪穴住居跡 ……161
写真図版10　9号竪穴住居跡 ……162
写真図版11　10号・11号竪穴住居跡 ……163
写真図版12　11号・12号竪穴住居跡 ……164
写真図版13　12号竪穴住居跡 ……165
写真図版14　13号竪穴住居跡 ……166
写真図版15　14号竪穴住居跡 ……167
写真図版16　15号・16号竪穴住居跡 ……168
写真図版17　16号竪穴住居跡 ……169
写真図版18　17号竪穴住居跡 ……170
写真図版19　18号竪穴住居跡 ……171
写真図版20　19号竪穴住居跡 ……172
写真図版21　20号竪穴住居跡 ……173
写真図版22　21号・22号・23号竪穴住居跡 ……174
写真図版23　21号・22号・23号・24号
　　竪穴住居跡 …175
写真図版24　22号・23号竪穴住居跡 ……176
写真図版25　1号～4号土坑 ……177
写真図版26　5号～8号土坑 ……178
写真図版27　9号～13号土坑 ……179
写真図版28　13号～18号土坑 ……180
写真図版29　19号～22号土坑 ……181
写真図版30　23号・25号～27号土坑 ……182
写真図版31　28号～31号土坑 ……183
写真図版32　32号～36号土坑 ……184

写真図版33　37号～40号土坑 ……185
写真図版34　41号～46号土坑 ……186
写真図版35　1号・2号竪穴住居状遺構 ……187
写真図版36　1号～4号焼土遺構 ……188
写真図版37　5号～8号焼土遺構 ……189
写真図版38　1号・2号溝跡 ……190
写真図版39　1号～3号埋設土器遺構 ……191
写真図版40　4号～7号埋設土器遺構 ……192
写真図版41　9C～10Cグリッド柱穴状小土坑・遺物集中区 …193
写真図版42　遺構内出土遺物（1）……194
写真図版43　遺構内出土遺物（2）……195
写真図版44　遺構内出土遺物（3）……196
写真図版45　遺構内出土遺物（4）……197
写真図版46　遺構内出土遺物（5）……198
写真図版47　遺構内出土遺物（6）……199
写真図版48　遺構内出土遺物（7）……200
写真図版49　遺構内出土遺物（8）……201
写真図版50　遺構内出土遺物（9）……202
写真図版51　遺構内出土遺物（10）……203
写真図版52　遺構内出土遺物（11）……204
写真図版53　遺構内出土遺物（12）……205
写真図版54　遺構内出土遺物（13）……206
写真図版55　遺構内出土遺物（14）……207
写真図版56　遺構内出土遺物（15）……208
写真図版57　遺構内出土遺物（16）……209
写真図版58　遺構内出土遺物（17）……210
写真図版59　遺構内出土遺物（18）……211
写真図版60　遺構外出土遺物（1）……212
写真図版61　遺構外出土遺物（2）……213
写真図版62　遺構外出土遺物（3）……214
写真図版63　遺構外出土遺物（4）……215
写真図版64　遺構外出土遺物（5）……216
写真図版65　遺構外出土遺物（6）……217
写真図版66　遺構外出土遺物（7）……218
写真図版67　遺構外出土遺物（8）……219
写真図版68　遺構外出土遺物（9）……220
（二次・三次調査）……
写真図版69　調査区近景 ……257
写真図版70　流路・遺物出土状況 ……258
写真図版71　25号竪穴住居跡 ……259
写真図版72　25号竪穴住居跡出土土器、石器、土製品 …260
写真図版73　遺構外出土土器（1）……261
写真図版74　遺構外出土土器（2）……262
写真図版75　遺構外出土土器（3）……263
写真図版76　遺構外出土土器（4）……264
写真図版77　遺構外出土土器（5）……265
写真図版78　遺構外出土土器（6）……266
写真図版79　土製品 ……267
写真図版80　遺構外出土石器（1）……268
写真図版81　遺構外出土石器（2）……269
写真図版82　遺構内出土石器（3）・石製品 …270



第１図　岩手県全図

第２図　遺跡位置図

Ⅰ　調査に至る経緯と経過

1．調査に至る経緯

上村遺跡の発掘調査は、東北新幹線盛岡・八戸間鉄道建設事業に係り、その施工区域に所在する埋蔵文化財の記録保存を図ることを目的として実施した緊急発掘調査である。

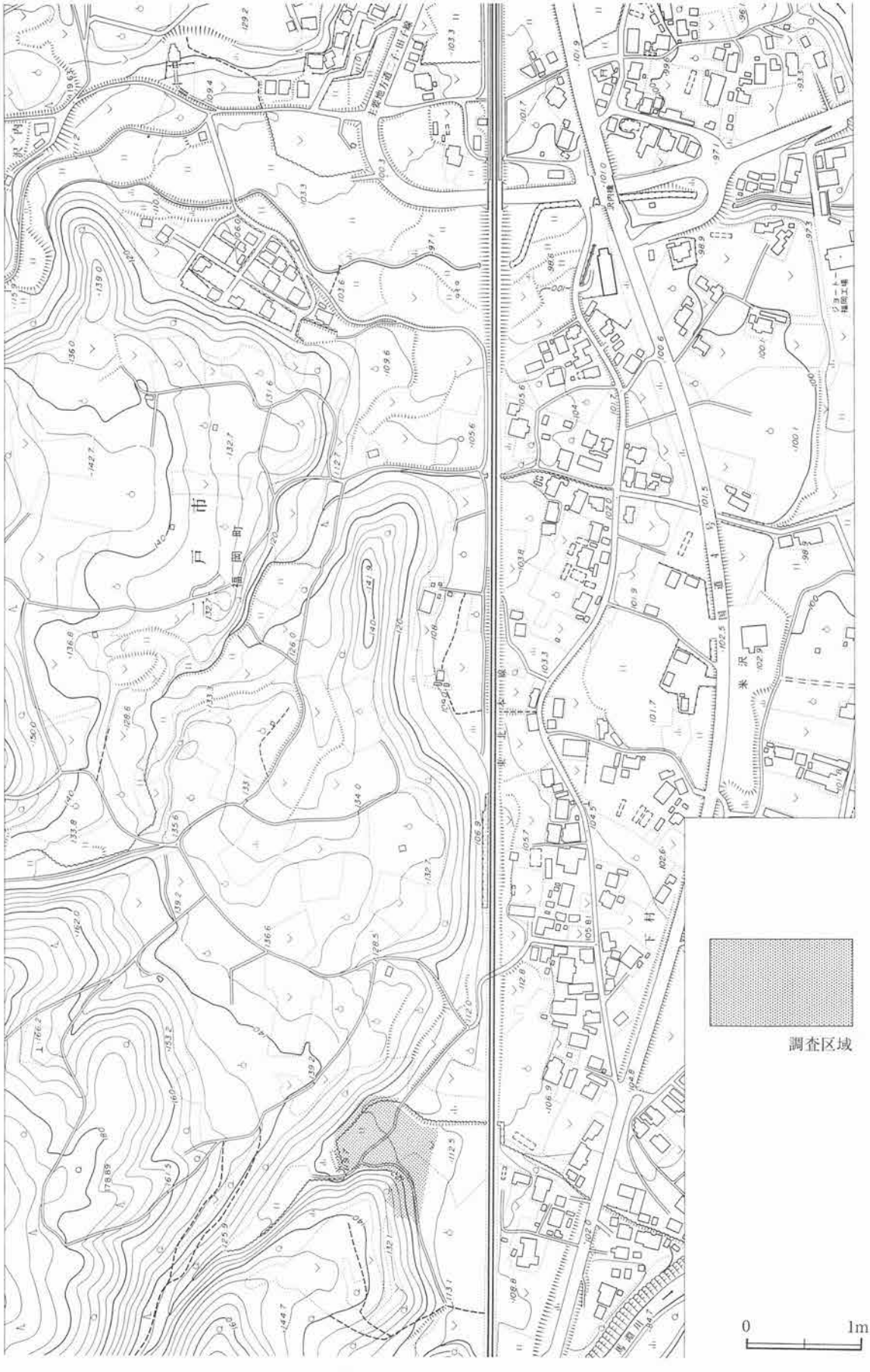
現在、東北新幹線は、東京・盛岡間が開通している。盛岡以北、青森までの東北新幹線建設については、日本鉄道建設公団が昭和48年11月整備計画の決定・建設の指示を受け、昭和57年12月環境影響評価報告書（案）を公表し、昭和60年12月盛岡・新青森（仮称）間の工事実施計画認可申請を行った。その後、昭和63年8月には整備新幹線の着工順位決定、運輸省案提示（盛岡・沼宮内間および八戸・青森間は新幹線鉄道通線とし、沼宮内・八戸間は標準軌新線とする）、平成3年8月暫定整備計画の決定、建設指示、工事実施計画の追加申請及び認可申請、そして工事実施計画の認可を受けて、平成3年9月工事着手した。

平成9年度現在の東北新幹線工事線「盛岡・八戸間」のうち青森県との県境に接する二戸市までの埋蔵文化財包蔵地については、平成4年度以降に岩手県教育委員会事務局が分布調査・試掘調査等を実施しており、平成9年度現在、30遺跡の所在が確認されているが、試掘調査の結果4遺跡については調査不要となっている。発掘調査の実施については、岩手県教育委員会事務局から平成5年8月26日付「教文第422号」により日本鉄道建設公団盛岡支社に対して事業計画について照会し、平成5年9月20日付「盛支総用第404号」の回答を受けて、両者が協議を行い、平成6年度以降の新幹線建設に係る埋蔵文化財発掘調査は一部を除いて財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの受託事業とすることとした。

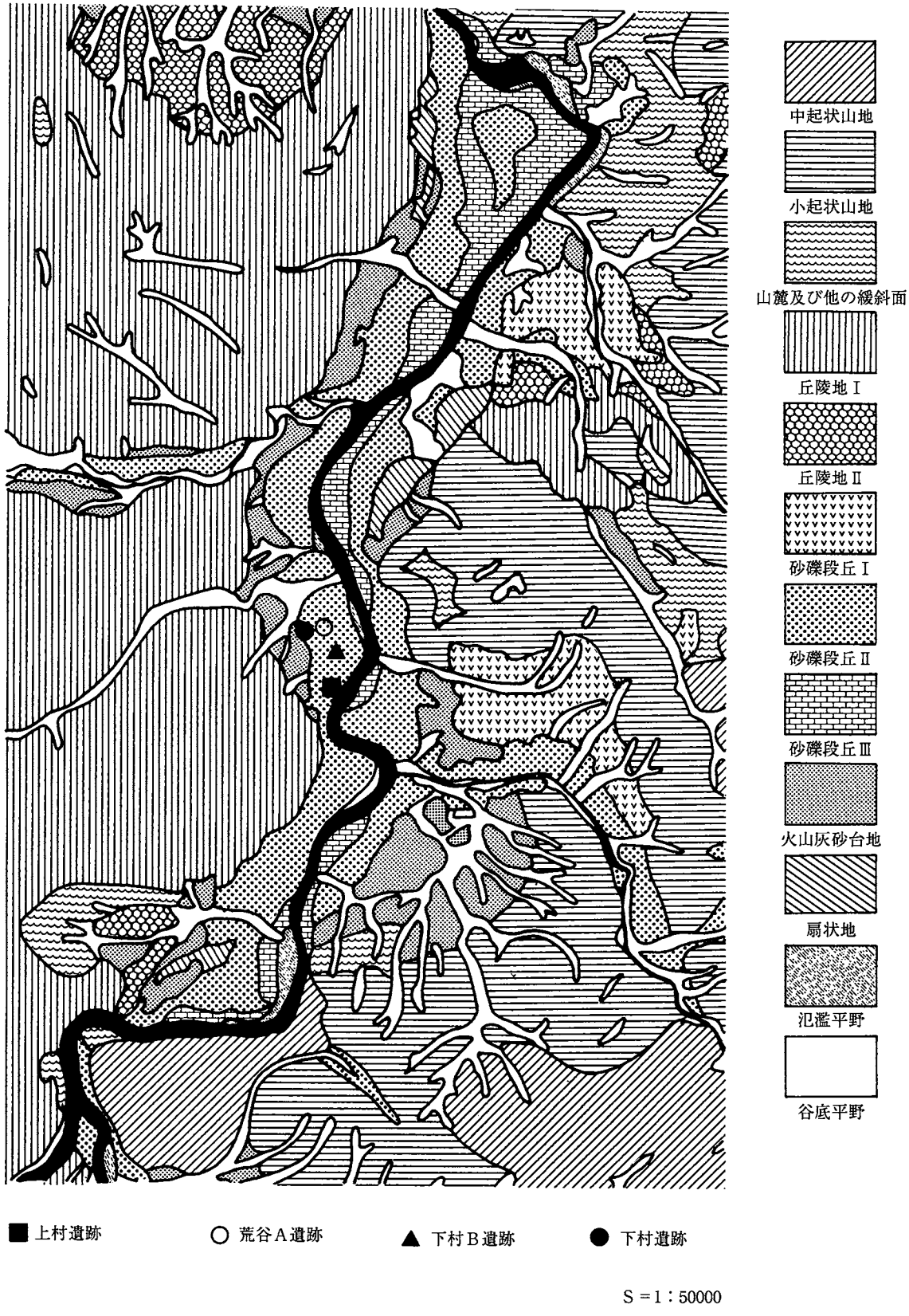
2．調査の経過

上村遺跡の調査は、平成9年3月6日付「教文第1010号」により、調査面積2,000㎡を対象とした事業通知がなされ、平成9年4月9日から野外調査を開始し、同年7月4日の現場撤収により、東北新幹線建設に係る上村遺跡の野外調査を一切終了した。

続いて、平成9年度調査区西側に隣接する区域について、岩手県教育委員会は、平成11年度事業として、平成11年1月25日付け「教文第1110号」により財団法人岩手県文化振興事業団に通知した。これを受けた財団法人文化振興事業団は同年4月1日付けで委託契約を締結し、4月13日から発掘調査に着手した。しかし南側286㎡については水路付替工事が完成せず調査が未了となったため、岩手県教育委員会は、平成12年度事業として、平成12年1月24日付け「教文第1074号」により財団法人岩手県文化振興事業団に通知した。これを受けて財団法人岩手県文化振興事業団は同年4月3日付けで委託契約を締結し、同年8月1日から発掘調査に着手した。なお、発掘調査は12年度で完了し、平成13年度に報告書を刊行するものである。



第３図　周辺の地形図


中起状山地
小起状山地
山麓及び他の緩斜面
丘陵地Ⅰ
丘陵地Ⅱ
砂礫段丘Ⅰ
砂礫段丘Ⅱ
砂礫段丘Ⅲ
火山灰砂台地
扇状地
氾濫平野
谷底平野
上村遺跡
荒谷A遺跡
下村B遺跡
下村遺跡
S＝1：50000

第4図　地形分類図

Ⅱ　遺跡の立地と環境

1．遺跡の位置

上村遺跡は岩手県二戸市米沢字上村20－１ほかに所在し、東日本旅客鉄道東北本線斗米駅の南約500mの地点にある。地形図上では、国土地理院発行の５万分の１地形図の「一戸」図幅に含まれ、緯度は北緯40度16分41～48秒、経度が東経141度17分41～42秒の範囲に位置している。遺跡の所在する二戸市は、盛岡市から北に約64km、岩手県の北端部に位置しており、北側は青森県三戸町、同名川町、西側は青森県田子町、浄法寺町、南側は一戸町、東側は九戸村、軽米町に隣接している。面積が238.17km²、人口が約３万人で、岩手県北内陸地域の中心的な役割を果たしている自治体である。

2．地形と立地

二戸市は東に北上山地、西に奥羽山脈に挟まれ、中心部を馬淵川が流れる。この地域の北上山地には古い隆起準平原が分布しており、最高点は折爪岳（標高852m）である。西側の西岳（標高1,018m）、稲庭岳（標高1,078m）より連なる奥羽山脈は、西にせまる200m～300mの丘陵の背後にあり、市街地からは望むことができない。馬淵川は、流域面積2,050m²、幹線流路延長142kmの河川で、葛巻町東端部の北上山地を源とし、葛巻町、一戸町、二戸市、青森県三戸町を流れ、八戸市で太平洋にそそいでいる。この河川の大部分は、狭い河岸段丘と深い浸食谷が続く。二戸市周辺では、二戸市の南隣、一戸町北端部の鳥越付近で東に大きく屈曲し、二戸市石切所付近まで、狭谷を流れる。さらに北流して二戸市下山井から三戸町梅内にかけても、流路は複雑に屈曲し、山地のせまる狭谷を流れる。この二戸市石切所と下山井の間、約８kmの区間は、馬淵川はゆるやかに曲流し、最大幅が1.5km程度の谷底平野が形成されている。この谷底平野は、高さや生成時期によって、いくつかの段丘に区別することができる。上位より、仁左平、福岡、長峯、中町、堀野、中曽根の各段丘である。（松山1981）今回の調査区をのせる段丘は、大部分は松山氏の堀野段丘に相当する。松山氏によれば、堀野段丘は馬淵川東岸の矢沢から堀野付近及び杉ノ沢付近と、西岸の下米沢から石切所付近にかけ分布する。数mの段丘礫層の上に南部浮石層を伴う黒色土層をのせる点では中野段丘と同様であるが、段丘面傾斜がやや大きく、また段丘縁と馬淵川面との比高が15m～18mと小さいので異なるとしている。

調査区は丘陵から続く、沢に面したなだらかな東向きの斜面に立地しており、標高が105m～120m前後で、現況は畑地、果樹園、道路、草地であった。

3．地質と基本層序

二戸市周辺は新世代第三紀層である、砂岩・凝灰岩・凝灰質砂岩、あるいは礫岩などが分布している。これらの地域は、表層を十和田火山起源などの火山砕屑物で厚くおおわれている。古い順に洪積世の天狗岱火山灰層、高舘火山灰層、八戸火山灰層、洪積世の二ノ倉火山灰層、南部浮石層、中掫浮石層、十和田ｂ降下火山灰層、十和田ａ降下火山灰層である。縄文時代以降の明瞭に識別できる火山砕屑物は、洪積世の二ノ倉火山灰以降の火山砕屑物で、縄文時代以降の遺構・遺物の調査の際には鍵層となる。本遺跡でも、南部浮石層以降の火山砕屑物が確認されており、標準的な基本層序はおおむね次の通りとなる。

Ⅰ層　黒褐色土　表土　草木根が混じる

Ⅱ層　黒褐色土　旧耕作土　いわゆるクロボク

Ⅲ層　黒褐色土　　十和田ａ火山灰がブロック状あるいは粒状に混じる。最大層厚15cm

Ⅳ層　黒色土　　十和田ｂ火山灰が混じる。本層は部分的に見られる。

Ⅴ層　暗褐色土　　中掫火山灰の二次堆積層。中掫火山灰が混じる中位の部分は砂質土となり、中掫を起源とする黄褐色の浮石粒を含む。

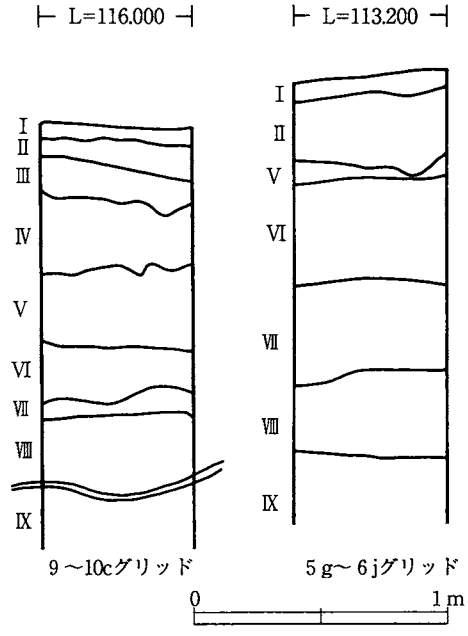
Ⅵ層　暗褐色粘土質土　　中掫を起源とする黄褐色の浮石粒が１cm～１mm大で混じる。下位には下層の砂質土が混じる。層厚５～30cm

Ⅶ層　暗褐色土　砂質土が混じる。

Ⅷ層　褐色土　　南部浮石が混じる。調査区の北部では黒褐色土も混じる層となり、南部では粘土質土が混じる部分も見られる。

下位には南部浮石がブロック状あるいは砂土と互層を構成している。

Ⅸ層　明褐色浮石　南部浮石層。



第５図　基本層序

以上が基本層序であるが、調査区は本来、丘陵部から続く尾根部分であったことや、北側を流れる沢の氾濫や丘陵部からと思われる鉄砲水など、水流の影響を多大に受けており、一様な土層の堆積状況は見られなかった。一次調査では、Ｂ区北東部の５ｇ～６ｊグリッド付近では、表土直下の層が中掫、中掫が起源と考えられる黄褐色の浮石粒が混じる黒褐色土で、基本層序中のⅣ層から上位の層は削平されている。この層から遺構が検出されている。さらにＢ区北西部の７ｄ～９ｇグリッド付近では、中掫を含む洪水によって押し流された土層が観察された。洪水の回数は中掫の観察により、少なくとも４回以上と推定される。その土層を掘り込む住居跡が検出されている。調査区の中央部付近は比較的水流の影響は少なく、基本層序とした土層が確認された。南東部の17ｇ～23ｊグリッド付近では十和田ａが厚く堆積しているが、その層からは遺構は検出していない。また沢に近い北側の区域ほど水流の影響が大きく、最も北側のＣ区は削平が激しく、遺構は検出していない。Ｂ区北西部の５ｄ～７ｅグリッド付近も土層中に礫を多量に含んでおり、遺構は検出されていない。また二・三次調査については、１次調査での調査区の西側、斜面の山側の部分にあたる。基本層序とした土層が見られたが、さらに水流の影響が激しかったことが窺え、遺構は竪穴住居跡が１棟検出されたのみで、他には旧沢跡が確認されている。詳しくは第75・76図を参照していただきたい。

４．周辺の遺跡

遺跡の周辺には縄文時代から中世にかけての数多くの遺跡が分布している。岩手県教育委員会1998『岩手県埋蔵文化財包蔵地一覧』によると、二戸市内では約160カ所ほどの遺跡が確認されている。上村遺跡の周辺では、昭和50年代に二戸バイパスに関連する調査が行われており、調査・報告されている遺跡が比較的多い。

上村遺跡と同じ下村遺跡群とされる遺跡では、上村遺跡（昭和49、50年調査　本調査とは別地点）、下村Ｂ遺跡（昭和49、50年調査）、荒屋Ａ遺跡（昭和50、51調査）について調査が行われている。また新幹線関連調査として下村遺跡が平成８年に調査されている。ここでは上村遺跡周辺の遺跡を中心として、過去に調査が行われ、集落跡が検出されている遺跡を主に、各時代、時期別に概観したい。

旧石器時代については、二戸市内が洪積世末の大規模な火山活動による堆積物によって厚く覆われているため、この時代の資料は、現在の所確認されていない。

縄文時代では、草創期と考えられる尖頭器が荒屋Ａ遺跡から出土しているが、生活の痕跡を窺うことのできる住居跡などの遺構は検出されていない。早期については、堀野段丘上に位置する長瀬Ｂ遺跡から５棟の竪穴住居跡が検出されており、中葉の貝殻文尖底土器が出土している。また二戸市南西部の丘陵に位置する大久保遺跡から１棟、低位段丘上にある馬立Ｉ遺跡から16棟の竪穴住居跡が検出され、早期の集落が確認されている。これも貝殻文尖底土器を主体とするものである。前期では、段丘に位置する中曽根遺跡から前期初頭の竪穴住居８棟が検出されており、福岡段丘上の上里遺跡からは２棟の竪穴住居跡が確認されている。また円筒下層式期では、上里遺跡２棟、中曽根遺跡１棟の竪穴住居跡が検出されている。円筒下層式土器は他の多くの遺跡からも出土しているが、二戸市内では大規模な集落は確認されていない。また上里遺跡の前期末葉の土坑からは、人骨が７体見つかっている。中期については、荒屋Ａ遺跡から、円筒上層ｅ式期と考えられる竪穴住居が２棟、大木８ｂ式期と考えられる住居が９棟、９式期が２棟検出されている。さらに荒屋Ａ遺跡では、環状の配石遺構が確認されている。下村Ｂ遺跡からは、大木９式期の竪穴住居が５棟検出され、該期の集落であったことがわかっている。出土遺物は大木９・10式土器が中心であるが、大木８ａ式～後期初頭の土器が出土している。また下村遺跡（新幹線関連調査）からも大木９式期の竪穴住居が検出されている。バイパス関連の上村遺跡の調査では、大木10式期の竪穴住居跡が２棟検出されている。上村遺跡と同じ段丘上にのる沢内Ｂ遺跡からも、２棟の大木10式が伴う竪穴住居跡が確認されている。また上里遺跡からは円筒土器を伴う住居跡が検出されており、円筒上層ａ式期が４棟、ｃ式期が１棟検出されている。後期については、下村Ｂ遺跡からは土器を埋納した配石土坑が２基検出されており、時期は後期初頭とされる。竪穴住居が検出されている遺跡では、同じ段丘上の沢内遺跡から２棟の住居跡が検出されているが、住居跡が多く検出されている遺跡は、南西部の丘陵地やそれに挟まれた低位段丘上に分布しており、馬立Ｉ遺跡から27棟、馬立Ⅱ遺跡から18棟、青ノ久保遺跡から２棟の竪穴住居跡が確認されている。出土している土器は後期初頭から前葉のものが多い。晩期の遺跡では、戦前からその存在が知られ、発掘調査が行われた雨滝遺跡がある。晩期前半の精巧な土器、石器、土製品が大量に出土し、雨滝式が提唱されるなど学史的にも重要な遺跡である。住居跡が検出された遺跡は晩期後半とされ、沢内遺跡が２棟、中曽根遺跡２棟である。

弥生時代の遺跡では馬淵川の沖積段丘に位置する大淵遺跡、長瀬Ｂ遺跡から各１棟、馬立Ｉ遺跡から４棟の竪穴住居跡が検出されている。また火行塚遺跡から、弥生時代前葉の土器が出土している。

古代では、堀野段丘上にある堀野遺跡から７世紀の前半から末と考えられる竪穴住居跡が11棟確認されている。また馬淵川の対岸の段丘に位置する上田面遺跡からは、７世紀後半に含まれる住居跡が31棟検出されており、その他にも駒焼場遺跡、長瀬Ｂ遺跡からも数棟の住居跡を確認している。８世紀になると、中曽根Ⅱ遺跡から76棟、長瀬Ｂ遺跡から25棟、長瀬Ｃ遺跡から30棟の竪穴住居跡が検出されるなど、大規模な集落が形成されるようになる。また荒屋Ａ遺跡、長瀬Ｄ遺跡などでは数棟からなる小規模な集落も見られ、遺跡数、集落数が増加する傾向にある。また堀野古墳群から周湟の外径が12m、石組で囲った主体部を持つ古墳が検出されている。９世紀に入ると大規模な集落はなくなり、数棟規模の集落が長瀬Ａ、Ｂ遺跡や火行塚遺

跡から検出されている。9・10世紀については馬淵川流域の遺跡が現象するのに対して、安比川流域から多くの住居跡が検出されている。

中世の遺跡では、中世の終焉となる「九戸政実の乱」の舞台となる九戸城跡をはじめとして、比較的多くの遺跡から遺構が検出されている。竪穴住居跡が検出されているのは、下村B遺跡2棟、上里遺跡1棟、長瀬C遺跡10棟、長瀬D遺跡1棟、駒焼場遺跡1棟、馬場遺跡1棟、沢内B遺跡4棟、沖I遺跡4棟、八ッ長II遺跡が7棟、下村遺跡が3棟である。遺物は銭貨、鉄製品、陶磁器などが出土している。

参考・引用文献

大池昭二他　1966　「馬淵川中・下流域の段丘と火山灰」『第四紀研究』5-1

大池　昭二　1972　「十和田火山東麓における完新世テフラの編年」『第四紀研究』11-4

松山　　力　1978　「第II章自然的環境」『中曽根遺跡発掘調査報告書』

岩手県埋蔵文化財センター

1981『二戸市バイパス関連遺跡発掘調査報告書』（第22集）（上田面・大渕・火行塚遺跡）

1981『二戸市バイパス関連遺跡発掘調査報告書』（第23集）（長瀬C、長瀬D遺跡）

1982『二戸市バイパス関連遺跡発掘調査報告書』（第35集）（長瀬A遺跡）

1982『二戸市バイパス関連遺跡発掘調査報告書』（第36集）（長瀬B遺跡）

1983『上里遺跡発掘調査報告書』（第55集）

1983『上村遺跡・下村A遺跡・下村B遺跡発掘調査報告書』（第56集）

1983『荒谷A遺跡発掘調査報告書』（第57集）

1983『江刺家遺跡発掘調査報告書』（第70集）

1985『岩手の遺跡』

1988『馬立II遺跡発掘調査報告書』（第122集）

1988『馬立I・太田遺跡発掘調査報告書』（第123集）

1988『米沢遺跡発掘調査報告書』（第132集）

1991『八ツ長II遺跡発掘調査報告書』（第168集）

1996『寺久保遺跡発掘調査報告書』（第239集）

1997『田代遺跡発掘調査報告書』（第262）

2000『下村遺跡発掘調査報告書』（第323集）

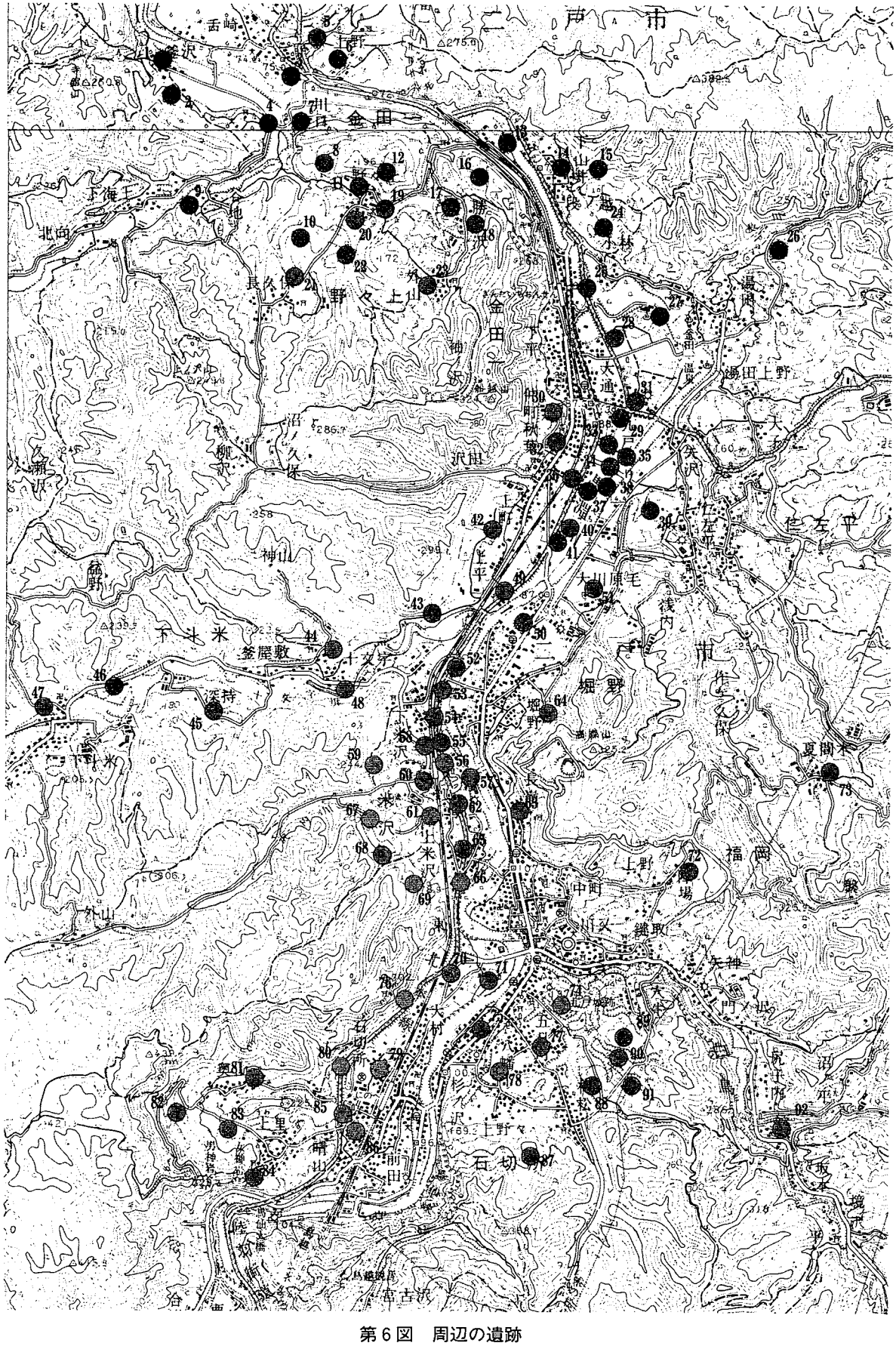
二戸市教育員会　1978『中曽根遺跡発掘調査報告書』

『二戸市史』

第１表　周辺の遺跡

No.	遺跡名	種　別	時　代	遺構・遺物	備　考
1	道の下	散布地	縄文	縄文土器	
2	釜沢館	城館跡	中近世	空堀、腰郭、土塁	文献「古城館趾考」
3	雨滝（舌崎Ａ）	散布地	縄文	縄文土器（晩期）	S30年代に明治大学が学術調査。芹沢長介著「日本の石器時代」に調査状況を所収、遺物は明大蔵
4	道ノ下	散布地	縄文	縄文土器	
5	山道	散布地	縄文	縄文土器（晩期）	
6	石造（舌崎Ｂ）	祭祀跡･散布地	縄文	縄文土器（晩期）	
7	川口Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器、弥生土器、石器	
8	野々上Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器	
9	海上館	城館跡	中世	堀切	文献「古城館址考」
10	林向	散布地	縄文	縄文土器	
11	出張	集落跡	奈良・平安	土師器	
12	野々上Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	
13	小野	散布地	縄文	縄文土器（中期）	
14	下山井	散布地	縄文	縄文土器	
15	下山井館	城館跡	中世		字名の「館」は複数所在。文献「古城館趾考」。
16	勝負沢Ⅰ	集落跡	奈良・平安	土師器	
17	勝負沢Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	
18	勝負沢Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器	
19	野々上館	城館跡	中世	堀切	文献「古城館趾考」
20	野々上Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器	
21	上ノ沢Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器	
22	仏畑	散布地	縄文	縄文土器	
23	上ノ沢Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	
24	段ノ越	散布地	縄文	縄文土器	
25	駒焼場	集落跡	平安	環濠集落、鏑矢	S57に二戸市、S56,56に岩埋文が調査
26	天狗	散布地	縄文	縄文土器	
27	大釜	散布地	縄文	縄文土器（中期）	
28	馬場	集落跡	奈良	土師器	Ｓ60、61 調査→岩埋文
29	沖	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器	S63,H2 調査→岩埋文（1990）
30	四戸城（金田一城）	城館跡	中世末～近世	空堀、平場、土塁	文献「古城館址考」
31	八ツ長Ⅱ	散布地	縄文･古代･中世	縄文土器、中世住居跡、土師器	H2調査→岩埋文（1992）
32	秋葉	散布地	縄文	縄文土器	
33	八ツ長Ⅰ	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器	
34	八ツ長Ⅳ	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器	
35	八ツ長Ⅲ	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器	
36	荒田Ⅲ	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器	
37	荒田Ⅱ	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器	
38	荒田Ⅰ	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器	
39	戸花	散布地	縄文	縄文土器（晩期）	
40	荒田Ⅳ	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器	
41	上田面Ⅱ	散布地	縄文･古代	縄文土器、土師器	
42	上町	散布地	縄文	縄文土器	
43	海老田	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器	
44	十文字	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器	
45	上野平	集落跡	奈良・平安	土師器	
46	米田平	散布地	縄文	縄文土器	
47	下斗米館（下館）	城館跡	中世	空堀、平場	文献「古城館趾考」
48	釜屋敷	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器	
49	上田面	集落跡	縄文・弥生・古代	縄文土器（早期）、方形周溝墓、平安住居跡、土師器、鉄製品	S51、52県文化調査課。（二戸ﾊﾞｲﾊﾟｽ関連）、S52、53調査→岩埋文（1981）
50	堀野	集落跡･祭祀跡	縄文・古代	古墳、蕨手刀、竪穴住居、配石	S28、37～39岩大発掘調査
51	大川原毛	散布地	縄文	縄文土器	
52	長瀬Ｄ	集落跡	縄文・中世	縄文晩期住居跡、中世住居跡、火葬墳墓	S52調査→岩埋文（1981）

No.	遺跡名	種　別	時　代	遺構・遺物	備　考
53	長瀬C	集落跡	縄文･古代･中世	奈良･中世住居跡、土師器	S56調査→岩埋文（1983）
54	長瀬B	集落跡	縄文・古代	縄文早期住居跡、奈良･平安住居跡	S51、52調査→岩埋文（1982）
55	長瀬A	集落跡	縄文・古代	竪穴住居跡、奈良･平安住居跡	S56調査→岩埋文（1982）
56	家ノ上	集落跡	縄文・中世	縄文早期、中～後期住居跡、中世住居跡	S56調査→岩埋文（1982）
57	米沢 （米沢館･エン館）	集落跡･ 城館跡	縄文･古代･中世	竪穴住居跡、工房跡、土墳群	S47～52県文化課調査。S62調査→岩埋文（1988） （二戸バイパス関連）H10～12調査→岩埋文（新幹線関連）
58	沢内B	集落跡	縄文･中世	縄文中期住居跡、中世住居跡、陶磁器	S53調査→岩埋文（1978）
59	佐々木館（稲荷館）	散布地･城館跡	中世	縄文土器、土師器、堀	一部県道工事により削平。文献「古城館趾考」
60	沢内	集落跡	縄文	縄文後期住居跡、縄文土器（後晩期）	S52調査→岩埋文（1978）
61	下村	集落跡	縄文･古代	縄文前期、中期住居跡、縄文土器（前～中～後期）、配石、中世住居跡、近世住居跡	S51県文化課、S60二戸市教委調査。（二戸ﾊﾞｲﾊﾟｽ関連）　H８調査→岩埋文（1999）（新幹線関連）
62	荒谷A	集落跡	縄文	縄文中期住居跡、縄文土器（中期）	S50、51調査→岩埋文（1983）
63	長嶺	散布地	縄文	縄文土器	
64	堀野館（小四郎館）	城館跡	中世	空堀、平場、土師器	
65	下村B	集落跡	縄文	縄文中期住居跡、縄文土器（中～後期）	S49、50調査→岩埋文（1983）
66	上村	集落跡	縄文	縄文中期住居跡、縄文土器（中期）	S49、50調査→岩埋文（1983）（二戸バイパス関連） Ｈ９、11、12調査→本報告遺跡（新幹線関連）
67	上平Ⅰ	散布地	縄文･古代	縄文土器、土師器	
68	上平Ⅲ	散布地	縄文･古代	縄文土器（晩期）、土師器	
69	上平Ⅳ	散布地	縄文･古代	縄文土器、土師器	
70	中曽根Ⅱ	集落跡	縄文･古代	竪穴住居跡、縄文土器	S53、54調査→二戸市教委（1981）
71	中曽根	集落跡	縄文･古代･中世	住居跡、円形周溝、土墳群	S52（市道中曽根線）、S53～54（二戸ﾊﾞｲﾊﾟｽ関連）調査一二戸市教委（1978）
72	横山	散布地	縄文	縄文土器	
73	夏間木	散布地	縄文	注口土器	
74	九戸城 （白鳥城、福岡城）	城館跡	中近世	石垣、堀跡、石類、桝形	Ｓ10国指定。本丸、二ノ丸、三ノ丸、（指定地外）松ノ丸、石沢館、若狭館からなる
75	橋場	城館跡	縄文･中世	縄文岩偶（晩期）、土塁（既破壊）	S57二戸市教委調査。
76	荒谷	散布地	縄文	縄文土器	
77	在府小路	散布地･城館跡	縄文･中近世	縄文土器、堰跡、陶磁器	九戸城関連遺址
78	八幡下	散布地	縄文	縄文土器（晩期）	
79	森合	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器	Ｈ９範囲拡大
80	火行塚	集落跡	縄文･弥生･古代	縄文前期住居跡、弥生包含層、弥生土器類、土師器	S53、54岩埋文調査。（二戸ﾊﾞｲﾊﾟｽ関連）
81	横長根	散布地	縄文	縄文土器	
82	土川Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器	
83	土川Ⅱ	散布地	縄文･古代	縄文土器、土師器	
84	蒼前館	城館跡	中世	平場、空堀	
85	上里	集落跡･ 城館跡	縄文･中世	大型住居、フラスコ土坑群、堀跡 人骨、獣骨、土製品	S53、54岩埋文調査。（二戸ﾊﾞｲﾊﾟｽ関連） S60～62二戸市教委調査。
86	石切所館	城館跡	中世	平場、空堀、板碑	
87	村松館	城館跡	中世		文献「古城館址考」
88	柿木平	散布地	縄文･奈良･平安	縄文土器、土師器	
89	上穴牛	散布地	縄文･奈良･平安	縄文土器、土師器	
90	天神下１	散布地	縄文･奈良･平安	縄文土器、土師器	
91	天神下２	散布地	縄文･奈良･平安	縄文土器、土師器	
92	坂本館（白鳥館）	城館跡	古代・中世	土師器、堀、平場	文献「古城館趾考」


二戸市
金田一
下金田
金田
野々上
長久保
沼久保
柳沢
沢田
神山
釜屋敷
深持
下斗米
上斗米
上米沢
外山
堀野
長岡
上野
中町
川又
鐵取
矢神
福岡
夏間木
左平
作左ヶ保
浅内
大川原毛
湯田上野
大通
小林
堀内
上里
晴山
前田
石切
宮古沢
坂本
境沢

第６図　周辺の遺跡

Ⅲ　野外調査と室内整理

1．野外調査

（1）概要と調査区の設定

野外調査は平成９年４月９日～７月４日と平成11年４月13日～６月28日、平成12年８月１日～８月10日に行われている。本報告書では平成９年度分の調査を一次調査、平成11年度分の調査を二次調査、平成12年度分の調査を三次調査として報告している。三次調査で行った調査区については、当初平成11年度に調査が行われる予定であったが、調査区を流れる水路の切り替えが調査期間に間に合わなかったため、年度をまたいでの調査となった。

また一次調査では、地形による違いから調査の便宜上、調査区の沢に近い、一段低くなっている北部をＡ区、中央部をＢ区、南西部の山林となる部分をＣ区と呼称して調査をすすめた。本報告書においても、一部この呼称を使用している。

（2）グリッドの設定

①　一次調査

グリッドの設定は基準点測量を委託し、平面直角座標軸（第Ｘ系）に合わせて設定した。基準点１を基点として、４ｍごとのグリッドに区画し、調査区の全範囲にかけた。グリッド名は調査区の北西側を起点にして、東西にアルファベット小文字でａ～ｋを、南北は１～25を付し、その組み合わせにより、「１ａ」とか「５ｄ」と呼称している。また調査の都合上、調査区の北西端で起点となる「１ａ」の点を「Ｅ＝０，Ｓ＝０」とし、以下東方向、南方向に進むごとに数字を増やしていく方法によって仮の座標を設けた。たとえば「Ｅ＝５、Ｓ＝２０」の地点は、「ＩＡ０ａ」から東へ５ｍ、南へ20ｍの地点ということである。この方法による座標の表し方は、本報告書中でも、一次調査に限って使用している。設定した基準点１、２及び補点１～４の成果値は以下の通りである。

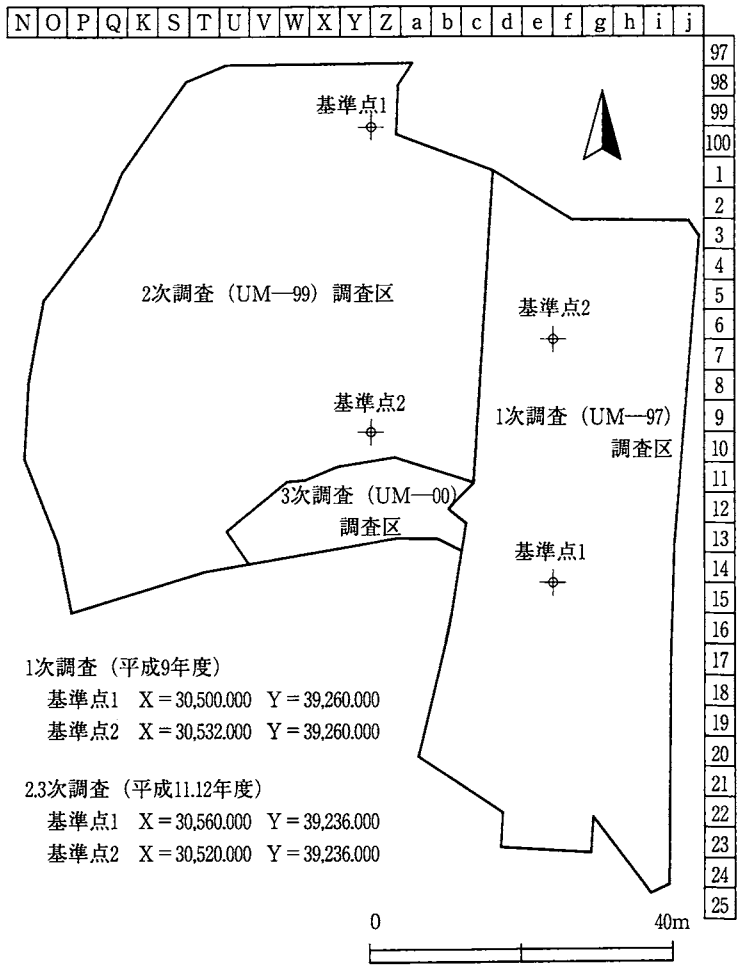
基準点１	Ｘ＝30,500.000	Ｙ＝39,260.000	Ｈ＝115.125ｍ
基準点２	Ｘ＝30,532.000	Ｙ＝39,260.000	Ｈ＝114.199ｍ
補点１	Ｘ＝30,476.000	Ｙ＝39,270.000	Ｈ＝114.307ｍ
補点２	Ｘ＝30,516.000	Ｙ＝39,270.000	Ｈ＝113.948ｍ
補点３	Ｘ＝30,544.000	Ｙ＝39,260.000	Ｈ＝112.779ｍ

②　二次・三次調査

グリッドは基本的には一次調査に準じて設定し、４ｍごとに区画した。しかし一次調査の時点では、以降の調査が行われることが予想できなかったために、グリッド名については一次調査で使用したものではカバーできなかった。そこで一次調査のグリッドを延長する形で、東西にはアルファベット大文字でＡ～Ｚを、南北には１～100を新たに付した。よって一次調査の「１ａ」グリッドの西側に接するグリッドは「１Ｚ」グリッド、北側に接するグリッドは「100ａ」グリッドとなる。設定した基準点１・２及び補点１～４の成果値は以下のとおりである。

基準点１　X＝30,560.000　Y＝39,236.000　H＝113.510m
基準点２　X＝30,520.000　Y＝39,236.000　H＝115.916m
補点１　X＝30,520.000　Y＝39,248.000　H＝115.187m
補点２　X＝30,520.000　Y＝39,228.000　H＝116.916m
補点３　X＝30,520.000　Y＝39,184.000　H＝119.502m
補点４　X＝30,508.000　Y＝39,192.000　H＝120.895m

基準点やグリッドについては第７図を参照されたい。



第７図　グリッド配置図

（３）遺構の名称

野外調査での遺構の名称は、一次調査では竪穴住居跡ＲＡ、掘建柱建物跡ＲＢ、土坑ＲＤ、竪穴住居状遺構ＲＥ、焼土遺構ＲＦ、溝跡ＲＧ、その他の遺構をＲＺ、柱穴はppとして調査を行った。二・三次調査ではグリッド名を遺構に付している。本報告書では、柱穴以外はこれらの遺構名を整理し改名している。整理し改名した内容は次ページのとおりである。

新遺構名	旧遺構名
1号竪穴住居跡	←RA01
2号　〃	←RA02
3号　〃	←RA03
4号　〃	←RA04
5号　〃	←RA05
6号　〃	←RA06
7号　〃	←RA07
8号　〃	←RA08
9号　〃	←RA09
10号　〃	←RA10
11号　〃	←RA12
12号　〃	←RA13
13号　〃	←RA14
14号　〃	←RA15
15号　〃	←RA18
16号　〃	←RA19
17号　〃	←RA20
18号　〃	←RA21
19号　〃	←RA22
20号　〃	←RA24
21号　〃	←RA25
22号　〃	←RA26
23号　〃	←RA27

新遺構名	旧遺構名
24号竪穴住居跡	←RA28
25号　〃	←b11住
1号土坑	←RD01
2号　〃	←RA02
3号　〃	←RA03
4号　〃	←RA04
5号　〃	←RA05
6号　〃	←RA06
7号　〃	←RA07
8号　〃	←RA08
9号　〃	←RA09
10号　〃	←RA10
11号　〃	←RA11
12号　〃	←RA12
13号　〃	←RA13
14号　〃	←RA14
15号　〃	←RA15
16号　〃	←RA16
17号　〃	←RA17
18号　〃	←RA18
19号　〃	←RA19
20号　〃	←RA20
21号　〃	←RA22

新遺構名	旧遺構名
22号土坑	←RD23
23号　〃	←RA24
24号　〃	←RA26
25号　〃	←RA27
26号　〃	←RA28
27号　〃	←RA29
28号　〃	←RA30
29号　〃	←RA31
30号　〃	←RA32
31号　〃	←RA33
32号　〃	←RA34
33号　〃	←RA35
34号　〃	←RA36
35号　〃	←RA37
36号　〃	←RA38
37号　〃	←RA39
38号　〃	←RA41
39号　〃	←RA42
40号　〃	←RA43
41号　〃	←RA44
42号　〃	←RA45
43号　〃	←RA46
44号　〃	←RA47

新遺構名	旧遺構名
45号土坑	←RD48
46号　〃	←RD49
1号竪穴住居状遺構	←RE02
2号　〃	←RE03
1号焼土遺構	←RF03
2号　〃	←RF04
3号　〃	←RF05
4号　〃	←RF08
5号　〃	←RF09
6号　〃	←RF12
7号　〃	←RF14
8号　〃	←RF16
1号溝跡	←RG02
2号　〃	←RG03
1号埋設土器遺構	←埋設土器01
2号　〃	←埋設土器04
3号　〃	←埋設土器08
4号　〃	←埋設土器10
5号　〃	←埋設土器12
6号　〃	←埋設土器15
7号　〃	←埋設土器18

（4）粗掘り、遺構検出、精査

①　一次調査

任意に設定したトレンチで、土層の堆積状況と遺構・遺物の埋存状況を確認した。その結果、調査区北端部のＡ区は沢による礫層となり、遺構・遺物はないものと判断した。また南西部の山林であるＣ区にも遺構・遺物がないと判断し、調査終了とした。中央部のＢ区についてはその後、重機を用いて表土を除去し遺構検出を行った。表土下の土層は十和田ａ火山灰、中掫火山灰を含むそれぞれⅢ層、Ⅴ層であったため、遺構検出を行った。十和田ａ火山灰が混じるⅢ層では遺構が確認できなかったため、さらに掘り下げ、遺構の検出をした。遺跡は沢からの洪水の影響によって、土層が波打つ様な状況であったため、遺構の検出は困難を極めたが、遺構検出ベルトなどを使い検出し、精査を行った。

②　二次調査

遺跡の状況の把握のため、トレンチを任意に設定した。第74図はトレンチを入れた地点を示す。その結果、調査区は広く沢の影響を受け、遺構は皆無な状況であった。トレンチから設定した基本土層を指標にして掘り下げたが、遺構は検出されなかった。

③　三次調査

任意に設定したトレンチで、土層の堆積状況と遺構・遺物の埋存状況を確認した後、重機を用いて表土を除去し遺構検出を行った。すべての年次の調査において、検出された遺構は２分法・４分法を用いて精査を行い、必要な記録はフィールドカードに記録した。

（5）実測・写真撮影

遺構の平面実測は小グリッド（４×４ｍ）をさらに１×１ｍのメッシュに区切り、簡易遣り方測量で行った。縮尺は1/20を原則とし、二次調査の沢跡の平面図には100分の１での実測も行うなど、必要に応じて任意の縮尺の図面を作成した。

写真撮影は6×7判モノクロ・35mモノクロ・35mカラーリバーサル用のカメラを各1台ずつ使用し、遺構の検出状況、断面、平面、遺物出土状況を中心に撮影を行った。

2．室内整理

（1）整理作業の経過

室内整理作業は、一次調査は平成9年11月1日～平成10年3月31日に、二次調査は平成11年11月1日～平成12年3月31日に、三次調査については平成13年3月1日～3月30日に実施している。

（2）遺構図面

遺構図面は、野外調査時は平面図、断面図ともに縮尺1/20を原則とし、適宜1/100での作成も行った。必要に応じて、それらを修正・合成した第二原図を作成し、トレースを行った。

（3）遺物

遺物は、洗浄（遺物水洗）と出土地点ごとの仕分けを現場で野外調査と並行して進めた。注記・接合・復元を行った後に、登録・選別の作業を行った。

（4）写真

野外調査中に撮影した写真は、フィルムの規格ごとにモノクロはネガアルバムに、リバーサルフィルムはスライドアルバムに整理した。

（5）報告書について

①　報告書の構成

一次調査の調査結果についてはⅣ章　一次調査の報告に記載している。二次調査と三次調査の調査結果についてはⅤ章　二・三次調査の報告として、まとめて記載しており、特に遺構外出土遺物は時期別、器種別にして併せて掲載している。また、まとめと考察については、一から三次調査のすべてについて、Ⅵ章で一括して述べている。また参考・引用文献についても、まとめ、考察の後に記述している。

②　報告書の執筆

報告書の執筆の分担は以下の通りである。

Ⅱ章、Ⅲ章は岩渕計が担当した。一次調査の報告であるⅣ章の（1）検出された遺構と遺物は岩渕計が担当し、（2）遺構外出土遺物と遺物観察表は星雅之が担当した。二・三次調査の報告であるⅤ章は前田稔と星雅之が担当した。調査のまとめであるⅥ章は星雅之が担当している。

③　遺物の掲載

一次調査掲載遺物は遺構内と遺構外の遺物に分け、それぞれ1から連番を付けている。二次、三次調査掲載遺物は、土器・土製品は掲載順に1から、石器・石製品は301から連番を付けている。なお平成12年度調査

時（三次調査）の出土したすべての遺物は、1001から連番を付している。遺物掲載番号は、図版・写真とも同一の番号である。整理期間の都合上、写真のみを掲載する遺物もある。

④　遺構図版

一次、三次調査の遺構図版は、竪穴住居、竪穴状遺構については、平面図・断面図とも60分の１を基本としている。溝跡については平面図は100分の１だが、断面図は50分の１である。また土坑、焼土遺構、埋設土器遺構、柱穴状小土坑は40分の１を原則としている。図面にはそれぞれスケールを付している。

⑤　遺物図版

一次調査の遺物図版の縮尺は、縄文土器は３分の１の縮尺を基本としているが、大きさによって２分の１、４分の１の縮尺を用いている。また剥片石器は２分の１、礫石器が３分の１、土製品、石製品は２分の１の縮尺で掲載しているが、剥片石器は３分の２、礫石器は４分の１の縮尺で掲載している場合もある。

二・三次調査の遺物図版は、土器類を３分の１の縮尺を基本として大きさにより６分の１の縮尺を使用した。土製品は２分の１、石器類は剥片石器は３分の２、礫石器は２分の１の縮尺で掲載した。すべての図面にはそれぞれスケールを付している。

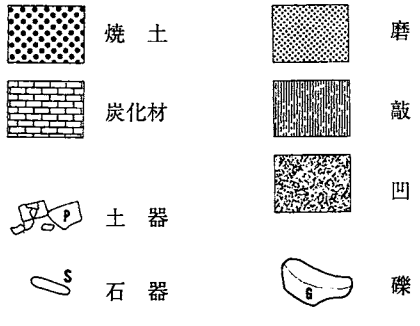
⑥　遺構写真図版

遺構写真図版は、全て任意である。

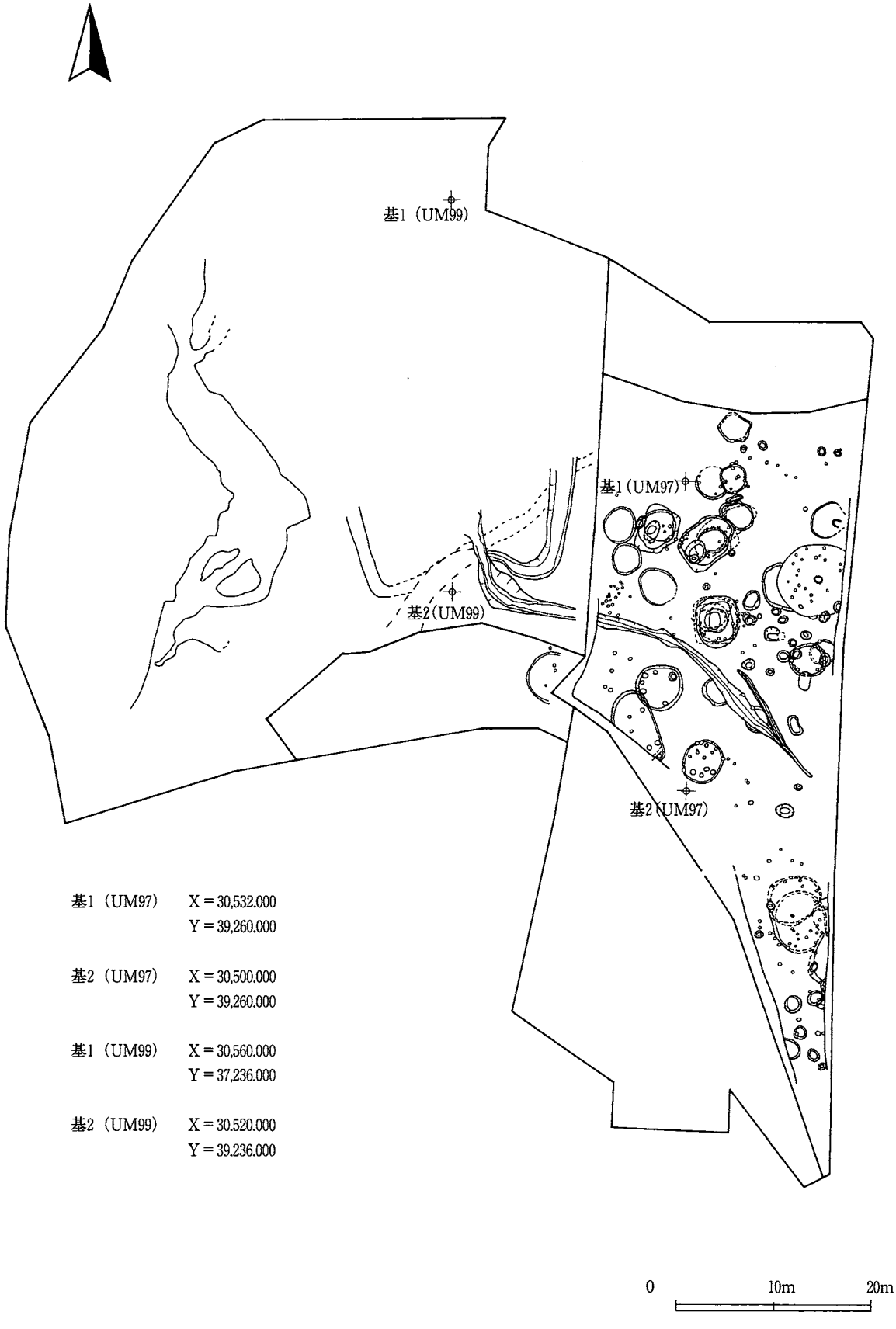
⑦　遺物写真図版

一次調査の遺物写真図版は遺物図版の縮尺に準じているが、一部は遺物図版よりも大小の縮尺を使用している。

二次、三次調査の遺物写真図版は、土器類３分の１、石器類は３分の２、２分の１を基本とする。

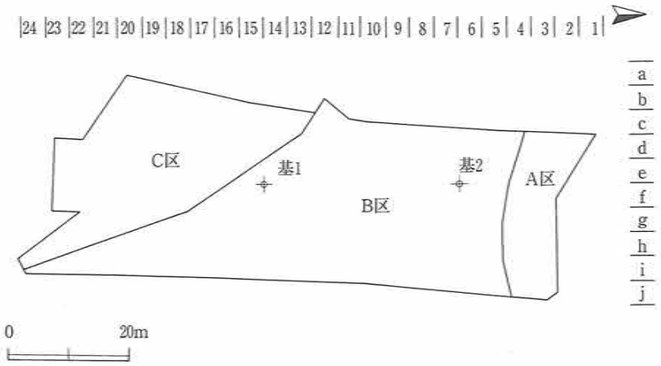


凡例

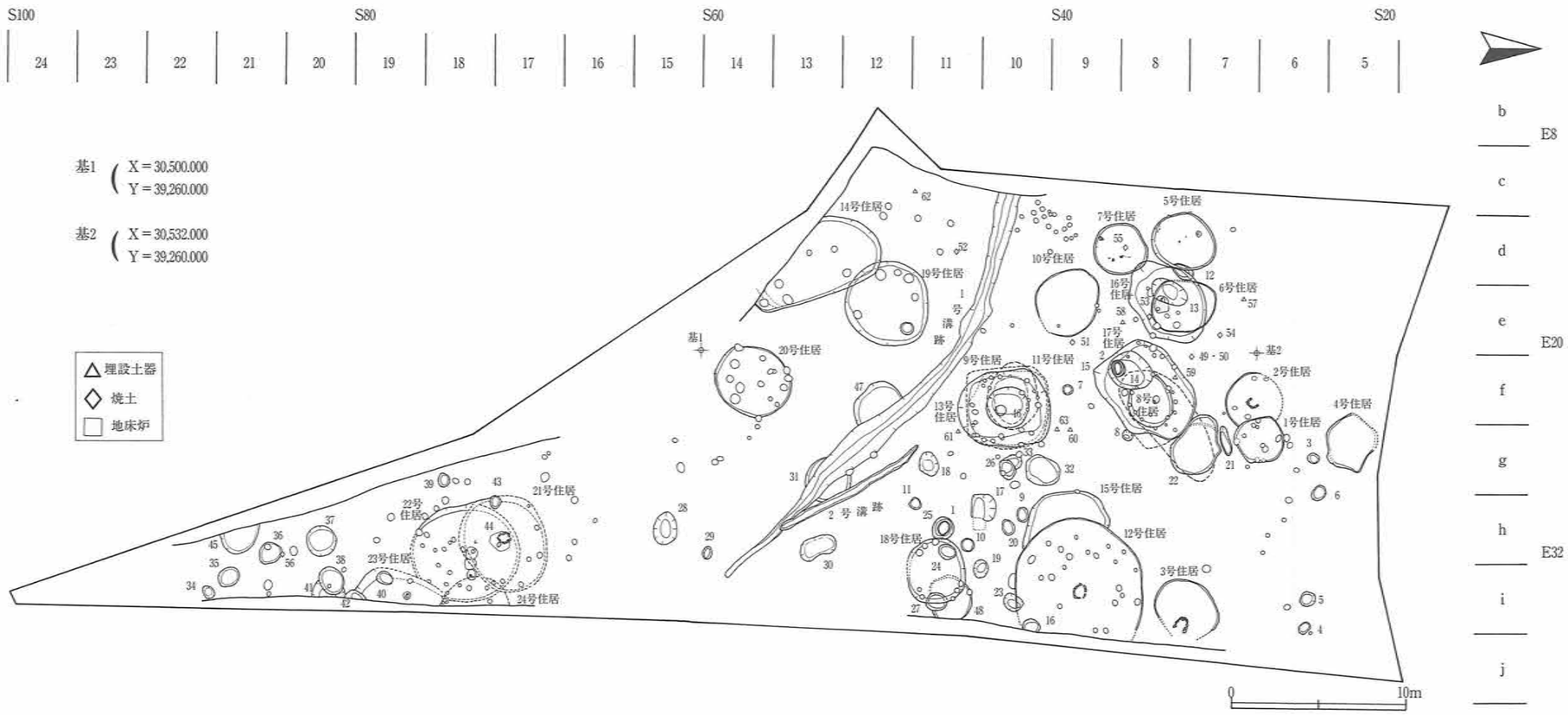


第８図　1次～3次調査遺構配置図

Ⅳ　一次調査の報告



番号	遺構名	番号	遺構名	番号	遺構名	番号	遺構名
1	1号土坑	17	17号土坑	33	33号土坑	49	1号焼土遺構
2	2号土坑	18	18号土坑	34	34号土坑	50	2号焼土遺構
3	3号土坑	19	19号土坑	35	35号土坑	51	3号焼土遺構
4	4号土坑	20	20号土坑	36	36号土坑	52	4号焼土遺構
5	5号土坑	21	21号土坑	37	37号土坑	53	5号焼土遺構
6	6号土坑	22	22号土坑	38	38号土坑	54	6号焼土遺構
7	7号土坑	23	23号土坑	39	39号土坑	55	7号焼土遺構
8	8号土坑	24	24号土坑	40	40号土坑	56	8号焼土遺構
9	9号土坑	25	25号土坑	41	41号土坑	57	1号埋設土器遺構
10	10号土坑	26	26号土坑	42	42号土坑	58	2号埋設土器遺構
11	11号土坑	27	27号土坑	43	43号土坑	59	3号埋設土器遺構
12	12号土坑	28	28号土坑	44	44号土坑	60	4号埋設土器遺構
13	13号土坑	29	29号土坑	45	45号土坑	61	5号埋設土器遺構
14	14号土坑	30	30号土坑	46	46号土坑	62	6号埋設土器遺構
15	15号土坑	31	31号土坑	47	1号竪穴住居状遺構	63	7号埋設土器遺構
16	16号土坑	32	32号土坑	48	2号竪穴住居状遺構		



第９図　遺構配置図

1．検出された遺構と出土遺物

（1）竪穴住居跡

1号竪穴住居跡（第10図・写真図版2）

〈位置〉7ｇグリッドに位置する。

〈検出状況〉調査区の北西端に見られた、南部浮石と中掫が混じり合う面から黒褐色のほぼ半円形のプランを検出した。それが遺構の北東側半分となった。南西側半分は、2号住居跡と重複していたこともあり明確にではなかったが、Ｖ層の中掫が混じる黒褐色土の面でプランを確認した。

〈重複関係〉2号住居跡を切っており、本住居跡が新しい。

〈形態・規模〉平面形は不整形な円形である。規模は長軸が284cm、短軸が281cm、壁高は最大で35cmである。床面積は5.2㎡である。

〈埋土〉埋土から礫を個数にして約60個確認した。埋土そのものは黒褐色土主体の埋土である。礫ははっきりとした加工の痕跡は見られなかったが、状況から人為的に廃棄した可能性があると考えられる。

〈壁・床〉壁、床ともに遺構の北東側は中掫と南部浮石が混じり合う層で、南西側は中掫が混じる黒褐色土層のＶ層である。掘り下げる作業では、遺構の北東部分をＶ層の下位まで掘り下げてしまったが、2号住居跡の精査の段階で掘り過ぎたことがわかった。壁は外傾し、床はほぼ平坦である。

〈炉〉検出していない。

〈柱穴〉全部で8基の柱穴を検出した。PP1、PP2、PP7、PP8が主柱穴である柱穴配置の可能性がある。

〈遺物〉1は深鉢の口縁部で、沈線文が施文される。縄文時代中期の土器に分類したが、後期の可能性もある。2～7は深鉢の口縁部、胴部の破片であるが、縄文時代前期前葉の土器と考えられる。8と9は石鏃である。10は凹石で、側面に磨り面がある。11は円盤状の石製品である。

〈時期〉縄文時代前期の土器が出土しているが、重複関係から縄文時代後期以降の可能性が高い。

2号竪穴住居跡（第10図・写真図版3）

〈位置〉7ｆグリッドに位置する。

〈検出状況〉中掫が混じるＶ層相当の面で石囲炉を検出し、住居跡であることを確認した。遺構の北側の壁は検出できなかった。

〈重複関係〉東側を1号住居跡に切られており、本住居跡が古い。

〈規模・形態〉約半分の検出であったため不明瞭であるが、平面形は楕円形であると考えられる。規模は検出した範囲では直径が約3.5mで、床面積は8.5㎡と推定され、壁高は最大で10cmである。

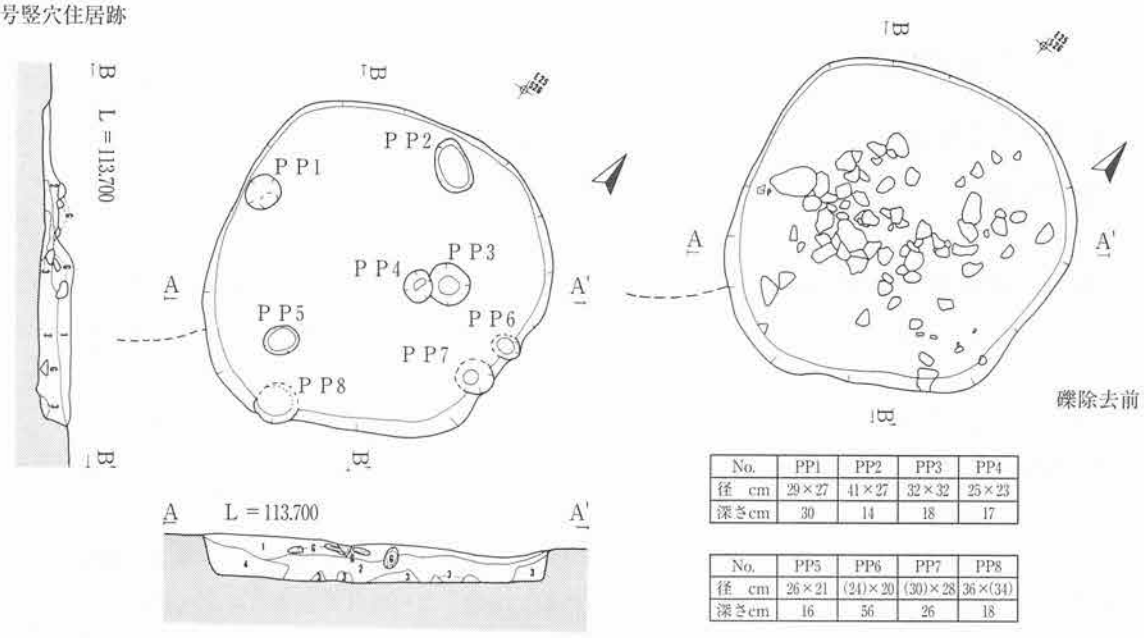
〈埋土〉埋土は黒褐色土が主体で、黄褐色の浮石が混じる。

〈壁・床〉北東部は不明である。壁、床ともに中掫が混じるＶ層である。壁は外傾して直線的に立ち上がり、床は平坦である。

〈炉〉住居の中央よりやや北東寄りに、石囲炉を検出した。石囲炉は大小5個の自然石で構築されている。抜き取りの痕跡は確認できなかったが、本来は石が廻っていた可能性も考えられる。検出された焼土は、範囲が22cm×16cm、堆積が約3cmである

〈柱穴〉PP1～PP6までを検出した。北西壁側が不明なため、はっきりとはしないが、PP2、PP3、PP6は主柱穴であると想定される。

1号竪穴住居跡

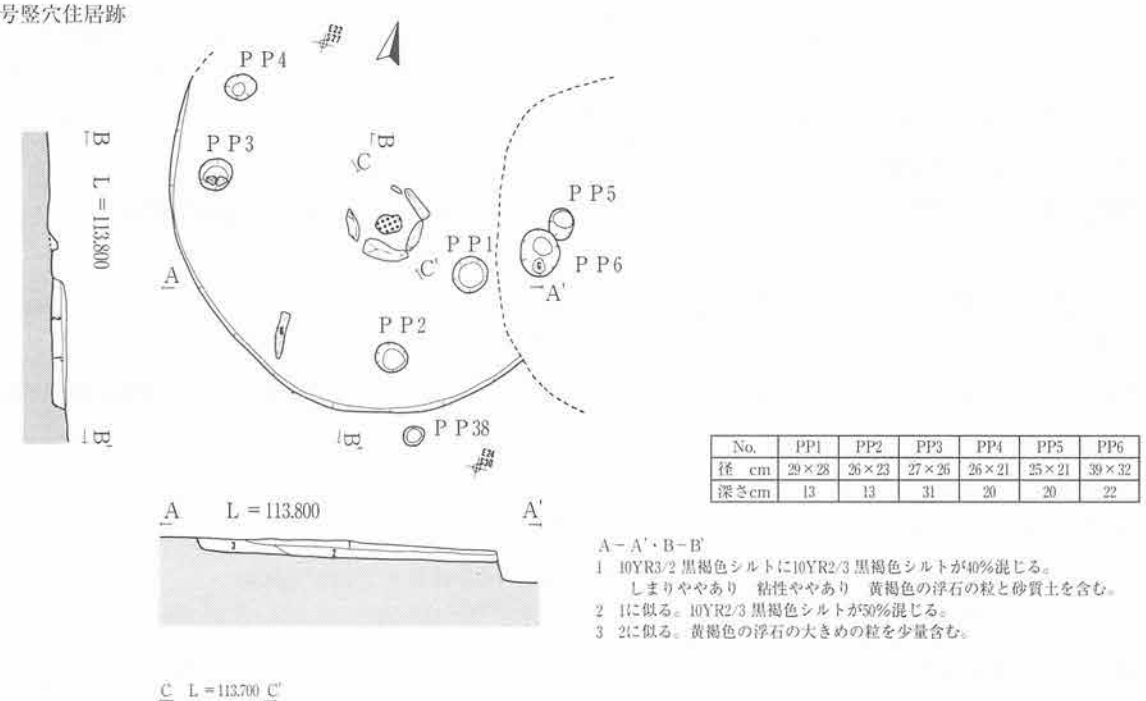


No.	PP1	PP2	PP3	PP4
径 cm	29×27	41×27	32×32	25×23
深さcm	30	14	18	17

No.	PP5	PP6	PP7	PP8
径 cm	26×21	(24)×20	(30)×28	36×(34)
深さcm	16	56	26	18

A－A'・B－B'
1　10YR3/2 黒褐色シルト　しまりあり　粘性ややあり　20cm大の礫を数個含む。
2　10YR3/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　黄褐色の浮石の粒を少量含む。
3　7.5YR5/8 明褐色砂質シルト　しまりややなし　粘性ややなし　黄褐色の浮石の粒を少量含む。
4　10YR3/3 黒褐色シルトと10YR3/2 黒褐色シルトの混合土　しまりややあり　粘性ややあり　南部浮石の粒と砂質シルト少量含む。

2号竪穴住居跡



No.	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5	PP6
径 cm	29×28	26×23	27×26	26×21	25×21	39×32
深さcm	13	13	31	20	20	22

A－A'・B－B'
1　10YR3/2 黒褐色シルトに10YR2/3 黒褐色シルトが40%混じる。
　　しまりややあり　粘性ややあり　黄褐色の浮石の粒と砂質土を含む。
2　1に似る。10YR2/3 黒褐色シルトが50%混じる。
3　2に似る。黄褐色の浮石の大きめの粒を少量含む。

C－C'
1　7.5YR4/6 褐色シルト　焼土ブロックを含む　しまりややあり　粘性ややあり
2　10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
3　10YR3/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり

0　1：60　2m

第10図　1号・2号竪穴住居跡

〈 遺物 〉12は深鉢の口縁部で平縁であるが、角状になる。撚糸文が施文され、円筒下層ａ式（Ⅱ群２類土器）に分類した。13は深鉢の胴部で、縄文時代中期の土器と考えられる。
〈 時期 〉遺物が僅かなため確実ではないが、重複関係や形状から判断すると、縄文時代後期以降の可能性が高い。

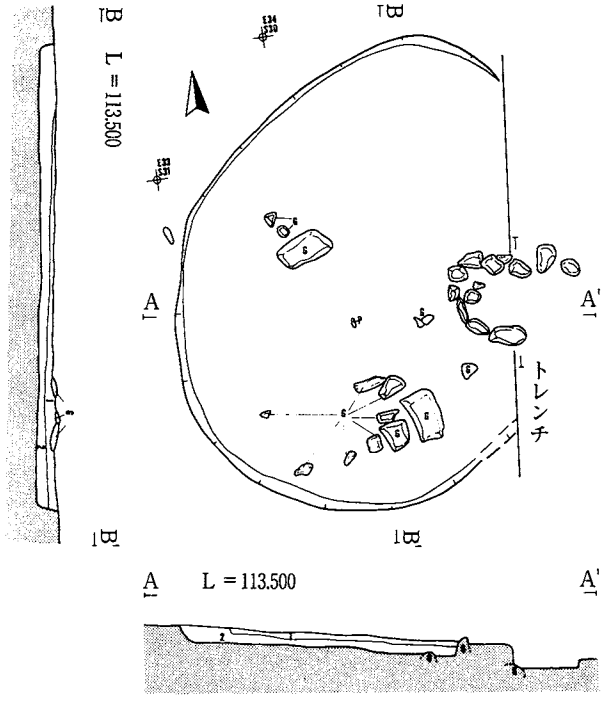
３号竪穴住居跡（第11図・写真図版４）

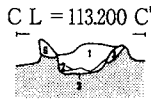
〈 位置 〉７ｉ～８ｊグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉中掘が混じるⅤ層で石囲炉を検出し、住居跡と確認した。石囲炉を検出した段階では住居跡と認識できず、住居内の礫とともに集石遺構として精査してしまったために、壁、床面を掘り過ぎてしまった。壁と床は土層ベルトからの判断による。
〈 重複関係 〉ない。
〈 規模・形態 〉南端部はトレンチを入れた際に掘り上げてしまったため、全容ははっきりとしないが、平面形は楕円形で、規模は長径が3.8m、短径が推定であるが約3.2m前後だと考えられる。床面積は推定で7.6㎡、壁高は検出面から最大で28cmになる。
〈 埋土 〉埋土は黒褐色土が主体で、下部に砂質土が混じる。
〈 壁・床 〉、床面、壁ともにⅤ層中である。
〈 炉 〉住居の中央より東側寄りに位置している。大小11個の自然石で楕円状に構築されている。東部分をトレンチを入れた際に掘り上げてしまった可能性があり、本来は石が廻っていたかもしれない。炉内には堆積が薄いが焼土を確認した。また炉を構成している石に、火を受けた痕跡が数個に見られた。炉のすぐ東側で検出した石にも火を受けた痕跡があったが、炉を構成していた石かどうかはっきりしない。
〈 柱穴 〉検出できず不明である。
〈 遺物 〉14はミニュチア土器で、縄文時代後期の土器と考えられる。15は深鉢と考えられる土器の胴部で、縄文時代後期前葉から中葉の土器の可能性がある。16は浅鉢の口縁部で、２個１対の小突起が付き、大洞Ａ式（Ⅴ群３類土器）に比定される。17は深鉢の口縁部であるが、不整撚糸文が施文され、円筒下層ａ式（Ⅱ群２類土器）に分類した。18は石匙である。
〈 時期 〉いろいろな時期の土器が出土しているため明確ではないが、検出面から縄文時代晩期の可能性がある。

４号竪穴住居跡（第11図・写真図版５）

〈 位置 〉５ｇグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉南部浮石が混じる黒褐色土のⅦ層相当の面から、円形のプランを検出した。
〈 重複関係 〉ない。
〈 規模・形態 〉住居跡の北西部分は削平されていたためはっきりしないが、平面形は不整な円形である。規模は検出した範囲では、長径が3.4m、短径が推定2.9mほどである。床面積は6.1㎡と推定され、壁高は最大で40cmである。
〈 埋土 〉埋土は黒褐色土が主体で、南部浮石がブロック状に多量に含まれる部分がある。
〈 壁・床 〉壁、床ともに、南部浮石が混じる黒褐色土の層である。壁は北西部分が不明であるが、ゆるやかに立ち上がると考えられる。床はほぼ平坦である。

3号竪穴住居跡

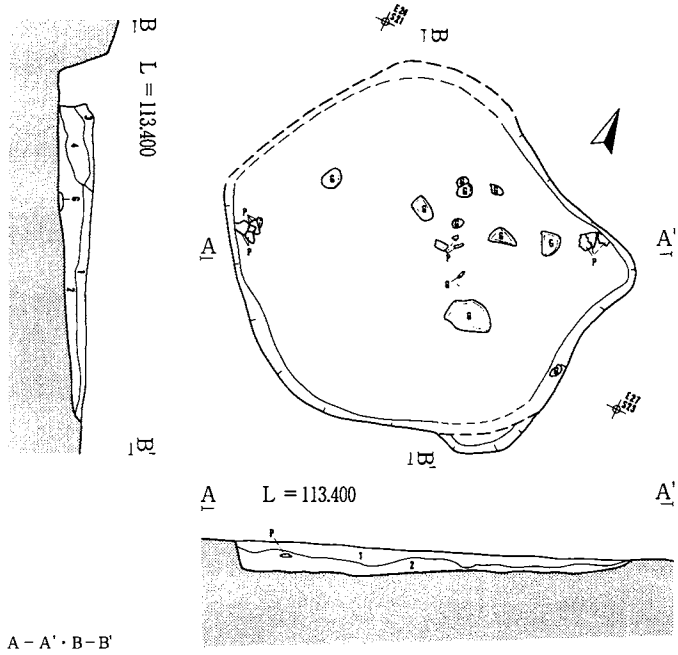




A－A'・B－B'
1　10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
2　10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　砂質シルトを少量含む。

C－C'
1　10YR2/3 黒褐色シルト　しまりあり　粘性ややあり　黄褐色の浮石の粒と中振を少量含む。
2　10YR3/2 黒褐色シルト　しまりあり　粘性ややあり　1と同じ浮石の粒を微量含む。
3　10YR3/3 暗褐色シルト　しまりあり　粘性ややあり　1と同じ浮石の粒を微量含む。

4号竪穴住居跡



A－A'・B－B'
1　10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
2　10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　1より粘性のある土。土器片を含む。
3　10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　土器片を含む。
4　7.5YR3/3 暗褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　南部浮石が多量に含まれる。

0　1：60　2m

第11図　3号・4号竪穴住居跡

〈 炉 〉検出していない。
〈 柱穴 〉検出されず不明である。
〈 遺物 〉Ⅱ群２類土器を中心に出土している。19～21は深鉢のほぼ完形品で、器形は直線的に外傾するバケツ形に近い。19は平縁に２単位の突起が付く。20は平縁に山形状の突起が付き、その下に円文が施文される。21は平縁で口唇部に縄文が付される。これらの土器は大木１～２ｂ式に比定されると考えられる。24は深鉢の底部、25は深鉢の口縁部で不整撚糸文が施文され、26は深鉢の胴部である。22と23は中期の土器に分類される。22は懸垂文が施文され、最花式（Ⅲ群３類土器）の可能性がある。27は削掻器である。
〈 時期 〉時期の違う土器が出土しているが、床面より出土した土器が前期前葉であることから、該期の可能性が高い。

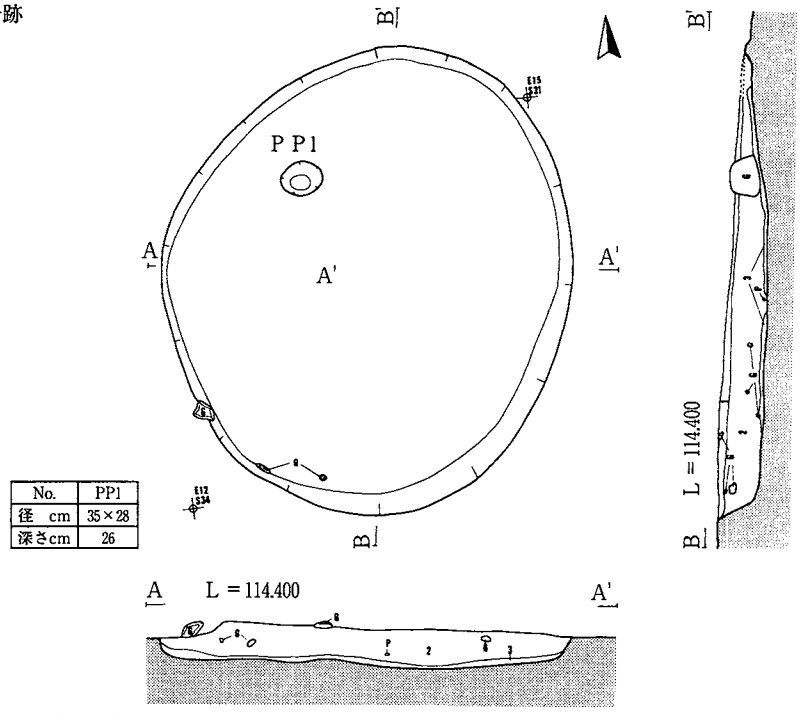
５号竪穴住居跡（第12図・写真図版６）

〈 位置 〉7～8ｄグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉Ｖ層相当の黒褐色土面で円形のプランを検出した。北東部分は水によって中掫が押し流されて堆積しており、洪水による影響と考えられる。
〈 重複関係 〉ない。
〈 規模・形態 〉平面形は楕円形である。規模は検出した範囲では長径が4.7m、短径が3.5mで、床面積が8.1㎡、壁高は検出面から最大で37cmである。
〈 埋土 〉埋土は黒褐色土が主体で、黄褐色の浮石が混じる。下層に二次堆積による中掫が混じる。
〈 壁・床 〉北東部の壁は、洪水の際の流れ込みにより壊されている。壁、床ともにＶ層相当の黒褐色土である。壁は外傾して直線的に立ち上がり、床には起伏がある。
〈 炉 〉検出していない。
〈 柱穴 〉１基検出した。柱穴配置は不明である。
〈 遺物 〉Ⅱ群土器が中心に出土している。28～31と33、34は縄文時代前期前葉の深鉢と考えられる。32は縄文時代中期の土器である。35は有茎の石鏃、36と37は無茎石鏃である。38は削掻器に分類した。39は磨石、40は凹石である。
〈 時期 〉縄文時代前期前葉のⅡ群土器を中心とした遺物が出土しているが、層位を考慮すれば、流れ込みによる可能性が高い。遺構の時期は中掫火山灰の降下以後であることはわかるが、はっきりとした時期を特定できない。

６号竪穴住居跡（第12図・写真図版７）

〈 位置 〉７～８ｅグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉Ｖ層相当の黒褐色土面で楕円形のプランを検出した。
〈 重複関係 〉16号住居跡と13号土坑と重複するが、本遺構が最も新しい。
〈 規模・形態 〉平面形は不整な楕円形である。規模は長径が3.8m、短径が3.6mで、床面積が8.4㎡、壁高は検出面から最大で15cmである。
〈 埋土 〉埋土は黒褐色土が主体で、黄褐色の浮石が混じる。
〈 壁・床 〉壁、床ともにＶ層相当の黒褐色土である。壁は外傾して緩やかに立ち上がり、床は平坦である。
〈 炉 〉検出していない。

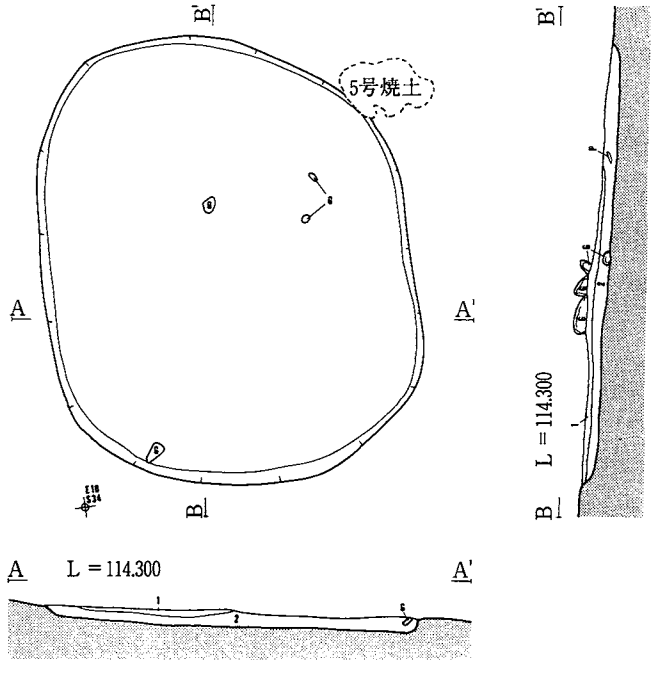
5号竪穴住居跡



No.	PP1
径 cm	35×28
深さcm	26

A－A'・B－B'
1 10YR3/2 黒褐色シルト しまりややあり 粘性ややあり 10YR8/4 浅黄橙色及び10YR5/6 黄褐色の浮石の粒を含む。
2 10YR2/3 黒褐色シルト しまりややあり 粘性ややあり 1と同じ粒を含む。
3 10YR3/3 暗褐色砂質シルト しまりややあり 粘性ややあり 中振を含む。

6号竪穴住居跡



A－A'・B－B'
1 10YR2/3 黒褐色シルト しまりややあり 粘性ややあり 黄褐色の浮石の粒を含む。
2 10YR2/3 黒褐色シルト しまりややあり 粘性ややあり 黄褐色の浮石のやや大きめの粒を含む。

0 1：60 2m

第12図 5号・6号竪穴住居跡

〈 柱穴 〉検出できず、柱穴配置は不明である。
〈 遺物 〉41は深鉢の底部から胴部下半で底部から５cmほど無文帯となる。42は深鉢の底部で、直線的に立ち上がる。ともに縄文時代前期前葉の土器と考えられる。43は鉢の口縁部で、Ｂ突起が付き羊歯状文が施文される。大洞ＢＣ式（Ｖ群１類土器）に比定される。44は壺の肩部と推定され、縄文時代晩期の土器と考えられる。45は鉢の底部で、三叉文と平行沈線文が施され、大洞ＢもしくはＢＣ式（Ｖ群１類土器）に比定される。46、47はともに深鉢の口縁部である。46は撚糸文が施文され、円筒下層ａ式（Ⅱ群２類土器）の可能性がある。47は不整撚糸文が付され、円筒下層ａ式（Ⅱ群２類土器）に分類した。48は削掻器で、49は凹石である。
〈 時期 〉縄文時代前期前葉と晩期の土器が出土しておりはっきりしないが、縄文時代晩期の可能性がある。

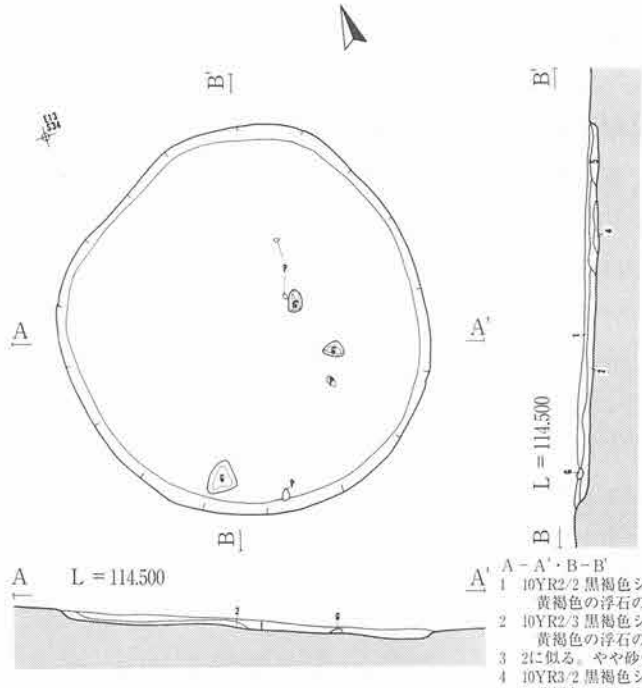
７号竪穴住居跡（第13図・写真図版８）

〈 位置 〉８～９ｄグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉記録が残っていないため不明である。
〈 重複関係 〉ない。
〈 規模・形態 〉土層ベルトによる判断のため明確ではないが、平面形は楕円形だと考えられる。規模は長径が3.1m、短径が2.9mで、床面積が6.2㎡、壁高は検出面から最大で11cmである。
〈 埋土 〉埋土は黒褐色土が主体で、黄褐色の浮石が混じる。埋土の下層には砂質土が混じる。
〈 壁・床 〉壁、床ともに中掫の２次堆積が混じるＶ層相当の黒褐色土である。壁は外傾して緩やかに立ち上がり、床は平坦である。
〈 炉 〉検出していない。
〈 柱穴 〉検出できず、柱穴配置は不明である。
〈 遺物 〉50は深鉢の口縁部で、貼付による隆線と沈線文が使われ、大木８ａ式（Ⅲ２類）の可能性がある。51は深鉢の胴部で、撚糸文が施文される縄文時代前期前葉の土器である。52は深鉢の胴部で、沈線文が付され、縄文時代中期の土器とした。54は凹石、55は敲石に分類した。
〈 時期 〉詳細は不明であるが、縄文時代中期以降と考えられる。

８号竪穴住居跡（第13図・写真図版９）

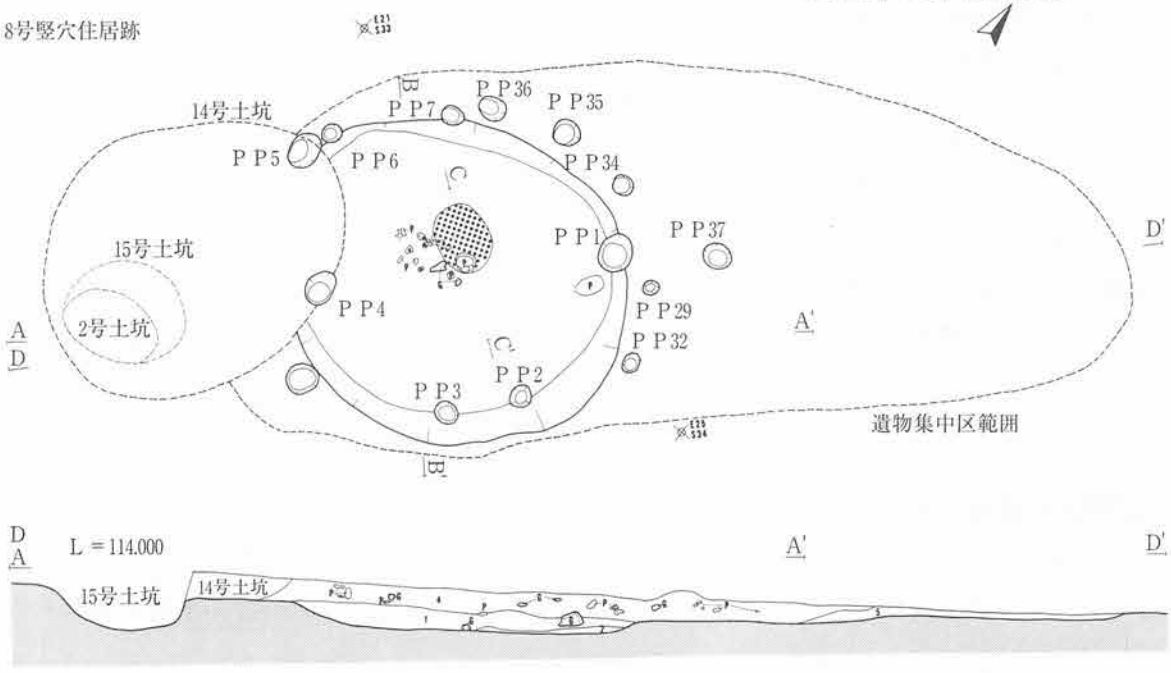
〈 位置 〉８ｆグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉遺物集中区を精査中に、Ⅷ層相当の南部浮石が混じる黒褐色土の層で焼土を検出し、遺物集中区の下位に住居跡があることを確認した。
〈 重複関係 〉17号住居跡、14号土坑と重複しており、17号住居跡より新しく、14号土坑より古い。
〈 規模・形態 〉平面形は楕円形である。規模は直径が3.0m前後と推定され、短径が2.5m、床面積が約4.3㎡と推定される。壁高は最大で32cmである。
〈 埋土 〉埋土は黒褐色土が主体で、南部浮石が少量混じる。
〈 壁・床 〉壁、床ともにⅧ層相当の南部浮石が混じる黒褐色土の層である。壁は外傾して緩やかに立ち上がり、床は一部分に凹凸がある。
〈 炉 〉住居の中央よりやや北西寄りに、焼土を検出した。地床炉と考えられ、範囲が22cm×16cm、堆積が約３cmである。焼土の直上から倒立に近い状態で土器が出土しているが、埋設されたものではなく、焼土上の

7号竪穴住居跡



A－A'・B－B'
1 10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　黄褐色の浮石の粒を含む。
2 10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　黄褐色の浮石の細かい粒を含む。
3 2に似る。やや砂質土を含む。
4 10YR3/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　黄褐色の浮石の粒とやや砂質土を含む。

8号竪穴住居跡



A－A'・B－B'
1 10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　南部浮石を含む。
2 10YR3/3 暗褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　南部浮石を含む。
3 7.5YR5/8 明褐色焼土　しまりややあり　粘性ややあり　1層と混合する。
4 10YR3/3 暗褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　）遺物集中区堆積土
5 10YR3/3 暗褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　南部浮石、砂質土やや含む。）遺物集中区堆積土

C－C'
1 10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　南部浮石、砂質土含む。
2 10YR5/6 黄褐色砂質シルト　しまりややあり　粘性なし　焼土。
3 10YR4/6 褐色砂質土　しまりややあり　粘性なし　焼土含む。
4 10YR3/3 暗褐色砂質シルト　しまりややあり　粘性なし
5 4層に似るが、黒褐色シルト含む。
6 10YR5/8 黒褐色シルト　しまりあり　粘性なし　南部浮石多く含む。

No.	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5	PP6	PP7
径 cm	31×26	18×16	20×16	30×23	30×22	17×14	19×15
深さcm	14	24	20	43	45	15	34

0　1：60　2m

第13図　7号・8号竪穴住居跡

埋土からの出土である。
〈 柱穴 〉PP 1 ～PP 6 までを検出した。壁を巡るように、壁の立ち上がりの部分に配置されている可能性がある。
〈 遺物 〉56～61は深鉢の破片であるが、Ⅱ群 2 類土器に分類した。56と61は焼土の直上から出土している。62は石鏃、63は石錐、64と65は石匙である。66は半円状扁平打製石器に分類した。
〈 時期 〉縄文時代前期前葉である。

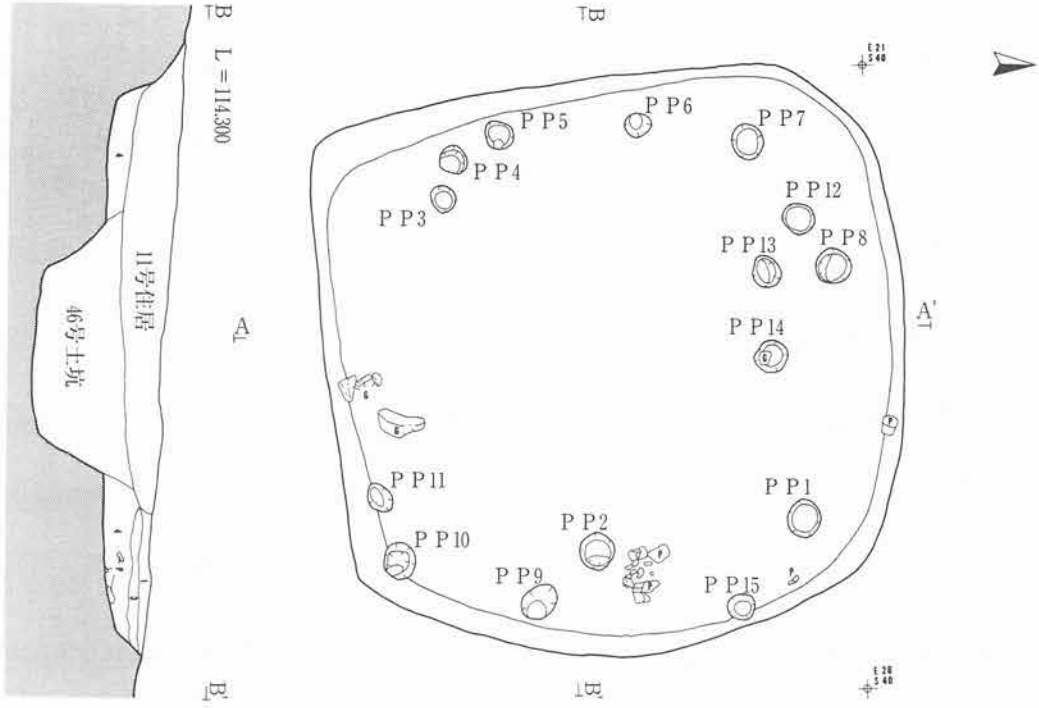
9 号竪穴住居跡（第14図・写真図版10）

〈 位置 〉10 f ～10 g グリッドに位置する。
〈 検出状況 〉遺構検出トレンチによって検出していた際に、円形に近いプランを検出した。検出面はⅤ層相当の黒褐色土であったが、中掘の混入は認められなかった。
〈 重複関係 〉11号住居跡、46号土坑に切られる。13号住居跡を切る。
〈 規模・形態 〉平面形は不整な方形である。長軸が4.6m、短軸が4.4m、床面積約16.7㎡で、壁高は最大で46cmである。
〈 埋土 〉埋土は黒褐色土が主体で、層位の違いは混入物の差による。埋土上部の層は灰白色火山灰が少量含まれる。埋土下部は黄褐色の浮石粒と中掘が混じる。
〈 壁・床 〉壁は東側が緩やかに立ち上がるが、それ以外はやや急な角度で直線的に立ち上がる。西側は重複により一部分検出できなかった。床は平坦で、大部分が下位の13号住居と重複しているが、比較的固く締まっている。
〈 炉 〉検出していないが、11号住居跡、46号土坑によって失われた可能性がある。
〈 柱穴 〉PP 1 ～PP15までを検出した。PP 1 、PP 2 、PP 7 、PP10が主柱穴である可能性があるが、重複によって検出できなかった柱穴もあると考えられ、明瞭ではない。
〈 遺物 〉67は深鉢の底部、68は小型深鉢であるが、平縁で器形は直線的に外傾する。縄文時代前期の土器と考えられる。69、70は深鉢の口縁部である。69は肥厚する形状で、刻目、平行沈線文が付される。70は折り返しており、沈線文が付される。ともに縄文時代後期の土器である。71は深鉢の胴部で、磨消縄文と刺突文が付され、十腰内Ⅱ式（Ⅳ群 2 類土器）に比定される。72は深鉢の口縁部で、横位の沈線文が施される。十腰内Ⅰ式（Ⅳ群 1 類土器）に分類した。73は深鉢の胴部で、羽状に沈線文が施文され、前期初頭の土器の可能性がある。74は深鉢の胴部で木目状撚糸文が付される円筒下層 d 式（Ⅱ群 3 a 類土器）である。75は深鉢の胴部で刺突列、沈線文が施文される。十腰内Ⅱ式（Ⅳ群 2 類土器）に比定した。76は円盤状土製品である。77～79は石鏃である。80と82は削掻器、81は打製石斧である。83は石刀に分類した。84は半円状扁平打製石器である。
〈 時期 〉縄文時代前期と後期の土器が出土しているが、検出面と併せて判断すれば縄文時代後期中葉以降の住居の可能性がある。

10号竪穴住居跡（第14図・写真図版11）

〈 位置 〉 9 e ～10 d グリッドに位置する。
〈 検出状況 〉Ⅴ層から円形のプランを確認した。中掘の混入は認められなかった。
〈 重複関係 〉ない。

9号竪穴住居跡



No.	PP1
径 cm	30×26
深さcm	16

PP2	PP3
28×26	21×18
20	17

PP4	PP5
24×22	23×21
21	19

PP6	PP7
20×19	29×25
33	22

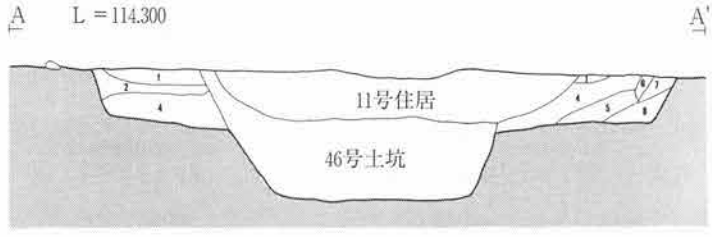
PP8	PP9
28×26	32×24
14	30

PP10	PP11
29×25	24×18
25	17

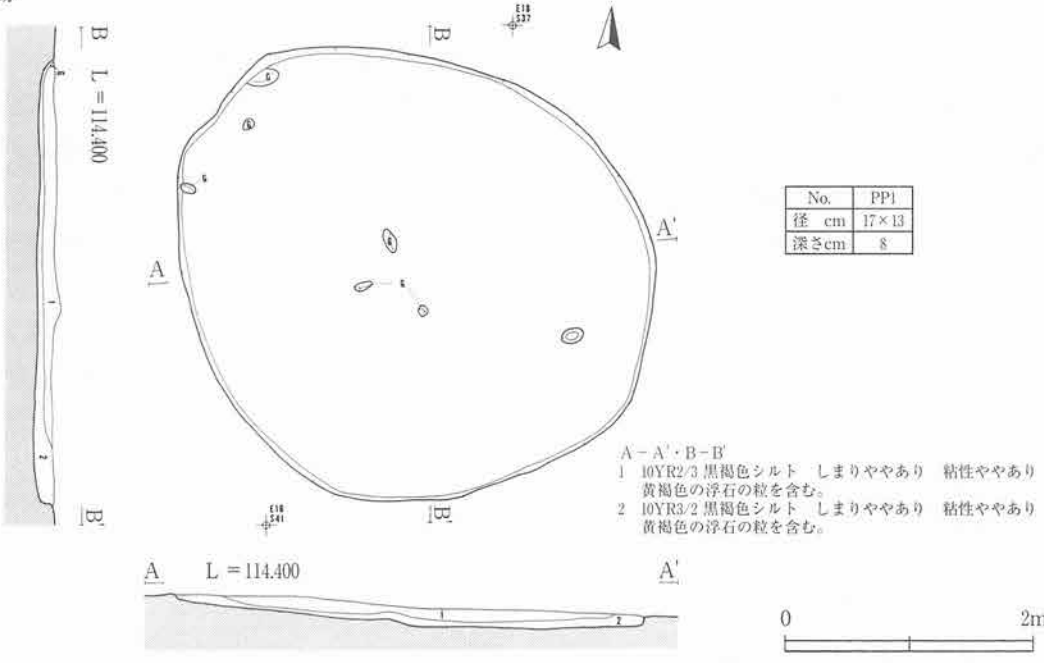
PP12	PP13
26×25	26×21
47	33

PP14	PP15
25×24	24×20
26	71

A－A'・B－B'
1 10YR2/3 黒褐色シルト　しまりあり　粘性ややあり
2 10YR3/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
部分的に中撹を少量含む。
3 10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
上部に中撹と黄褐色の浮石の粒を少量含む。
4 10YR2/3 黒褐色シルト　しまりあり　粘性ややあり
1mm大の黄褐色の浮石の粒を少量含む。
5 10YR2/3 黒褐色シルト　しまりあり　粘性ややあり
3mm大の黄褐色の浮石の粒を少量含む。
6 10YR3/2 黒褐色シルト　しまりなし　粘性ややあり
3mm大の黄褐色の浮石の粒を少量含む。
7 10YR3/2 黒褐色シルト　しまりあり　粘性ややあり
3mm大の黄褐色の浮石の粒を少量含む。
8 10YR3/2 黒褐色シルト　しまりなし　粘性ややあり
5mm大の黄褐色の浮石の粒を少量含む。



10号竪穴住居跡



No.	PP1
径 cm	17×13
深さcm	8

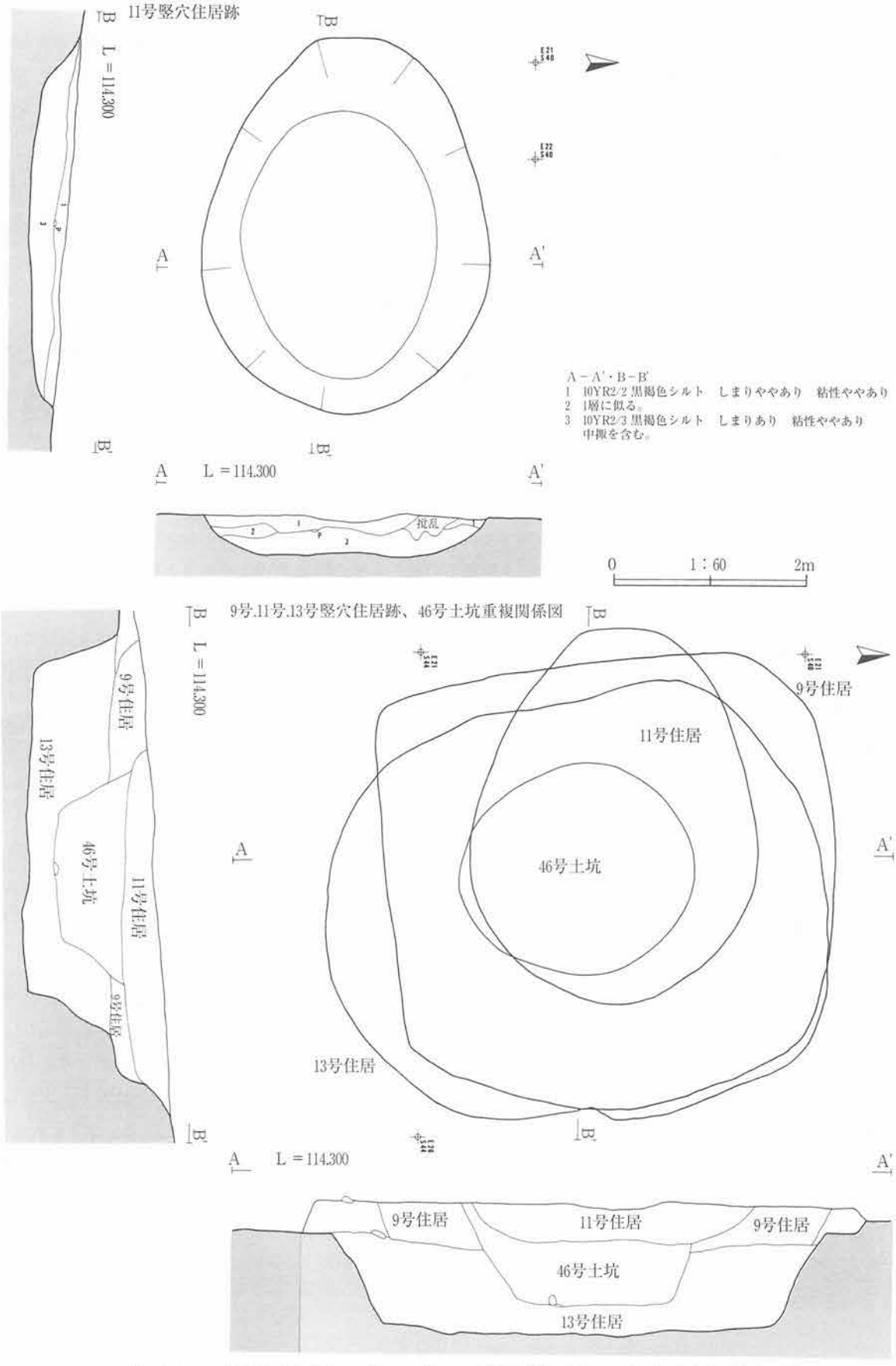
A－A'・B－B'
1 10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
黄褐色の浮石の粒を含む。
2 10YR3/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
黄褐色の浮石の粒を含む。

第14図　9号・10号竪穴住居跡

〈 規模・形態 〉壁と床ともに掘りすぎてしまったために、正確に把握できなかったが、平面形は楕円形であると考えられる。規模は土層ベルトからの判断であるが、長径が3.2m、短径が3.1mで、床面積が10.4㎡、壁高は検出面から最大で10cm程度と推定される。
〈 埋土 〉埋土は黒褐色土が主体の単層である。全体的に黄褐色の浮石粒が混じる。
〈 壁・床 〉壁、床ともにⅤ層の黒褐色土中である。壁は外傾して緩やかに立ち上がり、床はほぼ平坦であるが、凸凹もあると推定される。
〈 炉 〉検出していない。
〈 柱穴 〉1基検出した。柱穴配置は不明である。
〈 遺物 〉85は深鉢の胴部で、縄文時代中期の可能性がある。86は綾繰文が施される前期の深鉢の胴部と考えられる。87も深鉢の胴部であるが、後期の土器の可能性がある。88は石匙、89は打製石斧、90は磨石である。
〈 時期 〉縄文時代前期～後期の土器が出土しているが、検出面から判断すれば縄文時代後期以降と考えられる。

11号竪穴住居跡（第15図・写真図版11、12）

〈 位置 〉10f～10gグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉9号住居跡を精査中に土層断面を観察した際、9号住居跡の埋土であると認識していた中に、本住居跡が存在していることがわかった。
〈 重複関係 〉ほぼ全体が9号住居跡と重複し、本住居跡が9号住居跡を切る。また46号土坑を切り、13号住居跡は、本住居の下位の遺構となる。本住居跡、9号住居跡、13号住居跡、46号土坑の中では、本住居跡が一番新しい遺構である。
〈 規模・形態 〉土層ベルトからの判断であるが、平面形は楕円形で、規模は長軸が3.8m、短軸が3.0m、床面積約4.2㎡ほどと推定される。壁高は検出面から最大で39cmである。
〈 埋土 〉埋土は黒褐色土が主体で、埋土下部の層は中掫が少量含まれる。
〈 壁・床 〉土層ベルトによって検出したため明瞭ではないが、壁は緩やかに立ち上がり、床はほぼ平坦だが、一部分凹凸があると考えられる。精査中に床として認識できなかったことから、床は固く締まっていなかったことが推測される。
〈 炉 〉検出していない。
〈 柱穴 〉本住居跡の床面と考えられる面より下位の面から、いくつかの柱穴を確認しているが、床がわからなかったために、本住居跡に伴う柱穴か判断できなかった。
〈 遺物 〉91は深鉢の口縁部から胴部上半であるが、口縁部は平縁で丸みを帯びる。縄文時代後期と考えられる。92は深鉢と思われる胴部の破片であるが、沈線文によって幾何学的な文様が施され、十腰内Ⅰ式（Ⅳ群1類土器）に分類した。93は深鉢の胴部で、網目状撚糸文が施文されており、後期初頭の土器と考えられる。94は深鉢の口縁部で、原体押圧文と刺突文が施文され、円筒下層d式（Ⅱ群3a類土器）に比定される。95は深鉢の胴部で円文が施され、後期の土器の可能性が高い。
〈 時期 〉重複関係と出土遺物から、縄文時代後期の可能性が高い。



第15図　11号竪穴住居跡・9号・11号・13号竪穴住居跡、46号土坑重複関係図

12号竪穴住居跡（第16図・写真図版12、13）

〈位置〉８ｈ～９ｉグリッドに位置する。

〈検出状況〉Ｖ層の中掫が混じる黒褐色土から、黒色土のプランを検出した。

〈重複関係〉15号住居跡、16号土坑、23号土坑と重複するが、本住居が最も新しい。

〈規模・形態〉住居跡の東側約４分の１が調査区域外となるため全容は不明であるが、平面形はほぼ円形だと考えられる。規模は、検出した範囲では直径が約7.5mで、床面積約46㎡と推定される。壁高は検出面から最大で18cmである。床面から炭化材が検出されており、焼失した住居の可能性がある。

〈埋土〉埋土は黒褐色土が主体で、焼土粒、炭化物が少量混じる。壁際に近い埋土や埋土の上部には十和田ｂ火山灰が少量含まれる。

〈壁・床〉壁、床ともにＶ層中である。壁は外傾して緩やかに立ち上がり、床はほぼ平坦である。

〈炉〉住居のほぼ中央から石囲炉を検出した。円形で、10個の自然石で構築されている。焼土が約10cmほど堆積していた。

〈柱穴〉PP１～PP21までを検出した。柱穴配置はPP２、PP３、PP５、PP11、PP12が主柱穴になる可能性がある。壁際に壁柱を巡らせたと考えられる柱穴を検出している。

〈遺物〉縄文時代晩期の土器を中心に出土しており、前期、後期の土器は少量である。晩期の土器は末葉の土器が多い。96と97は壺で、工字文が施され、大洞Ａ式（Ｖ群３類土器）に比定される。98～101と103は台付鉢で、大洞Ａ′式（Ｖ群３類土器）に分類した。102は台付皿で、後期の土器の可能性がある。104は小型の深鉢で、円筒下層ａ式（Ⅱ群２類土器）とした。105はミニチュア土器であるが、口縁部が無文帯となり、晩期から弥生時代の土器の可能性がある。106は小型の鉢、107は鉢だが、ともに晩期と考えられる。108は鉢と推測される口縁部の破片だが、突起が付き、楕円文や円文が施される。大洞Ａ′式（Ｖ群３類土器）の可能性がある。109から112は深鉢の口縁部から胴部上半で、円筒下層ａ式などの前期前葉の土器と考えられる。113～118は晩期の土器であるが、雲形文が施される115が大洞Ｃ１式に比定される以外は、大洞Ａ式もしくは大洞Ａ～Ａ′式（Ｖ群３類土器）に比定される。120は石鏃、121、122は石匙、123は石箆、124は削掻器、125は磨製石斧、126、127は凹石、128、129は半円状扁平打製石器に分類した。130の石剣の可能性が考えられる石製品である。

〈時期〉縄文時代晩期末葉である。

13号竪穴住居跡（第17図・写真図版14）

〈位置〉10ｆ～10ｇグリッドに位置する。

〈検出状況〉９号住居跡、46号土坑を精査中に、床、壁から他の遺構と考えられる埋土を確認し、下位に住居跡が存在することがわかった。

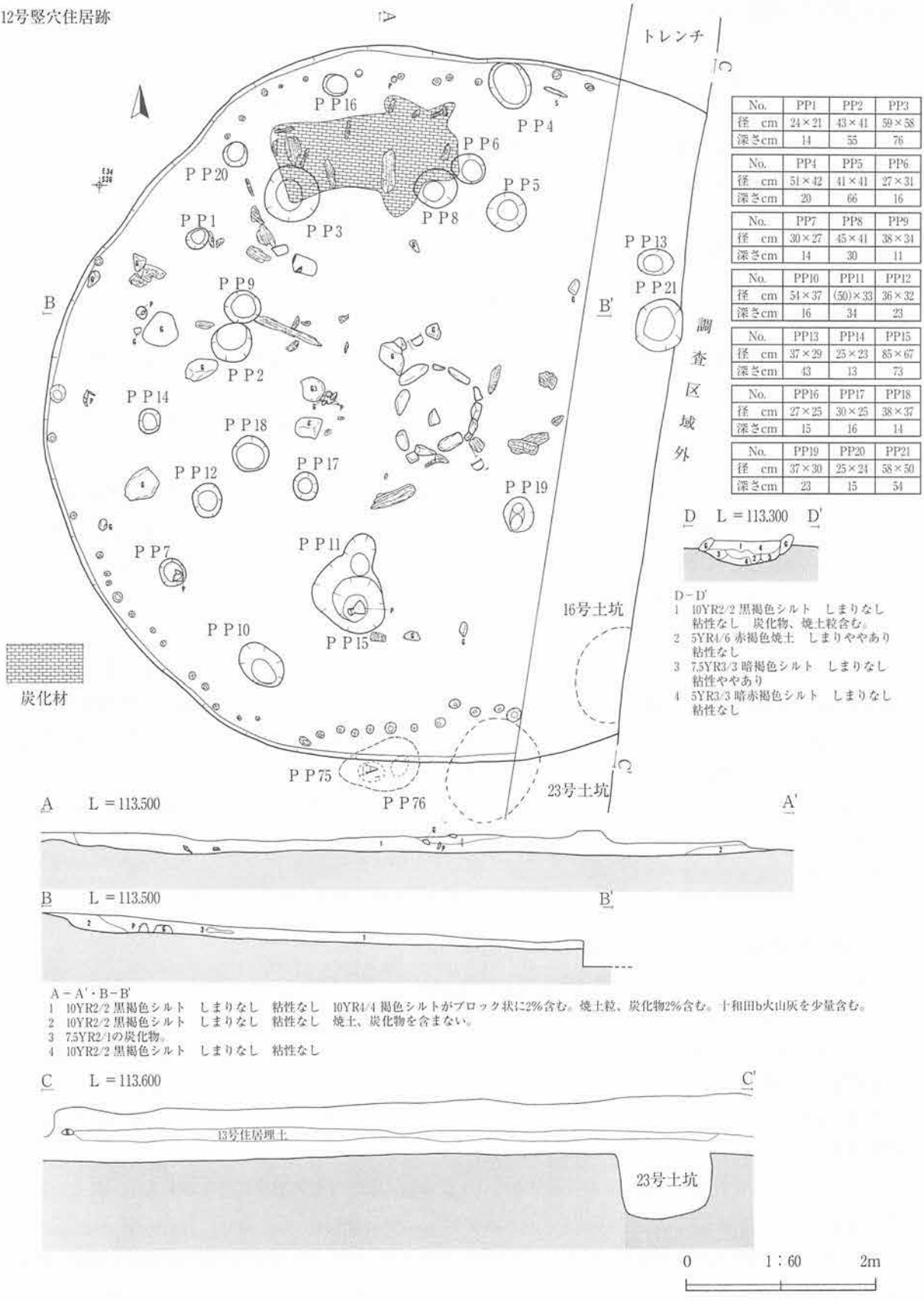
〈重複関係〉９号住居跡、11号住居跡、46号と重複するが、本遺構が最も古い。

〈規模・形態〉平面形は方形に近い楕円形である。規模は長径が5.1m、短径が4.1m、床面積12.2㎡である。住居は深く掘り込まれ、壁高は最大で102cmである。

〈埋土〉南部浮石が混じる黒褐色土が主体である。下位の層になるほど南部浮石の粒が大きく、混じる量も多くなる。

〈壁・床〉壁はⅦ層相当の南部浮石が混じる黒褐色土層である。やや急な角度で直線的に立ち上がる。床はⅧ層の南部浮石層中で、平坦である。１cm大の南部浮石から成る層なためか、床は柔らかく、締まってはい

12号竪穴住居跡



No.	PP1	PP2	PP3
径 cm	24×21	43×41	59×58
深さcm	14	55	76

No.	PP4	PP5	PP6
径 cm	51×42	41×41	27×31
深さcm	20	66	16

No.	PP7	PP8	PP9
径 cm	30×27	45×41	38×34
深さcm	14	30	11

No.	PP10	PP11	PP12
径 cm	54×37	(50)×33	36×32
深さcm	16	34	23

No.	PP13	PP14	PP15
径 cm	37×29	25×23	85×67
深さcm	43	13	73

No.	PP16	PP17	PP18
径 cm	27×25	30×25	38×37
深さcm	15	16	14

No.	PP19	PP20	PP21
径 cm	37×30	25×24	58×50
深さcm	23	15	54

D－D'
1 10YR2/2 黒褐色シルト しまりなし 粘性なし 炭化物、焼土粒含む。
2 5YR4/6 赤褐色焼土 しまりややあり 粘性なし
3 7.5YR3/3 暗褐色シルト しまりなし 粘性ややあり
4 5YR3/3 暗赤褐色シルト しまりなし 粘性なし

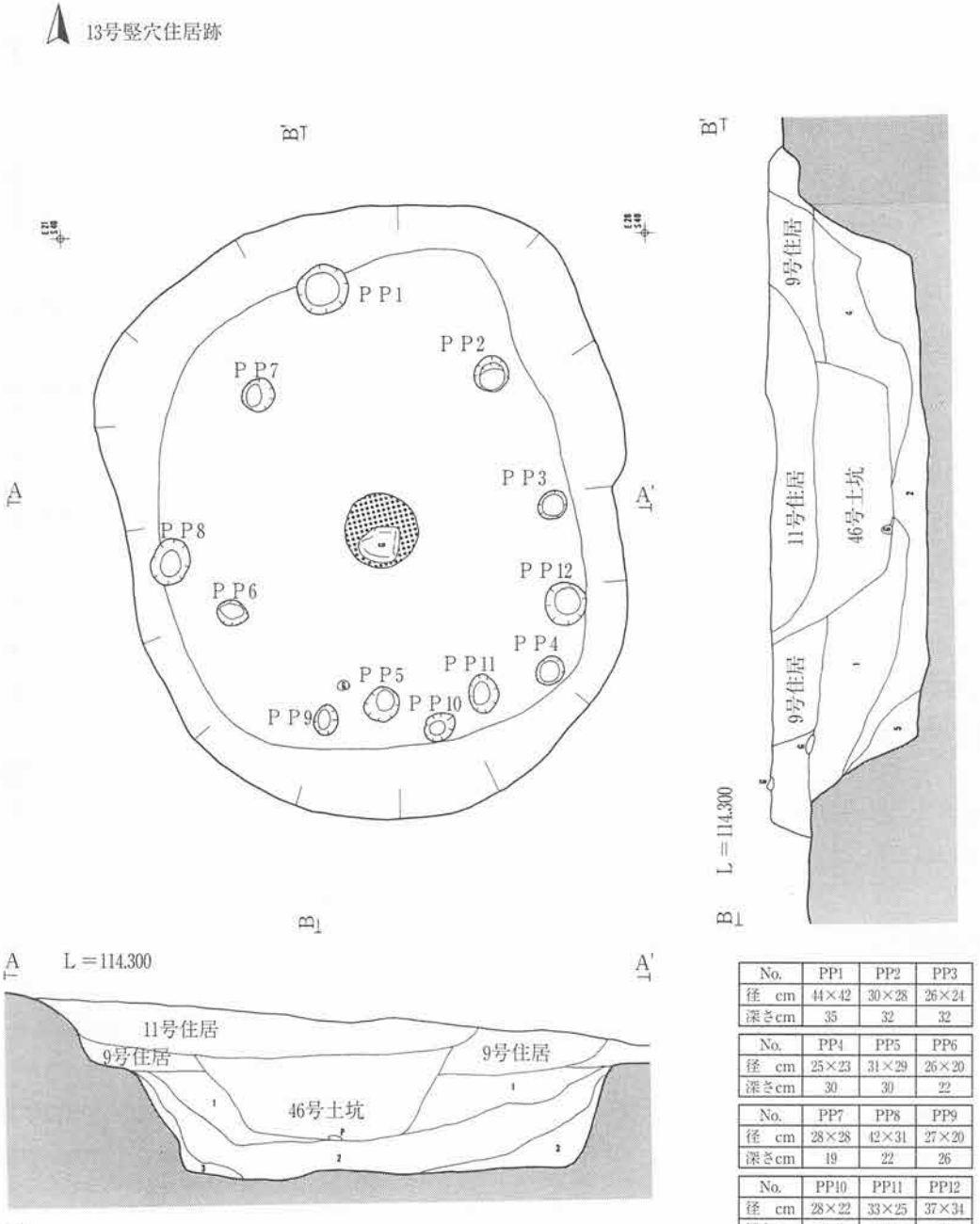
A－A'・B－B'
1 10YR2/2 黒褐色シルト しまりなし 粘性なし 10YR4/4 褐色シルトがブロック状に2%含む。焼土粒、炭化物2%含む。十和田b火山灰を少量含む。
2 10YR2/2 黒褐色シルト しまりなし 粘性なし 焼土、炭化物を含まない。
3 7.5YR2/1の炭化物。
4 10YR2/2 黒褐色シルト しまりなし 粘性なし

第16図 12号竪穴住居跡

ない。

〈 炉 〉住居のほぼ中央から地床炉と考えられる焼土を検出した。検出した焼土は円形で、直径が約60cmあり、10cmほど堆積していた。

〈 柱穴 〉PP 1 ～PP12までを検出した。柱穴配置はPP 1 ～PP 7 が主柱穴になる可能性が高い。PP 6 とPP 7 の間には柱穴を検出できなかったが、8 本柱になるのかもしれない。



No.	PP1	PP2	PP3
径 cm	44×42	30×28	26×24
深さcm	35	32	32

No.	PP4	PP5	PP6
径 cm	25×23	31×29	26×20
深さcm	30	30	22

No.	PP7	PP8	PP9
径 cm	28×28	42×31	27×20
深さcm	19	22	26

No.	PP10	PP11	PP12
径 cm	28×22	33×25	37×34
深さcm	16	34	13

0　1：60　2m

A－A'・B－B'
1　10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　南部浮石の粒、中振を少量含む。
2　10YR3/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　南部浮石の粒を含む。
3　10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　南部浮石の粒を含む。2層より明るい。
4　10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　1層に似るが南部浮石の粒を全体に含む。
5　10YR3/2 黒褐色シルト　しまりややなし　粘性ややあり　南部浮石の粒を多量に含む。

第17図　13号竪穴住居跡

〈 遺物 〉131～149の土器が出土しているが、多くが円筒下層ａ式（Ⅱ群２類土器）に比定される。口縁部は平縁で丸みを帯び、不整撚糸文が施文される。150、151は石鏃、152は石匙、153は石篦、154は削掻器、155は磨製石斧、156は半円状扁平打製石器に分類した。
〈 時期 〉縄文時代前期前葉である。

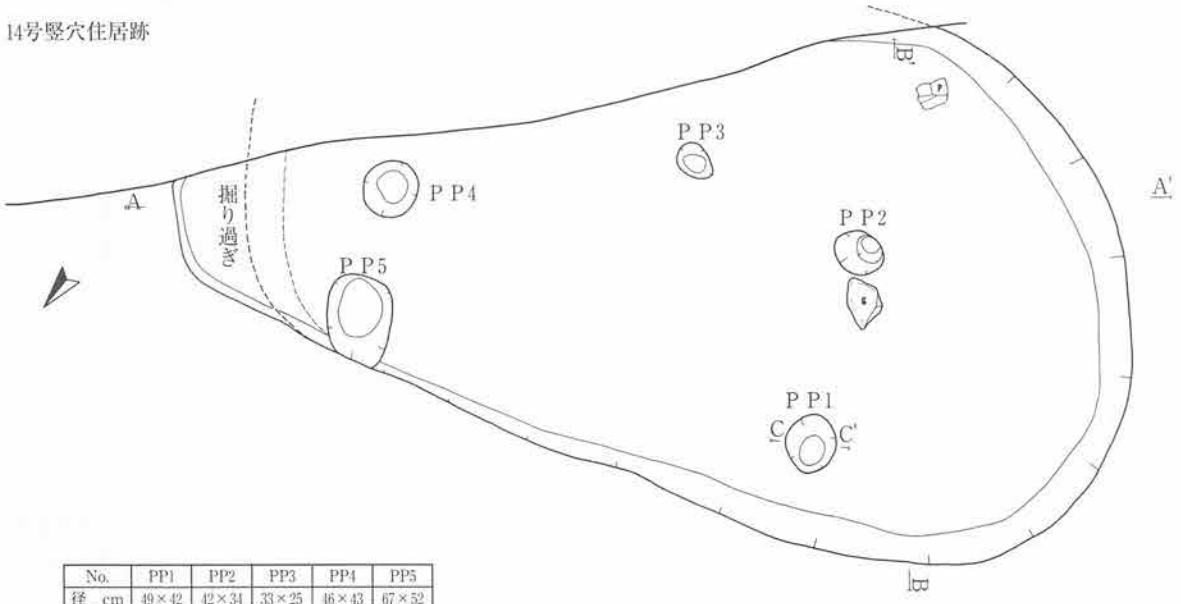
14号竪穴住居跡（第18図・写真図版15）

〈 位置 〉12ｄ～13ｅグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉調査区外となる壁の断面を観察した際に、Ｖ層の中掫火山灰が混じる黒褐色土層から掘り込まれている住居跡を確認した。
〈 重複関係 〉19号住居跡と重複しており、本遺構が新しい。
〈 規模・形態 〉遺構の南側の約３分の１が調査区外に延びているため、全容は不明であるが、平面形は長楕円形と考えられる。規模は長径が7.4m前後、短径が4.2m前後、床面積約21㎡と推定される。壁高は最大で55cmである。
〈 埋土 〉黒褐色土が主体である。層位の違いは主として混入物の差による。埋土全体に中掫が混じるが、壁に近い部分には中掫とともに黄褐色の浮石粒が混じる。床に近い部分は粘土質土が混じる。
〈 壁・床 〉壁はⅣ層～Ｖ層で、直線的に立ち上がる。東側の壁は掘り過ぎてしまった。床はＶ層の中掫が混じる黒褐色土層となり、平坦であるが、固く締まってはいない。
〈 炉 〉調査区外に延びる部分に存在する可能性があるが、検出していない。
〈 柱穴 〉PP１～PP５までの５基を検出した。柱穴配置はPP１～PP４の柱穴が主柱穴になる可能性があるが、全容は不明である。
〈 遺物 〉前期から晩期の土器が出土している。157は非結束羽状縄文が施され、円筒下層ａ式（Ⅱ群２類土器）に分類した。163は縦位に隆帯が貼り付けられ、円筒上層ａ式（Ⅲ群１類土器）に比定される。158、159、160、161は沈線によってクランク文、円文、弧線文が描かれ、十腰内Ⅰ式（Ⅳ群１類土器）に比定される。164も後期の土器の可能性がある。162は鉢の口縁部だが、裏側に沈線文が施され、大洞Ａ～Ａ′式（Ｖ群３類土器）に比定される。166は注口土器の注口部であるが、大洞Ｂ～ＢＣ式（Ｖ群１類土器）に比定される。
〈 時期 〉いろいろな時期の縄文土器が出土しているので、不明な点が多いが、重複関係から縄文時代後期以降の可能性が高い。

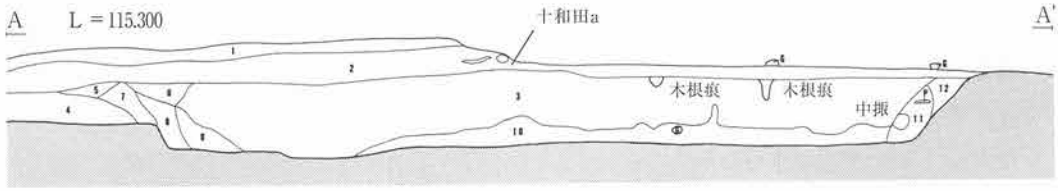
15号竪穴住居跡（第19図・写真図版16）

〈 位置 〉９ｈグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉12号住居跡を精査中に、12号住居に切られる形で、Ｖ層中に黒褐色のプランを確認した。
〈 重複関係 〉12号住居跡と重複し、本遺構が古い。
〈 規模・形態 〉３分の２を12号住居跡に切られているために全容は明らかではないが、平面形は不整な楕円形だと考えられる。規模は検出した部分から推定すると、直径が4.5m～５m前後と推定される。壁高は検出面から最大で26cmである。
〈 埋土 〉黒褐色土が主体で、上部には黄褐色の浮石粒が含まれる。
〈 壁・床 〉壁、床ともにＶ層中である。検出した部分では、壁は直線的に緩やかに立ち上がり、床はほぼ平坦であるが、東に向かって傾斜しているように推定される。

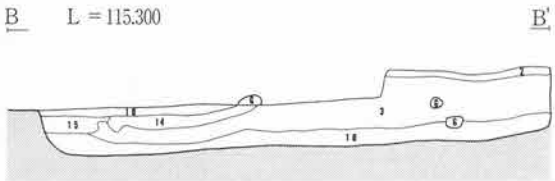
14号竪穴住居跡

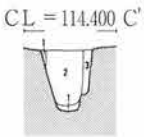


No.	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5
径 cm	49×42	42×34	33×25	46×43	67×52
深さcm	54	43	49	35	16



A－A'・B－B'
1 10YR2/3 黒褐色シルト しまりあり 粘性あり 表土
2 10YR2/3 黒褐色シルト しまりあり 粘性ややあり Ⅲ層
3 10YR2/2 黒褐色シルト しまりややあり 粘性ややあり
部分的に黄褐色の浮石を含む。
4 10YR2/2 黒褐色シルト しまりややあり 粘性ややあり
上部に黄褐色の浮石を含む。(地山)
5 10YR2/3 黒褐色シルト しまりややあり 粘性ややあり
黄褐色の浮石と中振を含む。(地山)
6 4層に似るが、やや明るい しまりなし 粘性あり。
7 4層に似る 部分的に黄褐色の浮石が混じる。(地山)
8 10YR2/2 黒褐色シルト しまりなし 粘性ややあり 粘土質シルトが混じる。
9 8層に似る 粘土質シルトを多く含む。
10 10YR 黒褐色シルト しまりなし 粘性あり 褐色粘土質シルトが混じる。
11 10YR2/3 黒褐色シルト しまりややあり 粘性ややあり
黄褐色の浮石と中振を含む。
12 10YR3/2 黒褐色砂質シルト しまりややあり 粘性ややあり
黄褐色の浮石と中振を含む。
13 10YR 黒褐色シルト しまりなし 粘性あり 黄褐色の浮石と中振を含む。
14 10YR3/2 黒褐色シルト しまりややあり 粘性あり 砂質シルト少量混じる。
15 10YR4/4 褐色粘土質シルト しまりややあり 粘性ややあり
砂質シルト少量混じる。
16 10YR3/3 暗褐色シルト しまりややあり 粘性ややあり
黄褐色の浮石を含む。





C－C'
1 10YR4/4 褐色シルト しまりややあり 粘性あり
2 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまりややあり 粘性あり
3 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト しまりややあり 粘性あり
黄褐色の浮石の粒を含む。

0 1：60 2m

第18図 14号竪穴住居跡

〈 炉 〉検出していない。重複している12号住居跡によって失われた可能性はある。
〈 柱穴 〉PP 1 とPP 2 の 2 基を検出した。PP 1 は12号住居跡と重複している部分からの検出である。柱穴配置は不明である。
〈 遺物 〉167～170は深鉢の口縁部から底部の破片であるが、前期前葉の土器（Ⅱ群土器）に分類される。171は鉢の口縁部で、裏側に溝状の沈線文が施文されており、大洞Ａ式（Ⅴ群 3 類土器）に比定される。172は石鏃、173は削掻器、174は凹石に分類した。175は円盤状の土製品である。
〈 時期 〉床面近くから出土した土器から縄文時代晩期後葉以降の可能性があるが、明確ではない。

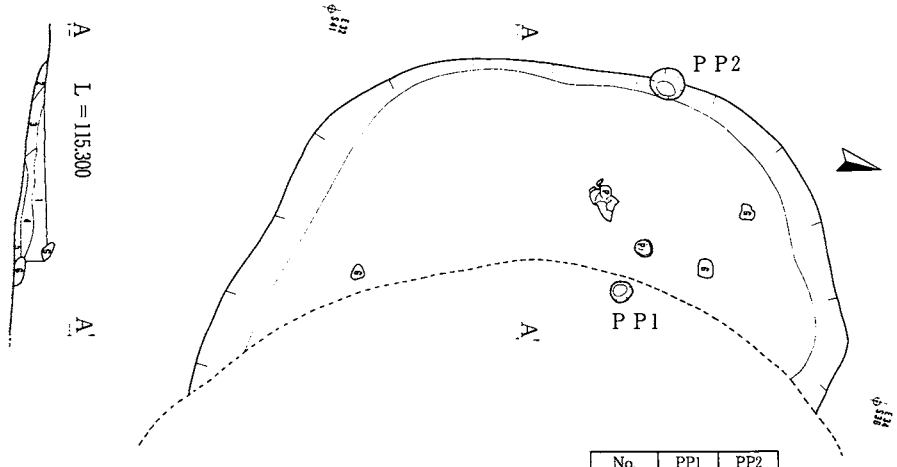
16号竪穴住居跡（第19図・写真図版16、17）

〈 位置 〉７～８ｅグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉13号土坑を精査中に焼土を検出し、住居跡が下位に存在することが想定されたため、土層観察ベルトをかけ周辺を再検出したところ、Ⅶ層相当の暗褐色のローム質土が混じる黒褐色土層から楕円形のプランを確認した。
〈 重複関係 〉6号住居跡、12号土坑、13号土坑と重複しているが、本住居跡が最も古い。
〈 規模・形態 〉平面形は不整な楕円形で、規模は長径が5.3m、短径が4.2m、床面積が約11.1㎡である。壁高は最大で32cmである。
〈 埋土 〉南部浮石が混じる黒褐色土が主体である。壁際の埋土に砂質土が混じるが、ほぼ単層に近い。精査の段階で、検出した焼土は住居跡の床面ではなく、埋土中に堆積しているものと判明した。住居跡の西南部分は、精査中の不手際で掘り上げてしまったため埋土の記録が残っていない。
〈 壁・床 〉壁はⅦ層中で緩やかに立ち上がる。床はⅧ～Ⅸ層中で、黒褐色土に南部浮石が混じる層と南部浮石層から成り、ほぼ平坦である。
〈 炉 〉13号土坑によって失われた可能性があるが、検出していない。
〈 柱穴 〉PP 1 ～PP 6 までの 6 基を検出した。柱穴配置はPP 1 ～PP 3 が主柱穴の可能性があるが、住居跡の西側から柱穴を検出していないため全容は不明である。13号土坑によって柱穴が壊されたのかもしれない。
〈 遺物 〉Ⅱ群土器が主体である。176は深鉢の口縁部であるが、平縁で外反する。177は深鉢の口縁部で、平縁で丸みを帯びる。178は深鉢の胴部であるが、綾繰文が施される。179と181は深鉢の口縁部で、撚糸文が施文される。180は深鉢の胴部であるが、沈線文により幾何学的な文様が描かれ、Ⅳ群土器に分類した。182と183は石鏃である。184～186は削掻器に分類した。
〈 時期 〉縄文時代前期前葉の可能生が高い。

17号竪穴住居跡（第20図・写真図版18）

〈 位置 〉８ｆ～９ｇグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉８号住居跡の床面を精査中に、遺構と想定される埋土を確認したために、再検出を行ったところ、Ⅷ層相当の南部浮石混じる黒褐色土層から楕円形のプランを確認した。
〈 重複関係 〉８号住居跡、14号土坑、15号土坑と重複しており、住居跡が最も古い。
〈 規模・形態 〉平面形は方形に近い、不整な楕円形で、規模は長径が6.0m、短径が5.4m、床面積約18.0㎡である。壁高は最大で40cmである。住居跡の東側は壁が削られており、はっきり検出できなかったため不明な

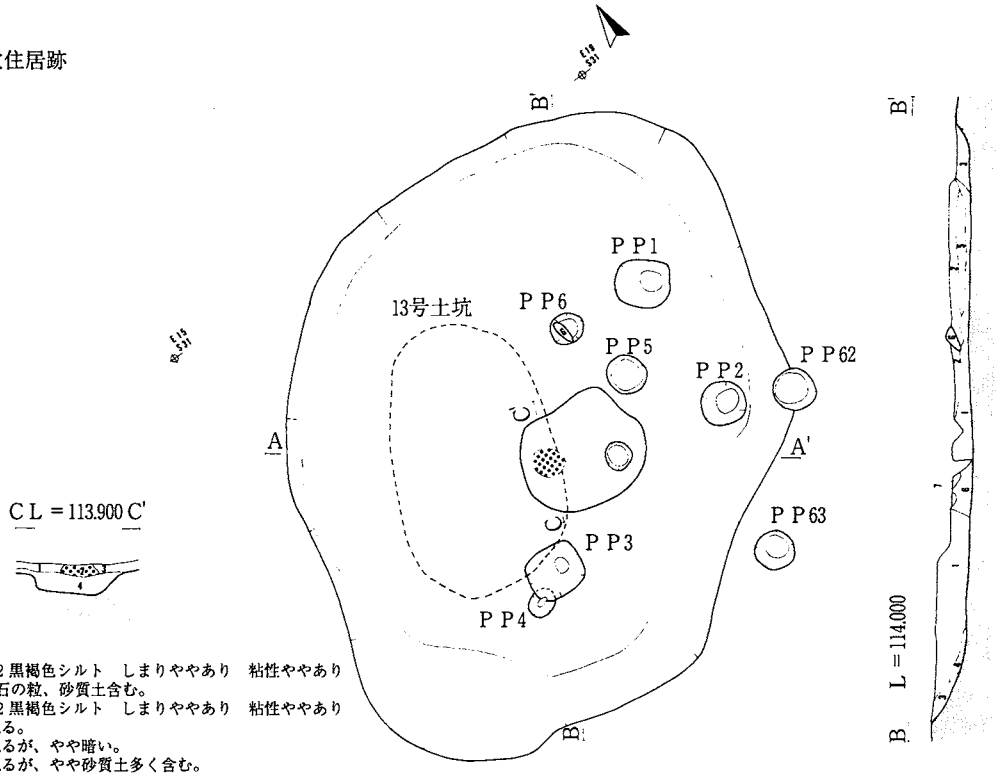
15号竪穴住居跡



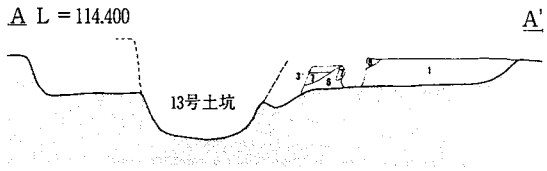
A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　砂質シルト含む。
2　10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
3　10YR2/3 黒褐色シルト　しまりあり　粘性ややあり　1㎜大の黄褐色の浮石の粒を含む。
4　3に似るが、砂質土が多い。
5　3に似るが、浮石粒がブロック状に入る。

No.	PP1	PP2
径　cm	18×17	28×25
深さcm	18	21

16号竪穴住居跡



C－C'
1　10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
　南部浮石の粒、砂質土含む。
2　10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
　1層に似る。
3　1層に似るが、やや暗い。
4　1層に似るが、やや砂質土多く含む。



No.	PP1	PP2	PP3
径　cm	45×38	36×36	46×40
深さcm	57	40	56

No.	PP4	PP5	PP6
径　cm	23×20	31×29	27×24
深さcm	—	13	12

A－A'・B－B'
1　10YR2/2 黒褐色砂質シルト　しまりあり　粘性なし　南部浮石の粒を含む。
2　1層に似るが、やや暗い。
3　1層に似るが、やや明るい。　粘性ややあり。
4　1層に似るが、砂質シルトが多い。
5　10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性なし　1層より大きい南部浮石の粒を含む。
6　1層に似るが、焼土が混じる。
7　7.5YR5/8 明褐色焼土　しまりややあり　粘性なし　砂質シルトが混じる。
8　7.5YR4/6 明褐色焼土

0　1：60　2m

第19図　15号・16号竪穴住居跡

点がある。
〈 埋土 〉南部浮石が混じる黒褐色土が主体である。
〈 壁・床 〉壁はⅧ層中で緩やかに立ち上がる。床はⅨ層の南部浮石層中で、住居の中央部が窪むように傾斜している。
〈 炉 〉検出していない。
〈 柱穴 〉PP 1 ～PP14までの14基を検出した。すべての柱穴を検出できなかったため、柱穴配置は不明である。
〈 遺物 〉187は深鉢の口縁から胴部であるが、外面に剥落が多い。188は深鉢の口縁部だが、小波状を呈し、縄文が施文される。早期から前期の土器の可能性がある。189は深鉢の口縁部で、撚糸文が施される。191は深鉢の底部である。以上の土器はⅡ群土器に分類した。190は深鉢の口縁部であるが、平縁で突起が付く。後期の土器の可能性がある。193と194は石鏃、195は石匙、196は磨製石斧、197は磨石である。また住居跡の北西部分一カ所から、剥片が80片ほどまとまって出土した。
〈 時期 〉検出面から判断すると、縄文時代前期の可能生が高い。

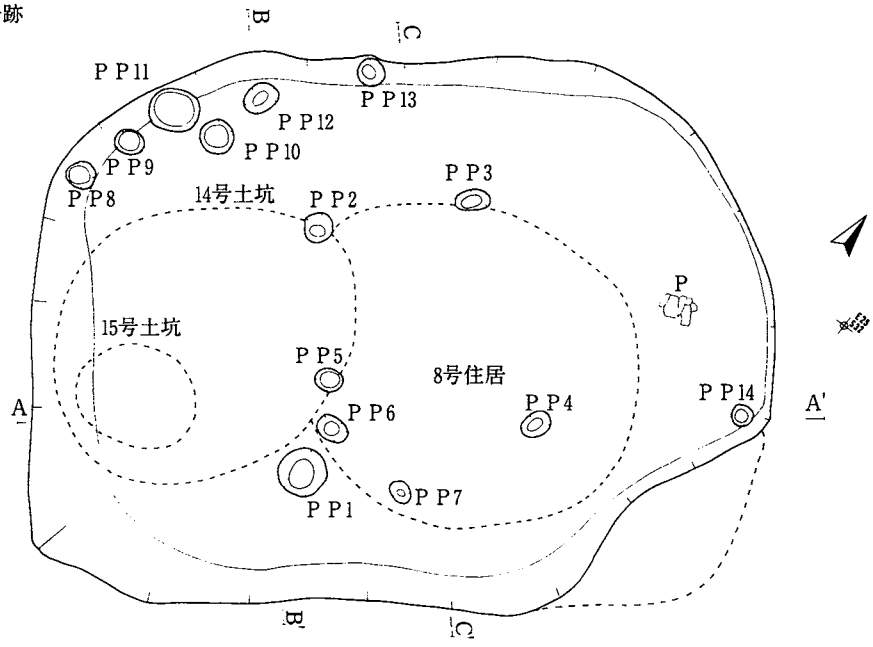
18号竪穴住居跡（第21図・写真図版19）

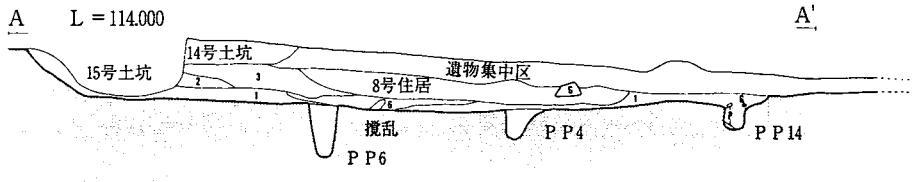
〈 位置 〉11ｉグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉Ｖ層中掫層から円形の黒褐色のプランを検出した。
〈 重複関係 〉27号土坑、29号土坑より古く、２号竪穴住居状遺構、24号土坑より新しい。
〈 規模・形態 〉平面形は楕円形で、規模は長径が3.7m、短径が3.2m、床面積約7.8㎡である。壁高は最大で45cmである。
〈 埋土 〉黄褐色の浮石粒が混じる黒褐色土が主体である。中掫を含む埋土も確認した。床面が明瞭ではなかったために、土層を観察した時点での床面よりも、実際の床面がさらに下がることが完堀の際にわかった。そこでの記録の際に不手際があり、写真と実測図に正確さを欠くことになってしまった。
〈 壁・床 〉壁はＶ層中で直線的に立ち上がる。床もＶ層中で、ほぼ平坦である。
〈 炉 〉検出していない。
〈 柱穴 〉PP 1 、PP 2 の２基を検出した。他の柱穴は検出できなかったために、柱穴配置の全容は不明である。
〈 遺物 〉Ｖ群土器が出土している。198はほぼ完形の台付鉢で、台部は上げ底である。199はミニチュア土器の鉢である。200と201は深鉢と鉢の口縁部であるが、口縁部が無文帯となる。202は浅鉢もしくは高坏の口縁部だが、工字文が施され、大洞Ａ式（Ｖ群３類土器）に比定される。203と204は鉢の口縁部だが、内面に丹念なミガキが施され晩期後半の可能性がある。205は鉢の口縁部で、突起と刻み目が付き、沈線文が施される。また裏側には溝状の沈線文が施され、隆帯が貼付けられている。大洞Ａ～Ａ′式（Ｖ群３類土器）に比定される。206と207は鉢の口縁部で、口縁部が無文帯となる。208の石錐、209は凹石である。
〈 時期 〉縄文時代晩期後半である。

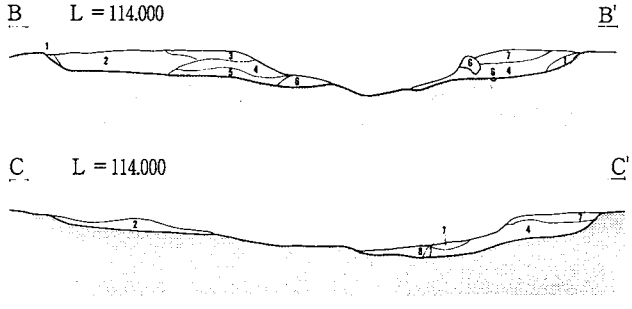
19号竪穴住居跡（第21図・写真図版20）

〈 位置 〉11ｅ～12ｆグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉14号住居跡の北部でＶ層中掫層から黒褐色の円形のプランを確認したため、土層観察ベルトをかけ精査したところ、中央部は風倒木によって攪乱されているが、円形の住居跡が存在していることがわか

17号竪穴住居跡







No.	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5
径 cm	41×40	24×22	28×18	25×19	22×19
深さcm	55	21	26	25	29

No.	PP6	PP7	PP8	PP9	PP10
径 cm	26×20	18×12	21×21	23×21	27×25
深さcm	44	25	20	20	28

No.	PP11	PP12	PP13	PP14
径 cm	40×37	30×22	23×20	18×18
深さcm	18	17	30	—

A－A'・B－B'・C－C'
1　10YR3/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性なし　南部浮石含む。
2　10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性なし　南部浮石含む。
3　1層に似るが、やや暗い。
4　2層に似るが、やや暗い。
5　2層に似るが、大きめの南部浮石が含まれる。
6　5層に似るが、粘性ややあり。
7　10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　南部浮石含む。

0　1：60　2m

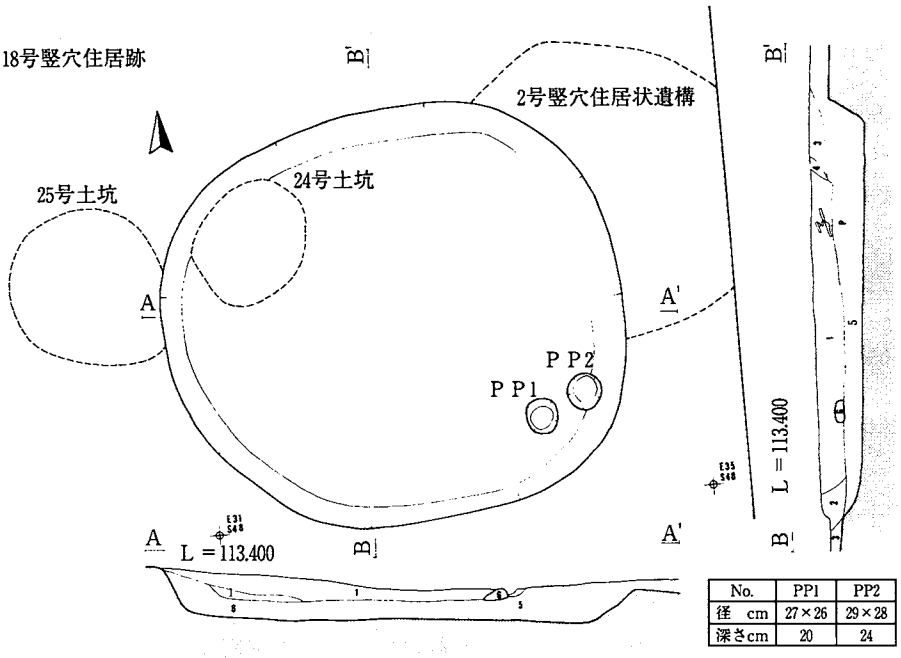
第20図　17号竪穴住居跡

った。
〈 重複関係 〉14号住居跡と重複し、本遺構が新しい。
〈 規模・形態 〉平面形は不整な楕円形で、規模は長径が5.0m、短径が4.7m、床面積が約14.4㎡である。壁高は検出面から最大で61cmである。
〈 埋土 〉黒褐色土主体であるが、住居跡の中央部は風倒木によって攪乱を受けており、攪乱部分に近い埋土は暗褐色、褐色土となる。黒褐色土の埋土の違いは、中掫と黄褐色の浮石粒の混じり方の違いによる。
〈 壁・床 〉壁、床ともにⅤ層中である。壁はやや急な角度で直線的に立ち上がり、床は風倒木による攪乱のために断言できないが、平坦と考えてよいであろう。北東側の床から焼土と炭化物が多量に検出されたが、人為的なものか、風倒木が関係するのか不明である。
〈 炉 〉検出していない。
〈 柱穴 〉PP１からPP５の５基を検出した。住居内の床面から検出した住居内１号土坑も柱穴の可能性がある。柱配置はPP１、PP２、PP５と住居内１号土坑が主柱穴である可能性が高い。
〈 遺物 〉Ⅱ群からⅤ群土器が出土しているが、主体となるのはⅣ群土器である。210は深鉢の胴部下半から底部であるが、非結束羽状縄文が施され、後期中葉の土器と考えられる。211は鐸形土製品である。212は深鉢のほぼ完形品であるが、晩期末葉の粗製深鉢である。213は深鉢の口縁部であるが、平縁で肥厚しており、非結束羽状縄文、磨消縄文が施される後期中葉の土器と考えられる。214は深鉢の口縁部で、不整撚糸文が施文され、円筒下層ａ式（Ⅱ群２類土器）に比定される。215は深鉢の口縁部で、山形状の口縁を持つ中期の土器の可能性がある。216と217は深鉢の口縁部だが、沈線文と磨消縄文が施文され、前十腰内式（Ⅳ群１類土器）に比定されると考えられる。218は壺の胴部で後期初頭から前葉の土器である。219は深鉢の底部で後期初頭の土器の可能性がある。220は注口土器と思われる口縁から頸部であるが、横位の沈線文が施され、大洞Ｂ式（Ⅴ群１類土器）に比定される。221は鉢の口縁部であるが、Ｂ突起が付き、大洞Ｃ１式（Ⅴ群２類土器）に比定される。222は撚糸文が施文される後期の土器の可能性がある。223は深鉢の口縁部で折り返され、後期初頭の土器と考えられる。224～226は石鏃、227～229は石匙である。230は削掻器、231は石錐に分類した。232は半円状扁平打製石器、233は磨石である。
〈 時期 〉床面から出土した土器から、縄文時代後期中葉以降の住居跡と考えられる。出土した土器の中でⅤ群とした晩期の土器については、遺物取り上げ時の不手際で、攪乱部から出土したものの可能性が高い。

20号竪穴住居跡（第22図・写真図版21）

〈 位置 〉13～14ｆグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉Ⅴ層の中掫が含まれる層から円形のプランを検出した。
〈 重複関係 〉重複関係はない。
〈 規模・形態 〉平面形は楕円形で、規模は長径が4.4m、短径が4.2m、床面積が約12.3㎡である。壁高は検出面から最大で32cmである。
〈 埋土 〉上部は黒褐色土で、黄褐色の浮石粒が含まれる。最上部にはガラス状の粒が少量混じる。下部は褐色土であるが、黄褐色の浮石粒が混じる。床面から７～８cmの高さで集石を検出したが、遺構との関係は不明である。
〈 壁・床 〉壁、床ともにⅤ層中である。壁は南側が緩やかに立ち上がるが、その他は直線的に急な角度で、立ち上がる。床は東側に傾斜しており、凹凸があり固く締まってはいない。

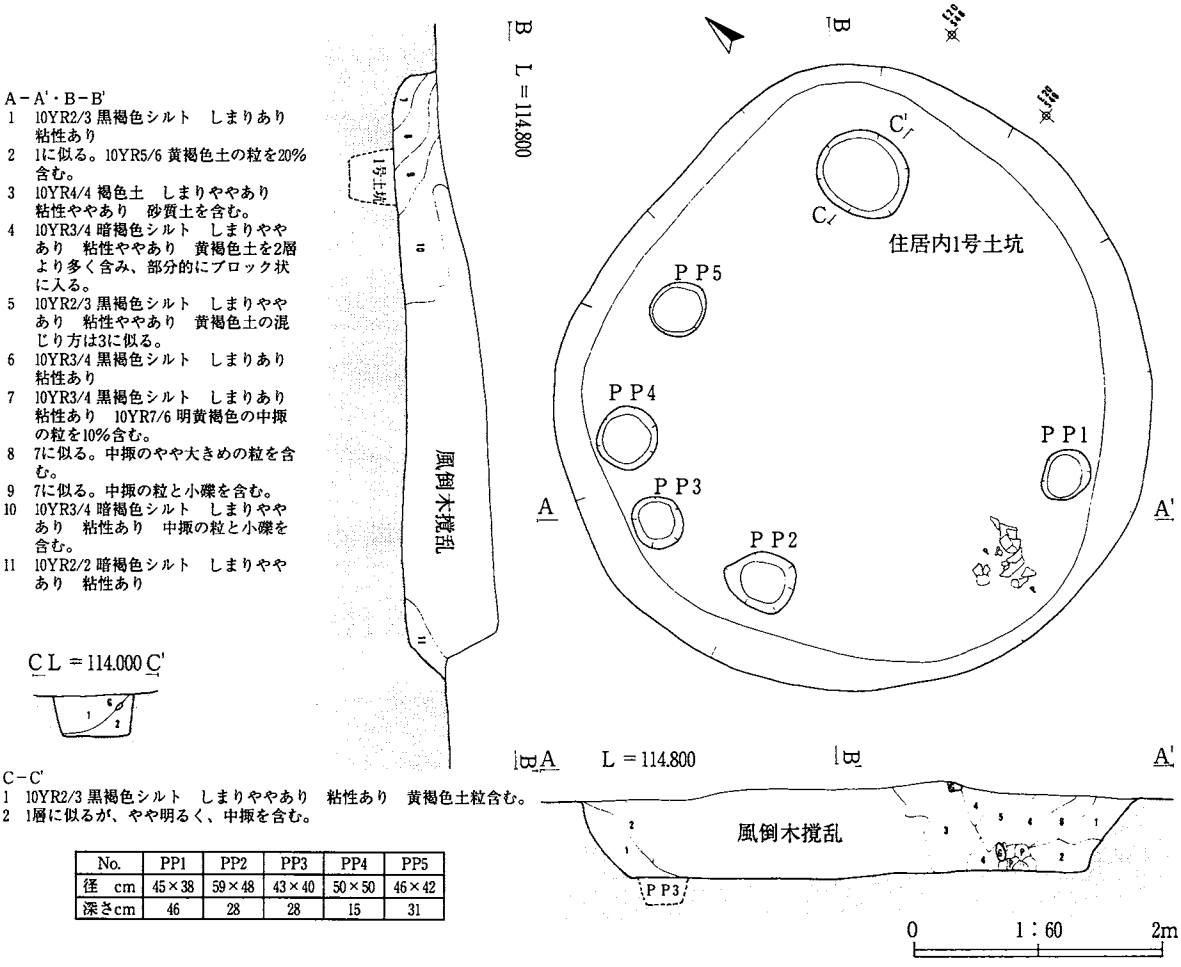
18号竪穴住居跡



A－A'・B－B'
1 10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　黄褐色の浮石の粒を含む。
2 10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　黄褐色の浮石の粒を含む。
3 10YR3/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　黄褐色の浮石の粒とやや砂質土を含む。
4 3に似る。中振を多く含む。
5 10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　黄褐色の浮石の細かい粒を含む。
6 1に似る。黄褐色の浮石のやや大きめの粒を含む。

No.	PP1	PP2
径　cm	27×26	29×28
深さcm	20	24

19号竪穴住居跡



A－A'・B－B'
1 10YR2/3 黒褐色シルト　しまりあり　粘性あり
2 1に似る。10YR5/6 黄褐色土の粒を20%含む。
3 10YR4/4 褐色土　しまりややあり　粘性ややあり　砂質土を含む。
4 10YR3/4 暗褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　黄褐色土を2層より多く含み、部分的にブロック状に入る。
5 10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　黄褐色土の混じり方は3に似る。
6 10YR3/4 黒褐色シルト　しまりあり　粘性あり
7 10YR3/4 黒褐色シルト　しまりあり　粘性あり　10YR7/6 明黄褐色の中振の粒を10%含む。
8 7に似る。中振のやや大きめの粒を含む。
9 7に似る。中振の粒と小礫を含む。
10 10YR3/4 暗褐色シルト　しまりややあり　粘性あり　中振の粒と小礫を含む。
11 10YR2/2 暗褐色シルト　しまりややあり　粘性あり

C－C'
1 10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性あり　黄褐色土粒含む。
2 1層に似るが、やや明るく、中振を含む。

No.	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5
径　cm	45×38	59×48	43×40	50×50	46×42
深さcm	46	28	28	15	31

第21図　18号・19号竪穴住居跡

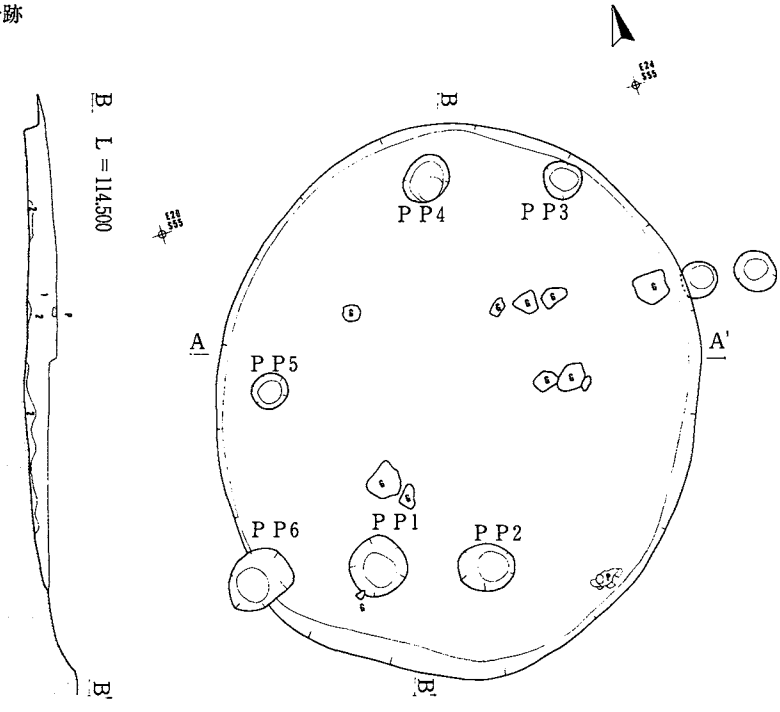
〈 炉 〉検出していない。

〈 柱穴 〉PP 1からPP 6の6基を検出した。住居の南東部で柱穴が検出されなかったため柱穴配置は明確ではないが、PP 6以外は主柱穴の可能性がある。

〈 遺物 〉Ⅳ群土器が主体に出土している。234は深鉢の口縁から胴部であるが、口縁部は波状で、帯縄文によってコの字状、十字状のモチーフが描かれる。前十腰内式（Ⅳ群1類土器）に比定される。235と236は、それぞれ口縁から胴部上半、胴部下半から底部だが、同一個体の可能性がある。刻目帯、弧線文、帯縄文により文様が構成され、十腰内Ⅲ式（Ⅳ群2類土器）に比定される。237は円筒下層d式（Ⅱ群3a類土器）に比定される深鉢の口縁部である。238～240は深鉢の口縁部と胴部で、沈線による弧状文、渦巻文が施されるⅣ群1類土器である。241は深鉢の口縁部で、網目状撚糸文が施され、後期の土器と考えられる。242は円盤状土製品である。

〈 時期 〉前期の土器も出土しているが、縄文時代後期初頭～前葉の可能性が高い。

20号竪穴住居跡



A－A'・B－B'
1　10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　黄褐色の浮石を含む　上部にガラス状の粒を少量含む。
2　10YR4/4 褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　黄褐色の浮石を含む。

No.	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5	PP6
径　cm	50×45	45×39	32×31	41×33	29×28	55×43
深さcm	13	33	12	16	15	57

0　1：60　2m

第22図　20号竪穴住居跡

21号竪穴住居跡（第23図・写真図版22、23）

〈位置〉17h～18iグリッドに位置する。

〈検出状況〉Ⅴ層の中掫が混じる黒褐色土層から、22号住居跡、23号住居跡とともに黒色土のプランを検出した。住居跡の北東側ははっきりとしたプランを確認できなかった。

〈重複関係〉22号住居跡、43号土坑、44号土坑と重複しており、22号住居跡、44号土坑より新しく、43号土坑より古い。24号住居跡と重複していた可能性もあるが、24号住居跡のプランが推定のため、詳細は不明である。

〈規模・形態〉壁を検出できたのは住居跡の西側の一部分であるために、プランは土層観察ベルトからの推定がほとんどである。平面形は楕円形で、長径が約5.7m、短径が約5.4m程度、床面積が約18.3㎡と考えられる。壁高は検出面から最大で44cmである。

〈埋土〉黒色土が主体である。層位の違いは、中掫や砂質土などの混入の差による。

〈壁・床〉壁、床ともにⅤ層中である。壁は外傾して緩やかに立ち上がり、床はほぼ平坦である。

〈炉〉住居のほぼ中央から石囲炉を検出した。円形で、10個の自然石で構築されている。焼土が約10cmほど堆積していた。

〈柱穴〉PP1～PP21までを検出した。柱穴配置はPP2、PP3、PP5、PP11、PP12が主柱穴になる可能性がある。壁際に壁柱を巡らせたと考えられる柱穴を検出している。

〈遺物〉Ⅳ群土器とⅤ群土器が中心に出土しているが、中心となるのはⅤ群土器である。243は深鉢の胴部下半から底部だが、晩期の深鉢と考えられる。244も深鉢の胴部下半から底部だが、後期の可能性がある。245は小型鉢のほぼ完形品であるが、口縁部に2個1対と1個の突起が付き、沈線文が施され、大洞A～A′式（Ⅴ群3類土器）に比定される。246も同類の中型深鉢である。247～249は深鉢の口縁部であるが、頸部が括れる器形で、晩期の粗製深鉢と考えられる。250～252も同類の晩期の深鉢と考えられる。253は注口部が欠損しているが、ほぼ完形の注口土器で、沈線文、刻目により文様が構成される。晩期後葉の可能性がある。254は波状の沈線文が施文される晩期の鉢である。255は浅鉢と思われる土器の口縁部だが、変形工字文が施文され、刻目帯が付く。大洞A′式（Ⅴ群3類土器）に比定される。256は横位の平行沈線文が施文される晩期後葉の浅鉢の口縁部である。257と258も浅鉢と思われる口縁部の破片であるが、変形工字文、工字文、刺突列が施され、大洞A～A′式（Ⅴ群3類土器）に比定される。259は深鉢の口縁部で、網目状撚糸文が施文される後期の土器である。260は石鏃、261は削掻器に分類した。262は無文のミニチュアの注口土器だが、晩期初頭の可能性がある。263は土偶と推測される土製品である。

〈時期〉出土遺物から縄文時代晩期後葉から末葉と考えられる。

22号竪穴住居跡（第24図・写真図版22、23、24）

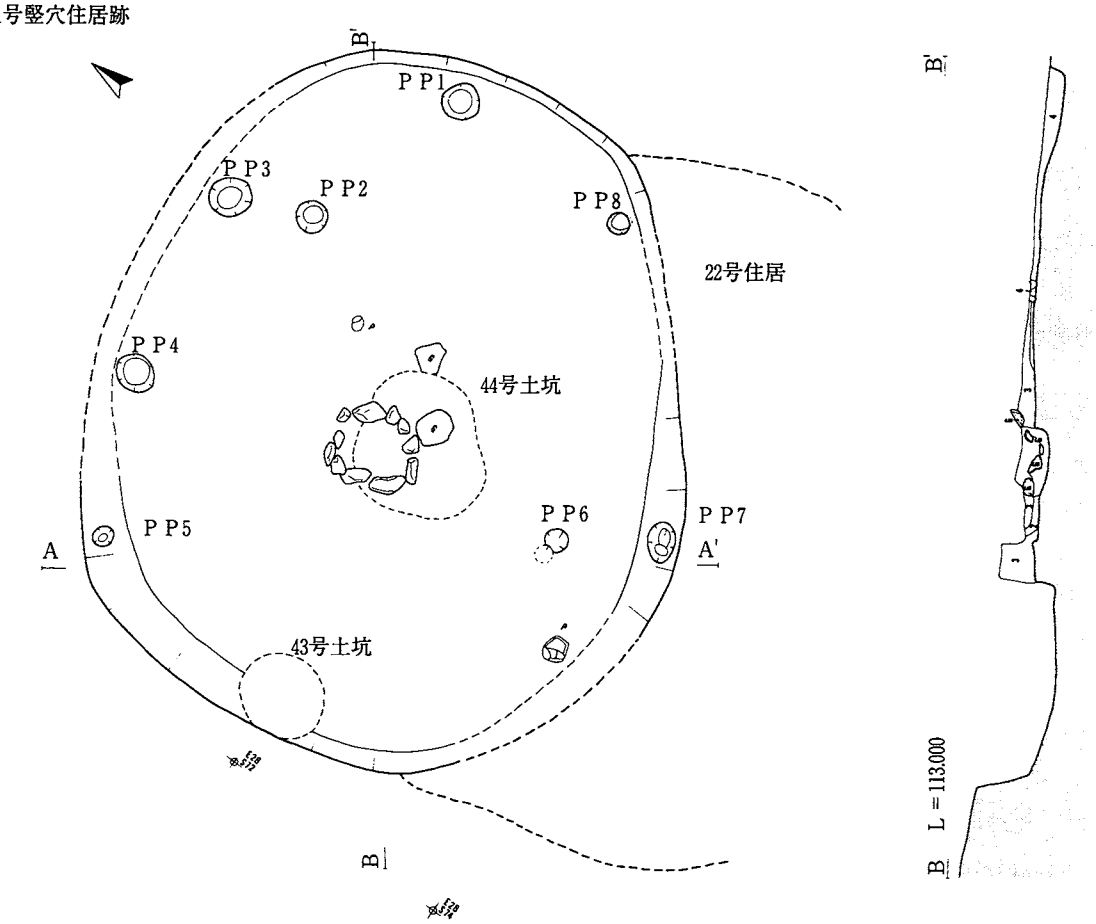
〈位置〉17h～18iグリッドに位置する。

〈検出状況〉Ⅴ層の中掫が混じる黒褐色土層から、21号住居跡、23号住居跡とともに黒色土のプランを検出した。

〈重複関係〉21号住居跡、23号住居跡、24号住居跡、44号土坑と重複している。21号住居跡、23号住居跡、24号住居跡より古く、44号土坑より新しい。また本住居跡についても、3基の炉跡が検出されたことから、あまり時期差がなく建て替えが行われた可能性がある。

〈規模・形態〉重複によって住居跡の東側部分と西側の一部分だけしか壁を検出していないため、明確なプ

21号竪穴住居跡



No.	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5	PP6	PP7	PP8
径　cm	32×28	25×25	35×31	34×29	18×16	21×17	33×21	18×17
深さcm	16	23	48	43	20	52	30	58

A－A'・B－B'
1　10YR5/6 黄褐色　中掘　しまりややあり　粘性なし
2　10YR2/1 黒色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　中掘多く含む。
3　10YR2/1 黒色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　中掘、礫含む。
4　10YR2/1 黒褐色砂質シルト　しまりややあり　粘性ややあり　中掘含む。

0　1：60　2m

第23図　21号竪穴住居跡

ランは不明であるが、平面形は楕円形と推定される。規模は検出した範囲では、直径が5.5m、壁高は50cmである。床面積は23㎡ほどと推定される。

〈 埋土 〉黒色土が主体である。壁に近い埋土を除き中掫が全体的に含まれ、一部の床付近の埋土には多量の中掫が堆積している部分が見られた。

〈 壁・床 〉壁、床ともにV層中である。壁は外傾して、やや急な角度で直線的に立ち上がると推定される。床はほぼ平坦であるが、小さな凸凹が全体的に認められた。

〈 炉 〉住居の中央からやや北寄りの、東西の軸線上に位置する炉を3基検出した。東側の炉は土器埋設炉と考えられ、二つの土器を二段に重ね合わせた構造である。下位の土器は底部で上の土器より径が大きく、上位の土器をはめ込むような形で重ね合わせている。また埋設された土器を中心に、65cm×55cmの範囲で焼土がブロック状に堆積していた。中央の炉と西側の炉は自床炉で、焼土の広がる範囲はどちらも約65cm×65cmほどで、最大で約10cm程度の焼土の堆積が見られた。それぞれの炉は重複関係が見られ、古い順に東側の炉、中央の炉、西側の炉となる。

〈 柱穴 〉PP1～PP27までを検出した。柱穴配置はPP1、PP3、PP8、PP10、PP20が主柱穴になる可能性があるが、住居を拡幅した際にPP19、PP24、PP26が主柱穴となった可能性も残る。

〈 遺物 〉V群土器が出土している。264は深鉢の底部だが、晩期末葉と考えられる。本住居の炉に埋設されていた土器で、271の土器が上部に重なっていた。265は壺と推測される土器の口縁部で、隆線による工字文が施文されており、大洞A式（V群3類土器）に比定される。266と267も大洞A式（V群3類土器）に比定される浅鉢もしくは鉢と思われる口縁部破片である。268は壺と推測される胴部の破片だが、沈線文が施文され、晩期と考えられる。269は晩期の深鉢で、270は磨製石斧である。271は深鉢の胴部下半から底部であるが、縄文のみの粗製深鉢で、晩期と考えられる。土器埋設炉に使用されていた土器で、264の上位に埋設されていた土器である。

〈 時期 〉出土遺物から縄文時代晩期後葉から末葉と考えられる。

23号竪穴住居跡（第25図・写真図版22、23、24）

〈 位置 〉18i～19iグリッドに位置する。

〈 検出状況 〉V層の中掫が混じる黒褐色土層から、21号住居跡、22号住居跡とともに黒色土のプランを検出した。また調査区境の東側の壁から、住居跡の断面を確認した。

〈 重複関係 〉22号住居跡、24号住居跡、40号土坑、42号土坑と重複している。24号住居跡、40号土坑、42号土坑より古く、22号住居跡より新しい。

〈 規模・形態 〉住居跡の東側が調査区外に延びていることや、重複によって全容は明瞭ではないが、平面形は楕円形で、規模は径が6m前後と推定される。壁高は検出した範囲では50cmほどである。

〈 埋土 〉黒褐色土が主体である。層位の違いは中掫と黄褐色の浮石粒の混入の具合による。

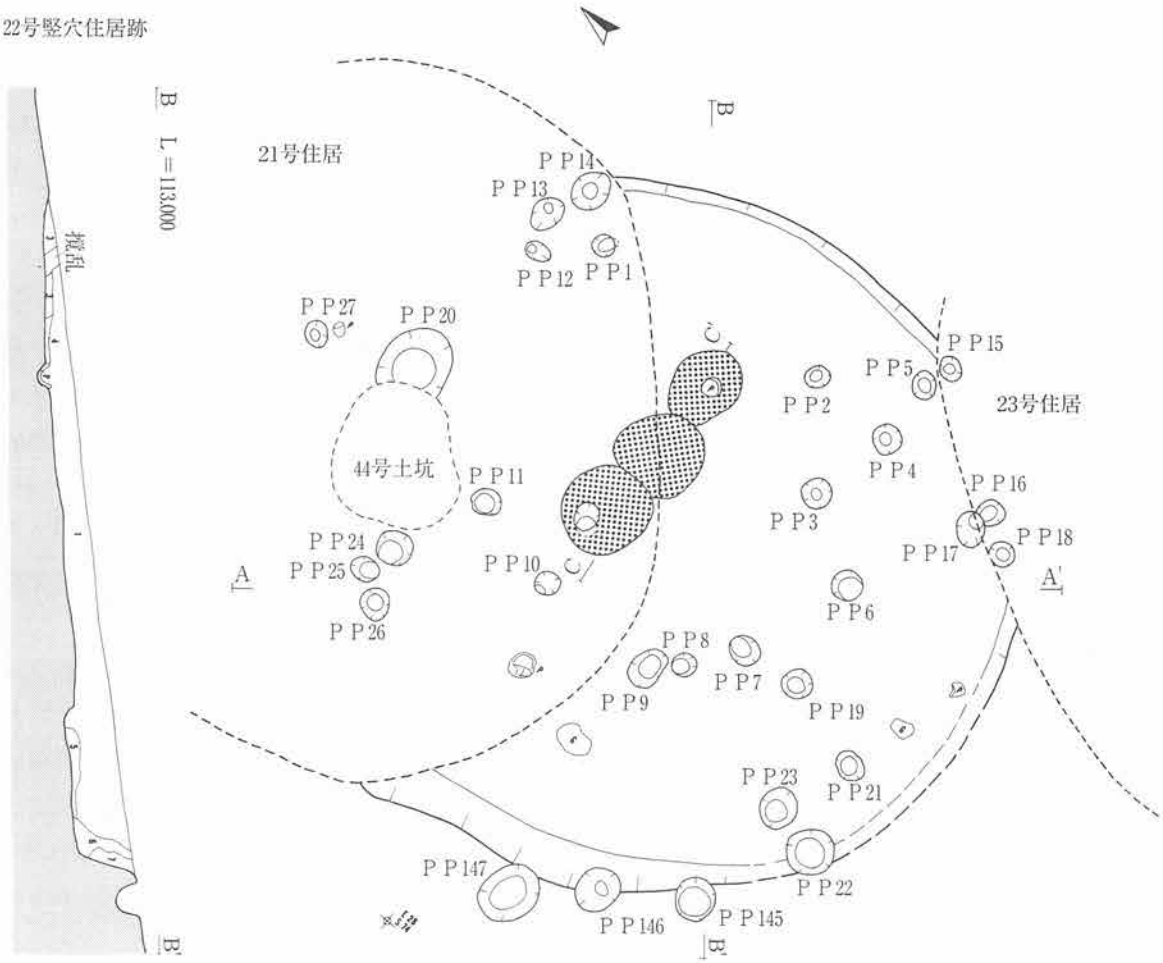
〈 壁・床 〉壁、床ともにV層中である。壁は外傾して、緩やかに立ち上がる。床はほぼ平坦である。

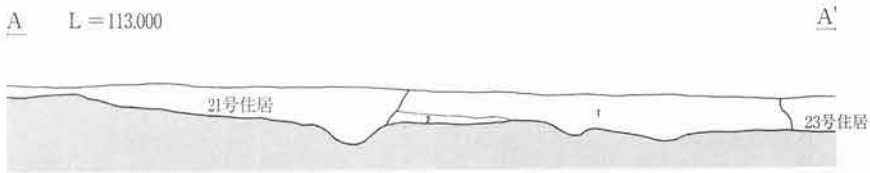
〈 炉 〉住居内の西寄りの部分から土器埋設炉と考えられる炉跡を検出した。焼土の範囲は45cm×45cm程度で、7cmほど堆積していた。

〈 柱穴 〉PP1、PP2の2基を検出した。柱穴配置は不明である。

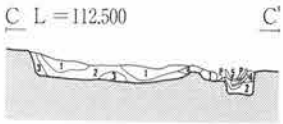
〈 遺物 〉272は深鉢の胴部と底部だが、頸部が括れ、晩期の土器と考えられる。調査区境となる壁の住居跡の埋土中から出土している。273は石鏃である。

22号竪穴住居跡





A－A'・B－B'
1　10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　中振含む。
2　10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　中振多量に含む。
3　10YR4/4 褐色砂質シルト　しまりややあり　粘性あり
4　10YR4/4 褐色砂質シルト　しまりややあり　粘性あり　焼土、中振含む。
5　10YR5/6 黄褐色　中振　しまりややあり　粘性なし　黒褐色土ブロック含む。
6　10YR2/3 黒褐色砂質シルト　しまりややあり　粘性ややあり
7　10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり



No.	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5	PP6	PP7	PP8	PP9
径　cm	18×17	21×17	24×22	25×23	24×20	24×23	25×23	20×18	36×24
深さcm	58	32	48	21	12	20	25	25	24

No.	PP10	PP11	PP12	PP13	PP14	PP15	PP16	PP17	PP18
径　cm	20×18	23×23	22×15	29×26	35×28	21×17	(24)×21	30×23	21×19
深さcm	43	34	17	18	48	25	30	65	36

No.	PP19	PP20	PP21	PP22	PP23	PP24	PP25	PP26	PP27
径　cm	24×24	62×58	24×21	37×37	34×30	29×26	22×18	26×24	22×18
深さcm	49	41	52	17	23	54	27	46	34

C－C'
1　10YR5/8 黄褐色砂質シルト　しまりあり　粘性なし　焼土含む。
2　2.5YR7/6 明黄褐色砂質シルト　しまりややあり　粘性なし
　黄褐ブロック含む　中振。
3　10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト　しまりあり　粘性なし　中振。
4　10YR5/6 黄褐色砂質シルト　しまりあり　粘性なし　凝固した中振。
5　10YR2/2 黒褐色砂質シルト　しまりややあり　粘性なし
　焼土ブロック含む。

0　1：60　2m

第24図　22号竪穴住居跡

〈 時期 〉 重複関係と出土遺物から、縄文時代晩期後葉から末葉の住居と考えられる。

24号竪穴住居跡（第25図・写真図版23）

〈 位置 〉 17 i ～18 i グリッドに位置する。

〈 検出状況 〉 21～23号住居跡を検出中に、調査区境の東側の壁から住居跡の断面を確認した。Ⅳ層の下部から掘り込んでいる。

〈 重複関係 〉 22号住居跡、23号住居跡と重複している。22号住居跡、23号住居跡より新しい。21号住居跡と重複していた可能性もある。

〈 規模・形態 〉 断面のみの検出のため平面形は不明である。規模は検出した範囲では、径が約５ｍほどと推定される。

〈 埋土 〉 黄褐色の浮石粒が黒褐色土が主体である。層位の違いは中掘と黄褐色の浮石粒の混入の具合による。23号住居跡の埋土と比較すれば、黄褐色の浮石粒が混じる量は少ない。

〈 壁・床 〉 断面のみの観察であるが、壁はⅣ層～Ⅴ層中で、外傾してやや直線的に立ち上がる。床はⅤ層中で、中央部が盛り上がるように湾曲していると推定される。

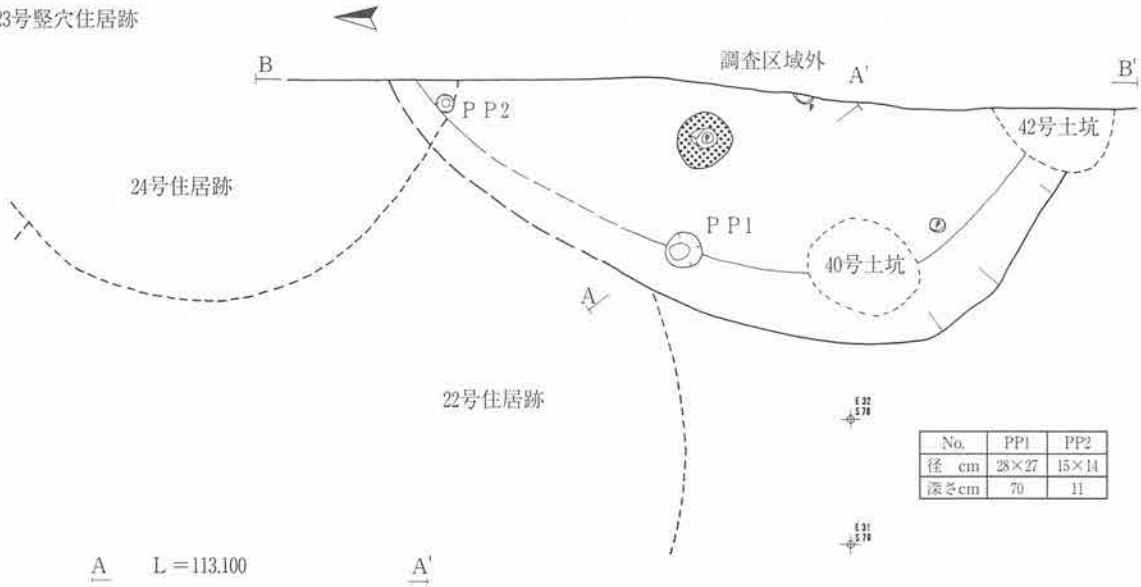
〈 炉 〉 検出していない。

〈 柱穴 〉 PP１～PP４までの４基を検出した。住居跡の東側は調査区外となるため、柱穴配置の全容は不明だが、PP１、PP２、PP３、PP４は主柱穴となる可能性がある。

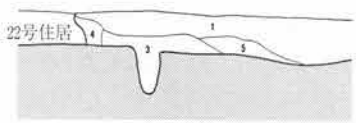
〈 遺物 〉 274は鉢と思われる胴部破片だが、晩期の可能性がある。調査区境の壁の埋土中から出土している。埋土中または周辺部からは、土師器は出土していない。

〈 時期 〉 出土遺物が少なく明確ではないが、遺構の重複関係から縄文時代晩期後葉から末葉以降の住居と考えられる。

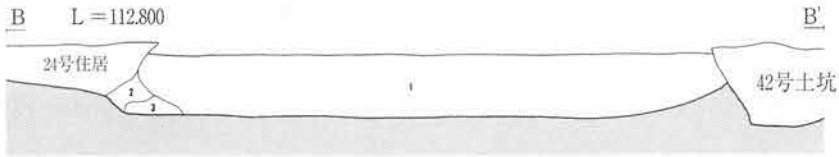
23号竪穴住居跡



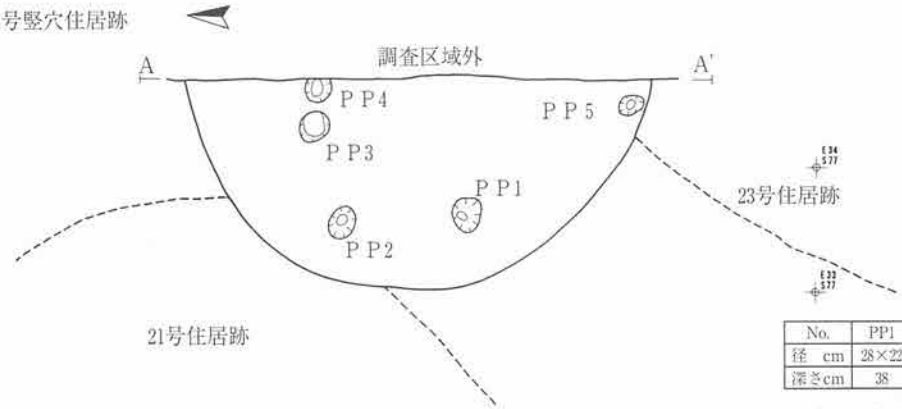
No.	PP1	PP2
径 cm	28×27	15×14
深さcm	70	11



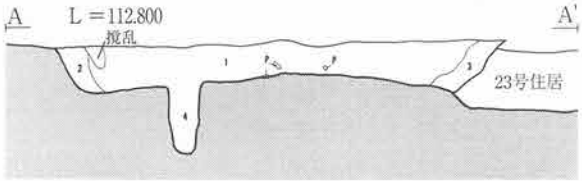
A－A'・B－B'
1 10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性あり　黄褐色の浮石の粒含む。
2 1層に似るが、大きめの礫含む。
3 10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　中振含む。
4 1層に似るが、やや明るい。
5 10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　中振、焼土粒含む。



24号竪穴住居跡



No.	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5
径 cm	28×22	25×20	25×22	(24)×22	20×16
深さcm	38	24	30	27	14



A－A'・B－B'
1 10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性あり
炭化物含む。
2 10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性あり
根による撹乱。
3 10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性あり
黄褐色の浮石の粒を含む。
4 10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性あり
中振含む。

0　1：60　2m

第25図　23号・24号竪穴住居跡

（2）土坑

1号土坑（第26図・写真図版25）

〈位置〉11hグリッドに位置する。

〈検出状況〉トレンチを入れた際に、Ⅴ層の中掘層から黒色土に近い黒褐色土のプランを検出した。

〈重複関係〉25号土坑と重複するが、本土坑が新しい。

〈形態・規模〉開口部径が84cm×66cm、底部径が76cm×59cmで深さが16cmである。

平面形は楕円形で、断面形は逆台形状である。底面は平坦で、壁は外傾する。

〈埋土〉黒褐色土主体で、明褐色の軽石の粒を含む。

〈遺物〉275は鉢と推測される胴部の破片であるが、晩期の土器の可能性がある。

〈時期〉出土遺物が僅かなため、断定はできないが、縄文時代の可能性が高い。

2号土坑（第26図・写真図版25）

〈位置〉8fグリッドに位置する。

〈検出状況〉Ⅲ層より下層の暗褐色土層から黒褐色土のプランを検出した。

〈重複関係〉14号土坑、15号土坑と重複するが、本土坑が最も新しい。

〈形態・規模〉開口部径が81cm×55cm、底部径が66cm×44cmで深さが22cmである。

平面形は楕円形で、断面形は逆台形状である。底面には段差があり、壁は外傾するが、南東側の壁はやや急な角度である。

〈埋土〉黒褐色土主体で、南部浮石の粒を含む。

〈遺物〉276は深鉢の口縁部で、撚糸文、竹管文で施文されており、円筒下層d1式（Ⅱ群3a類土器）に比定される。277は深鉢の口縁部で、原体押圧文と推定される文様が施され、円筒下層a式（Ⅱ群2類土器）に比定される。278は前期と考えられる深鉢の胴部破片である。

〈時期〉出土遺物から縄文時代前期の可能性がある。

3号土坑（第26図・写真図版25）

〈位置〉6gグリッドに位置する。

〈検出状況〉南部浮石が混じる黒褐色土のⅦ層から円形のプランを検出した。

〈重複関係〉ない。

〈形態・規模〉開口部径が69cm×57cm、底部径が53cm×40cmで深さが30cmである。

平面形は楕円形で、断面形は逆台形状である。底面には段差があり、壁は外傾するが、南東側の壁はやや急な角度である。

〈埋土〉上部が暗褐色土、下部が褐色土で、砂質土に近い。下部になる程南部浮石を多く含んでいる。

〈遺物〉ない。

〈時期〉出土遺物がないため明確ではないが、検出面や埋土から縄文時代前期の可能性がある。

4号土坑（第26図・写真図版25）

〈位置〉6iグリッドに位置する。

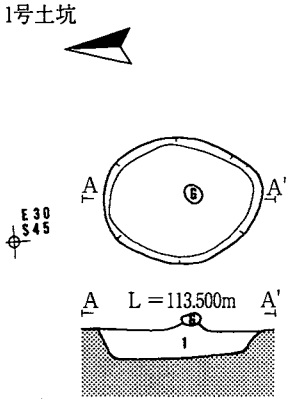
〈 検出状況 〉 中掫と南部浮石が混じるⅤ層相当の面から楕円形のプランを検出した。
〈 重複関係 〉 ない。
〈 形態・規模 〉 開口部径が75cm×55cm、底部径が62cm×43cmで深さが23cmである。
平面形は楕円形で、断面形は皿形に近い形状であるが、東側の壁はやや急な角度で立ち上がる。底面はほぼ平坦である。
〈 埋土 〉 黒褐色土が主体であるが、黄褐色の浮石の粒を含む。下部には砂質土が混じる。
〈 遺物 〉 ない。
〈 時期 〉 出土遺物がないため不明であるが、検出面や埋土から縄文時代の可能性が高い。

5号土坑（第26図・写真図版26）
〈 位置 〉 6ｉグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉 中掫と南部浮石が混じるⅤ層相当の面から楕円形のプランを検出した。
〈 重複関係 〉 ない。
〈 形態・規模 〉 開口部径が99cm×83cm、底部径が68cm×62cmで深さが15cmである。
平面形は不正な楕円形で、断面形は皿形である。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。
〈 埋土 〉 黒褐色土が主体の単層である。
〈 遺物 〉 ない。
〈 時期 〉 出土遺物がないため不明であるが、検出面や埋土から縄文時代の可能性が高い。

6号土坑（第26図・写真図版26）
〈 位置 〉 5～6ｈグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉 南部浮石が混じる黒褐色土のⅧ層から楕円形のプランを検出した。
〈 重複関係 〉 ない。
〈 形態・規模 〉 開口部径が95cm×76cm、底部径が76cm×60cmである。深さが9cmと非常に浅い。平面形は楕円形で、断面形は皿形で、底面はほぼ平坦である。
〈 埋土 〉 黒褐色土が主体の単層である。
〈 遺物 〉 ない。
〈 時期 〉 出土遺物がないため不明であるが、検出面から縄文時代の可能性が高い。

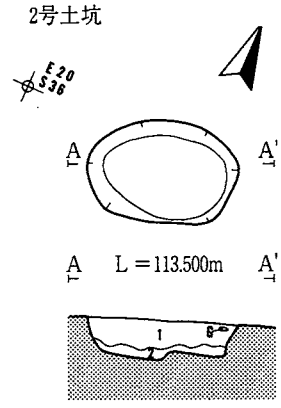
7号土坑（第27図・写真図版26）
〈 位置 〉 9ｆグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉 中掫が混じるⅤ層から楕円形のプランを検出した。
〈 重複関係 〉 ない。
〈 形態・規模 〉 開口部径が61cm×55cm、底部径が51cm×43cmで、深さが15cmである。平面形は楕円形で、断面形は皿形である。底面は平坦である。
〈 埋土 〉 黒褐色土が主体であるが、黄褐色の浮石の粒が混じる。
〈 遺物 〉 ない。
〈 時期 〉 出土遺物がなく不明であるが、検出面と埋土から縄文時代の可能性が考えられる。

1号土坑



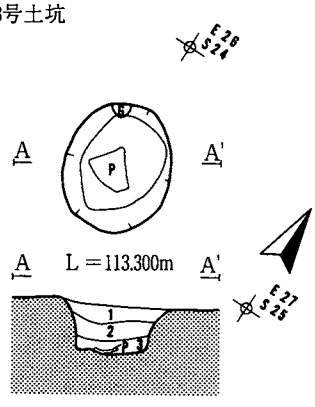
A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
　7.5YR5/8 明褐色シルトの軽石の粒含む。

2号土坑



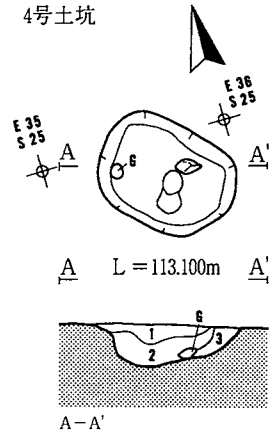
A－A'
1　10YR2/1 黒褐色シルト　しまりあり　粘性ややあり
　南部浮石の粒を含む。
2　10YR2/1 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり

3号土坑



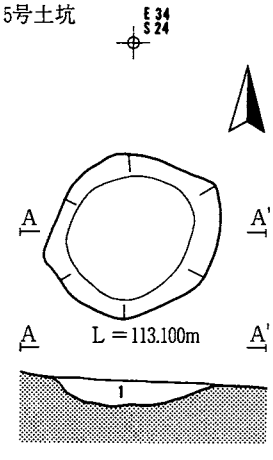
A－A'
1　10YR3/4 暗褐色砂質シルト　しまりややあり　粘性なし
2　10YR3/4 暗褐色砂質シルト　しまりややあり　粘性なし
　南部浮石の粒を含む。
3　10YR4/6 褐色砂質シルト　しまりややあり　粘性なし
　南部浮石を多く含む。

4号土坑



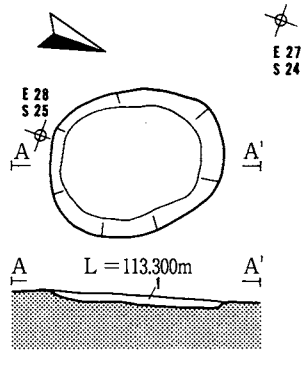
A－A'
1　10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
　黄褐色の浮石の粒を含む。
2　10YR3/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
　黄褐色の浮石の粒とやや砂質土を含む。
3　10YR3/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
　黄褐色の浮石の粒と砂質土を多く含む。

5号土坑



A－A'
1　10YR3/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり

6号土坑



A－A'
1　10YR3/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり

0　1m

第26図　1号～6号土坑

8号土坑（第27図・写真図版26）

〈位置〉8ｇグリッドに位置する。

〈検出状況〉中掫が混じるⅤ層から円形のプランを検出した。

〈重複関係〉ない。

〈形態・規模〉開口部径が63cm×52cm、底部径が36cm×20cmで、深さが20cmである。平面形は円形で、断面形は逆台形状であるが、底面は湾曲している。

〈埋土〉黒褐色土の単層である。黄褐色の浮石の粒が混じる。

〈遺物〉ない。

〈時期〉出土遺物がなく不明であるが、検出面と埋土から縄文時代の可能性が考えられる。

9号土坑（第27図・写真図版27）

〈位置〉10ｈグリッドに位置する。

〈検出状況〉中掫が混じるⅤ層から楕円形のプランを検出した。

〈重複関係〉ない。

〈形態・規模〉開口部径が86cm×62cm、底部径が75cm×52cmで、深さが22cmである。平面形は楕円形で、断面形は皿形である。底面は平坦である。

〈埋土〉暗褐色土と黒褐色土主体の埋土であるが、起源が不明の火山灰土も見られた。全体的に南部浮石が混じる。

〈遺物〉ない。

〈時期〉出土遺物がなく不明であるが、検出面と埋土から縄文時代の可能性が考えられる。

10号土坑（第27図・写真図版27）

〈位置〉10ｈグリッドに位置する。

〈検出状況〉中掫が混じるⅤ層から楕円形のプランを検出した。

〈重複関係〉ない。

〈形態・規模〉開口部径が78cm×76cm、底部径が64cm×62cmで、深さが18cmである。平面形はほぼ円形で、断面形は皿形である。底面は平坦である。

〈埋土〉黄褐色の浮石が混じる黒褐色土の単層である。

〈遺物〉ない。

〈時期〉出土遺物がなく不明であるが、検出面と埋土から縄文時代の可能性が考えられる。

11号土坑（第27図・写真図版27）

〈位置〉11ｈグリッドに位置する。

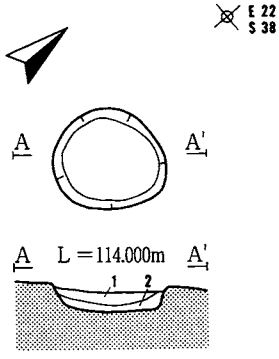
〈検出状況〉中掫が混じるⅤ層から楕円形のプランを検出した。

〈重複関係〉ない。

〈形態・規模〉開口部径が71cm×61cm、底部径が64cm×50cmで、深さが18cmである。平面形は楕円形で、断面形は皿形である。底面は平坦である。

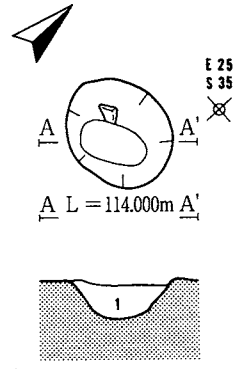
〈埋土〉黄褐色の浮石が混じる黒褐色土の単層である。

7号土坑



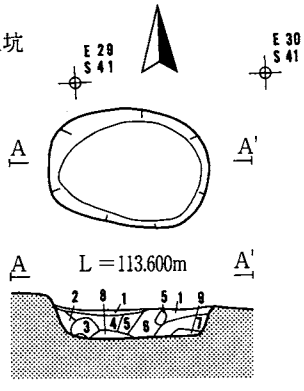
A－A'
1 10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
黄褐色の浮石の粒をわずかに含む。
2 10YR3/2 黒褐色シルト　しまりあり　粘性ややあり
黄褐色の浮石の粒をわずかに含む。やや砂質土含む。

8号土坑



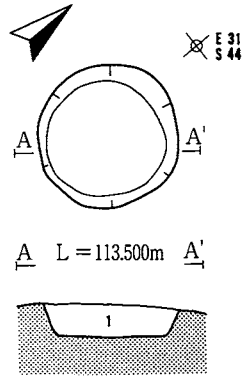
A－A'
1 10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
黄褐色の浮石の粒と小礫を含む。

9号土坑



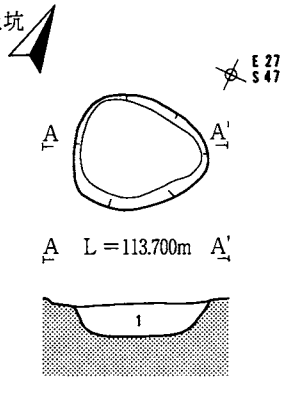
A－A'
1 10YR3/3 暗褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
2 10YR3/4 暗褐色シルト　しまりややあり　粘性なし
南部浮石を含む。
3 7.5YR5/8 明褐色火山灰　しまりなし　粘性なし
1cm以下の南部浮石。
4 10YR4/6 褐色火山灰　しまりややあり　粘性なし
0.8cm以下の南部浮石。
5 2に似る。南部浮石を粒状に含む。
6 10YR3/3 暗褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
南部浮石の粒を含む。
7 6に似る。やや明るい色の土。
8 10YR3/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
南部浮石の粒を含む。
9 8に似る。南部浮石の大きめの粒が入り込む。

10号土坑



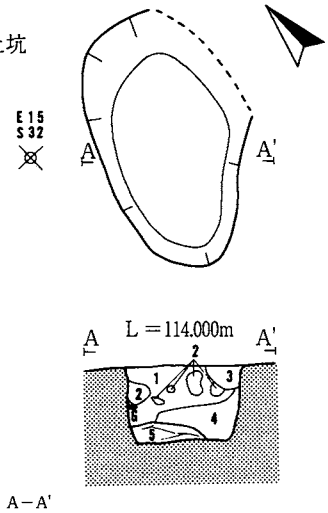
A－A'
1 10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
黄褐色の浮石の粒を含む。

11号土坑



A－A'
1 10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
黄褐色の浮石の粒を含む。

12号土坑



A－A'
1 10YR5/4 にぶい黄色褐色ローム　しまりあり　粘性あり
南部浮石の粒とやや砂質土を含む。
2 10YR3/2 にぶい暗褐色粘土質シルト　しまりややあり
粘性ややあり
3 10YR3/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
南部浮石の粒を含む。
4 10YR3/2 暗褐色シルト　しまりなし　粘性あり
5 1に　3が50％混じる。　しまりなし　粘性あり

0　1m

第27図　7号～12号土坑

〈 遺物 〉279は深鉢の口縁部で、丸みを帯びる。前期の土器に分類した。
〈 時期 〉出土遺物がなく不明であるが、検出面と埋土から縄文時代の可能性がある。

12号土坑（第27図・写真図版27）
〈 位置 〉８ｄ～ｅグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉Ⅵ層より下層のⅦ層に相当する暗褐色のローム質土が混じる黒褐色土層から楕円形のプランを確認した。
〈 重複関係 〉16号住居跡と重複するが、本土坑が新しい。
〈 形態・規模 〉開口部径が137cm×84cm、底部径が104cm×62cmで、深さが42cmである。平面形は不整な楕円形で、断面形は逆台形状である。底面は平坦である。
〈 埋土 〉黄褐色の粘土質土と黒褐色土を主体とした混合土で、南部浮石が混じる。人為的に堆積したと考えられる。
〈 遺物 〉280は深鉢の口縁部で、平縁で撚糸文が施される。大木２ａ～２ｂ式（Ⅱ群２類土器）に分類した。281は深鉢の胴部で、前期前葉の土器である。
〈 時期 〉出土遺物から縄文時代前期と考えられる。

13号土坑（第28図・写真図版27・28）
〈 位置 〉８ｅグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉Ⅵ層より下層のⅦ層に相当する暗褐色のローム質土が混じる黒褐色土層から楕円形のプランを確認した。
〈 重複関係 〉16号住居跡と重複するが、本遺構が新しい。
〈 形態・規模 〉開口部径が221cm×134cm、底部径が106cm×68cmで、深さが84cmである。平面形は不整な楕円形で、断面形は逆台形状である。底面はほぼ平坦であるが、立ち上がり部分は丸みを帯びている。
〈 埋土 〉黒褐色土を主体としている。上部の層には南部浮石と炭化物が含まれ、下部の層には砂質土が混じる。最下層には焼土が含まれる。自然堆積と考えられる。
〈 遺物 〉283は深鉢の口縁部であるが、平縁で内面が剥落している部分が多い。284は深鉢の底部で平底である。ともに前期前葉の土器と考えられる。
〈 時期 〉出土遺物から縄文時代前期と考えられる。

14号土坑（第28図）
〈 位置 〉８ｅ～ｆグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉８号住居跡を精査中に遺構の存在を確認した。
〈 重複関係 〉８号、17号住居跡、2号、15号土坑と重複し、８号、17号住居跡よりも新しく、2号、15号土坑より古い。
〈 形態・規模 〉開口部径が266cm×213cm、底部径が（200）cm×142cmで、深さが16cmである。平面形は不整な楕円形で、断面形は皿形である。底面はほぼ平坦である。
〈 埋土 〉暗褐色土を主体とし、黒褐色土が混じる単層である。
〈 遺物 〉前期前葉の土器が出土している。285～289は深鉢である。286には口縁部に補修孔がある。290と

291は石鏃、292は石匙、293は削掻器、294は石槍、295は石製品である。
〈 時期 〉出土遺物から縄文時代前期前葉と考えられる。

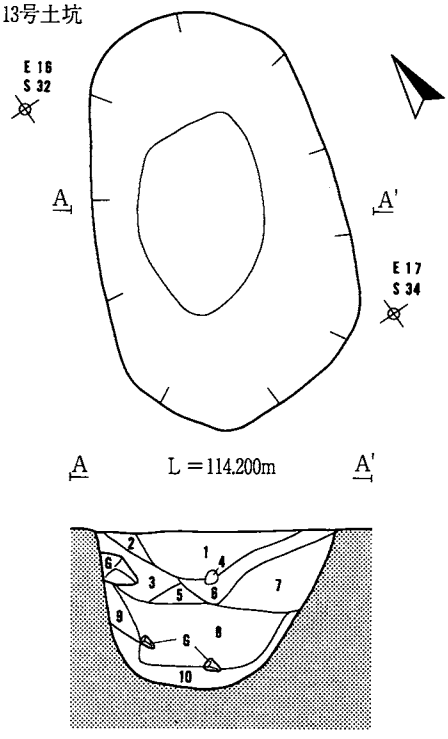
15号土坑（第28図・写真図版28）
〈 位置 〉８ｅ～ｆグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉14号土坑を精査中に遺構の存在を確認した。
〈 重複関係 〉８号、17号住居跡、2号、14号土坑と重複し、2号土坑より古く、その他より新しい。
〈 形態・規模 〉開口部径が98cm×82cm、底部径が94cm×72cmで、深さが36cmである。平面形は不整な楕円形で、断面形は逆台形である。底面はほぼ平坦である。
〈 埋土 〉上部が黒褐色土を主体とし、下部は暗褐色土を主体とする。黒褐色土には焼土の粒が混じる。
〈 遺物 〉296～298は深鉢の口縁部である。296は平縁で、刻目帯が施され、十腰内Ⅲ式（Ⅳ群２類土器）に比定される。297は口唇部が段状となる。298は３条の原体押圧文が施文される。ともに前期の土器と考えられる。
〈 時期 〉出土遺物の時期がまちまちなため、明確には断定できないが、縄文時代前期の可能性がある。

16号土坑（第28図・写真図版28）
〈 位置 〉９ｊグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉13号住居跡を精査中に、壁から遺構の存在を確認した。
〈 重複関係 〉13号住居跡と重複し、本土坑が古い。
〈 形態・規模 〉開口部径が105cm×（86）cm、底部径が82cm×（50）cmであるが、遺構の東部分は調査区域外に延びるため、全容は不明である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底は平坦である。
〈 埋土 〉黒褐色土と暗褐色土を主体とする。焼土の粒と炭化物が混じる。
〈 遺物 〉299は深鉢の胴部で、晩期の土器である。
〈 時期 〉縄文時代晩期の可能性がある。

17号土坑（第28図・写真図版28）
〈 位置 〉10ｈグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉中掫を含むⅤ層からプランを確認した。
〈 重複関係 〉ない。
〈 形態・規模 〉開口部径が173cm×166cm、底部径が（110）cm×68cmである。
〈 埋土 〉黒褐色土を主体とし、黄褐色の浮石の粒が混じる。
〈 遺物 〉300は鉢の口縁部だが、平縁で横位の沈線文が施され、晩期と考えられる。301は深鉢の胴部で、前期初頭の土器である。
〈 時期 〉遺物の量が少なく明確な時期は不明であるが、縄文時代の土坑と考えられる。

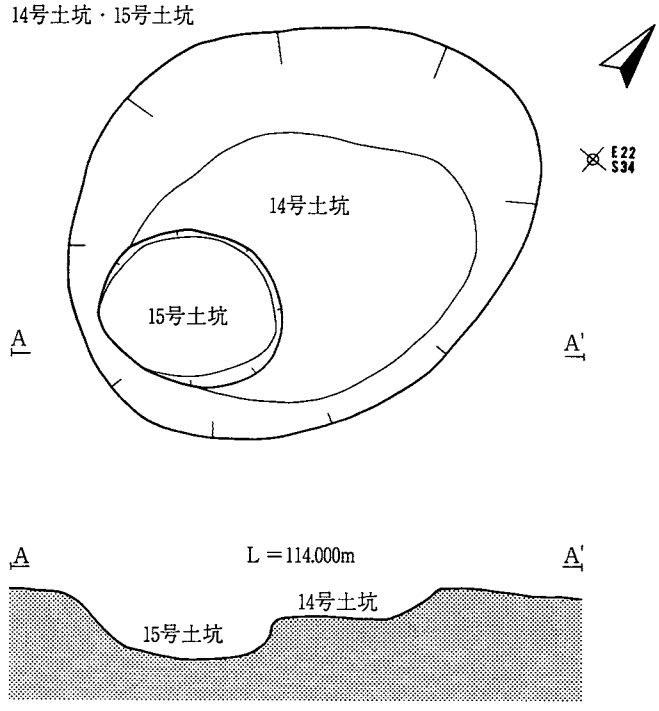
18号土坑（第29図・写真図版28）
〈 位置 〉11ｇグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉中掫を含むⅤ層からプランを確認した。

13号土坑

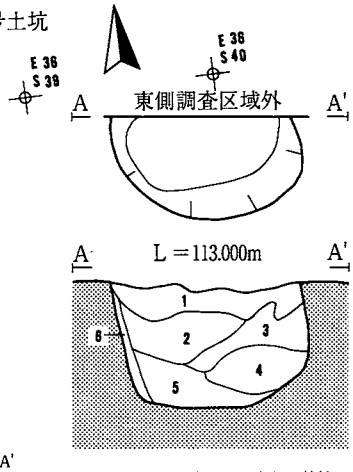


A－A'
1　10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
　　炭化物含む。
2　1層に似るが、ややきめが細かい。礫、炭化物含む。
3　1層に似るが、粘性あり　炭化物含む。
4　1層に似るが、やや明るい。炭化物含む。
5　1層に似るが、粘性あり。
6　1層に似るが、やや明るい。粘性あり　炭化物含む。
7　10YR2/3 黒褐色シルト　しまりあり　粘性ややあり
　　南部浮石の大粒を含む。
8　10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
　　上層に砂質土を含む。
9　8層に似る。やや多く砂質土を含む。
10　10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
　　橙色焼土わずかに含む。

14号土坑・15号土坑

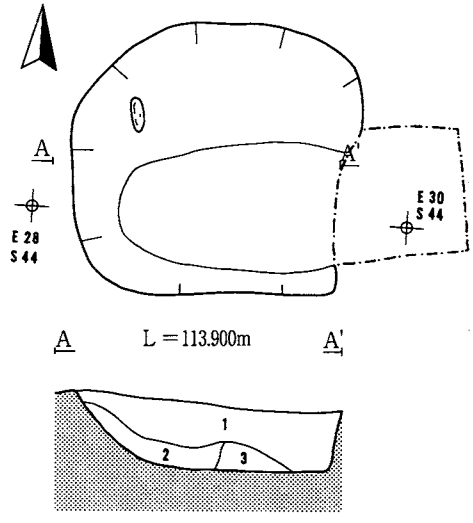


16号土坑



A－A'
1　10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
　　焼土粒、炭化物粒含む。
2　1層に似るが、焼土粒をやや多く含む。
3　10YR3/3 暗褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
　　炭化物粒含む。
4　2層に似る。
5　3層に似るが、やや明るい。
6　5層に似るが、より明るい。

17号土坑



A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
　　黄褐色の浮石とやや砂質土を含む。
2　1層に似る。黄褐色の浮石のやや大きめの粒を含む。
3　10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり

0　1m

第28図　13号～17号土坑

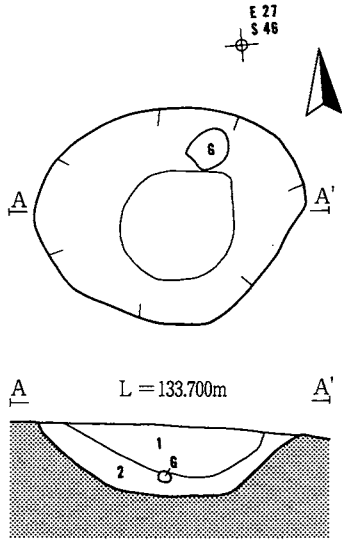
〈 重複関係 〉ない。
〈 形態・規模 〉開口部径が143cm×113cm、底部径が64cm×59cmである。断面形は皿形で、壁は緩やかに立ち上がる。底はほぼ平坦である。
〈 埋土 〉黒褐色土を主体とし、黄褐色の浮石の粒が混じる。
〈 遺物 〉302と303は深鉢の胴部である。302は沈線文と磨消縄文によって文様が描かれ、十腰内Ⅰ式（Ⅳ群1類土器）に比定される。303は前期の土器と考えられる。304は石鏃、305はピエス・エスキーユに分類した。
〈 時期 〉遺物が少なく、時期が異なる遺物が出土しているが、縄文時代の土坑と考えられる。

19号土坑（第29図・写真図版29）
〈 位置 〉10ｉグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉中掫を含むⅤ層からプランを確認した。
〈 重複関係 〉ない。
〈 形態・規模 〉開口部径が99cm×85cm、底部径が59cm×46cmである。断面形は皿形で、壁は緩やかに立ち上がる。底はほぼ平坦である。
〈 埋土 〉黒褐色土を主体とし、黄褐色の浮石の粒と砂質土が混じる。
〈 遺物 〉306は深鉢の口縁部であるが、平縁で丸みを帯び、撚糸文が施文される。円筒下層ａ式（Ⅱ群1類土器）に比定される。307は深鉢の胴部で、沈線文と磨消縄文によって文様が描かれる後期初頭の土器である。308は石鏃、309は石棒の可能性がある石製品である。
〈 時期 〉検出面と埋土から縄文時代後期の可能性がある。

20号土坑（第29図・写真図版29）
〈 位置 〉10ｈグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉中掫を含むⅤ層からプランを確認した。
〈 重複関係 〉ない。
〈 形態・規模 〉開口部径が95cm×73cm、底部径が77cm×54cmである。断面形は皿形で、壁は緩やかに立ち上がる。底はほぼ平坦である。
〈 埋土 〉黒褐色土を主体とし、黄褐色の浮石の粒と砂質土が混じる。
〈 遺物 〉310は深鉢の胴部で繊維が含まれ、前期前葉の土器の可能性がある。311は削掻器に分類した。
〈 時期 〉縄文時代の可能性がある。

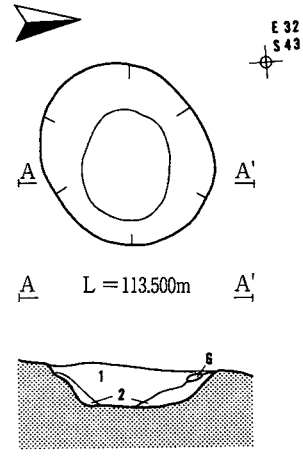
21号土坑（第30図・写真図版29）
〈 位置 〉７ｇグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉Ⅴ層から東西に長い、黒褐色のプランを検出した。
〈 重複関係 〉ない。
〈 形態・規模 〉開口部径が173cm×50cm、底部径が140cm×41cmで、深さは28cmである。平面形は長楕円形で、断面形は皿形である。壁は緩やかに立ち上がり、底との境が明確ではない。底はほぼ平坦である。
〈 埋土 〉黒褐色土を主体とし、黄褐色の浮石の粒と中掫が混じる。

18号土坑



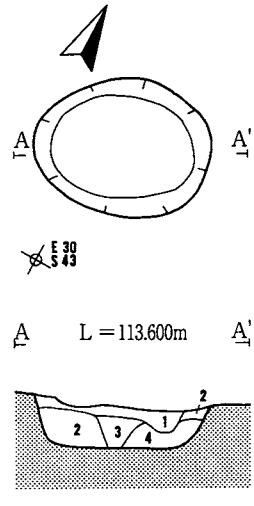
A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
　　黄褐色の浮石の粒を含む。
2　10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
　　黄褐色の浮石とやや砂質土を含む。

19号土坑



A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
　　黄褐色の浮石の粒とやや砂質土を含む。
2　10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
　　黄褐色の浮石の粒とやや砂質土を含む。

20号土坑



A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　黄褐色の浮石の粒とやや砂質土を含む。

2　10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　黄褐色の浮石の粒とやや砂質土を含む。
3　2に似る。やや明るい色の土。
4　10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　1と3の混土。

0　1m

第29図　18号～20号土坑

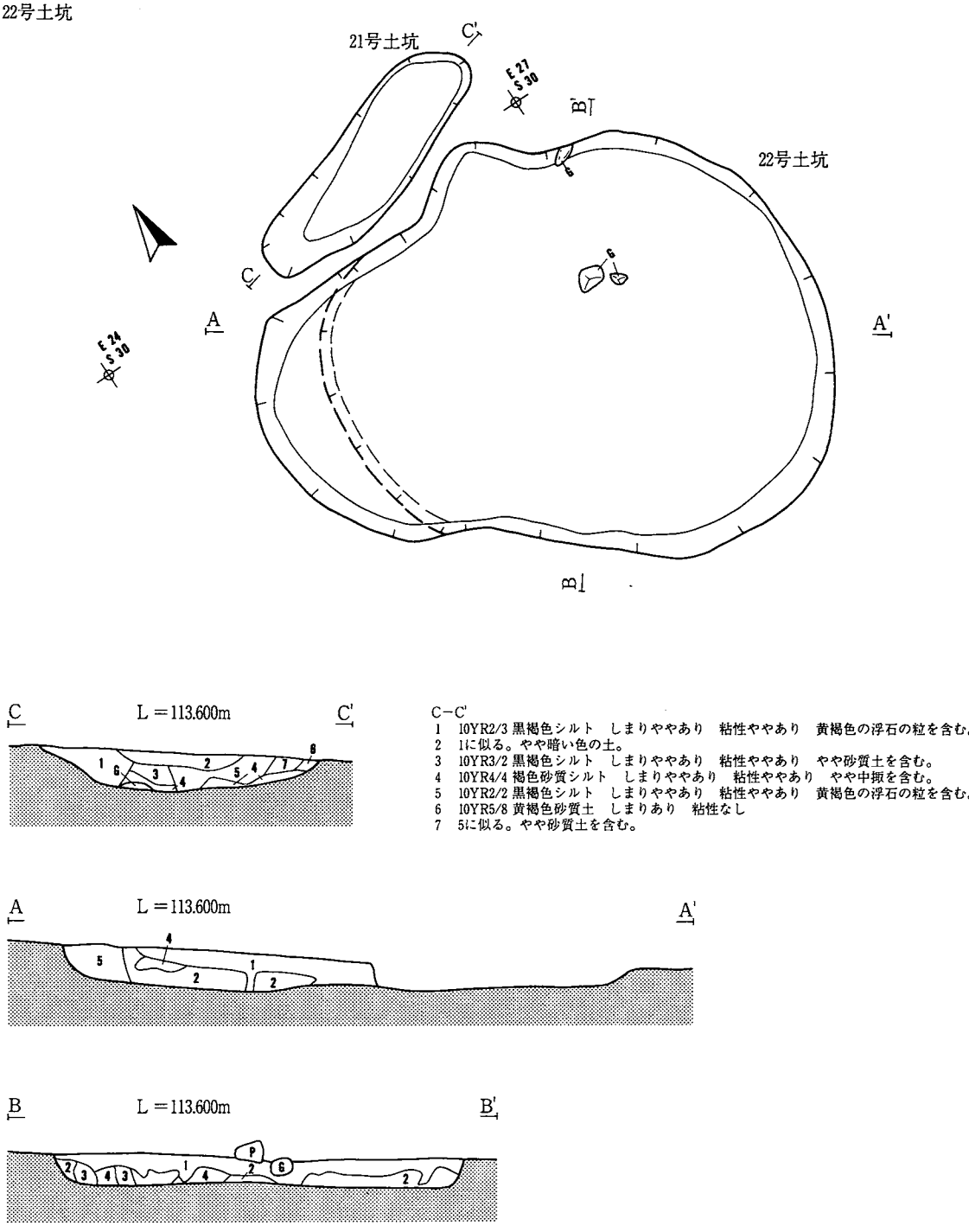
〈 遺物 〉312は深鉢の口縁部で、不整撚糸文が施文され、円筒下層ａ式（Ⅱ群２類土器）に比定される。313も深鉢の口縁部だが、前期前葉の土器に分類した。
〈 時期 〉縄文時代前期前葉の土器が出土しており、縄文時代前期の土坑である可能性が高いが、詳しい時期は不明である。

22号土坑（第30図・写真図版29）
〈 位置 〉７～８ｇグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉Ｖ層から円形の暗褐色のプランを検出した。
〈 重複関係 〉ない。
〈 形態・規模 〉開口部径が312cm×256cm、底部径が297cm×235cm、深さは21cmで、小型の竪穴住居並みの規模である。平面形は不整な楕円形で、断面形は皿形である。壁はやや急な角度で立ち上がり、底はほぼ平坦である。
〈 埋土 〉黒褐色土を主体とするが、全体的に砂質土に近い。上部の層には黄褐色の浮石の粒が混じる。
〈 遺物 〉314は深鉢で口縁部が平縁で丸みを帯びる。大木１～２式（Ⅱ群２類土器）に分類した。315は深鉢の口縁部で、撚糸文が施文されるが、円筒下層ａ式（Ⅱ群２類土器）に比定される。316は不整撚糸文が施文され、円筒下層ａ式（Ⅱ群２類土器）に分類した。317～319は石鏃で、320は削掻器である。
〈 時期 〉詳しい時期は不明だが、縄文時代前期の土坑の可能性が高い。

23号土坑（第31図・写真図版30）
〈 位置 〉10ｉグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉12号住居跡の壁と床を精査中に、本遺構との埋土の区別がつかず掘り上げてしまった。よって断面の記録がない。
〈 重複関係 〉12号住居跡よりも古い。
〈 形態・規模 〉検出した範囲では、開口部径が110cm×88cm、底部径が74cm×46cm、深さは52cmである。平面形は不整な楕円形で、断面形は逆台形状である。壁はやや急な角度で立ち上がり、底はほぼ平坦である。
〈 埋土 〉黒褐色土を主体とし、黄褐色の浮石と中掫が混じる。
〈 遺物 〉321は浅鉢の口縁部で、沈線文によって楕円や渦巻状のモチーフが描かれる。後期初頭の土器に分類した。322は深鉢の胴部で、胎土から早期の土器の可能性がある。323は半円状扁平打製石器と考えられる。
〈 時期 〉縄文時代の土坑であるが、詳しい時期は不明である。

24号土坑（第31図）
〈 位置 〉11ｈグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉18号住居跡を精査中に、18号住居跡の埋土よりも黒色に近いプランを確認した。はじめは18号住居跡に係わる柱穴と認識していたが、精査中に広がり、よく観察したところ18号住居跡の検出面から掘り込まれていることがわかった。
〈 重複関係 〉18号住居跡よりも新しい。

21・22号土坑



C−C'
1　10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　黄褐色の浮石の粒を含む。
2　1に似る。やや暗い色の土。
3　10YR3/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　やや砂質土を含む。
4　10YR4/4 褐色砂質シルト　しまりややあり　粘性ややあり　やや中掘を含む。
5　10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　黄褐色の浮石の粒を含む。
6　10YR5/8 黄褐色砂質土　しまりあり　粘性なし
7　5に似る。やや砂質土を含む。

A−A'・B−B'
1　10YR3/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　黄褐色の浮石の粒を含む。砂質土を多く含む。
2　10YR3/3 黒褐色砂質シルト　しまりややあり　粘性なし
3　10YR3/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
4　10YR3/3 黒褐色砂質シルト　しまりややあり　粘性ややあり
5　掘り過ぎ

0　1m

第30図　21号・22号土坑

〈 形態・規模 〉検出した範囲では、開口部径が105cm×86cm、底部径が86cm×58cm、深さは34cmである。平面形は楕円形で、断面形は逆台形状である。壁はやや急な角度で立ち上がり、底はやや丸みを帯びる。
〈 埋土 〉黒色土を主体とし、全体的に黄褐色の浮石の粒が混じる。下部は上部に比べ、浮石の粒の混じりは少なく、炭化物を含む。
〈 遺物 〉ない。
〈 時期 〉縄文時代の土坑であるが、詳しい時期は不明である。

25号土坑（第31図・写真図版30）
〈 位置 〉11ｈグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉18号住居跡を精査中に、18号住居跡の西側に黒色のプランを確認した。
〈 重複関係 〉18号住居跡よりも古い。
〈 形態・規模 〉開口部径が140cm×125cm、底部径が111cm×90cm、深さは42cmである。平面形は不整な楕円形で、断面形は逆台形状である。壁はやや急な角度で立ち上がり、底はほぼ平坦である。
〈 埋土 〉黒色土を主体とし、全体的に黄褐色の浮石の粒が混じる。下部は中掫が混じる。
〈 遺物 〉324は深鉢のほぼ完形品で、Ｂ突起が付き、晩期の土器と考えられる。325は鉢と推測される胴部破片だが、後期初頭の土器に分類した。326は深鉢の胴部で、貝殻沈線が施文され、吹切沢式（Ｉ群土器）に比定される。
〈 時期 〉縄文時代の土坑であるが、詳しい時期は不明である。

26号土坑（第31図・写真図版30）
〈 位置 〉10ｇグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉中掫を含むＶ層からプランを確認した。
〈 重複関係 〉33号土坑と重複するが、本土坑が新しい。
〈 形態・規模 〉開口部径が119cm×85cm、底部径が66cm×64cm、深さは54cmである。平面形は不整な楕円形で、断面形は逆台形状である。北東部分は壁が開口部付近が緩やかに立ち上がり、底は窪んでいる。
〈 埋土 〉上部は黒褐色の粘土質土と砂質土との混合土に、黄褐色の浮石が混じる。下部は褐色の砂質土に中掫が混じる。
〈 遺物 〉ない。
〈 時期 〉検出面と重複関係から、縄文時代の土坑と考えられる。

27号土坑（第31図・写真図版30）
〈 位置 〉11ｉグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉２号竪穴住居状遺構の床面を精査中にプランを確認した。。
〈 重複関係 〉18号住居跡、２号住居状遺構と重複するが、検出状況から判断して本土坑が最も古いと考えられる。
〈 形態・規模 〉開口部径が121cm×106cm、底部径が98cm×78cm、深さは31cmである。平面形は楕円形で、断面形は逆台形状であるが、壁と底が区別できない部分がある。
〈 埋土 〉黒褐色土を主体とするが、南部浮石が混じる。

〈 遺物 〉327は深鉢の胴部で、異条異節縄文が施される。328は深鉢の口縁部である。ともに後期の土器と考えられる。329は石鏃に、330は石匙に分類した。
〈 時期 〉埋土と遺物の関係に矛盾が生じるが、縄文時代後期の可能性がある。

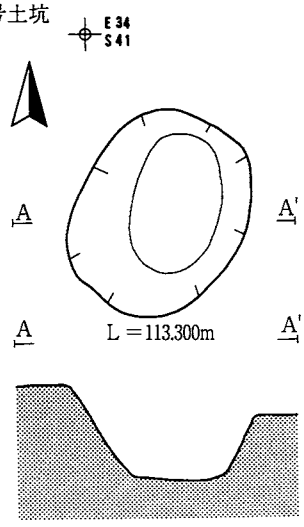
28号土坑（第31図・写真図版31）
〈 位置 〉15ｈグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉Ｖ層よりプランを確認した。
〈 重複関係 〉ない。
〈 形態・規模 〉開口部径が183cm×140cm、底部径が103cm×61cm、深さは43cmである。平面形は楕円形で、断面形は皿状だが、壁と底が区別できない。
〈 埋土 〉黒色土、黒褐色土を主体とし、黄褐色の浮石の粒が混じる。
〈 遺物 〉ない。
〈 時期 〉検出面と埋土の状況から、縄文時代の土坑の可能性がある。

29号土坑（第32図・写真図版31）
〈 位置 〉14ｈグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉Ｖ層よりプランを確認した。
〈 重複関係 〉ない。
〈 形態・規模 〉開口部径が79cm×57cm、底部径が59cm×32cm、深さは18cmである。平面形は楕円形で、断面形は皿状である。壁は緩やかに立ち上がり、底は丸みを帯びる。
〈 埋土 〉黒褐色土と暗褐色土を主体とし、黄褐色の浮石の粒が混じる。
〈 遺物 〉ない。
〈 時期 〉検出面と埋土の状況から、縄文時代の土坑の可能性がある。

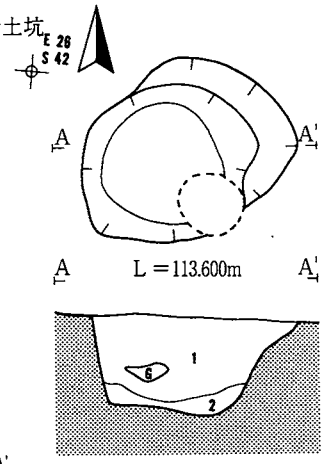
30号土坑（第32図・写真図版31）
〈 位置 〉13ｈ～ｉグリッドにかけて位置する。
〈 検出状況 〉Ｖ層よりプランを確認した。
〈 重複関係 〉ない。
〈 形態・規模 〉開口部径が210cm×109cm、底部径が170cm×82cm、深さは27cmである。平面形は不整な楕円形で、断面形は皿状である。底は丸みを帯び、壁との区別がつかない。
〈 埋土 〉黒褐色土を主体とするが、砂質土が混じる。
〈 遺物 〉ない。
〈 時期 〉縄文時代の土坑の可能性はあるが、時期は不明である。

31号土坑（第32図・写真図版31）
〈 位置 〉12～13ｇグリッドにかけて位置する。
〈 検出状況 〉２号溝跡を検出した際に、Ｖ層よりプランを確認した。
〈 重複関係 〉１号溝跡、２号溝跡と重複し、本土坑が古い。

23号土坑

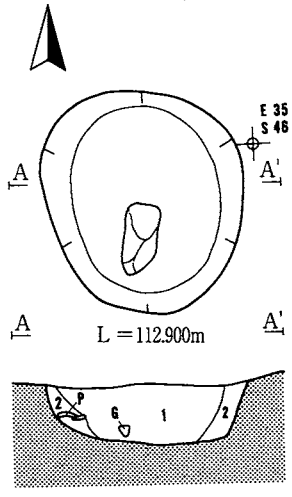


26号土坑



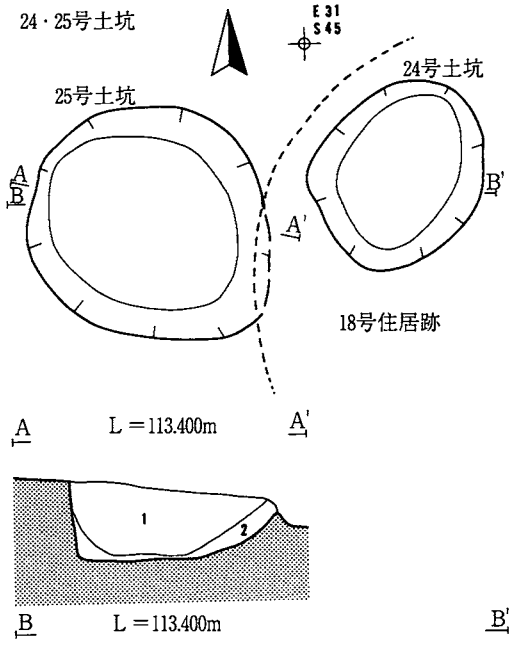
A－A'
1　10YR3/3~2/3 黒褐色粘土質土と10YR5/6 黄褐色砂質浮石の混土
　しまりややあり　粘性ややあり
2　10YR4/4~3/4 褐色砂質土　しまりなし　粘性なし

27号土坑



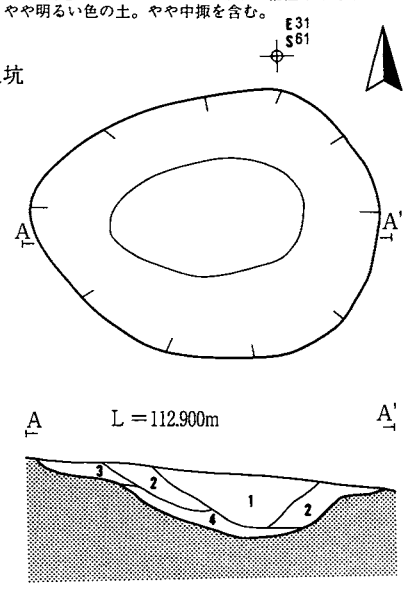
A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト　しまりあり　粘性ややあり
　10YR7/8 黄褐色の南部浮石の粒を3%含む。
2　10YR2/3 黒褐色シルト　しまりあり　粘性ややあり
　南部浮石の粒を10%含む。

24・25号土坑



24号土坑　記録なし
25号土坑　A－A'
1　10YR2/1 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
　黄褐色の浮石の粒を含む。
2　10YR2/1 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
　1よりやや明るい色の土。やや中振を含む。

28号土坑



A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト　しまりややあり　粘性あり　黄褐色の浮石の粒を含む。
2　10YR2/1 黒色シルト　しまりややあり　粘性あり　10YR2/3 黒褐色シルト混じる。
　黄褐色の浮石の粒を含む。
3　1に似る。やや砂質土を含む。
4　10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性あり

0　1m

第31図　23号～28号土坑

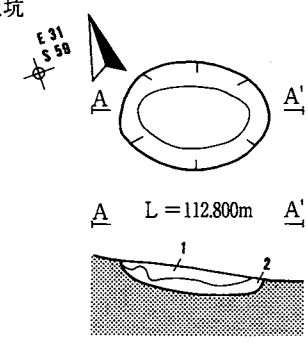
〈 形態・規模 〉開口部径が276cm×252cm、底部径が258cm×232cm、深さは38cmで、小型の竪穴住居ほどの規模である。平面形は円形で、断面形は浅いが逆台形状である。壁はやや急に立ち上がり、底は平坦であるが傾斜している。
〈 埋土 〉黒褐色土を主体とする。
〈 遺物 〉ない。
〈 時期 〉重複関係から縄文時代の土坑の可能性がある。

32号土坑（第32図・写真図版32）
〈 位置 〉9～10ｇグリッドにかけて位置する。
〈 検出状況 〉13号竪穴住居跡を精査中にⅦ層から検出した。
〈 重複関係 〉PP168と重複するが、本土坑が古い。
〈 形態・規模 〉開口部径が201cm×164cm、底部径が177cm×120cm、深さは52cmである。平面形は不整な楕円形で、断面形は逆台形状である。壁はやや急に立ち上がり、底はほぼ平坦である。
〈 埋土 〉褐色、暗褐色の砂質土を主体とする。西側の埋土には焼土が微量含まれる。
〈 遺物 〉331の石鏃と332の削掻器が出土した。また記録には骨片が出土したとある。
〈 時期 〉検出状況から縄文時代前期の土坑の可能性がある。

33号土坑（第33図・写真図版32）
〈 位置 〉10ｇグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉26号土坑を精査中に西側の壁から、本土坑の埋土を確認した。
〈 重複関係 〉26号土坑、PP142と重複するが、最も古い。
〈 形態・規模 〉開口部径が（110）cm×84cm、底部径が（54）cm×46cm、深さは35cmである。平面形は不整な楕円形と推定され、壁は緩やか立ち上がり、底との区別がつかない。
〈 埋土 〉褐色、暗褐色の砂質土を主体とする。黄橙色の浮石の粒が含まれる。
〈 遺物 〉ない。
〈 時期 〉検出状況から縄文時代の土坑の可能性がある。

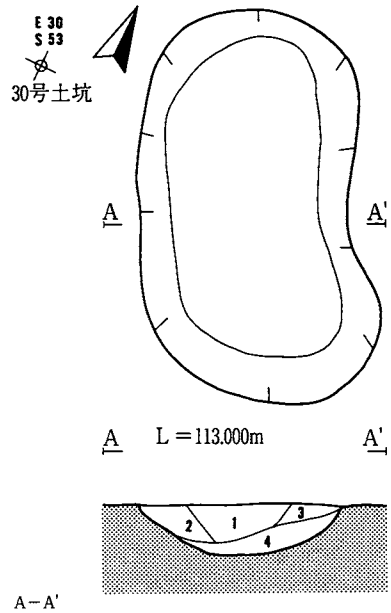
34号土坑（第33図・写真図版32）
〈 位置 〉21ｊグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉記録がないのではっきりしないがⅤ層からの検出と思われる。
〈 重複関係 〉ない。
〈 形態・規模 〉開口部径が76cm×61cm、底部径が50cm×33cm、深さは38cmである。平面形は不整な楕円形で、断面形は逆台形状である。底はやや傾斜する。
〈 埋土 〉黒褐色土を主体とする。記録には南部浮石が混じるとあるが、中掫の可能性が高い。
〈 遺物 〉ない。
〈 時期 〉検出状況から縄文時代の土坑と考えられる。

29号土坑



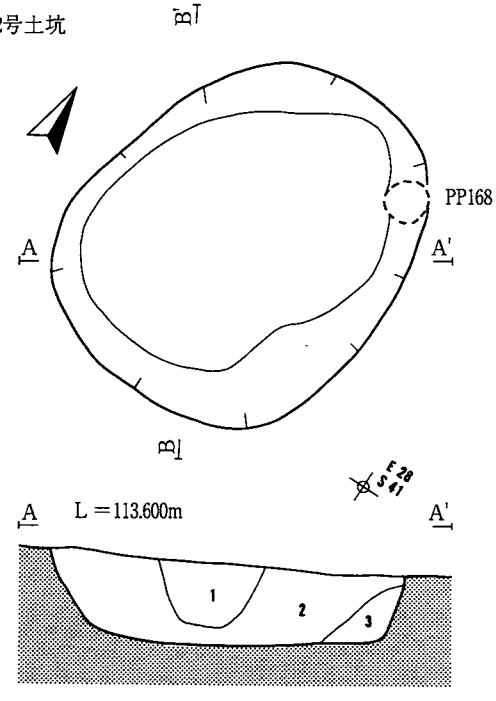
A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
　黄褐色の浮石の粒を含む。
2　10YR3/4 暗褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり

30号土坑

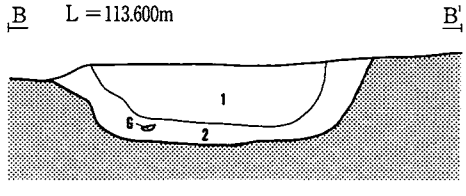


A－A'
1　10YR2/2~2/3 黒褐色シルト主体　しまりややあり　粘性ややあり
2　1より明るい色の土　しまりややあり　粘性ややあり
　やや砂質土を含む。
3　10YR3/3~3/4 暗褐色砂質土　しまりややあり　粘性なし
4　1に砂質土が50%入る。

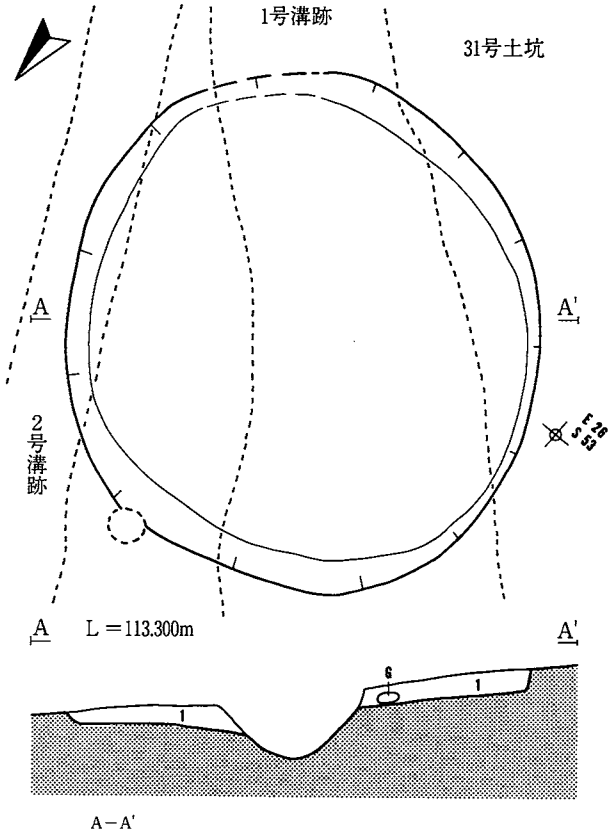
32号土坑



A－A'・B－B'
1　10YR4/4 褐色砂質シルト　しまりなし　粘性なし
2　10YR3/4 暗褐色砂質シルト　しまりややあり　粘性なし
　1より粒が細かい。
3　7.5YR4/4 褐色砂質シルト　しまりなし　粘性なし
　10YR3/4 暗褐色砂質土がブロック状に入る。
　焼土粒をわずかに含む。



31号土坑



A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり

0　1m

第32図　29号～32号土坑

35号土坑（第33図・写真図版32）

〈位置〉21ｉグリッドにかけて位置する。

〈検出状況〉記録がないのではっきりしないが、Ｖ層での検出と思われる。

〈重複関係〉ない。

〈形態・規模〉開口部径が127cm×104cm、底部径が106cm×88cm、深さは32cmである。平面形は楕円形で、断面形は深い皿形である。壁はやや急に立ち上がり、底はほぼ平坦である。

〈埋土〉黒褐色土を主体とする。記録には南部浮石が混じるとあるが、中掫の可能性が高い。

〈遺物〉ない。

〈時期〉検出状況から縄文時代の土坑と考えられる。

36号土坑（第33図・写真図版32）

〈位置〉20ｈ～21ｉグリッドにかけて位置する。

〈検出状況〉記録がないのではっきりしないが、Ｖ層での検出と思われる。

〈重複関係〉８号焼土遺構と重複するが、本土坑が古い。

〈形態・規模〉開口部径が138cm×118cm、底部径が123cm×97cm、深さは15cmである。平面形は不整な楕円形で、壁は急に立ち上がり、底は平坦である。

〈埋土〉黒褐色土を主体とする。記録には南部浮石が混じるとあるが、中掫の可能性が高い。

〈遺物〉ない。

〈時期〉検出状況から縄文時代の土坑と考えられる。

37号土坑（第33図・写真図版33）

〈位置〉20ｈグリッドに位置する。

〈検出状況〉Ｖ層でプランを確認した。

〈重複関係〉ない。

〈形態・規模〉開口部径が174cm×163cm、底部径が136cm×121cm、深さは44cmである。平面形は不整な円形で、断面形はやや深い皿形である。壁はやや緩やかに立ち上がり、底は平坦であるが傾斜している。

〈埋土〉黒褐色土を主体とする。黄褐色の浮石粒が混じる。

〈遺物〉ない。

〈時期〉検出状況と埋土から、縄文時代の土坑と考えられる。

38号土坑（第33図・写真図版33）

〈位置〉20ｉグリッドに位置する。

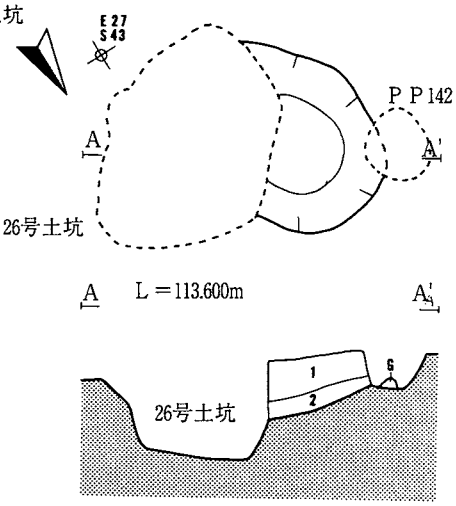
〈検出状況〉Ｖ層でプランを確認した。

〈重複関係〉41号土坑と重複し、本土坑が新しい。

〈形態・規模〉開口部径が162cm×141cm、底部径が132cm×121cm、深さは70cmである。平面形は不整な楕円形で、断面形は逆台形状である。壁は急に立ち上がり、底は平坦であるがやや傾斜している。

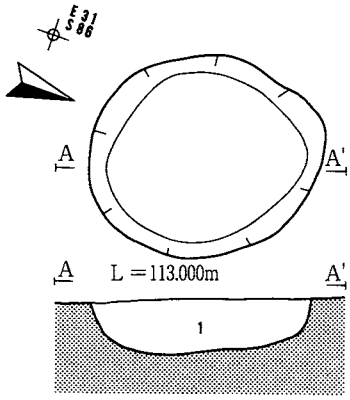
〈埋土〉黒褐色土を主体とする。全体的に中掫が混じるが、中位の層には中掫がブロック状に混じり、下位の層には、中掫が起源と考えられる黄褐色の浮石粒が混じる。

33号土坑



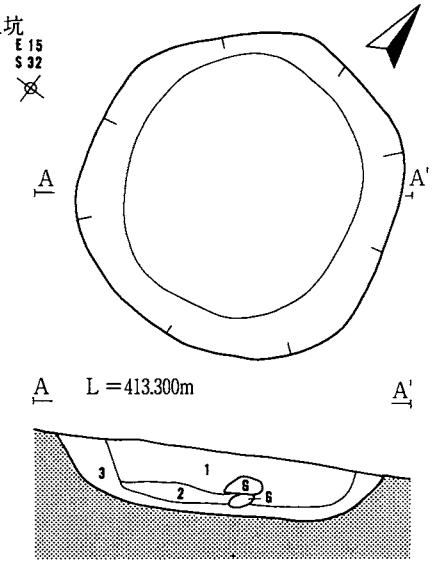
A－A'
1　10YR3/4～4/4 褐色砂質土　しまりなし　粘性なし
　10YR7/8 黄褐色の浮石の粒を含む。
2　10YR3/3 暗褐色砂質土　しまりなし　粘性なし
　1より南部浮石の混じりが少ない。小礫が入る。

35号土坑



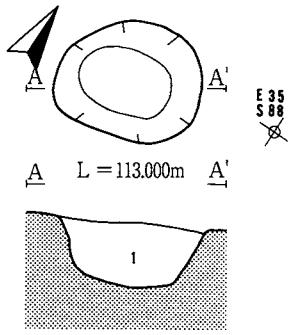
A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
　南部浮石の粒を含む。

37号土坑



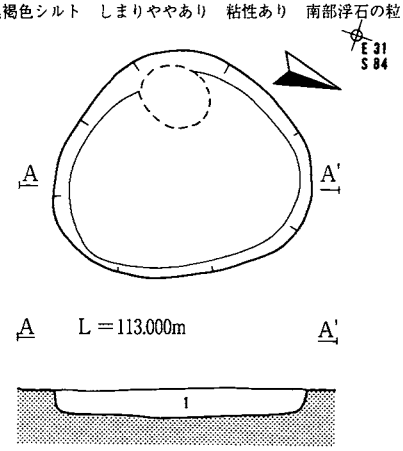
A－A'
1　10YR2/2 黒色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
　10YR5/8 黄褐色の浮石を含む。
2　10YR2/2 黒褐色砂質シルト　しまりなし　粘性なし
　10YR7/6 黄褐色の浮石を10%含む。
3　10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
　黄褐色の浮石を20%含む。

34号土坑



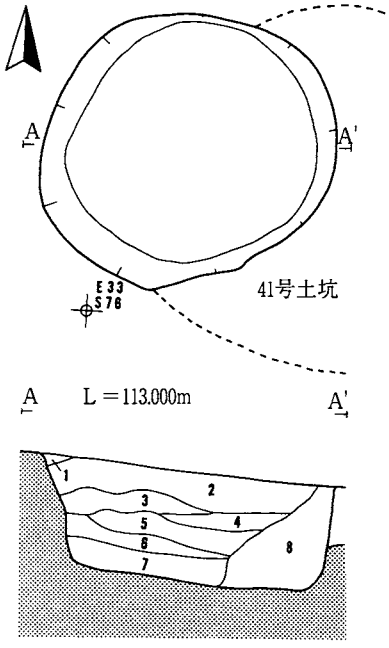
A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性あり　南部浮石の粒を含む。

36号土坑



A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　南部浮石を含む。

38号土坑



A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり。
2　10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　中振を多く含む。
3　1層に似るが、中振をブロック状に含む。
4　10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり。
5　1層に似るが、中振少量、黄褐色の浮石の粒を含む。
6　5層に似るが、全体的に中振を含む。
7　5層に似る。中振を30%均一に含む。
8　10YR3/2 黒褐色砂質シルト
　しまりややあり　粘性ややあり

0　1m

第33図　33号～38号土坑

〈 遺物 〉ない。
〈 時期 〉検出状況と埋土から、縄文時代中期以降の土坑と考えられる。

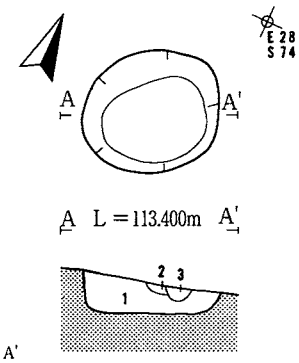
39号土坑（第34図・写真図版33）
〈 位置 〉18ｇ～ｈグリッドにかけて位置する。
〈 検出状況 〉Ｖ層でプランを確認した。
〈 重複関係 〉ない。
〈 形態・規模 〉開口部径が76cm×64cm、底部径が56cm×42cm、深さは23cmである。平面形は楕円形で、断面形はほぼ逆台形状であるが、東側の壁は緩やかに立ち上がる。底は平坦である。
〈 埋土 〉黒褐色土を主体とし、黄褐色の浮石の粒、中掫がブロック状に混じる。
〈 遺物 〉ない。
〈 時期 〉検出状況と埋土から、縄文時代中期以降の土坑と考えられる。

40号土坑（第34図・写真図版33）
〈 位置 〉19ｉグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉23号住居跡の床面を精査中に検出した。
〈 重複関係 〉23号住居跡と重複し、本土坑が古い。
〈 形態・規模 〉開口部径が90cm×70cm、底部径が74cm×52cm、深さは58cmである。平面形は楕円形で、断面形はビーカー形である。底はほぼ平坦である。
〈 埋土 〉黒褐色土を主体とし、上部の層は砂質土に近く、下部の層は黄褐色の浮石の粒が含まれる。
〈 遺物 〉ない。
〈 時期 〉検出状況と埋土から、縄文時代の土坑と考えられる。

41号土坑（第34図・写真図版34）
〈 位置 〉20ｉグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉調査区境界の壁から断面を検出した。
〈 重複関係 〉38号土坑と重複するが、本土坑が古い。
〈 形態・規模 〉東側が調査区外に延びるため、全容は不明だが、検出した範囲では開口部の長径が190cm底部の長径が96cm、深さは71cmである。断面形は逆台形状であるが、底は中央部に向かって窪んでいる。
〈 埋土 〉黒褐色土を主体する。上部の層は南部浮石らしい粒が混じるが、攪乱によるものか、もしくは中掫起源の浮石である可能性が高い。下部の層は中掫や黄褐色の浮石の粒が含まれる。
〈 遺物 〉ない。
〈 時期 〉検出状況と埋土から、縄文時代中期以降の土坑と考えられる。

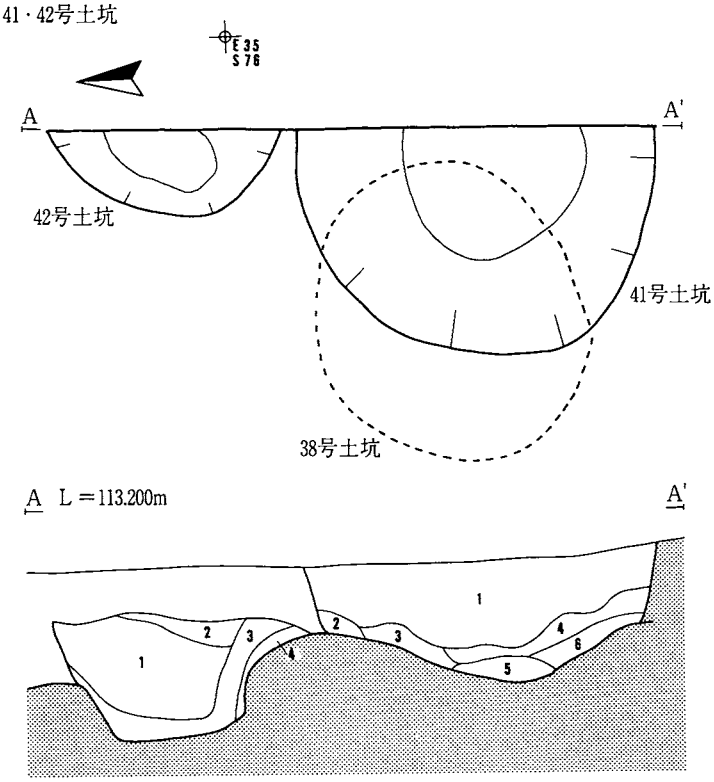
42号土坑（第34図・写真図版34）
〈 位置 〉19～20ｉグリッドにかけて位置する。
〈 検出状況 〉調査区境界の壁から断面を検出した。
〈 重複関係 〉23号住居跡と重複するが、本土坑が新しい。

39号土坑



A－A'
1 10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性あり
黄褐色の浮石の2次堆積を30%含む。
2 10YR2/2 黒褐色シルト　しまりなし　粘性なし
にぶい黄橙色砂質土をブロック状に含む。
3 10YR2/2 黒褐色シルト　しまりなし　粘性なし
中振をブロック状に含む。

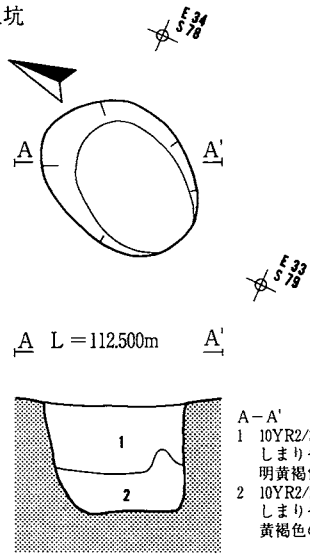
41・42号土坑



42号土坑　A－A'
1 10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり
粘性ややあり　中振を多く含む。
2 10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり
粘性ややあり
3 10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり
粘性ややあり　やや中振を含む。
4 10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり
粘性ややあり　中振を含む。

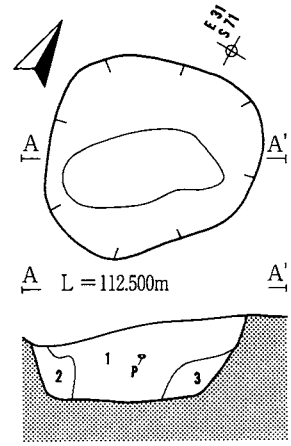
41号土坑　A－A'
1 10YR2/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
南部浮石を含む。
2 10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
中振を多く含む。
3 2層に似るが、中振を多く含む。
4 1層に似るが、やや中振の粒を含む。
5 4層に似るが、中振の大粒を含む。
中部に中振ブロック含む。
6 4層に似るが、中振を多く含む。

40号土坑



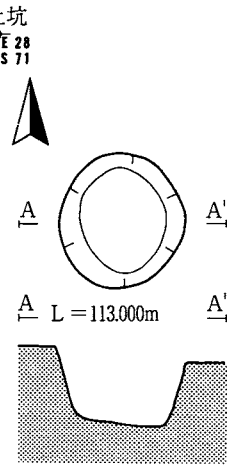
A－A'
1 10YR2/3 黒褐色砂質シルト
しまりややあり　粘性なし
明黄褐色の砂をブロック状に含む。
2 10YR2/2 黒褐色シルト
しまりややあり　粘性あり
黄褐色の浮石の粒を10%含む。

44号土坑



A－A'
1 10YR2/1 黒色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　10YR7/8 黄橙色の浮石の粒が
全体に混じり、やや砂質を帯びる。炭をわずかに含む。
2. 10YR3/2 黒褐色砂質シルト　しまりややあり　粘性ややあり　浮石の粒を含む。
3 10YR2/3 黒褐色砂質シルトと10YR4/3 にぶい黄褐色砂土の混土。
しまりややあり　粘性ややあり　浮石の粒を含む。

43号土坑



0　1m

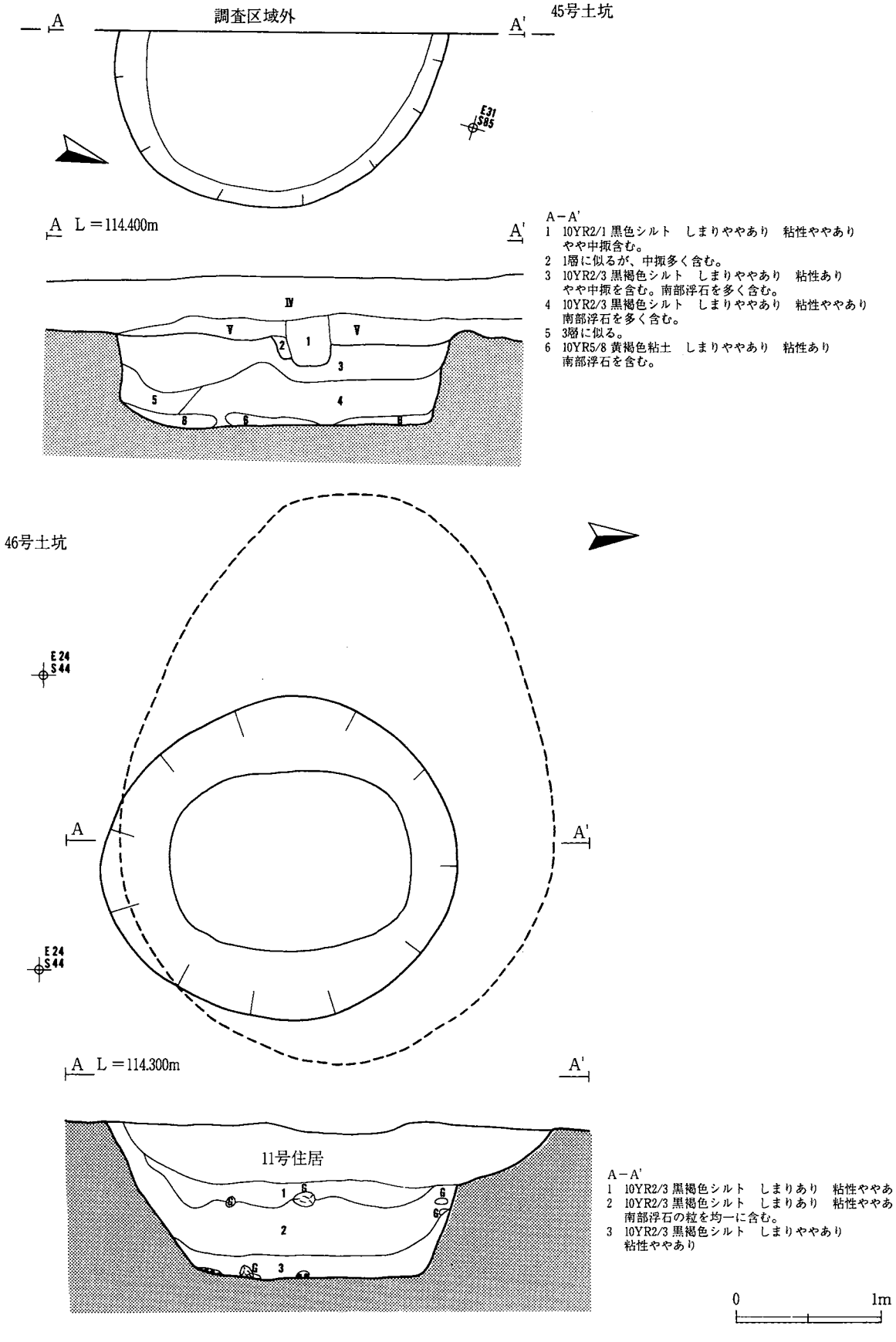
第34図　39号～44号土坑

〈 形態・規模 〉東側が調査区外に延びるため、全容は不明だが、検出した範囲では開口部の長径が123cm底部の長径が62cm、深さは66cmである。断面形は逆台形状であるが、開口部近くでやや広がる。底は平坦である。
〈 埋土 〉黒褐色土を主体とし、中掫が混じる。
〈 遺物 〉ない。
〈 時期 〉重複関係から、縄文時代晩期以降の土坑と考えられる。

43号土坑（第34図・写真図版34）
〈 位置 〉17ｈグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉21号住居跡を精査中に検出した。
〈 重複関係 〉21号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。
〈 形態・規模 〉開口部径が72cm×56cm、底部径が56cm×54cm、深さは42cmである。平面形は楕円形で、断面形は逆台形状である。底はほぼ平坦であるが、傾斜がある。
〈 埋土 〉記録が残っていない。
〈 遺物 〉ない。
〈 時期 〉不明である。

44号土坑（第34図・写真図版34）
〈 位置 〉17～18ｈグリッドにかけて位置する。
〈 検出状況 〉21号住居跡の炉を精査中に、炉の下からプランを確認した。
〈 重複関係 〉21号住居跡と重複するが、本土坑が古い。
〈 形態・規模 〉開口部径が121cm×101cm、底部径が84cm×38cm、深さは44cmである。平面形は不整な楕円形で、断面形はほぼ逆台形状である。底は平坦である。
〈 埋土 〉黒褐土、黒褐色土を主体とし、黄橙褐色の浮石の粒が混じる。
〈 遺物 〉地文のみの縄文土器片が出土した。
〈 時期 〉重複関係から、縄文時代の土坑と考えられる。

45号土坑（第35図・写真図版34）
〈 位置 〉21ｉグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉調査区西側の境界の壁から断面を検出した。Ⅴ層での検出である。
〈 重複関係 〉ない。
〈 形態・規模 〉西側が調査区外に延びるため、全容は不明だが、検出した範囲では開口部の長径が226cm底部の長径が195cm、深さは66cmである。断面形はほぼ逆台形状で、底はほぼ平坦である。
〈 埋土 〉黒褐色土を主体とするが、中掫や南部浮石が混じる。
〈 遺物 〉ない。
〈 時期 〉検出状況と埋土から、縄文時代の土坑で中期以降と考えられる。



第35図　45号・46号土坑

46号土坑（第35図・写真図版34）

〈位置〉10ｆグリッドに位置する。

〈検出状況〉９号、11号住居跡を精査中に、土層観察ベルトから遺構の存在を確認した。

〈重複関係〉９号、11号、13号住居跡と重複し、９号、11号住居跡より古く、13号住居より新しい。

〈形態・規模〉開口部径が244cm×218cm、底部径が165cm×121cm、深さは108cmである。平面形は不整な楕円形で、断面形は逆台形状である。底はほぼ平坦である。

〈埋土〉黒褐色土を主体とし、中位の層には黄褐色の浮石の粒が混じる。

〈遺物〉ない。

〈時期〉重複関係と埋土から、縄文時代前期から後期の土坑と考えられる。

（３）竪穴住居状遺構

１号竪穴住居状遺構（第36図・写真図版35）

〈位置〉12gグリッドに位置する。

〈検出状況〉１号溝跡を精査中に、溝の壁から検出した。

〈重複関係〉１号溝跡と重複するが、本遺構が古い。

〈形態・規模〉１号溝跡に切られているため全容は不明だが、形状は不整な円形と推測される。規模は検出した範囲では、直径が約3.2mほどである。壁高は検出面から最大で20cmである。

〈埋土〉黒褐色土主体の埋土である。明黄褐色の浮石の粒が全体的に少量混じっている。

〈床・壁〉床面は中掫が混じるＶ層中で、ほぼ平坦である。壁は緩やかに立ち上がる。

〈柱穴〉検出していない。

〈遺物〉333は円盤状土製品である。334の土器は器種不明の底部破片で、晩期の土器と考えられる。

〈時期〉縄文時代の遺構である可能性が高いが、詳細な時期は不明である。

２号竪穴住居状遺構（第36図・写真図版35）

〈位置〉11ｉ～ｊグリッドにかけて位置する。

〈検出状況〉18号住居跡を精査中に、床から東に広がるプランを確認した。

〈重複関係〉18号住居と重複するが、本遺構が古い。

〈規模・形態〉住居跡の東側が調査区外に延びていることや、重複によって全容は明瞭ではないが、平面形は不整な楕円形で、規模は径が2.5～３ｍ前後と推定される。壁高は検出した範囲では18cmほどである。

〈埋土〉黒褐色土が主体で、一部暗褐色土も見られる。全体的に黄橙色の浮石の粒が10%前後混じるが、遺構の西側の部分は混入の割合が高い。

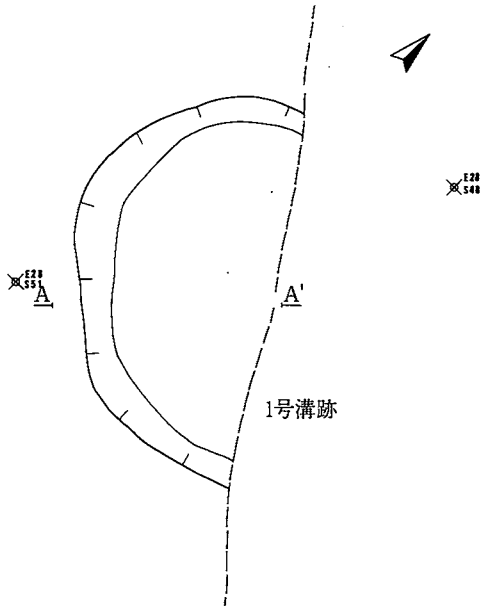
〈壁・床〉床はほぼ平坦であるが、西側に向かって緩やかに傾斜する。

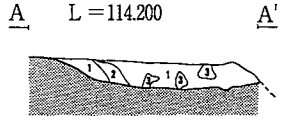
〈柱穴〉検出していない。

〈遺物〉様々な時期の土器が出土した。335は鉢の口縁部で変形工字文が施され、大洞Ａ′式（Ｖ群３類土器）に比定される。336は深鉢の底部で、晩期の土器と考えられる。337は鉢の胴部で、変形工字文が施文され、大洞Ａ′式（Ｖ群３類土器）に分類した。338は平行沈線文が施文される大洞Ａ式（Ｖ群３類土器）に、339は前期の土器に分類した。340は石鏃である。

〈時期〉縄文時代晩期後葉から末葉の遺構と考えられる。

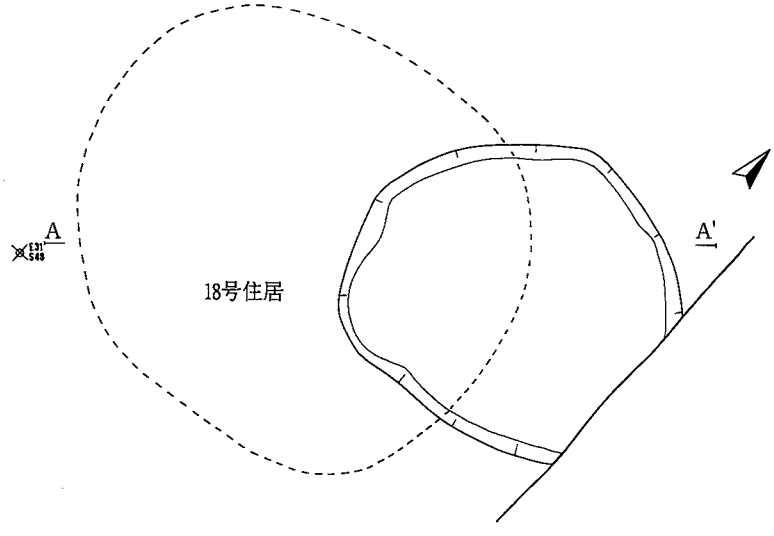
1号竪穴住居状遺構

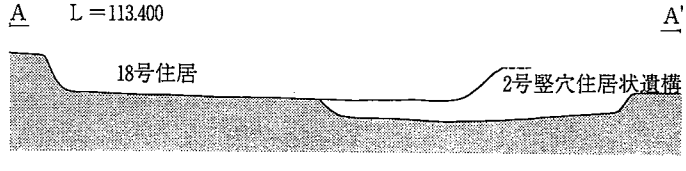




A－A'
1　10YR3/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　明黄褐色の浮石含む。
2　10YR3/4 暗褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
3　10YR2/3 暗褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり

2号竪穴住居状遺構





0　1：60　2m

第36図　1号・2号竪穴住居状遺構

（4）焼土遺構

1号焼土遺構（第37図・写真図版36）

〈位置〉7ｆグリッドに位置する。

〈検出状況〉Ｖ層で検出した。

〈重複関係〉ない。

〈規模・形態・埋土〉127cm×48cmの範囲に、不整な形状の焼土がまとまって存在する。7cm前後の厚さで堆積している。2号焼土遺構と連続する遺構の可能性があるが、30cm離れている部分を境に二つの遺構とした。異地性の焼土と考えられる。

〈遺物〉ない。

〈時期〉検出面から縄文時代の可能性がある。

2号焼土遺構（第37図・写真図版36）

〈位置〉7ｆグリッドに位置する。

〈検出状況〉Ｖ層で検出した。

〈重複関係〉ない。

〈規模・形態・埋土〉73cm×42cmの範囲に、不整な形状の焼土がまとまって存在する。7cm前後の厚さで堆積している。1号焼土遺構と連続する遺構の可能性がある。異地性の焼土と考えられる。

〈遺物〉ない。

〈時期〉検出面から縄文時代の可能性がある。

3号焼土遺構（第37図・写真図版36）

〈位置〉9ｅグリッドに位置する。

〈検出状況〉Ｖ層で検出中に土器片が約80cm×40cmの範囲で散らばっており、土器を取り上げたところ、焼土の粒が検出された。

〈重複関係〉16号住居跡と重複するが、本遺構が新しい。

〈規模・形態・埋土〉86cm×42cmの範囲に、焼土の粒が含まれる。断面を観察したところ、17cmの深さにわたって焼土のブロックを確認した。

〈遺物〉焼土の上で検出された土器が、本遺構と関係あるかは不明である。土器埋設炉であった可能性も残る。

〈時期〉検出面から縄文時代の可能性がある。

4号焼土遺構（第37図・写真図版36）

〈位置〉11ｄグリッドに位置する。

〈検出状況〉Ｖ層の下部の面で検出した。

〈重複関係〉ない。

〈規模・形態・埋土〉30cm×10cmの範囲に、厚さが約7cmの焼土ブロックを確認した。また焼土の周りの黒褐色土には焼土の粒が混じっている。

〈 遺物 〉ない。
〈 時期 〉検出面から縄文時代の可能性がある。

5号焼土遺構（第37図・写真図版37）
〈 位置 〉８ｅグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉Ｖ層で検出した。
〈 重複関係 〉16号住居跡と重複するが、本遺構が新しい。
〈 規模・形態・埋土 〉38cm×37cmの範囲に、焼土と焼土の粒がまとまっている。断面を観察したところ11cmの厚さの焼土ブロックを確認した。
〈 遺物 〉341、342、343は深鉢の胴部である。順番に早期、後期、前期の土器と考えられる。
〈 時期 〉いろいろな時期の土器が出土したため詳細な時期は不明だが、縄文時代の遺構と考えられる。

6号焼土遺構（第37図・写真図版37）
〈 位置 〉７ｅグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉Ｖ層で検出した。
〈 重複関係 〉ない。
〈 規模・形態・埋土 〉77cm×47cmの範囲に、焼土の粒が含まれる黒褐色シルトが広がる。断面を観察したところ６cmの厚さの焼土ブロックを確認した。異地性の焼土と考えられる。
〈 遺物 〉344は深鉢の胴部で、晩期の土器の可能性がある。345は石匙である。
〈 時期 〉出土遺物から縄文時代晩期の可能性がある。

7号焼土遺構（第37図・写真図版37）
〈 位置 〉８ｄグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉７号住居跡のさらに下層に遺構検出ベルトを設定した際に、Ｖ層の下部で検出した。
〈 重複関係 〉７号住居跡と重複するが、本遺構が古い。
〈 規模・形態・埋土 〉82cm×52cmの範囲に、焼土の粒がが含まれる黒褐色シルトが広がる。断面を観察したところ５cmの厚さの焼土ブロックを確認した。異地性の焼土と考えられる。
〈 遺物 〉ない。
〈 時期 〉検出面から縄文時代と考えられる。

8号焼土遺構（第37図・写真図版37）
〈 位置 〉20ｉグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉Ｖ層で検出した。
〈 重複関係 〉ない。
〈規模・形態・埋土〉平面形は不整な楕円形である。規模は83cm×48cmで、厚さは８cmである。現地性の焼土と考えられる。
〈 遺物 〉ない。
〈 時期 〉不明である。

1・2号焼土遺構

2号焼土遺構

1号焼土遺構

A－A'
1 7.5YR6/8 橙色シルト　しまりややあり　粘性なし
2 10YR4/6 褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
3 10YR3/3 暗褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
4 10YR3/4 暗褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり

B－B'
1 7.5YR6/8 橙色シルト　しまりややあり　粘性なし
2 10YR4/6 褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
3 10YR4/6 褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
4 10YR3/4 暗褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり

3号焼土遺構

4号焼土遺構

A－A'
1 10YR6/8 明黄褐色砂質シルト　焼土　しまりややあり　粘性なし
2 10YR3/4 暗褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
3 10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性あり
4 3層に似るが、1層の焼土を含む。

A－A'
1 7.5YR5/8 明褐色焼土　しまりややあり　粘性なし
2 7.5YR4/6 褐シルト　しまりややあり　粘性ややあり　やや焼土含む。
3 10YR3/3 暗褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
4 10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり

5号焼土遺構

A－A'
1 10YR7/8 黄橙色　焼土　しまりややあり　粘性あり
2 10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
3 10YR3/4 暗褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり

6号焼土遺構

A－A'
1 7.5YR5/6 明褐色　焼土　しまりなし　粘性なし
2 10YR2/3 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　やや砂質土を含む。
3 10YR3/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　焼土を含む。
4 10YR3/3 暗褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　焼土を含む。

7号焼土遺構

A－A'
1 7.5YR5/8 明褐色　焼土　しまりあり　粘性なし
2 7.5YR5/4 にぶい褐色　焼土　しまりあり　粘性なし
3 10YR3/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　やや焼土を含む。
4 10YR3/3 暗褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　砂質土を含む。
5 10YR3/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり

8号焼土遺構

A－A'
1 7.5YR5/8 明褐色　焼土　しまりなし　粘性なし
2 10YR2/1 黒色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　南部浮石含む。やや焼土含む。

0　1m

第37図　1号～8号焼土遺構

（5）溝跡

1号溝跡（第38図・写真図版38）

〈位置〉10d～14iグリッドにかけて位置する。

〈重複関係〉2号溝跡と重複するが本遺構が古い。

〈検出状況〉Ⅲ層でプランを確認した。

〈規模・形態・方向〉規模は上幅が183cm～38cm、下幅が53cm～10cm、深さが最大で約50cmで全長は28.5mを測る。方向は西北西－南南東に約10m向かった後、屈曲し南東に向きを変え直線的に延びる。

〈埋土〉黒褐色シルトを主体とした埋土である。埋土の上部と中部には十和田a火山灰が混じる。

〈遺物〉縄文土器が出土したが、いろいろな時期の遺物が混じっている。346は深鉢の口縁部から胴部であるが、帯縄文と磨消縄文により、渦巻き文や楕円文などのモチーフが描かれ、十腰内Ⅰ式（Ⅳ群1類土器）に比定される。347は浅鉢と思われる口縁部破片で、大洞A式（Ⅴ群3類土器）に分類した。348は注口土器の注口部と推測され、沈線文、刺突文が施文される後期前葉から中葉の土器の可能性がある。349は円盤状土製品で、晩期の可能性がある。土師器などは出土していない。

〈時期・遺構の性格〉縄文時代の遺物が出土しているが、検出状況や埋土から古代以降の溝跡と考えられる。水成堆積とも考えられる埋土の状況から、水路の可能性がある。

2号溝跡（第38図・写真図版38）

〈位置〉11g～14hグリッドにかけて位置する。

〈重複関係〉1号溝跡と重複するが本遺構が新しい。

〈検出状況〉1号溝跡を精査中にほぼ同じ層からプランを確認した。

〈規模・形態・方向〉規模は上幅が50cm～28cm、下幅が32cm～7cm、深さが最大で約24cmで全長は9.4mを測る。西側が浅く、東側ほど深い。方向は北西から南東に直線的に延びる。

〈埋土〉黒褐色シルトを主体とした埋土である。埋土の上部には十和田a火山灰が混じる。

〈遺物〉350は円盤状土製品である。351は深鉢の口縁部だが、帯縄文が施文され、前十腰内式（Ⅳ群1類土器）に分類した。352は前期の深鉢の胴部である。353は石鏃、354は石匙である。土師器などは出土していない。

〈時期・遺構の性格〉縄文時代の遺物が出土しているが、検出状況や埋土から古代以降の溝跡と考えられる。遺構の性格は不明である。

（6）埋設土器遺構

1号埋設土器遺構（第39図・写真図版39）

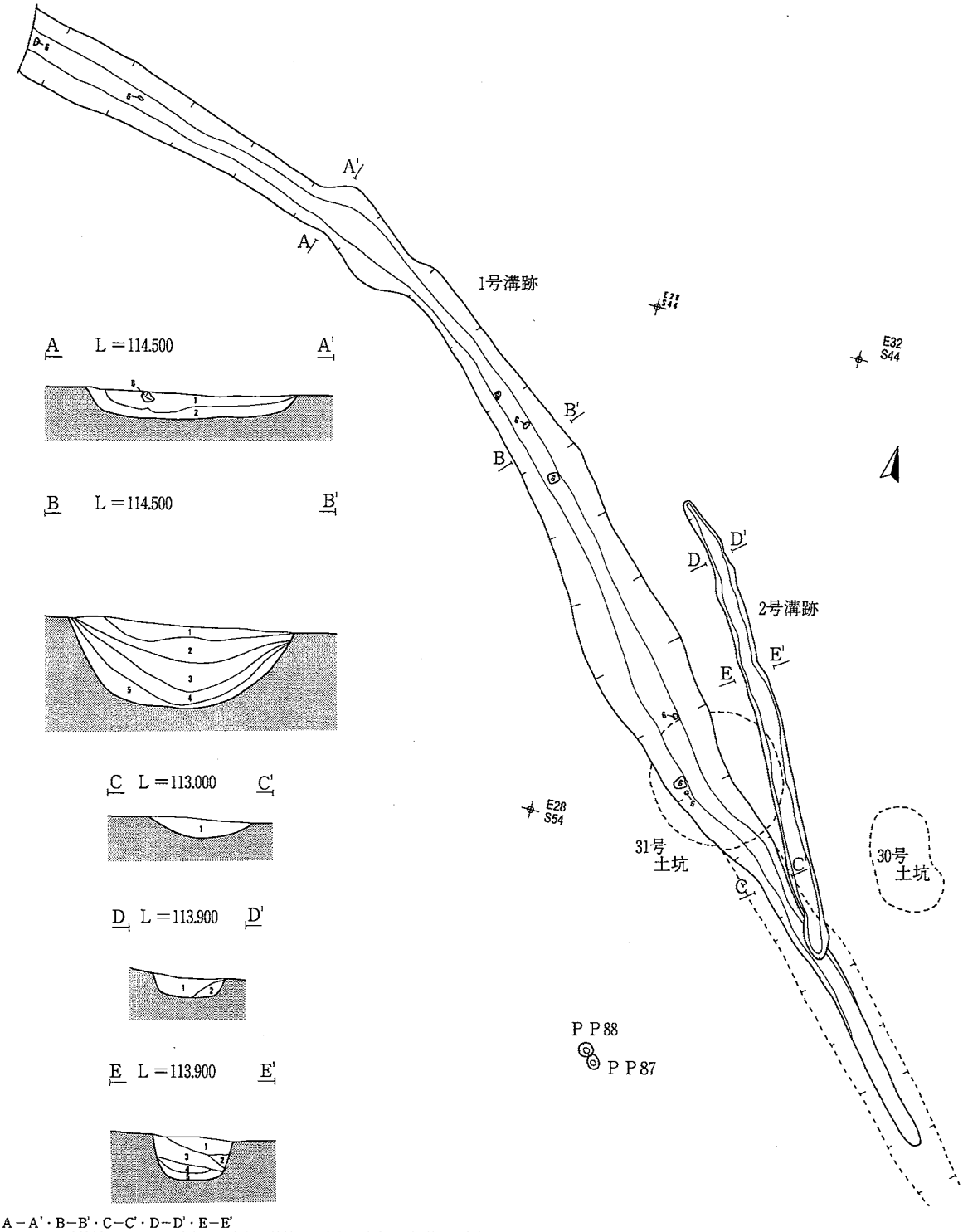
〈位置〉7eグリッドに位置する。

〈重複関係〉ない。

〈検出状況〉Ⅴ層で検出した。

〈埋設状況〉深鉢の底部～胴部上半をほぼ正立に埋設している。やや北西側に傾斜し、下端は掘り方に密着している。

〈掘り方〉ほぼ楕円形で、規模は径が70cm×51cm、深さが18cmである。土器よりも比較的大きな掘り方に埋設されており、壁が緩やかに立ち上がる埋設土坑である。



A－A'・B－B'・C－C'・D－D'・E－E'
1　10YR3/2 黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　十和田aわずかに含む。
2　1層に似るが、十和田aをやや多く含む。
3　10YR3/3 暗褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり　十和田aを多く含む。
4　10YR3/3 暗褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり。
5　10YR2/3 黒褐色シルト　しまりあり　粘性あり。

0　1：60　2m

0　1：120　2m

第38図　1号・2号溝跡

〈 埋土 〉 掘り方の埋土は暗褐色土で中掫が混じる。土器内の埋土は黒褐色土の単層で、土器片が含まれる。
〈 遺物 〉 357の埋設土器のみの出土である。底部から４cmほどまで無文帯となる。中期末葉の土器の可能性が高い。
〈 時期 〉 埋設土器から縄文時代中期と考えられる。

２号埋設土器遺構（第39図・写真図版39）

〈 位置 〉 ８ｅグリッドに位置する。
〈 重複関係 〉 ない。
〈 検出状況 〉 Ｖ層で検出した。
〈 埋設状況 〉 深鉢の口縁部～胴部下半を倒立に埋設している。下端は掘り方に密着している。土器内部より10cm大の礫が出土している。
〈 掘り方 〉 径が45cmほどの不整な円形で、深さは約20cmである。ほぼ垂直に立ち上がり、底は平坦である。
〈 埋土 〉 掘り方の埋土と土器内の充填土は同じで、上部は暗褐色土、下部は褐色土で黄褐色の浮石粒が混じる。
〈 遺物 〉 358の埋設土器のみの出土である。平縁で折り返している。後期初頭の土器と考えられる。
〈 時期 〉 埋設土器から縄文時代後期初頭の可能性がある。

３号埋設土器遺構（第39図・写真図版39）

〈 位置 〉 ８ｆグリッドに位置する。
〈 重複関係 〉 17号住居跡と重複するが、本遺構が新しい。
〈 検出状況 〉 Ｖ層で検出した。
〈 埋設状況 〉 深鉢の底部～胴部下半を正立斜位に埋設している。南側に傾いており、下端は掘り方に密着している。
〈 掘り方 〉 平面的には捉えられなかったが、径が約30cmの円形と推定され、深さは14cmである。南側は緩やかに立ち上がり、底は平坦である。
〈 埋土 〉 掘り方の埋土は暗褐色土で、土器内充填土も掘り方の埋土に似るが、やや暗い色調である。
〈 遺物 〉 359の埋設土器のみの出土である。平縁で折り返している。円筒下層ａ式（Ⅱ群２類土器）の可能性がある。
〈 時期 〉 縄文時代前期の遺構の可能性がある。

４号埋設土器遺構（第39図・写真図版40）

〈 位置 〉 ９ｇグリッドに位置する。
〈 重複関係 〉 ない。
〈 検出状況 〉 Ｖ層で検出した。
〈 埋設状況 〉 深鉢の底部～胴部上半を正立斜位に埋設している。北側に傾いており、下端は掘り方に密着している。
〈 掘り方 〉 平面的には捉えられなかったが、径が約70cmの円形と推定される。深さは38cmである。ほぼ垂直に立ち上がると考えられる。底は平坦である。

〈 埋土 〉掘り方の埋土は黒褐色土が主体である。土器内充填土も掘り方の埋土に似るが、明るい色調である。
〈 遺物 〉360の埋設土器のみの出土である。円筒下層ａ式（Ⅱ群２類土器）に分類した。
〈 時期 〉縄文時代前期の遺構の可能性がある。

５号埋設土器遺構（第39図・写真図版40）

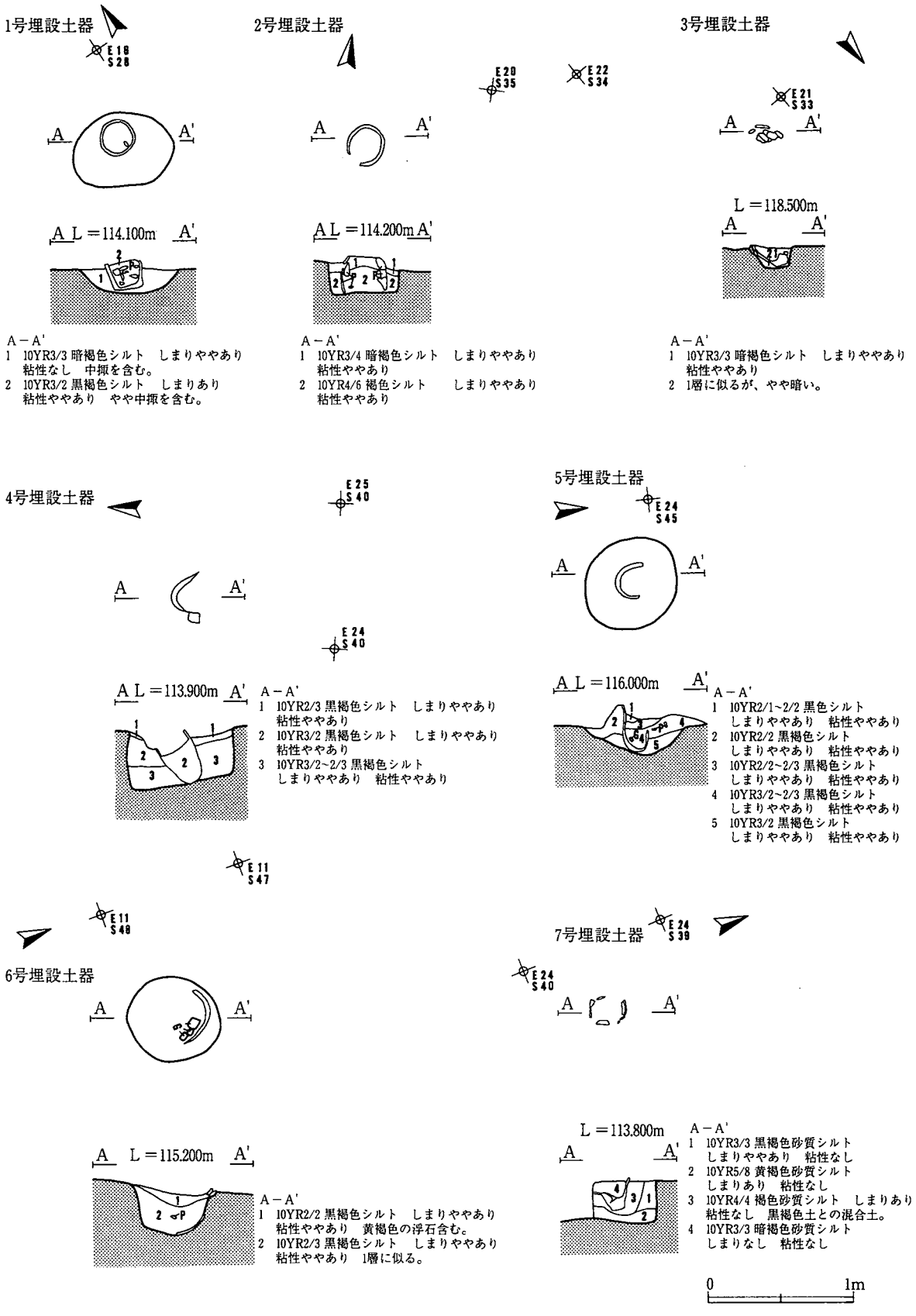
〈 位置 〉11ｇグリッドに位置する。
〈 重複関係 〉ない。
〈 検出状況 〉Ⅴ層で検出した。
〈 埋設状況 〉ほぼ完形の深鉢を正立に埋設している。下端は掘り方に密着している。土器内部から５～10cm大の礫が出土している。
〈 掘り方 〉上部は削平されてしまい、本来の規模は不明であるが、検出した範囲では、径が58cmで、深さは18cmである。壁と底の区別がつかない。
〈 埋土 〉掘り方の埋土は黒褐色土が主体である。土器内充填土も掘り方の埋土に似ているためか、判別できなかった。
〈 遺物 〉361の埋設土器のみの出土である。底部から５cmほどが無文帯となり、０段多条の原体によって施文されている。中期後葉から末葉の土器に分類した。
〈 時期 〉埋設土器から縄文時代中期後葉から末葉の遺構と考えられる。

６号埋設土器遺構（第39図・写真図版40）

〈 位置 〉11ｃグリッドに位置する。
〈 重複関係 〉ない。
〈 検出状況 〉Ⅴ層で検出した。
〈 埋設状況 〉壺の底部から胴部下半をほぼ正立に埋設している。やや北東に傾く状態で、下端は掘り方の底部に密着している。
〈 掘り方 〉ほぼ円形の径が60cm程度で、深さは26cmの掘り方と推測されるが、南側は不明瞭である。立ち割り後の観察によると、埋設土器と掘り方の隙間が非常に狭く、土器の大きさに合わせて埋設土坑を掘った可能性が高い。
〈 埋土 〉掘り方の埋土と土器内充填土の区別がつかない部分もあるが、黒褐色土を主体とし、上部には黄褐色の浮石粒が混じる。
〈 遺物 〉362の埋設土器のみの出土である。渦巻文、クランク状文が施文され、長楕円状の隆帯が付される。前十腰内式（Ⅳ群１類土器）に分類した。
〈 時期 〉埋設土器から縄文時代後期初頭の遺構と考えられる。

７号埋設土器遺構（第39図・写真図版40）

〈 位置 〉９ｇグリッドに位置する。
〈 重複関係 〉ない。
〈 検出状況 〉13号住居跡を精査中に、住居跡の北側で検出した。検出した層位の記録がないが、13号住居跡と同じⅦ層と考えられる。



第39図 1号～7号埋設土器遺構

〈 埋設状況 〉深鉢の底部から胴部上半をほぼ正立に埋設している。南に傾く状態で、下端は掘り方の底部から２cmほど浮いた状態である。
〈 掘り方 〉平面的には捉えられなかったが、径が40cm程度の円形と推測される。断面での観察によると、深さは22cmの掘り方で、図の１、２層は掘り過ぎと考えられる。
〈 埋土 〉掘り方の埋土は褐色土と黒褐色土が混じり合い、砂質土に近い。土器内充填土は暗褐色土でやや砂質土が混じる。
〈 遺物 〉363の埋設土器のみの出土である。０段多条によって施文されており、円筒下層ａ式（Ⅱ群２類土器）の可能性がある。
〈 時期 〉縄文時代前期前葉の遺構の可能性がある。

（７）柱穴状小土坑

今回の調査では、153基の柱穴状小土坑が検出されたが、掘立柱建物跡もしくは竪穴住居跡に関連する柱穴として確認できたものはない。しかし柱穴が数基直線上に並び、建物跡の可能性のある柱穴状小土坑を２カ所で検出したため、その区域について記述する。

９ｃ～10ｃグリッド柱穴状小土坑（第40図・写真図版41）

合計19基の柱穴状小土坑を９ｃから10ｃグリッドにかけて、Ⅳ層で検出した。径は30cm前後のものがほとんどで、最深で51cm、最浅で17cmである。規則的な配列となるものは認められないが、竪穴住居などを構成していた可能性がある。遺物は出土していない。

11ｃ～12ｃグリッド柱穴状小土坑（第40図）

５基の柱穴状小土坑をⅣ層で検出した。径は30cmから40cm前後で、深さは30cmから40cmである。PP25、PP26、PP28の３基の柱穴状小土坑はほぼ直線上に並び、PP25とPP26の距離が197cm、PP26とPP28の距離が198cmとなる。PP26から縄文土器片、PP27から石器が出土しており、PP28からは柱材と考えられる木片を確認した。時代は不明であるが、掘立柱建物などの建物を構成していた柱穴である可能性が高い。

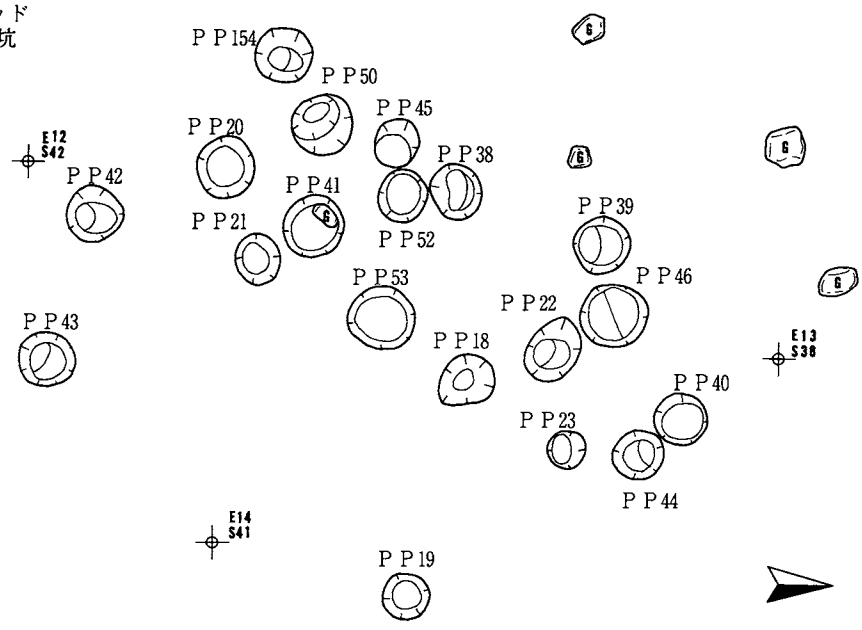
（８）その他

遺物集中区（第41図・写真図版41）

遺構ではないが、堆土に土器を中心とした遺物が包含され、出土した区域について記述する。捨て場というよりも、土器の散布状況や堆積の様子から考えると、水流によって流された土と遺物が堆積した可能性が高い。
〈 位置 〉７ｇ～８ｆグリッドに位置する。
〈 検出状況 〉Ⅲ層より下層の暗褐色土層から、多量の土器片とともに、より暗い暗褐色土の堆積を認めた。
〈 重複関係 〉下層から８号住居跡と17号住居跡を検出している。
〈 形態・規模 〉長さ約7.5m、幅約３mの長楕円形の範囲に、深さが最大で20cmほどの堆積が見られた。壁の立ち上がりや床に相当するものは確認していない。

〈 堆土 〉暗褐色土が堆積しており、部分的に南部浮石を含む部分も見られた。明確な層の違いは認められなかった。
〈 遺物 〉円筒下層ａ式土器（Ⅱ群２類土器）が中心で、ほぼ同時期の土器が出土している。遺物は遺構外出土遺物として掲載している。

9C～10Cグリッド
柱穴状小土坑

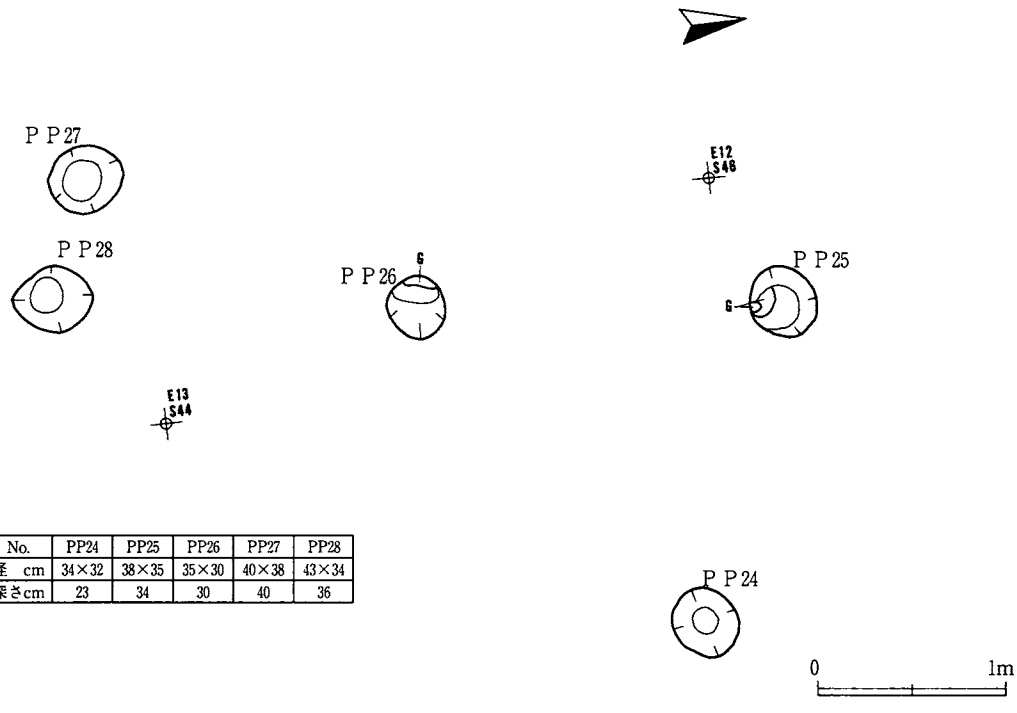


No.	PP18	PP19	PP20	PP21	PP22	PP23	PP38
径 cm	30×28	24×23	31×29	26×24	33×26	18×18	29×27
深さcm	34	17	27	44	21	29	41

No.	PP39	PP40	PP41	PP42	PP43	PP44	PP45
径 cm	30×28	28×28	34×29	29×28	30×28	27×26	25×22
深さcm	22	30	43	42	39	31	45

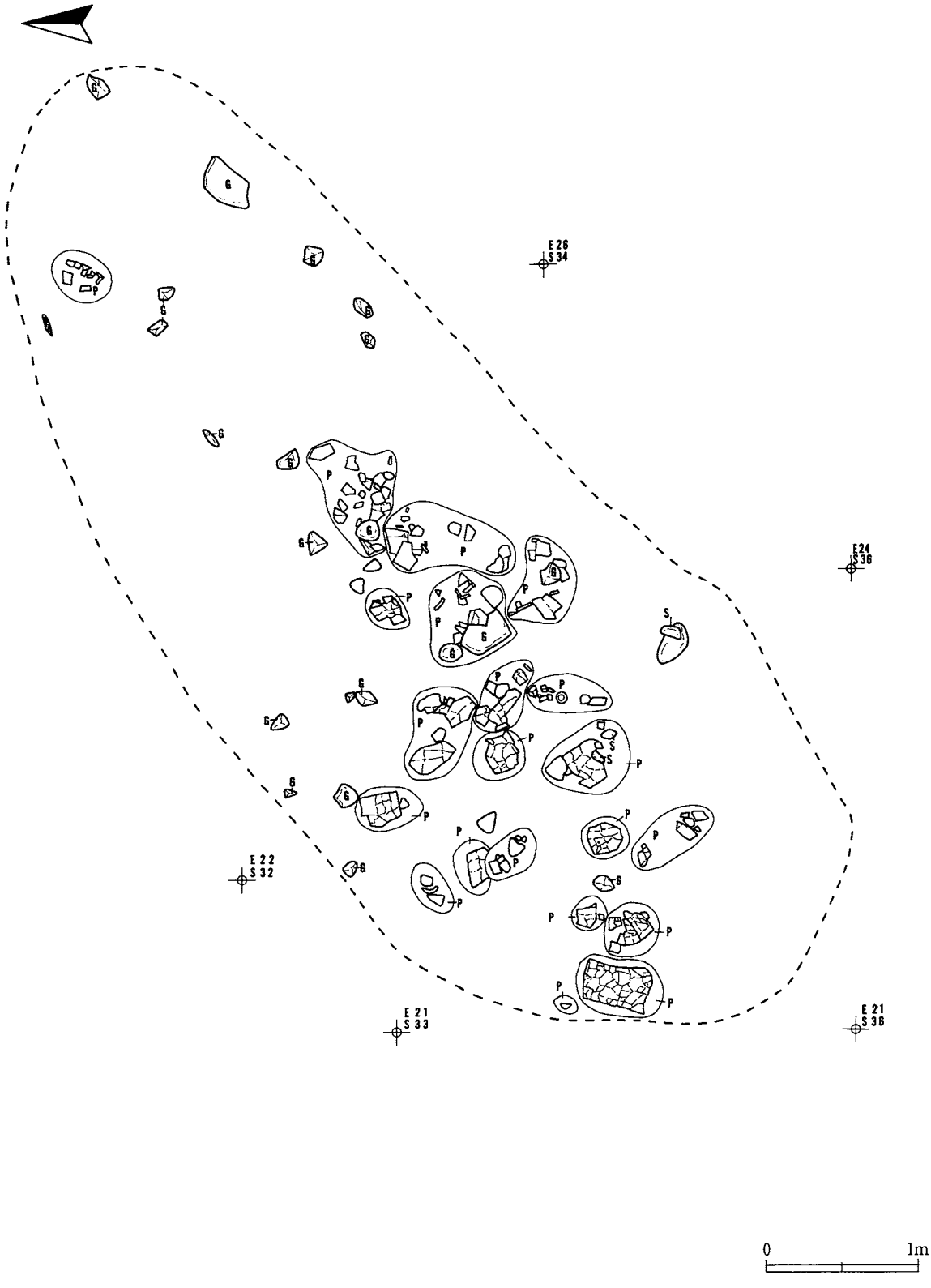
No.	PP46	PP50	PP52	PP53	PP154
径 cm	36×34	32×30	28×26	34×32	30×29
深さcm	50	44	51	24	18

11C～12Cグリッド　柱穴状小土坑



No.	PP24	PP25	PP26	PP27	PP28
径 cm	34×32	38×35	35×30	40×38	43×34
深さcm	23	34	30	40	36

第40図　柱穴状小土坑



第41図　遺物集中区

2．遺構外出土遺物

第一次調査で出土した遺物は（遺構内合わせた出土量）、土器類約28箱分（30×40×30cmのコンテナ）、石器類約11箱分である。

本章では遺構外の遺物について扱うこととする。

（1）土器

出土している土器は、縄文時代早期～晩期末葉までのもので、時期幅が広く、また北と南の折衷的な可能性で捉えられる土器も見られる。主体となるのは、縄文時代前期前葉の土器で、遺物集中区を中心に出土している。

出土土器については、既知の土器型式に比定させた分類を行った。土器の分類基準については、遺構外で見られなかった時期の土器についても、遺構内から出土をみるものは分類を設定する。併せて、今年度調査地の地続き部分を今後も調査予定（平成11・12年度）であることから、今年度の調査で空白である時期の土器についても分類項を設定して置くこととする。

出土土器の時期区分は、既知の土器型式に比定させ、以下のように行った。

第Ⅰ群　縄文時代早期

第Ⅱ群　縄文時代前期

第Ⅱ群－1類　前期初頭　長七谷地Ⅲ群～早稲田6類～深郷田式相当

第Ⅱ群－2類　前期前～中葉　円筒下層a～b式（大木1～2b式相当）

第Ⅱ群－3類－a　前期後～末葉　円筒下層c～d2式相当

第Ⅱ群－3類－b　前期後～末葉　大木5～6式相当

第Ⅱ群－4類　その他

第Ⅲ群　縄文時代中期

第Ⅲ群－1類　中期初頭～前葉　円筒上層a～c式相当

第Ⅲ群－2類　中期中葉　大木8b式相当

第Ⅲ群－3類　中期後葉　大木9式・最花式相当

第Ⅲ群－4類　中期末葉　大木10式相当

第Ⅲ群－5類　その他

第Ⅳ群　縄文時代後期

第Ⅳ群－1類　後期初頭～前葉　前十腰内式（馬立式～沖付（2））～十腰内Ⅰ式相当

第Ⅳ群－2類　後期中葉　十腰内Ⅱ～Ⅲ式相当

第Ⅳ群－3類　後期後葉　十腰内Ⅳ式相当

第Ⅳ群－4類　その他

第Ⅴ群　縄文時代晩期

第Ⅴ群－1類　晩期初頭～前葉　大洞B～BC式相当

第Ⅴ群－2類　晩期中葉　大洞C1～C2式相当

第Ⅴ群－3類　晩期後葉～末葉　大洞A～A'式相当

第Ⅴ群－4類　その他

①　第Ⅰ群土器

縄文時代早期と推定される破片が数点確認された。小破片なため明確ではないが、326と341は吹切沢式に比定されると思われる。出土地は、23号土坑、25号土坑、5号焼土遺構で、何れも後期の土器と混在して出土している状況から考えて、流れ込みにより混入したものと思われる。

②　第Ⅱ群土器

縄文時代前期に属する土器群である。前期の土器群は、植物繊維の混入が時期区分の一つの目安として捉えられることが窺われる。円筒下層ａ式相当と思われる土器群の平均的な植物繊維混入量を基準（中量）として、植物繊維混入量を下記の５段階に定義した上で、土器の観察を行い観察表に記載した。

ａ　繊維多量混入

ｂ　繊維やや多量混入

ｃ　繊維中量混入

ｄ　繊維小量混入

ｅ　繊維微量混入

第Ⅱ群－１類　胎土中に多量の植物繊維が混入される土器群で、大木式・円筒式に先行する土器群と思われる。前期初頭期の長七谷地Ⅲ群や深郷田式などに並行すると思われる。

第Ⅱ群－２類　胎土中への繊維の混入量から前期前～中葉に属する土器群と思われる。円筒下層ａ式と捉えられるものが主体である。

出土地点は、遺物集中区とした調査区中央付近の黒褐色土層を主体に、８号竪穴住居跡・13号竪穴住居跡からの出土が多い。

器種は全て深鉢である。26と27は、他に比べて小形の深鉢である。

器形的特徴としては、底部からやや外傾気味かあるいは緩い曲線的に立ち上がる深鉢を基調とする(2・5～16・19・21・23・25・26・27など)。また、胴部上位がやや膨らみ、口縁部下半（頸部？）がやや括れた後、口縁部が緩く外反する深鉢もある（17・18・20・22など)。

文様について、口縁部文様帯を形成するもとの口縁～底部まで地文のみのものの２種に大別される。

口縁部文様帯を形成する土器群について、単節斜行縄文を施文後、不整撚糸文を施文するものを主体に、２～３条の原体押圧文を施文するものが見られる。それらは、胴部が地文（単節斜縄文が主体）のみを施文する場合が多い。口縁部文様帯の幅については若干相違するが、それが時期差によるものか１型式の中でのバリエーションなのか、あるいは他地域からの影響によるものなのか検討を要する。口縁部～胴部全般に同一の原体（不整撚糸文、単節斜縄文）のみを施文する土器との出土数の割合は、幾分口縁部文様帯を形成する土器の方が優勢と捉えられる。

該期土器の特徴の一つと考えられる属性として、口唇部に縄文を施文するものがある。また、第Ⅰ群－１類とした土器群と比較して、胎土中の植物繊維の混入量が若干量減少する傾向で捉えられる。

本遺跡で主体を占めるのは、円筒下層ａ式に比定される土器群と思われるが、東北地方南部の大木２ａ～２ｂ式からの影響を感じる土器（36は大木２～３式の可能性あり）も相当数散見できることから、安易な判断かもしれないが、当該地域においては円筒下層式と大木式は密接な関係にあるものと思われる。

第Ⅱ群－3類－a　前期後～末葉と思われる土器群で、円筒下層ｃ～ｄ2式に相当すると思われるものを一括する。

器種は全て深鉢と思われるが、ほとんどが小破片資料のため明確ではない。

口縁部文様帯には原体押圧文、撚糸文を施文する。横位隆帯あるいは半裁竹管文を頸部に施文した後、胴部には２種類の原体を結節したものを回転した羽状縄文を主体とする。

口唇部に縄文を施文するものが多く、内面調整はミガキが施された比較的丁重な作りのものが多い。

第Ⅱ群－3類－b　該期の円筒下層式土器とは、様相が異なる土器群を一括する。大木５～６式に相当する可能性があるものの、出土数は非常に希少であり明確ではない。一次調査で出土したものは、小破片で、良好な資料と思われなかったことから掲載は行っていないが、今後予定されている二次調査をにらみ該期の円筒下層式とは異なる土器群の存在を提示しておきたい。

第Ⅱ群－4類　胎土中に植物繊維の混入が見られることから、該期の円筒下層式に属する可能性は高いもの、時期区分が明瞭に行えない土器群を一括する。

③　第Ⅲ群土器

縄文時代中期に相当する土器群である。本群の土器群の出土量は希少であることから、土器型式に比定させた分類を行う。１類を円筒上層式に比定される土器群、２類を大木８式、３類を最花式あるいは大木９式、４類を大木10式、５類をその他とした。

第Ⅲ群－1類　中期初頭～前葉に属する土器群で、円筒上層ａ～ｃ式に相当すると思われる。

全て破片資料であるため明確ではないが、全て深鉢と思われる。

貼り付け隆帯上に縄文あるいは原体押圧文を施文する。胎土中の植物繊維混入は確認されなかった。なお、円筒上層ｄ～ｅ式に比定される土器は明確には把握できなかったが、19号竪穴住居跡出土の215は円筒上層ｅ式の可能性がある。

第Ⅲ群－2類　中期中葉の大木８ａ・８ｂ式に相当すると思われる土器群が数点見られた。東北地方北部において、該期に見られる榎ノ木林式と思われる土器は確認されなかった。

7号竪穴住居跡出土の50は隆帯を貼付後、隆帯の両側縁を調整していないなどの特徴から、大木８ａ式に相当すると思われる。その他は、小片のため不掲載とした。

第Ⅲ群－3類　中期後葉の大木９式あるいは最花式に相当する土器群で、少量の出土である。

最花式に比定されると思われるものに、４号竪穴住居跡出土の22が挙げられる。胴部上半（口縁部に近い部分）に２列の刺突列を持ち、胴部にはRL斜行縄文を施文後に沈線による幅の狭い懸垂文が描かれる。底部付近２cmほどは無文帯となる。内外面とも丹念なミガキが施され、内面は黒色研磨された様相で捉えられる。

第Ⅲ群－4類　中期末葉の大木10式に相当すると思われる土器群で、１点確認された。

35は、深鉢の胴部上半の破片と思われ、大ぶりの無文帯による曲線的な文様がモチーフにされ、無文帯の縁辺に刺突文（短沈線気味）が施文される。

第Ⅲ群－5類　胎土の様相などから中期に属すると思われるものの、地文の施文のみ確認できる粗製深鉢を一括する。

④　第Ⅳ群土器

縄文時代後期に相当する土器群である。岩手県において後期の土器は、土器型式が確立をみていない現状

がある。よって、青森県十腰内遺跡出土資料を指標とする十腰内式へ比定させることで該期土器の分類を行う。本稿で参考とした十腰内式についても、その分類に明確な結論が導けていない部分も多々あるようであるが、概ねの時期区分には堪えられるものと判断する。また、本遺跡において後期の主体を占めるのは、十腰内Ⅰ式とする土器の前段階と思われる土器群であり、また十腰内Ⅰ式との分離が困難なものも多い。それら後期初頭の土器群については、成田滋彦氏が提唱した前十腰内様式（1988年成田）を参照として区分して置く。

第Ⅳ群－1類　後期初頭～前葉の範疇で捉えられる土器群である。主体は十腰内Ⅰ式の前段階に比定されると判断される土器群である。

東北地方北部の該期土器は、土器編年が確立を見ていないように思われる。研究史的に見て、十腰内Ⅰ式の前段階の土器型式としては、前十腰内式（成田滋彦1988年など）、馬立Ⅰ式（鈴木克彦1998年）、蛍沢式（本間宏1988年など）などが提唱されている。また、上村式と仮称される土器（一次調査からは類似するものは出土していない）の出土を見たのは、今回の調査地から直線距離にして約700mほどの地点（岩手埋文第56集）である。上述したような複数の土器型式が提唱されてはいるが、この地方を広く網羅する土器型式編年として認知を受けているものはないように捉えられる。地域色が強く、また変化が漸移的でメルクマールが掴みづらいといった原因が挙げられる。本遺跡資料は、層位的に捉えられた出土状況にはないことから、時期幅を広くした分類に止めて置くこととする。次年度以降の調査の出土状況によっては、細分を検討する必要があると思う。

器種は、深鉢、鉢、浅鉢、壺などである。

文様は、沈線による弧状やクランク状のモチーフを主体とする。

第Ⅳ群－2類　後期中葉に相当する土器群で、磨消縄文が多様され、羽状縄文が盛行する土器群である。全体に作りが丁重で、光沢が良い土器も見られる。口縁端や頸部に刻目帯を施文する土器もある。十腰内Ⅱ～Ⅲ式に比定されると捉えられる。今回の調査で出土した器種は、深鉢のみであった。

第Ⅳ群－3類　後期後～末葉の所謂貼り瘤が盛行する特徴のある土器群は、今回の調査では出土していない。

第Ⅳ群－4類　後期と推定されるが、詳細な時期区分ができない粗製土器を一括する。

⑤　第Ⅴ群土器

縄文時代晩期に相当する土器群である。晩期は大洞諸型式に比定させた分類を行った。

前期前葉に次ぐ出土量が得られたのが晩期後葉～末葉の土器群で、弥生時代との過渡期的と思われる土器も見られる。

第Ⅴ群－1類　三叉文、羊歯状文を施文する土器で、晩期初頭～前葉の大洞B～BC式に相当する土器群である。6号竪穴住居跡、14号竪穴住居跡、19号竪穴住居跡から出土しているが、全体量は少なく、また遺構外からの出土はない。

器種は、鉢、注口土器である。

第Ⅴ群－2　雲形文を施文する土器で、晩期中葉に比定される大洞C1～C2式に相当する。口縁部内面（裏側）に溝状の沈線を施文する土器も本類から多くなる。

器種は、鉢、壺、注口土器などである。

遺構外の出土としては、68の注口土器と89のミニチュアの壺が該当する。80は、大洞A式までの可能性で捉えられる。

第Ⅴ群－3　基本的には、口縁部の狭い範囲に工字文や変形工字文を施文する土器を本類とした。晩期後葉～末葉の大洞A～A'式に相当する。前期前葉に次ぐ出土量である。

器種は、深鉢、鉢、壺、浅鉢などで、台（脚）の付くものも見られる。

69は四足壺で、外面は丹念なミガキが施され、赤色顔料の塗布が確認される。

該期の土器を観察した結果、大きくは3時期の変遷が考えられる。広義的に大洞A式とする土器群と大洞A'式とする土器群、それと両者の中間的な土器群である（重複関係を示す21号竪穴住居跡と22号竪穴住居跡出土遺物は、大洞A式と大洞A'式の区分を行う上で、良好な資料となる可能性がある）。

第Ⅴ群－4　晩期に属する可能性は高いものの、詳細な時期同定ができない土器群を一括する。

（2）土製品

土製品は、ミニチュア土器、土偶、円盤状土製品、鐸形土製品などが出土している。

①　ミニチュア土器

85、89～92がミニチュア土器である。92は前期、その他は後期・晩期のものである。内外面とも煤や炭化物などの付着は見られない。

②　土偶

96は右肩部と思われる破片で、縄文時代晩期後葉～末葉期と推定される。

③　円盤状土製品

土器片を再利用し、縁辺を打欠いたり磨くなどの行為により円形に仕上げられた土製品である。時期は明確ではないが、胎土の様相や調整具合から推定すると、縄文時代前期～晩期までの範疇で捉えられる。

④　鐸形土製品

97は全体の形状が鐘や鈴に類似する鐸形土製品の欠損品である。外面の文様は沈線による弧状のモチーフが描かれ、中空を呈する。

⑤　その他

94は板状の土製品で、後期初頭と思われる。

（3）石器

一次調査で出土した石器は336点である。主体となるのは削掻器類、石鏃、石匙などで、住居跡・遺物集中地区からの出土が多い。剥片石器の石材は珪質頁岩、チャートなどが多く、礫石器は安山岩、粘板岩が多い。

①　石鏃

75点出土した。平基無茎鏃及び凹基無茎鏃の割合が高く、平基有茎鏃などの有茎鏃の割合は低い。平均的には規模は3㎝前後、重量は2ｇ程度のものが多い。

② 石槍（尖頭器含む）

5点出土した。形状は木葉形が主体で、規模は10cm以上のものが多い。

③ 石錐

6点出土した。つまみ状の頭部を持ち、長い錐部を持つものや、断面形が三角形状を呈するものなどが出土している。

④ 石匙

40点が出土した。つまみの位置により、縦長、横長があり、その中間的なものもある。

⑤ 石篦

8点出土した。全体的に刃部の角度が大きいことから、掻器的用途と推定される。

⑥ 打製石斧

7点出土した。全体的に石篦としたものより大きく、また刃部角度が小さい。

⑦ ピエス・エスキーユ（楔形石器）

1点出土した。18号土坑の埋土から出土したもので、刃部と思われる先端部は鈍角を呈する。

⑧ 不定形石器（削器・掻器）

81点出土した。剥片の形状に依存して刃部がつけられている。石材は頁岩およびチャートである。

⑨ Uフレイク

16点出土した。

⑩ 磨製石斧

8点出土した。研磨により石斧の形状に整えたものである。石材は粘板岩、緑泥岩、泥岩、砂岩である。

⑪ 半円状扁平打製石器

20点出土した。自然礫の一部を半円状に整形し、側辺部に磨面を有するものである。石材は斑岩、粘板岩、安山岩である。

⑫ 石皿

3点出土した。石材は安山岩である。

⑬ 磨石

12点出土した。磨面を有する礫石器である。石材は安山岩、斑岩である。

⑭ **石錘**

2点出土した。

⑮ **凹石**

26点出土した。礫の1面または2面に円錐状の凹みをもつものである。石材は安山岩、角閃安山岩、凝灰岩である。

⑯ **敲石**

3点出土した。敲打によって生じたと考えられる潰れがみられるものである。凹石と併用されている。石材は安山岩である。

⑰ **台石**

2点出土した。

⑱ **その他**

21点出土した。

（4）石製品

合計で24点出土した。

① **石剣**

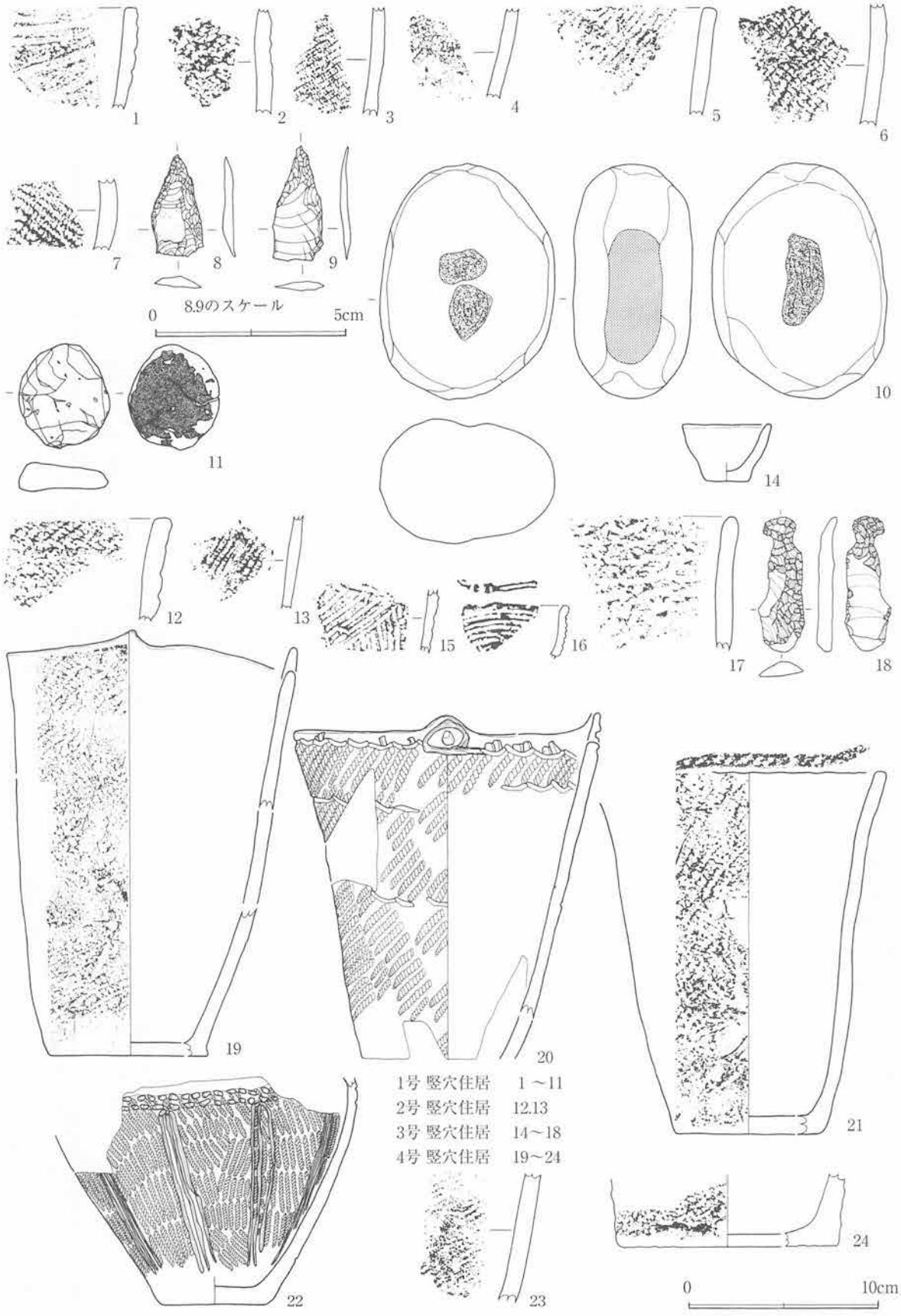
13点出土した。全て欠損品である。石材は粘板岩および頁岩である。

② **石刀**

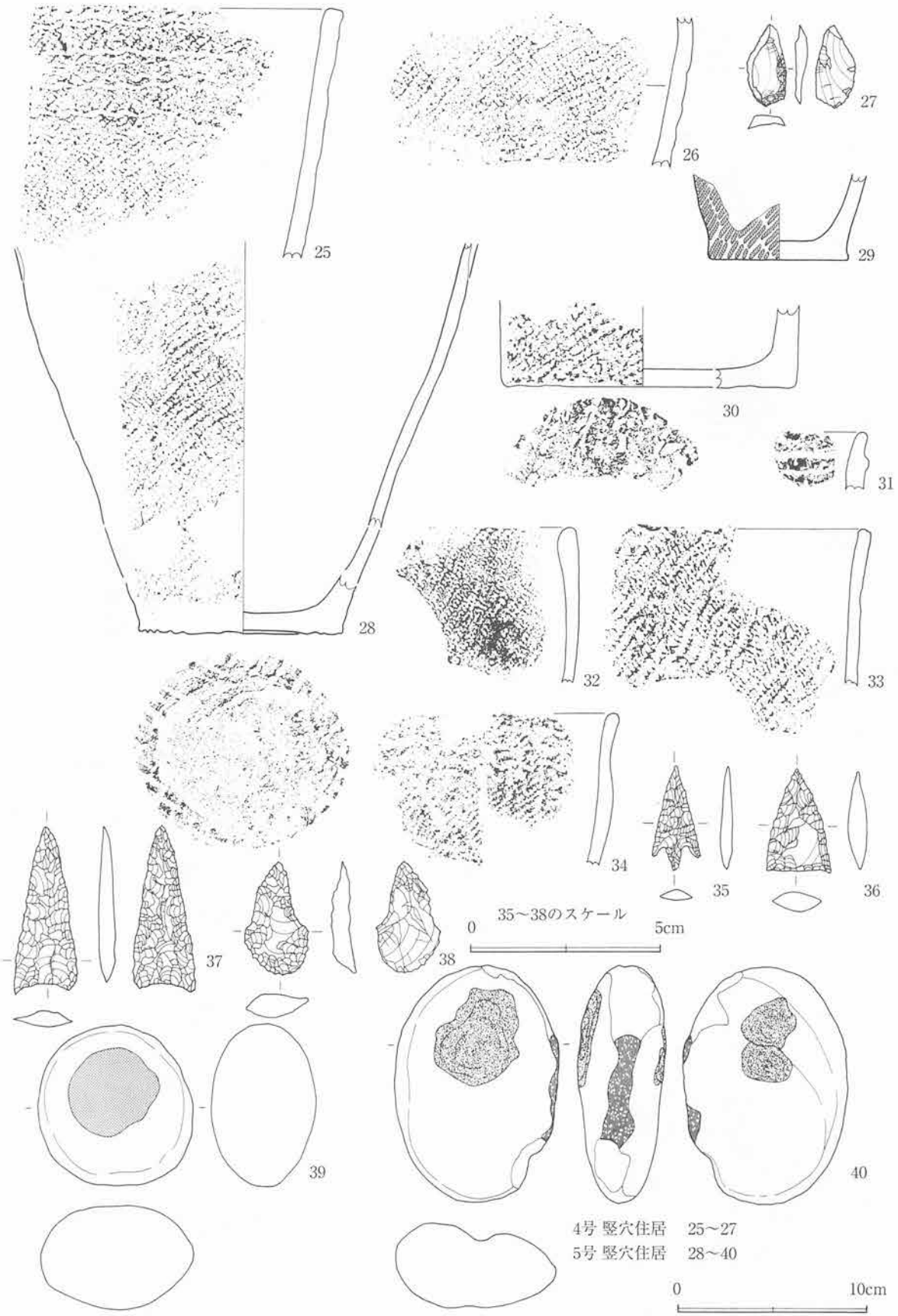
4点出土した。石剣と同様に全て欠損品である。

③ **円盤状石製品**

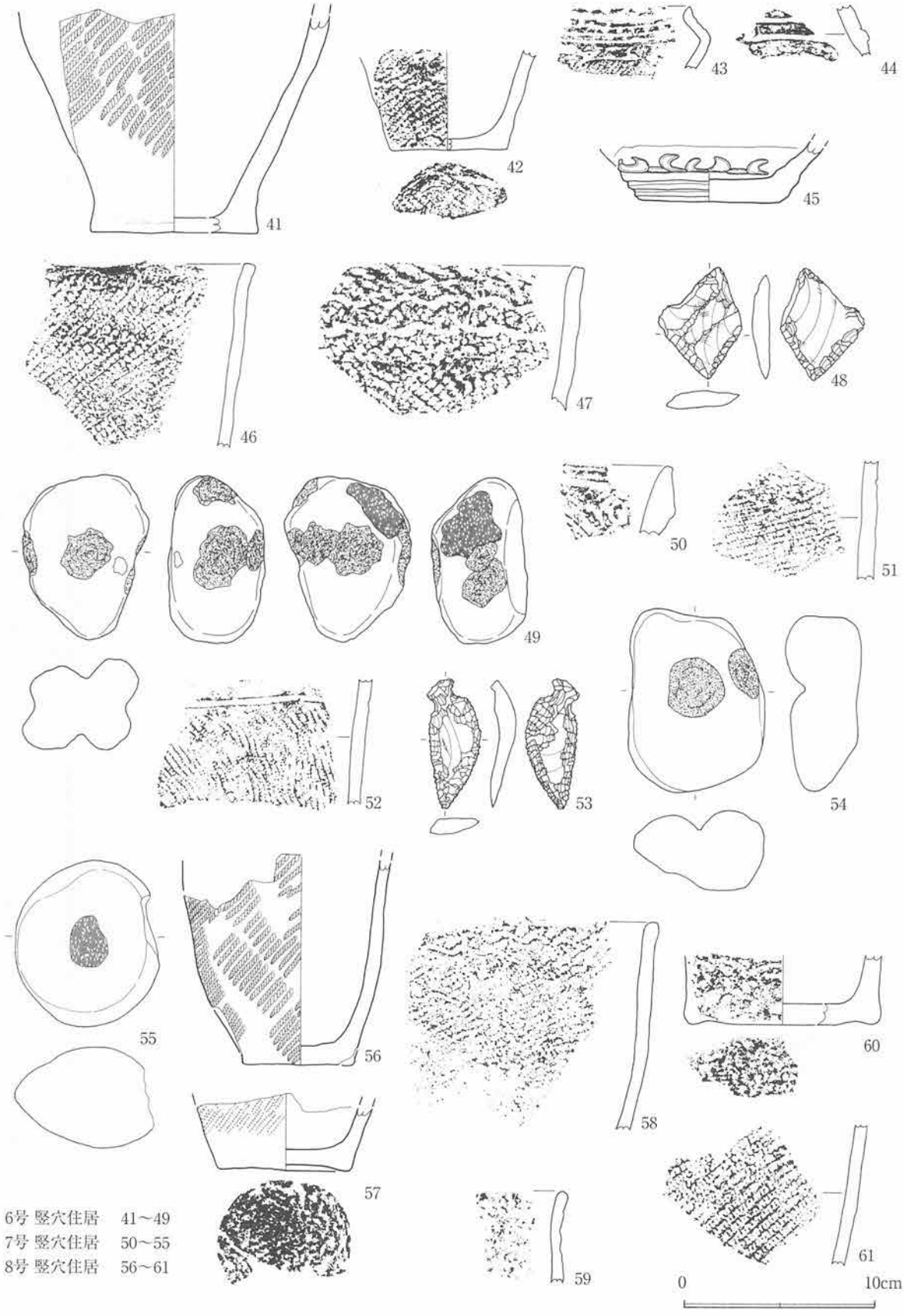
6点出土した。遺構外出土の154は、中心部に凹部が両面に見られる。



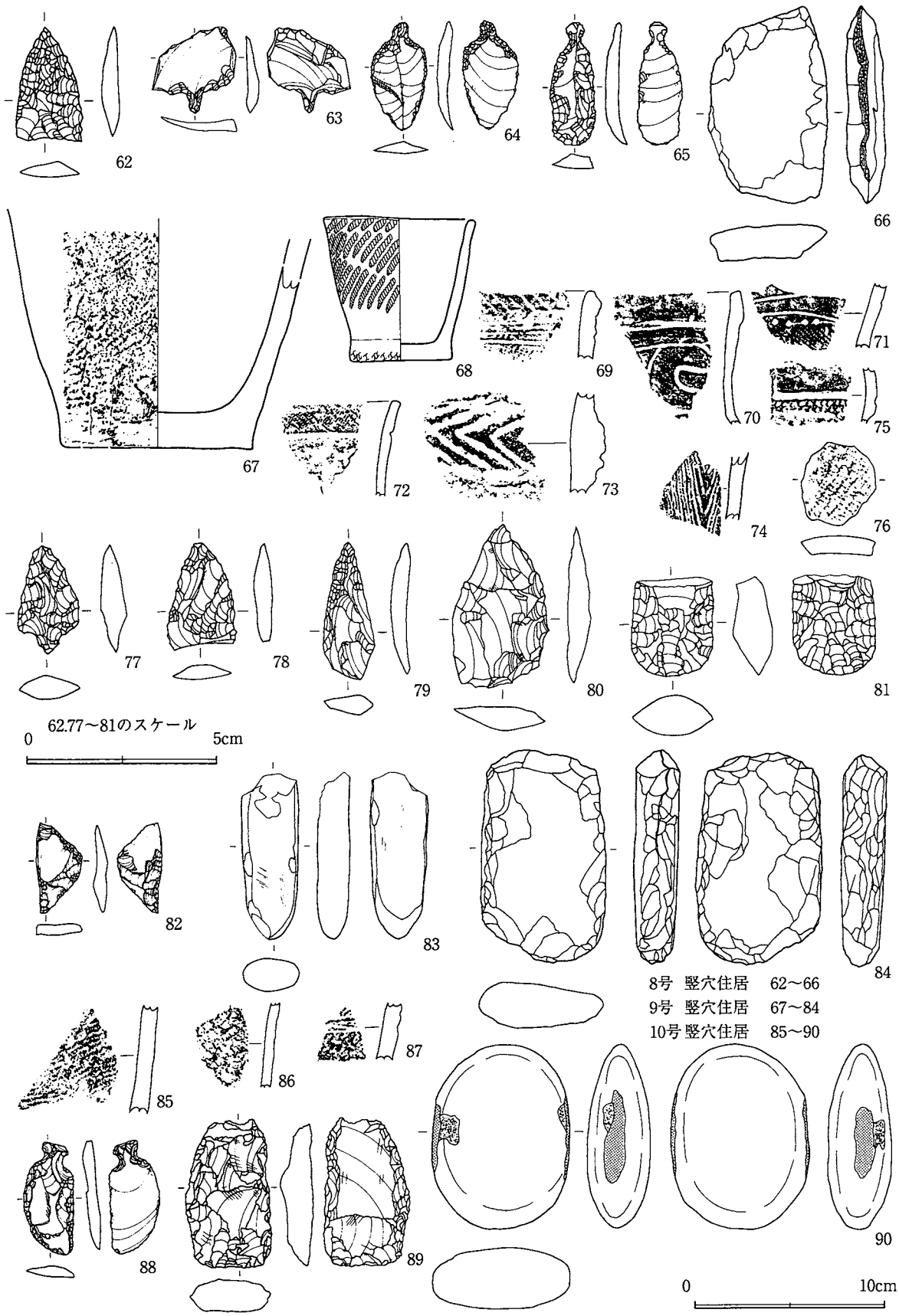
第42図　遺構内出土遺物（1）



第43図　遺構内出土遺物（2）

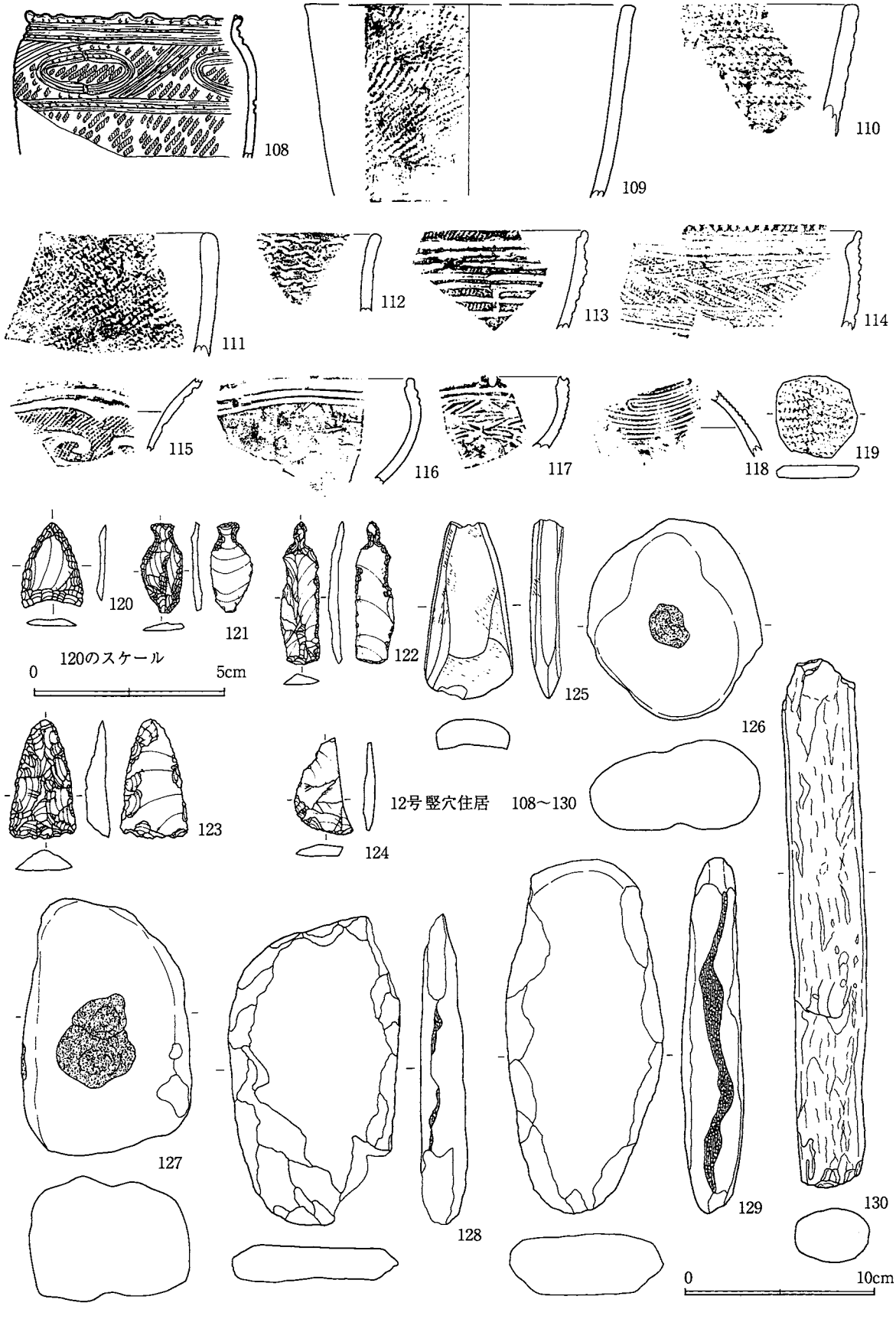


第44図　遺構内出土遺物（3）

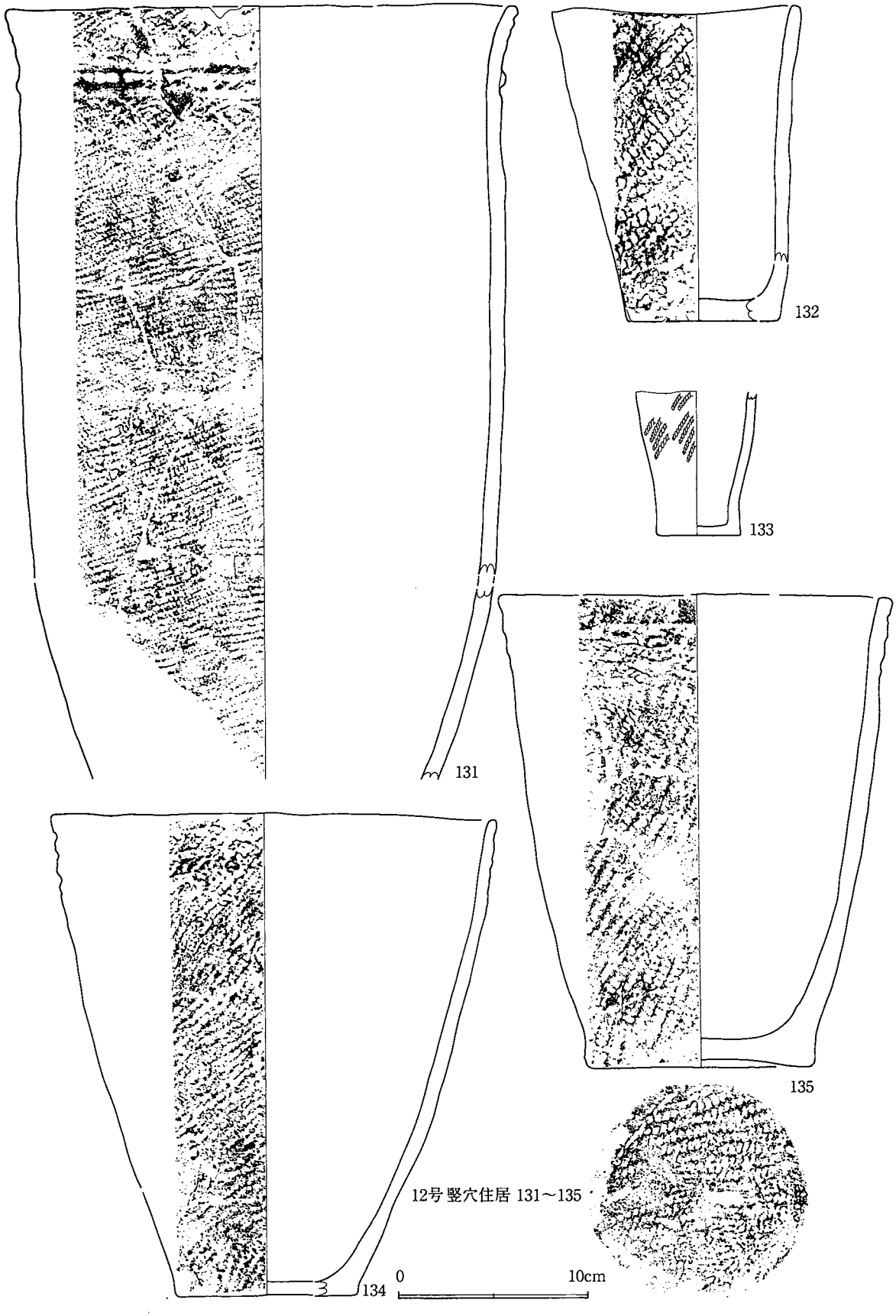


第45図　遺構内出土遺物（4）

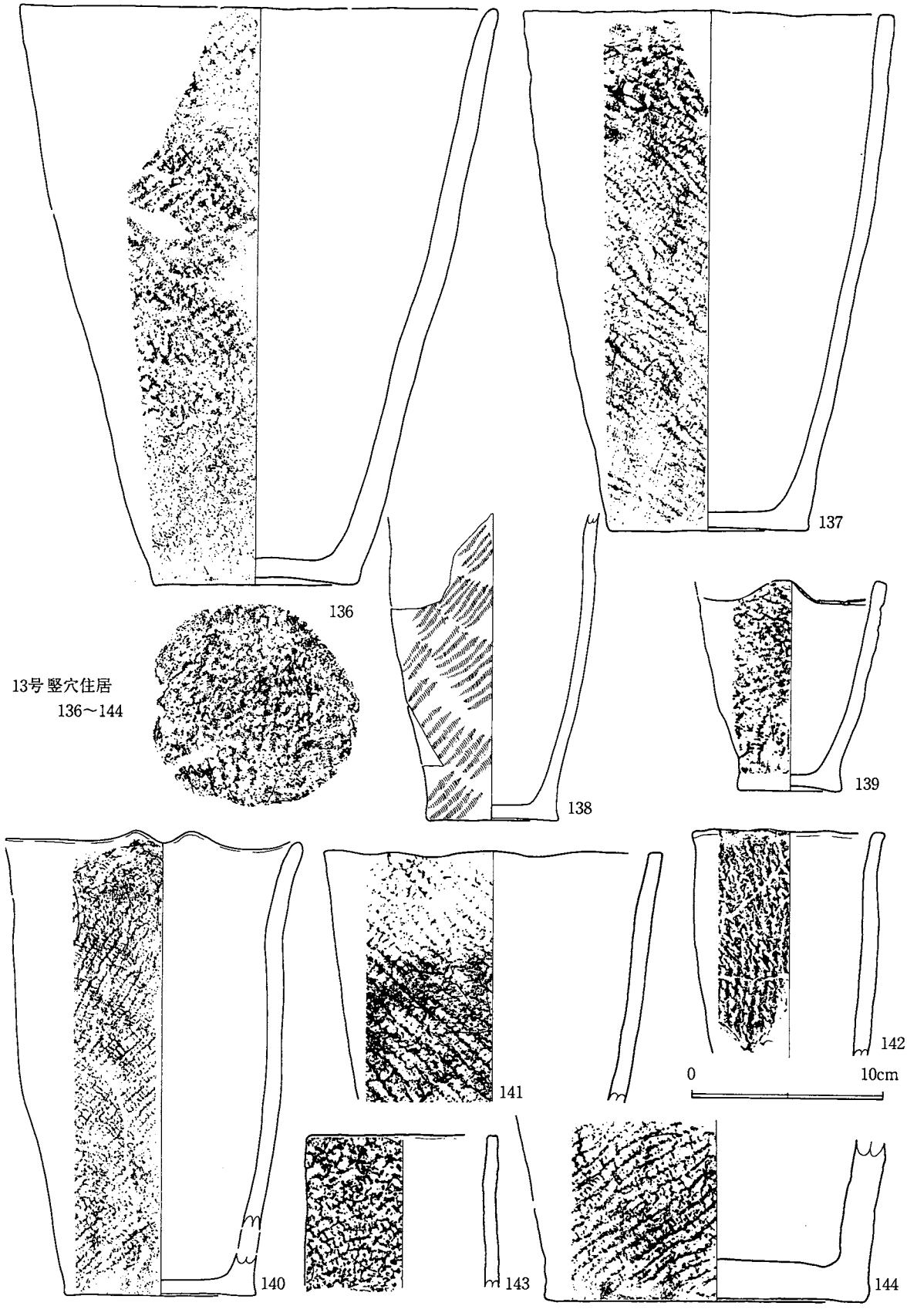
第46図　遺構内出土遺物（5）



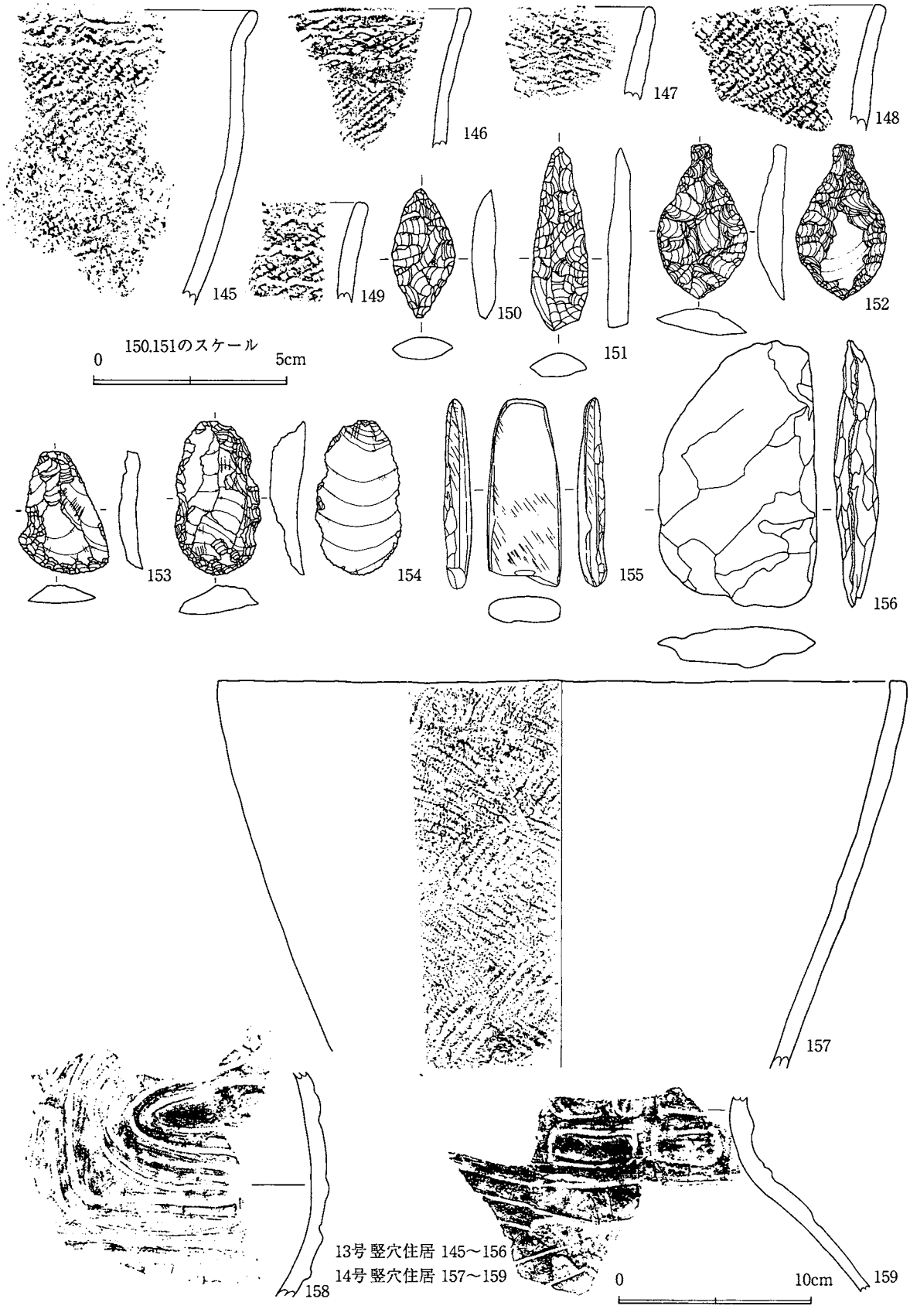
第47図　遺構内出土遺物（6）



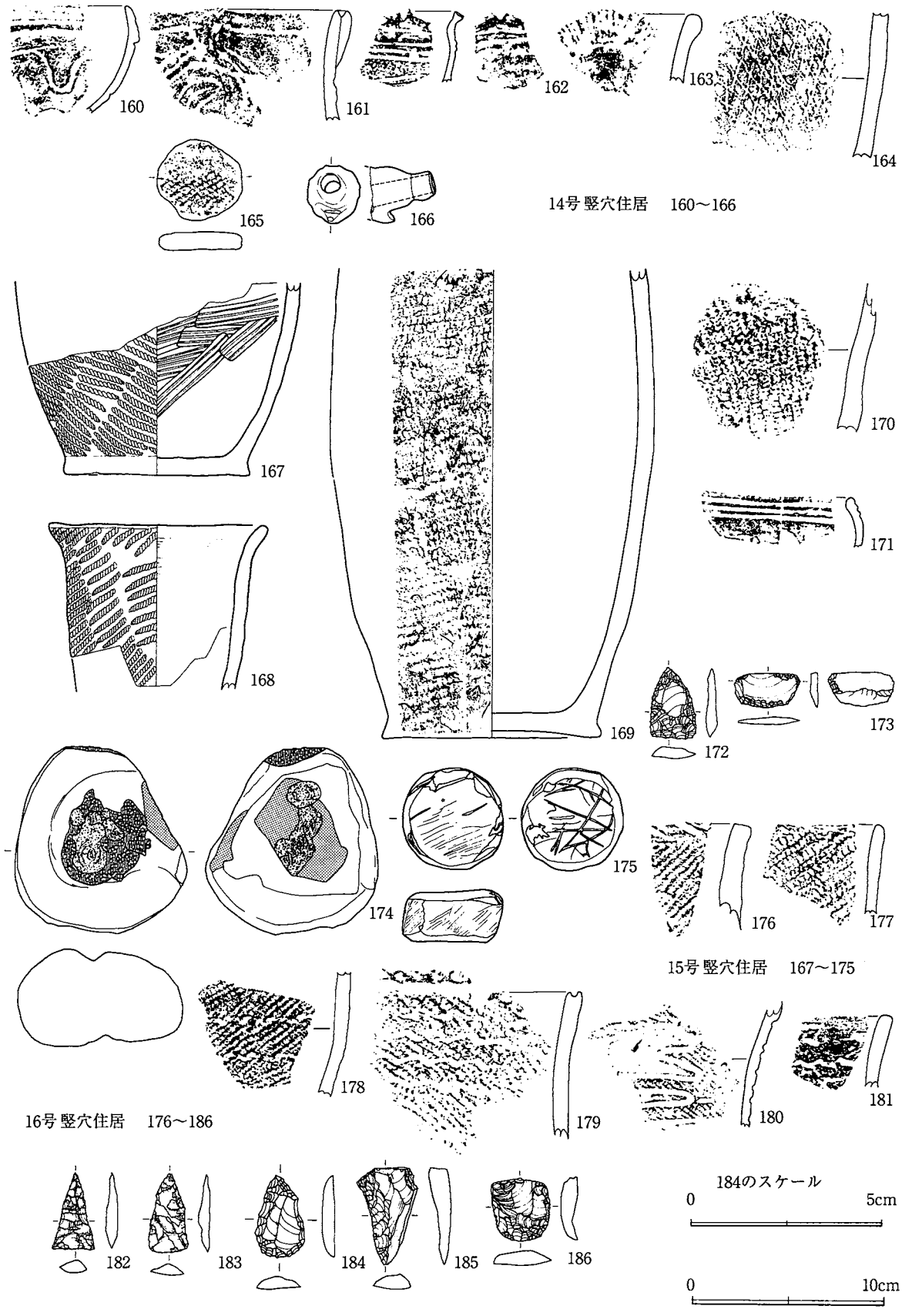
第48図　遺構内出土遺物（7）



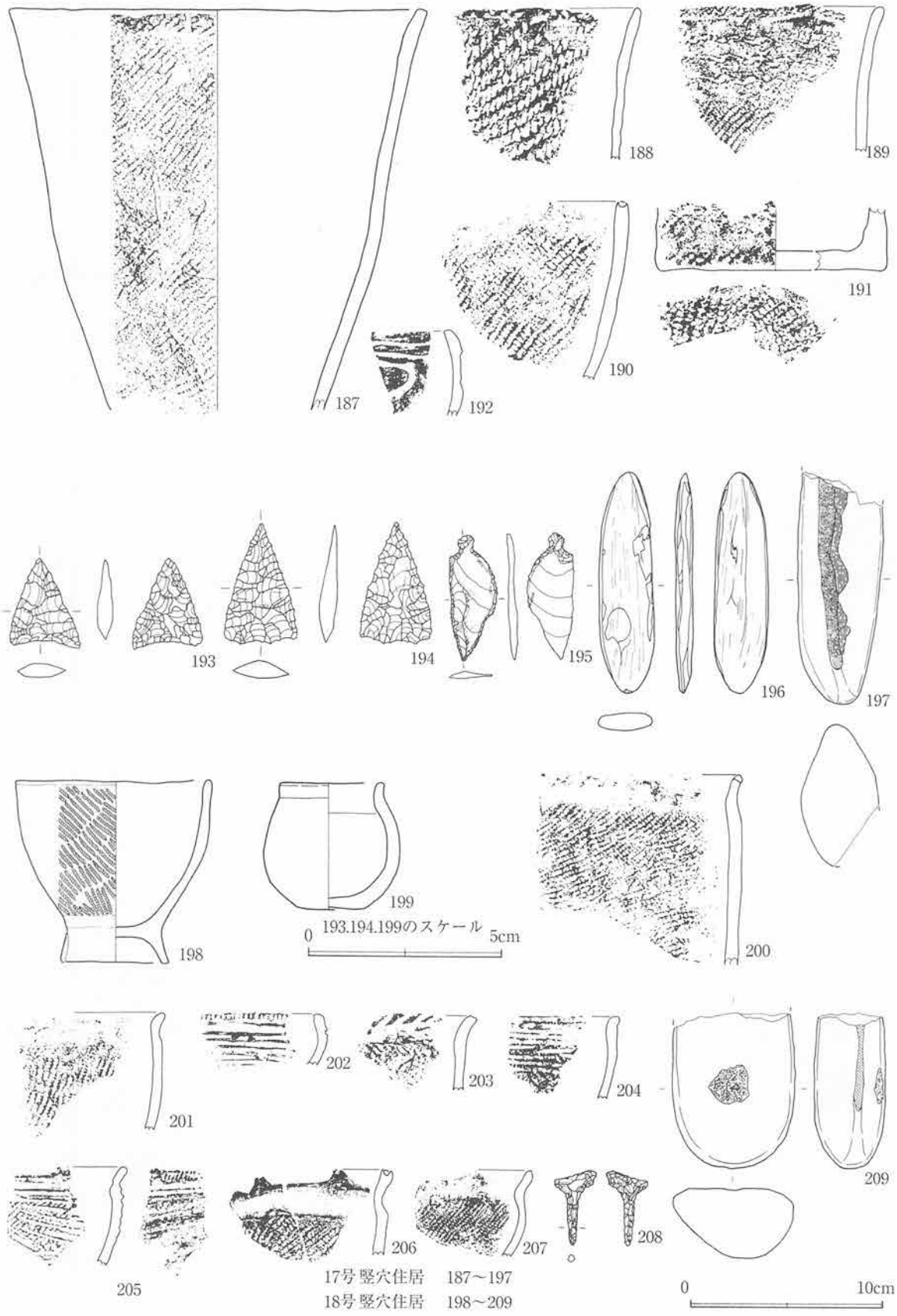
第49図　遺構内出土遺物（8）



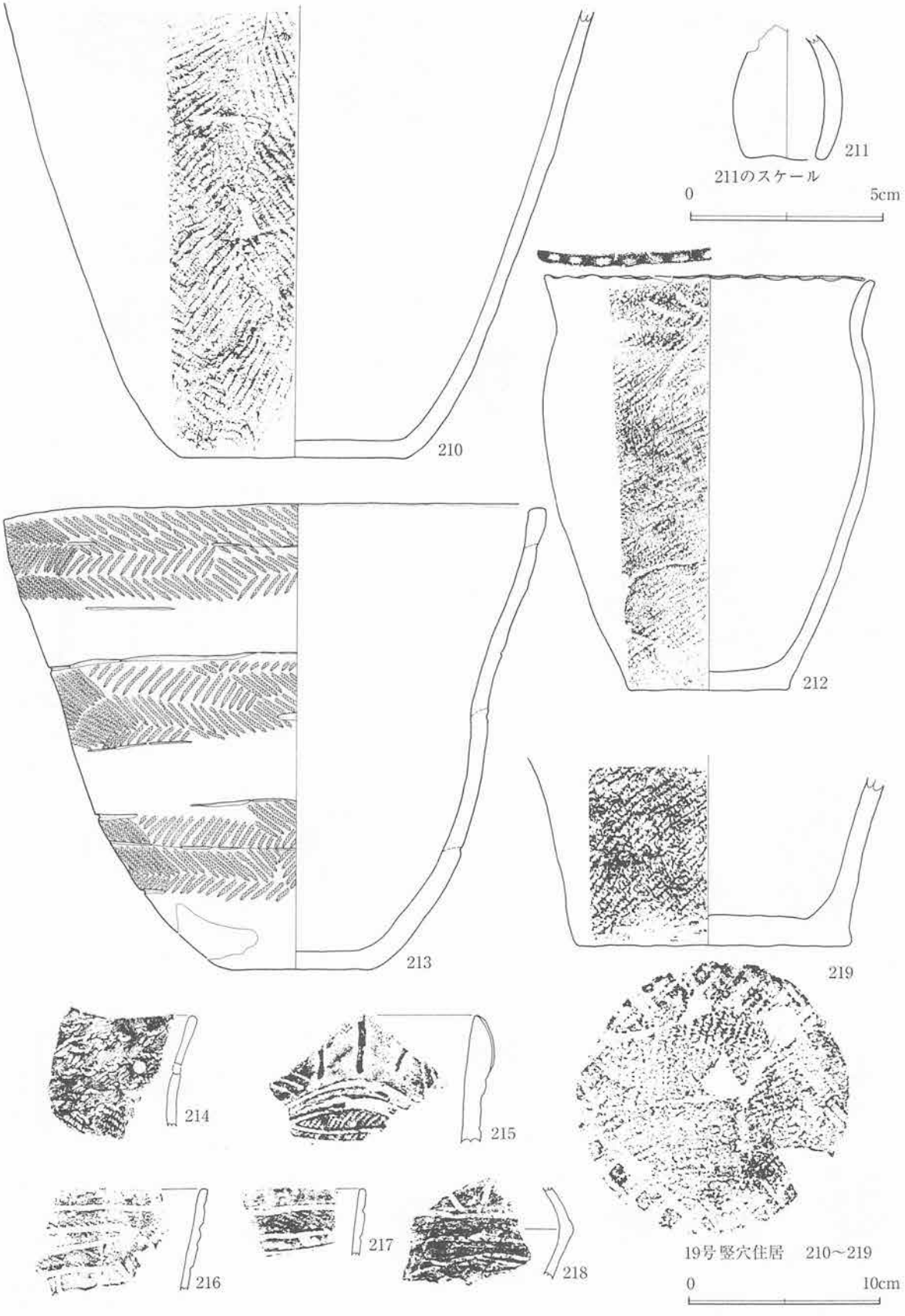
第50図　遺構内出土遺物（9）



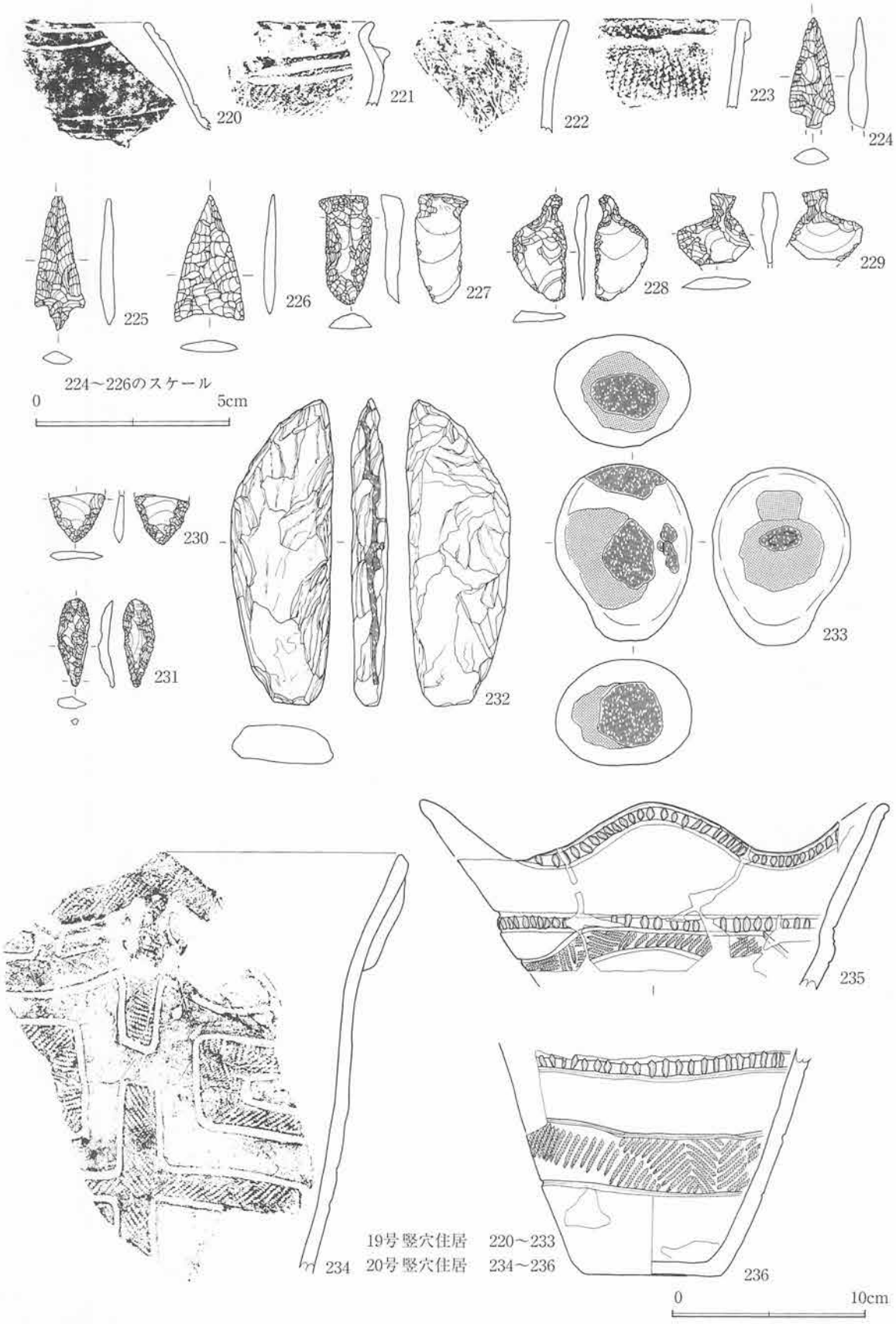
第51図　遺構内出土遺物（10）



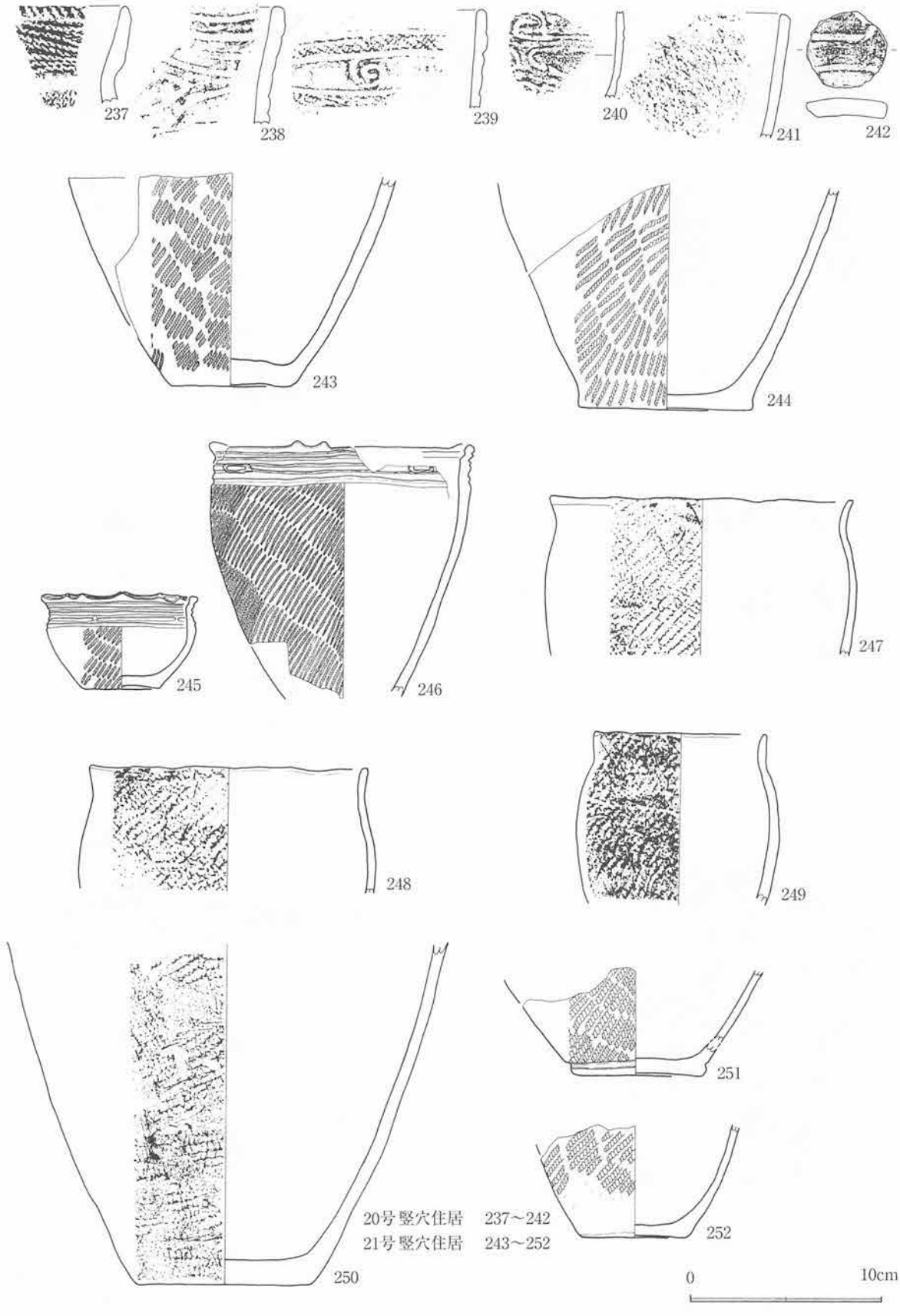
第52図　遺構内出土遺物（11）



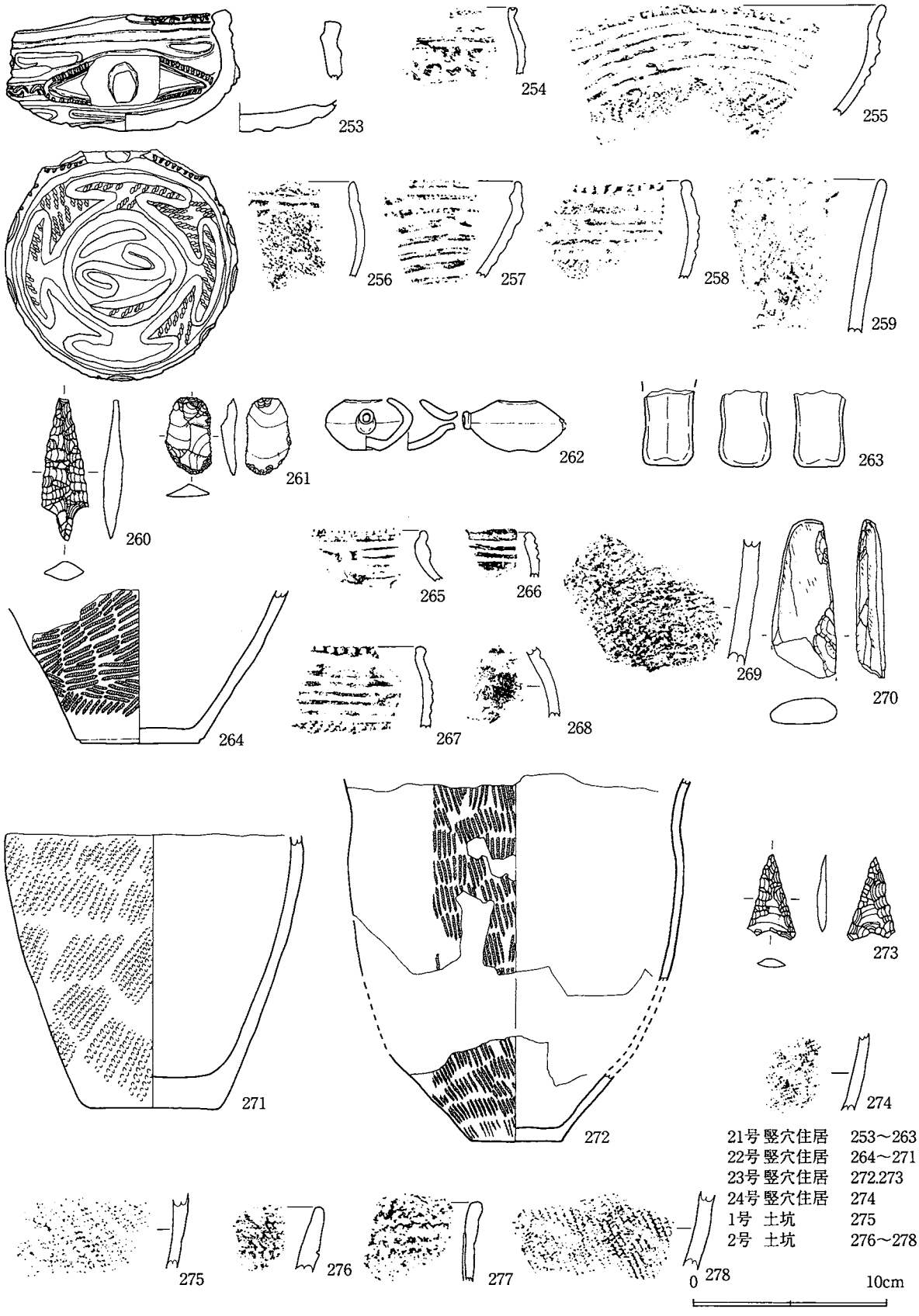
第53図　遺構内出土遺物（12）



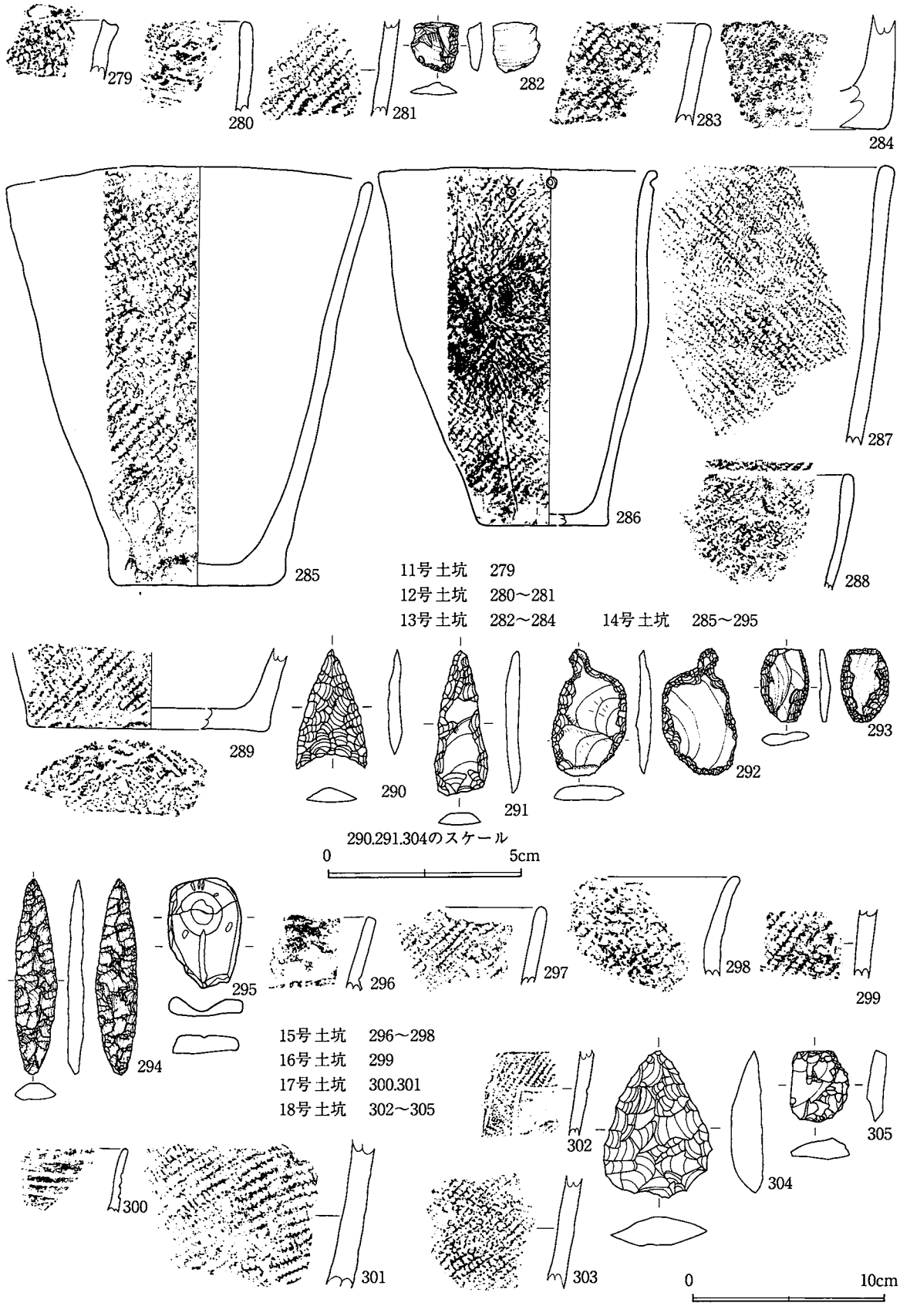
第54図　遺構内出土遺物（13）



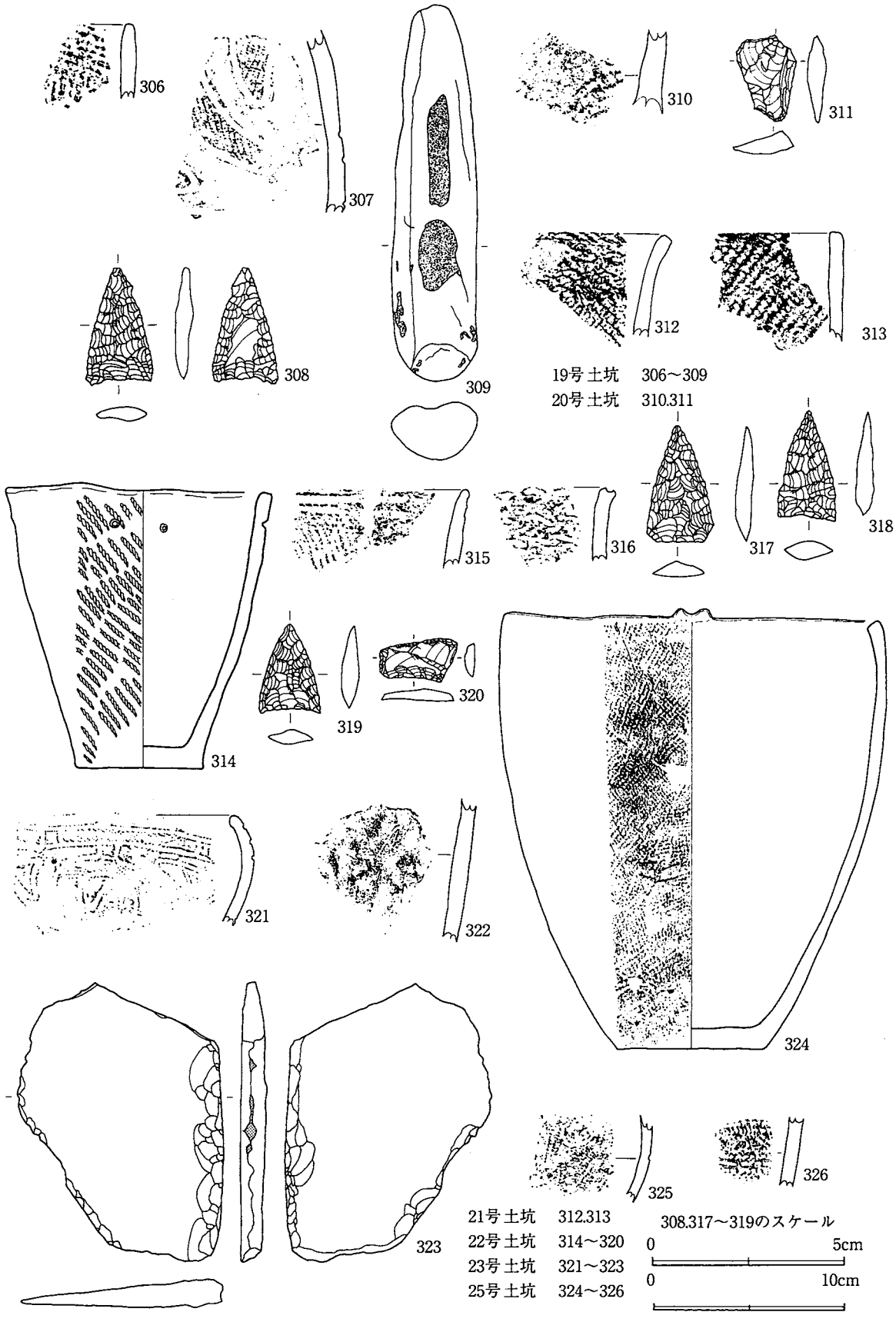
第55図　遺構内出土遺物（14）



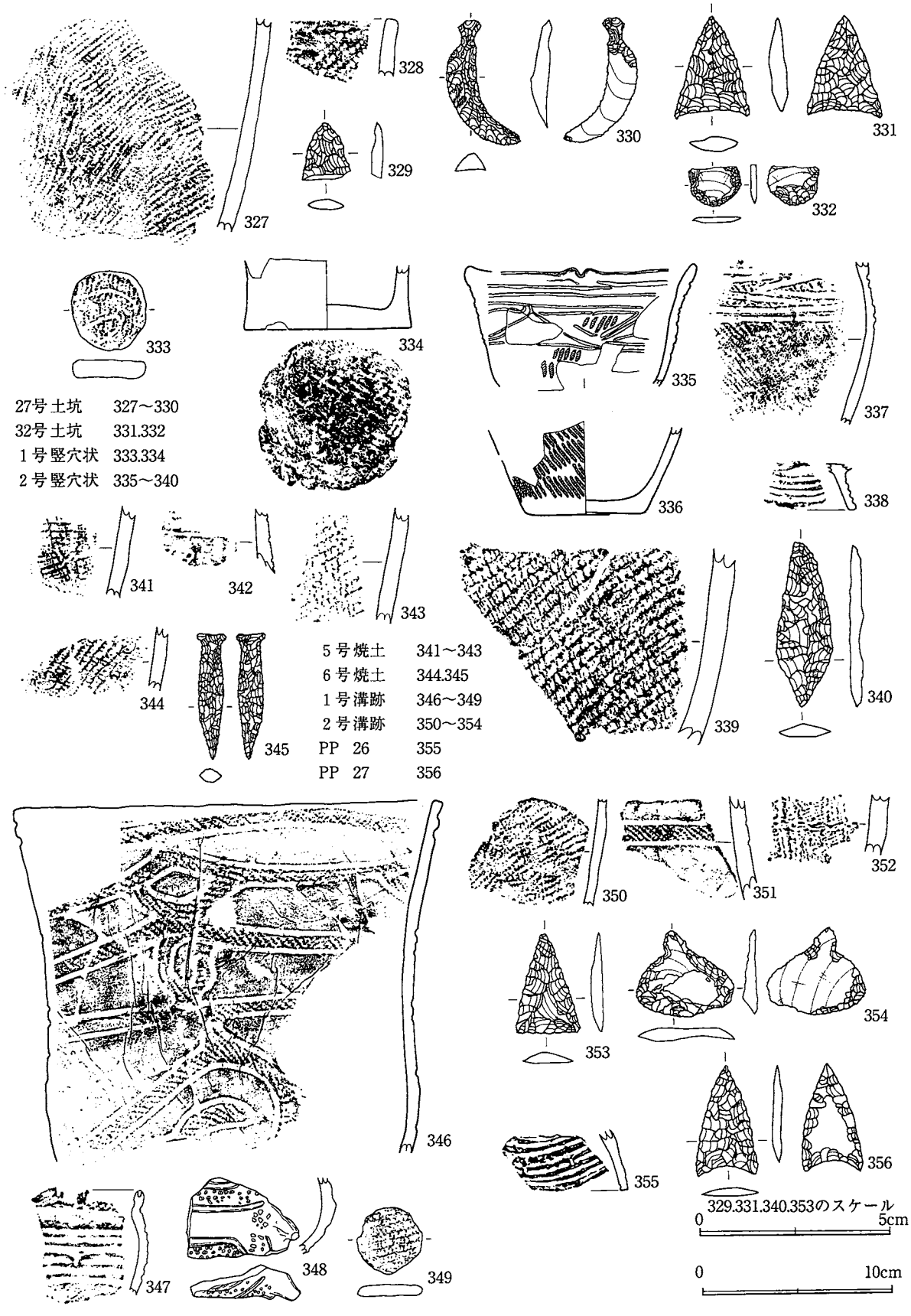
第56図　遺構内出土遺物（15）



第57図　遺構内出土遺物（16）

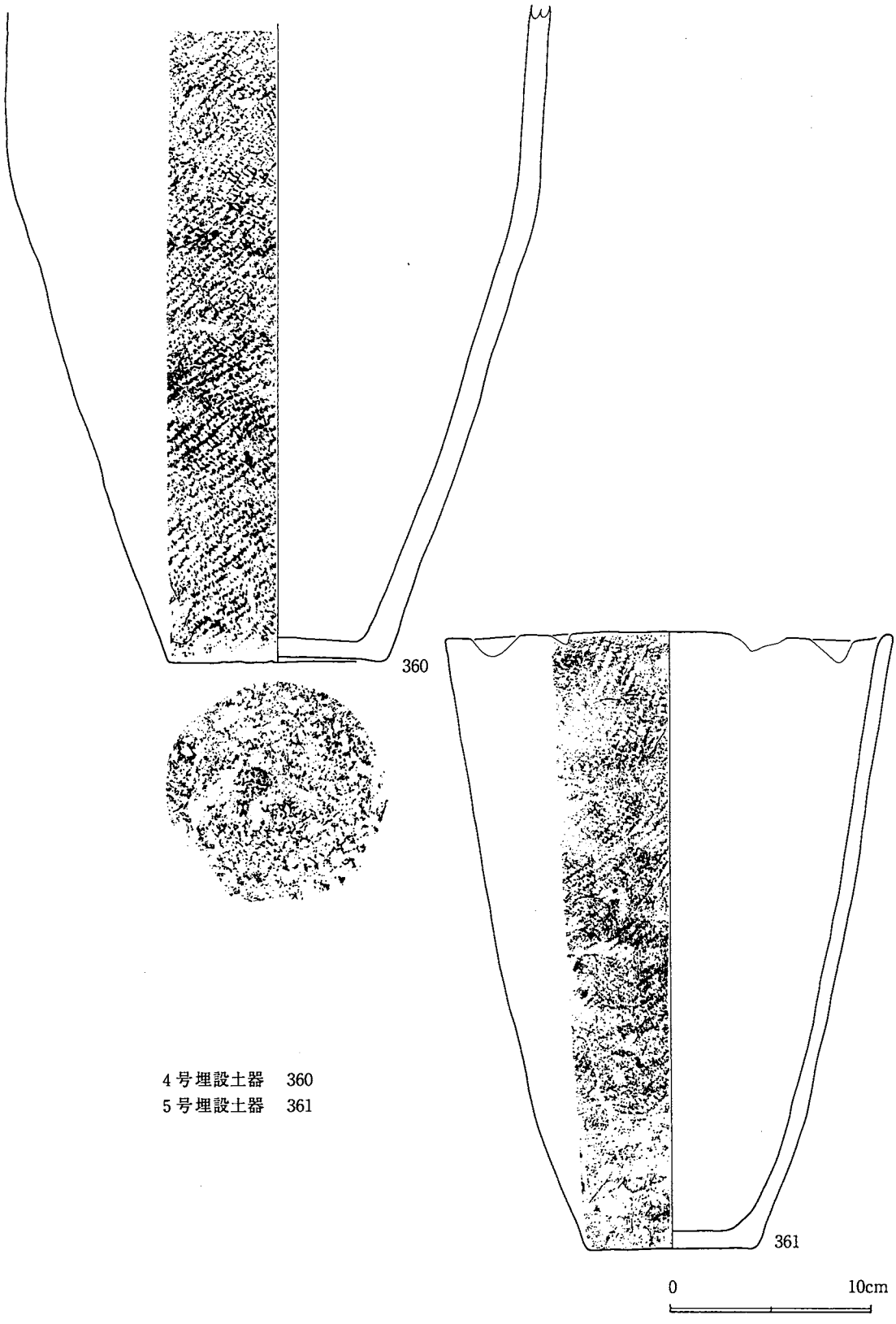


第58図　遺構内出土遺物（17）



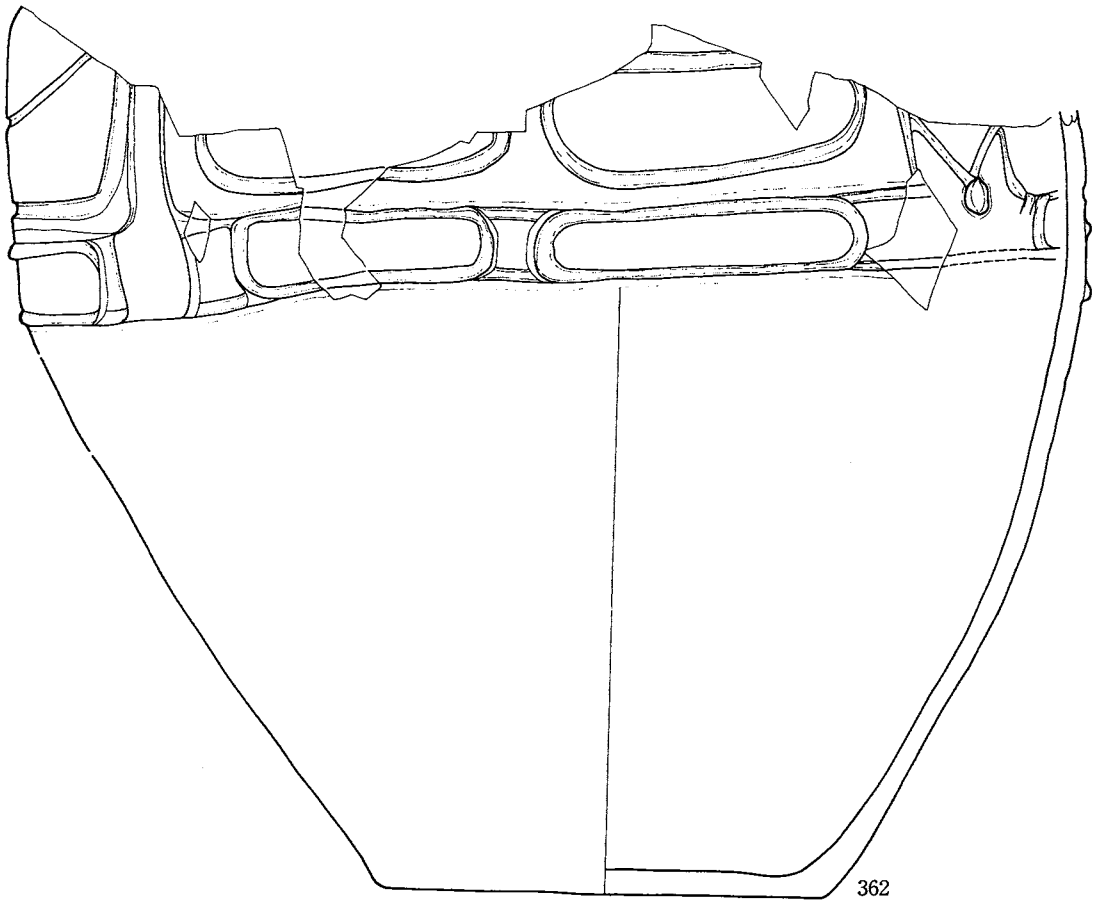
第59図　遺構内出土遺物（18）

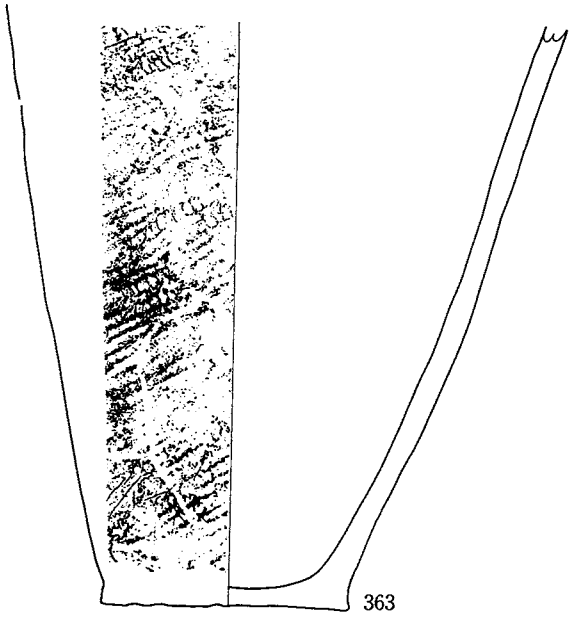
第60図　遺構内出土遺物（19）



4号埋設土器　360
5号埋設土器　361

第61図　遺構内出土遺物（20）

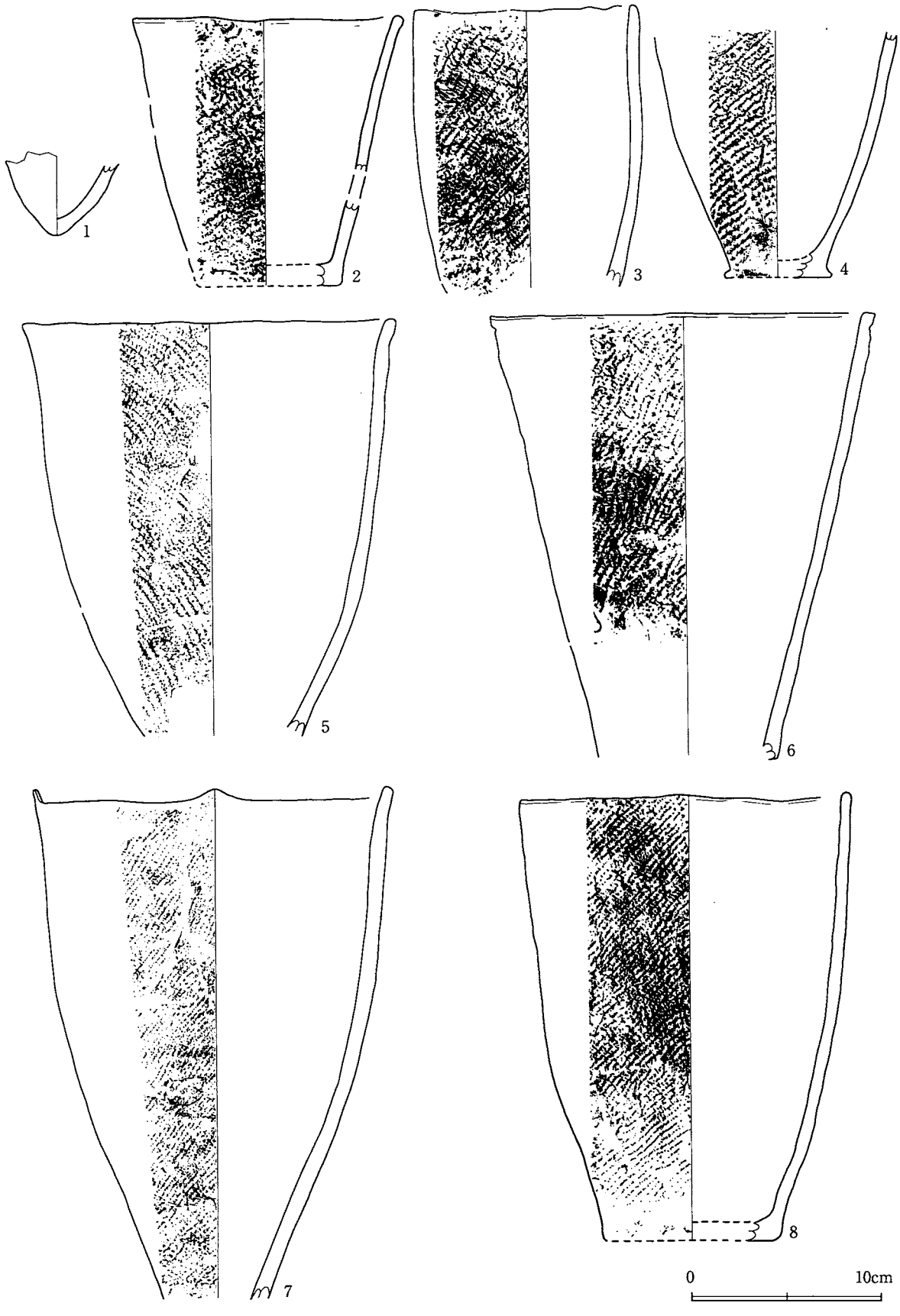




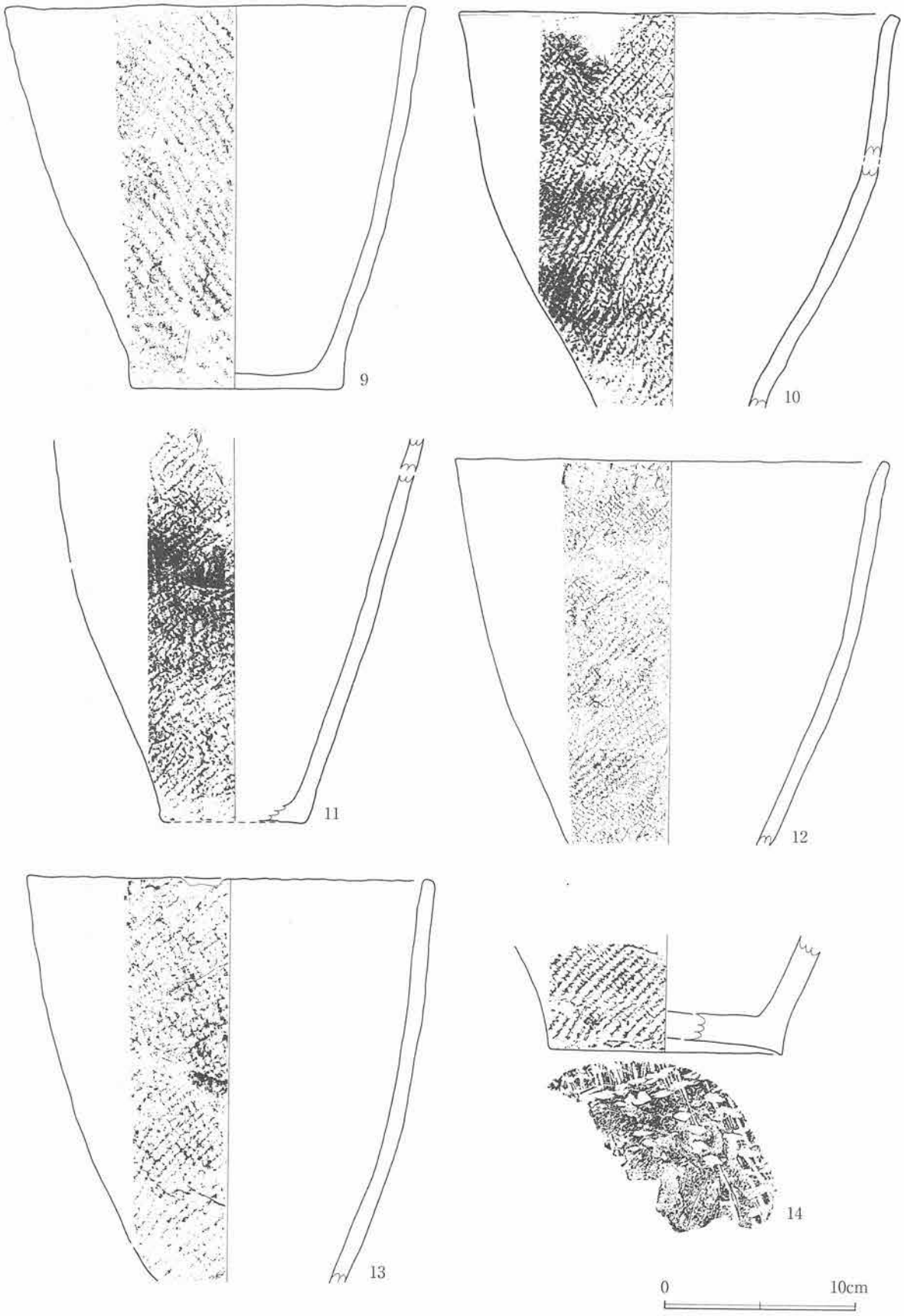
6号埋設土器　362
7号埋設土器　363

0　10cm

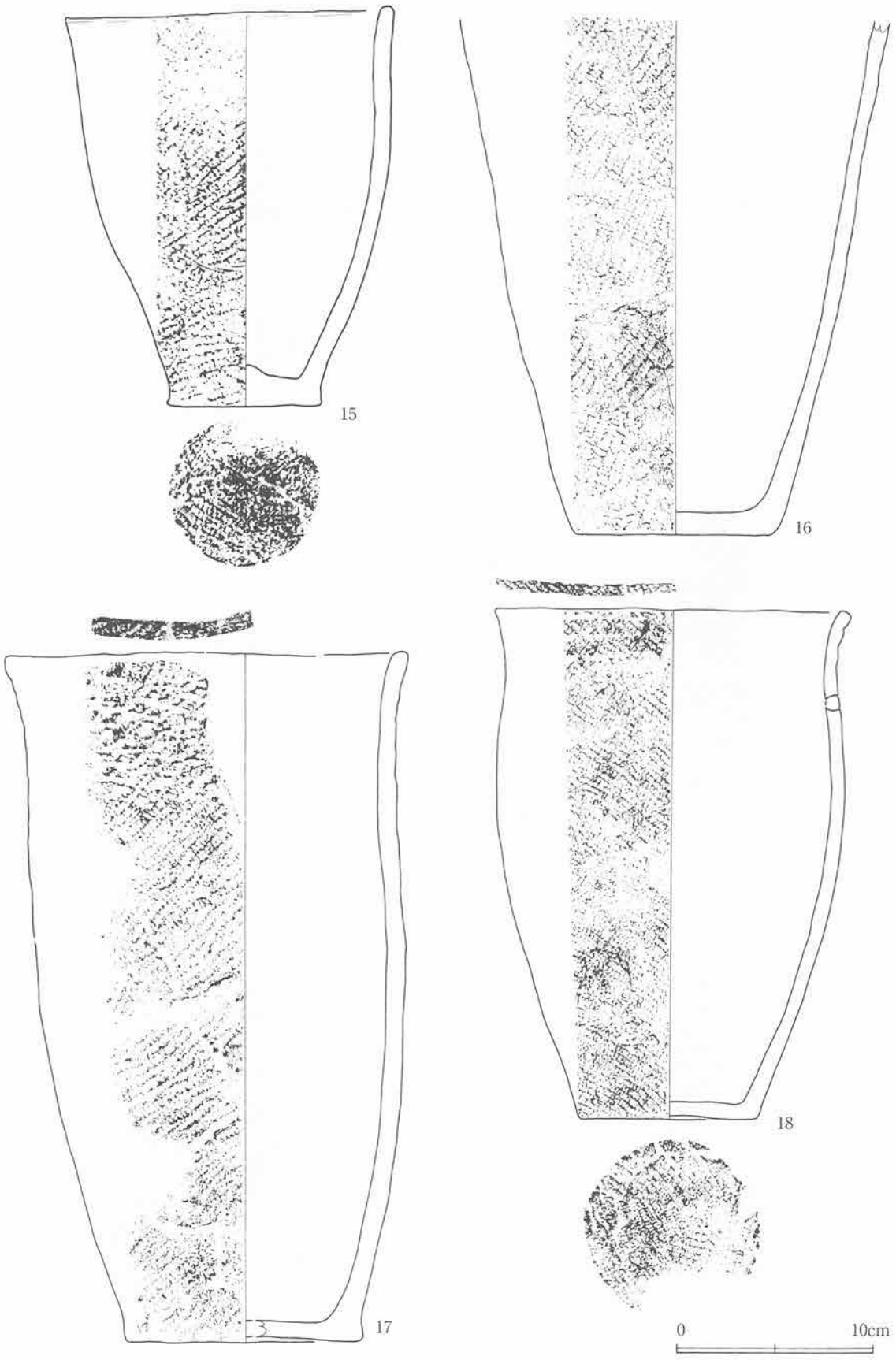
第62図　遺構内出土遺物（21）



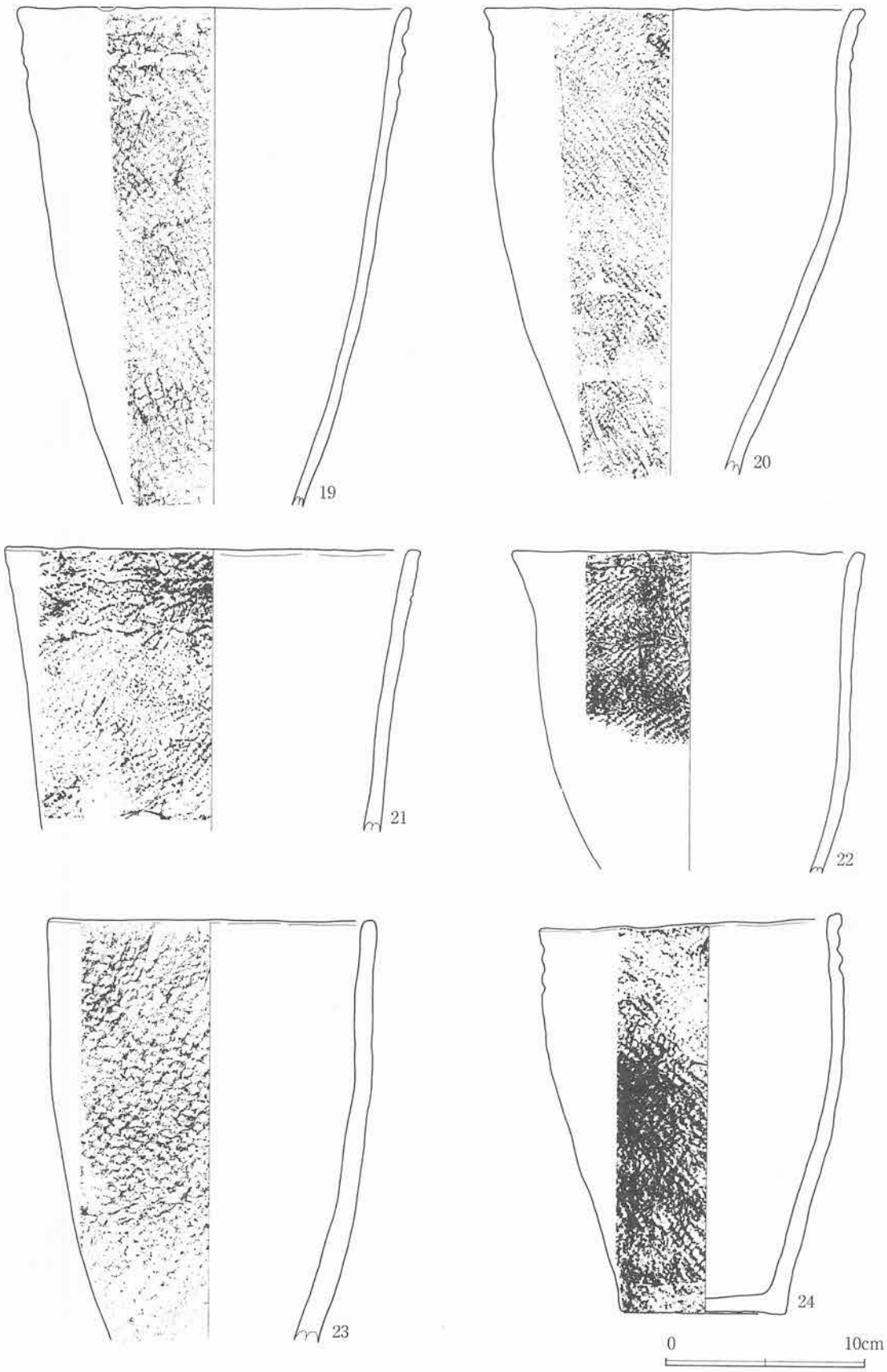
第63図　遺構外出土遺物（1）



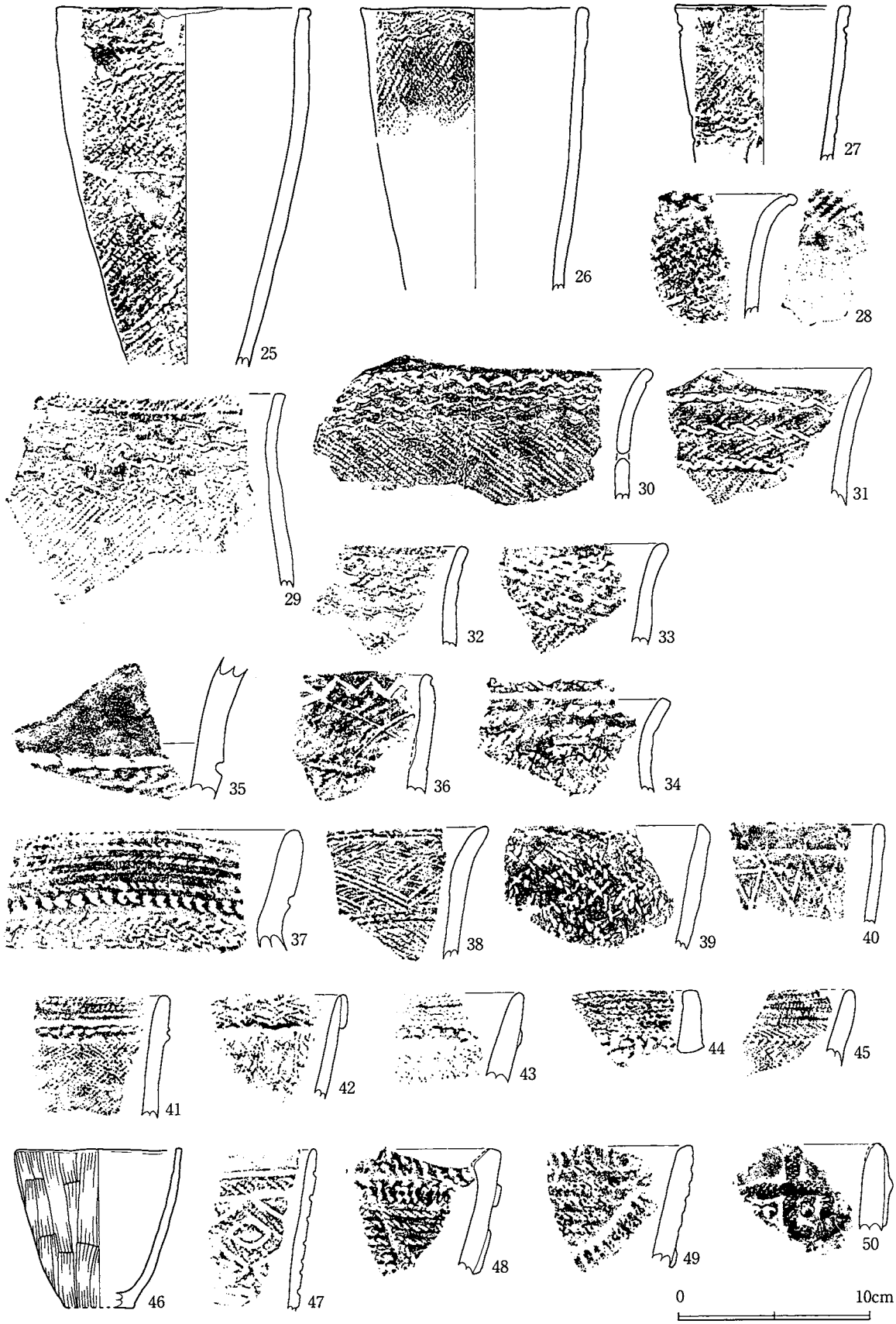
第64図　遺構外出土遺物（2）



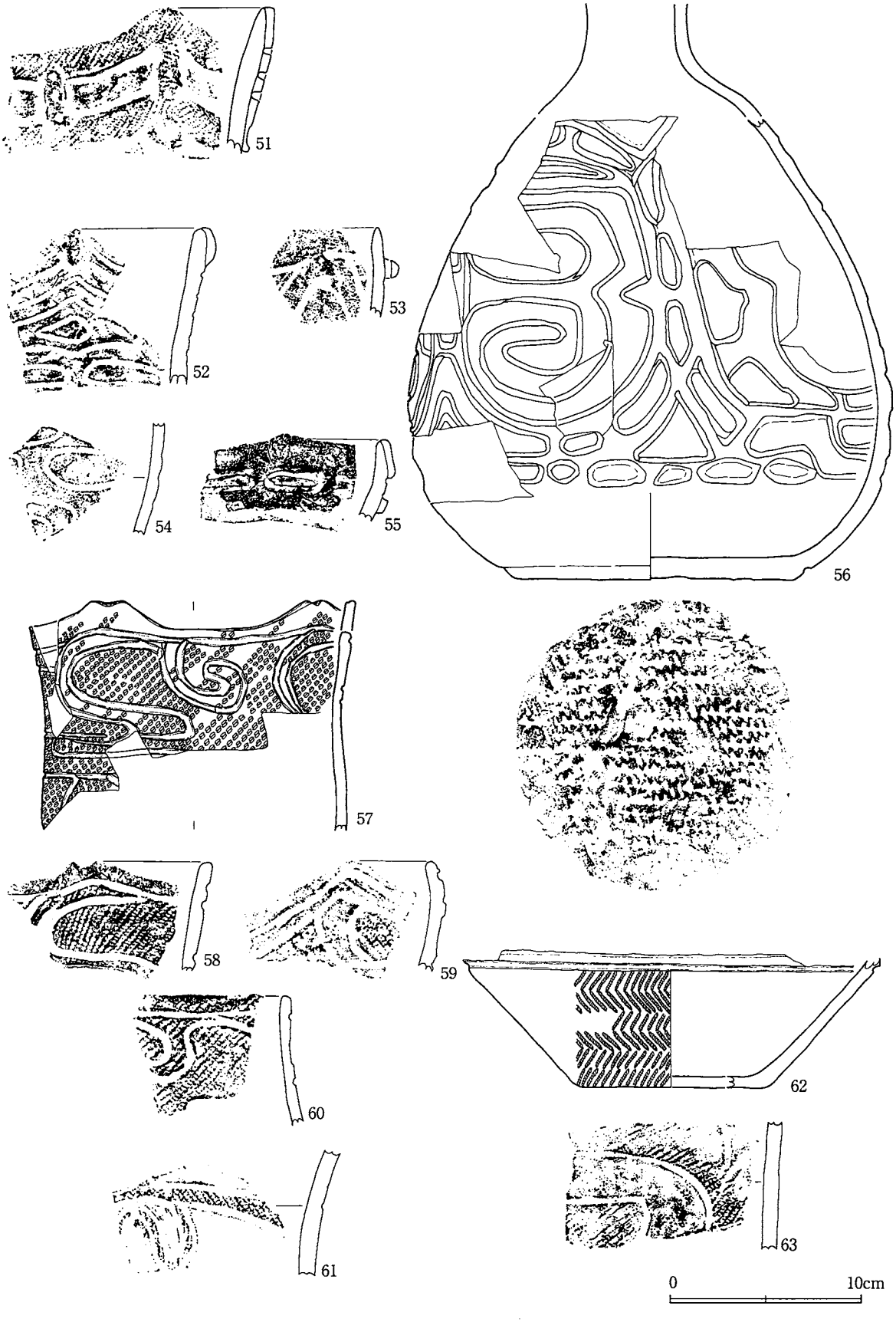
第65図　遺構外出土遺物（3）



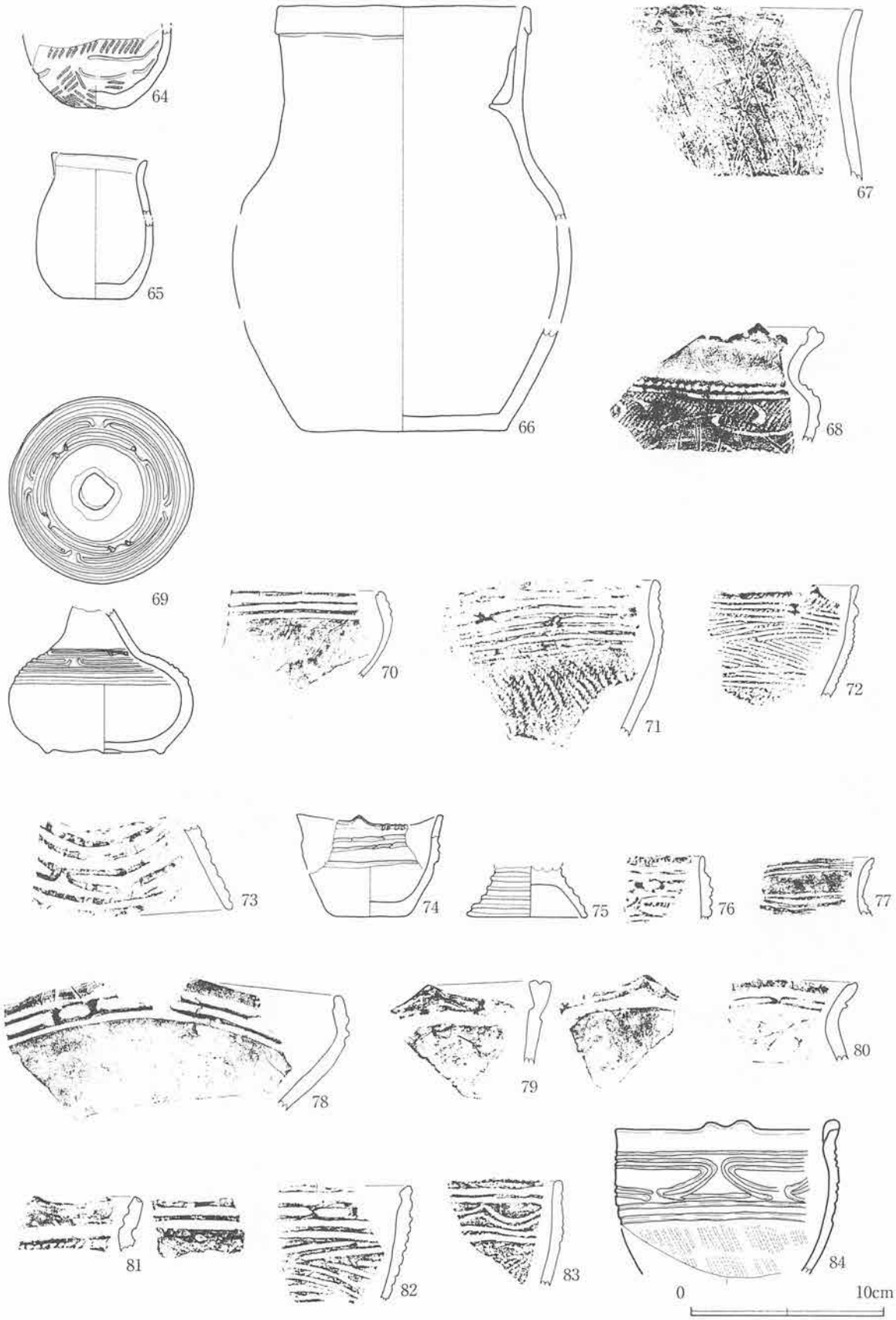
第66図　遺構外出土遺物（4）



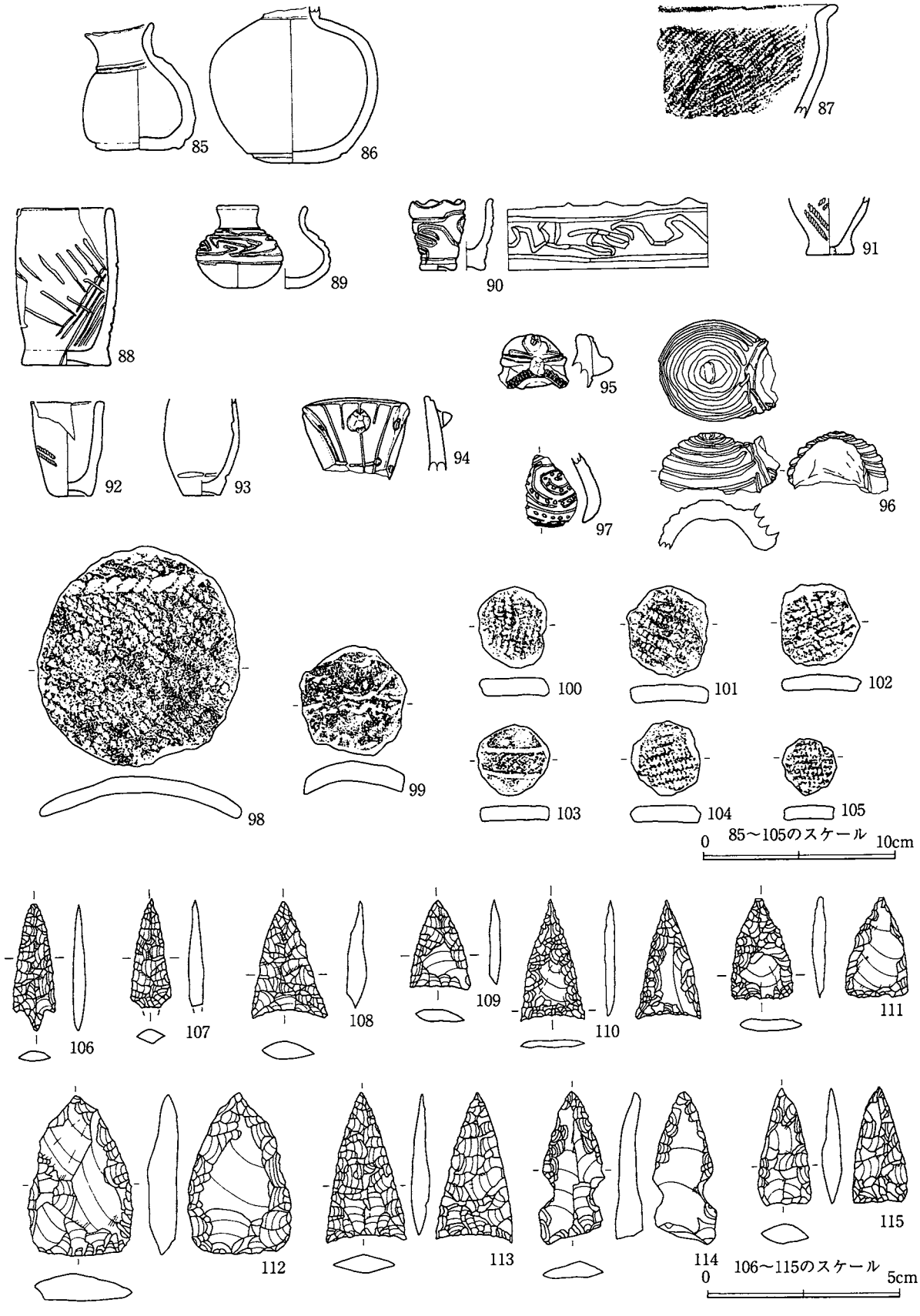
第67図　遺構外出土遺物（5）



第68図　遺構外出土遺物（6）

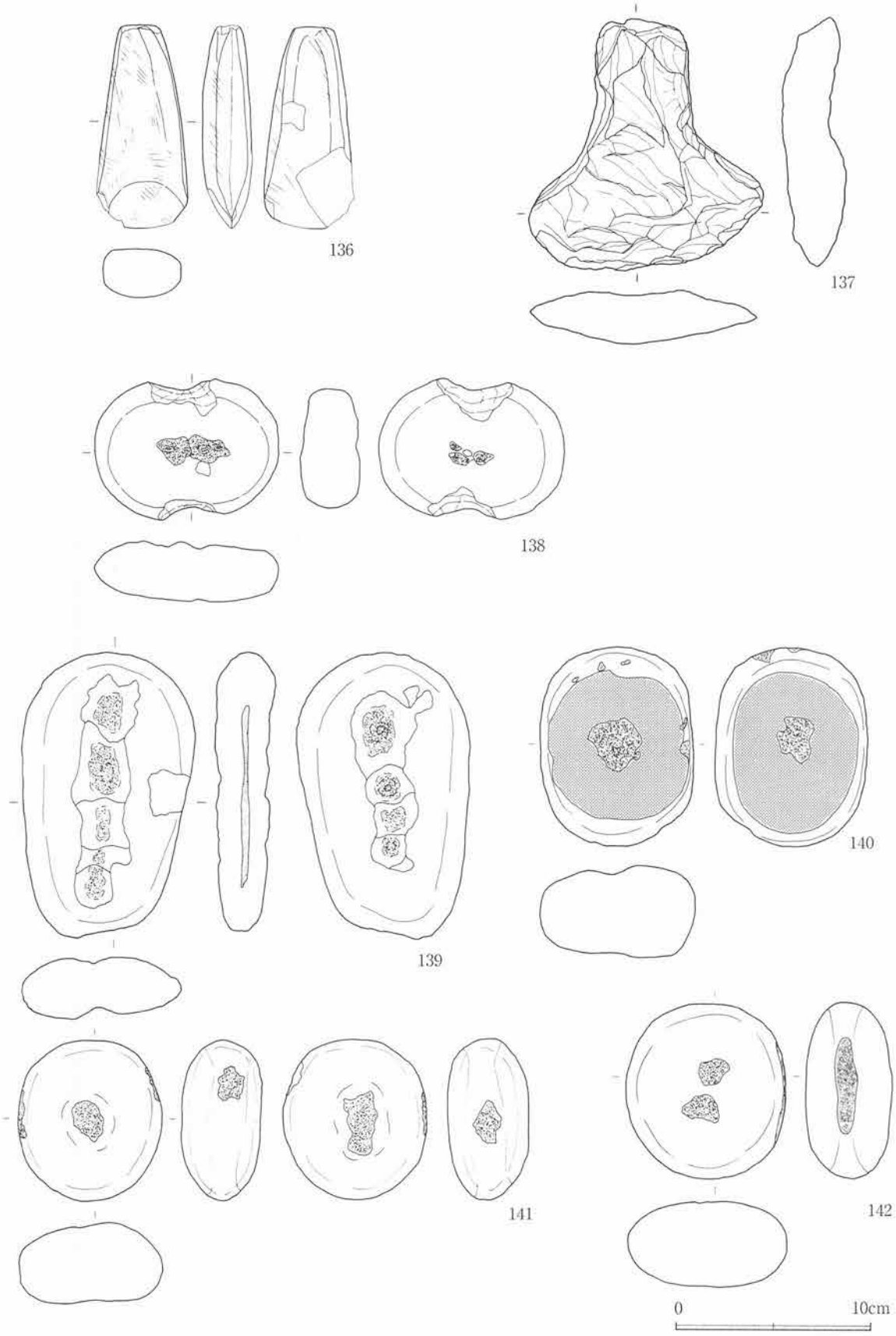


第69図　遺構外出土遺物（7）

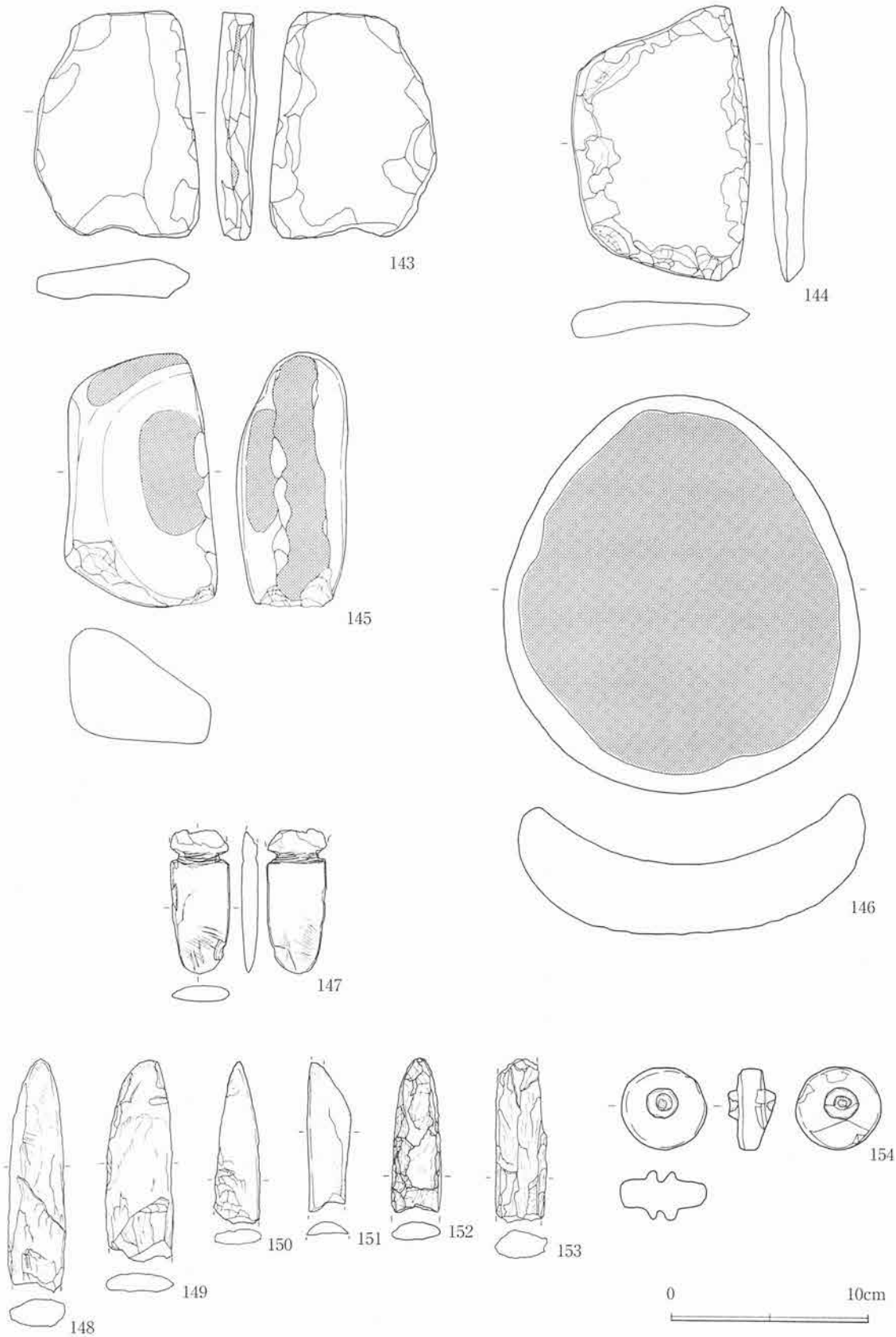


第70図　遺構外出土遺物（8）

第71図　遺構外出土遺物（9）



第72図　遺構外出土遺物（10）



第73図　遺構外出土遺物（11）

第２表　遺構内出土土器観察表

番号	出土地点・層位	器種・部位	口唇部形態	文様や特徴など	地　文	内面調整	底部形態	分類	胎　土	備　　考	図	写真
1	1号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁・角状	沈線文	ＬＲ縦位				金雲母	中・後期の可能性有り、胎土に金雲母を多量に含む異質な土器である	42	42
2	1号竪穴住居・埋土	深鉢・胴部上半		不整撚糸文	ＲＬ斜位？、単軸絡条体			Ⅱ－２	繊維中量	ＲＬ？斜行縄文施文後に不整撚糸文を充填している	〃	〃
3	1号竪穴住居・埋土	深鉢・胴部			ＲＬ縦位			Ⅱ－４	繊維微量、長石？	原体は０段多条の可能性有り	〃	〃
4	1号竪穴住居・埋土	深鉢・胴部			ＬＲ斜位					繊維の混入が確認できないことから、中期の可能性有り	〃	〃
5	1号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁・角状		ＲＬ縦位？			Ⅱ－２?	繊維多量	前期初頭の可能性有り。出土層位はNb－pと黒褐色土の混土	〃	〃
6	1号竪穴住居・埋土	深鉢・胴部			ＬＲ横位	ケズリ		Ⅱ－４	繊維中量		〃	〃
7	1号竪穴住居・埋土	深鉢・胴部			ＬＲ縦位	ケズリ		Ⅱ－２	繊維少量		〃	〃
12	2号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁・角状	撚糸文	ＲＬ縦位、単軸絡条体	ナデ・ケズリ		Ⅱ－２	繊維少量	ＲＬ斜行縄文施文後、撚糸文を充填している。大木２ａの可能性有り。出土層位は、暗褐色土と黒褐色土の混土	〃	〃
13	2号竪穴住居・埋土	深鉢・胴部			ＬＲ横・斜位			Ⅲ－５		外面煤付着	〃	〃
15	3号竪穴住居・埋土	深鉢？・胴部		沈線文（綾杉状）				Ⅳ－２			〃	〃
16	3号竪穴住居・埋土	浅鉢？・口縁部	平縁・２個１対の小突起、沈線	工字文？		ミガキ		Ⅴ－３			〃	〃
17	3号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁・丸み	不整撚糸文	原体不明、単軸絡条体			Ⅱ－２	繊維中量	大木２ａの可能性有り	〃	〃
19	4号竪穴住居・埋土	深鉢・ほぼ完形	平縁・角状・突起（２単位）	局所的にケズリ	ＬＲ横位、付加条	ナデ・ケズリ	平底、網代？	Ⅱ－２	繊維少量	付加条はＲＬ＋Ｒと推定される。外面口縁の一部に輪積痕？、内面調整は口縁裏は横ナデ・胴部から底部にかけて縦ケズリ。大木２ａ？	〃	〃
20	4号竪穴住居・埋土	深鉢・ほぼ完形	平縁・丸み・山形状突起（２単位）	突起下沈線文（円文）、口～胴部上半に波状沈線文	ＬＲ横位	ナデ・ケズリ		Ⅱ－２	繊維微量、砂粒少量	大木２ｂ？	〃	〃
21	4号竪穴住居・埋土	深鉢・ほぼ完形	平縁・丸み・縄文		ＬＲ横位		平底	Ⅱ－２	繊維中量	形式は見当を要する。大木１～２ａ？	〃	〃
22	4号竪穴住居・埋土	鉢？・底～胴部上半		懸垂文、刺突文（２列）、底部２cm程無文帯	ＲＬ斜位	ミガキ（黒色処理？）	平底（ミガキ）	Ⅲ－３	石英？	内面炭化物付着・縄文施文後に刺突及び沈線を施している。全般に丹念なミガキが施されている。	〃	43
23	4号竪穴住居・埋土	深鉢・胴部			ＬＲ斜・横位	ケズリ		Ⅲ－５	砂粒		〃	〃
24	4号竪穴住居・埋土	深鉢・底部			付加条		平底、網代・縄文	Ⅱ－４	繊維少量		〃	〃
25	4号竪穴住居・埋	深鉢・口縁部	平縁・丸み	口縁不整撚糸文	異条、単軸絡条体	ケズリ		Ⅱ－２	繊維少量	大木２ａ式の可能性有り	43	〃
26	4号竪穴住居・床	深鉢・胴部			異条（ＬＲ）	ケズリ		Ⅱ－４	繊維少量		〃	〃
28	5号竪穴住居・埋土	深鉢・底～胴部			ＬＲ（０段多条）横位		平底、網代・ケズリ	Ⅱ－２	繊維中量	底部はやや突出気味、大木２ａ？	〃	〃
29	5号竪穴住居・埋土	深鉢・底部			ＬＲ横位		平底	Ⅱ－２	繊維中量	底部はやや突出気味	〃	〃
30	5号竪穴住居・埋土	深鉢・底部			ＬＲ横位		平底、網代	Ⅱ－２	繊維中量		〃	〃
31	5号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁・丸み	横位粘土紐貼付				Ⅱ－２	粗礫	円筒か大木か検討を要する	〃	〃
32	5号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁・丸み・肥厚		ＬＲ横位	ミガキ？		Ⅲ－５	石英	口縁部形態は頂部が丸く、内面に向かって内傾する。	〃	〃
33	5号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁？・丸み		ＬＲ（０段多条）横位	ケズリ、ナデ		Ⅱ－２	繊維中量	外面煤付着	〃	〃
34	5号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁・丸み	口縁不整撚糸文	ＬＲ横位、単軸絡条体			Ⅱ－２	繊維中量	ＬＲ斜行縄文施文後、撚糸文を充填している。	〃	〃
41	6号竪穴住居・埋土	深鉢・底～胴部下半		底部から５cmほど無文帯	ＬＲ横位	ケズリ	平底、ケズリ	Ⅱ－２	繊維中量		44	〃
42	6号竪穴住居・埋土	深鉢・底部		原体押圧文？	ＬＲ横位	ケズリ	平底、縄文	Ⅱ－２	繊維中量		〃	〃
43	6号竪穴住居・埋土	鉢・口縁部	Ｂ突起	羊歯状文	ＬＲ横位	ナデ？		Ⅴ－１	砂粒		〃	〃
44	6号竪穴住居・埋土	壺？・肩部		貼付隆線				Ⅴ－４	金雲母		〃	〃
45	6号竪穴住居・埋土	鉢？・肩部		三叉文、平行沈線			平底	Ⅴ－１		胎土悪い	〃	〃

番号	出土地点・層位	器種・部位	口唇部形態	文様や特徴など	地　文	内面調整	底部形態	分類	胎　土	備　　考	図	写真
46	6号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁・角状	撚糸文	LR横位、単軸絡条体			Ⅱ－2	繊維中量	内面剥落多。円筒か大木か検討を要する。	44	43
47	6号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁・原体圧痕	不整撚糸文	RL縦・斜位、単軸絡条体	ナデ、ミガキ		Ⅱ－2	繊維中量		〃	〃
50	7号竪穴住居・埋土	深鉢？・口縁部	平縁・沈線	貼付隆線、沈線	LR横位？			Ⅲ-2？		隆線の様相としては貼付後両側縁を調整しておらず稚拙な施文	〃	44
51	7号竪穴住居・埋土	深鉢・胴部		撚糸文	LR横位、単軸絡条体	ケズリ		Ⅱ－2	繊維中量		〃	〃
52	7号竪穴住居・埋土	深鉢？・胴部		沈線	LR縦位			Ⅲ－5	金雲母・砂粒	中期末葉？	〃 〃	〃 〃
56	8号竪穴住居・埋土	深鉢・底～胴部下半			LR（0段多条）横位	ケズリ	平底	Ⅱ－2	繊維少量	本遺跡においては小形の深鉢に相当する	〃	〃
57	8号竪穴住居・埋土	深鉢・底部			LR横位		平底	Ⅱ－2	繊維少量、粗礫	底面剥落	〃 〃	〃 〃
58	8号竪穴住居・埋土	深鉢・口～胴部上半	平縁・丸み		LR(片末端処理)横位			Ⅱ－2	繊維微量、砂粒、粗礫	円筒か大木か検討を要する	〃	〃
59	8号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁・丸み	撚糸文	LR横位、単軸絡条体			Ⅱ－2	繊維少量	円筒か大木か検討を要する	〃	〃
60	8号竪穴住居・埋土	深鉢・底部			RL横位		平底、縄文	Ⅱ－2	繊維少量、雲母	内面炭化物付着	〃	〃
61	8号竪穴住居・埋土	深鉢・胴部			LR横位			Ⅱ－4	繊維中量		45	〃
67	9号竪穴住居・埋土	深鉢・底部			LR横・斜位		平底	Ⅱ－4	粗礫少量		〃	〃
68	9号竪穴住居・埋土	小型深鉢・1/2完形	平縁、丸み		LR横位		平底	Ⅱ－4	繊維微量			
69	9号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁、先鋭、肥厚	口縁刻目、平行沈線	RL縦位	ミガキ		Ⅳ－1			〃	〃
70	9号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁、丸み、折り返し口縁	沈線文、ミガキ		ナデ		Ⅳ－1		加曽利B1併行	〃	〃
71	9号竪穴住居・埋土	深鉢・胴部		磨消縄文？、刺突文	RL横位	ナデ		Ⅳ－2		外面煤付着	〃	〃
72	9号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁、角状、折り返し口縁	横位沈線、ミガキ	RL横位	ミガキ		Ⅳ－1			〃	〃
73	9号竪穴住居・埋土	深鉢・胴部		羽状沈線				Ⅱ－1	繊維多量、石英		43 〃	〃 〃
74	9号竪穴住居・埋土	深鉢・胴部		木目状撚糸文	単軸絡条体			Ⅱ-3-a	繊維中量、粗礫		〃	〃
75	9号竪穴住居・埋土	深鉢・胴部		刺突列、沈線、ミガキ				Ⅳ－2			〃	〃
85	10号竪穴住居・埋土	深鉢・胴部			LR横位			Ⅲ－5			〃	45
86	10号竪穴住居・埋土	深鉢・胴部		綾縁文	LR横位	ケズリ		Ⅱ－4			〃	〃
87	10号竪穴住居・埋土	深鉢・胴部		沈線文	LR横位			Ⅳ－4			〃	〃
91	11号竪穴住居・埋土	深鉢・口～胴部上半	平縁、丸み		LR横位	ナデ		Ⅳ－4		内外面煤付着	46	〃
92	11号竪穴住居・埋土	深鉢？・胴部		沈線文（幾何学文様）	L無節	ケズリ・ミガキ		Ⅳ－1	金雲母微量	沈線は稚拙	〃	〃
93	11号竪穴住居・埋土	深鉢・胴部		網目状撚糸文	単軸絡条体	ミガキ		Ⅳ－4			〃	〃
94	11号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁、丸み	口縁部原体押圧文、刺突文（竹管）	L無節	ミガキ		Ⅱ-3-a	繊維微量		〃 〃	〃 〃
95	11号竪穴住居・埋土	深鉢・胴部		円文（沈線）	RL斜位			Ⅳ－4			〃	〃
96	12号竪穴住居・埋土	壺・頸～胴部状半		工字文？、ミガキ		ミガキ、ナデ		Ⅴ－3		外面調整は全般に丹念なミガキ	〃	〃
97	12号竪穴住居PP9・埋土	壺・1／2完形	平縁、丸み	工字文、ミガキ、口縁裏側溝状沈線			平底（丸気味）	Ⅴ－3			〃	〃
98	12号竪穴住居・埋土	台付鉢・1／4完形	平縁、沈線	沈線、変形工字文	LR	ミガキ	台付き	Ⅴ－3		鉢と脚部の接点部及び脚部下位に3単位で孔あり（文様の起点に相当する）	〃	〃

番号	出土地点・層位	器種・部位	口唇部形態	文様や特徴など	地　文	内面調整	底部形態	分類	胎土	備　考	図	写真
99	12号竪穴住居・埋土	台付鉢・口～底部	平縁、突起、沈線	沈線、沈線文、粘土瘤	ＬＲ	ミガキ、ナデ	台付き	Ｖ－３			46	45
100	12号竪穴住居・埋土	台付鉢・ほぼ完形	平縁、突起、沈線	沈線文（羽状）、粘土瘤	ＬＲ横・斜位	ミガキ	台付き	Ｖ－３		縄文を施文後、沈線による文様がⅡａ帯に描かれる、Ⅱ帯は地文のみ、台部は無文	〃	〃
101	12号竪穴住居・埋土	台付鉢・１／２完形	小波状、突起、沈線	変形工字文	ＲＬ横・斜位	ミガキ、ナデ	台付き	Ｖ－３		外面朱塗布、台部の単沈線は５単位で施文。Ⅱ帯の縄文の施文について、放射状に回転されている様相である	〃	〃
102	12号竪穴住居・埋土	台付皿・１／３完形	平縁、角状、突起？	複数段の刻目帯、綾杉状沈線文、ミガキ			台付き	Ⅳ－２		外面調整は丹念なミガキが施される。内面調整は粗雑で輪積痕が確認できる。加曽利Ｂ式の影響が窺える。	〃 〃	〃 〃
103	12号竪穴住居・埋土	台付鉢・ほぼ完形	平縁、突起？	変形工字文(稚拙)、粘土瘤、口縁裏側溝状沈線（２条）	ＲＬ斜位	ミガキ	台付き	Ｖ－３		Ⅱ帯の縄文の施文について、放射状に回転されている様相である	〃	46
104	12号竪穴住居・埋土	小型深鉢・ほぼ完形	平縁、刻目、突起（２単位）	口縁部不整撚糸文（幅1.5cm前後）	単軸絡条体、ＬＲ横位		平底	Ⅱ－２	繊維少量、雲母	大木２ａの可能性有り	〃	〃
106	12号竪穴住居・埋土	小型鉢・完形	平縁、丸み	口縁部1cmほど無文帯	ＬＲ横位	ミガキ	平底	Ｖ－４			〃	〃
107	12号竪穴住居・埋土	鉢・１／２完形	平縁、丸み		ＬＲ斜位	ミガキ	やや上げ底状	Ｖ－４	砂粒		〃	〃
108	12号竪穴住居・埋土	鉢？・口縁部	平縁、丸み、突起	楕円文、平行沈線文	ＲＬ？横・斜位			Ｖ－３？		内面炭化物付着	47	〃
109	12号竪穴住居・埋土	深鉢・口～胴部上半	平縁、丸み	口縁部不整撚糸文（幅2.5cm前後）	単軸絡条体、ＬＲ（０段多条）横位	ナデ		Ⅱ－２	繊維少量	内面炭化物付着	〃	〃
110	12号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁、丸み	原体押圧文	ＬＲ	ミガキ		Ⅱ-３-ａ		時期検討を要する	〃	〃
111	12号竪穴住居PP３・埋土	深鉢・口縁部	平縁、丸み	ケズリ	ＬＲ横位	ミガキ、ケズリ		Ⅱ－４	繊維微量	大木１？	〃	〃
112	12号竪穴住居・床	深鉢・口縁部	平縁、丸み	不整撚糸文	単軸絡条体	ナデ		Ⅱ－２	繊維微量	大木２ａ	〃	〃
113	12号竪穴住居・埋土	鉢・口縁部	平縁、丸み	沈線文、粘土瘤、口縁裏側溝状沈線	ＬＲ？	ナデ、ミガキ		Ｖ－３		内面物付着、焼成良	〃	〃
114	12号竪穴住居・埋土	鉢？・口縁部	平縁、丸み、刺突文	刺突文、沈線文、口縁裏側溝状沈線	ＲＬ横位	ミガキ		Ｖ－３	海綿骨子		〃	〃
115	12号竪穴住居・埋土	注口土器？・胴部		雲形文	ＬＲ横位	ナデ、ケズリ		Ｖ－２			〃	〃
116	12号竪穴住居・埋土	台付浅鉢？・口縁部	平縁、丸み	平行沈線、口縁裏側溝状沈線、ミガキ		ミガキ		Ｖ－３		内外面とも丹念なミガキが施される	〃 〃	〃 〃
117	12号竪穴住居・埋土	台付浅鉢？・口縁部	平縁、突起、沈線	変形工字文		ミガキ		Ｖ－３			〃	〃
118	12号竪穴住居・埋土	壺・肩部		工字文、ミガキ				Ｖ－３		調整は外面が丹念なミガキ、内面が粗い	〃	〃
131	13号竪穴住居・埋土	深鉢・１／４完形	平縁、丸み	沈線、口縁部不整撚糸文、頸部横位貼付隆線(隆線上刺突文)	単軸絡条体、ＬＲ斜位			Ⅱ-３-ａ	繊維少量		48 〃 〃	47 〃 〃
132	13号竪穴住居・埋土	深鉢・ほぼ完形	平縁、丸み	口縁不整撚糸文（幅3cm前後）	単軸絡条体、ＬＲ横位		平底	Ⅱ－２	繊維少量、粗礫	外面口～胴部中位付近まで煤付着、内面剥落多	〃	〃
133	13号竪穴住居・埋土	深鉢・ほぼ完形	平縁、角状～丸み		ＬＲ横位	ケズリ	平底、ケズリ	Ⅱ－４	繊維中量、石英	外面口縁付近に煤付着、原体の節が通常よりも大きい	〃	〃
134	13号竪穴住居・埋土	小型深鉢・胴～底部			ＬＲ横位		平底	Ⅱ－２	繊維微量	内面煤付着	〃	〃
135	13号竪穴住居・埋土	深鉢・ほぼ完形	平縁、丸み	口縁部不整撚糸文（幅3cm前後）	単軸絡条体、ＬＲ横位		やや上げ底状、縄文	Ⅱ－２	繊維中量	大木２ａ?、内面胴部中～底面にかけて煤多量付着、外傾について器高に比べて口径値が長い（スマートでない）	〃	〃
136	13号竪穴住居・埋土	深鉢・ほぼ完形	平縁、丸み		ＲＬＲ		やや上げ底状、縄文	Ⅱ－２	繊維中量	大木１～２ａ?	49	48
137	13号竪穴住居・埋土	深鉢・１／２完形	平縁、丸み	口縁部不整撚糸文（幅3cm前後）	単軸絡条体、ＲＬ横位	ケズリ	平底、網代	Ⅱ－２	繊維中量	外面の口～胴部中位まで煤付着、内面底部に煤付着	〃	〃
138	13号竪穴住居・埋土	深鉢・胴～底部			Ｌ無節	ケズリ	平底	Ⅱ－２	繊維中量	内面煤付着	〃	〃

番号	出土地点・層位	器種・部位	口唇部形態	文様や特徴など	地　文	内面調整	底部形態	分類	胎土	備　　考	図	写真
139	13号竪穴住居・埋土	小型深鉢・1／4完形	平縁、丸み、刺突文	口縁部不整撚糸文（幅2.5～3cm）	単軸絡条体、ＬＲ	ケズリ	やや上げ底状	Ⅱ－2	繊維少量	大木２ａ?、内面底部付近炭化物付着	49	48
140	13号竪穴住居・埋土	深鉢・ほぼ完形	小波状、２個１対の山形状突起（２単位?）、縄文		ＬＲ横位	ケズリ	平底	Ⅱ－2	繊維中量	外面煤付着、大木１～２ａ?	〃	〃
141	13号竪穴住居・埋土	深鉢・口～胴部上半	平縁、丸み		付加条（ＬＲ）			Ⅱ－2	繊維少量	外面煤付着、大木１?	〃	〃
142	13号竪穴住居・埋土	小型深鉢・口～胴部	平縁、丸み、縄文	撚糸文	単軸絡条体			Ⅱ－2	繊維中量	内面口縁部付近煤付着、大木２ａ?	〃	〃
143	13号竪穴住居・埋土	深鉢・口～胴部上半	平縁、丸み、縄文	不整撚糸文	単軸絡条体、ＬＲ横位	ケズリ		Ⅱ－2	繊維中量	外面口縁付近煤付着	〃	〃
144	13号竪穴住居・埋土	深鉢・底部			ＬＲ横位		平底、ケズリ	Ⅱ－2	繊維少量	器厚が太い	〃	〃
145	13号竪穴住居・埋土	深鉢・口～胴部中位	平縁、丸み	原体押圧文	ＬＲ横位			Ⅱ－2	繊維少量、粗礫	内面剥落多、大木２ａ	50	〃
146	13号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁、角状～丸み	不整撚糸文	単軸絡条体、ＬＲ横位	ナデ		Ⅱ－2	繊維中量		〃	〃
147	13号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁、丸み	不整撚糸文	単軸絡条体			Ⅱ－4	繊維少量、雲母	円筒下層ｃもしくは円筒下層ａ	〃	〃
148	13号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁、丸み		ＬＲ横位	ケズリ、ナデ		Ⅱ－2	繊維中量	大木１～２ａ	〃	〃
149	13号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁、丸み	不整撚糸文	ＲＬ縦位	ケズリ		Ⅱ－2	繊維中量		〃	〃
157	14号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁、丸み	非結束羽状縄文	ＬＲ・ＲＬ	ミガキ		Ⅱ－2	繊維少量、粗礫	外面剥落多、内面調整は丹念なミガキ、大木１?	〃	49
158	14号竪穴住居・埋土	壺?・胴部		弧線文（貼付隆線）、ミガキ		ミガキ		Ⅳ－1		外面煤微量付着	〃	〃
159	14号竪穴住居・埋土	壺・肩部		クランク文、円文、楕円文		ミガキ		Ⅳ－1			〃	〃
160	14号竪穴住居・埋土	浅鉢?・口縁部	平縁、丸み、折返し口縁	平縁、丸み、折返し口縁、沈線文		ミガキ		Ⅳ－1			51	〃
161	14号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁、丸み、刺突文	刺突文、弧線状文				Ⅳ－1	雲　母		〃	〃
162	14号竪穴住居・埋土	鉢・口縁部	小波状、刻目	口縁裏側溝状沈線	ＲＬ斜位	ミガキ		Ⅴ－3		外面黒色の付着物	〃	〃
163	14号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部（突起部）	突起、原体圧痕	原体圧痕、縦位貼付隆帯				Ⅲ－1	繊維微量混入	外面粘土紐貼付剥落有り	〃	〃
164	14号竪穴住居・埋土	深鉢・胴部		網目状撚糸文	単軸絡条体	ナデ		Ⅳ－4	金雲母	後期初頭?	〃	〃
166	14号竪穴住居・埋土	注口土器・注口部		ミガキ				Ⅴ－1		結合部にアスファルト付着	〃	〃
167	15号竪穴住居・埋土	深鉢・底部			ＲＬ横位	ケズリ	平底	Ⅱ－2	繊維中量		〃	〃
168	15号竪穴住居・埋土	小型深鉢・口縁～胴部上半	平縁、丸み		ＬＲ横位	ケズリ、ナデ		Ⅱ－4	繊維少量	大木１?	〃	〃
169	15号竪穴住居・埋土	深鉢・胴～底部			ＬＲ横・斜位	ケズリ	平底	Ⅱ－4	繊維多量	底部やや張り出しをもつ。大木１?	〃	50
170	15号竪穴住居・埋土	深鉢・胴部			ＲＬ			Ⅱ－4	繊維中量		〃	〃
171	15号竪穴住居・埋土	浅鉢?・口縁部	平縁、丸み	平行沈線、口縁裏側溝状沈線		ミガキ		Ⅴ－3		口縁部文様帯が狭いことから弥生までは下らないと推定される	〃	〃
176	16号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁、刺突	胴部上半～口縁部にかけて外反	ＲＬ?	ケズリ		Ⅱ－2	繊維微量	大木２ａ?	〃	〃
177	16号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁、丸み		付加条?	ナデ		Ⅱ－4			〃	〃
178	16号竪穴住居・埋土	深鉢・胴部		綾縁文	LR（片末端処理）横位	ケズリ		Ⅱ－4	繊維微量		〃	〃
179	16号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁、刺突	撚糸文	単軸絡条体、ＲＬＲ横位	ケズリ		Ⅱ－2	繊維微量	大木２ａ～２ｂの可能性大	51	50
180	16号竪穴住居・埋土	深鉢・胴部		沈線文（幾何学的文様）、磨消縄文	ＬＲ縦位			Ⅳ－1		十腰内Ⅰ式の古段階に相当すると思われるが、今後に検討を要する。馬立Ⅰ遺跡出土時に類似すると思われる	〃	〃

番号	出土地点・層位	器種・部位	文様や特徴など	口唇部形態	地　文	内面調整	底部形態	分　類	胎土	備　　考	図	写真
181	16号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁、角状	撚糸文	単軸絡条体			Ⅱ－4	繊維中量	S字状沈文に系譜を求められる撚糸文にもとれることから、大木2b式に相当する	51	50
187	17号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁～胴部	平縁、丸み		LR横位			Ⅱ－2	繊維多量、粗礫	外面剥落多、大木1?	52	〃
188	17号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	小波状、丸み、縄文?	小波状、丸み、縄文?	LR横位?				繊維?石英、長石	早期?	〃	〃
189	17号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁、丸み、突起、縄文	口縁部撚糸文	単軸絡条体、LR横位	ケズリ		Ⅱ－2	繊維微量	大木2a?	〃	51
190	17号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁、丸み、突起(先端二股状)		LR横位	ケズリ		Ⅳ－4	粗礫	PP123出土?	〃	〃
191	17号竪穴住居・埋土	深鉢・底部			LR横位?		平底、縄文	Ⅱ－4	繊維微量	内面煤付着	〃	〃
192	17号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	波状、丸み	沈線、貼付隆線		ミガキ?		Ⅳ－1		RA08外の記載有り	〃	〃
198	18号竪穴住居・埋土	台付鉢・ほぼ完形	平縁、丸み		RL縦位	ミガキ、ナデ	台	Ⅴ－4		内外面口縁部付近煤付着、台部は上げ底、大洞Aの時期と思われる	〃	〃
200	18号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	小波状	口縁部1.5cm程無文帯	LR斜位	ミガキ		Ⅴ－4		口唇部の形態などから、大洞A'期の深鉢と思われる	〃	〃
201	18号竪穴住居・埋土	鉢・口縁部	平縁、突起	口縁部1cm程無文帯	LR横・斜位	ミガキ		Ⅴ－4		口唇部の形態などから、大洞A'期の深鉢と思われる	〃	〃
202	18号竪穴住居・埋土	浅鉢 or 高坏・口縁部	平縁、刻み目	工字文、口縁裏側溝状沈線		ミガキ		Ⅴ－3		内外面とも丹念な調整が施される	〃	〃
203	18号竪穴住居・埋土	鉢・口縁部	平縁、刺突（刻み目状）		RL横位	ミガキ		Ⅴ－4		内面調整は丹念なミガキが施される、晩期後半期と思われる	〃	〃
204	18号竪穴住居・埋土	鉢?・口縁部	平縁、沈線	沈線	RL横?	ミガキ		Ⅴ－4		内面調整は丹念なミガキが施される、晩期後半期と思われる	〃	〃
205	18号竪穴住居・埋土	鉢?・口縁部	平縁、突起、刻み目	沈線文、貼り瘤、口縁部裏側溝状沈線、口縁裏側に貼付隆帯	LR横位	ナデ		Ⅴ－3		外面の施文順番としては、縄文施文後に沈線でモチーフされる。変形工字文的模様であることが推定される	〃	〃
206	18号竪穴住居・埋土	鉢・口縁部	平縁、沈線、突起	口縁部1.5cm程無文帯、突起頂部に刺突文	LR横位	ケズリ		Ⅴ－4		内面煤付着、201と器形的には類似する	〃	〃
207	18号竪穴住居・埋土	鉢・口縁部	平縁、丸み、突起	口縁部1cm程無文帯	LR横位	ミガキ		Ⅴ－4		内面煤付着	〃	〃
210	19号竪穴住居・埋土	深鉢・胴部下半～底部		非結束羽状縄文(異方向)やや上げ底、ミガキ	LR（0段多条）縦・横位	ミガキ（縦位）	やや上げ底、ミガキ	Ⅳ－4			53	〃
212	19号竪穴住居・埋土	深鉢・ほぼ完形	平縁、角状、指頭圧痕		LR横位	ミガキ、ナデ	平底	Ⅴ－4	粗礫微量	内外面煤付着、大洞A～A'に伴う深鉢と思われる	〃	〃
213	19号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁、やや丸み、肥厚	非結束羽状縄文、磨消縄文	LR・RL横位			Ⅳ－4	砂粒	内面煤微量付着、十腰内Ⅲ式期の深鉢と思われる	〃	52
214	19号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	波状、角状	不整撚糸文	単軸絡条体、RL横位?	ナデ		Ⅱ－2	繊維少量、砂粒	補修孔有り、大木2a～2b	〃	〃
215	19号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	山形状口縁、丸み(先鋭気味)	平行沈線、縦位貼付隆線、斜位の刻み、弧状沈線	LR横位	ナデ		Ⅲ	砂粒	円筒上層a～e式期の土器と思われる	〃	〃
216	19号竪穴住居・埋土	深鉢?・口縁部	平縁、丸み	沈線文（幾何学文様）、磨消縄文	LR縦位?	ナデ		Ⅳ－1		217と同一個体の可能性有り	〃	〃
217	19号竪穴住居・埋土	深鉢?・口縁部	平縁、丸み	沈線文、磨消縄文	LR横位?	ナデ		Ⅳ－4		216と同一個体の可能性有り	〃	〃
218	19号竪穴住居・埋土	壺?・胴部		沈線文		ナデ		Ⅳ－4		十腰内Ⅰ式前後と思われる、天地逆掲載の可能性有り	〃	〃
219	19号竪穴住居・埋土	深鉢・底部			LR（0段多条）横位、末端処理	ケズリ	平底、網代痕、縄文	Ⅳ－4	砂粒		〃	〃
220	19号竪穴住居・埋土	注口土器?・口～頸部	小波状、丸み	横位沈線、ミガキ				Ⅴ－1	砂粒	外面調整は丹念なミガキが施されるが、内面調整は粗い	54	〃

番号	出土地点・層位	器種・部位	口唇部形態	文様や特徴など	地　文	内面調整	底部形態	分類	胎土	備　　考	図	写真
221	19号竪穴住居・埋土	鉢・口縁部	平縁、沈線	口縁端突起列、B突起	LR横位	ミガキ、ナデ		V－2	砂粒	外面煤付着、時期の下限は大洞C２式期までの可能性でとらえられる	54	52
222	19号竪穴住居・埋土	深鉢？・口縁部	平縁、丸み	撚糸文	単軸絡条体	ナデ		Ⅳ－4		外面煤微量付着	〃	〃
223	19号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁、角状、折返し		RL斜位	ミガキ？		Ⅳ－4			〃	〃
234	20号竪穴住居・埋土	深鉢・口～胴部	波状、内削～角状	口縁端貼付隆帯（隆帯上縄文、頂部から垂下する縦位隆帯上に円形刺突文）、帯縄文によるコの字状・十字状のモチーフ（充填縄文）	LR	ミガキ		Ⅳ－1	粗礫微量	外面煤微量付着、馬立Ⅰ遺跡出土と類似する資料	〃	53
235	20号竪穴住居・埋土	深鉢・口～胴部上半	波状、丸み	口縁端及び頸部に刻目帯、連続する弧線文（帯内充填縄文）	LR（0段多条）	ミガキ		Ⅳ－2		加曽利B２式併行期期と思われる、236と同一個体の可能性	〃	〃
236	20号竪穴住居・埋土	深鉢・胴部下半～底部		刻目帯、横位の無文帯・縄文帯により構成	LR（0段多条？）	ミガキ	平底、ミガキ	Ⅳ－2		235と同一個体の可能性	〃	〃
237	20号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁、丸み	口縁端撚糸圧痕文、口縁部撚糸文	単軸絡条体、多軸絡条体？			Ⅱ-3-a		時期の下限は、最大で円筒下層ａまで	〃	〃
238	20号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁、丸み	沈線による弧線状文		ナデ		Ⅳ－1			55	〃
239	20号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁、丸み	渦巻文、磨消縄文	LR縦位	ミガキ、ナデ		Ⅳ－1			〃	〃
240	20号竪穴住居・埋土	深鉢・胴部		弧線状文				Ⅳ－1			〃	〃
241	20号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁、丸み	網目状撚糸文	単軸絡条体	ナデ		Ⅳ－4	金雲母?		〃	〃
243	21号竪穴住居・埋土	深鉢・胴部下半～底部			LR横位	ケズリ、ミガキ	平底	V－4		内外面煤付着	〃	〃
244	21号竪穴住居・埋土	深鉢・胴部下半～底部			LR横・斜位		平底、網代？	Ⅳ－4？			〃	〃
245	21号竪穴住居・埋土	小型鉢・ほぼ完形	平縁、沈線突起（２個１対と１個のものが交互につく）９単位？		LR横位	ナデ	やや上げ底状	V－3		外面一部分に黒色の顔料塗布	〃	〃
246	21号竪穴住居・埋土	中型深鉢・ほぼ完形（底部欠損）	平縁、丸み、突起	横位平行沈線、楕円文（貼付隆帯）、口縁裏側溝状沈線	LR横位	ミガキ		V－3			〃	〃
247	21号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁、丸み		LR横位	ケズリ、ミガキ		V－4	粗礫	外面煤多量付着、249と同一個体	〃	〃
248	21号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁、丸み		LR横位	ケズリ、ミガキ		V－4	粗礫	外面煤多量付着、248と同一個体	〃	〃
249	21号竪穴住居・埋土	中型深鉢・口縁部	平縁、丸み		LR横位			V－4	粗礫	外面煤微量付着、内面剥落多	〃	〃
250	21号竪穴住居・埋土	深鉢・胴部中位～底部			LR斜位・横位	ケズリ、ミガキ	平底	V－4	粗礫	外面煤付着、248・249と同一個体の可能性有り	〃	54
251	21号竪穴住居・埋土	深鉢？・底部		横位沈線	LR横位	ミガキ	平底、ケズリ	V－4	砂粒		〃	〃
252	21号竪穴住居・埋土	中型深鉢・底部			LR横位		平底	V－4	砂粒		〃	〃
253	21号竪穴住居・埋土	注口土器・ほぼ完形（注口部欠損）	平縁、沈線文	沈線文、刻目、口縁裏側溝状沈線、丸底状、縄文	LR横位	ミガキ	丸底状、沈線文、縄文	V－3？		外面口縁部付近剥落多、異系統の可能性有り	56	〃
254	21号竪穴住居・埋土	鉢・口縁部	平縁、刺突	波状沈線文		ケズリ、ミガキ		V－4	砂粒		〃	〃
255	21号竪穴住居・埋土	浅鉢？・口縁部	平縁、丸み、突起	変形工字文、刻目帯、口縁裏側溝状沈線	LR横位	ナデ、ミガキ		V－3			〃	〃

番号	出土地点・層位	器種・部位	口唇部形態	文様や特徴など	地　文	内面調整	底部形態	分類	胎　土	備　　考	図	写真
256	21号竪穴住居・埋土	浅鉢？・口縁部	平縁、丸み、突起	横位平行沈線		ミガキ		Ⅴ－4			56	54
257	21号竪穴住居・埋土	浅鉢？・口縁部	平縁、丸み	変形工字文、刺突列、口縁裏側溝状沈線	ＲＬ？斜位			Ⅴ－3			〃	〃
258	21号竪穴住居・埋土	浅鉢？・口縁部	平縁、丸み	工字文、刺突列、口縁裏側溝状沈線	ＬＲ横位	ミガキ、ナデ		Ⅴ－3			〃	〃
259	21号竪穴住居・埋土	深鉢・口縁部	平縁、丸み	網目状撚糸文		ミガキ		Ⅳ－4			〃	〃
262	21号竪穴住居・埋土	ミニチュア土器（注口土器）・完形		無文			上げ底			時期検討要	〃	〃
264	22号竪穴住居炉	深鉢・底部			ＬＲ斜・横位	ナデ、ケズリ	平底、ミガキ	Ⅴ－4			〃	〃
265	22号竪穴住居・埋土	壺？・口縁部	平縁、丸み、刻み	工字文（隆線）、ミガキ、口縁裏側溝状沈線		ミガキ		Ⅴ－3		内外面とも丹念なミガキが施され光沢が強い	〃	〃
266	22号竪穴住居・埋土	浅鉢 or 高坏・口縁部	平縁、丸み	平行沈線、ミガキ		ミガキ		Ⅴ－3			〃	〃
267	22号竪穴住居・埋土	鉢？・口縁部	平縁、丸み	工字文、刻み、口縁裏側溝状沈線	ＬＲ横位	ナデ		Ⅴ－3		内外面炭化物付着	〃	〃
268	22号竪穴住居・床	壺？・胴部		沈線		ナデ		Ⅴ－4		晩期後～末葉と思われる	〃	〃
269	22号竪穴住居・埋土	深鉢・胴部			ＬＲ？	ミガキ？		Ⅴ－4		外面煤付着	〃	〃
271	22号竪穴住居炉	深鉢・胴部下半～底部			ＬＲ横位	ナデ	平底、ミガキ	Ⅳ-4 or Ⅴ		内面煤付着	〃	〃
272	23号竪穴住居・埋土	深鉢・底部			ＲＬ	ナデ、ケズリ	平底、ナデ	Ⅴ－4	長石、粗礫	外面煤付着、晩期末葉と推定される	〃	〃
274	24号竪穴住居・埋土	鉢？・胴部		沈線、磨消状文	ＬＲ横位			Ⅴ－4		外面煤付着	〃	〃
275	1号土坑・埋土	鉢？・胴部			ＬＲ			Ⅴ－4			〃	55
276	2号土坑・埋土	深鉢・口縁部	平縁、丸み	撚糸文、半裁竹管文	単軸絡条体			Ⅱ-3-a	繊維微量		〃	〃
277	2号土坑・埋土	深鉢・口縁部	平縁、丸み	原体押圧文？	ＬＲ横位			Ⅱ－2	繊維少量	外面煤付着、大木２ａ	〃	〃
278	2号土坑・埋土	深鉢・胴部			ＲＬ			Ⅱ－4	繊維中量	円筒下層ａに先行する土器の可能性有り	〃	〃
279	11号土坑・埋土	深鉢・口縁部	丸み		ＬＲ横位			Ⅱ－4	繊維中量	円筒下層ａに先行する土器の可能性有り	〃	〃
280	12号土坑・埋土	深鉢・口縁部	平縁、丸み	撚糸文	単軸絡条体	ナデ		Ⅱ－2	繊維微量	大木２ａ～２ｂ	57	〃
281	12号土坑・埋土	深鉢・胴部			ＬＲ	ケズリ		Ⅱ－4	繊維少量		〃	〃
283	13号土坑・埋土	深鉢・口縁部	平縁、丸み		ＬＲ横位	ケズリ		Ⅱ－2	繊維小量、砂粒	内面剥落多	〃	〃
284	13号土坑・埋土	深鉢・底部			ＬＲ？		平底	Ⅱ－2	繊維中量		〃	〃
285	14号土坑・埋土	深鉢・ほぼ完形	平縁、丸み		ＬＲ（０段多条）横位		平底	Ⅱ－2	繊維中量、粗礫	内面剥落多	〃	〃
286	14号土坑・埋土	深鉢・ほぼ完形（底部欠損）	平縁、丸み		ＬＲ横位	ケズリ	平底	Ⅱ－2	繊維少量、砂粒	内外面煤付着、口縁部補修孔１ヶ所・反対側の口縁に穿孔途中２ヶ所有り、13号住居出土の可能性大	〃	〃
287	14号土坑・埋土	深鉢・口縁部	平縁、丸み、縄文		ＬＲ縦位			Ⅱ－2	繊維中量、長石		〃	〃
288	14号土坑・埋土	深鉢・口縁部	平縁、丸み、縄文		ＬＲ横位	ケズリ、ナデ		Ⅱ－2	繊維中量、砂粒		〃	〃
289	14号土坑・埋土	深鉢・底部			ＬＲ横位	ケズリ	平底、縄文？、網代、木葉痕	Ⅱ－2	繊維中量	内外面煤付着、底面の痕跡について縄文→網代	〃	〃
296	15号土坑・埋土	深鉢・口縁部	平縁、丸み	刻目帯		ミガキ、ナデ		Ⅳ－2			〃	〃
297	15号土坑・埋土	深鉢・口縁部	段状、角状		ＬＲ横位	ナデ、ケズリ		Ⅱ－4	繊維微量		〃	〃
298	15号土坑・埋土	深鉢・口縁部	小波状、丸み	原体押圧文（３条）	ＬＲ横位	ケズリ		Ⅱ－2	繊維微量、砂粒		〃	〃
299	16号土坑・埋土	深鉢・胴部			ＬＲ横位	ナデ、ミガキ		Ⅴ－4			〃	〃

番号	出土地点・層位	器種・部位	口唇部形態	文様や特徴など	地　文	内面調整	底部形態	分類	胎土	備　　考	図	写真
300	17号土坑・埋土	鉢・口縁部	平縁、丸み	横位沈線	ＬＲ横位	ナデ		Ⅴ－４			57	56
301	17号土坑・埋土	深鉢・胴部			ＬＲ（０段多条）横位	ケズリ		Ⅱ－１	繊維多量	円筒下層ａ式に先行する土器と思われる	〃	〃
302	18号土坑・埋土	深鉢・胴部		沈線、磨消縄文？	ＬＲ横・縦位	ナデ、ミガキ		Ⅳ－１			〃	〃
303	18号土坑・埋土	深鉢・胴部			ＬＲ（末端処理？）横位			Ⅱ－２	繊維中量		〃	〃
306	19号土坑・埋土	深鉢・口縁部	平縁、丸み	撚糸文	単軸絡条体	ナデ		Ⅱ－２	繊維中量		58	〃
307	19号土坑・埋土	深鉢・胴部		沈線、磨消縄文	ＬＲ横位	ミガキ		Ⅳ－１		外面煤微量付着	〃	〃
310	20号土坑・埋土	深鉢・胴部			ＬＲ横位			Ⅱ－２	繊維少量、粗礫		〃	〃
312	21号土坑・埋土	深鉢・口縁部	平縁、丸み縄文	不整撚糸文	単軸絡条体、ＬＲ縦位	ミガキ		Ⅱ－２	繊維微量	大木２ａ	〃	〃
313	21号土坑・埋土	深鉢・口縁部	平縁、丸み、縄文		ＬＲ横位			Ⅱ－２	繊維中量、粗礫		〃	〃
314	22号土坑・埋土	深鉢・完形	平縁、丸み		ＲＬ横位	ケズリ	平底	Ⅱ－２	繊維少量、砂粒	穿孔途中の孔２ヶ所有り、大木１～２ａ	58	56
315	22号土坑・埋土	深鉢・口縁部	平縁、丸み	撚糸文、口縁ケズリ？	単軸絡条体	ナデ、ミガキ		Ⅱ－２	繊維中量		〃	〃
316	22号土坑・埋土	深鉢・口縁部	平縁、丸み、刺突	不整撚糸文	単軸絡条体、ＲＬ縦位	ナデ、ケズリ		Ⅱ－２	繊維微量、砂粒	大木２ａ？	〃	〃
321	23号土坑・埋土	深鉢・口縁部	平縁、丸み	充填縄文、ミガキ、沈線によるモチーフ（楕円形区画、渦巻き、弧線状）	ＬＲ	ミガキ、ナデ		Ⅳ－１			〃	〃
322	23号土坑・埋土	深鉢・胴部		無文				Ⅰ		胎土から早期と判断される。	〃	〃
324	25号土坑・埋土	深鉢・ほぼ完形	平縁、内削ぎ、Ｂ突起		ＬＲ	ミガキ、ナデ	平底	Ⅴ－４		外面煤付着	〃	〃
325	25号土坑・埋土	鉢？・胴部		沈線文	ＲＬ	ミガキ		Ⅳ－１	金雲母		〃	〃
326	25号土坑・埋土	深鉢・胴部		貝殻腹縁文、押引沈線（貝殻）文				Ⅰ	砂粒		〃	〃
327	27号土坑・埋土	深鉢・胴部		異条異節縄文	ＬＲ、ＲＬ			Ⅳ－４	砂粒、長石	外面煤付着	59	〃
328	27号土坑・埋土	深鉢・口縁部	平縁、角状		ＬＲ横位	ナデ		Ⅳ－４			〃	〃
334	１号竪穴状・埋土	不明・底部		ミガキ		ミガキ	平底、網代	Ⅴ－４		丹念なミガキ、底面は網代を消す行為がうかがわれる	〃	57
335	２号竪穴状・埋土	鉢・口縁部	平縁、突起	変形工字文	ＬＲ	ミガキ、ナデ		Ⅴ－３			〃	〃
336	２号竪穴状・埋土	中型深鉢・底部			ＲＬ横位	ミガキ	平底	Ⅴ－４			〃	〃
337	２号竪穴状・埋土	鉢・胴部		変形工字文	ＲＬ横位	ミガキ		Ⅴ－３	石英、砂粒		〃	〃
338	２号竪穴状・埋土	台付鉢・脚部		平行沈線		ミガキ		Ⅴ－３		内外面赤色塗布（内面残り良好）顔料	〃	〃
339	２号竪穴状・埋土	深鉢・胴部			ＬＲ（０段多条）横位			Ⅱ－２		繊維中量	〃	〃
341	５号焼土・埋土	深鉢・胴部		貝殻腹縁文				Ⅰ	砂粒		〃	〃
342	５号焼土・埋土	深鉢？・胴部		沈線文、無文		ナデ		Ⅳ－１			〃	〃
343	５号焼土・埋土	深鉢・胴部			ＬＲＬ横位			Ⅱ－２	繊維中量、石英、石英		〃	〃
344	６号焼土・埋土	深鉢・胴部			ＲＬ縦位			Ⅴ－４	金雲母		〃	〃
346	１号溝跡・埋土	深鉢・口～胴部	平縁、丸み	帯縄文（渦巻文・楕円文・クランク状）、磨消縄文	ＬＲ	ミガキ		Ⅳ－１		外面煤付着	〃	〃
347	１号溝跡・埋土	浅鉢？・口縁部	平縁、丸み、突起	工字文	ＬＲ横位	ミガキ		Ⅴ－３			〃	〃
348	１号溝跡・埋土	注口土器？・注口部？		沈線文、刺突文				Ⅳ－２？			〃	〃

番号	出土地点・層位	器種・部位	口唇部形態	文様や特徴など	地　文	内面調整	底部形態	分類	胎土	備　　考	図	写真
351	2号溝跡・埋土	深鉢・胴部		帯縄文	LR縦位	ミガキ		Ⅲ－1	粗れき		59	57
352	2号溝跡・埋土	深鉢・胴部			不明			Ⅱ－4	繊維中量		〃	〃
355	PP26・埋土	片口鉢・口縁部	平縁、角状	沈線文		ミガキ		Ⅳ－1			〃	〃
357	1号埋設土器	深鉢・胴～底部		底部から4cm程無文帯（ケズリ、ナデ）	LR縦位		平底、ミガキ	Ⅲ－5		内外面煤付着	60	58
358	2号埋設土器	深鉢・口～胴部下半	平縁、角状、折り返し		LR横位・縦位	ミガキ		Ⅳ－4		口縁部付近は羽状縄文を構成し、胴部は縦位のみを施文する。比較的丁重な土器である。	〃	〃
359	3号埋設土器	深鉢・胴～底部			LR（0段多条）横位	ケズリ	やや上げ底状、ケズリ	Ⅱ－2？	繊維中量	外面煤付着、縄文は底部ぎりぎりまで施文される	〃	〃
360	4号埋設土器	深鉢・胴～底部			LR横位	あらいケズリ	平底、網代痕、縄文	Ⅱ－2	繊維中量	外面煤付着、縄文は底部ぎりぎりまで施文される	61	〃
361	5号埋設土器	深鉢・ほぼ完形	平縁、丸み	底部から5cm程無文帯（ケズリ、ミガキ）	RL縦位	ミガキ	平底、ミガキ	Ⅲ－5	石英	外面煤付着	〃	〃
362	6号埋設土器	壺・胴～底部		沈線文（渦巻文・クランク状文）、隆帯（長楕円形文）			平底、網代痕、ミガキ	Ⅳ－1		底面の網代は消す行為がうかがわれる	62	59
363	7号埋設土器	深鉢・胴～底部			LR横位		平底、ミガキ	Ⅱ－2？	繊維中量	外面煤付着	〃	〃

第3表　遺構内出土土製品観察表

番号	器　種	出土地点	層位	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	文様・特徴など	時　期	備　考	図版	写真図版
76	円盤状土製品	9号竪穴住居	埋土	4.2	1.3	0.9	16.58	RL横位	前期？	繊維少量	45	44
119	円盤状土製品	12号竪穴住居	埋土	4.3	4.2	0.6	15.92	RL　内面：ﾐｶﾞｷ	晩期？		47	46
165	円盤状土製品	14号竪穴住居	埋土	4.4	4.2	0.8	19.61	LR　内面：ナデ、ﾐｶﾞｷ	晩期？	海綿骨子	51	49
175	円盤状土製品	15号竪穴住居	埋土	5.2	5.2	2.5		沈線	晩期？		〃	50
211	鐸形土製品	19号竪穴住居	埋土	(6.8)	(5.7)	0.8	14.02	無文	後期初頭	摘み部欠損	53	51
242	円盤状土製品	20号竪穴住居	埋土	4.0	4.0	0.9	16.77	沈線文	後期初頭		55	53
263	土偶	21号竪穴住居	埋土			2.6	4.09	脚部	後期		56	54
333	円盤状土製品	1号竪穴状遺構	埋土	4.0	4.0	0.9	19.04	沈線文、L	後期初頭		59	57
349	円盤状土製品	1号溝跡	埋土	3.5	3.3	0.5	8.57	LR	晩期？		〃	〃

（ミニチュア土器）

番号	出土地点	層位	器種・部位	口唇部形態	文様や特徴など	地文	内面調整	底部形態	分類	胎土	図	写真
14	3号竪穴住居	埋土	ミニチュア土器（鉢）1/2完形	平縁・丸み		無文		平底	Ⅳ－4		42	42
105	12号竪穴住居	埋土	ミニチュア土器（鉢）完形	平縁、丸み	口縁部7mmほど無文帯	付加条（LR）	ナデ、ミガキ	平底	Ⅴ－3		46	46
199	18号竪穴住居	埋土	ミニチュア土器（鉢）完形	平縁、丸み	ミガキ		ナデ	やや上げ底	Ⅴ－4		52	51

第4表　遺構内出土石器・石製品観察表

番号	出土状況	層　位	器　種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石　質	備　考	図版	写真
8	1号竪穴住居	埋土中	石鏃	2.6	1.3	0.3	1.0	頁岩		42	42
9	1号竪穴住居	埋土中	石鏃	3.0	1.3	0.3	0.9	頁岩		〃	〃
10	1号竪穴住居	埋土中	凹石	12.3	9.2	6.4	1051.0	安山岩	側面に磨り面在り	〃	〃
11	1号竪穴住居	埋土中	石製品（石製品）	5.4	4.8	1.5	21.0	凝灰岩	アスファルト付着	〃	〃
18	3号竪穴住居	黒褐色	石匙	7.0	2.3	0.8	15.0	頁岩		〃	〃
27	4号竪穴住居	埋土中	削掻器	5.2	2.1	0.6	4.9	頁岩		43	43
35	5号竪穴住居	埋土中	石鏃	2.7	1.3	0.3	0.6	珪質頁岩		〃	〃
36	5号竪穴住居	埋土中	石鏃	2.6	1.7	0.5	1.8	珪質頁岩		〃	〃
37	5号竪穴住居	埋土中	石鏃	4.4	1.8	0.4	2.8	珪質頁岩		〃	〃
38	5号竪穴住居	埋土中	削掻器	3.0	1.9	0.7	3.0	珪質頁岩		〃	〃
39	5号竪穴住居	埋土中	磨石	8.4	8.2	5.5	463.7	安山岩		〃	〃
40	5号竪穴住居	埋土中	凹石	12.3	8.7	4.6	539.1	角閃安山岩	側面に敲打痕	〃	〃
48	6号竪穴住居	埋土中	削掻器	5.8	4.3	0.7	19.5	頁岩		〃	〃
49	6号竪穴住居	埋土中	凹石	8.5	4.7	6.6	284.7	凝灰岩	敲打痕	44	44
53	7号竪穴住居	埋土中	石匙	6.7	2.8	0.8	16.8	頁岩		〃	〃
54	7号竪穴住居	埋土中	凹石	9.2	7.0	4.1	352.0	安山岩		〃	〃
55	7号竪穴住居	埋土中	敲石	8.7	7.6	5.3	482.6	安山岩		〃	〃
62	8号竪穴住居	埋土中	石鏃	2.9	1.7	0.4	1.8	珪質頁岩		45	〃
63	8号竪穴住居	埋土中	石錐	9.3	4.7	0.7	10.8	頁岩		〃	〃
64	8号竪穴住居	埋土中	石匙	5.6	3.0	0.6	9.9	珪質頁岩		〃	〃
65	8号竪穴住居	埋土中	石匙	6.3	2.4	0.7	9.8	頁岩		〃	〃
66	8号竪穴住居	炉跡直上	半円状扁平打製石器	14.3	6.3	1.9	156.3	斑岩		〃	〃
77	9号竪穴住居	埋土中	石鏃	2.8	1.5	0.6	2.4	チャート		〃	〃
78	9号竪穴住居	最下層	石鏃	2.7	1.8	0.4	0.5	珪質頁岩		〃	〃
79	9号竪穴住居	埋土中	石鏃	3.5	1.4	0.5	2.1	珪質頁岩		〃	〃
80	9号竪穴住居	埋土中	削掻器	2.6	4.2	0.7	6.6	チャート	尖頭器？	〃	〃
81	9号竪穴住居	埋土中	打製石斧	2.6	2.2	1.0	6.7	頁岩	欠損品	〃	〃
82	9号竪穴住居	埋土中	削掻器	4.7	2.5	0.7	5.9	頁岩		〃	〃
83	9号竪穴住居	埋土中	石刀	8.5	3.0	1.7	79.8	斑糲岩		〃	45
84	9号竪穴住居	埋土中	半円状扁平打製石器	11.1	6.6	2.3	249.0	斑岩		〃	〃
88	10号竪穴住居	埋土中	石匙	5.9	2.6	0.6	9.4	頁岩		〃	〃
89	10号竪穴住居	埋土中	打製石斧	7.8	4.4	1.8	63.3	頁岩	欠損品	〃	〃
90	10号竪穴住居	埋土中	磨石	9.6	7.3	3.2	330.3	安山岩		〃	〃
120	12号竪穴住居	埋土中	石鏃	2.2	1.6	0.2	0.8	珪質頁岩		47	46
121	12号竪穴住居	埋土中	石匙	4.8	2.2	0.5	4.3	頁岩		〃	〃
122	12号竪穴住居	埋土中	石匙	7.5	2.0	0.8	9.2	珪質頁岩		〃	〃
123	12号竪穴住居	埋土中	石篦	6.2	3.5	1.1	21.3	珪質頁岩		〃	〃
124	12号竪穴住居	埋土中	削掻器	2.8	5.0	0.6	8.6	頁岩		〃	〃
125	12号竪穴住居	埋土下位	磨製石斧	9.2	4.6	1.5	110.5	砂岩		〃	47
126	12号竪穴住居	埋土中	凹石	10.2	9.2	5.0	569.3	安山岩		〃	〃
127	12号竪穴住居	埋土中	凹石	13.3	9.0	6.5	1032.9	安山岩		〃	〃
128	12号竪穴住居	埋土下位	半円状扁平打製石器	16.2	9.0	2.0	390.2	斑岩		〃	〃
129	12号竪穴住居	埋土中	半円状扁平打製石器	18.6	8.3	3.3	792.1	安山岩		〃	〃
130	12号竪穴住居	埋土下位	石剣	27.7	4.3	2.7	438.8	粘板岩		〃	〃
150	13号竪穴住居	埋土中	石鏃	3.3	1.6	0.6	3.2	頁岩	尖頭器	50	49
151	13号竪穴住居	埋土中	石鏃	4.7	1.5	0.6	4.5	珪質頁岩	大型石鏃か尖頭器	〃	〃
152	13号竪穴住居	埋土中	石匙	8.1	4.8	1.2	38.3	頁岩		〃	〃
153	13号竪穴住居	埋土中	石篦	5.4	5.6	1.0	28.2	頁岩		〃	〃
154	13号竪穴住居	埋土中	削掻器	8.0	4.5	1.5	52.3	頁岩		〃	〃
155	13号竪穴住居	埋土中	磨製石斧	9.7	3.8	1.4	93.6	泥岩		〃	〃
156	13号竪穴住居	埋土中	半円状扁平打製石器	13.5	8.2	2.2	259.1	安山岩		〃	〃
172	15号竪穴住居	埋土中	石鏃	3.7	2.4	0.6	5.9	頁岩		51	50

番号	出土状況	層　位	器　種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石　質	備　考	図版	写真
173	15号竪穴住居	埋土中	削掻器	1.9	3.4	0.4	3.0	頁岩		51	50
174	15号竪穴住居	埋土中	凹石	9.5	8.8	5.4	520.4	安山岩	磨石からの転用品？	〃	〃
182	16号竪穴住居	埋土中	石鏃	4.0	2.2	0.6	3.6	頁岩		〃	〃
183	16号竪穴住居	埋土中	石鏃	4.1	2.0	0.6	3.5	珪質頁岩		〃	〃
184	16号竪穴住居	埋土中	削掻器	2.1	1.3	0.3	1.3	珪質頁岩		〃	〃
185	16号竪穴住居	埋土中	削掻器	5.1	2.9	1.1	14.4	頁岩		〃	〃
186	17号竪穴住居	埋土中	削掻器	3.3	3.0	0.9	9.8	頁岩		〃	〃
193	17号竪穴住居	埋土中	石鏃	2.2	1.8	0.4	1.1	珪質頁岩		52	51
194	17号竪穴住居	埋土中	石鏃	3.0	1.9	0.4	2.1	珪質頁岩		〃	〃
195	17号竪穴住居	埋土中	石匙	6.5	2.4	0.5	5.5	頁岩		〃	〃
196	17号竪穴住居	埋土中	磨製石斧	11.5	2.8	0.9	45.9	粘板岩		〃	〃
197	17号竪穴住居	埋土中	磨石	12.2	7.8	4.8	506.8	安山岩	側縁に密な敲打痕	〃	〃
208	18号竪穴住居	埋土中	石錐	3.9	2.1	3.5	2.3	珪質頁岩		〃	〃
209	18号竪穴住居	埋土中	凹石	8.0	6.4	3.7	299.8	安山岩		〃	〃
224	19号竪穴住居	埋土中	石鏃	2.8	1.2	0.5	1.2	珪質頁岩		54	52
225	19号竪穴住居	埋土中	石鏃	3.5	1.3	0.4	1.4	チャート		〃	〃
226	19号竪穴住居	埋土中	石鏃	3.3	1.8	0.3	1.7	チャート		〃	〃
227	19号竪穴住居	埋土中	石匙	5.7	2.4	0.9	16.8	頁岩		〃	〃
228	19号竪穴住居	埋土中	石匙	5.6	2.3	0.5	9.1	チャート		〃	〃
229	19号竪穴住居	埋土中	石匙	3.7	3.3	0.7	7.3	珪質頁岩		〃	〃
230	19号竪穴住居	埋土中	削掻器	2.6	2.8	0.5	3.6	頁岩		〃	〃
231	19号竪穴住居	埋土中	石錐	4.5	1.5	0.7	4.3	珪質頁岩		〃	〃
232	19号竪穴住居	埋土4層	半円状扁平打製石器	16.0	5.3	2.0	224.7	粘板岩		〃	〃
233	19号竪穴住居	埋土4層	磨石	9.1	5.1	5.7	492.1	安山岩	凹部・敲打痕有り	〃	53
260	21号竪穴住居	埋土中	石鏃	3.7	1.2	0.5	1.3	珪質頁岩		56	54
261	21号竪穴住居	埋土中	削掻器	4.0	2.3	0.6	5.9	頁岩		〃	〃
270	22号竪穴住居	埋土中	磨製石斧	8.2	3.4	1.4	58.7	粘板岩		〃	〃
273	23号竪穴住居	埋土中	石鏃	2.2	1.3	0.2	0.5	チャート		〃	〃
282	12号土坑	埋土中	削掻器	2.6	7.0	0.7	3.6	頁岩		57	55
290	14号土坑	埋土中	石鏃	3.1	1.9	0.4	1.6	頁岩		〃	〃
291	14号土坑	埋土中	石鏃	3.8	1.4	0.4	2.2	珪質頁岩		〃	〃
292	14号土坑	埋土中	石匙	6.6	3.8	0.8	20.9	頁岩		〃	〃
293	14号土坑	埋土中	削掻器	3.9	2.5	0.7	6.1	頁岩		〃	〃
294	14号土坑	埋土中	石槍	10.1	2.2	0.9	18.6	珪質頁岩		〃	〃
295	14号土坑	埋土中	石製品（軽石）	5.7	3.8	1.0	10.9	浮石		〃	〃
304	18号土坑	埋土中	石鏃	3.8	2.8	0.7	6.9	頁岩		〃	56
305	18号土坑	埋土中	ピエス・エスキーユ	3.8	3.0	1.1	13.1	珪質頁岩		〃	〃
308	19号土坑	埋土中	石鏃	3.1	1.7	0.4	1.7	頁岩		58	〃
309	19号土坑	埋土中位	石棒？	19.6	4.4	3.0	402.1	砂岩	凹部２カ所	〃	〃
311	20号土坑	埋土中	削掻器	3.2	4.0	1.2	13.4	珪質頁岩		〃	〃
317	22号土坑	埋土中	石鏃	3.0	1.8	0.5	2.0	頁岩		〃	〃
318	22号土坑	埋土中	石鏃	2.9	1.5	0.4	1.3	珪質頁岩		〃	〃
319	22号土坑	埋土中	石鏃	2.4	1.6	0.5	1.1	頁岩		〃	〃
320	22号土坑	埋土中	削掻器	4.1	2.3	0.6	4.9	珪質頁岩		〃	〃
323	23号土坑	埋土下位	半円状扁平打製石器	14.6	10.9	1.5	231.4	斑岩		〃	〃
329	27号土坑	埋土中	石鏃	1.5	1.3	0.3	0.4	頁岩		59	57
330	27号土坑	埋土中	石匙	6.5	1.6	0.9	10.2	頁岩		〃	〃
331	32号土坑	埋土中	石鏃	2.7	2.0	0.4	1.5	頁岩		〃	〃
332	32号土坑	埋土中	削掻器	2.0	2.6	0.3	2.1	頁岩	ラウンドスクレーパー	〃	〃
340	２号竪穴状	埋土中	石鏃	4.3	1.5	0.4	2.3	頁岩		〃	〃
345	６号焼土	埋土中	石匙	6.6	1.5	0.7	6.3	頁岩	尖頭器状	〃	〃
353	２号溝跡	埋土中	石鏃	2.6	1.7	0.3	1.0	珪質頁岩		〃	〃
354	２号溝跡	埋土中	石匙	4.4	5.2	0.7	13.7	頁岩		〃	〃
356	PP27	埋土中	石鏃	2.9	1.6	0.3	1.1	頁岩		〃	〃

第５表　遺構外出土土器観察表

番号	出土地点	層位	器　種	口唇部形態	文様・特徴	地　文	内面調整	底部形態	分類	胎土	備　　考	図版	写真
1	I0h	黒褐色土	深鉢・底部		無文			尖底	I	砂粒	先端部乳頭状を呈する	63	60
2	遺物集中区	黒褐色土	深鉢・ほぼ完形 (底部欠損)	平縁、丸み		ＬＲ（０段多条）横位	ケズリ		Ⅱ－２	繊維中量	内面炭化物付着、大木１？	〃	〃
3	遺物集中区	黒褐色土	深鉢・口縁～胴部	平縁、丸み		ＬＲ横位	ケズリ		Ⅱ－２	繊維多量	外面剥落多、大木１式に先行？	〃	〃
4	8d～9d	Ｖ層	深鉢・胴～底部			ＬＲ横位	ミガキ	平底	Ⅱ－２	繊維少量	底部はやや突出気味、内外面微量煤付着	〃	〃
5	遺物集中区	黒褐色土	深鉢・ほぼ完形 (底部欠損)	平縁、丸み		ＲＬ横位			Ⅱ－２	繊維中量、 砂粒	大木１？	〃	〃
6	遺物集中区	黒褐色土	深鉢・口～胴部下半	平縁、角状	不整撚糸文	単軸絡条体、 ＬＲ（０段多条）横位			Ⅱ－２	繊維中量		〃	〃
7	遺物集中区	黒褐色土	深鉢・ほぼ完形	平縁、角状、突起 （４単位）		ＬＲ横位	ケズリ		Ⅱ－２	繊維中量	外面煤微量付着、底部付近節の大きい原体、大木１？	〃	〃
8	遺物集中区	黒褐色土	深鉢・１／２完形	平縁、丸み		ＬＲ横位	ケズリ		Ⅱ－２	繊維多量、 石英	外面煤付着	〃	〃
9	8d～9d	Ｖ層	深鉢・ほぼ完形	平縁、丸み		ＲＬ横位		平底	Ⅱ－２	繊維少量、 粗礫	外面剥落多、内面炭化物付着？、大木１？	64	〃
10	遺物集中区	黒褐色土	深鉢・１／２完形	平縁、丸み		ＬＲ（０段多条）横位			Ⅱ－２	繊維中量	内面剥落多、内面煤微量付着	〃	61
11	遺物集中区	黒褐色土	深鉢・１／２完形 (口唇部欠損)			ＬＲ横位		平底、網代痕	Ⅱ－２	繊維中量、 砂礫		〃	〃
12	遺物集中区	黒褐色土	深鉢・ほぼ完形 (底部欠損)	平縁、丸み		ＬＲ（片末端処理？） 横位			Ⅱ－２	繊維少量、 砂粒	内外面煤付着	〃	〃
13	遺物集中区	黒褐色土	深鉢・ほぼ完形 (底部欠損)	平縁、丸み、縄文？		ＬＲ横位			Ⅱ－２	繊維中量、 粗礫、長石	内外面煤付着	〃	〃
14	遺物集中区	黒褐色土	深鉢・底部			ＬＲ（０段多条）横位	ケズリ	平底、網代痕	Ⅱ－２	繊維中量	底部焼成痕有り	〃	〃
15	遺物集中区	黒褐色土	深鉢・ほぼ完形	平縁、丸み		ＬＲ横位	ケズリ、ナデ	平底、縄文、 網代痕？	Ⅱ－２	繊維中量	内外面煤付着、底部やや突出	65	〃
16	遺物集中区	黒褐色土	深鉢・２／３完形 (口唇部欠損)		縄文施文後 局所的にケズリ	ＬＲ横位		平底、網代痕	Ⅱ－２	繊維多量、 砂粒	内外面煤付着	〃	〃
17	8d	Ｖ層	深鉢・ほぼ完形	平縁、丸み、縄文	不整撚糸文	単軸絡条体、ＬＲ（０段多条）横位	ケズリ、ナデ	やや上げ底、 縄文	Ⅱ－２	繊維多量、 砂粒	内外面煤付着、底部やや突出気味、口縁部文様帯は縄文施文後に撚糸文が施文される（大木２ａと円筒下層ａの折衷か）	〃	〃
18	遺物集中区	黒褐色土	深鉢・ほぼ完形	平縁、丸み、縄文	口縁部原体押圧文（３条）	ＲＬ横位	ケズリ、ナデ	平底、縄文、 網代痕？	Ⅱ－２	繊維少量、 砂粒	内外面煤付着、補修孔有り	〃	〃
19	遺物集中区	黒褐色土	深鉢・ほぼ完形 (底部欠損)	平縁、丸み	口縁部原体押圧文（２条）	ＲＬＲ横位	ナデ		Ⅱ－２	繊維中量、 砂粒	胴部は、円盤状に刳り貫く	66	62
20	遺物集中区	黒褐色土	深鉢・ほぼ完形	平縁、丸み、縄文	口縁部原体押圧文（３条）	ＲＬ横位	ケズリ、ナデ		Ⅱ－２	繊維中量	内外面煤付着、口縁部文様帯の特徴は円筒下層ａととれるが、プロポーションは大木２ａの影響を受ける	〃 〃	〃 〃

番号	出土地点	層位	器　種	口唇部形態	文様・特徴	地　文	内面調整	底部形態	分類	胎土	備　　考	図版	写真
21	遺物集中区	黒褐色土	深鉢・口～胴部上半	平縁、丸み	不整撚糸文	単軸絡条体、ＬＲ（０段多条）横位	ケズリ、ナデ		Ⅱ－２	繊維少量	外面煤付着	66	62
22	遺物集中区	黒褐色土	深鉢・口縁～胴部	平縁、丸み		ＬＲ（末端処理）横位	ケズリ、ナデ		Ⅱ－２	繊維微量		〃	〃
23	12f	Ⅴ層	深鉢・ほぼ完形	平縁、丸み		ＲＬＲ横位	ミガキ		Ⅱ－２	繊維微量	外面煤付着	〃	〃
			（底部欠損）									〃	〃
24	遺物集中区	黒褐色土	深鉢・ほぼ完形	平縁、丸み、縄文	口縁部原体押圧文（３条）	ＲＬ横位	ケズリ	平底、網代痕、ケズリ	Ⅱ－２	繊維少量、砂礫	内外面煤付着	〃	〃
25	遺物集中区	黒褐色土	深鉢・ほぼ完形（底部欠損）	平縁、丸み、縄文	不整撚糸文	単軸絡条体、ＬＲ横位	ナデ、ミガキ		Ⅱ－２	繊維中量	内外面煤付着	67	〃
26	遺物集中区	黒褐色土	深鉢・ほぼ完形（底部欠損）	平縁、丸み	不整撚糸文	単軸絡条体、ＬＲ横位	ケズリ、ナデ		Ⅱ－２	繊維少量	内外面煤付着	〃	〃
27	遺物集中区	黒褐色土	小形深鉢・口縁～胴部上半	平縁、丸み	不整撚糸文	単軸絡条体、ＬＲ横位	ケズリ、ナデ		Ⅱ－２	繊維微量	撚糸文は、口縁部と胴部に施文	〃	〃
28	遺物集中区	黒褐色土	深鉢・口縁部	平縁、丸み、指頭圧痕	口縁裏側縄文	ＬＲ横位	ナデ		Ⅱ－２	繊維中量	口縁が強く外反する器形	〃	63
29	遺物集中区	黒褐色土	深鉢・口縁部	平縁、角状、縄文	不整撚糸文	単軸絡条体、ＬＲ横位	ケズリ、ナデ		Ⅱ－２	繊維中量、粗礫	外面煤付着、大木２ａ	〃	〃
30	遺物集中区	黒褐色土	深鉢・口縁部	平縁、角状、縄文、突起	不整撚糸文	単軸絡条体、ＲＬ横位	ケズリ、ナデ		Ⅱ－２	繊維少量	補修孔有り	〃	〃
31	8d	Ⅴ層	深鉢・口縁部	平縁、突起	不整撚糸文	単軸絡条体、ＬＲ横位	ケズリ、ナデ		Ⅱ－２	繊維少量	焼成良	〃	〃
32	遺物集中区	黒褐色土	深鉢・口縁部	波状？、丸み、縄文	不整撚糸文	単軸絡条体	ケズリ、ナデ		Ⅱ－２	繊維少量、砂粒		〃	〃
33	遺物集中区	黒褐色土	深鉢・口縁部	平縁、丸み	不整撚糸文	単軸絡条体、ＬＲ横位	ケズリ、ナデ		Ⅱ－２	繊維少量、砂粒	外面煤付着	〃	〃
34	遺物集中区	黒褐色土	深鉢・口縁部	平縁、丸み、縄文	原体押圧文（２条）、ケズリ	ＲＬ横位	ナデ		Ⅱ－２	繊維少量		〃	〃
35	5f	黒褐色土	深鉢・胴部		刺突	ＲＬ？			Ⅲ-４？	砂粒	器厚は13cm（厚い）、刺突文は単沈線気味に施される、実測図は天地が異なる可能性有り	〃	〃
36	10f	黒褐色土	深鉢・口縁部	平縁、丸み、	沈線文（鋸歯状、Ｘ字状）	Ｌ？			Ⅱ－４	繊維中量、砂粒	沈線文が施文されることから大木３式の可能性有り。あるいは東北地方南部系の大木２ａか。	〃	〃
37	13f	Ⅳ層	深鉢・口縁部	平縁、丸み	原体押圧文、半裁竹管	ＬＲ（結節有り）横位	ミガキ		Ⅱ-３-ａ	繊維少量		〃	〃
38	7f付近	黒褐色土	深鉢・口縁部	平縁、丸み	撚糸文、原体押圧文（単軸絡条体、単節）	単軸絡条体、ＬＲ縦位	ミガキ、ナデ		Ⅱ-３-ａ	繊維少量		〃	〃
39	遺物集中区	黒褐色土	深鉢・口縁部	平縁、丸み		原体不明	ナデ		Ⅱ－４	繊維少量	原体は検討を要する	〃	〃
40	12c	Ⅳ層	深鉢・口縁部	平縁、丸み	沈線文（網目状？）				Ⅱ－４	砂粒		〃	〃

番号	出土地点	層位	器　種	口唇部形態	文様・特徴	地　文	内面調整	底部形態	分類	胎土	備　　考	図版	写真
41	8d～9d	Ⅴ層	深鉢・口縁部	平縁、丸み、縄文	撚糸圧痕、隆帯上刺突、結束羽状縄文	ＬＲ・ＲＬ	ミガキ		Ⅱ-3-a	繊維少量	結束羽状縄文は、次段と交差している	67	63
42	10h～10iベルト	黒褐色土	深鉢・口縁部	平縁、丸み、折返し口縁	網目状撚糸文	単軸絡条体	ミガキ		Ⅱ－4	砂粒		〃	〃
43	3f	黒褐色土	深鉢・口縁部	平縁、丸み	撚糸原体押圧文、隆帯上刺突	ＲＬ横位	ミガキ		Ⅱ-3-a	繊維少量		〃	〃
44	9f	黒褐色土	深鉢・口縁部	平縁、丸み、縄文	原体痕文、隆帯上刺突		ミガキ		Ⅱ-3-a	繊維少量		〃	〃
45	10g	黒褐色土	深鉢・口縁部	平縁、丸み、縄文	絡条体圧痕文、結束羽状縄文	ＲＬ・ＬＲ	ミガキ		Ⅱ-3-a	砂粒		〃	〃
46	遺物集中区	黒褐色土	小形深鉢・1／3完形	平縁、丸み	ケズリ		ケズリ		Ⅱ－4	繊維微量	底部やや突出、前期前葉の可能性有り	〃	〃
47	8g	黒褐色土	深鉢・口縁部	平縁、丸み	帯縄文によるモチーフ（菱形・曲線状）、磨消状文	ＲＬ横位	ミガキ、ナデ		Ⅳ－1			〃	〃
48	C区トレンチ3	Ⅴ層？	深鉢・口縁部	小波状、丸み、突起、肥厚	原体押圧文、貼付隆帯上原体押圧文		ミガキ		Ⅲ－1		内面黒い物質（アスファルト？）付着	〃	〃
49	11d	黒褐色土	深鉢・口縁部	平縁、丸み	原体押圧文、貼付隆帯上原体押圧文		ミガキ		Ⅲ－1	砂粒		〃	〃
50	11h	Ⅵ層	深鉢・口縁部	平縁、丸み	貼付隆帯上縄文、半裁竹管文	ＲＬ斜位	ミガキ		Ⅲ－1	砂粒		〃	〃
51	12f～13gベルト	Ⅴ層	深鉢・口縁部	波状、角状	貼付隆帯上縄文、刺突文	ＬＲ横位	ミガキ、ナデ		Ⅳ－1		外面煤付着、沖附（2）式並行	68	〃
52	13gベルト	Ⅳ層	深鉢・口縁部	波状、角状	沈線、頂下瘤状突起		ミガキ、ナデ		Ⅳ－1		馬立Ⅰ式	〃	〃
53	12c	黒褐色土	深鉢・口縁部	平縁、丸み	沈線、脚状突起		ミガキ		Ⅳ－1			〃	〃
54	12c	Ⅳ層	壺？・胴部		沈線文(弧状のモチーフ)		ナデ		Ⅳ－1		赤色顔料塗布	〃	〃
55	8e検出時	Ⅳ層	深鉢・口縁部	小波状、内削ぎ	貼付隆帯、クランク状文		ナデ、ミガキ		Ⅳ－1			〃	64
56	13g	Ⅵ層	壺・胴～底部		沈線文(弧状のモチーフ)		ケズリ	平底、網代痕	Ⅳ－1		底面炭化物付着	〃	〃
57	8g	Ⅵ層	深鉢・口縁部	波状、丸み、頂部刻み	沈線文（弧状のモチーフ）	ＲＬＲ縦位	ミガキ、ナデ		Ⅳ－1		縄文施文後沈線で区画、58と同一個体の可能性	〃	55
58	8g	Ⅵ層	深鉢・口縁部	波状、丸み	沈線文（弧状のモチーフ）	ＲＬＲ縦位	ミガキ、ナデ		Ⅳ－1		縄文施文後沈線で区画、57と同一個体の可能性	〃	〃
59	6f	Ⅶ層	深鉢・口縁部	波状、丸み	沈線文	ＬＲ縦位	ナデ		Ⅳ－1	砂粒、金雲母、石英	縄文施文後沈線で区画	〃	〃
60	8g	Ⅵ層	深鉢・口縁部	小波状、丸み、突起（頂部刻み）	沈線文	ＲＬＲ縦位	ミガキ、ナデ		Ⅳ－1		縄文施文後沈線で区画、外面煤付着	〃	〃
61	12f	Ⅴ層	深鉢・胴部		沈線、磨消縄文	ＬＲＬ縦位？	ミガキ、ナデ		Ⅳ－1	長石	外面煤付着	〃	〃
62	11i	黒褐色土	壺・底部		非結束羽状縄文（異方向縄文）	ＬＲ	ミガキ	平底、ミガキ	Ⅳ－2		内外面炭化物多量付着	〃	〃
63	12c	Ⅴ層	深鉢・胴部		磨消縄文	ＬＲ横位	ミガキ		Ⅳ－2			〃	〃
64	12c	Ⅵ層	壺？・底部		ケズリ	ＲＬ		やや上げ底	Ⅳ－2		内面アスファルト付着	69	〃

番号	出土地点	層位	器　種	口唇部形態	文様・特徴	地　文	内面調整	底部形態	分類	胎土	備　　考	図版	写真
65	16h	Ⅴ層	小形鉢・ほぼ完形	平縁、丸み	無文		ナデ	平底	Ⅳ－4		胎土が赤い、内面剥落多	69	64
66 a	12e	Ⅳ層	壺・口縁～底部	平縁、角状、折返し口縁	無文		ミガキ	平底	Ⅳ－4		内外面黒色顔料塗布、底面凹凸あり	〃	〃
66 b	12e	Ⅳ層							Ⅳ－4			〃	〃
67	12f.	Ⅳ層	深鉢・口縁部	平縁、丸み	撚糸文	単軸絡条体	ミガキ、ナデ		Ⅳ－4			〃	〃
68	11d	Ⅲ層	注口土器・口縁～胴部上半	平縁、丸み、突起、刻み	口縁裏側溝状沈線、沈線、磨消縄文、雲形文、頸部ミガキ	ＬＲ横位	ナデ		Ⅴ－2	砂粒、長石	内外面炭化物付着	〃	〃
69	18h	Ⅴ層	四足壺・ほぼ完形（口縁部欠損）		工字文、ミガキ			四足	Ⅴ－3		赤色顔料塗布、外面丹念なミガキ、器面は黒光りする	〃	〃
70	19 i ～20 i	Ⅴ層	台付鉢？・口縁部	平縁、丸み	口縁裏側溝状沈線、平行沈線		ミガキ		Ⅴ－3		内外面とも丹念なミガキ	〃	〃
71	遺物集中区	黒褐色土	鉢・口縁部	平縁、丸み	平行沈線、瘤（粘土貼付）	ＲＬ横位	ミガキ		Ⅴ－3	砂粒	内外面煤付着	〃	〃
72	9h	黒褐色土	鉢・口縁部	平縁、丸み、突起	平行沈線、瘤（粘土貼付）	ＬＲ横位	ケズリ、ミガキ		Ⅴ－3	石英	内面炭化物付着	〃	〃
73	21 i	Ⅲ層	台付鉢・脚部		工字文		ミガキ		Ⅴ－3			〃	〃
74	19 i	Ⅴ層	鉢・ほぼ完形	平縁、丸み、突起	沈線文、刻み				Ⅴ－3			〃	〃
75	14 g	Ⅲ～Ⅳ層	台付浅鉢・脚部		平行沈線		ケズリ		Ⅴ－3			〃	65
76	18～19g	Ⅳ層	深鉢・口縁部	平縁、丸み	口縁部刻み、沈線、刺突、突起		ケズリ		Ⅴ－2～3	長石		〃	〃
77	10 h	Ⅲ～Ⅳ層	壺？・口縁～頸部	平縁、角状	平行沈線		ナデ		Ⅶ－3			〃	〃
78	11f付近	黒褐色土層	台付浅鉢・口縁部	平縁、丸み	口縁裏側溝状沈線、平行沈線、突起、ミガキ		ミガキ		Ⅶ－3		内外面とも丹念なミガキ	〃	〃
79	8d	黒褐色土	壺・口縁部	平縁、沈線、Ａ突起	口縁裏側溝状沈線、沈線、ミガキ		ミガキ		Ⅴ－3		内外面とも丹念なミガキ	〃	〃
80	9h	黒褐色土	壺・口縁部	平縁、丸み	口縁裏側溝状沈線、平行沈線、ミガキ		ミガキ、ナデ		Ⅴ－2～3			〃	〃
81	6d	礫混入黒褐色土層	鉢・口縁部	小波状、沈線	口縁裏側溝状沈線（２条）、沈線、刻み				Ⅴ－3		口唇部アスファルト付着	〃	〃
82	19～20 i	Ⅴ層	鉢・口縁部	平縁、内削ぎ	沈線文		ミガキ		Ⅴ－3		内外面煤付着	〃	〃
83	8i	黒褐色土層	鉢・口縁部	平縁、丸み	沈線文	ＬＲ横位	ミガキ		Ⅴ－3		外面煤微量付着	〃	〃
84	9g	Ⅵ層	鉢・口縁部	平縁、丸み	口縁裏側溝状沈線、変形工字文	ＬＲ縦位	ナデ		Ⅴ－3		内面煤付着、大洞Ａの新段階からＡ゛に比定される	〃	〃
86	14 h	Ⅲ～Ⅳ層	壺・胴～底部		ミガキ、底部沈線			平底	Ⅴ－4			70	〃
87	遺物集中区	黒褐色土	深鉢・口縁部	平縁、丸み	口縁1cm程無文帯	ＬＲ横位			Ⅴ－4	石英	外面煤付着	〃	〃
88	12 c	黒褐色土	小形深鉢・１゛２完形	平縁、丸み	沈線文	ＬＲ横位？		やや上げ底状	Ⅱ－4		器形はやや筒型状を呈する。外面剥落多、底部やや突出	〃	〃
93	11 g ～11f	Ⅳ層	壺？・胴～底部		横位沈線		ケズリ	やや上げ底状	Ⅳ－4		内外面とも粗雑なケズリ	〃	〃

第６表　遺構外出土土製品観察表

番号	出土地点	層　位	器種・部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	文様・特徴など	時　期	備　　考	図版	写真
94	10e	黒褐色土	板状土偶 胴部上半	(3.8)	5.5	0.8	25.74	沈線、突起、突起に貫通孔、ケズリ	後期初頭～前葉	砂粒	70	65
95	13～15 f～i	Ⅲ層	土製品		3.4	0.9	12.48	突起、隆帯、隆帯上刻み	後期初頭～前葉		〃	〃
96	13～15 f～ i	Ⅳ～Ⅴ層	土偶？・右肩部			0.9	41.31	沈線文	晩期後～末葉		〃	〃
97	9f～10f	Ⅳ～Ⅴ層	鐸型土製品・胴部			0.7	6.41	弧状沈線、渦巻き状沈線文、刺突	後期前葉		〃	〃
98	遺物集中区	黒褐色土	円盤状土製品	11.4	10.4	0.7	127.10	原体押圧文、ＲＬ横位	前期前葉	繊維中量、粗礫多量、外面摩耗多	〃	〃
99	遺物集中区	黒褐色土	円盤状土製品	5.5	5.2	0.9	32.16	沈線文	前期前葉	繊維中量、内面煤付着	〃	66
100	11i	Ⅵ層	円盤状土製品	4.1	3.4	0.8	16.06	ＬＲ	前期？	粗礫	〃	〃
101	13f	Ⅴ層	円盤状土製品	4.6	4.0	0.8	21.34	ＬＲ、内面：ナデ	晩期？	長石、砂粒、外面煤付着	〃	〃
102	10g	Ⅳ～Ⅴ層	円盤状土製品	4.1	4.0	0.7	16.40	ＬＲ	前期	繊維少量	〃	〃
103	12c	Ⅳ層	円盤状土製品	3.8	3.6	0.7	12.34	帯縄文、内面：ナデ	後期前葉	側面を丁重に磨いている	〃	〃
104	12e	Ⅳ～Ⅴ層	円盤状土製品	3.9	3.5	0.8	14.15	ＬＲＬ、内面：ﾐｶﾞｷ	後期		〃	〃
105	11h～11i	Ⅳ～Ⅴ層	円盤状土製品	2.8	2.7	0.6	6.75	ＬＲＬ、内面：ﾐｶﾞｷ	後期？		〃	〃

（ミニチュア土器）

番号	出土地点	層位	器　種	口唇部形態	文様・特徴	地　文	内面調整	底部形態	分類	胎土	備　　考	図版	写真
85	２ｃ	黒褐色土	ミニチュア土器 （壺）・完形	平縁、丸み	沈線			平底、沈線	Ⅴ－４			70	65
89	８ｉ	黒褐色土	ミニチュア土器 （壺）・完形	平縁、丸み	沈線文			平底	Ⅴ－２			〃	〃
90	12c	黒褐色土	ミニチュア土器（深鉢）・完形	波状（５単位）、丸み	入組文（沈線）			やや上げ底状	Ⅳ－１			〃	〃
91	遺物集中区		ミニチュア土器・胴部下半～底部			ＬＲ縦位	ケズリ	平底	Ⅳ－４			〃	〃
92	遺物集中区		ミニチュア土器（深鉢）・ほぼ完形	平縁、丸み		ＲＬ横位		上げ底	Ⅱ－４	繊維中量		〃	〃

第７表　遺構外出土石器・石製品観察表

番号	出土状況	層　位	器　種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石　質	備　考	図版	写真
106	13g	Ⅳ層	石鏃	3.3	1.1	0.3	1	珪質頁岩		70	66
107	11i	Ⅴ層	石鏃	2.8	1.1	0.4	0.9	珪質頁岩		〃	〃
108	7g	Ⅴ層	石鏃	3	1.9	0.5	2	珪質頁岩		〃	〃
109	12f	Ⅳ層	石鏃	1.6	0.3		1.1	珪質頁岩		〃	〃
110	遺物集中区	黒褐色土	石鏃	3.2	1.9	0.3	1.2	頁岩		〃	〃
111	遺物集中区	黒褐色土	石鏃	2.7	1.7	0.3	1.4	頁岩		〃	〃
112	遺物集中区	黒褐色土	石鏃	4.1	2.7	0.8	9.7	黒色頁岩		〃	〃
113	遺物集中区	黒褐色土	石鏃	3.9	2.1	0.5	2.5	珪質頁岩		〃	〃
114	遺物集中区	黒褐色土	石鏃	4	1.6	0.7	3.3	頁岩		〃	〃
115	遺物集中区	黒褐色土	石鏃	3.1	1.5	0.6	1.5	頁岩		〃	〃
116	7f	Ⅴ層下位	石槍	14.2	3.8	1	61.4	珪質頁岩		71	〃
117	B区トレンチ３	黒褐色土	石槍	14	3.8	1.8	92.55	珪質頁岩		〃	〃
118	8d	Ⅴ層	石槍	13.6	4.3	1	45.6	珪質頁岩		〃	〃
119	遺物集中区	Ⅴ層	石鏃	3.6	1.1	0.4	1.7	珪質頁岩		〃	〃
120	B区西側	黒褐色土	打製石斧	7.8	4.2	1.4	37.01	黒色頁岩		〃	〃
121	12e	Ⅵ層	石箆	3.6	2.4	1.1	9.62	珪質頁岩		〃	〃
122	６ｊ	Ⅴ～Ⅵ層	石錐	3.7	2.5	0.9	6.25	玉髄		〃	〃
123	11g	Ⅳ層	石錐	3.8	2.5	1	4.11	珪質頁岩		〃	〃
124		黒褐色土	打製石斧	4.9	2.1	1.2	12.84	珪質頁岩		〃	〃
125	遺物集中区	黒褐色土	石箆	5.8	2.6	0.9	14.9	頁岩		〃	〃
126	11d	Ⅳ層	石箆	4.6	3.6	1	19.3	頁岩		〃	67
127	遺物集中区	黒褐色土	石箆	4.5	2.8	10.5	14	珪質頁岩		〃	〃
128	遺物集中区	黒褐色土	石匙	5.6	2.7	1.1	15.5	珪質頁岩		〃	〃
129	６ｅ～６ｄ	Ⅴ層	石匙	6.7	2.7	0.8	11.4	頁岩		〃	〃
130	遺物集中区	黒褐色土	石匙	7	2.4	0.6	8.4	頁岩		〃	〃
131	遺物集中区	黒褐色土	石匙	4.5	2.4	0.7	6.9	珪質頁岩		〃	〃
132	遺物集中区	黒褐色土	石匙	6.4	3.8	0.5	15.3	珪質頁岩		〃	〃
133	遺物集中区	黒褐色土	石匙	2.7	7	0.5	9.2	頁岩		〃	〃
134	５ｅ	黒褐色土	両極石器	3.1	2.7	0.9	9.09	チャート		〃	〃
135	19ｉ～20ｉ	Ⅲ～Ⅳ層	石錐	6.1	4	0.8	10.11	チャート		〃	〃
136	遺物集中区	黒褐色土	磨製石斧	10.4	4.7	2.5	194.1	緑泥岩		72	〃
137	20ｉ	Ⅲ層	石鍬	12.8	12.2	3.1	436.7	砂岩		〃	〃
138	12f	Ⅴ層	石錘	9.5	7.3	3.1	275.5	安山岩	凹石転用	〃	〃
139	C区	Ⅴ層？	凹石・磨石・敲打石	14.6	9	3.2	447.9	安山岩		〃	〃
140	11d	Ⅳ層	凹石・磨石・敲打石	10.2	7.8	4.6	663.2	安山岩		〃	〃
141	11f	Ⅳ層	凹石	8.2	7.5	4.2	346.8	角閃安山岩		〃	〃
142	B区T3	黒褐色土	磨石	9	8.3	4.5	523.6	安山岩		〃	〃
143	10ｇ	Ⅴ層	磨石	11.5	8.4	2	255.8	斑岩		73	〃
144	遺物集中区	黒褐色土	半円状扁平打製石器	14	9.2	1.8	256	斑岩		〃	〃
145	遺物集中区	黒褐色土	磨石	13.1	7.8	5.6	84.5	安山岩		〃	〃
146	13f	Ⅴ層	石皿	20	18	6.4	2500	安山岩		〃	〃
147		黒褐色土	石刀	7.2	3	0.8	26.82	粘板岩		〃	68
148	9h	Ⅴ層	石剣	11.5	2.8	1.4	59.7	頁岩		〃	〃
149	2i	Ⅴ層	石剣	10.2	3.2	1	45.2	頁岩		〃	〃
150	B区	Ⅱ層	石刀	8.2	2.2	0.7	17.8	頁岩		〃	〃
151	13e	Ⅴ層	石刀	7.3	2.4	1	23.4	頁岩		〃	〃
152	10c	Ⅴ層	石剣	7.3	2.4	1	23.4	粘板岩		〃	〃
153	５ｄ～６ｄ	黒褐色土	石剣	8.2	2.6	1.4	39.7	頁岩		〃	〃
154	10h～10i	黒褐色土	石製品（円盤状）	4.3	4.3	2.5	22.67	凝灰岩		〃	〃

3．分析・鑑定

高橋利彦（木工舎「ゆい」）

（1）試料

試料はNo.1～4の4点で、柱材と推定されているものである。No.1は非炭化材（以下単に材と表記する）で、掘建柱建物跡を構成する可能性のある柱穴（PP28）から検出された。No.2～4は炭化材で、縄文時代のものとされる焼失住居址（12号竪穴住居跡）から検出されたものである。

（2）方法

材試料は、剃刀の刃用いて試料の木口・柾目・板目の3面の徒手切片を作製、ガム・クローラル（*Gum Chloral*）で封入し、生物顕微鏡で観察・同定した。炭化材は、試料を室内で自然乾燥させたのち木口・柾目・板目の3断面を作製、実体顕微鏡と走査型電子顕微鏡（無蒸着、加速電圧10Kv）で観察・同定した。同時に顕微鏡写真図版（図版1）も作製した。電子顕微鏡観察に当たっては㈱ニッテツ・ファイン・プロダクツ釜石試験分析センターのご協力をいただいた。記して感謝致します。なお、作製したプレパラートと残りの炭化材、ネガ・フィルムはすべて木工舎「ゆい」に保管されている。

（3）結果

試料は以下の3Taxa（分類群、ここでは属と種という異なった階級の分類単位を総称している）に同定された。試料の主な解剖学的特徴や一般的な性質は次のようなものである。なお、各Taxaの科名・学名・和名およびその配列は「日本の野生植物　木本Ⅰ・Ⅱ」（1989）にしたがい、一般的性質などについては「木の事典　第1巻～第17巻」（1979～1982）も参考にした。

・クリ（*Castanea crenata*）　ブナ科　No.1

環孔材で孔圏部は多列、孔圏外でやや急激に管径を減じたのち漸減しながら火炎状に配列する。大道管は単独、横断面では円形～楕円形、小道管は単独および2～3個が斜（放射）方向に複合、横断面では角張った楕円形～多角形。道管は単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では柵状～網目状となる。放射組織は同性、単列、1～20細胞高。柔組織は周囲状および短接線状。年輪界は明瞭。

クリは北海道西部・本州・四国・九州の山野に自生し、また植栽される落葉高木である。材はやや重硬で、強度は大きく、加工はやや困難であるが耐朽性が高い。土木・建築・器具・家具・薪炭材、榾木や海苔粗朶などの用途が知られている。

・ケヤキ（*Zelkova serrata*）　ニレ科　No.3，4

環孔材で孔圏部は多列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線～斜方向の文様をなす。大道管は横断面では楕円形、単独、小道管は横断面では多角形で複合管孔をなす。道管は単穿孔をもち、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ型、1～10細胞幅、時に60細胞高を越え、しばしば結晶を含む。柔組織は周囲状。年輪界は明瞭。

ケヤキは本州・四国・九州の谷沿いの肥沃池などに自生し、また屋敷林や並木として植栽される落葉高木

で、時に樹高50mにも達する。材はやや重硬で、強度は大きいが加工は困難でなく、耐朽性が高く木理が美しい。建築・造作・器具・家具・機械・彫刻・薪炭材など各種の用途が知られ、国産広葉樹材の中で最良のものの一つに上げられる。

・トネリコ属の一種（*Fraxinus sp*）　モクセイ科　No. 2

環孔材で孔圏部は2～3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減する。道管は横断面では円形～楕円形、単独または2個が複合、単穿孔をもつ。放射組織は同性（～異性Ⅲ型）、1～3細胞幅、細胞高は高くないが外形は大きい。柔組織は周囲状。年輪界は明瞭。

トネリコ属には、シオジ（*Fraxinus platypoda*）、トネリコ（*F. japonica*）、ケアオダモ（*F. langinosa*）など9種が自生する。このうちヤマトアオダモ（*F. longicuspis*）は本州・四国・九州、にマルバアオダモ（*F. seiboldiana*）・ケアオダモは北海道・本州・四国・九州に、ヤチダモ（*F. mandshurica var japonica*）は北海道・本州に、トネリコは本州（中部地方以北）に、シオジは本州（関東地方以西）・四国・九州に分布する。いずれも落葉高木である。材の性質は種によって異なるが、一般には中庸～やや重硬で、靭性があり、加工は容易で、建築・器具・家具・旋作・薪炭材などの用途が知られる。

引用文献

平井　信二　1979～1982　「木の事典　第1巻～第17巻」、かなえ書房

佐竹　義輔・原　　寛・亘理　俊次・冨成　忠夫（編）　1989　「日本の野生植物　木本Ⅰ・Ⅲ」、平凡社、321、305pp

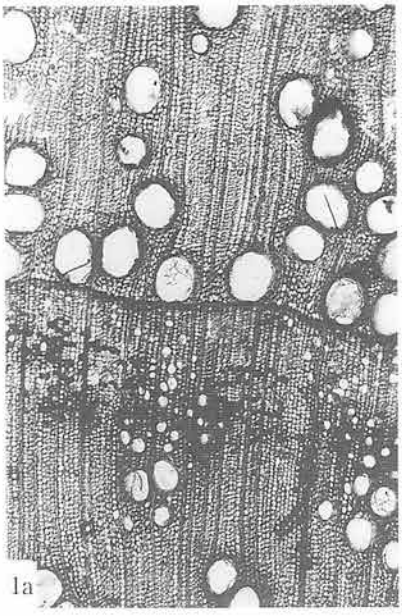
図版1　1．クリ　No.1

2．ケヤキ　No.4

3．トネリコ属の一種　No.2

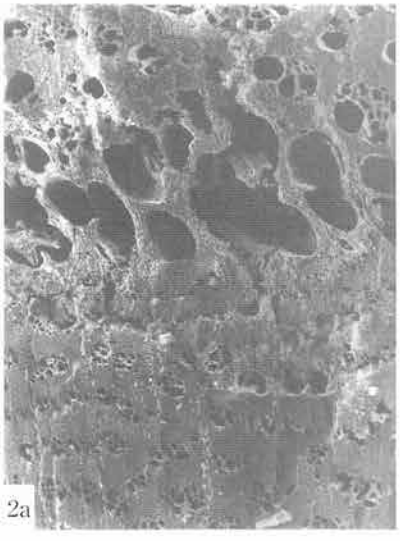
a：木口　x40　b：柾目　x100　c：板目　x100

樹木の肥大生長方向は木口では画面下から上へ、柾目では左から右である。

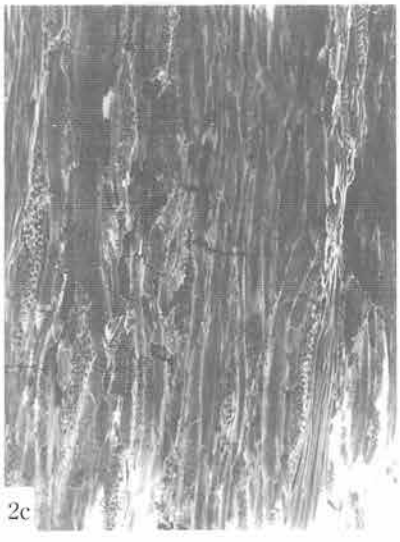

1a

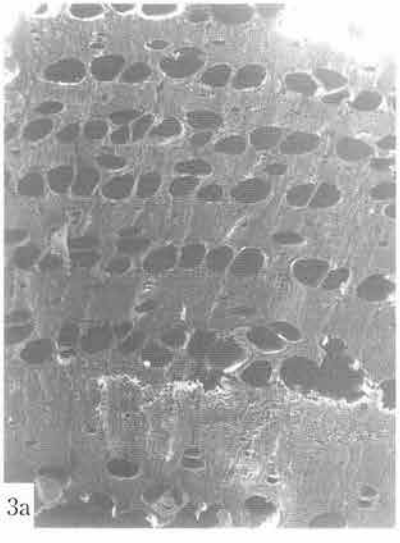
1b

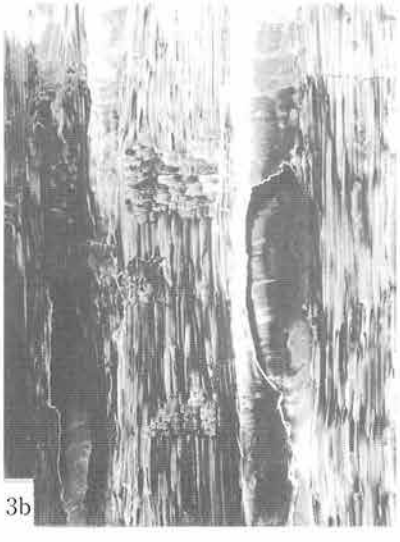
1c


2a

2b

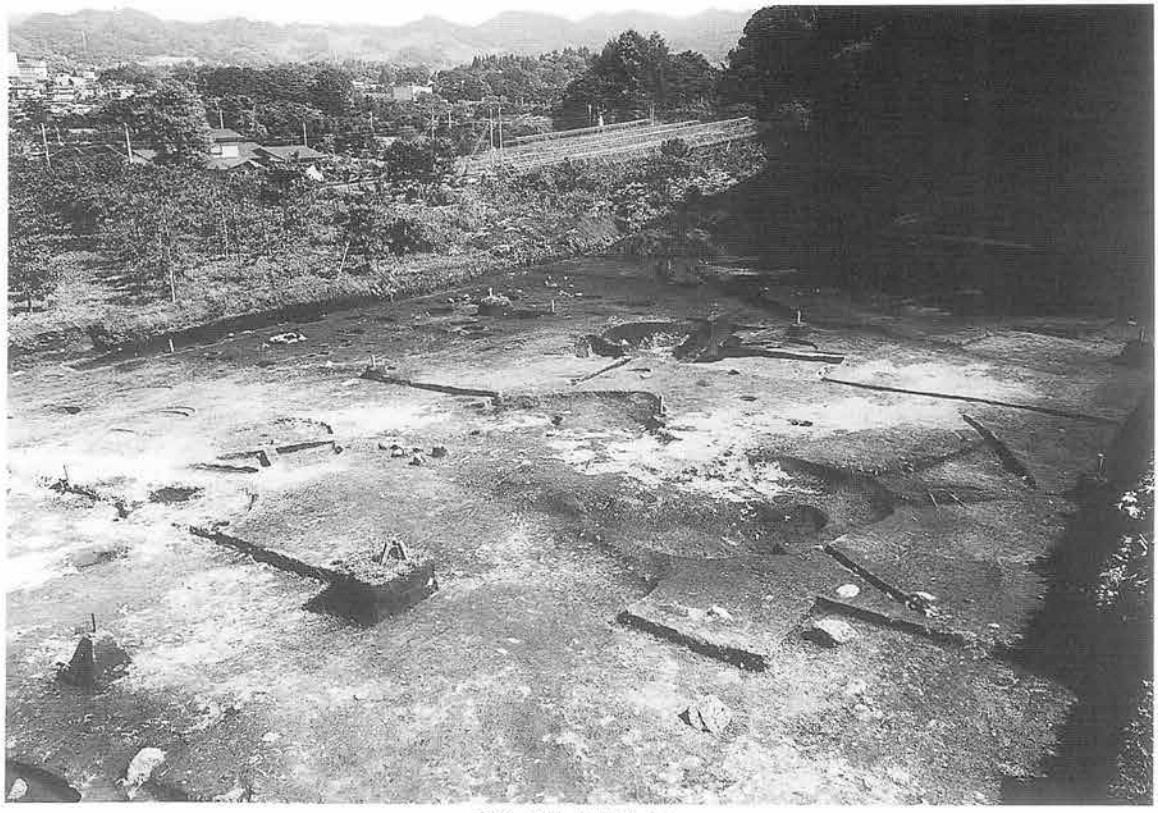

2c


3a


3b

3c

写　真　図　版



B区 全景（北西から）

B区 北部（西から）

B区 南部（北から）

調査前全景

作業風景

写真図版１　調査区全景

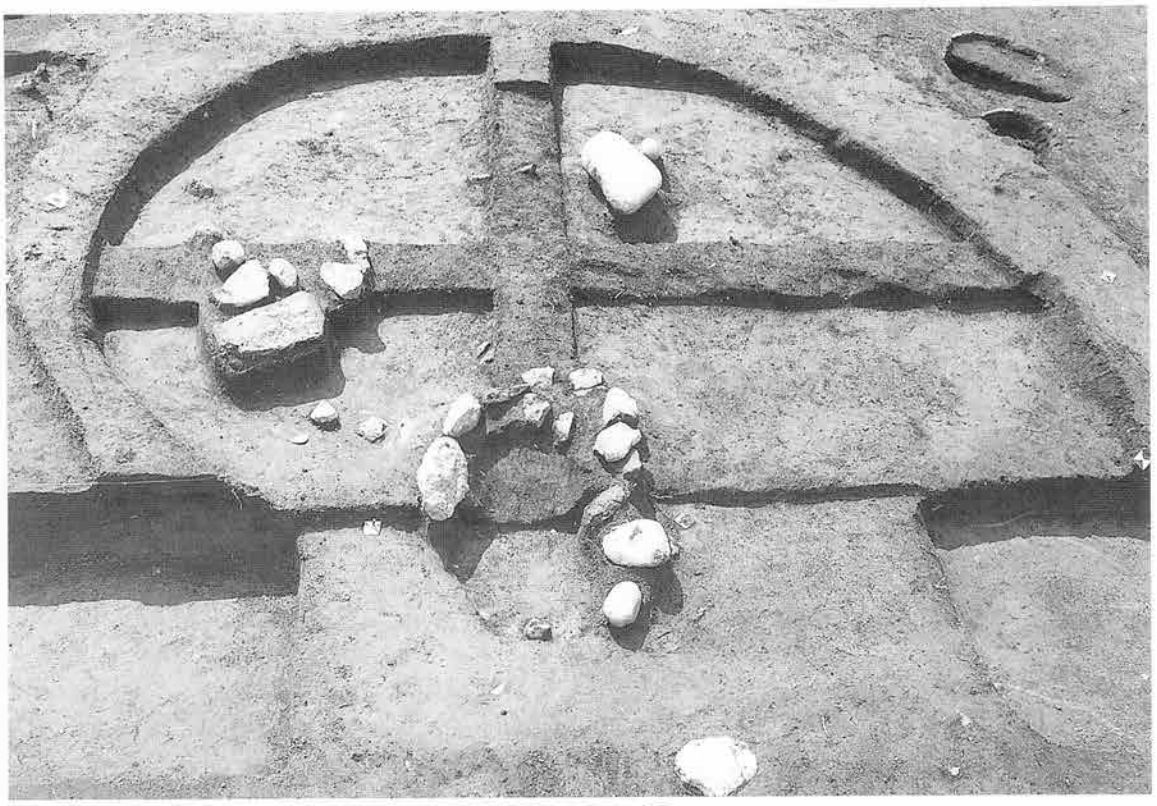
1号竪穴住居跡　全景

礫除去前

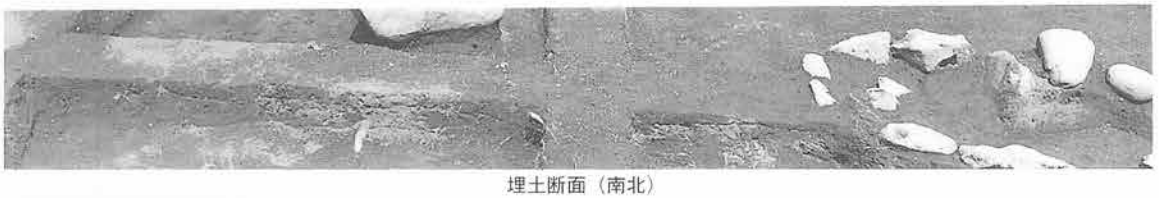
埋土断面（南北）

埋土断面（東西）

写真図版２　１号竪穴住居跡



2号竪穴住居跡 全景



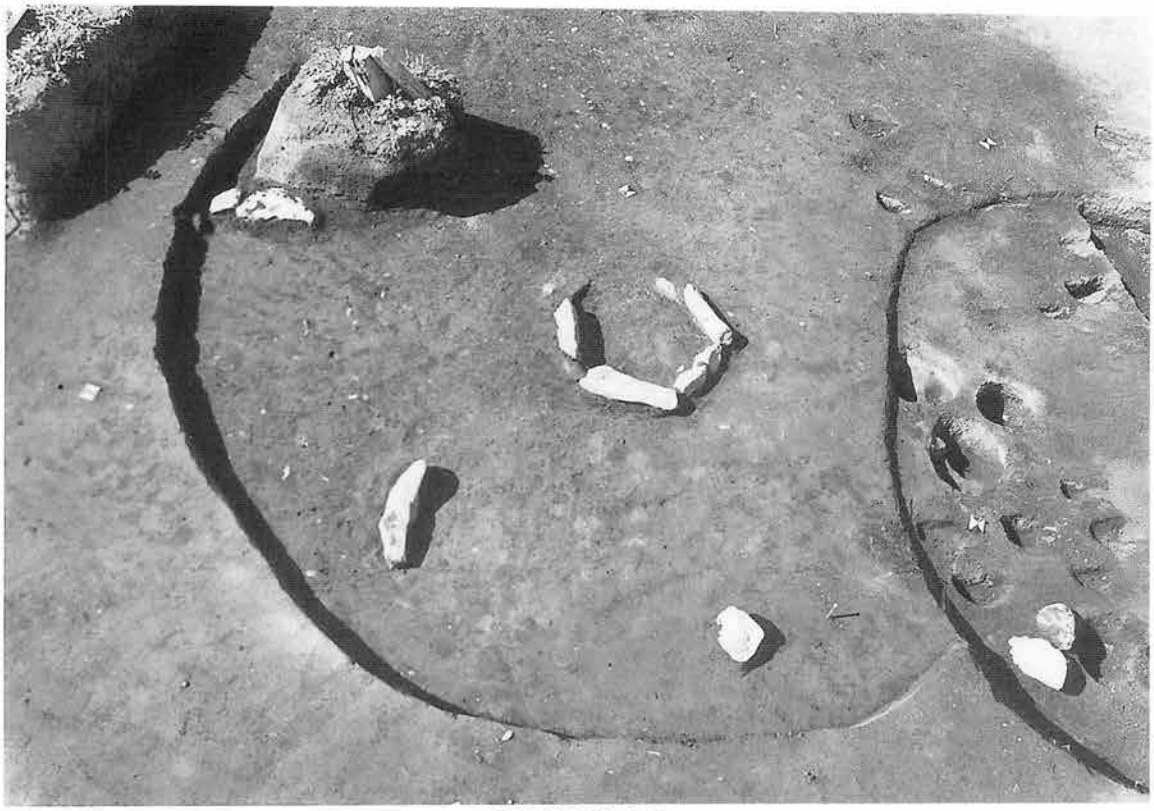
埋土断面（南北）

埋土断面（東西）

炉　平面

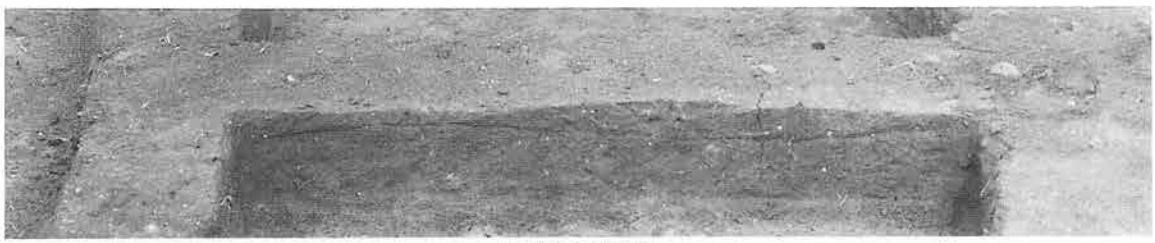
炉　断面

写真図版3　2号竪穴住居跡

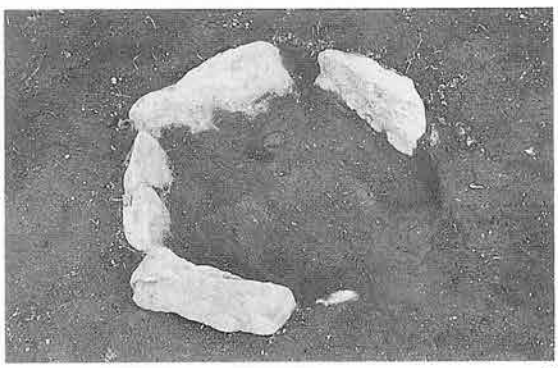


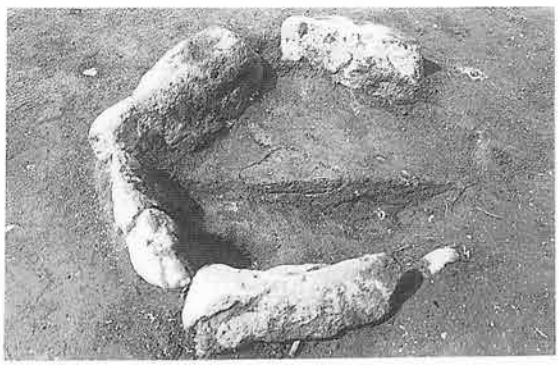
3号竪穴住居跡 全景

埋土断面（南北）



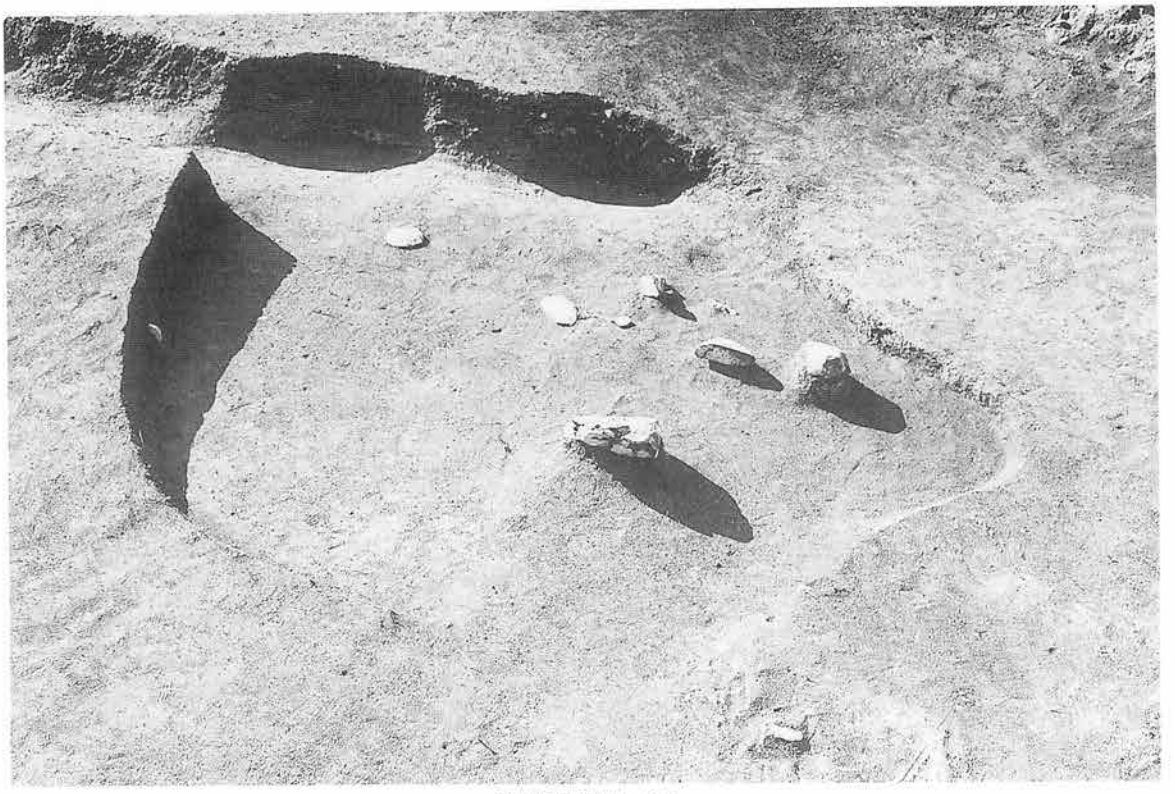
埋土断面（東西）





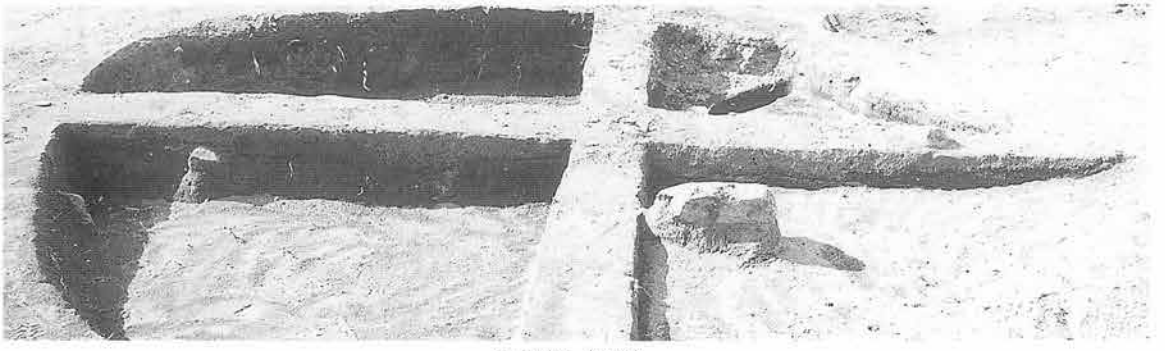
炉 断面

写真図版4　3号竪穴住居跡



4号竪穴住居跡 全景

埋土断面（南北）



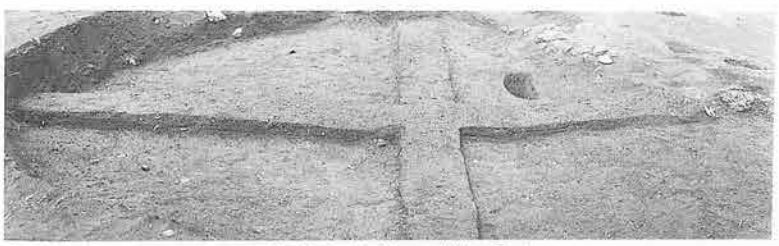
埋土断面（東西）

写真図版5　4号竪穴住居跡

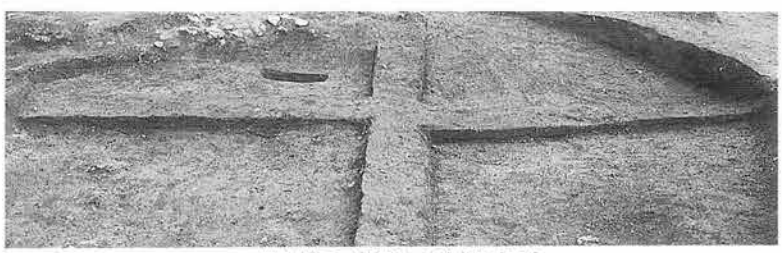
5号竪穴住居跡 全景

埋土断面（南北）1次掘り下げ

埋土断面（東西）1次掘り下げ



埋土断面（南北）2次掘り下げ

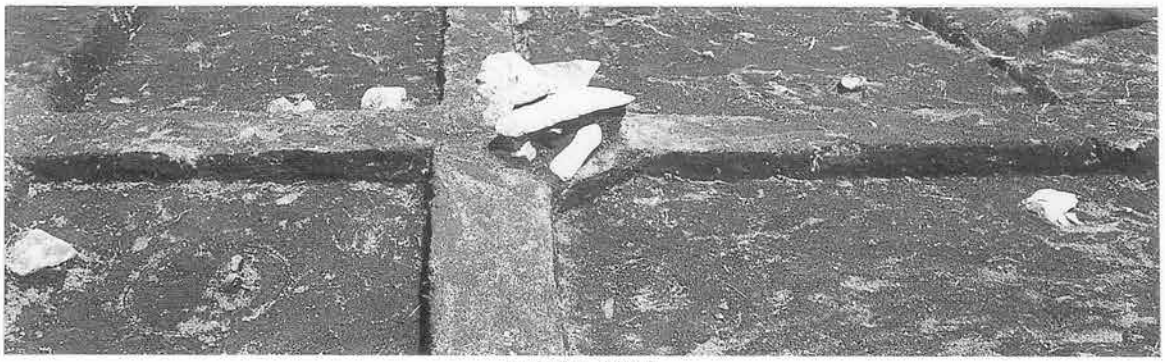


埋土断面（東西）2次掘り下げ

写真図版6　5号竪穴住居跡

6号竪穴住居跡 全景

埋土断面（南北）

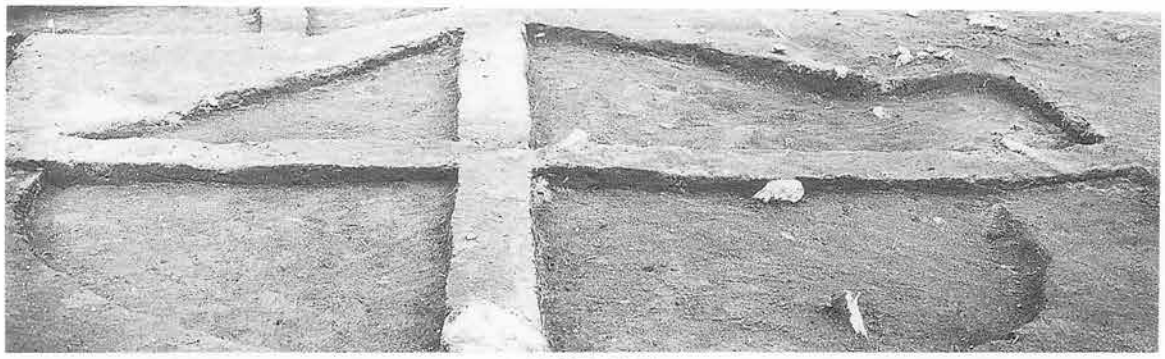


埋土断面（東西）

写真図版7　6号竪穴住居跡

7号竪穴住居跡 全景

埋土断面（南北）



埋土断面（東西）

写真図版8　7号竪穴住居跡

8号竪穴住居跡 埋土断面（南北）

埋土断面（東西）

炉　平面

炉　断面

写真図版9　8号竪穴住居跡

9号竪穴住居跡 全景

埋土断面（南北）

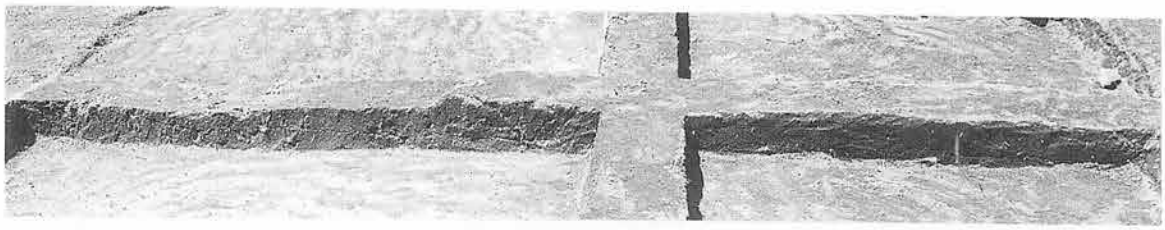
埋土断面（東西）

写真図版10　9号竪穴住居跡

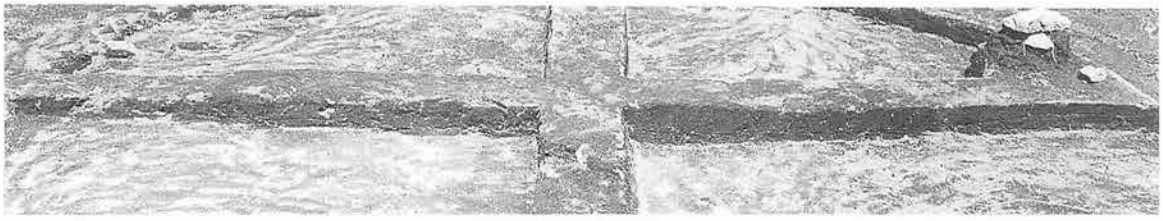
10号竪穴住居跡　全景

11号竪穴住居跡　全景

写真図版11　10号・11号竪穴住居跡



11号竪穴住居跡　埋土断面（南北）



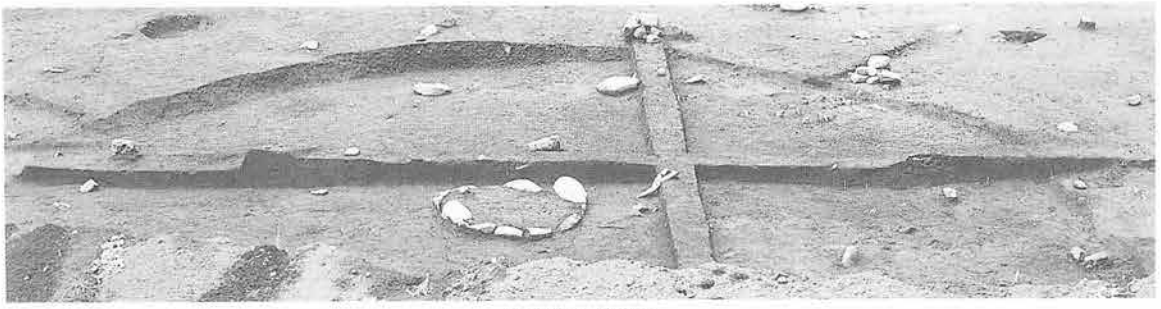
11号竪穴住居跡　埋土断面（東西）

12号竪穴住居跡　全景

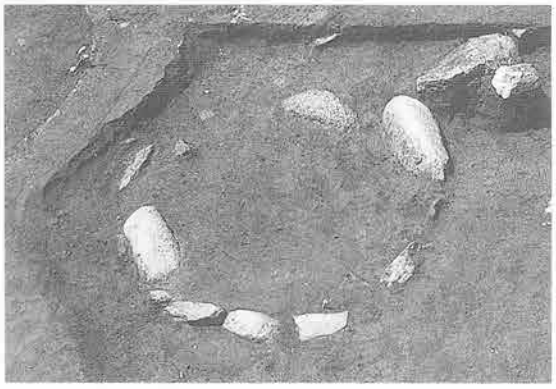
12号竪穴住居跡　全景（壁柱穴検出後）

写真図版12　11号・12号竪穴住居跡

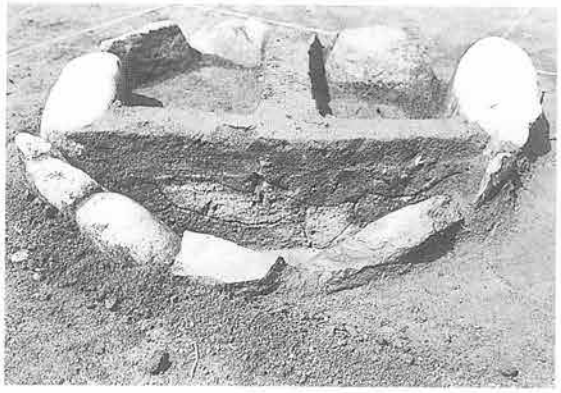
埋土断面（南北）



埋土断面（東西）

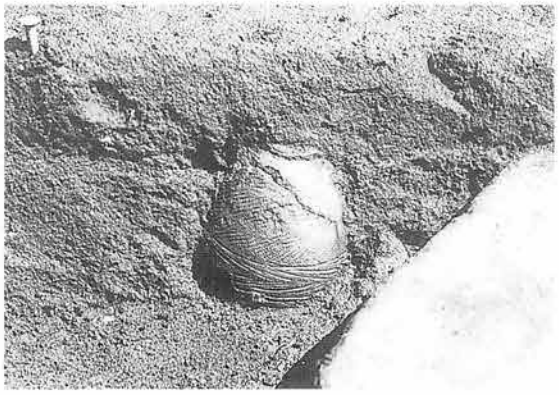


炉　平面



炉　断面

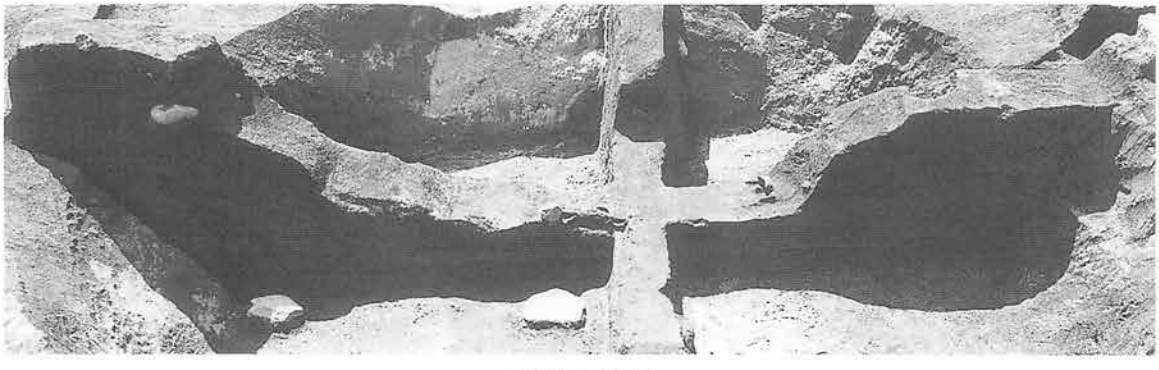
土器出土状況



土器出土状況

写真図版13　12号竪穴住居跡

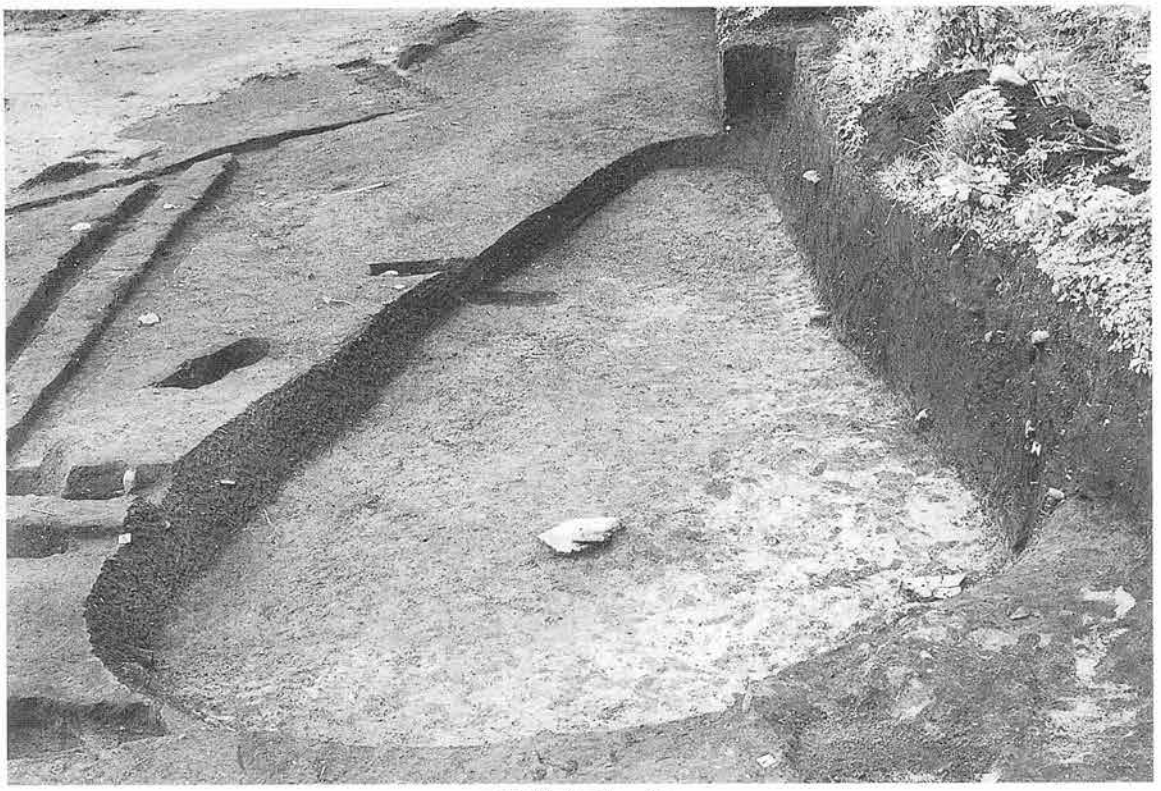
13号竪穴住居跡　全景



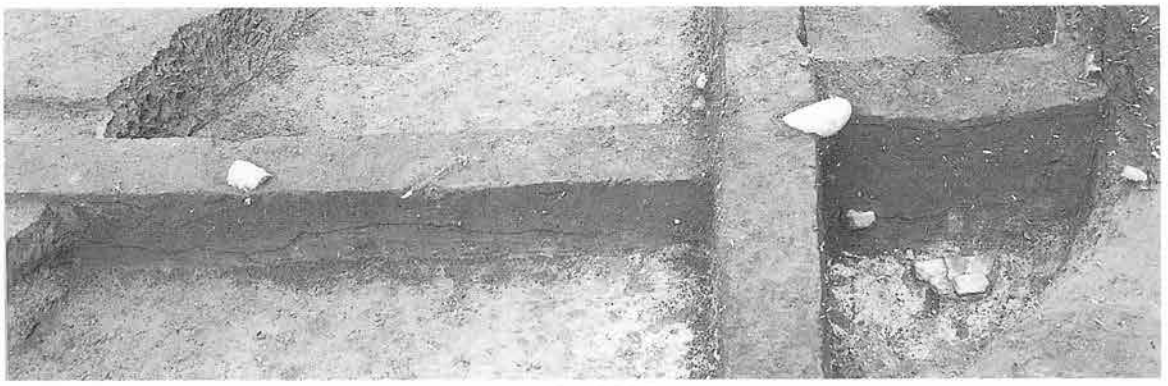
埋土断面（南北）

埋土断面（東西）

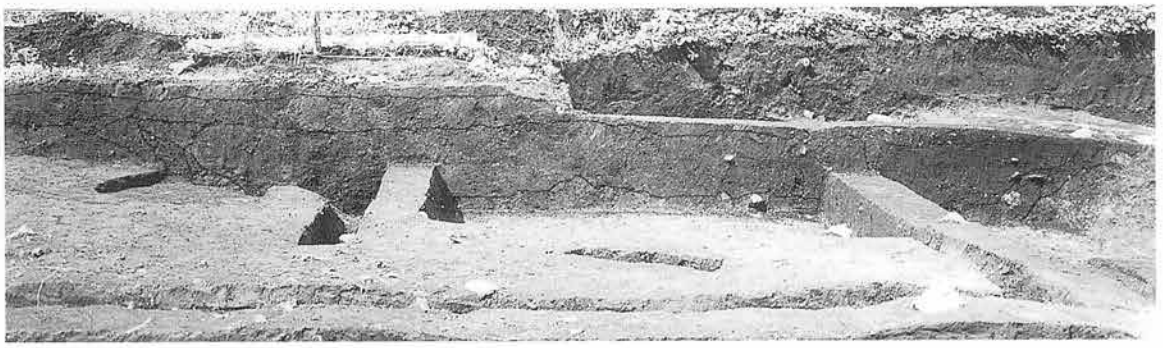
写真図版14　13号竪穴住居跡



14号竪穴住居跡　全景



埋土断面（南北）



埋土断面（東西）

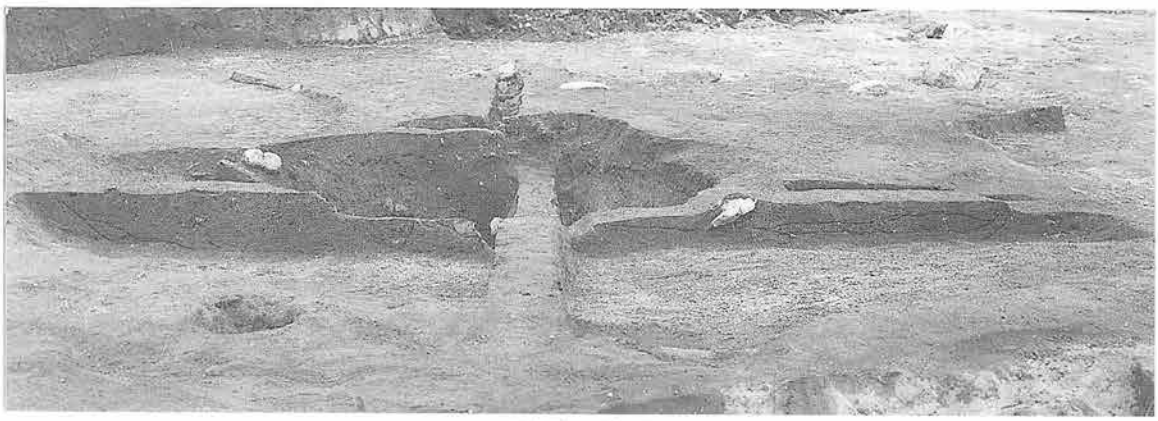
写真図版15　14号竪穴住居跡

15号竪穴住居跡　埋土断面（東西）

16号竪穴住居跡　全景

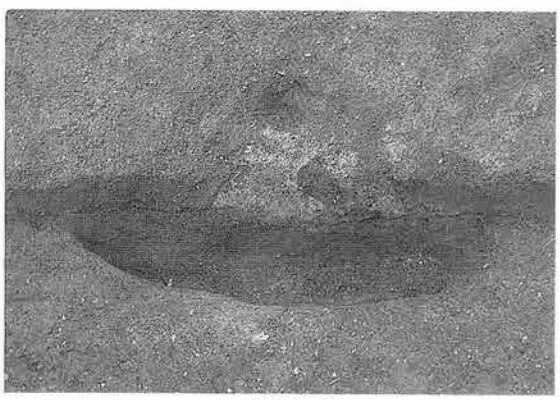
写真図版16　15号・16号竪穴住居跡

16号竪穴住居跡　埋土断面（南北）



埋土断面（東西）

焼土平面



焼土断面

写真図版17　16号竪穴住居跡

17号竪穴住居跡　全景

埋土断面（南北１）

埋土断面（南北２）

埋土断面（東西）

写真図版18　17号竪穴住居跡

18号竪穴住居跡　全景

埋土断面（南北）

埋土断面（東西）

写真図版19　18号竪穴住居跡

19号竪穴住居跡　全景

埋土断面（南北）

埋土断面（東西）

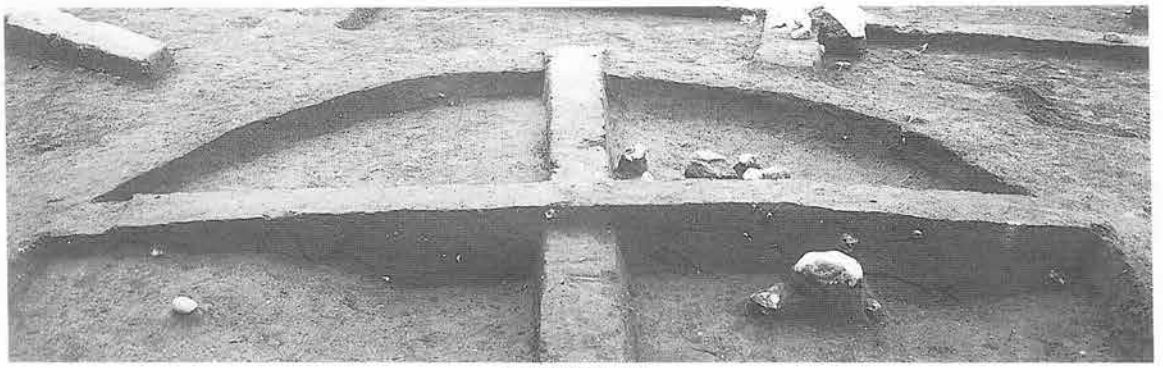
土器出土状況

住居内土坑断面

写真図版20　19号竪穴住居跡

20号竪穴住居跡　全景

埋土断面（南北）



埋土断面（東西）

写真図版21　20号竪穴住居跡

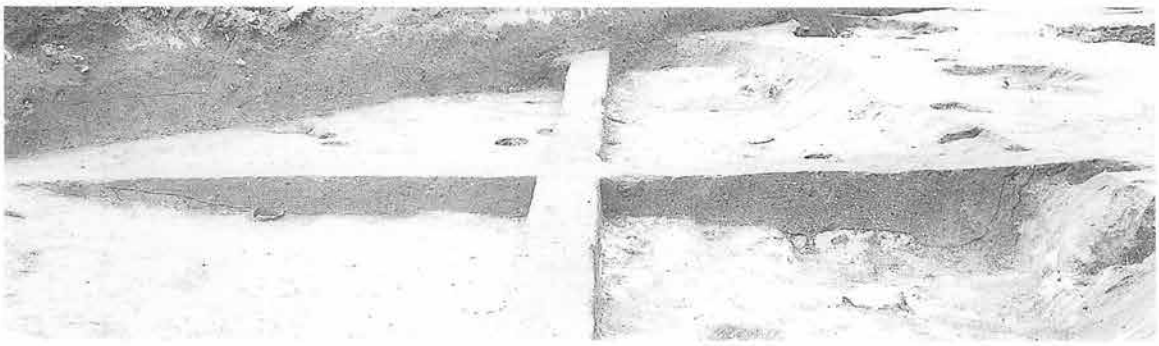
21・22・23号竪穴住居跡　全景

21・22・23号竪穴住居跡埋土断面（南北１）

21・22・23号竪穴住居跡埋土断面（南北２）

写真図版22　21号・22号・23号竪穴住居跡

21号竪穴住居跡埋土断面（東西）



22号竪穴住居跡埋土断面（東西）

23・24号竪穴住居跡埋土断面（調査区東側壁）

21号住居炉　平面

21号住居炉　断面

写真図版23　21号・22号・23号・24号竪穴住居跡

22号住居・焼土・炉断面

22号住居炉断面

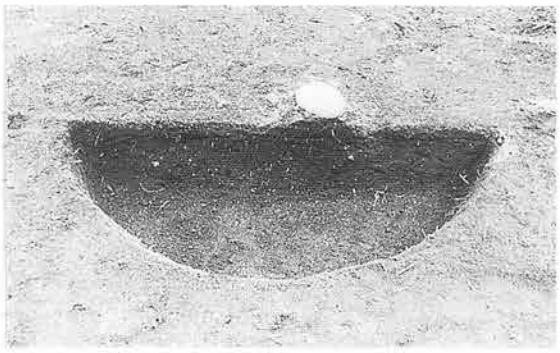
炉内上部土器取り上げ後

23号住居炉断面

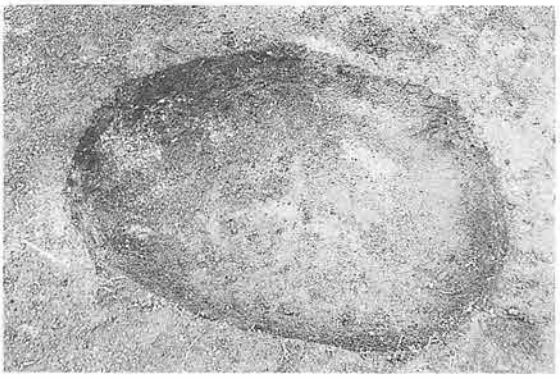
遺物出土状況

写真図版24　22号・23号竪穴住居跡

1号土坑　平面

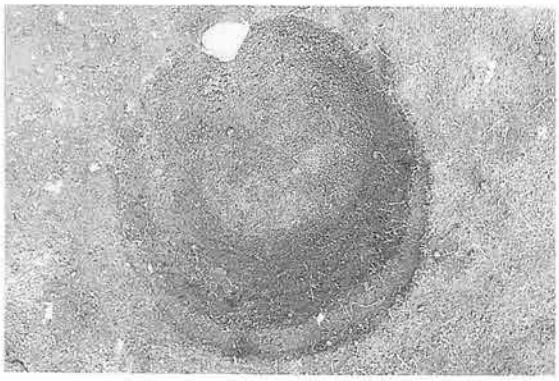


埋土断面

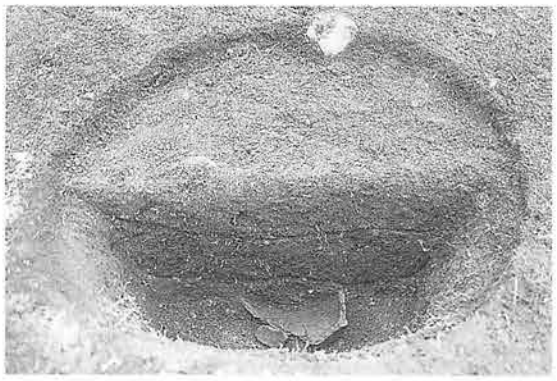


2号土坑　平面

埋土断面



3号土坑　平面

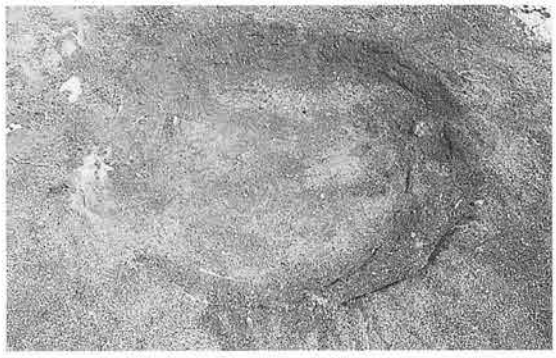


埋土断面

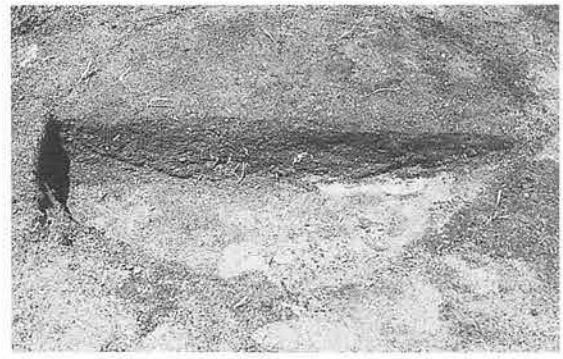
4号土坑　平面

埋土断面

写真図版25　1号～4号土坑

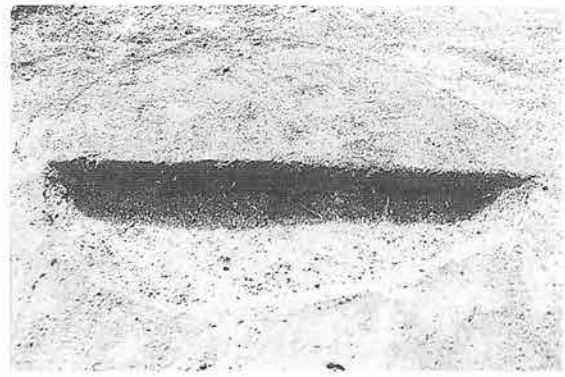


5号土坑　平面

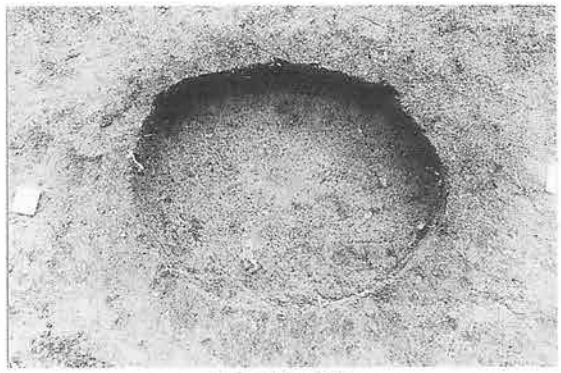


埋土断面

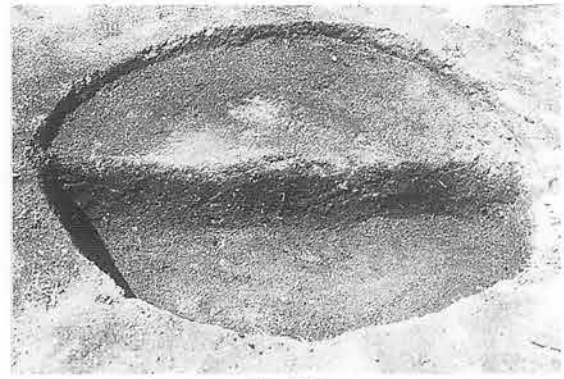
6号土坑　平面



埋土断面



7号土坑　平面



埋土断面

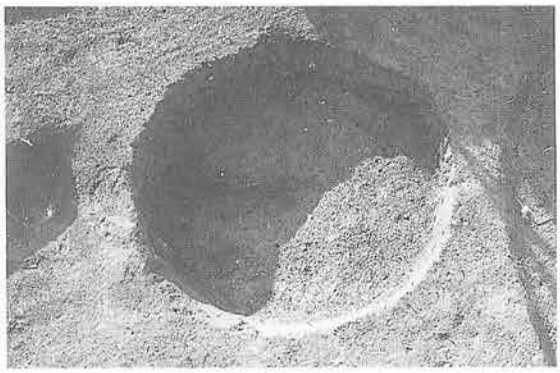
8号土坑　平面

埋土断面

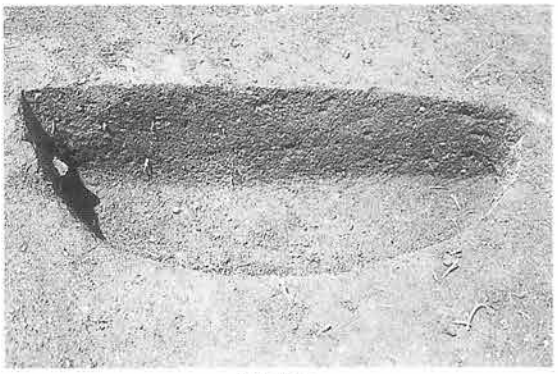
写真図版26　5号～8号土坑

9号土坑　平面

埋土断面

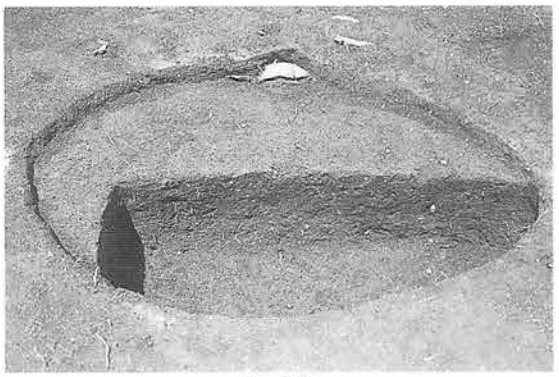


10号土坑　平面



埋土断面

11号土坑　平面



埋土断面

12・13号土坑　平面

12号土坑埋土断面

写真図版27　9号～13号土坑

13号土坑　埋土断面

16号土坑　埋土断面

15号土坑　平面

埋土断面

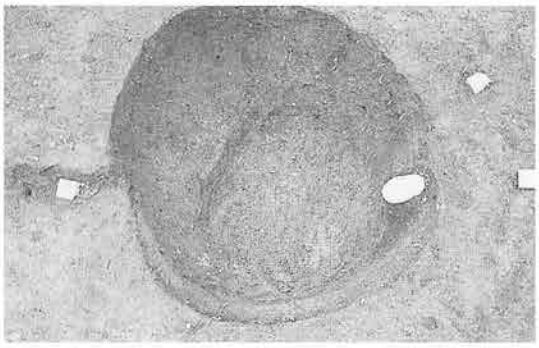
17号土坑　平面

埋土断面

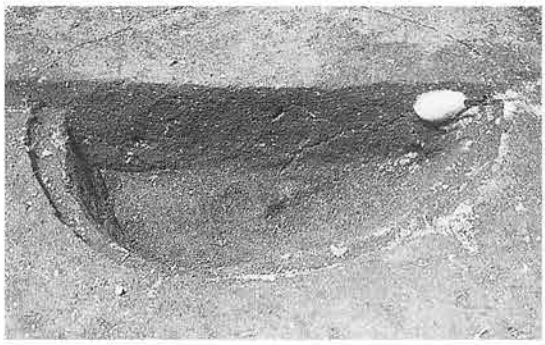
18号土坑　平面

埋土断面

写真図版28　13号～18号土坑



19号土坑　平面

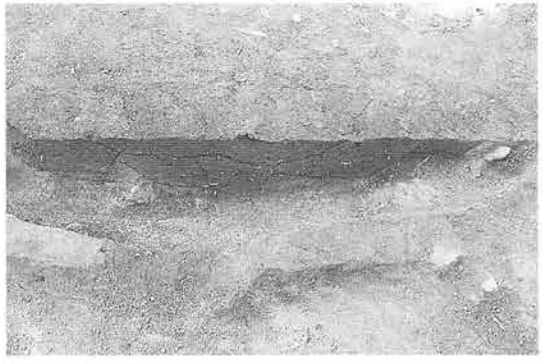


埋土断面

20号土坑　平面

埋土断面

21号土坑　平面



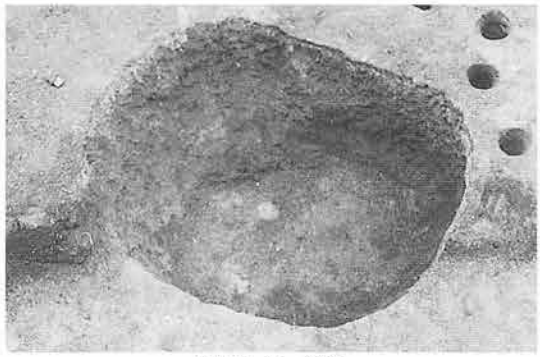
埋土断面

22号土坑　平面

埋土断面（南北）

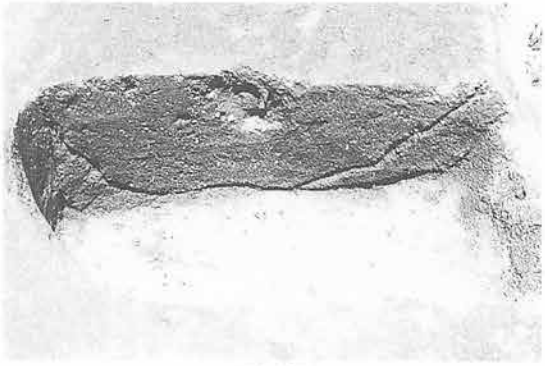
埋土断面（東西）

写真図版29　19号～22号土坑



23号土坑　平面

25号土坑　平面



埋土断面

26号土坑　平面

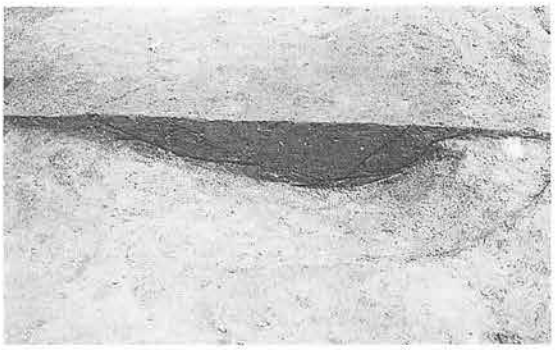
埋土断面

27号土坑　平面

埋土断面

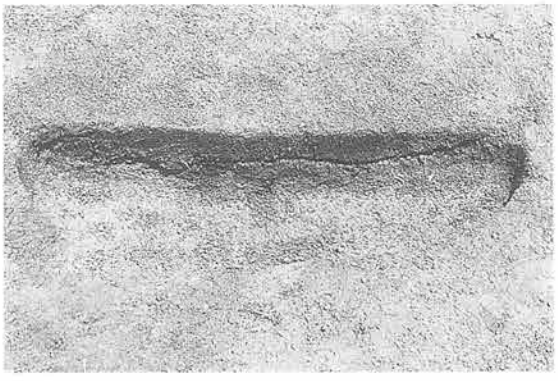
写真図版30　23号・25号～27号土坑

28号土坑　平面



埋土断面

29号土坑　平面



埋土断面

30号土坑　平面

埋土断面

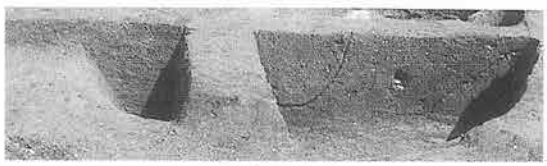
31号土坑　平面

埋土断面

写真図版31　28号～31号土坑

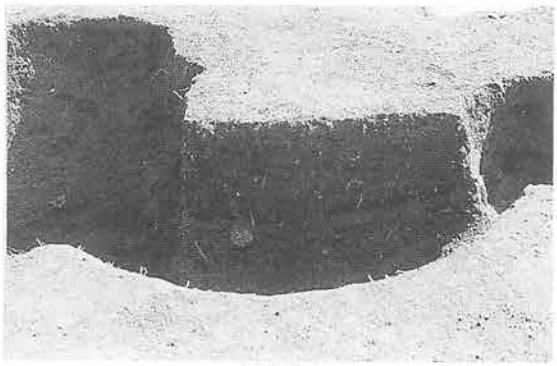
32号土坑　平面

埋土断面（南北）



埋土断面（東西）

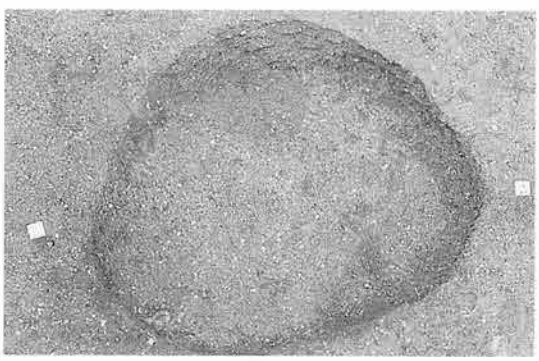
33号土坑　平面



埋土断面

34号土坑　平面

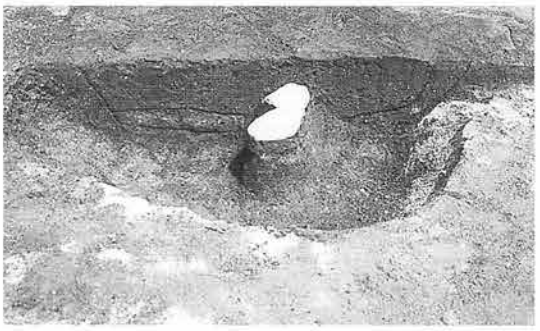
35号土坑　平面



36号土坑　平面

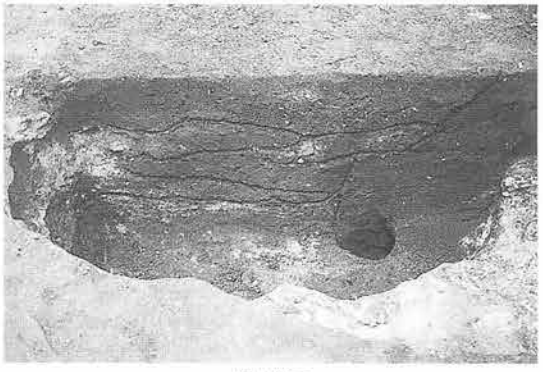
写真図版32　32号～36号土坑

37号土坑　平面



埋土断面

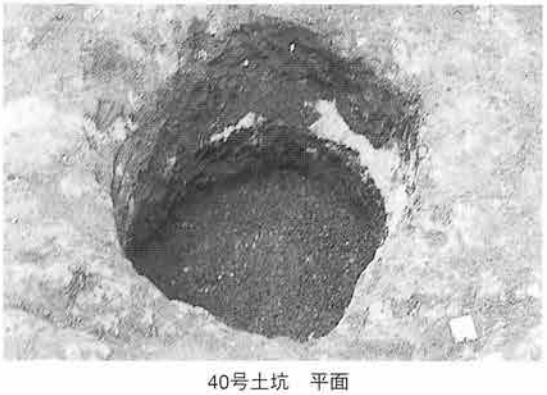
38号土坑　平面



埋土断面

39号土坑　平面

埋土断面



40号土坑　平面

埋土断面

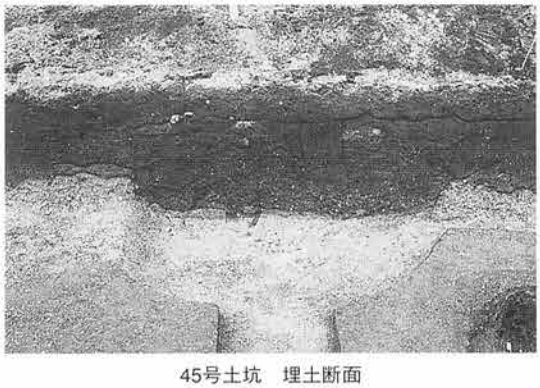
写真図版33　37号～40号土坑

41号土坑　埋土断面

42号土坑　埋土断面

43号土坑　平面

44号土坑　埋土断面

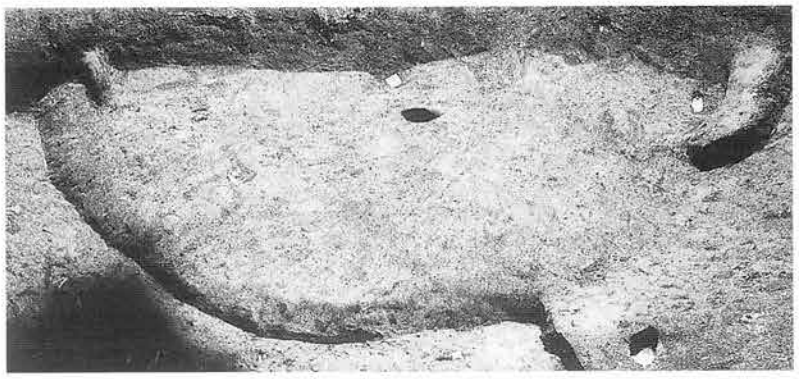


45号土坑　埋土断面

46号土坑　平面

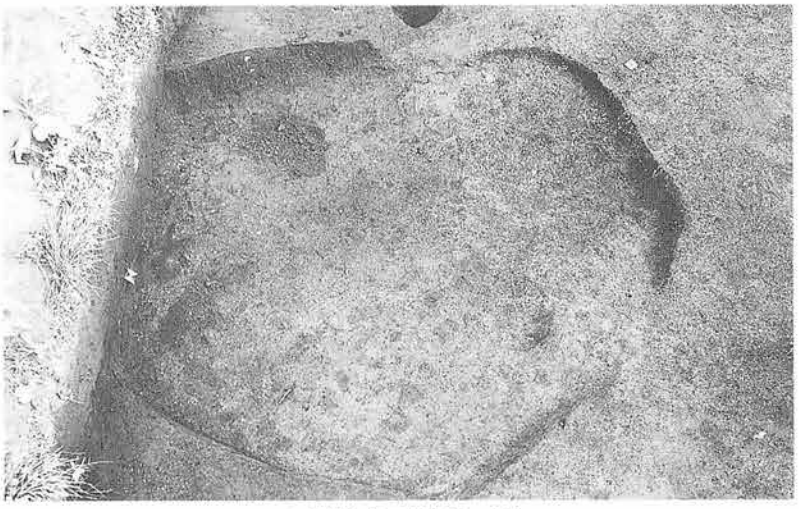
埋土断面

写真図版34　41号～46号土坑



1号竪穴住居状遺構　全景

埋土断面（東西）

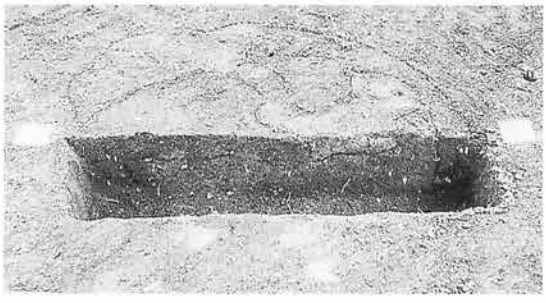


2号竪穴住居状遺構　全景

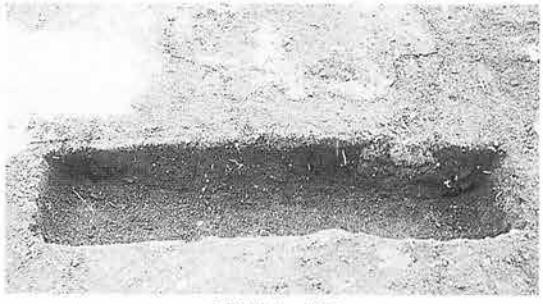
埋土断面（東西）

写真図版35　1号・2号竪穴住居状遺構

1・2号焼土遺構　平面



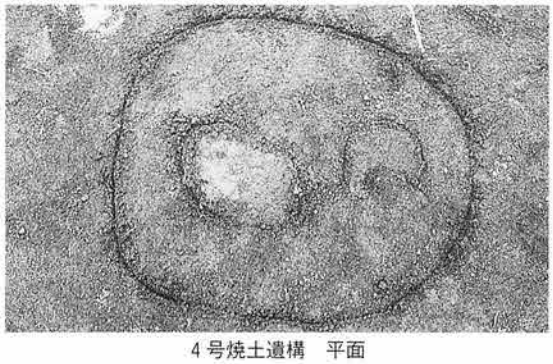
1号焼土　断面



2号焼土　断面

3号焼土遺構　平面

断面

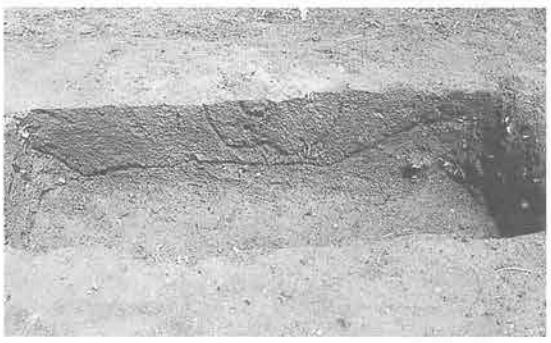


4号焼土遺構　平面

断面

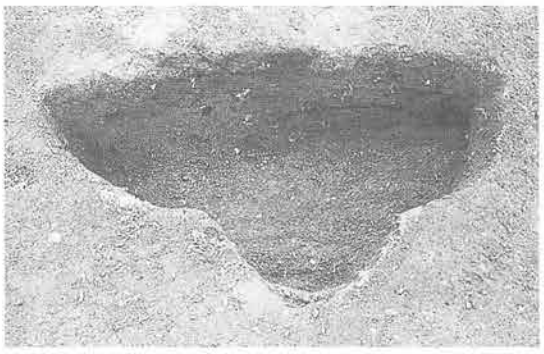
写真図版36　1号～4号焼土遺構

5号焼土遺構　平面



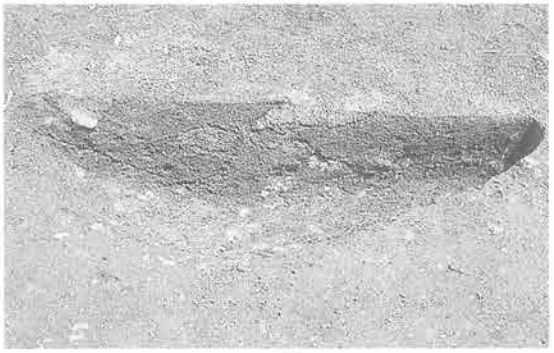
断面

6号焼土遺構　平面



断面

7号焼土遺構　平面



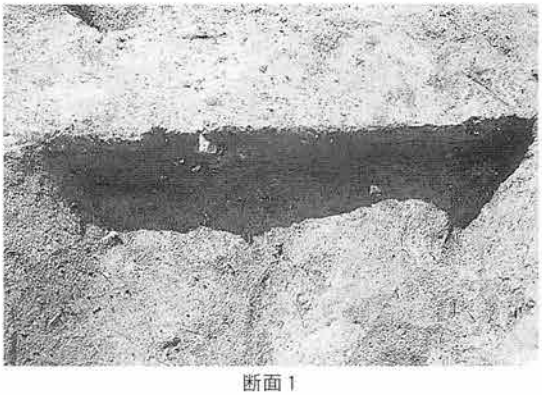
断面

8号焼土遺構　平面

断面

写真図版37　5号～8号焼土遺構

1号溝跡　全景



断面1

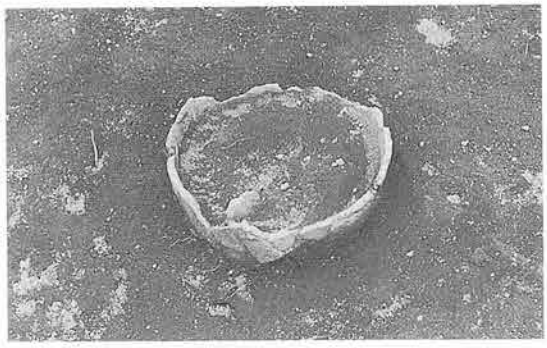
断面2

2号溝跡　全景

断面1

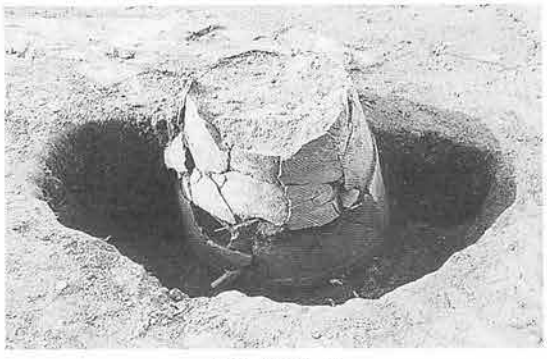
断面2

写真図版38　1号・2号溝跡



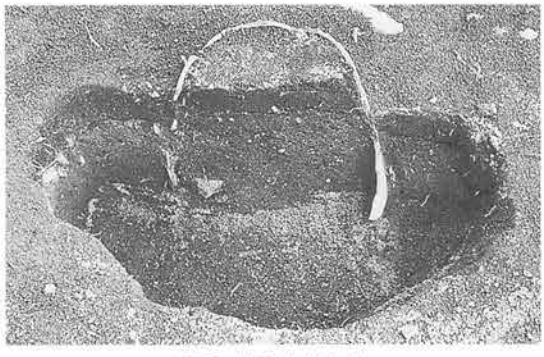
1号埋設土器遺構　平面

断面



断面（堀り方）

2号埋設土器遺構　平面

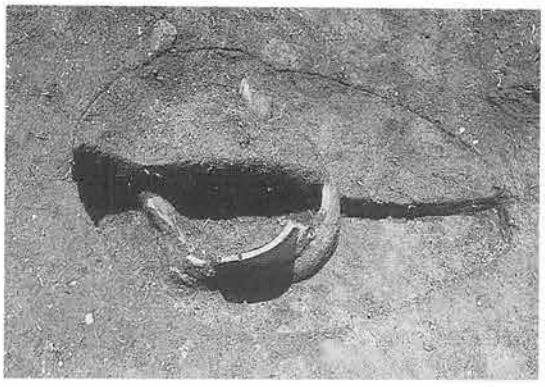


断面（土器内充填土）

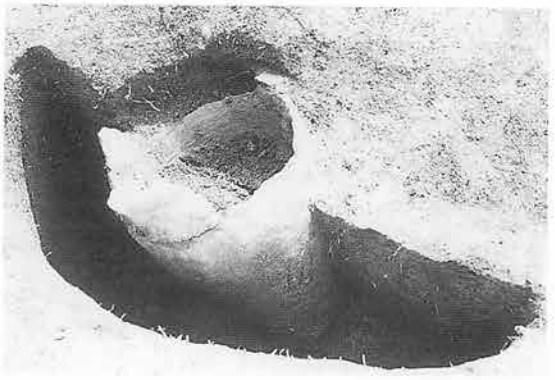
3号埋設土器遺構　平面

断面

写真図版39　1号～3号埋設土器遺構



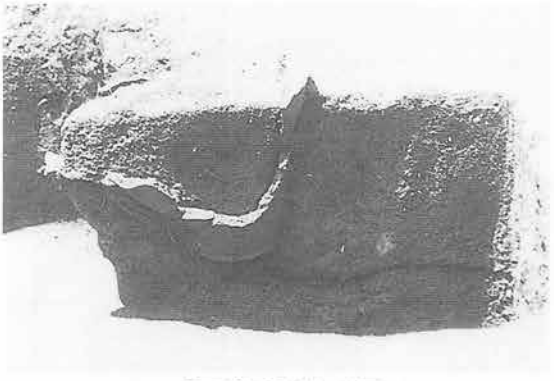
4号埋設土器遺構　平面



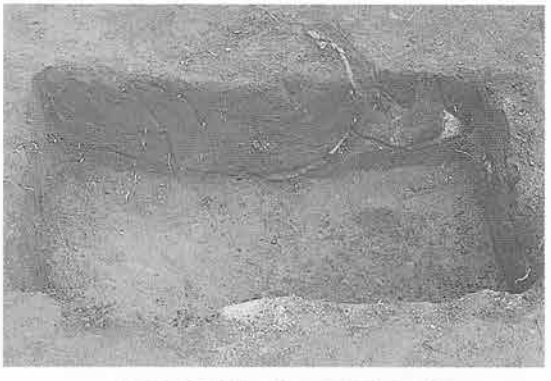
断面

5号埋設土器遺構　断面

6号埋設土器遺構　断面（堀り方）

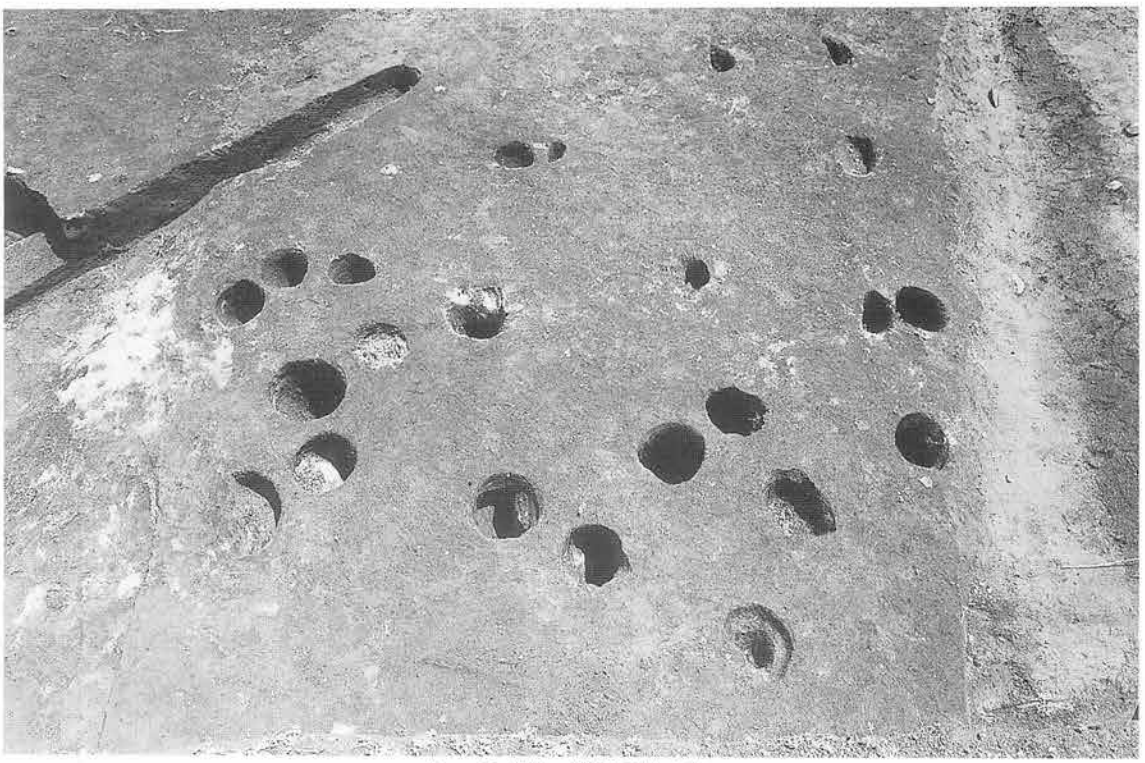


7号埋設土器遺構　断面



6号埋設土器遺構　断面（土器内充填土）

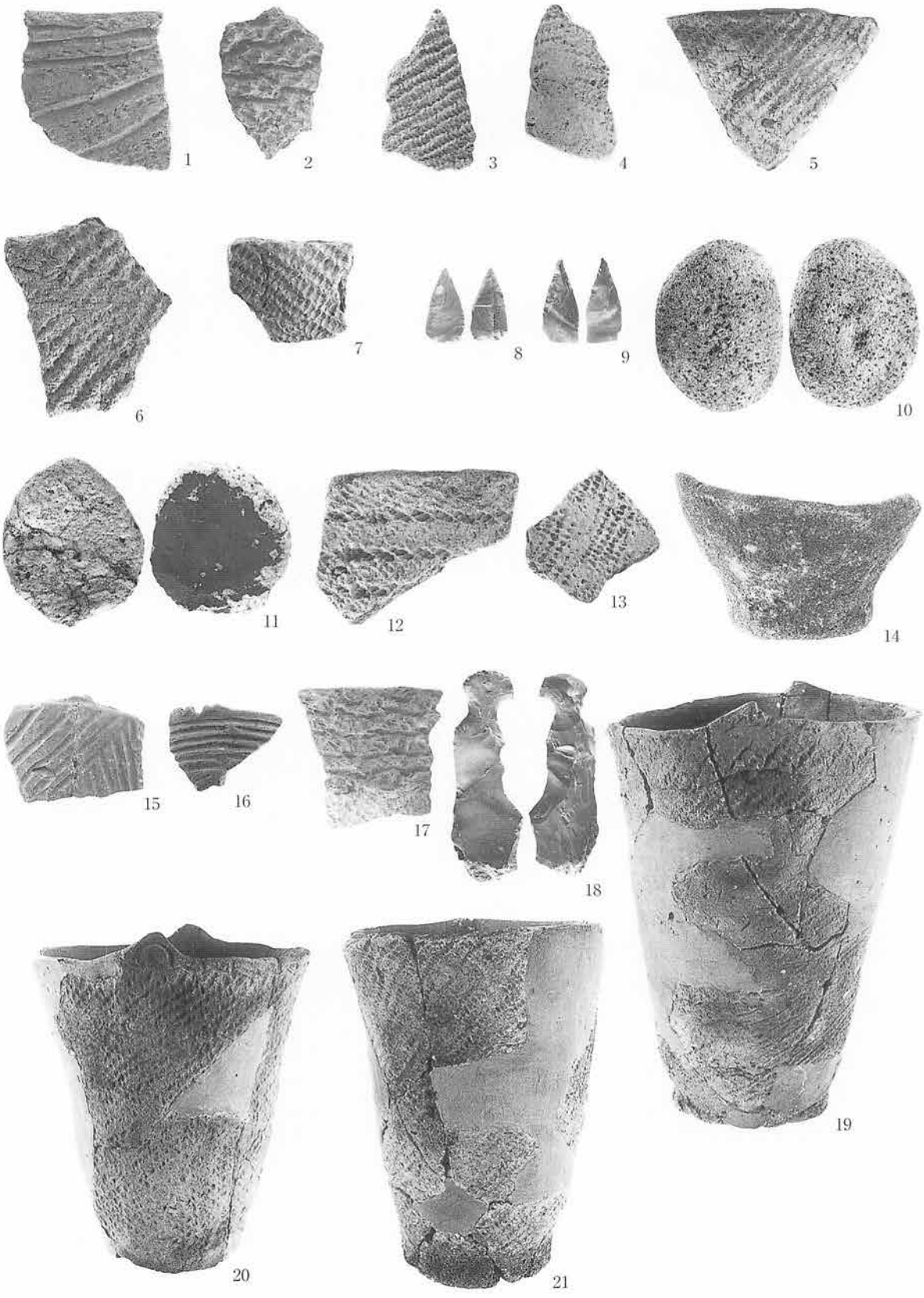
写真図版40　4号～7号埋設土器遺構



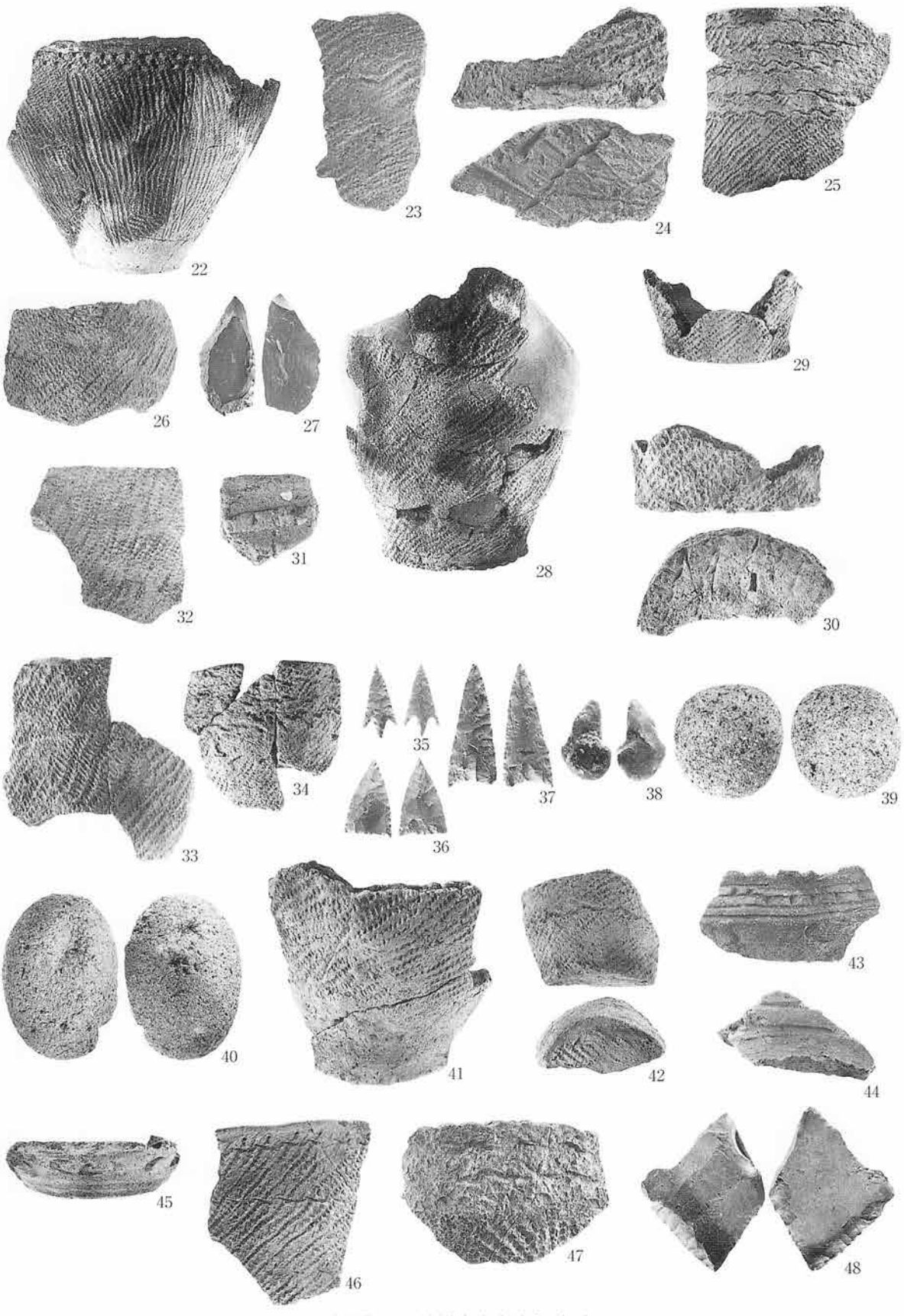
9c～10cグリッド柱穴状小土坑

遺物集中区

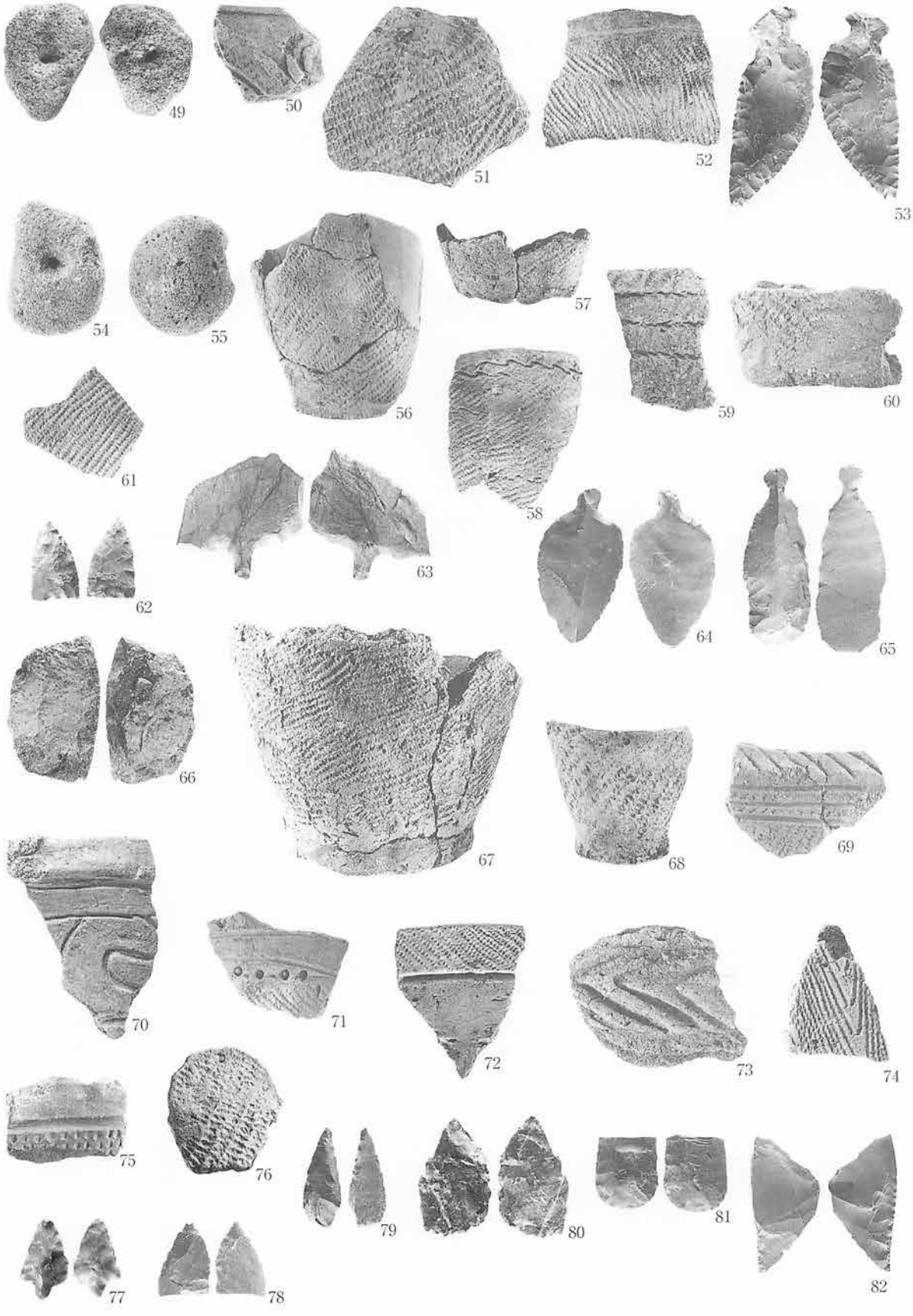
写真図版41　9ｃ～10cグリッド柱穴状小土坑・遺物集中区



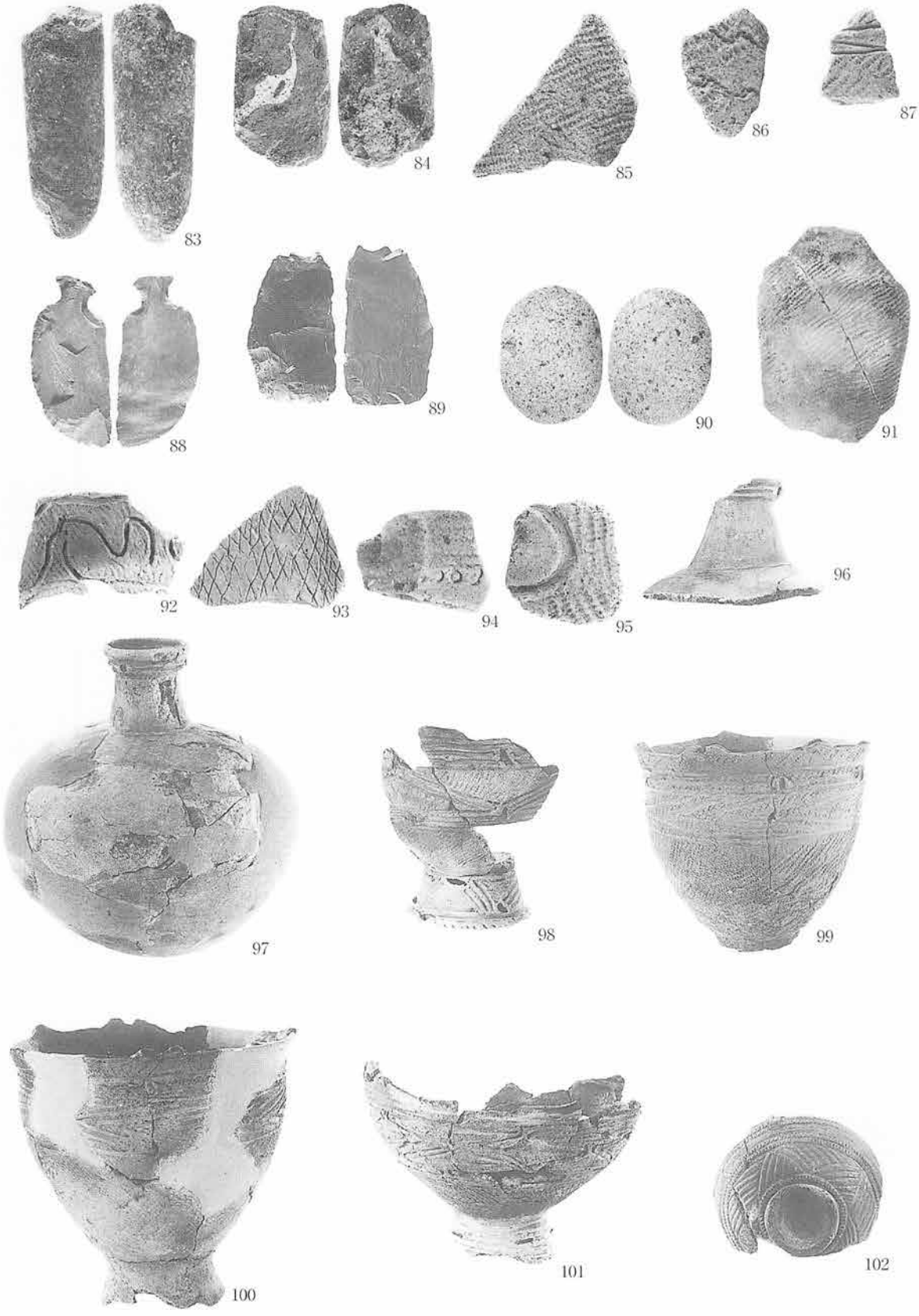
写真図版42　遺構内出土遺物（1）



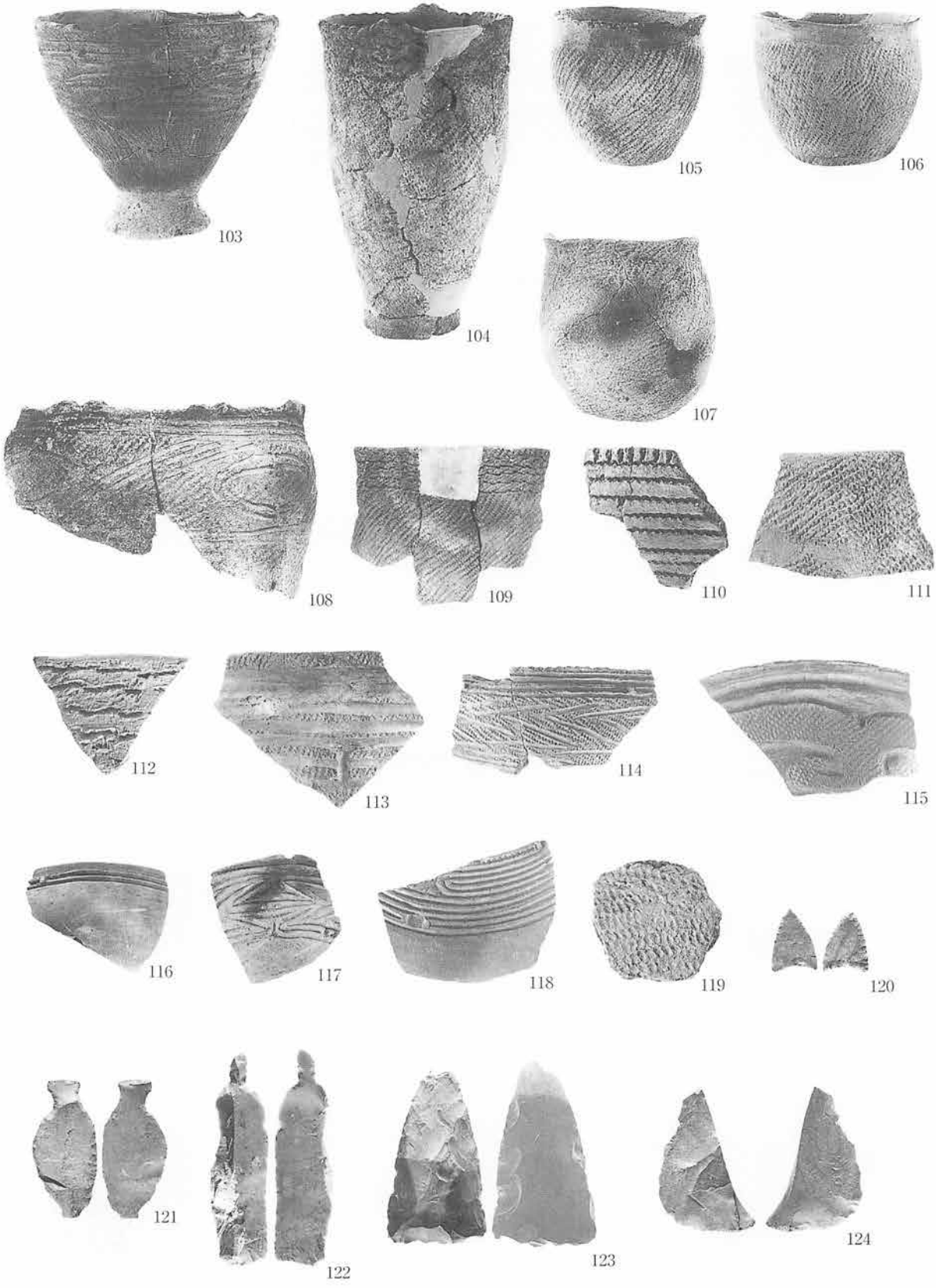
写真図版43　遺構内出土遺物（２）



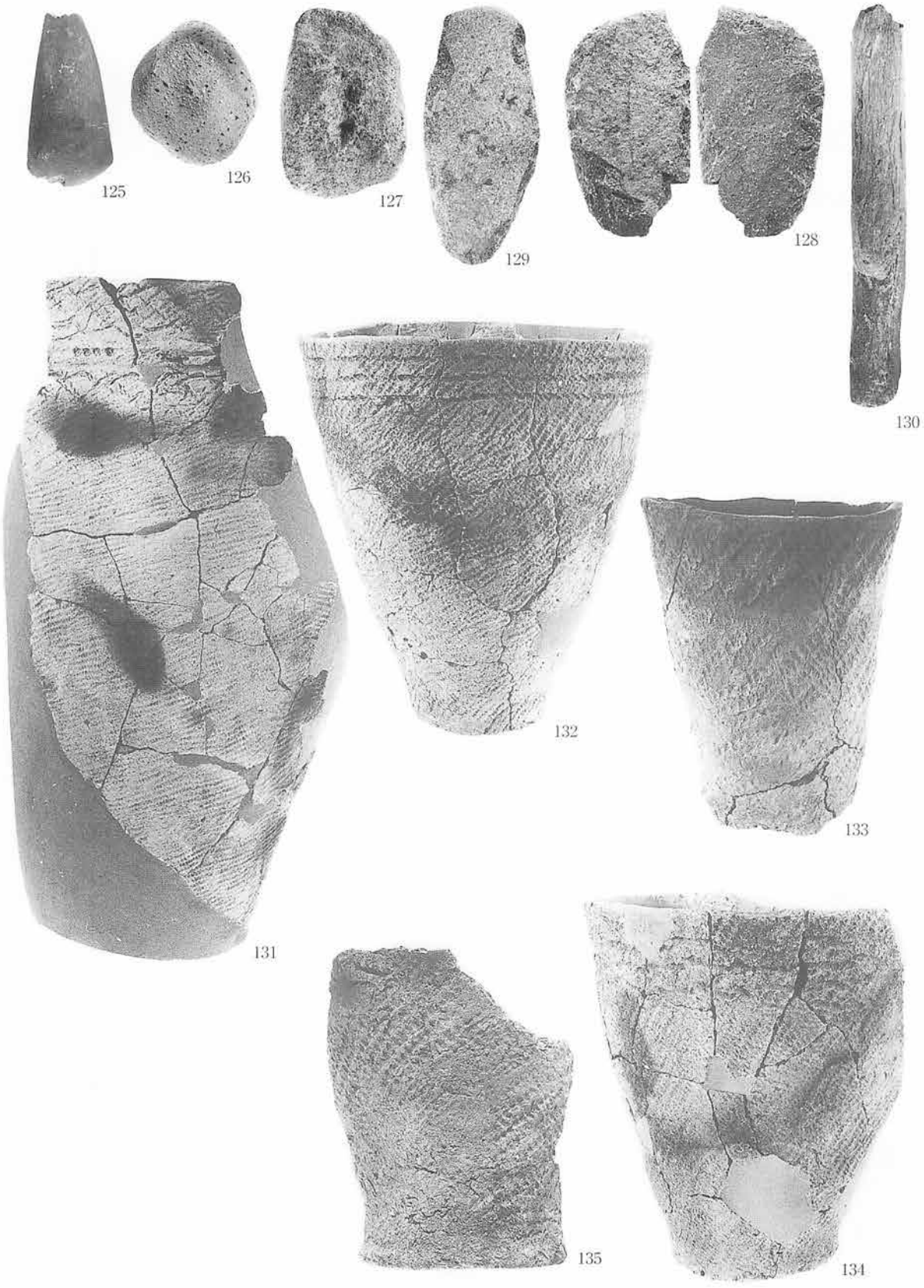
写真図版44　遺構内出土遺物（3）



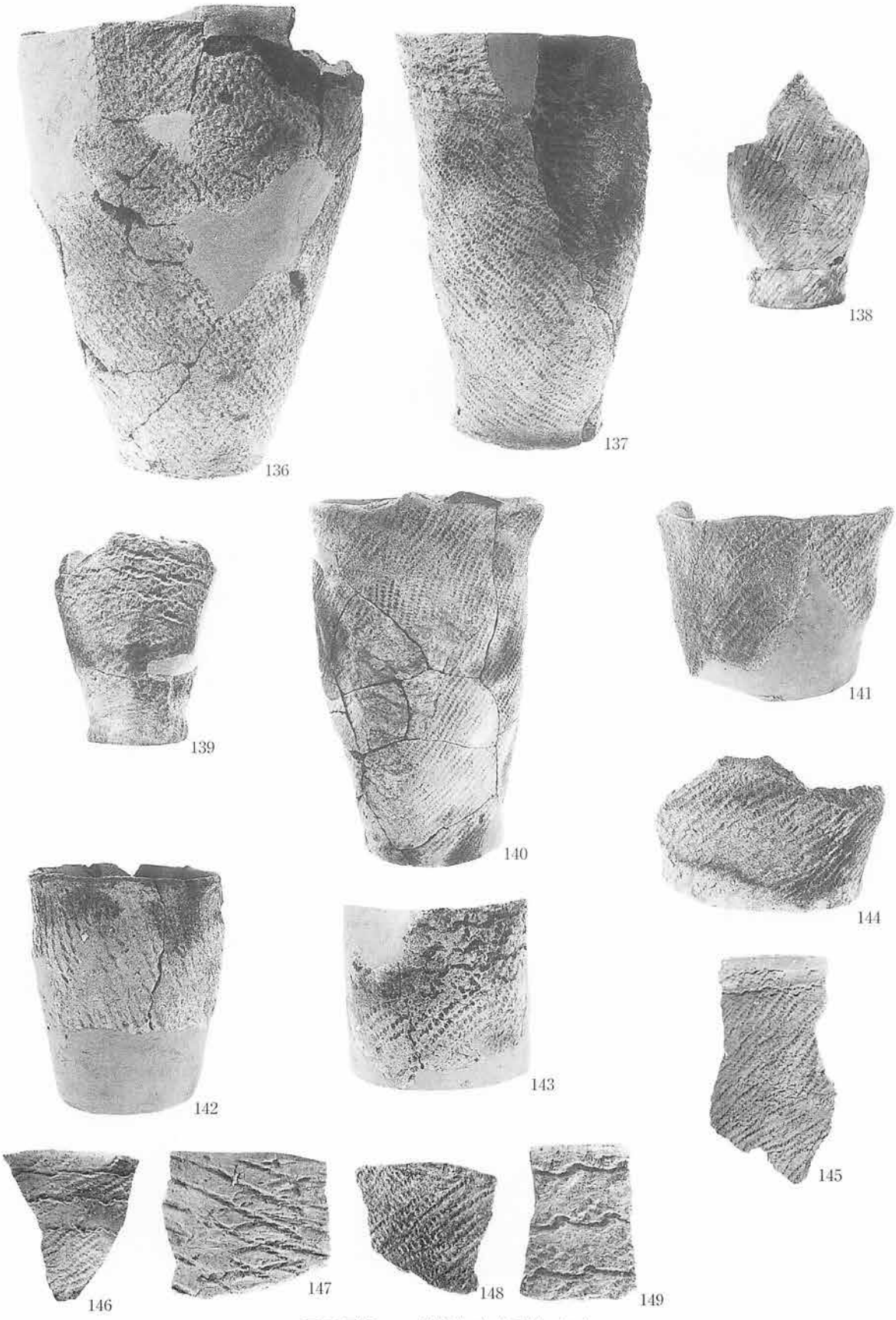
写真図版45　遺構内出土遺物（４）



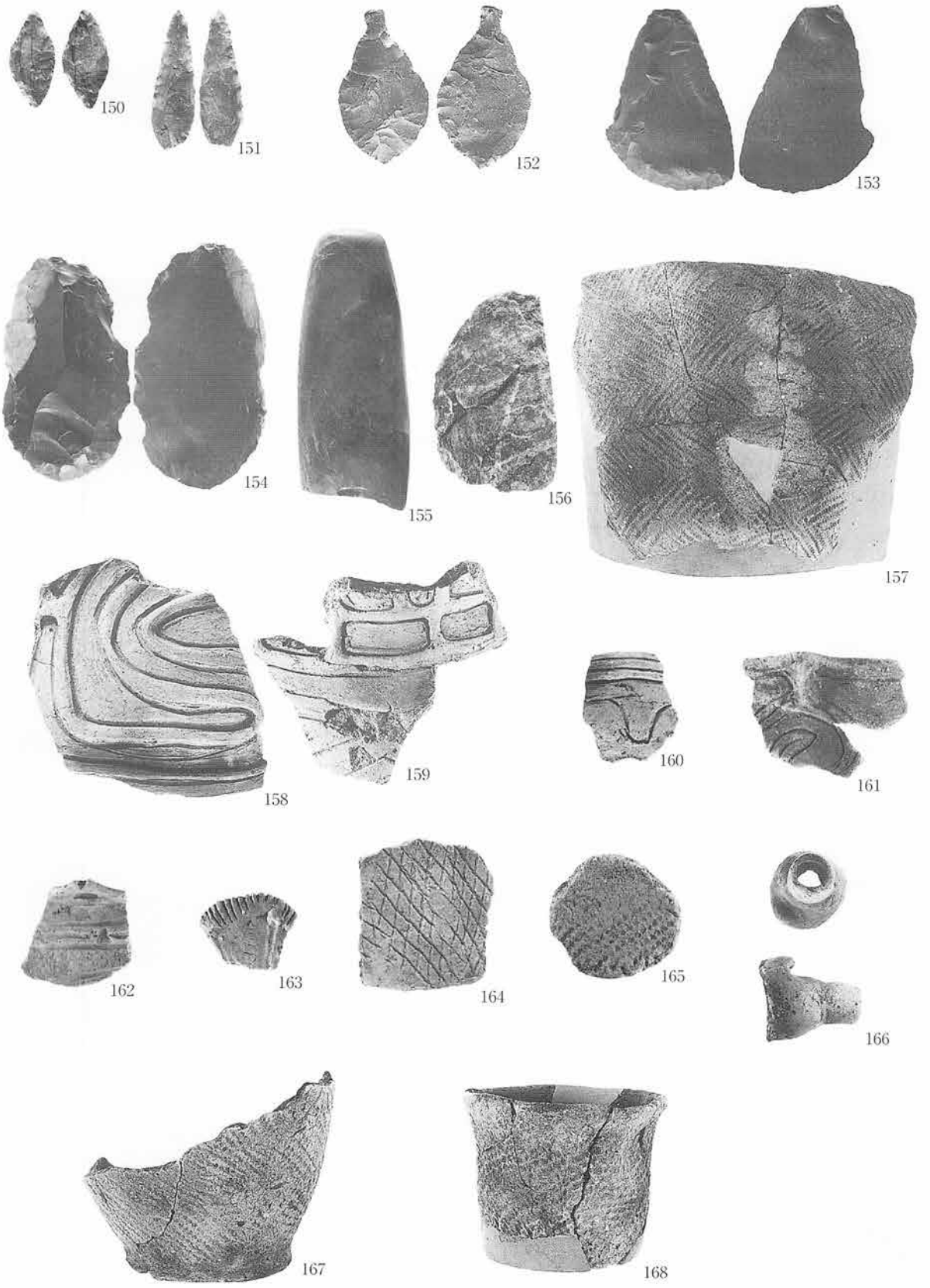
写真図版46　遺構内出土遺物（５）



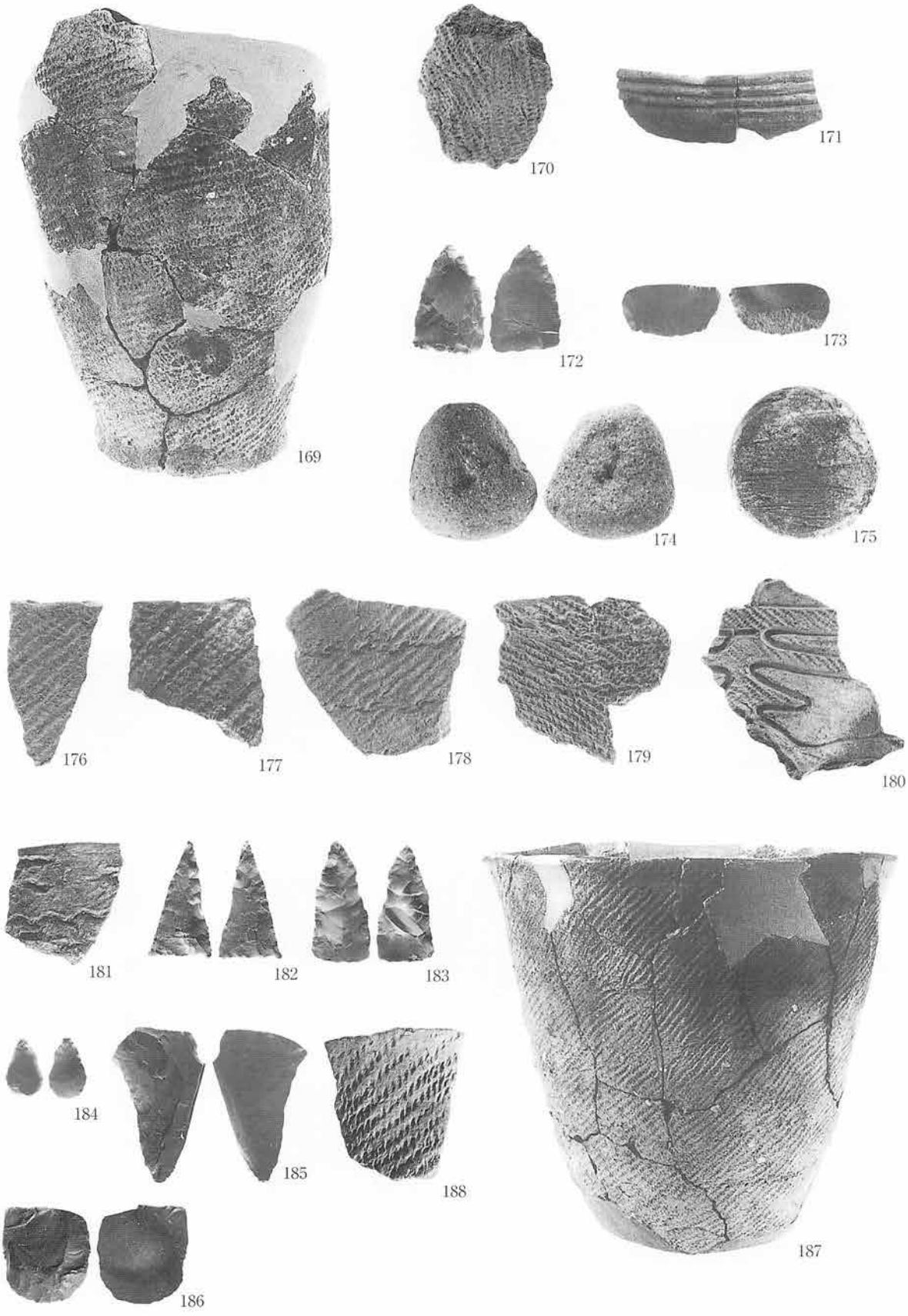
写真図版47　遺構内出土遺物（６）



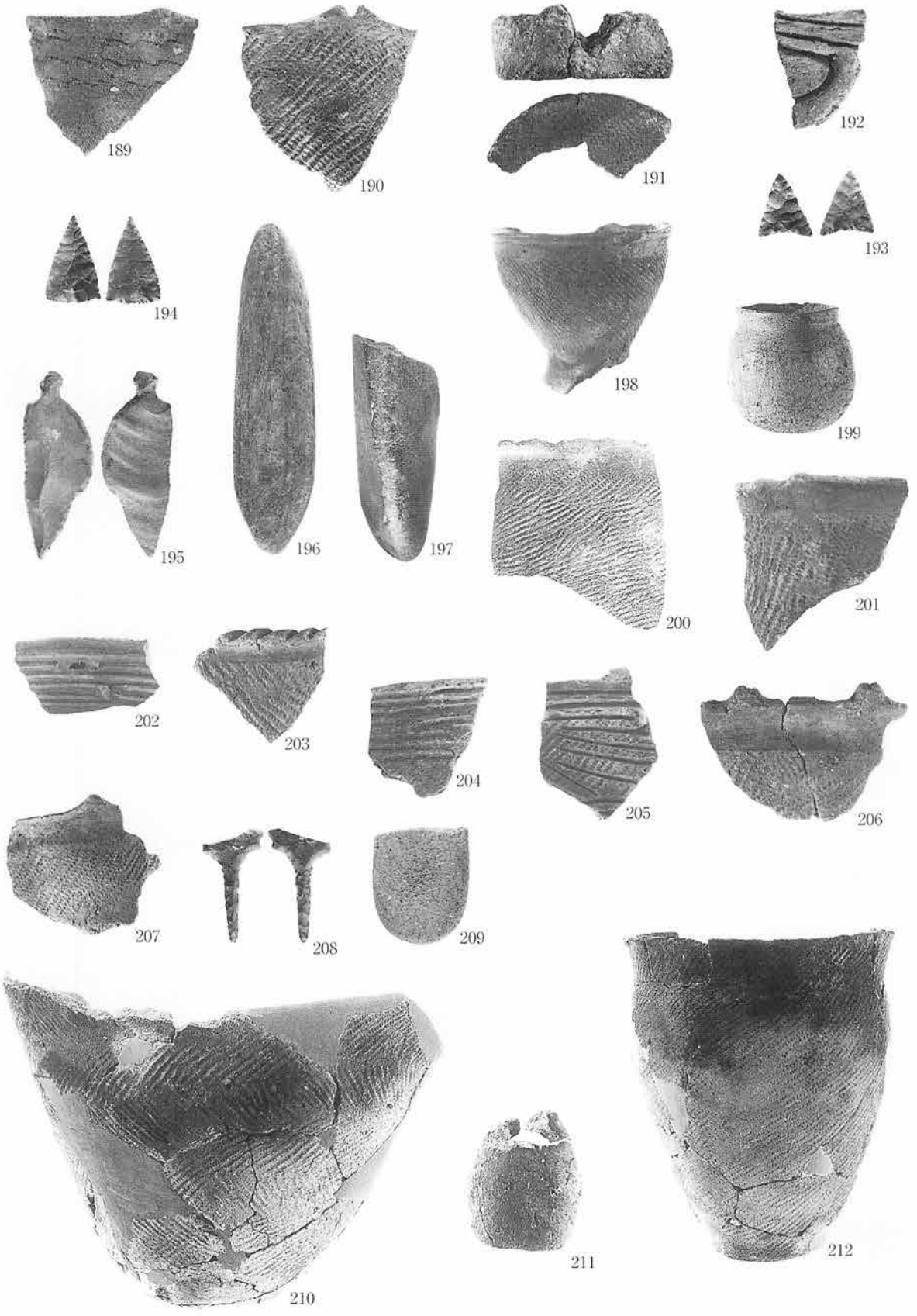
写真図版48　遺構内出土遺物（７）



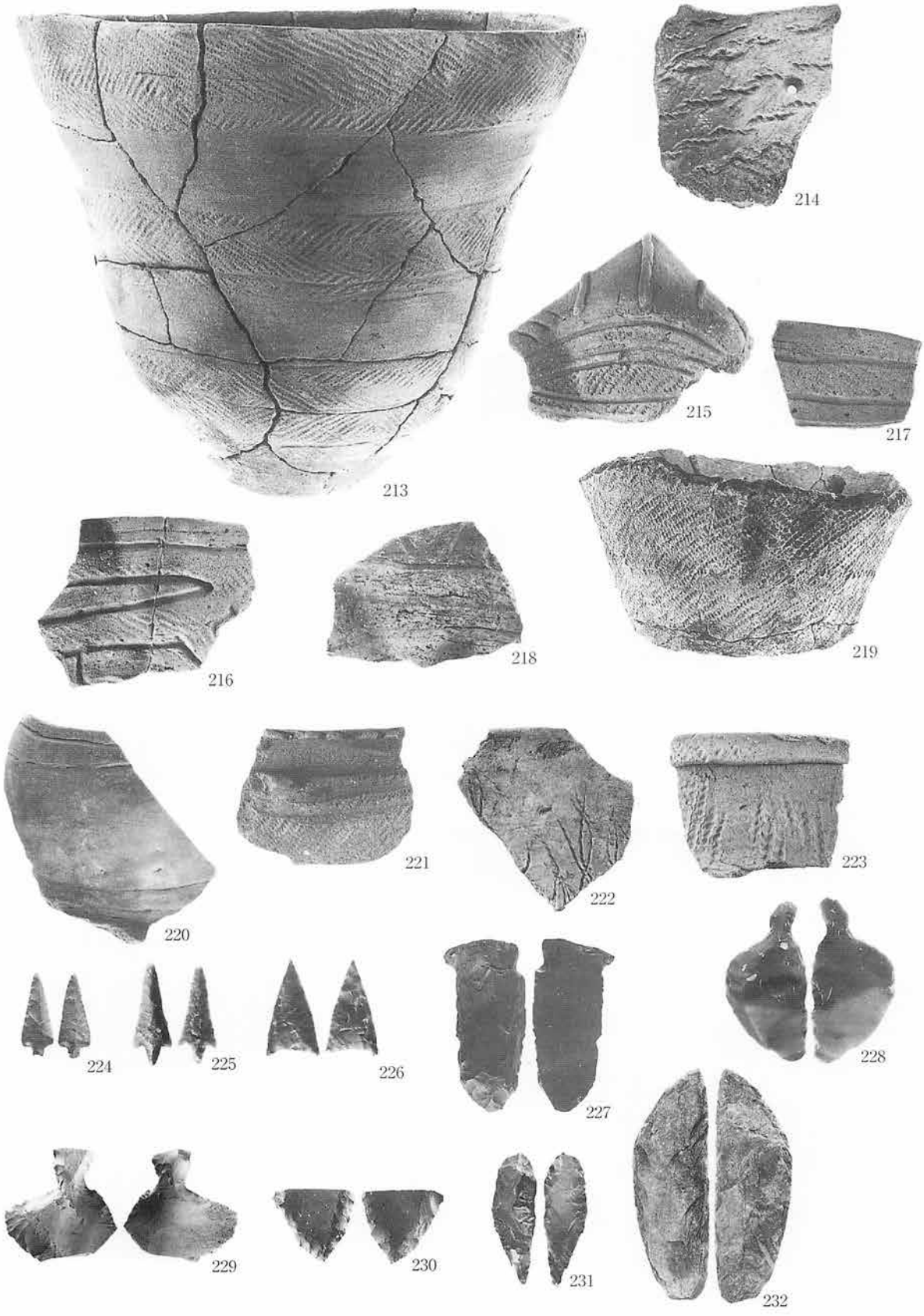
写真図版49　遺構内出土遺物（８）



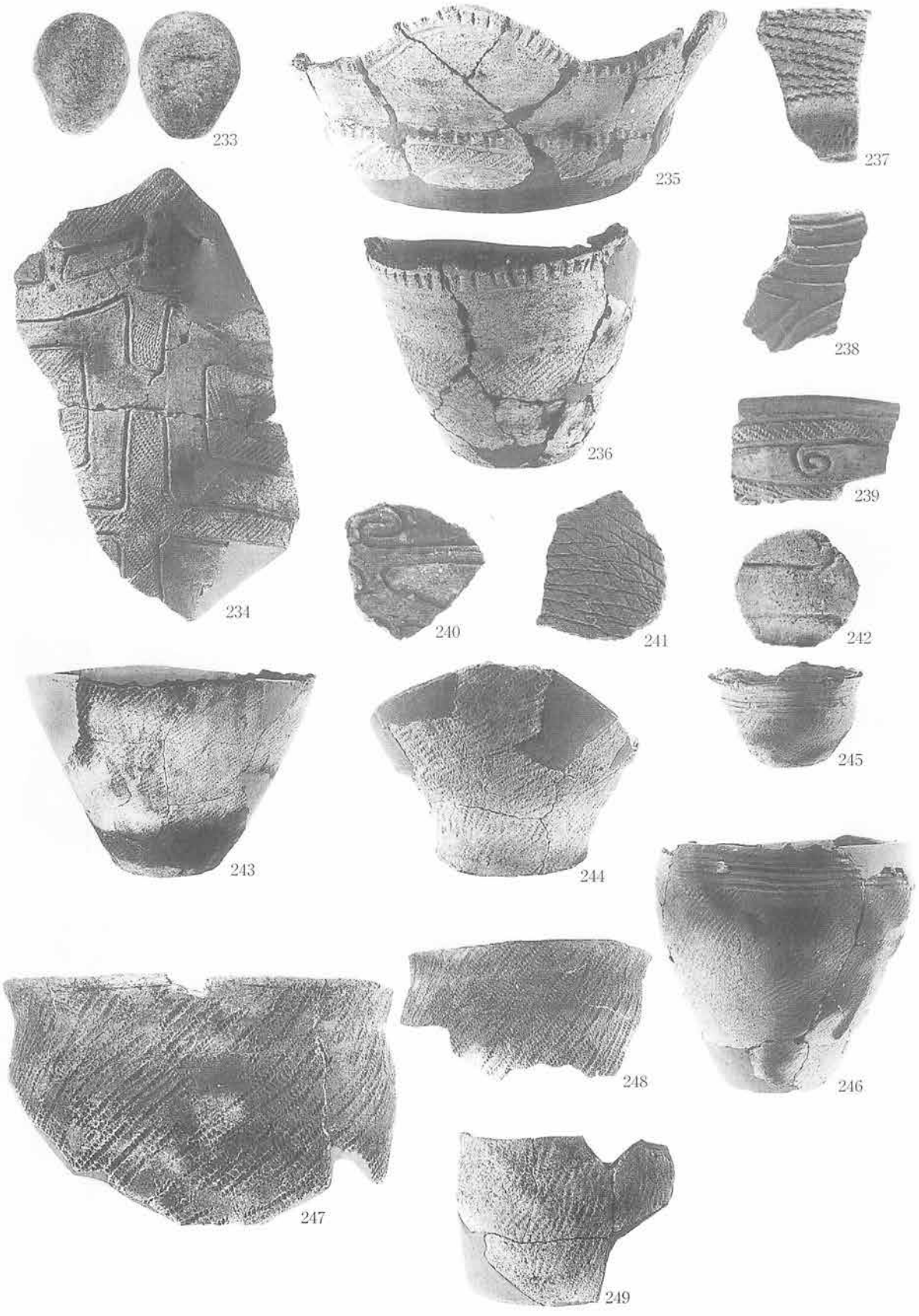
写真図版50　遺構内出土遺物（９）



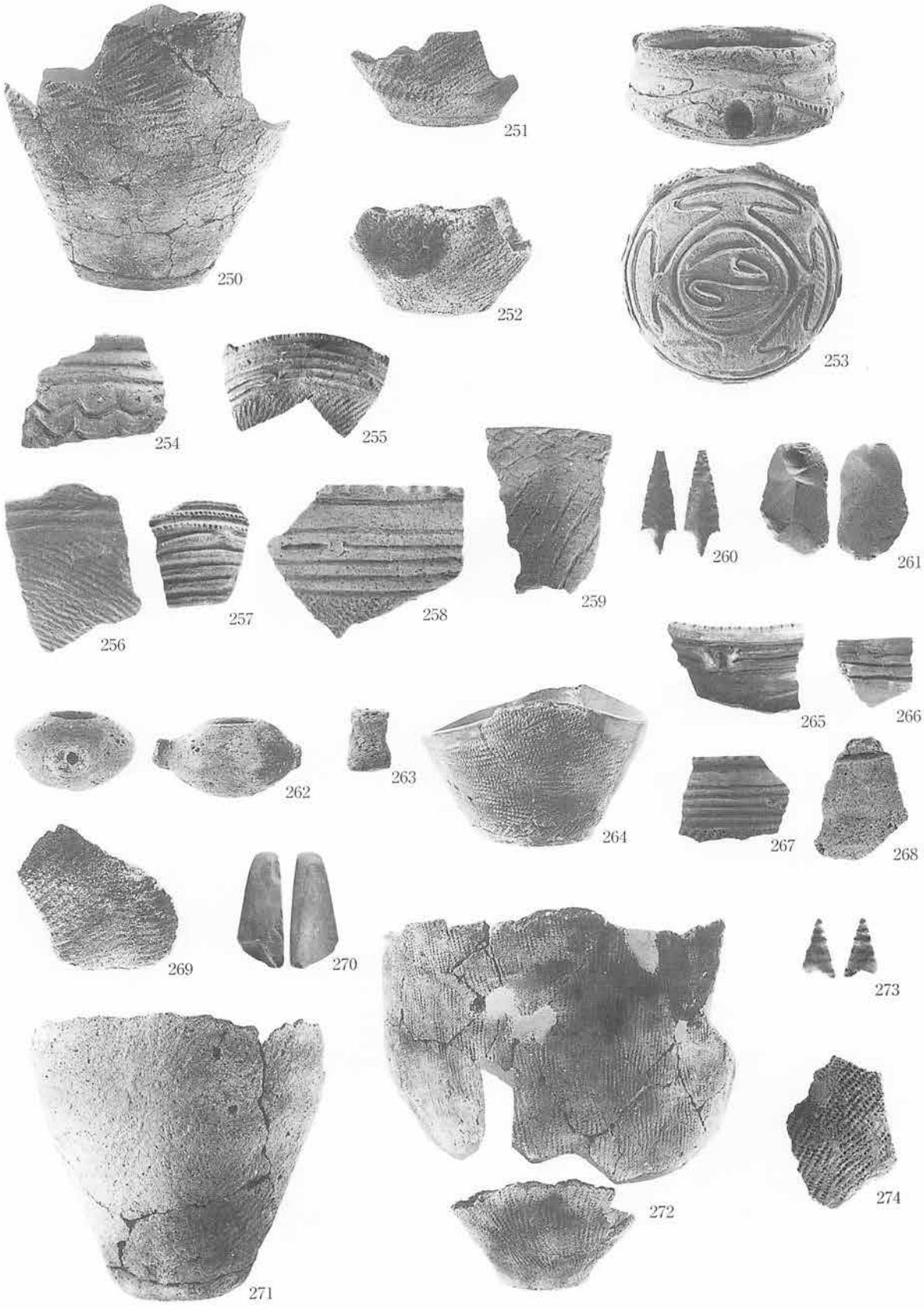
写真図版51　遺構内出土遺物（10）



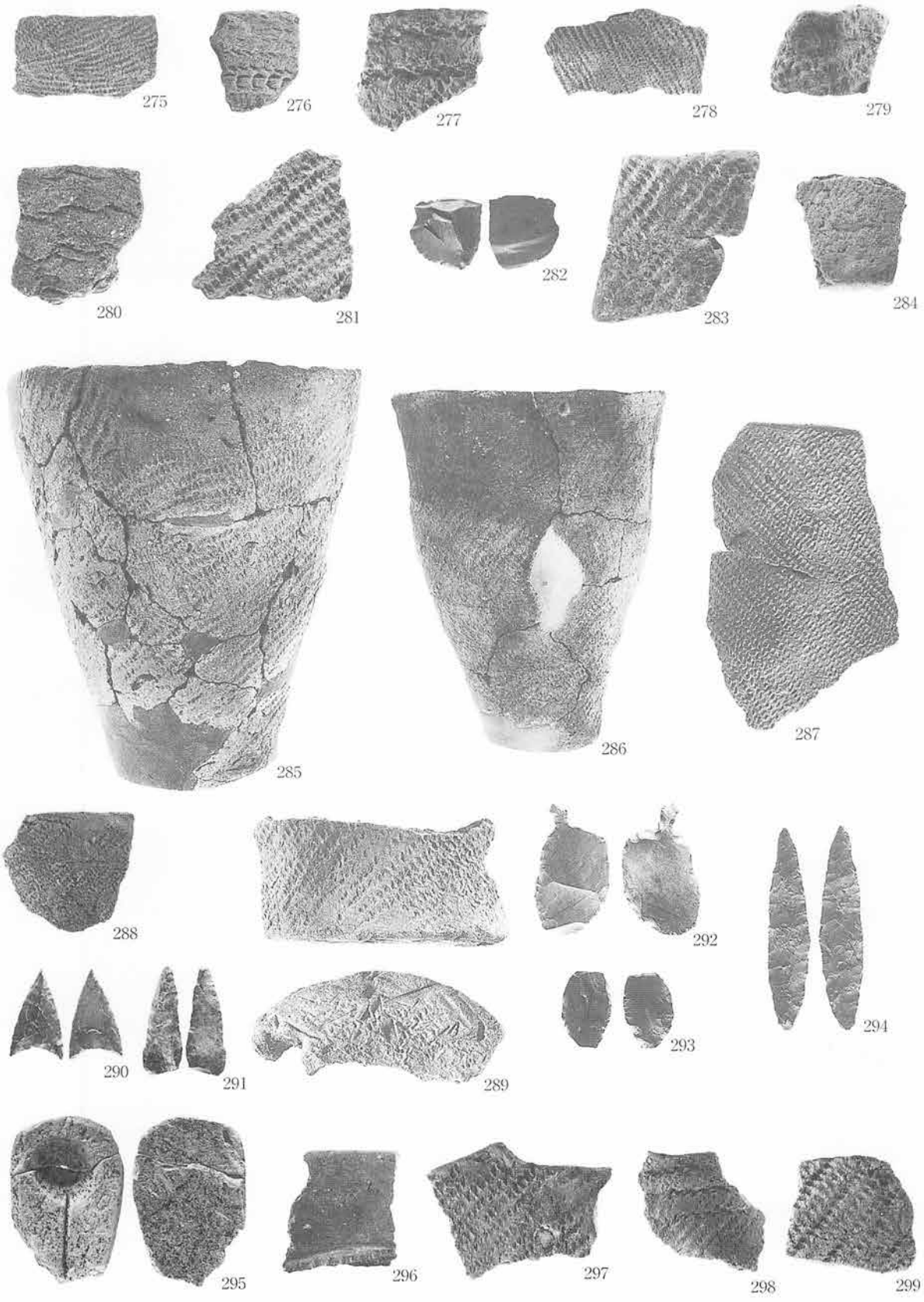
写真図版52　遺構内出土遺物（11）



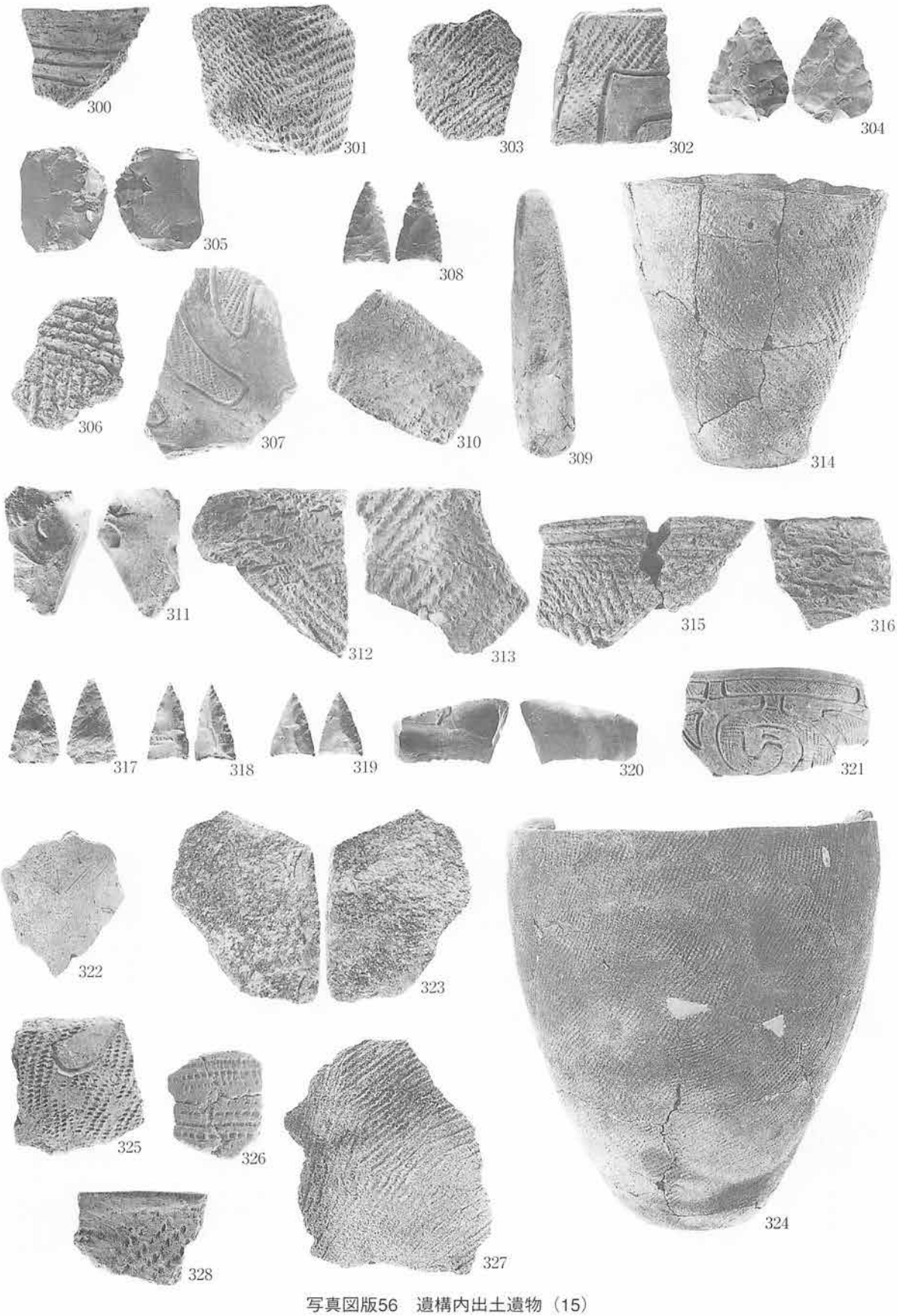
写真図版53　遺構内出土遺物（12）



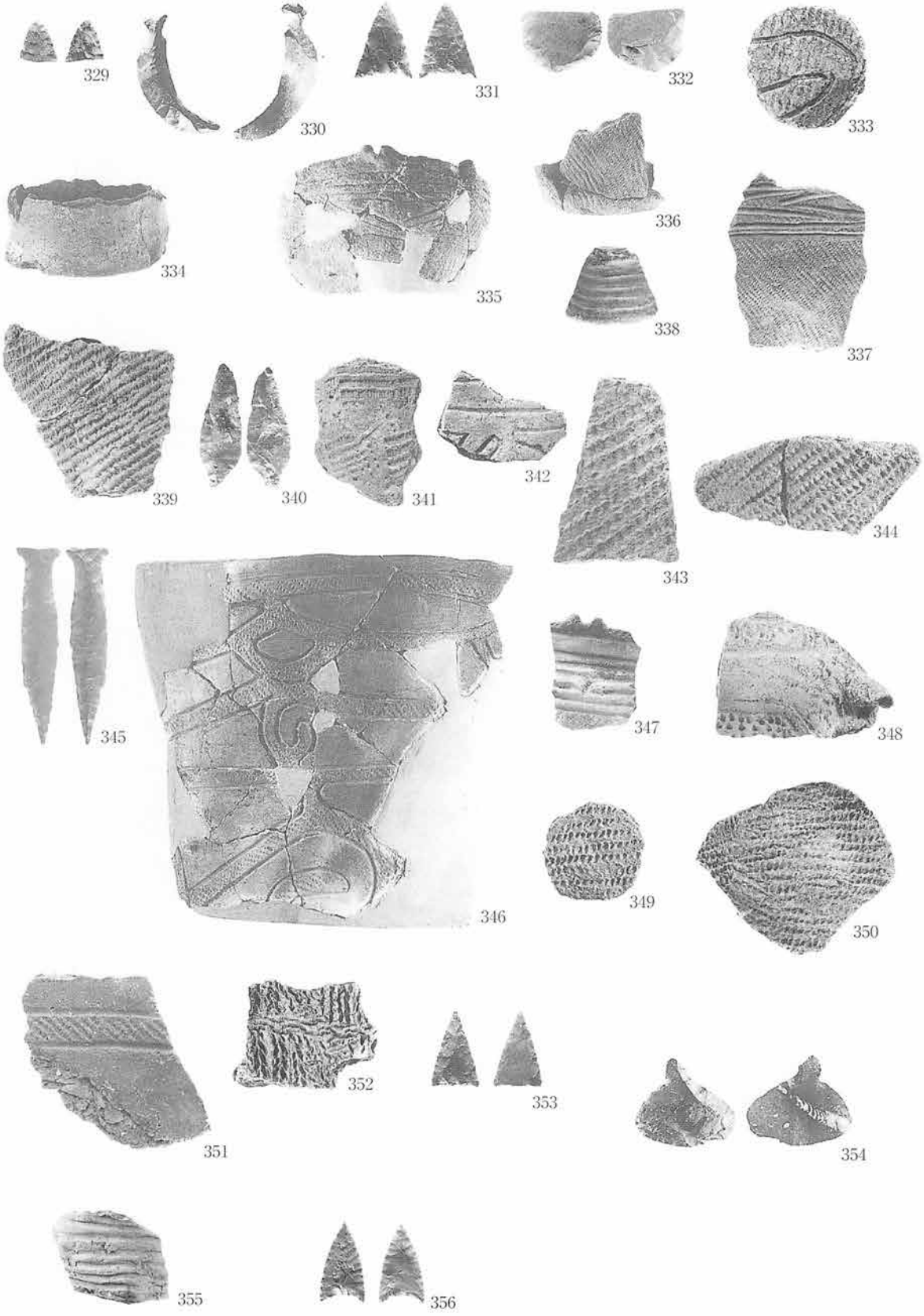
写真図版54　遺構内出土遺物（13）



写真図版55　遺構内出土遺物（14）



写真図版56　遺構内出土遺物（15）



写真図版57　遺構内出土遺物（16）

357

358

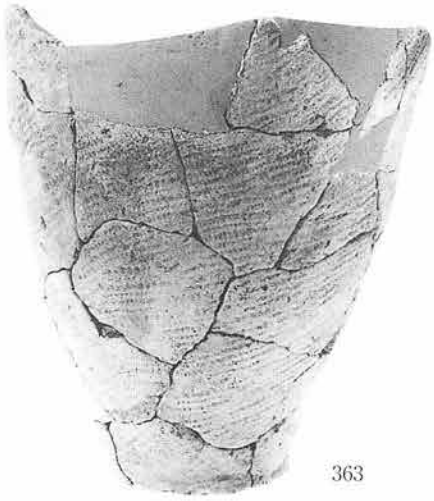
359

361

360

写真図版58　遺構内出土遺物（17）

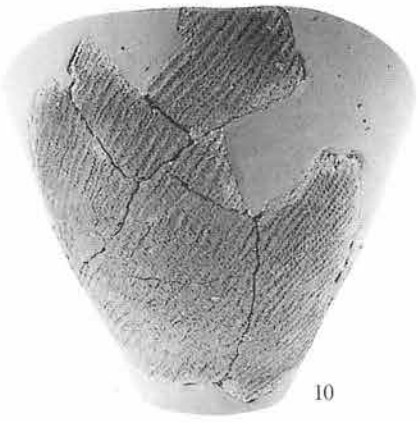
362

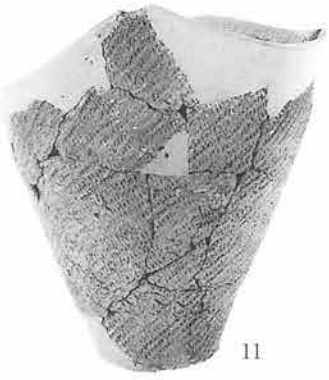


363

写真図版59　遺構内出土遺物（18）

写真図版60　遺構外出土遺物（1）


10


11

12

13

14

15

16

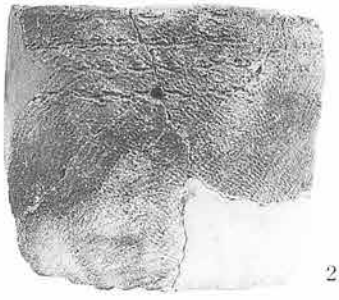
17

18

写真図版61　遺構外出土遺物（２）

19

20


21

22

23

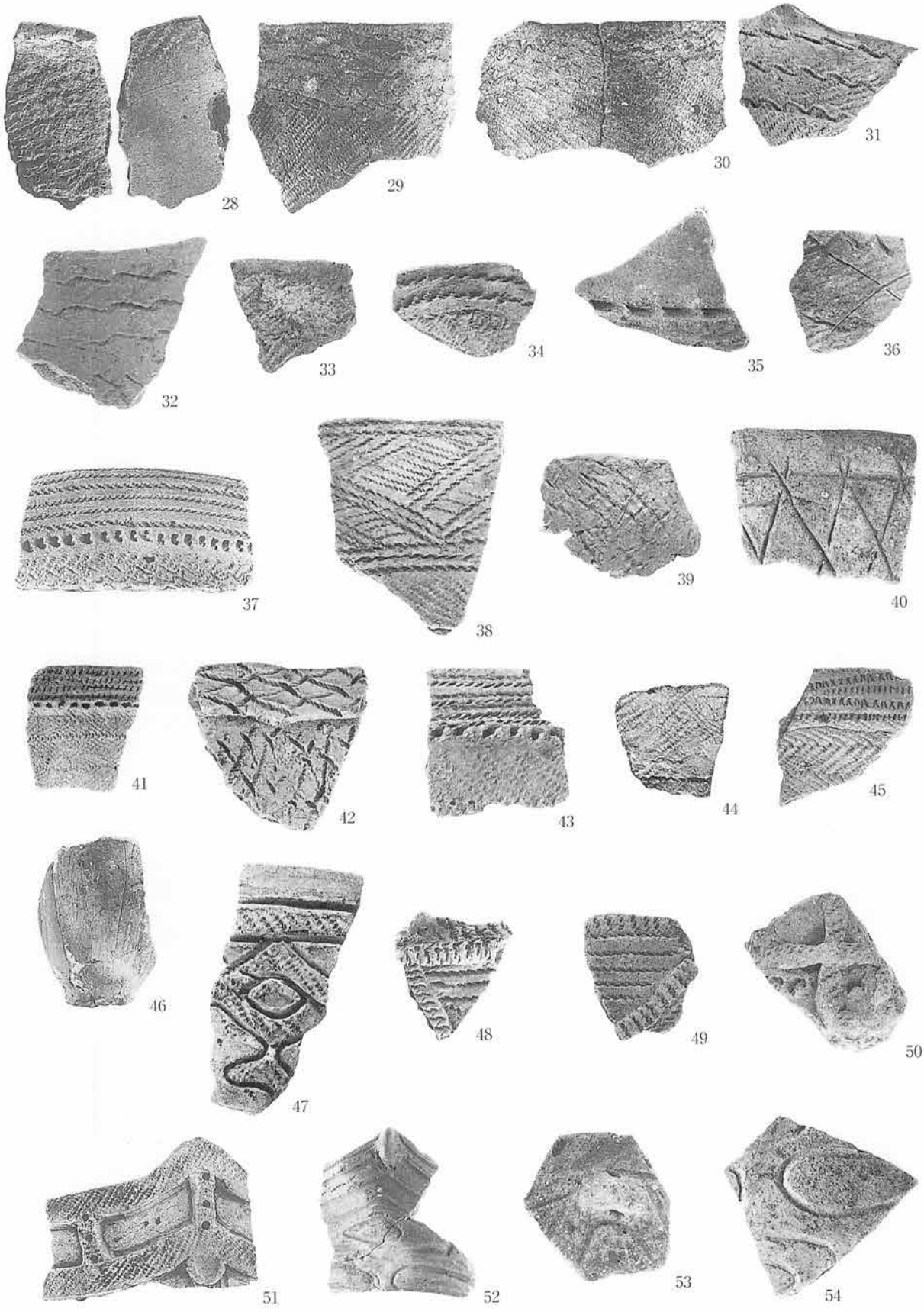
24

25

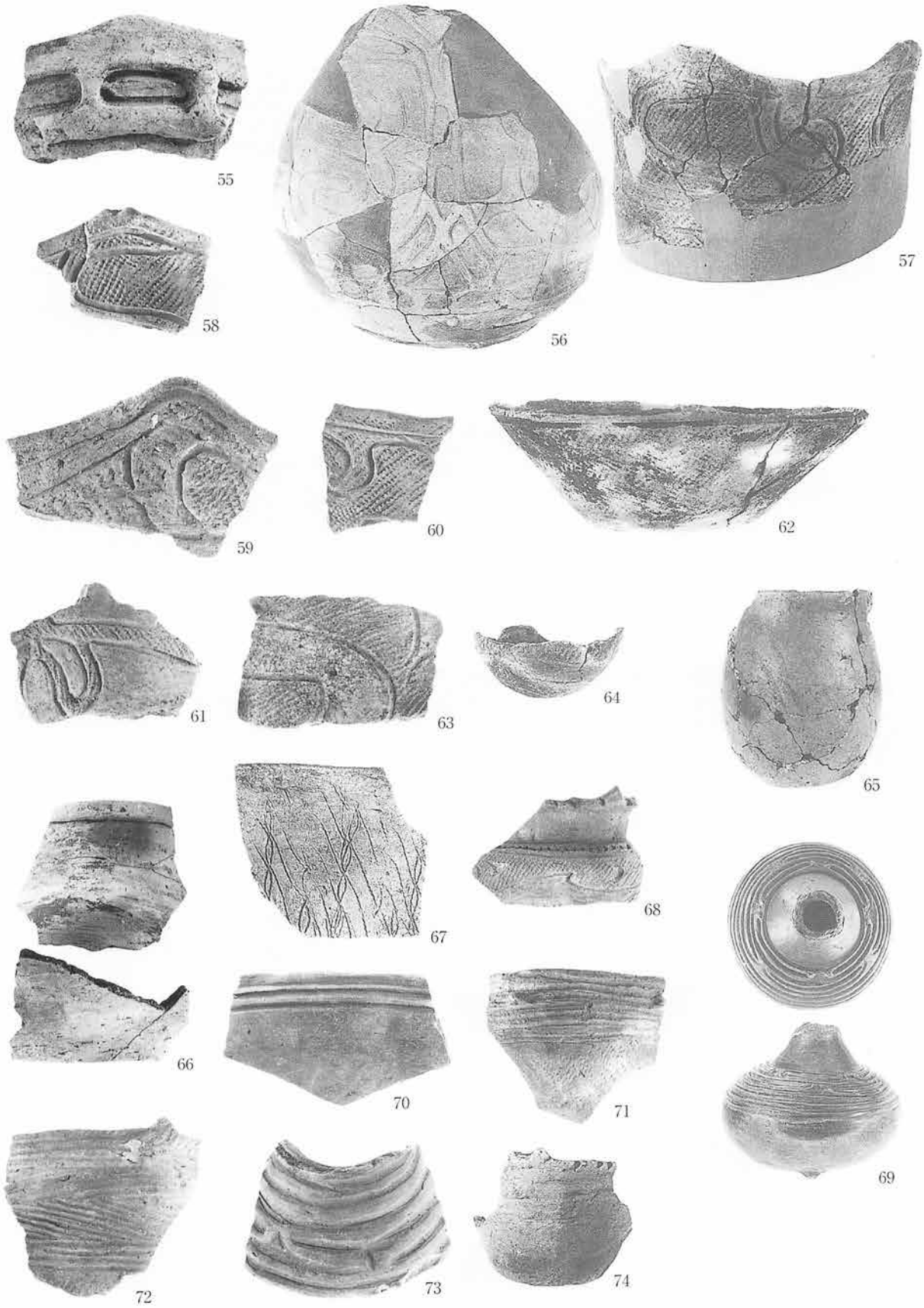
26

27

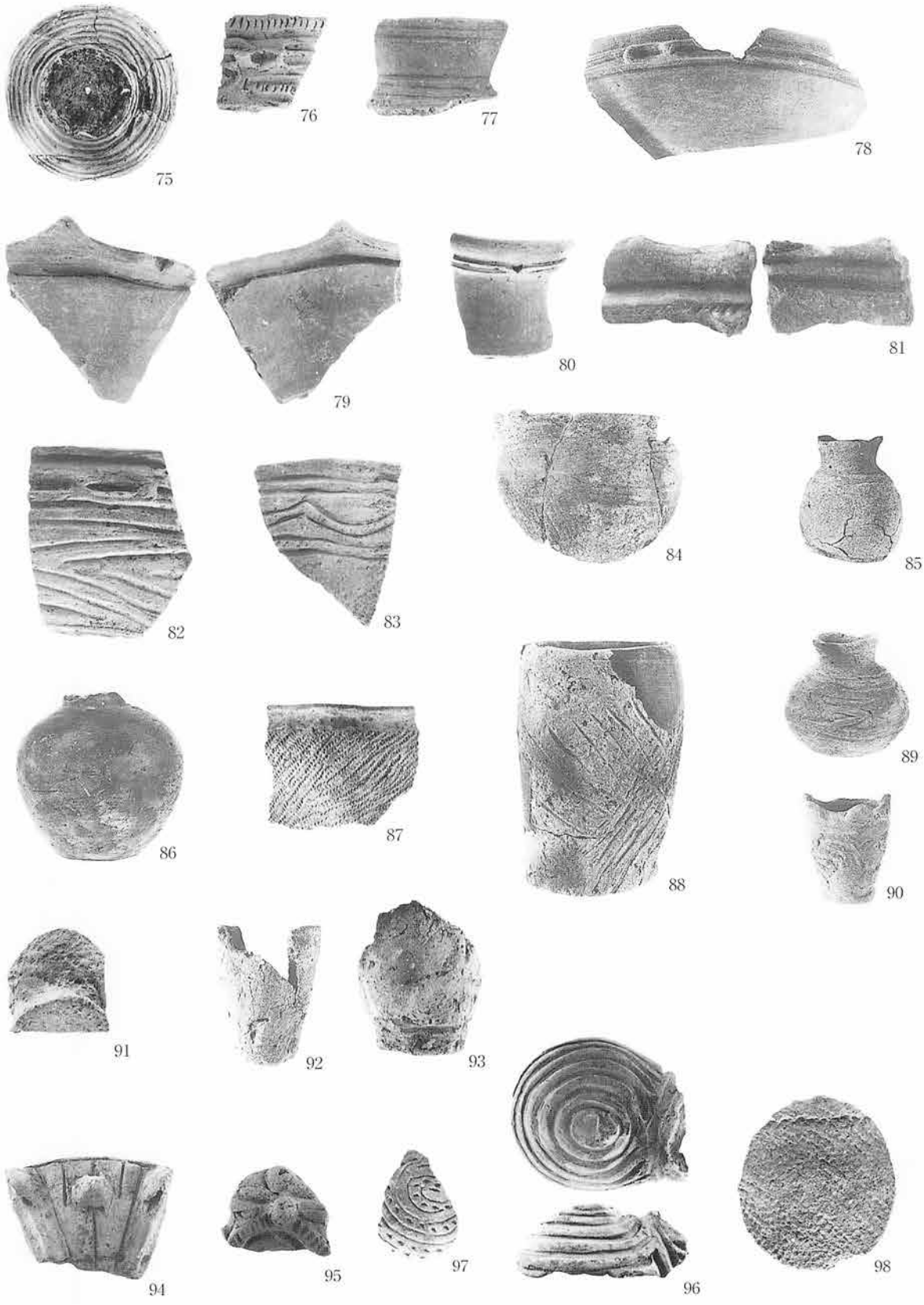
写真図版62　遺構外出土遺物（３）



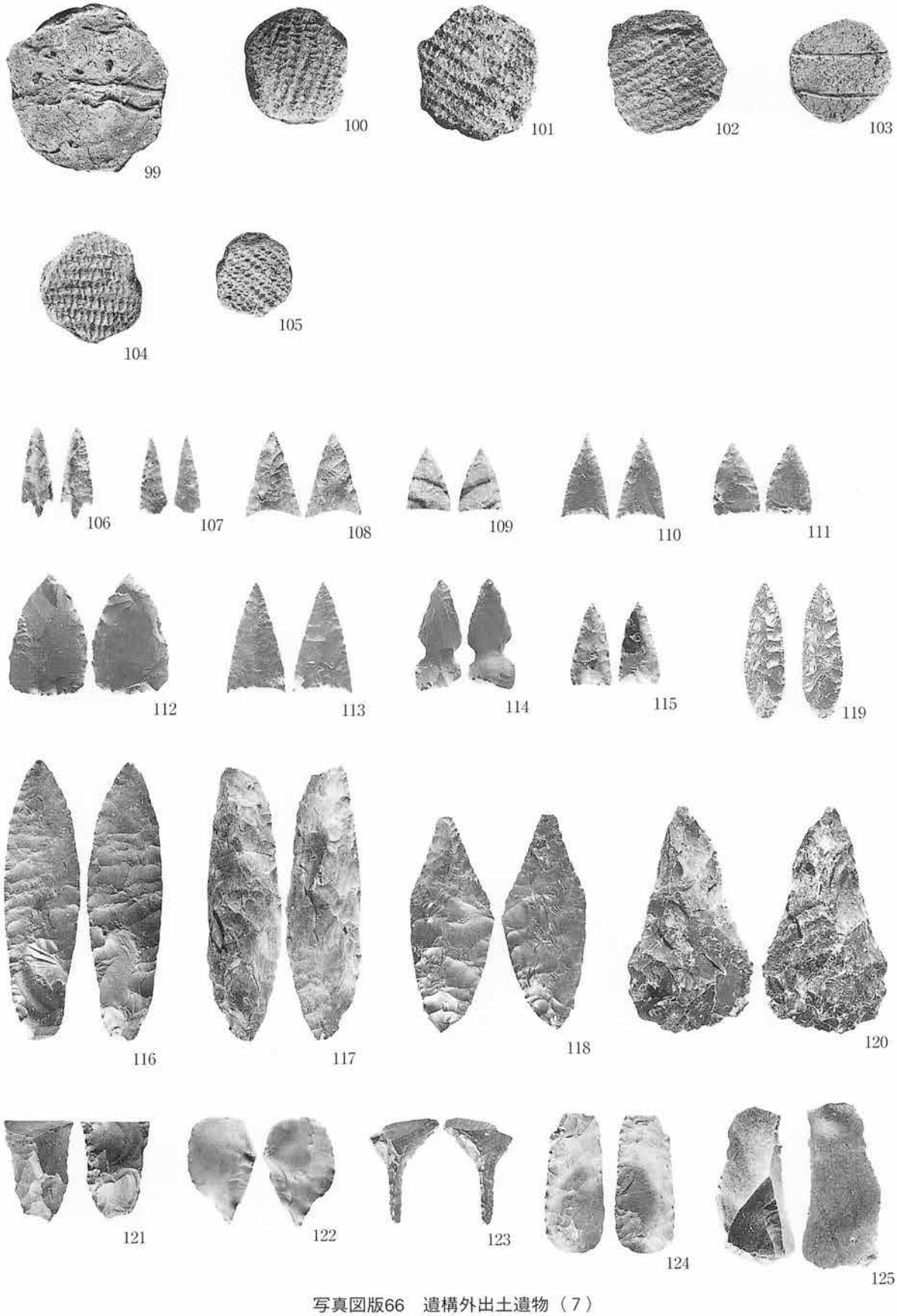
写真図版63　遺構外出土遺物（４）



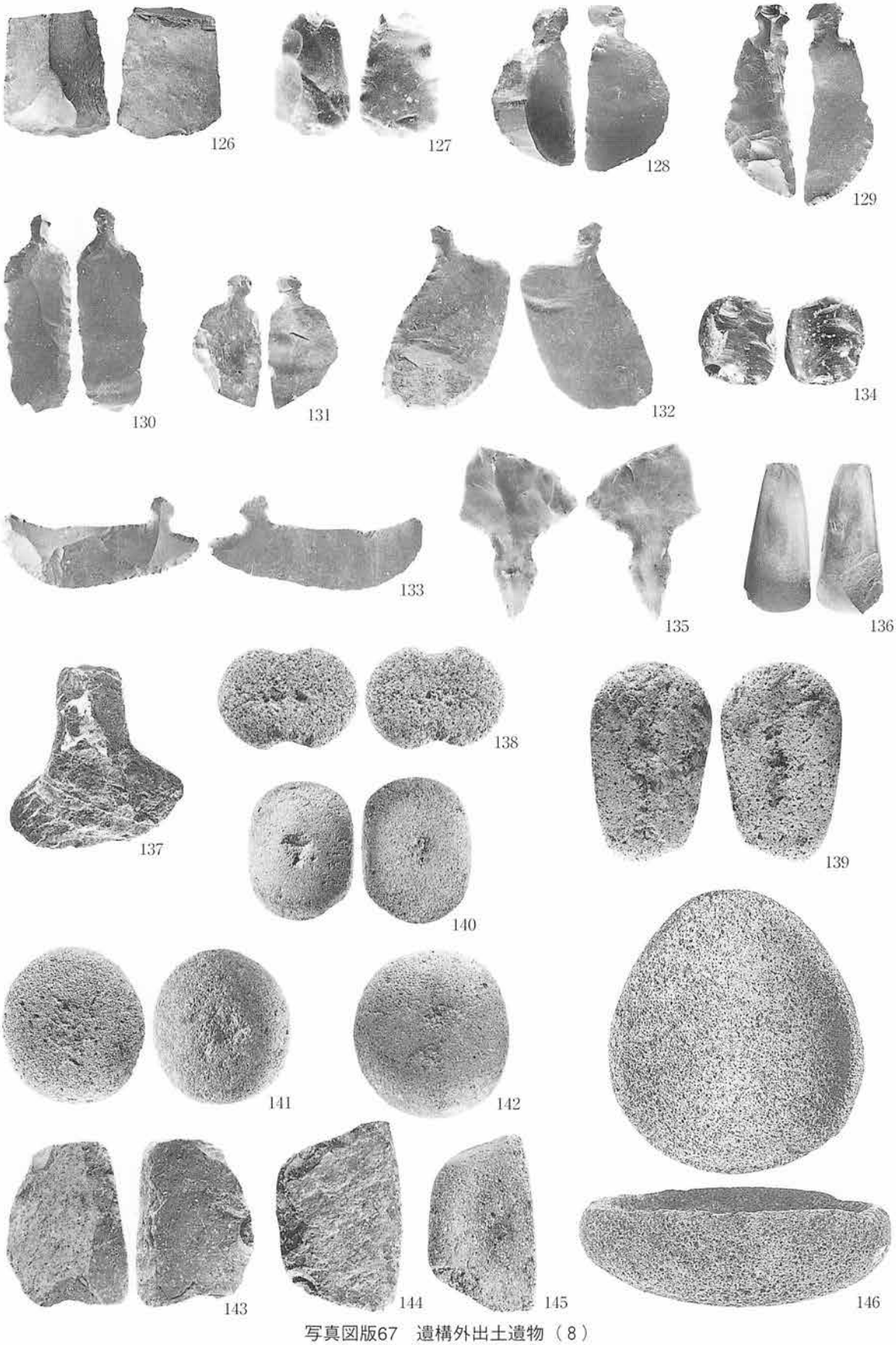
写真図版64　遺構外出土遺物（５）



写真図版65　遺構外出土遺物（６）



写真図版66　遺構外出土遺物（７）



写真図版67　遺構外出土遺物（８）

147

148

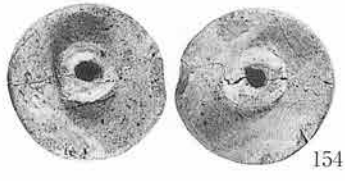
149

150

151

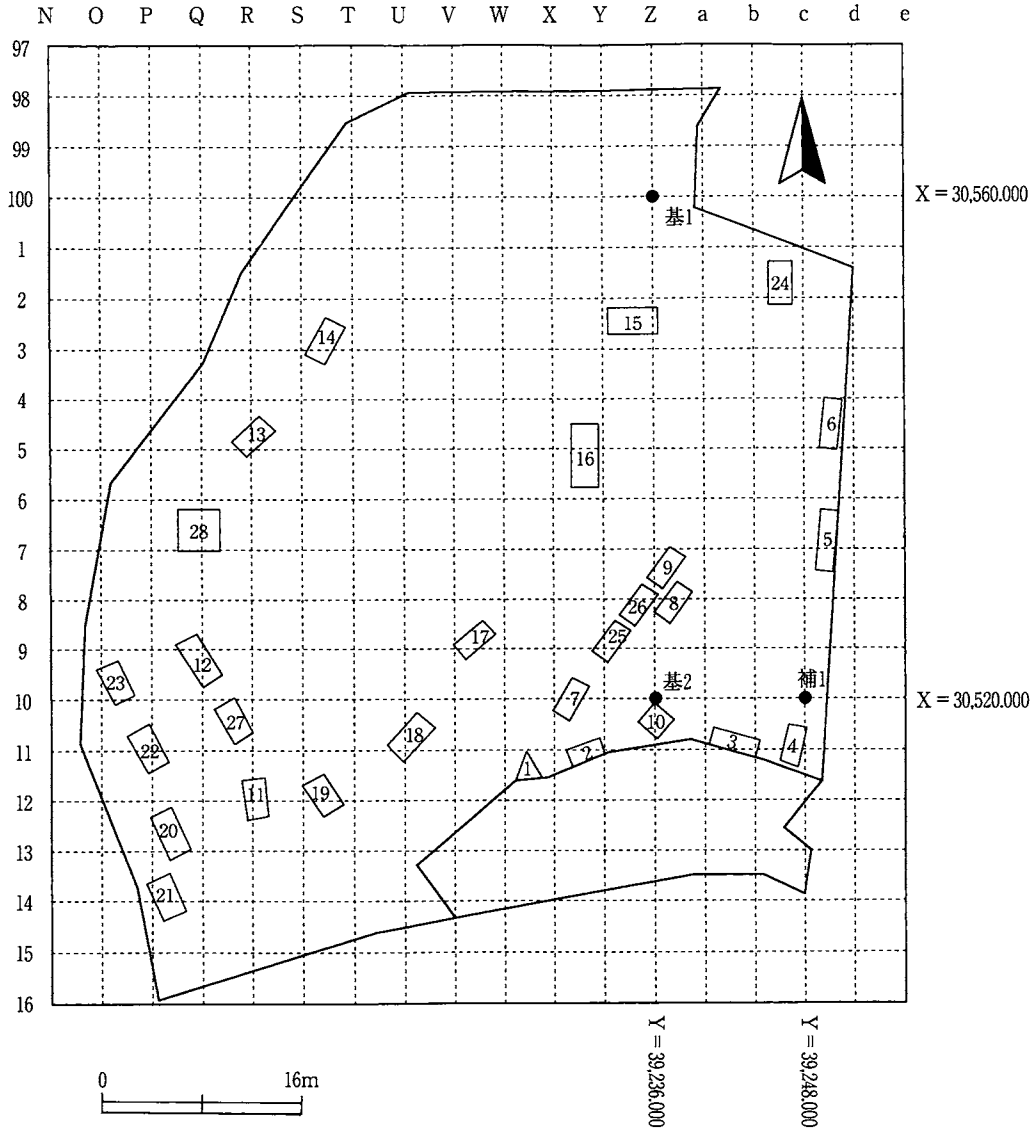
152

153


154

写真図版68　遺構外出土遺物（９）

V　二・三次調査の報告



※ □内の数字がトレンチナンバー

第74図　グリッド配置図・トレンチ位置図

N O P Q R S T U V W X Y Z a b c d e f g h
97
98
99
100
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
0
16m

第75図　遺構配置図

1．検出された遺構・水路跡

平成11年度調査区は、広く沢に浸食された様相を示している。沢跡は4流路確認したが、いずれも現在調査区内の西端を流れる沢の旧流路部分と旧流路部分が増水したおりに発生した洪水跡であると思われる。また、十和田a降下火山灰を含む基本土層Ⅲ層系が確認されているのは調査区南東部の一部分であることから、他の区域では沢による浸食あるいは造成時に削平されている可能性が高い。遺構は確認されなかった。平成12年度調査では、調査区東端部で、縄文時代の住居1棟を検出した。

（1） 平成11年度調査で検出された水路跡

1号流路

〈 検出状況 〉表土・耕作土を掘削したところ暗褐色砂土・砂礫土が検出された。南から北に向けての流れである。

〈 時期 〉検出されたもっとも新しい流路は断面図における2層であるが、その下部にも泥質土と砂質土が交互に表れることから、付近は数時期にわたって流路が存在したと思われる。時期は不明である。

〈 遺物 〉下流である4Sグリッドにおいて、縄文前期・中期・後期の土器が1箱ほどが出土した。

2号流路

〈 検出状況 〉表土・耕作土を掘削したところ褐色砂礫土を埋土とする本流路が検出された。調査区北西部から南東部へ向けての流れで、平成9年度調査区へのびている。検出面はⅢ層である。北東部は途中で溝跡が切れているが、調査区中央部の道路下の土層観察から、おそらく8Y～7Z区方向から流れてきていたものと思われ、かなり流れの激しい時期があったと推定される。

〈 時期 〉十和田a降下火山灰を含むⅢ層をきっていることから、本流路は十和田a降下火山灰降下時期よりは新しい。

〈 備考 〉平成9年度調査において、調査区のほぼ中央、西からゆるやかに南東に曲折する溝跡が検出されていたが、今回の調査において、流路であったことが分かった。

3号流路

〈 検出状況 〉表土・耕作土を掘削したところ、黒褐～暗褐色シルトを埋土とする本流路が検出された。はじめ調査区南部から北部へ、緩やかに東部に蛇行し、再び北部に向きを変える流れである。検出面はⅢ層である。

〈 時期 〉十和田a降下火山灰を含むⅢ層をきっており、2号流路にきられていることから、本流路は十和田a降下火山灰降下時期よりは新しく、2号流路よりは古い。

4号流路

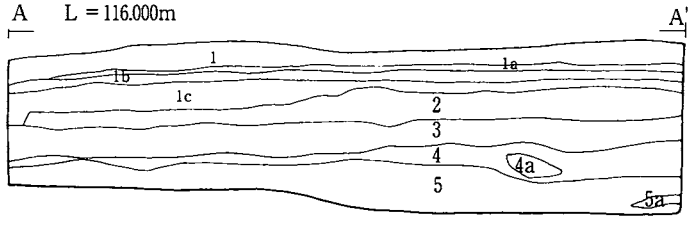
〈 検出状況 〉8W・10X付近の道路下断面および6c土層断面から推定される流路である。断面の観察からかなり流れの激しい洪水的なものであったことが推定される。

〈 時期 〉不明である。

N O P Q R S T U V W X Y Z a b c d e f g h
97
98
99
100
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
A
A'
B
B'
C
C'
0
16m

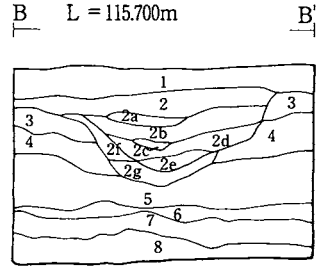
第76図　流路平面図

1号流路断面



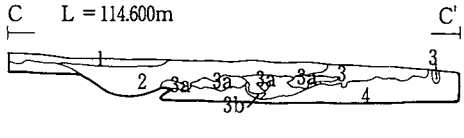
A－A'
1　10YR3/3 暗褐色シルト　締まりやや密　To-b微量混入
1a　5YR3/3 暗赤褐色シルト　締まりやや密　To-b1～2%混入　酸化鉄層
1b　10YR3/2 黒褐色シルト　締まりやや密　To-b3%・Nb-P微量混入
1c　7.5YR4/3 褐色シルト　締まり中　酸化鉄の集積・To-b2%混入
2　10YR3/3 暗褐色砂礫土主体に10YR3/3 暗褐色砂土　締まりやや疎　草根混入
3　10YR3/1 黒褐色泥質シルト　締まり中　To-b1～5%・Nb-P1%混入
4　10YR2/1 黒色シルト　締まり中　To-b微量・Nb-P1%混入
4a　7.5YR3/3 暗褐色泥質シルト　締まり中　Nb-P1%微量混入
5　10YR2/1 黒色泥炭土　締まりやや疎　To-b微量・Nb-P2～7%混入
5a　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土中に10YR1.7/1 黒色砂質土　締まりやや疎

2号流路断面



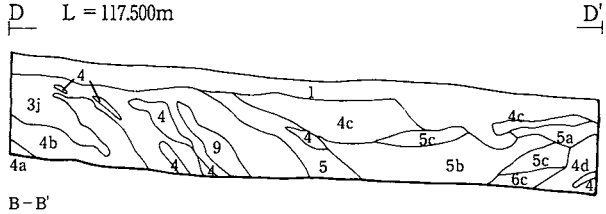
B－B'
1　10YR2/2 黒褐色シルト　締まり中　To-b3%・Nb-P微量混入
2　10YR2/1 黒色シルト　締まりやや疎　To-b1%・褐色土ブロック混入
2a　10YR2/2 黒褐色シルトと10YR4/6 褐色砂礫土の混土　締まりやや疎
2b　10YR3/3 暗褐色シルト　締まりやや密
2c　10YR3/4 暗褐色砂質土　締まり疎　To-Cuの再堆積層と思われる
2d　10YR2/2 黒褐色シルト　締まりやや疎　砂質土微量混入
2e　10YR1.7/1 黒色シルト質粘土　締まりやや疎　Nb-P微量混入
2f　10YR3/3 暗褐色シルト　締まり中　Nb-P1%混入
2g　10YR2/1 黒色シルト質粘土　締まり中　Nb-P1%混入
3　10YR3/2 黒褐色シルト主体に10YR6/4 にぶい黄橙テフラ
締まりやや疎
4　10YR2/1 黒色シルト　締まり中　Nb-P1%混入
5　7.5YR3/3～4/3 暗褐～褐色砂質土　締まりやや疎（局所的に明黄褐色）
6　10YR2/2 黒褐色シルト質粘質土　締まり中　To-Cu微量
Nb-P3%混入
7　10YR2/2 黄褐色粘土質シルト　締まり中
径1～5cmの粗礫30～50%混入
8　10YR4/6～5/6 褐～黄褐色　ローム　締まりやや密　Nb-P3～5%混入

3号流路断面



C－C'
1　10YR2/3 暗褐色シルト　締まり中　Nb-P微量・To-b微量混入
2　10YR3/2～3/3 黒褐～暗褐色シルト　締まりやや疎　Nb-P1%混入
3　10YR6/3 にぶい黄橙色テフラ　締まり中　To-a8%以上のテフラ層
3a　10YR3/3 暗褐色シルトと10YR6/3 にぶい黄橙色テフラの混土　締まりやや疎
3b　10YR3/3 暗褐色シルト　締まり中　To-a20%混入
4　10YR2/1 黒色シルト　締まり中
5　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　締まり中　Nb-P3%混入

4号流路断面



B－B'
1　10YR3/3 暗褐色シルト　締まり密　To-b5～7%・To-Hブロック少量混入
2　10YR2/2 黒褐色シルト　締まり中　Nb-P7%・To-Hブロック混入
3　7.5YR4/6 褐色ローム（To-H）　締まり中　Nb-P1～5%混入
3a　7.5YR4/6 褐色ローム（To-H）　締まりやや密　Nb-P2%・酸化鉄の集積混入
3b　5YR4/6 赤褐色ローム（To-H）　締まり中　Nb-P3%混入
3c　7.5YR4/6 褐色ローム（To-H）　締まりやや密　Nb-P1～20%・黒色シルトブロック混入
3d　10YR4/6 褐色ローム（To-H）　締まりやや密　Nb-P7%・酸化鉄微量混入
4　10YR3/2 黒褐色シルト　締まりやや中　Nb-P10%・黒色シルトブロック混入
4a　10YR2/2 黒褐色シルト　締まり中　Nb-P10%・To-Hブロック混入
4b　10YR2/2 黒褐色シルト　締まり中　Nb-P10%・酸化鉄の集積混入
4c　10YR2/1 黒色シルト主体に10YR褐色ローム（To-H）混入　締まり中　Nb-P3%混入
5　10YR2/2 黒褐色泥炭土　締まりやや密　Nb-P5%混入
6　10YR6/3～7/3 にぶい黄橙色テフラ（To-H）　締まり中　砂土混入

第77図　流路断面図

（2） 平成12年度調査で検出された遺構

25号竪穴住居跡

〈検出状況〉調査区東端の11ｂグリッドで検出した。検出面はⅤ層である。

〈重複関係〉なし。

〈形状・規模〉東部側のプランが調査区外へ延びるため、詳細は不明であるが、平面形は円形を呈し、規模は５ｍ程を測るものと思われる。

〈床面積〉不明である。

〈埋土〉上位に黒～暗褐色シルト、下位に暗褐色シルトが堆積する。西壁際が中掫の含有率が高い。自然堆積的な様相を示す。

〈壁・床〉壁・床ともに、北側はⅤ層、南側はⅥ層で構成される。壁は外形気味に立ち上がり、壁高は17～20cm程を測る。床面は北東側に向かって幾分下り勾配で、凹凸がみられる。床面は堅くないことから踏み締めなどは行われていないと思われる。

〈柱穴〉柱穴と思われる小土坑は４基検出された。竪穴住居外北側に検出された１基については、屋外柱穴の可能性がある。

〈炉〉地床炉と推定される現地性の焼土を竪穴中央付近で検出した。35～40cm程の範囲に広がり、層厚は約５cmである。焼成は悪い。

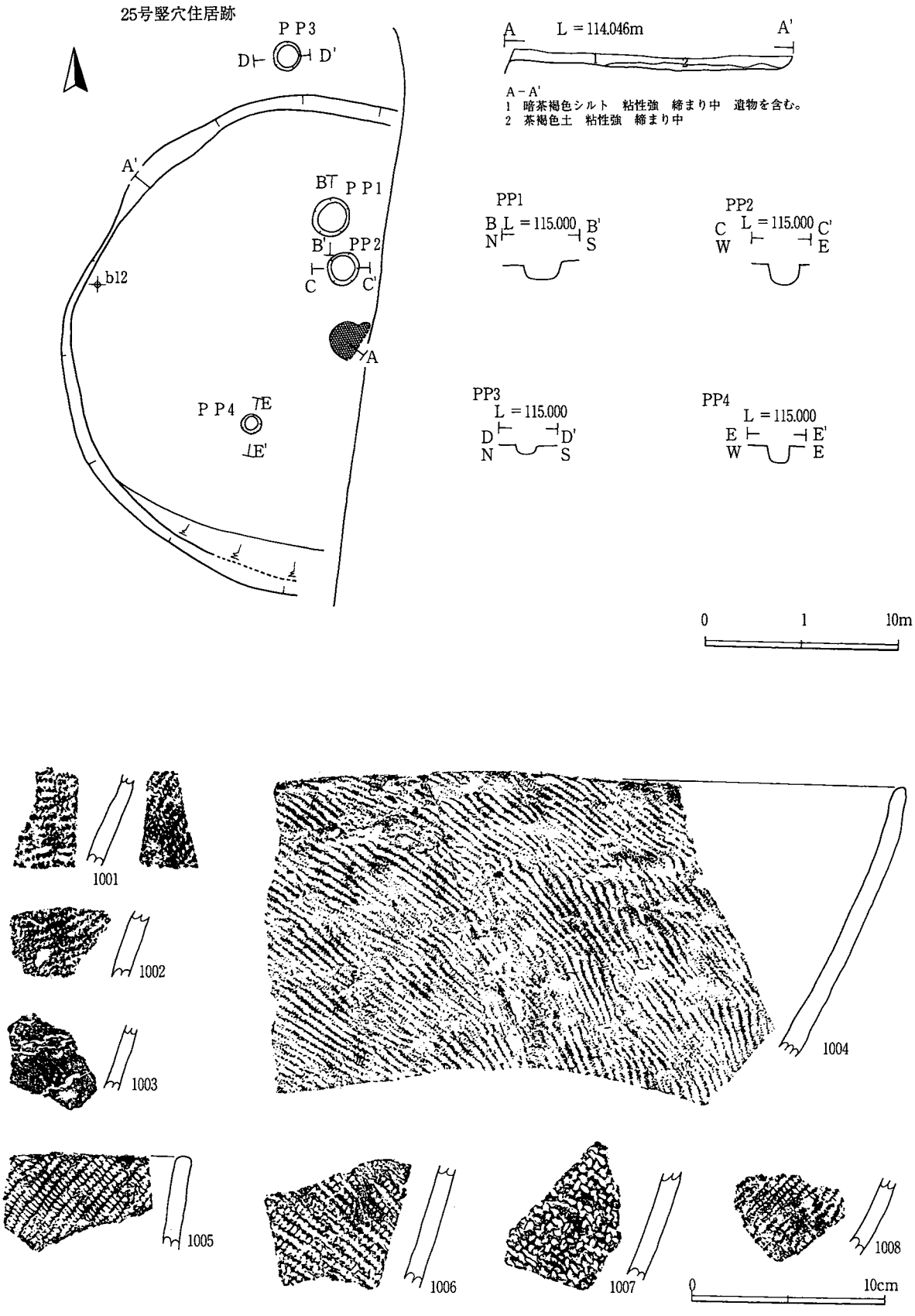
〈付属施設〉南側壁際で、テラス状の段を検出した。幅20cm程で、床面との比高は約10cmである。

〈出土遺物〉土器は、縄文時代後期中葉を主体とし、９号袋約３袋分出土した。床面から出土した土器は、1001～1005である。1001・1002・1003は前期の深鉢で胎土に繊維が含まれている。1004・1005は原体に０段多条の縄を用いる後期の粗製深鉢である。1006は胎土に繊維が含まれている前期の深鉢である。1010・1013・1016は羽状縄文が施されている。1010・1013はＲＬ・ＬＲ（０段多条）の原体を横回転、1016はＬＲ原体を異方向（縦・横）に転回している。1012は幅広めの磨り消し帯による入り組み縄文が施される。1014の鉢（ミニチュア）は口縁部が小波状を呈し、口縁部と胴部中央に刻目帯、胴部下半には羽状縄文（ＲＬ・ＲＬ）が施された後、沈線が引かれている。1015の鉢は、口縁部から、刻目帯・沈線・羽状縄文（ＬＲ・ＲＬ）・磨り消し帯の組み合わせが２度繰り返された後、胴部下端に羽状縄文（ＬＲ・ＲＬ）が施されている。内面には煤が付着している。1014・1015とも時期は後期中葉と捉えられる。

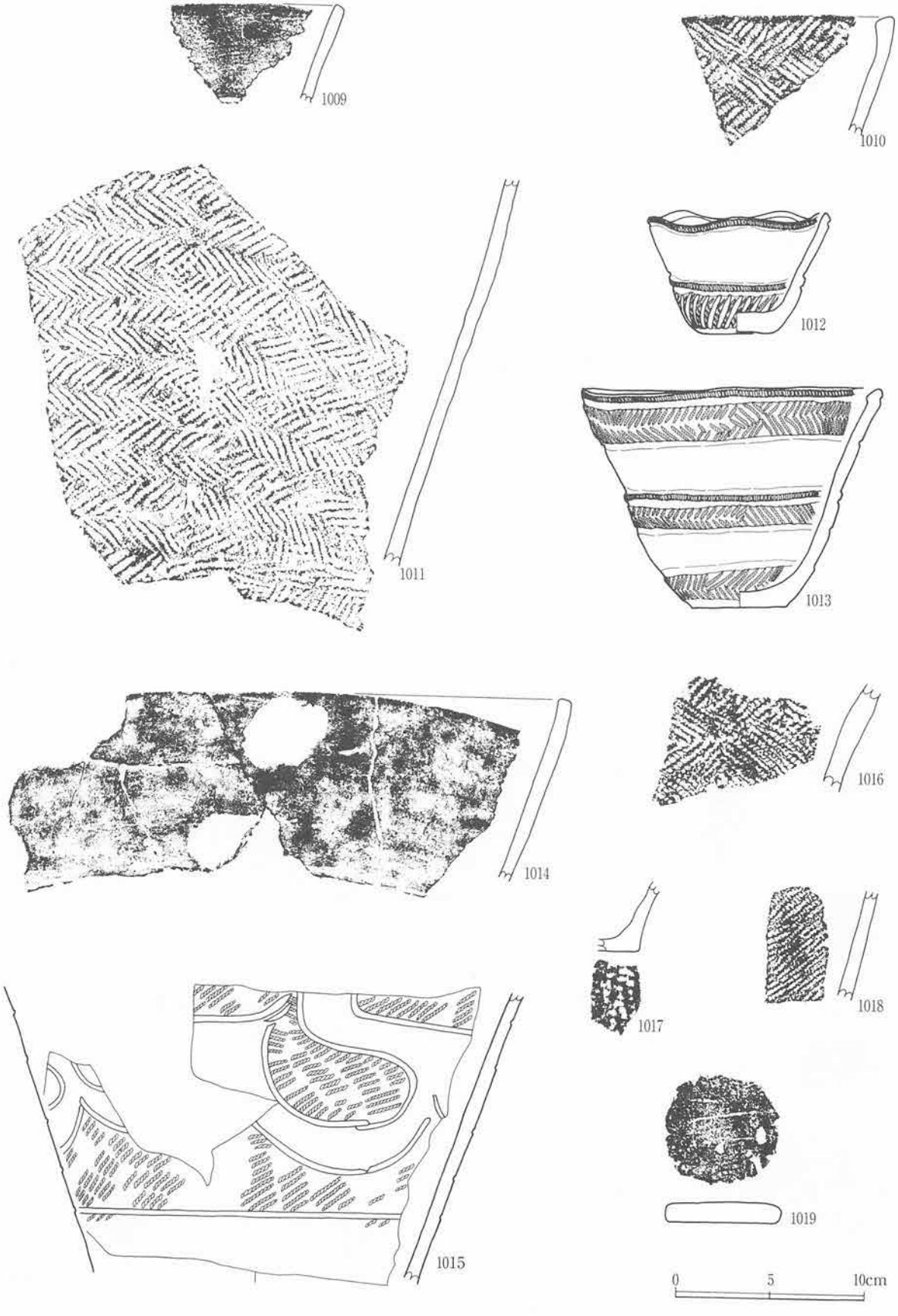
石器は、床面から敲磨器１点が、埋土中から敲石、石錘、敲磨器、不定形石器が出土している。

円盤状土製品が１点埋土中から出土している。

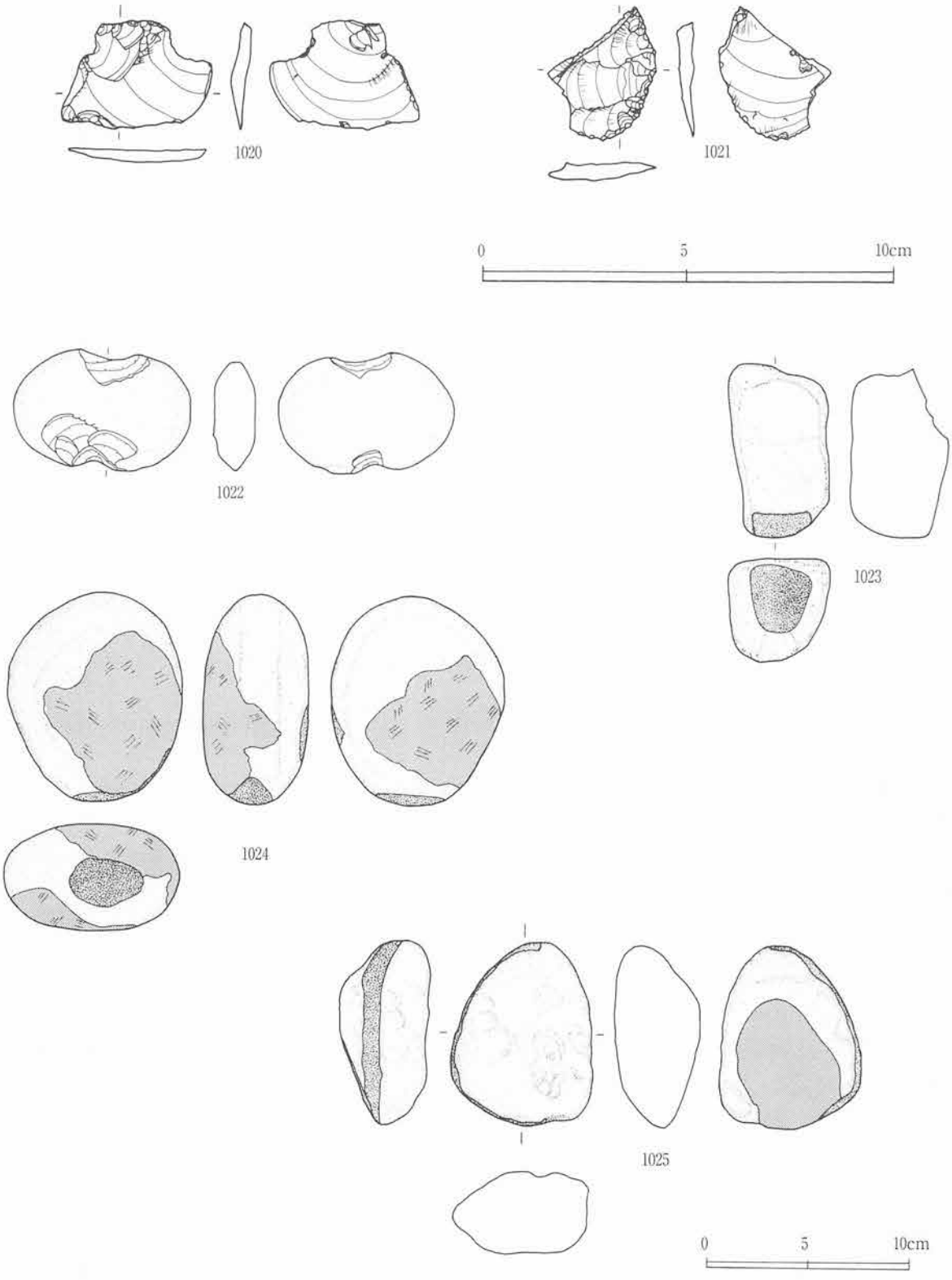
〈時期〉出土している遺物から、後期中葉と推定される。



第78図　25号竪穴住居跡・出土土器（1）



第79図　25号竪穴住居跡出土土器（２）



第80図　25号竪穴住居跡出土石器

2．遺構外出土遺物

平成11年度調査では、土器類約15箱分（30×40×30cmのコンテナ）、石器類約116点（フレーク・チップ類を除く）の遺物が、平成12年度調査では、土器類約1/2箱、石器13点の遺物が出土している。

本章では遺構外の遺物について扱うこととする。なお、土器の分類については、平成９年度調査で設定したものに準じている。

（1）土器

出土している土器は、縄文時代前期前葉～晩期末葉までのものである。主体となるのは、縄文時代前期前葉の土器で、次いで後期前葉～中葉及び晩期末葉となる。

第Ⅰ群土器

平成９年度調査で数点の出土をみた縄文時代早期に比定される土器群は出土していない。

第Ⅱ群土器

縄文時代前期に属する土器群である。

第Ⅱ群－１類　本類土器は、第一次調査において、大木式・円筒式に先行する前期初頭期として捉えた土器群である。

10ａグリッドⅤ層（中掫火山灰層）上位出土の１は、撚糸文を施文し、口縁端から3.5cm程下に貼り付け隆帯が剥落したと思われる痕跡が見られるなどの特徴から、円筒下層ａ式期とも思われる土器であるが明確ではない。胎土中には、非常に多量の植物繊維の混入が見られることから、円筒下層ａ式より古い土器である可能性も考えられる。

第Ⅱ群－２類　前期前～中葉に属する土器群である。円筒下層ａ式と捉えられるものが主体である。

出土地点は、遺物包含層の分布する調査区南東部（10ａ・７ｂ～10ｂ・８ｃ～10ｃグリッド）を主体とする。出土層位は、Ⅳ層（中掫火山灰混入層）及びⅤ層（中掫火山灰層）から出土している。

器種は全て深鉢である。18は、他に比べて小形の深鉢である。

器形的特徴としては、底部からやや外傾気味かあるいは緩い曲線的に立ち上がる深鉢を基調とする（18・20・21）。７は底部でややくびれてから緩やかに立ち上がっており、大木１～２ａ式の可能性がある。
また、1019は胴部に非結束羽状縄文（ＬＲ・ＲＬ？）を施文する深鉢であり、胎土に繊維が含まれていることから大木１～２ａ式の可能性もある。口縁部に文様帯を形成する土器の多くは、口縁部に単節斜行縄文を施文後、不整撚糸文を施文している。また16はその上から指頭圧痕を加えている。口縁部文様帯を形成する土器と、口縁部～胴部全般に単節斜縄文を施文する土器の出土の割合は、前者の方が多い。

本類土器の観察所見から、以下の事象を問題提起しておきたい。

① 胎土中における植物繊維の混入量は、第Ⅰ群－１類とした深郷田式相当の土器群と比較して胎土中の植物繊維の混入量が若干量減少する傾向で捉えられる。時期的には中掫火山灰層を挟み上下に位置付けられる可能性があるだけに、興味深い内容である。植物繊維については、混入量にのみ視点をあてて土器観察を行ったが、混入される植物繊維の顔付き（長い短い・太い細いなど）には違い（植物の種類が違うかどうかは

わからない）があるように思われた。今回は胎土分析など理化学的な分析は行っていないが、今後機会があれば該期土器の胎土に着眼した分析を実施したいと考える。

② 東北地方南部の大木２ａ式からの影響を感じる土器（３）も散見できる。通例的には北緯40°より北に位置するいわゆる県北地域は円筒式土器の強い文化圏である。本遺跡においても、基本的には円筒式土器が優勢と判断できるが、安易な判断かもしれないものの、当該地域における前期前葉期は円筒下層式と大木式の融合する関係にあるものと思われる。

第Ⅱ群－３類－ａ 前期後～末葉に属する土器群で、円筒下層ｃ～ｄ式に相当すると思われる。少量の出土である。円筒下層ｃ式の可能性があるのは23で、他は円筒下層ｄ式に相当する。器種は全て深鉢である。

口縁部文様帯には原体押圧文、撚糸文を施文する。横位隆帯あるいは半裁竹管文を頸部に施文した後、胴部には２種類の原体を結束したものを回転した羽状縄文を主体とする（24・25）。口唇部に縄文を施文するものが多く、内面調整はミガキが施された比較的丁重な作りのものが多い。27・28・29は胴部に木目状撚糸文を施文している。

第Ⅱ群－４類 胎土中に植物繊維の混入が見られるものの中で、文様や特徴から土器型式との比定が困難なものは基本的に本類とした。例外として、33は半截竹管と思われる工具による沈線が施され、斜位沈線上に三角形の刺突文が並ぶ。肉眼では、胎土中における植物繊維の混入は確認できない。

第Ⅲ群土器

縄文時代中期に相当する土器群である。出土の主体は１類とした円筒上層式で、次いで４類とした大木10式である。

第Ⅲ群－１類 中期初頭～前葉に属する土器群で、円筒上層ａ～ｃ式および大木７式に相当すると思われる。

全て破片資料であるため明確ではないが、器種は全て深鉢と思われる。貼り付け隆帯上に縄文あるいは原体押圧文を施文する。胎土中の植物繊維混入は確認されなかった。

第Ⅲ群－２類 中期中葉の榎木林式あるいは大木８ａ・８ｂ式に相当すると思われる土器群が数点出土している。40・43は隆帯による渦巻文が施されている。

第Ⅲ群－３類 中期後葉の大木９式あるいは最花式に相当する土器群である。

44・45は、胴部にはRL斜行縄文を施文後に沈線が施され、内外面とも丹念なミガキが施されている。

第Ⅲ群－４類 中期末葉の大木10式に相当すると思われる土器群である。すべて破片資料であるため明確ではないが、器種はすべて深鉢と思われる。46・48はアルファベット文が施される。

第Ⅲ群－５類 地文のみを施文する粗製深鉢で、土器型式との比定が困難なものを一括する。

第Ⅳ群土器

縄文時代後期に相当する土器群である。後期の土器は、第Ⅳ群－１類とした初頭期が主体を占める。

第Ⅳ群－１類 後期初頭～前葉に属する土器を本類とした。土器型式での区分は困難であるが、十腰内Ⅰ式の前段階（前十腰内式・馬立Ⅰ式・上村式と呼ばれる土器群）から～十腰内Ⅰ式に比定されるものと思われる。器種は、深鉢、鉢、浅鉢、壺などである。

出土量の傾向としては、十腰内Ⅰ式の前段階に比定されるものが主体となる。帯縄文による弧状気味にモチーフされるものや無文で沈線によりモチーフされるもの、原体が無節を施文するものなどが多い。54は初

頭から前葉で捉えられる。

第Ⅳ群－2類　後期中葉　磨消縄文が多用され、羽状縄文もみられる。十腰内Ⅱ～Ⅲ式に相当する。77は注口土器の胴部で、頚部に沈線・刺突文が、注口部に刺突文が施される。胴部は無文で、全般にミガキが施される。

第Ⅳ群－3類　後期後～末葉に相当する。十腰内Ⅳ～Ⅴに比定されるものと思われる。79は非結束羽状縄文が施され、叉状貼瘤がつけられる。80は刺突文・貼瘤が施される。

第Ⅳ群－4類　後期と推定されるが、詳細な時期区分ができない粗製土器を一括する。

第Ⅴ群土器

縄文時代晩期に相当する土器群である。

第Ⅴ群－1類　晩期初頭～前葉に属する土器群で、大洞B～BC式に相当する。前回調査次（平成9年度）に遺構から出土しているが、今回の調査での出土はない。

第Ⅴ群－2類　晩期中葉～後葉に属する土器群で、大洞C1～C2式に相当する。84は、胴部上端に雲形文・羊歯状文意匠が施されている。

第Ⅴ群－3類　晩期後葉～末葉に属する土器群で、大洞A～A'式に相当する。前期前葉に次ぐ出土量である。基本的には、口縁部～胴部上端の狭い範囲に工字文や変形工字文、あるいは平行沈線が施される土器を本類とした。93は二股状の突起が4単位で回る。口縁部に4条の沈線が施されているが、そのうち最上段のものは突起部を結ぶように引かれている。94は、口唇部に波状・刻み・沈線、口縁裏側に溝状沈線が施される。また胴部上端には変形工字文が施される。

第Ⅴ群－4　晩期に属する可能性は高いものの、詳細な時期同定ができない土器群を一括する。
104は、口縁部に横位隆線、口縁裏側に溝状沈線が施される。口縁部の突起が奇数単位を示すことが予想されること、および胎土の様相から、弥生初頭期までの可能性で捉えられる。

（2）土製品

土製品は、ミニチュア土器、円盤状土製品、土偶が出土している。

＜ミニチュア土器＞

出土したのは3点で、台付鉢（201）、深鉢（202）、浅鉢（203）のミニチュアである。

＜円盤状土製品＞

土器片を再利用し、縁辺を打ち欠いたり磨いて円形を形作る行為が窺える土製品である。1点が出土した。

＜土偶＞

晩期末葉～弥生初頭期の髪結い土偶1点が出土している（205）。正面側では、髪部に平行沈線が、髪の両端にある髪結い部に刺突が施される。また髪と頭部には1cmほど開きがある。右肩と左肩を2条の沈線で結ぶ。また左右の乳房部から各々側の肩部にかけて隆帯・沈線が施される。へそは刺突であらわされ、その上部から短い刺突列が施される。腰部には2条の沈線が、下腹部は刺突が施される。背面側では、肩胛骨付近から肩部に2条の刺突列が並ぶ。また中央部に渦巻き状の沈線が施される。

（3）石器

二次・三次調査で出土した石器は、129点である。器種構成は、石鏃、石槍・尖頭器、石匙、スクレイパー、石核、石斧類、石錘、磨石、敲石、凹石、砥石、礫器、石皿、台石である。

<石鏃>　15点出土した。形態は、有茎９基、無茎平基５基、無茎凹基１基に分類される。石材はすべて頁岩で、301の珪質頁岩が含まれる。大きさは、最大で4.3cm、最小で1.8cm、平均すると2.86cmである。

<石槍>　製品が３点、未製品が１点出土した。石材はすべて頁岩である。大きさは、最大で9.6cm、最小で4.55cm（未製品は除く）である。

<尖頭器>　１点出土した。あるいは石鏃の未製品の可能性も含むものである。

<石匙>　未製品のものも含め５点出土した。摘み部を上にした場合、主要な刃部が縦につくもの・横につくものそれぞれ２点ずつである。（未製品除く）石質はすべて頁岩で、珪質頁岩が２点含まれている。

<スクレイパー>　42点出土した。削器・掻器及びなんらかの未製品と思われるものを一括する。石質は珪質頁岩２点を含む頁岩がほとんどであり、その他チャートが２点ある。

<調整剥片>　１点出土している。石質は頁岩である。

<コアー>　２点出土し、石質はチャートである。

<石斧類>　未製品の可能性があるものを含めて、８点出土した。内訳は打製石斧１点、磨製石斧４点（いずれも欠損品）、磨製石斧の未製品３点である。石質は、打製石斧321頁岩、磨製石斧325チャート、324礫岩、323砂岩、322ヒン岩である。

<石錘>　２点出土した。石質はいずれも安山岩である。

<敲石>　４点出土した。石質は安山岩（1037）、角閃安山岩（1038）、チャート（1039）である。1037・1038は磨石からの転用品あるいは兼用品と思われる。

<磨石>　13点出土した。自然礫との区分が明瞭ではないものも見られるが、それらについても磨石として登録した。石質は石英安山岩を１点含むいずれも安山岩である。

<凹石>　８点出土した。石質は安山岩である。

<石皿>　４点出土した。石質は凝灰岩、石英安山岩（330）、玄武岩質溶岩、安山岩（331）である。

<台石>　台石氏の可能性のある石器は１点出土した。石質は安山岩である。

<砥石>　砥石の可能性のある石器は１点出土した（不掲載）。石質は砂岩である。

<礫器>　４点出土した。333は半円状打製扁平打製石器と捉えられる。石質はホルンフェルス、安山岩である。

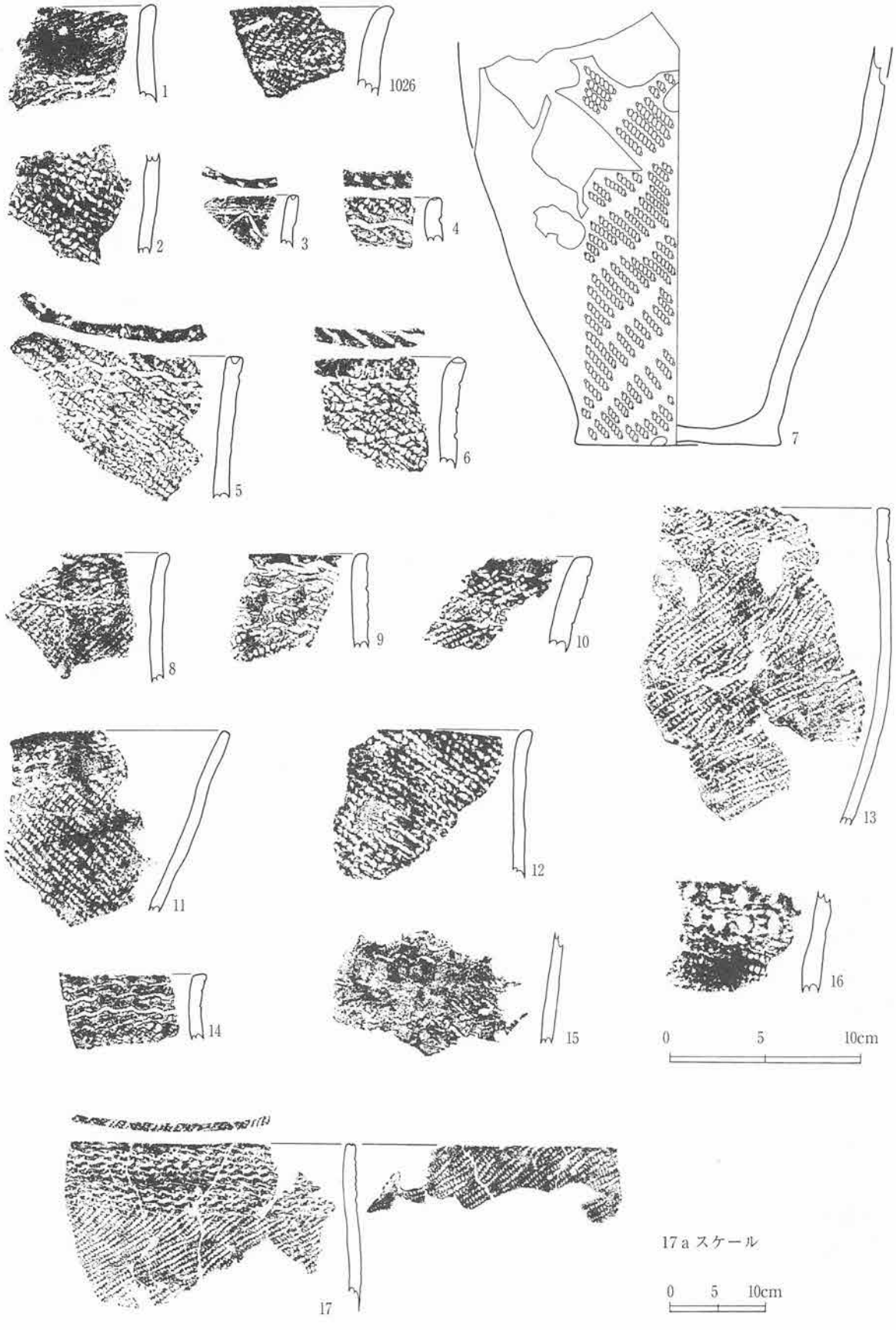
（4）石製品

石製品は、石棒、円盤状石製品、軽石製品が出土した。

<石棒>　４点出土したが、いずれも欠損品である（不掲載）。石質は、ホルンフェルス、砂岩、珪化木である。

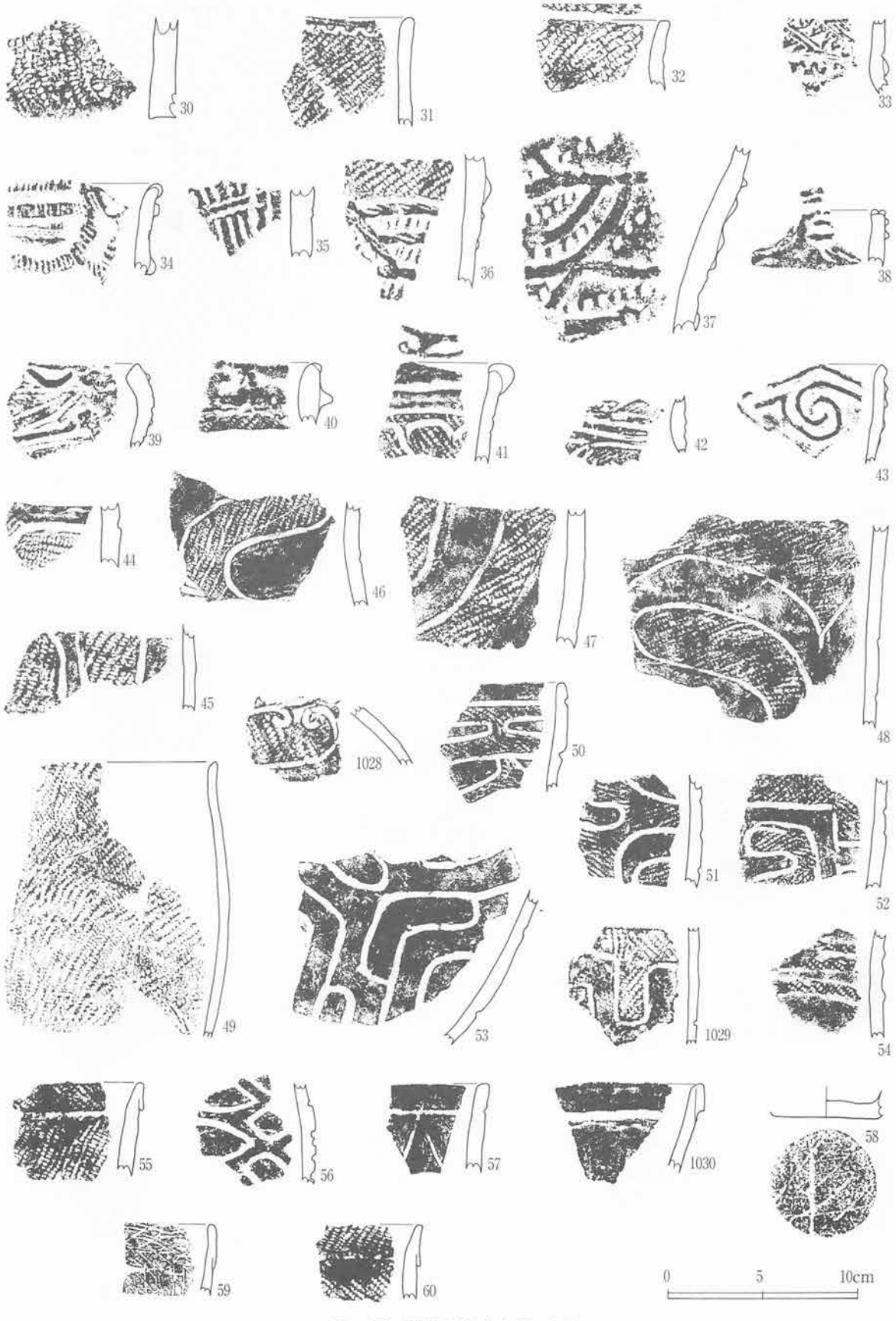
<円盤状石製品>　１点出土した。（1040）

<軽石製品>　１点出土した。中央縦・横に沈線が見えることから、浮きとして使用されていた可能性がある。

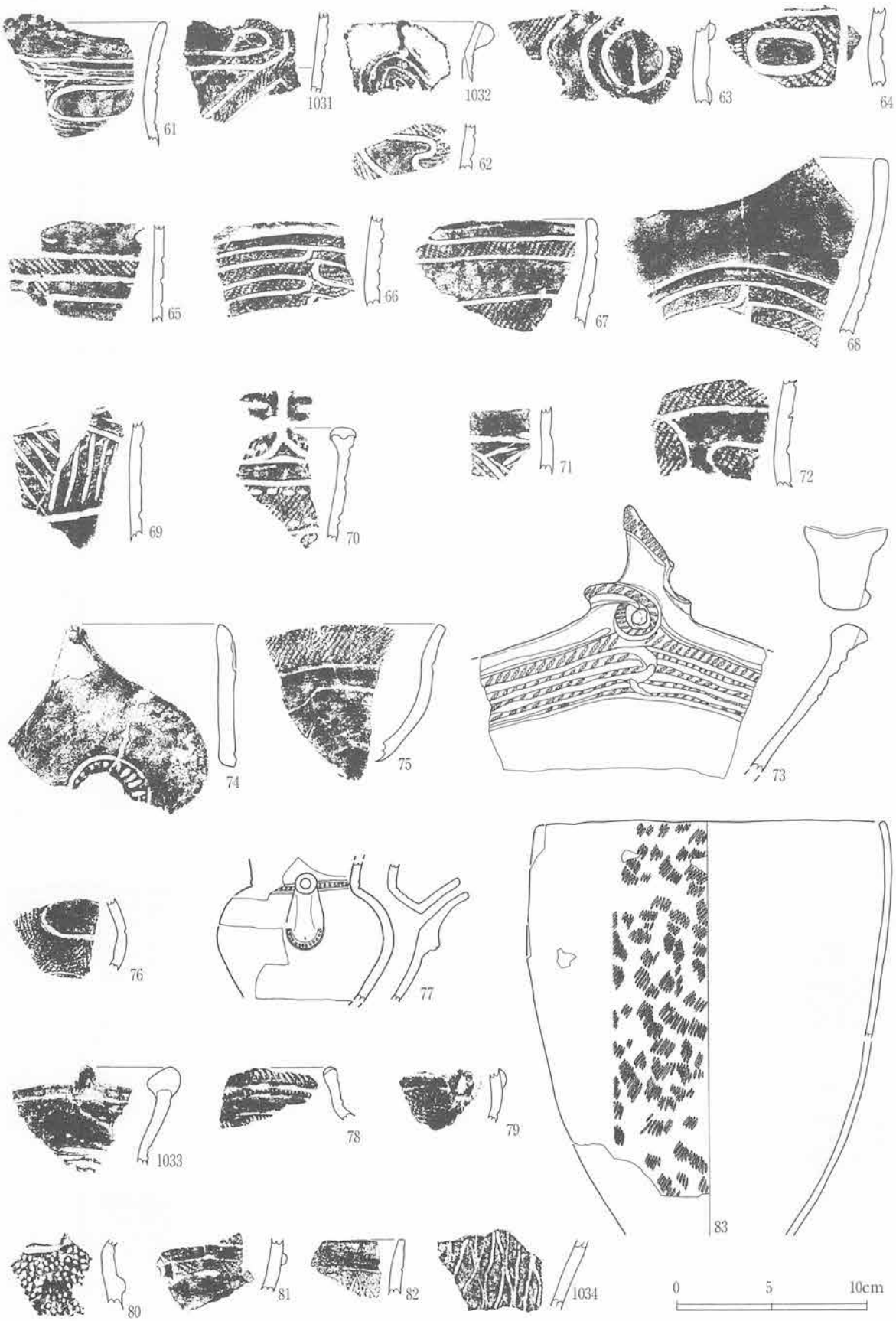


第81図　遺構外出土土器（1）

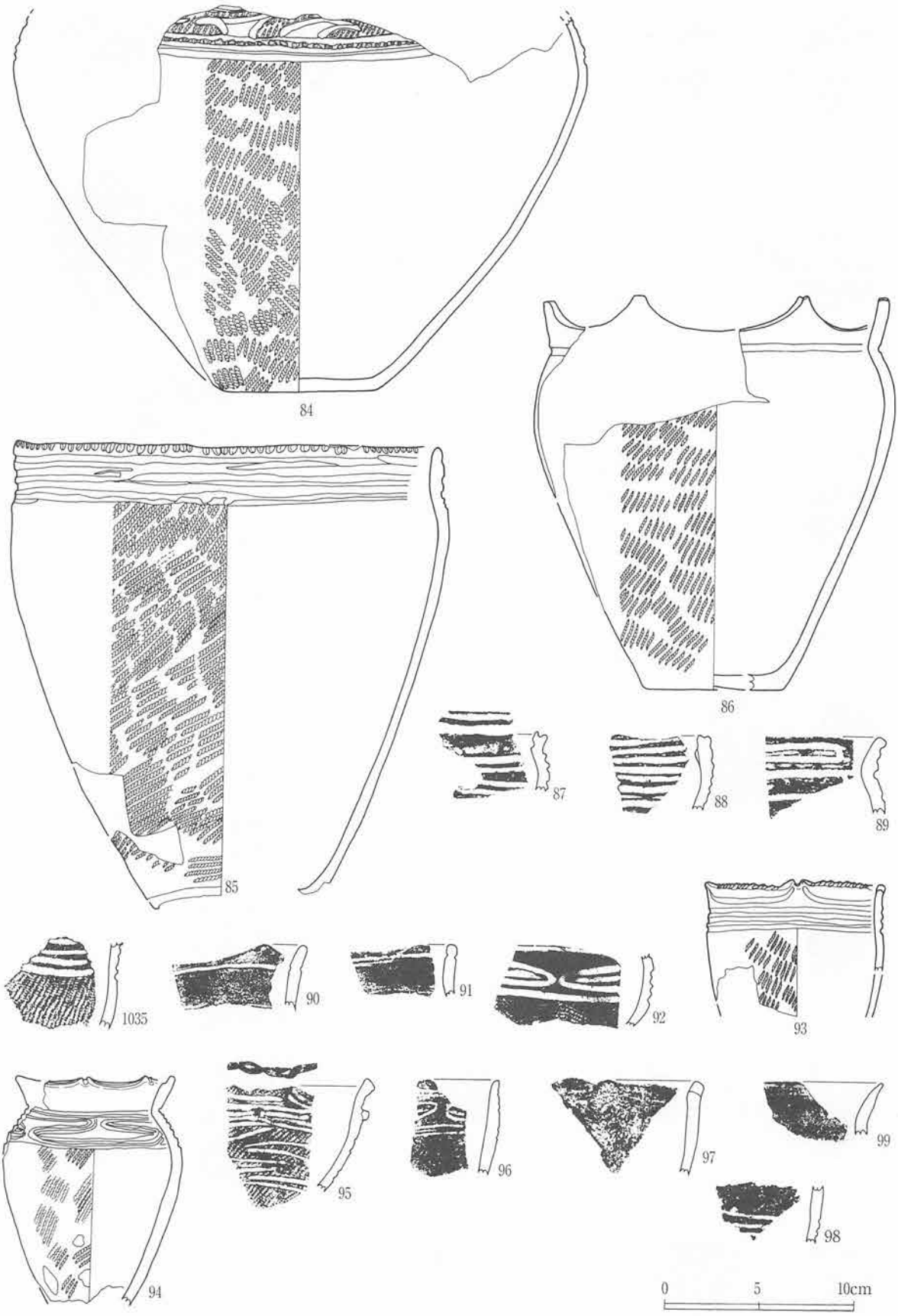
第82図　遺構外出土土器（２）



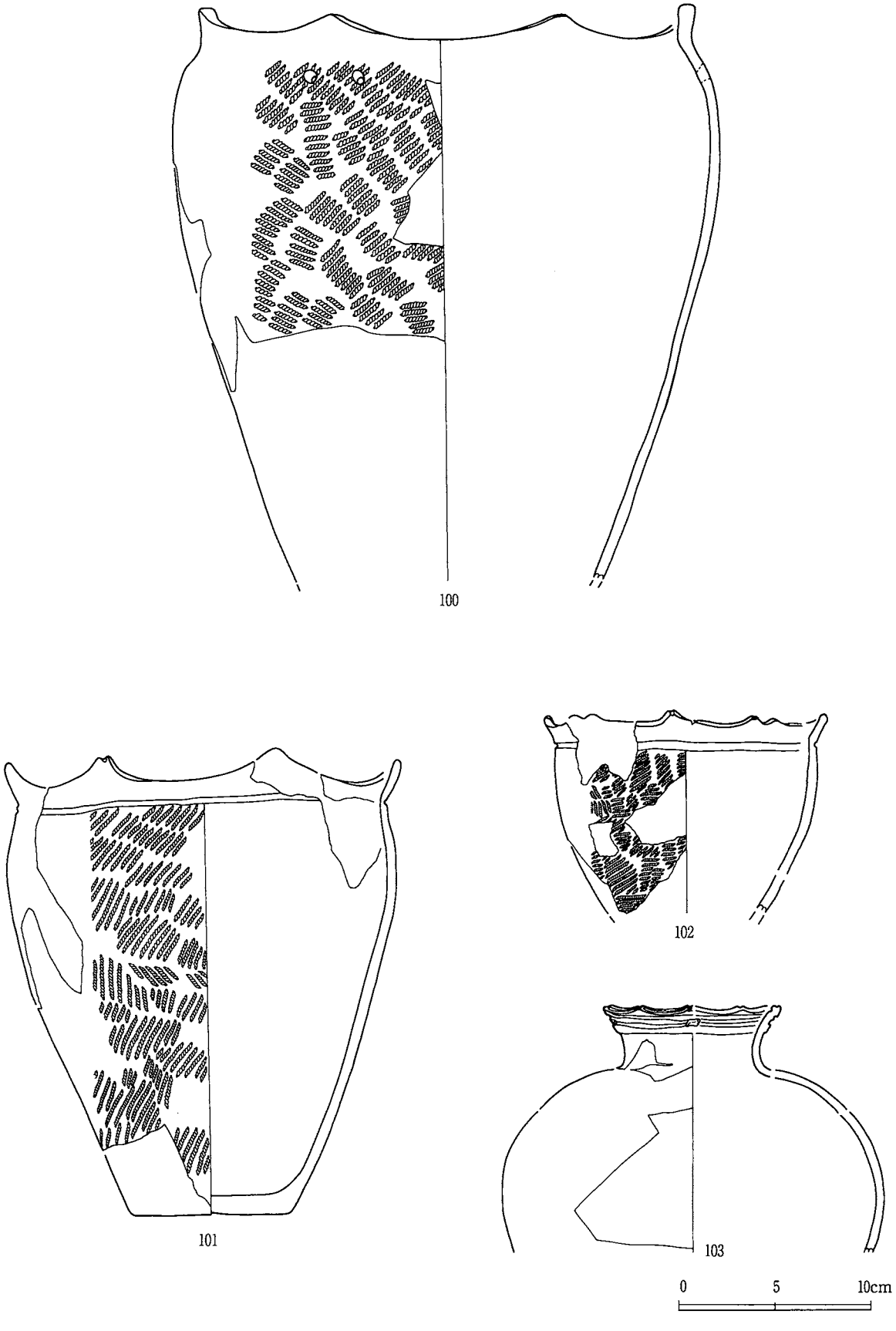
第83図　遺構外出土土器（3）



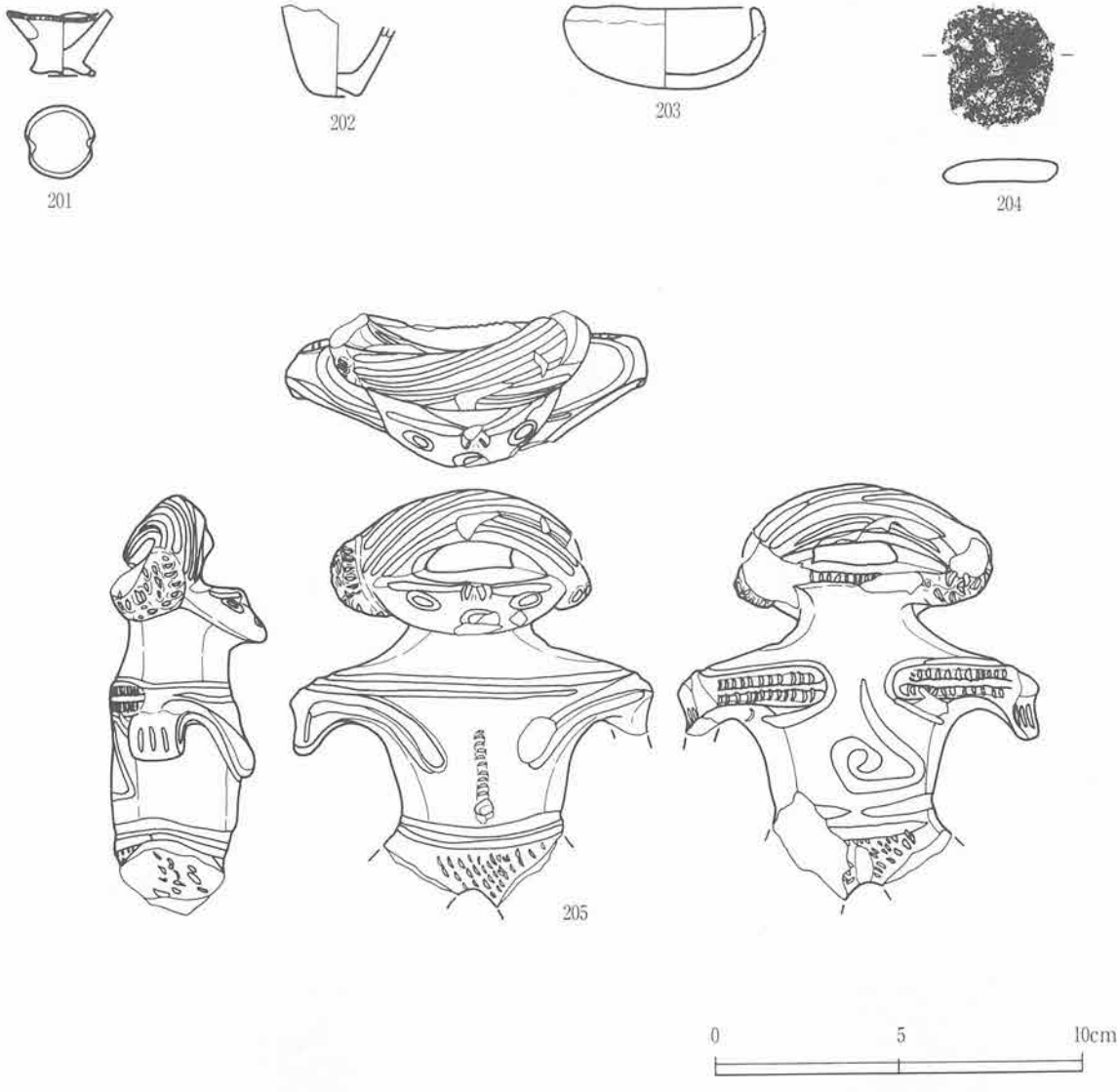
第84図　遺構外出土土器（4）



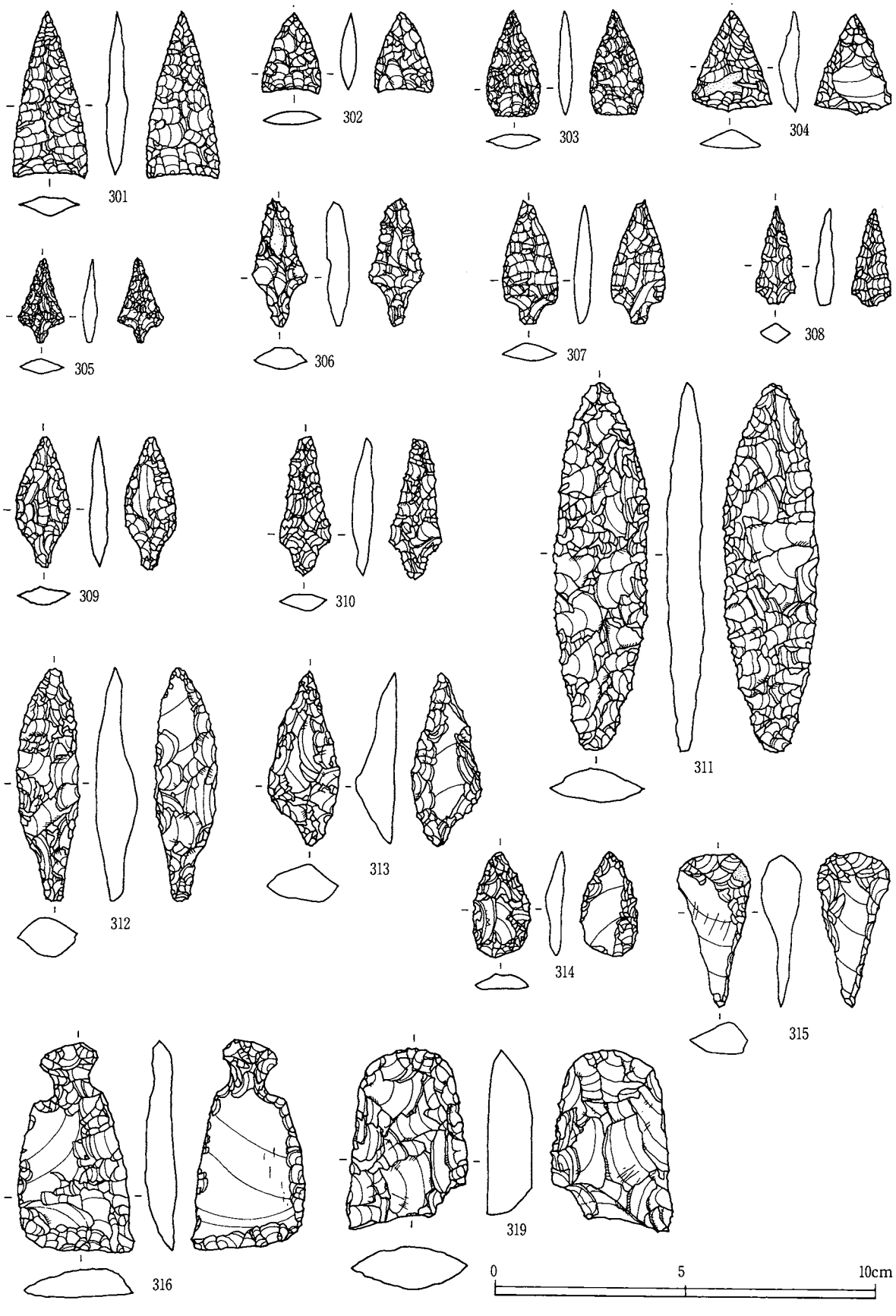
第85図　遺構外出土土器（5）



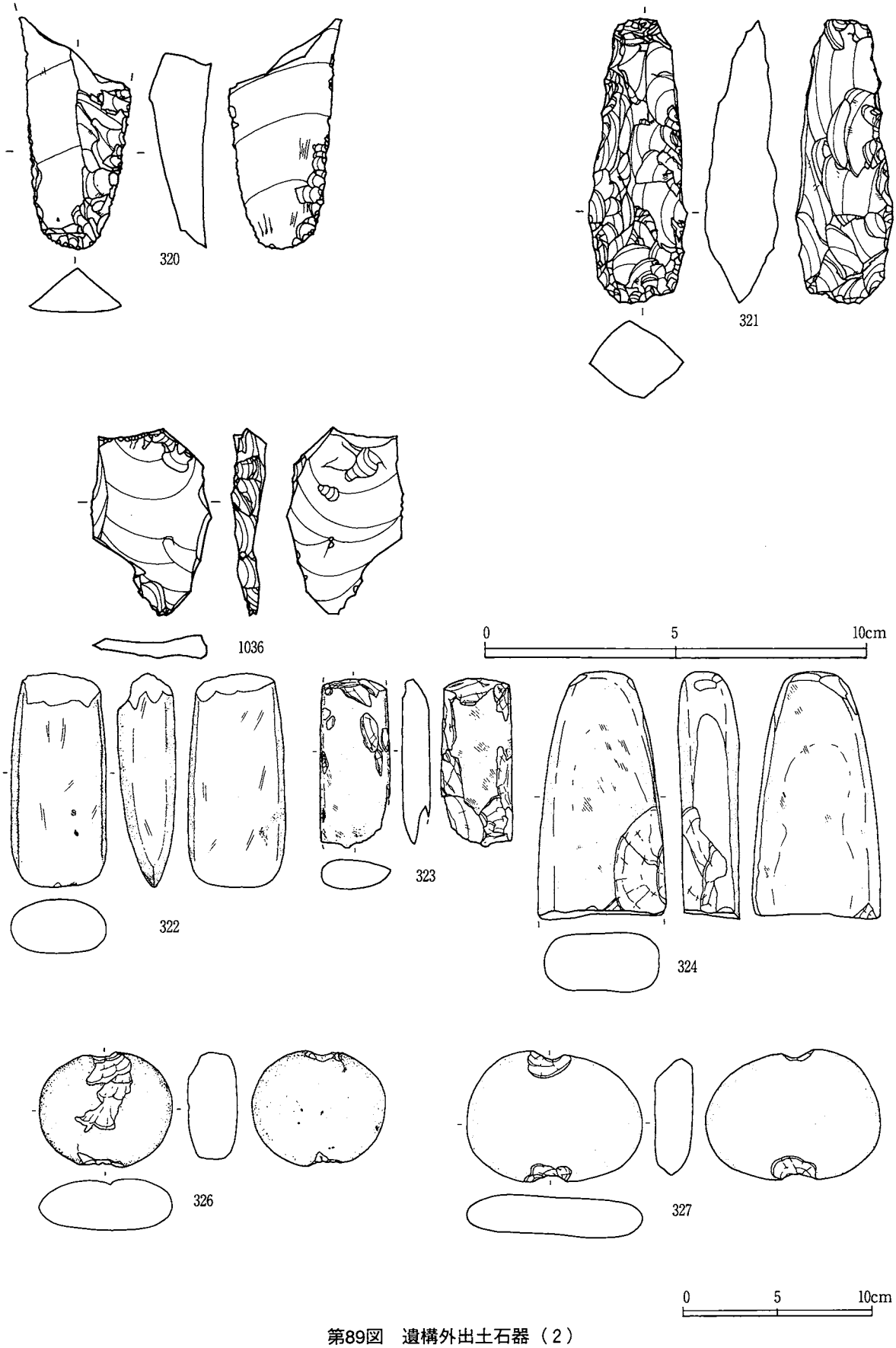
第86図　遺構外出土土器（6）



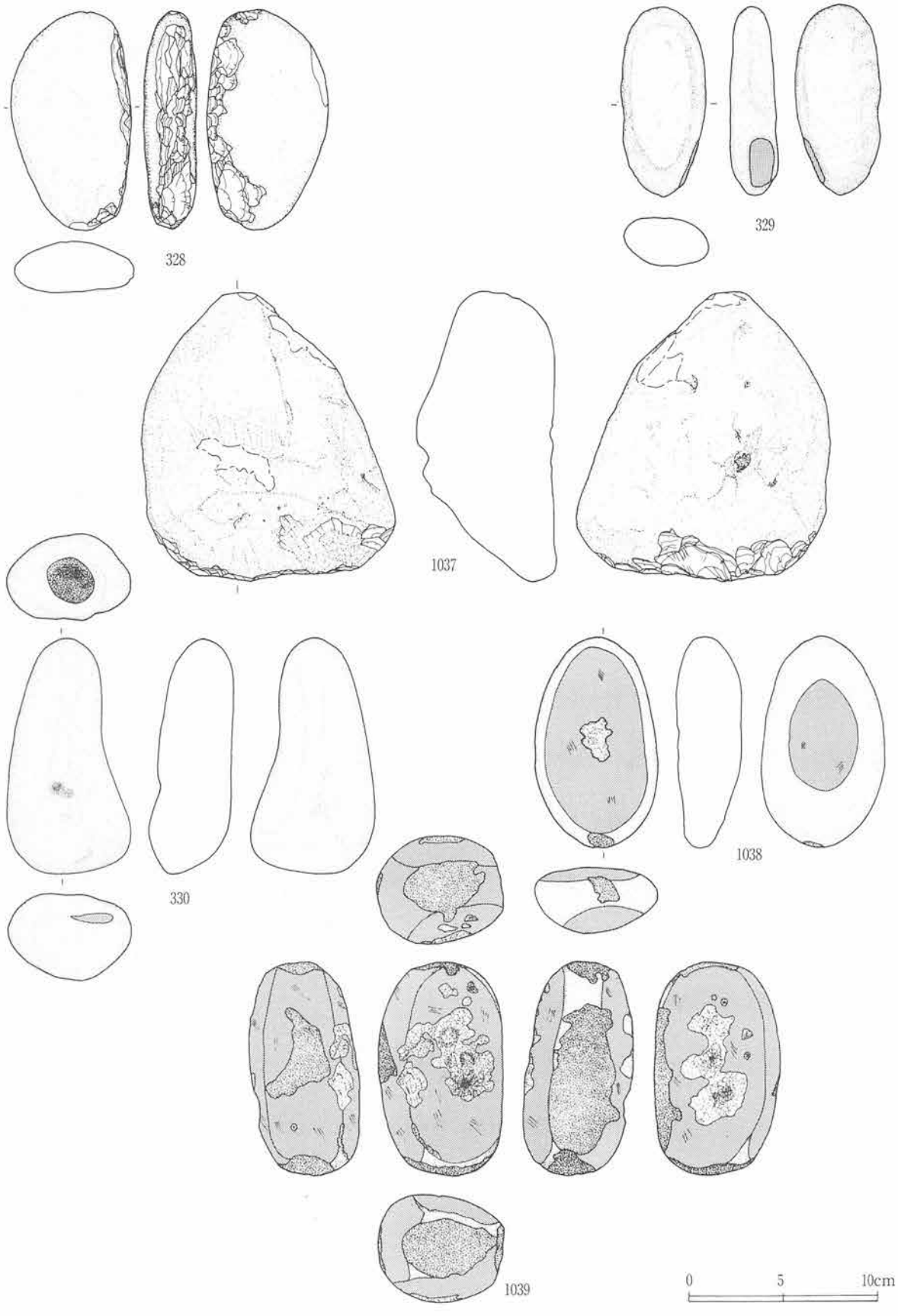
第87図　遺構外出土土製品



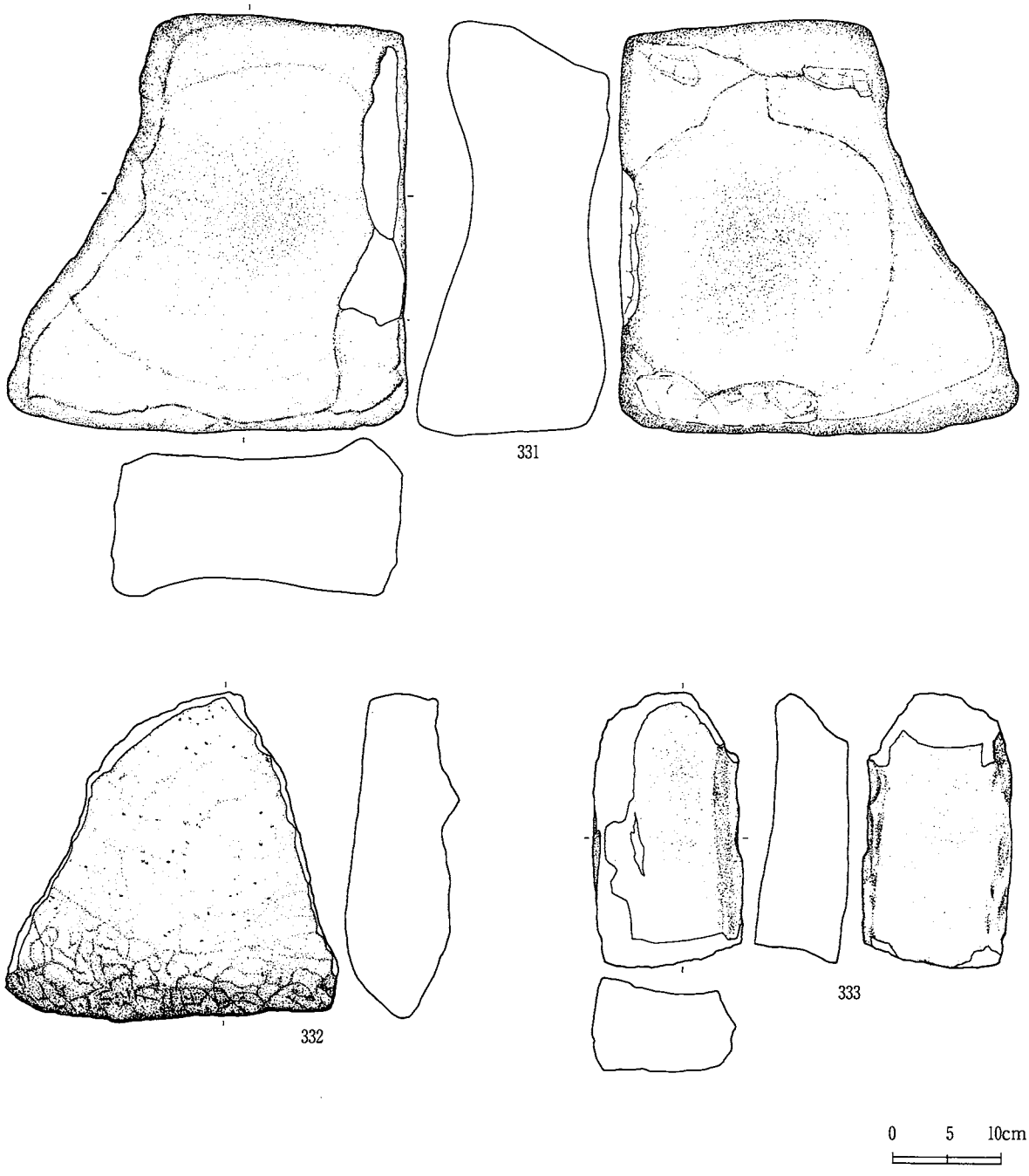
第88図　遺構外出土石器（1）



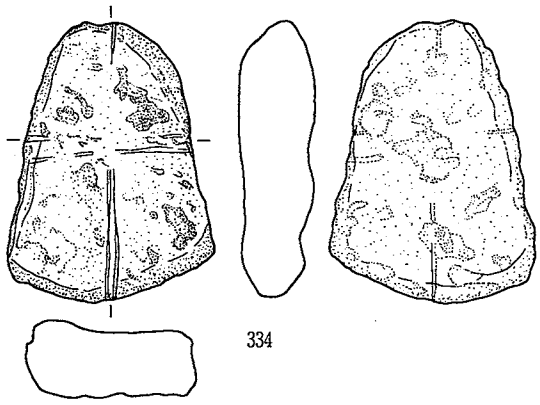
第89図　遺構外出土石器（２）

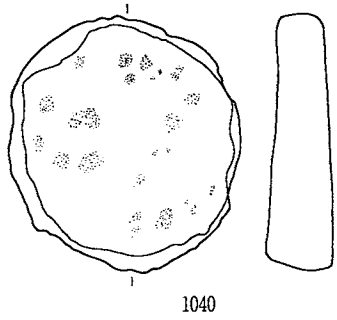


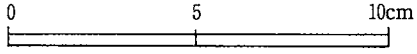
第90図　遺構外出土石器（3）



第91図　遺構外出土石器（4）







第92図　遺構外出土石製品

25号竪穴住居跡出土土器観察表

番号	出土地点	層位	器　種	残存部位	口唇部形態	文様・特徴	地　文	内面調整	底部形態	分類	胎土	備　　考
1001	25号竪穴住居Q 1	床面	深鉢	胴部			LR縦位	LR縦位		Ⅱ－1	繊維微量	
1002	25号竪穴住居Q 1	床面	深鉢	胴部			LR斜位			Ⅱ－1	繊維少量	
1003	25号竪穴住居Q 2	床面	深鉢	胴部		綾繰文	LR末端処理			Ⅱ－2	繊維微量	
1004	25号竪穴住居Q 2	床面	深鉢	口縁部	平縁・丸み		RL縦位（0段多条）	ケズリ→ミガキ		Ⅳ－2	粗レキ	外面煤付着
1005	25号竪穴住居Q 2	床面	深鉢	口縁部	平縁・丸み		LR横位（0段多条）			Ⅳ－5		外面煤付着
1006	25号竪穴住居Q 1	埋土中	深鉢	胴部			RLR縦位	ケズリ		Ⅱ－1	繊維中量	内面煤付着
1007	25号竪穴住居Q 3	埋土中	深鉢	胴部			前々段多条あるいは直前段多条	ケズリ		Ⅱ－5	繊維少量	
1008	25号竪穴住居Q 3	埋土中	深鉢	胴部			LR横位	ケズリ		Ⅱ－5	繊維中量・雲母	内面黒色処理
1009	25号竪穴住居Q 1	埋土中	深鉢	口縁部	平縁・丸み	横位沈線・ミガキ		ミガキ		Ⅳ－2	雲母	内面黒色処理？内面炭化物付着
1010	25号竪穴住居Q 3	埋土中	深鉢	口縁部	平縁・内削ぎ	非結束羽状縄文	LR・RL（0段多条）	ミガキ		Ⅳ－2	砂粒	1011と同一個体の可能性あり
1011	25号竪穴住居Q 2	埋土中	深鉢	胴部		非結束羽状縄文	LR・RL（0段多条）	ミガキ		Ⅳ－2	砂粒	内面炭化物付着、1010と同一個体の可能性あり
1012	25号竪穴住居	埋土中	鉢（ミニチュア）	完形	小波状口縁（5単位）・内削ぎ	口縁端・頚部に刻目帯、口縁部ミガキ、胴部沈線充填	RL横位	ミガキ	上げ底状・ミガキ	Ⅳ－2		全体に色調が黒っぽく丁重なミガキが施される。底部下端は羽状縄文（RL・RL）が施された後、沈線が引かれている
1013	25号竪穴住居Q 1	埋土中（床15cm上）	鉢	完形	平縁・やや内削ぎ	口縁端・頚部に刻目帯、非結束羽状縄文、幅約2.5cmの磨り消し縄文帯	LR・RL	ミガキ	やや上げ底、ミガキ	Ⅳ－2	砂粒	内面炭化物付着
1014	25号竪穴住居Q 2・3	埋土中	深鉢	口縁部	平縁・角状気味	ミガキ		ミガキ		Ⅳ－2		外面剥落多・1015と同一個体の可能性あり
1015	25号竪穴住居Q 2	埋土中	深鉢	胴部		幅広めの磨り消し帯による入組縄文	LR斜位	ミガキ		Ⅳ－2		1014と同一個体の可能性あり
1016	25号竪穴住居Q 3	埋土中	深鉢	胴部		羽状縄文（異方向縄文）	LR	ミガキ		Ⅳ－2	砂粒	内面赤色を帯びる
1017	25号竪穴住居Q 3	埋土中	深鉢	底部					網代痕	Ⅳ－6		
1018	25号竪穴住居Q 1	埋土中	深鉢	胴部			LR横位	ケズリ		Ⅴ－5		

25号竪穴住居跡出土土製品観察表

番号	出土地点	層位	器　種	残存部位	文様・特徴	長径（cm）	短径（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	分類	備　　考
1019	25号竪穴住居Q 2	埋土中	円盤状土製品	完形	無文	4.2	4.1	0.8	15	Ⅳ－4	内面赤色を帯びる

25号竪穴住居跡出土石器観察表

番号	出土地点	層位	器　種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	石　質	産　地	備　　考
1020	25号竪穴住居Q 3	埋土中	不定形石器	2.6	3.7	0.5	2.81	頁　岩	北上山地？	
1021	25号竪穴住居Q 2	埋土中	削器	3.25	2.65	0.4	2.26	頁　岩	北上山地？	
1022	25号竪穴住居Q 1	埋土中	石錘	5.7	8.7	2.1	165	安　山　岩	奥羽山脈	
1023	25号竪穴住居Q 1	埋土中	敲石	8.6	5	4.9	299	石英安山岩	奥羽山脈	
1024	25号竪穴住居Q 3	床面	敲石	10.3	8.6	5.3	624	安　山　岩	奥羽山脈	
1025	25号竪穴住居Q 1	埋土中	磨石	9.1	7.1	4.1	270	凝　灰　岩	奥羽山脈	新第三紀

遺構外出土土器観察表

番号	出土地点	層位	器種	残存部位	口唇部形態	文様・特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	胎土	備考
1	10a	Ⅴ上	深鉢	口縁部	小波状、内削		撚糸文			Ⅱ－1	繊維多量	長七谷地３群or大木２ａ、口縁端から3.5cm下に貼付隆帯剥離跡あり
2	10c	Ⅳ中～下	深鉢	胴部下半			不明			Ⅱ－1	繊維やや多量	原体不明
3	7b	Ⅳ中	深鉢	口縁部	平縁、丸み、刺突文	山形状沈線文				Ⅱ－2	繊維微量	大木２ａ？
4	10Z	Ⅴ上	深鉢	口縁部	小波状、角状、連続刺突文	口縁部不整撚糸文 胴部単節斜縄文	撚糸文・ＲＬ横	ケズリ		Ⅱ－2	繊維中量	大木２ａ？
5	10a	Ⅴ上	深鉢	口縁部	小波状、角状、連続刺突文	口縁部不整撚糸文 胴部単節斜縄文	撚糸文・ＲＬ横	ケズリ		Ⅱ－2	繊維中量	31と同一個体、大木２ａ？
6	9b	Ⅳ	深鉢	口縁部	平縁、角状、刻み	口縁部撚糸文 胴部単節斜縄文	撚糸文とＬＲ縦			Ⅱ－2	繊維やや多量 粗礫微量	口唇部短沈線、大木２ａ～２ｂ
7	9c	Ⅳ中	深鉢	口～胴部下半～底部			ＲＬ横位		平底、網代痕	Ⅱ－2	繊維中量	大木１～２ａ？
8	8b	Ⅳ上	深鉢	口縁部	平縁、丸み	口縁部撚糸文、胴部付加条	ＬＲ横			Ⅱ－2	繊維やや多量	大木２ａ？
9	7c	Ⅳ上	深鉢	口縁部	平縁、丸み	口縁部不整撚糸文	撚糸文、ＬＲ横			Ⅱ－2	繊維少量	大木２ａ？
10	8c	Ⅳ上	深鉢	口縁部	平縁、角状	口縁部撚糸文	撚糸文、ＬＲ横			Ⅱ－2	繊維少量	一部剥落あり、大木２ａ？
11	9c	Ⅳ上	深鉢	口～胴部上半	平縁、丸み	口縁部不整撚糸文 胴部単節斜縄文	撚糸文、ＲＬ横			Ⅱ－2	繊維少量	内面煤付着、口縁部文様帯の幅は約３cm。大木２ａ？
12	10b	Ⅳ中～下	深鉢	口縁部	平縁、角状気味		不整撚糸文			Ⅱ－2	繊維やや多量	大木１～２ａ？
13	9c	Ⅳ中	深鉢	口～胴部	波状、丸み	口縁部に３条の原体押圧文付加条（ＬＲ）	付加条（ＬＲ）	ナデ、ケズリ		Ⅱ－2	繊維少量	
14	5トレンチ（5c）	Ⅰ（表採）	深鉢	口縁部	平縁、角状	口縁部不整撚糸文 胴部単節斜縄文	撚糸文・ＬＲ横			Ⅱ－2	繊維少量	大木２ａ～２ｂ？
15	9c	Ⅳ上	深鉢	胴部		不整撚糸文				Ⅱ－2	繊維微量	内面煤付着、大木２ｂ？
16	10c	Ⅴ上	深鉢	胴部		口縁部不整撚糸文および指頭圧痕、胴部単節斜縄文	不整撚糸文、ＲＬ斜			Ⅱ－2	繊維やや多量	大木２ａ？
17	9c	Ⅴ中	深鉢	口～胴部上半	平縁、縄文	口縁部不整撚糸文	単軸絡条体、ＬＲ横位	縄文		Ⅱ－2	繊維中量	内面の縄文は口縁部約６cm
18	10c	Ⅳ中	深鉢中形	ほぼ完形	平縁、丸み、突起（４単位）、刻み目	撚糸文、原体押圧縄文	単軸絡条体、ＲＬ横位		平底、縄文	Ⅱ－2	繊維少量 粗礫混入	
19	10b	Ⅴ	深鉢	口～胴部	平縁、丸み		ＬＲ	ケズリ		Ⅱ－2	繊維中量 粗礫多量	
20	10b	Ⅳ中～下	深鉢	底部			ＬＲ斜・縦位		上げ底、縄文	Ⅱ－2	繊維多量	内面すす付着
21	10b	Ⅳ中	深鉢	胴～底部			ＲＬ横位		平底、網代	Ⅱ－2	繊維中量	
22	10b	Ⅳ下～Ⅴ上	深鉢	口縁部	平縁、角状		ＬＲ横（０段多条）			Ⅱ－2	繊維中量	補修孔
23	3S	Ⅱ（旧河道跡）	深鉢	口縁部	小波状、丸み	貼付文、刺突文（三日月状）				Ⅱ－3		
24	10c	Ⅳ上	深鉢	口縁部	平縁、丸み	口縁部原体押圧文 胴部羽状縄文	ＬＲ・ＲＬ			Ⅱ－3	繊維少量	
25	3S	Ⅱ（旧河道跡）	深鉢	口縁部	平縁、丸み	原体押圧文、刺突列 羽状縄文（結束あり）	ＬＲ・ＲＬ			Ⅱ－3	繊維微量 海綿骨針？	
26	10a	Ⅳ	深鉢	口縁部	平縁、丸み	口縁部二段の連続刺突文	ＬＲ一方を末端処理横位			Ⅱ－3	砂粒中量	
27	3S	Ⅱ（旧河道跡）	深鉢	胴部		木目状撚糸文	単軸絡条体	ナデ		Ⅱ－3		
28	10c	Ⅳ中	深鉢	胴部		木目状撚糸文	単軸絡条体			Ⅱ－3		
29	9b	Ⅳ下	深鉢	胴部		木目状撚糸文	単軸絡条体	ミガキ		Ⅱ－3	繊維微量	
30	10a	Ⅴ下	深鉢	底部			ＲＬ横		平底、縄文	Ⅱ－4	繊維中量	
31	10a	Ⅴ上	深鉢	口縁部	平縁、丸み	口縁部端に綾繰文 胴部単節斜縄文	ＬＲ横？			Ⅱ－4	繊維中量	
32	10b	Ⅳ	深鉢	口縁部	平縁、角状、縄文		ＬＲ横			Ⅱ－4	繊維中量 砂礫少量	
33	4S	Ⅱ（旧河道跡）	深鉢	胴部		刺突・沈線・刻み目	ＬＲ？			Ⅲ－1		刺突文は三つ又状の工具を使用している可能性がある。隆帯下に縄文？
34	4S	Ⅱ（旧河道跡）	深鉢	口縁部	波状、丸み	貼付隆帯（隆帯上撚糸圧痕）半裁竹管文	単軸絡条体			Ⅲ－1		

番号	出土地点	層位	器　種	残存部位	口唇部形態	文様・特徴	地　文	内面調整	底部形態	分類	胎土	備　　考
35	4S	Ⅱ（旧河道跡）	深鉢	胴部		原体押圧文		ミガキ		Ⅲ－1		
36	3S	Ⅱ（旧河道跡）	深鉢	胴部		半裁竹管文、貼付隆帯（隆帯上撚糸文）	LR			Ⅲ－1		
37	19ﾄﾚﾝﾁ 11T	Ⅴ上	深鉢	胴部		貼付隆帯、半裁竹管文				Ⅲ－1		外面炭化物付着
38	1ﾄﾚﾝﾁ 11W	Ⅲ下	鉢？	口縁部	山形状、丸み	貼付隆帯				Ⅲ－1		
39	9b	Ⅳ下	深鉢	口縁部	平縁、丸み	沈線文、貼付隆帯	原体不明			Ⅲ－2		キャリパー状を呈する
40	10b	Ⅱ	深鉢	口縁部	平縁、丸み	渦巻状文（隆帯）	LR横位			Ⅲ－2		
41	10c	Ⅳ中～下	深鉢	口縁部	小波状、沈線	沈線文	LR縦位			Ⅲ－2		
42	4S	Ⅱ（旧河道跡）	深鉢	口縁部（口唇部欠損）	小波状	沈線文	LR横位			Ⅲ－2		
43	8b	Ⅳ	深鉢	口縁部	波状、丸み	渦巻状文（隆帯）		ナデ		Ⅲ－2	金雲母、長石	大木8b古段階
44	10b	Ⅱ	深鉢	胴部		沈線文	LR	ミガキ		Ⅲ－3		
45	1ﾄﾚﾝﾁ 11W	Ⅲ下	深鉢	胴部		楕円文？	RL（0段多条？）縦位	ナデ・ミガキ		Ⅲ－3	砂粒	
46	7b	Ⅳ中	深鉢	胴部		アルファベット文	LR横位	ナデ・ミガキ		Ⅲ－4	砂粒	
47	9a	Ⅳ	深鉢	胴部		磨消縄文？	RL縦位	ナデ		Ⅲ－4	砂粒	
48	10b	Ⅳ上	深鉢	胴部		アルファベット文	LR横位	ミガキ		Ⅲ－4		
1028	11b	Ⅳ中	深鉢	胴部		沈線文（端部渦巻き状）	RL縦位			Ⅲ－5		時期検討要
49	7c	Ⅳ上	深鉢	口～胴部	平縁、丸み		LR横位	ケズリ		Ⅲ－5		
50	10b	Ⅳ下～Ⅴ上	深鉢	口縁部	平縁、丸み	沈線区画文、貼付隆帯	LR縦位	ナデ		Ⅳ－1		
1029	11a	Ⅳ上	深鉢	胴部		無文帯による方形区画	RLR縦位			Ⅳ－1		沖附2式、内面漆？
51	2ﾄﾚﾝﾁ 12X	Ⅲ	深鉢	胴部		沈線文（弧状のモチーフ、充填縄文）	LR	ミガキ		Ⅳ－1		
52	4S	Ⅱ（旧河道跡）	深鉢？	胴部		充填縄文、コの字を裏返したようなモチーフ	LR横位			Ⅳ－1		
53	4S	Ⅱ（旧河道跡）	壺？	胴部		沈線文（直線的なモチーフ）		ナデ		Ⅳ－1		
1030	11a	Ⅳ中	深鉢	口縁部	平縁・丸み・折り返し	横位沈線	無文	ミガキ→ナデ		Ⅳ－1		
54	10a	Ⅳ中	深鉢	胴部		帯状文（浮彫状）、磨消縄文	RL横位	ナデ		Ⅳ－1		十腰内Ⅰ新段階～十腰内Ⅳ式の範疇でとらえられる土器と推定される
55	7b	Ⅳ中	深鉢	口縁部	平縁、丸み、折り返し口縁		RL横位	ミガキ		Ⅳ－1		
56	9Y	Ⅱ（旧河道跡）		胴部		沈線による幾何学文様				Ⅳ－1		馬立Ⅰ遺跡出土土器と類似。泥質砂質土出土（オリーブ灰色）
1031	11b	Ⅳ下	深鉢？	胴部		入り組み縄文・磨り消し縄文？	LR	ミガキ		Ⅳ－1	砂粒	十腰内Ⅰ新相
1032	表採	表採	壺	口縁部	平縁・丸み	渦巻き縄文（沈線、口縁上端突起）	無文			Ⅳ－1		
57	8b	Ⅳ下	深鉢	口縁部	平縁、丸み	沈線文	原体不明	ミガキ		Ⅳ－1		
58	3S	Ⅱ（旧河道跡）	壺？	底部					平底、木葉痕	Ⅳ－1		
59	9S	Ⅳ	深鉢	口縁部	平縁、丸み、折り返し口縁	網目状撚糸文	単軸絡条体	ナデ・ミガキ		Ⅳ－1		
60	8b	Ⅱ～Ⅲ	深鉢	口縁部	平縁、丸み、折り返し口縁	羽状縄文（異方向縄文）	RL横・縦位	ナデ・ミガキ		Ⅳ－1		折り返し口縁を持つことでは後期初頭と考えられるが、異方向による羽状縄文を構成することからは後期中葉の可能性が示唆される
61	7c	Ⅴ上	深鉢	口縁部	波状、丸み、刺突（頂部）	多条沈線によるクランク状文		ミガキ		Ⅳ－1		

第10表　遺物観察表（3）

番号	出土地点	層位	器　種	残存部位	口唇部形態	文様・特徴	地　文	内面調整	底部形態	分類	胎土	備　　考
62	7b	Ⅲ	鉢？	胴部		沈線文、充填縄文	LR斜・縦位			Ⅳ－1		
63	9Y	Ⅱ（旧河道跡）	鉢？	胴部		円文（貼付）	LR横位	ミガキ・ナデ		Ⅳ－1		浅鉢？、泥質砂質土出土（オリーブ灰色）
64	3S	Ⅱ（旧河道跡）	深鉢	胴部		楕円文	LR縦位			Ⅳ－1		
65	8V	Ⅱ	深鉢	胴部		磨消縄文、沈線文	RL横位	ナデ		Ⅳ－1		外面煤付着
66	10a	Ⅴ上	深鉢	胴部		沈線文（弧状のモチーフ、充填縄文）	LR横位？	ミガキ・ナデ		Ⅳ－1		88と同一個体の可能性あり
67	4S	Ⅱ（旧河道跡）	浅鉢	口縁部	平縁、丸み	磨消縄文	RL横位	ナデ		Ⅳ－1		内面調整のナデの方向は様々
68	10c	Ⅳ中～下	深鉢	口縁部	波状、角状	沈線文	LR横位？	ミガキ・ナデ		Ⅳ－1		口縁部が強く外反する深鉢と推定される。87と同一個体の可能性あり
69	9b	Ⅳ上	深鉢	胴部		沈線文		ナデ・ミガキ		Ⅳ－2		
70	10a	Ⅳ	深鉢	口縁部	小波状？、沈線	帯状文、刺突列	LR横位	ナデ		Ⅳ－2		
1033	11b	Ⅳ中	深鉢	口縁部	平縁・内削ぎ・突起			ケズリ		Ⅳ－2		
71	9c	Ⅳ中	鉢	頸部		沈線文、外面ミガキ	無文			Ⅳ－2		
72	10b	Ⅳ上	深鉢	胴部		磨消縄文	LR横位	ナデ・ミガキ		Ⅳ－2		
73	4S	Ⅱ	深鉢？	口縁部	波状、装飾突起	口縁頂下に孔、S字状文、沈線文	LR	ミガキ		Ⅳ－2		
74	10b	Ⅳ上	深鉢？	突起部	丸み	刻目列、ミガキ		ミガキ		Ⅳ－2		内外面とも丹念なミガキが施される。加曽利B2式併行の装飾突起と推定される。
75	9b	Ⅲ	鉢	口縁～胴部	平縁、丸み	ミガキ	LR横位	ミガキ		Ⅳ－2		内外面丹念なミガキが施される。加曽利B2併行と思われる
76	9b	Ⅳ中	壺？	胴部		磨消縄文、羽状縄文？	LR			Ⅳ－2		注口土器の可能性あり。内面は粗雑。
77	10b	Ⅳ上	注口土器	胴部		頸部に沈線・刺突文、注口部に刺突文・全般にミガキ				Ⅳ－2		
78	10b	Ⅳ	注口土器	口縁部	平縁、内削ぎ、突起	刻目帯、ミガキ	RL（0段多条）横位			Ⅳ－2～3		
79	8b	Ⅳ	壺？	胴部		非結束羽状縄文、叉状貼瘤	LR・RL			Ⅳ－3		注口土器の可能性あり
80	9b	Ⅳ下	壺？	胴部		刺突文、貼瘤				Ⅳ－3		
81	4S	Ⅱ（洪水跡）	壺？	胴部		帯状文、貼瘤、磨消縄文	RL横位	ミガキ		Ⅳ－3		
82	10b	Ⅳ中	深鉢？	口縁部	平縁、角状	網目状撚糸文？、沈線文	単軸絡条体	ナデ・ミガキ		Ⅳ－4		
83	河川跡	Ⅱ	深鉢大形	ほぼ完形（底部欠損）	平縁、角状		LR横位	ナデ		Ⅳ－4		
1034	11b	Ⅳ下	深鉢	胴部		網目状撚糸文意匠	単軸絡条体			Ⅳ－4		
84	9b	Ⅳ上	鉢	胴～底部		雲形文、羊歯縄文意匠、磨消縄文	LR横・斜位		平底、ミガキ	Ⅴ－2		
85	10b	Ⅳ上	深鉢	ほぼ完形（底部欠損）	平縁、刻み目	口縁部に横位沈線（4条）	LR横位	ミガキ		Ⅴ－3		
86	7b	Ⅳ中	深鉢	ほぼ完形	波状（6単位・刺突）、丸み、	口縁部に横位沈線	LR	ケズリ・ミガキ	平底	Ⅴ－3		
87	7c	Ⅴ上	浅鉢？	口縁部	平縁、沈線	工字文？、口縁裏側溝状沈線		ナデ・ミガキ		Ⅴ－3		補修孔あり。沈線の断面形は逆台形状を呈する。
88	7c	Ⅳ	浅鉢	口縁部	平縁、沈線	平行沈線、口縁裏側溝状沈線	原体不明	ナデ・ミガキ		Ⅴ－3		高坏の可能性あり
89	8c	Ⅳ上	鉢？	口縁部	平縁、丸み	工字文		ミガキ・ナデ		Ⅴ－3		
1035	11a	Ⅳ中	壺？	胴部上半		横位平行沈線	RL縦位	ヨコミガキ		Ⅴ－3		

第11表　遺物観察表（4）

番号	出土地点	層位	器　種	残存部位	口唇部形態	文様・特徴	地　文	内面調整	底部形態	分類	胎土	備　　考
90	10a	Ⅳ下	鉢？	口縁部	波状、丸み、頂部刺突、口縁裏側溝状沈線	沈線文		ミガキ		Ⅴ－3		外面赤色を帯びる（朱？）、150と同一個体
91	11c	Ⅳ中	鉢？	口縁部	波状、丸み、頂部刺突、口縁裏側溝状沈線	沈線文		ミガキ		Ⅴ－3		外面赤色を帯びる（朱？）、130と同一個体
92	10a	Ⅱ	浅鉢？	胴部		変形工字文	ＬＲ斜・縦位	ナデ		Ⅴ－3		沈線の断面形がＶ字状を呈することから、限りなく砂沢式に近い様相の土器である。ただし、Ⅱ帯における文様帯の幅が狭いことから、大洞Ａ′の範囲でとらえられると思われる。器種は高坏の可能性もある。
93	7b	Ⅴ上	小形深鉢	口～胴部	平縁、刻み、二股状の突起	口縁部に横位沈線（4条）	ＬＲ横位			Ⅴ－3		外面煤微量付着
94	11b	Ⅲ	壺	口～胴部下半	波状、刻み、沈線	変形工字文、口縁裏側溝状沈線	ＬＲ横位	ミガキケズリ		Ⅴ－3		
95	8b	Ⅳ	鉢？	口縁部	小波状、突起	変形工字文意匠	ＬＲ横位	ナデ・ミガキ		Ⅴ－3		
96	9b	Ⅳ下	鉢	口縁部	平縁、丸み	変形工字文		ミガキ		Ⅴ－3		大洞Ａ新段階から、大洞Ａ′の範疇でとらえられる
97	7b	Ⅴ上	鉢？	口縁部	平縁、丸み、二子山状突起			ナデ		Ⅴ－4		内外面黒色物質付着
98	9b	Ⅳ下	鉢？	胴部		沈線文		ミガキ		Ⅴ－4		外面朱塗布？
99	7b	Ⅱ	鉢？	口縁部	平縁、丸み			ナデ		Ⅴ－4		
100	8c	Ⅳ下	深鉢	口～胴部下半	波状（6単位）、丸み		ＬＲ斜・横位	ナデ		Ⅴ－4		補修孔有り、大洞Ａ′に伴う深鉢と推定される
101	9b	Ⅳ上	深鉢	ほぼ完形	波状、丸み	口縁部に横位沈線（1条）	ＬＲ横位	ミガキ		Ⅴ－4		
102	7b	Ⅳ中	深鉢	口～胴部下半	平縁、丸み、突起（刺突）	口縁部無紋帯、横位沈線（1条）	ＬＲ	ミガキ		Ⅴ－5		
103	9b	Ⅲ	壺	口～胴部上半	小波状、沈線	口縁部に横位隆線、口縁裏側溝状沈線、ミガキ				Ⅴ－5		

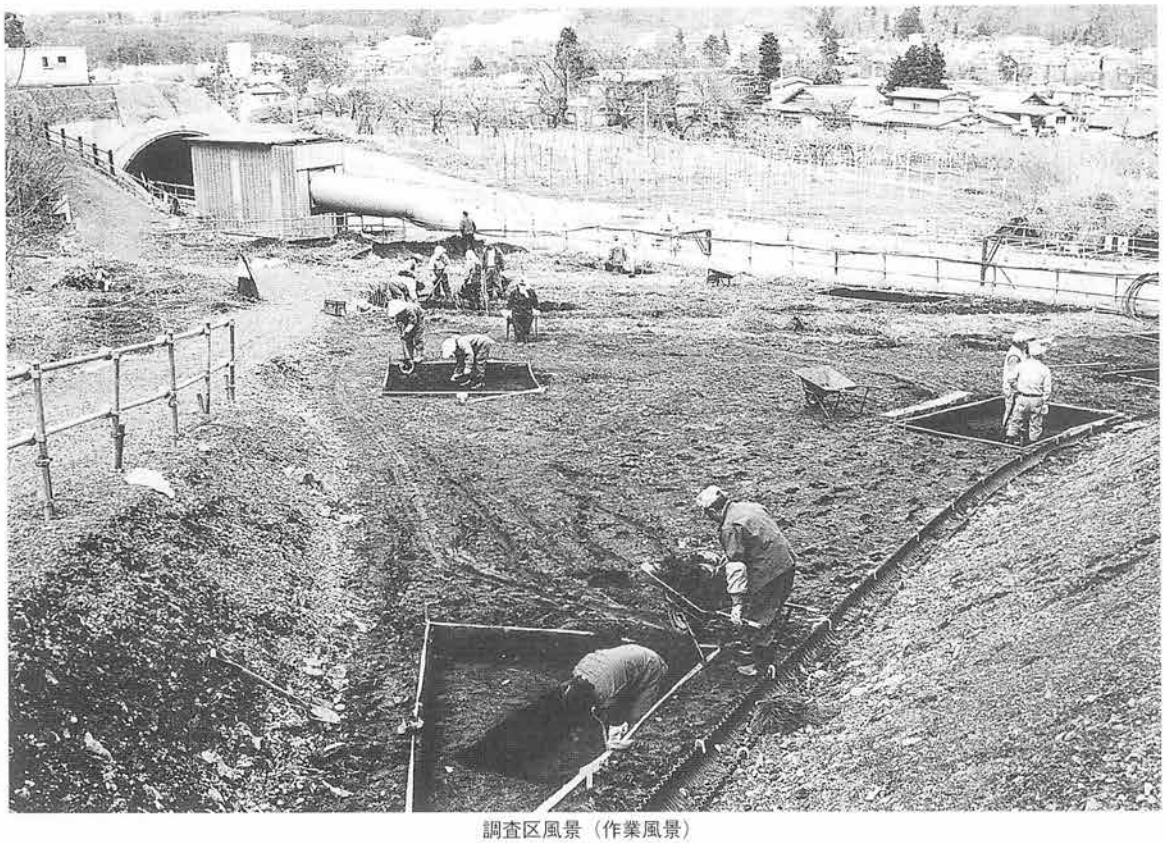
遺構外出土土製品

番号	出土地点	層位	器　種	残存部位	文様・特徴	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	分類	備　　考
201	7c	Ⅳ下	台付鉢（ミニチュア）	完形	口唇部刻み	1.6	3.0		5	Ⅳ－4？	
202	4S	Ⅱ	深鉢（ミニチュア）	胴～底部		2.4	3.0		8	Ⅱ－4？	
203	8b	Ⅳ	浅鉢？（ミニチュア）	完形	無文	2.3	5.3		22	Ⅳ－4？	
204	10Z	表採	円盤状土製品	完形	無文	3.5	3.2	0.6	10	Ⅳ－4？	
205	7c	Ⅳ	土偶（髪結い土偶）	頭～胴部	刺突・沈線・隆帯	11.2	9.8	4.0	157	Ⅴ－4	

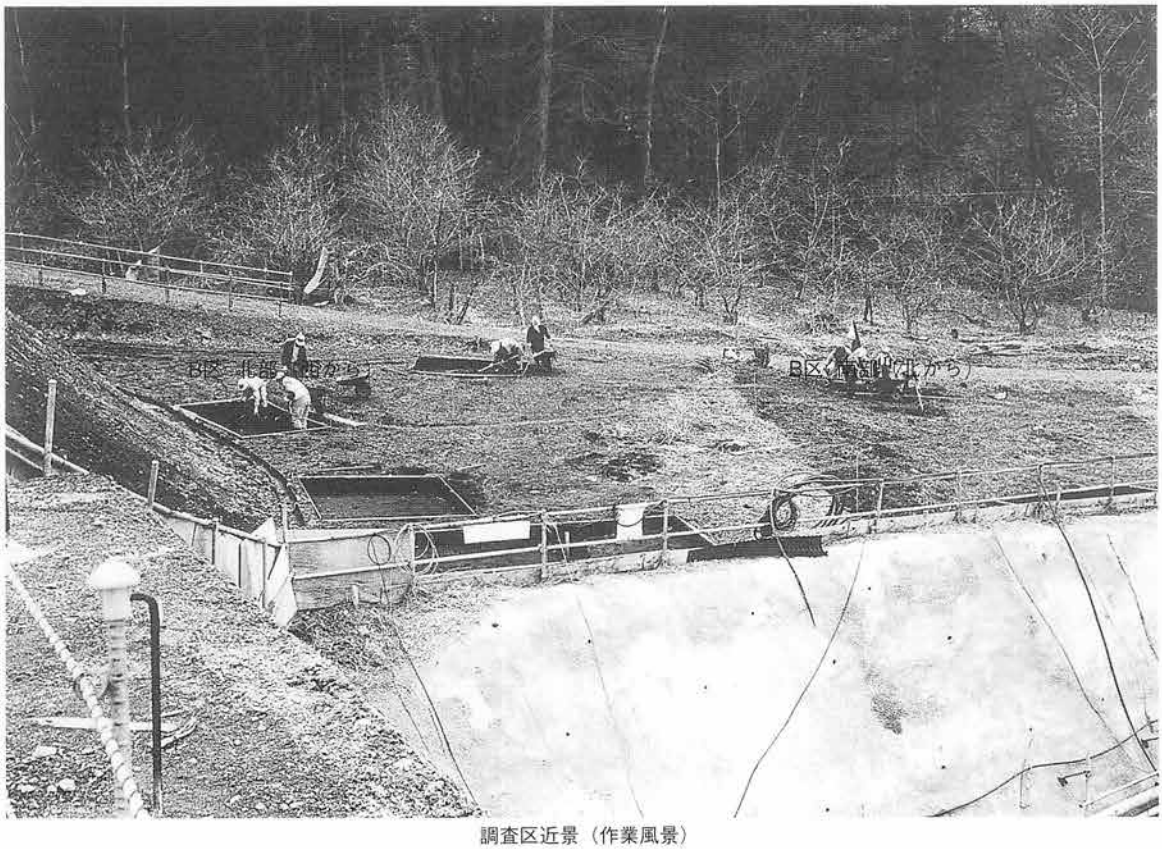
遺構外出土石器観察表

番号	出土地点	層位	器　種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	石　質	産　地	掲載方法
301	7 b	Ⅳ中	石鏃	4.3	1.9	0.55	3	頁岩	北上山地	
302	7 b	Ⅳ	石鏃	2.1	1.55	0.4	0.96	頁岩	北上山地	
303	11a	Ⅴ	石鏃	2.7	1.4	0.35	1.15	頁岩	北上山地	
304	7 c	Ⅴ	石鏃	2.65	2.1	0.45	1.56	頁岩	北上山地	
305	8 b	4 上	石鏃	2.15	1.2	0.4	0.58	頁岩	北上山地	
306	9 b	Ⅲ	石鏃	3.35	1.4	0.6	2.13	頁岩	北上山地	
307	7 b	Ⅳ中	石鏃	3.2	1.4	0.45	1.78	頁岩	北上山地	
308	11b	Ⅰ	石鏃	2.5	1	0.45	0.8	頁岩	北上山地	
309	7 b	Ⅳ	石鏃	3.4	1.4	0.5	2.1	頁岩	北上山地	
310	8 Z	Ⅳ	石鏃	3.6	1.3	0.5	1.69	珪質頁岩	山地不明	
311	9 c	Ⅳ上	石槍	9.6	2.5	0.93	23.7	頁岩	北上山地	
312	4 S	Ⅱ	石槍	6.1	1.65	1.1	7.76	頁岩	北上山地	
313	9 c	Ⅳ中	石槍	4.55	1.9	1.05	6.85	頁岩	北上山地	
314	10b	Ⅳ中～下位	尖頭器	2.75	1.5	0.5	1.85	メノウ	奥羽山脈	
315	9 c	Ⅴ～Ⅵ	石槍の未製品？	3.95	1.9	0.95	5.1	頁岩	北上山地	
316	9 b	Ⅴ上	石匙	5.4	2.9	0.7	12.1	頁岩	北上山地	
317	9 b	Ⅳ中	スクレイパー	2.2	2.7	0.7	3.8	頁岩	北上山地	写真掲載
318	10b	Ⅳ上	スクレイパー	3.2	1.4	0.5	3.4	頁岩	北上山地	写真掲載
319	8 c	Ⅳ上	スクレイパー	4.7	3.15	1.1	17.3	頁岩	北上山地	
320	7 c	Ⅳ下	スクレイパー	5.95	2	1.6	17.3	頁岩	北上山地	
321	8 V	Ⅱ	打製石斧？	7.4	2.5	1.9	33	頁岩	北上山地	
322	12S	(洪水土)	磨製石斧	11.2	5	2.85	287.4	ヒン岩	北上山地	
323	8 V	Ⅱ	磨製石斧	(8.9)	4.2	1.5	89.14	砂岩	北上山地	
324	7 c	Ⅵ	磨製石斧	13	6.85	3.2	493	礫岩	北上山地	
325	9 b	Ⅳ上	磨製石斧	12.9	5.2	1.65	138	チャート	北上山地	写真掲載
326	3 T	Ⅱ	石錘	6	7.5	2.7	178	安山岩	奥羽山脈	
327	3 T	Ⅱ	石錘	6.8	9.3	2.3	195	安山岩	奥羽山脈	
328	7 c	Ⅵ	礫器	11.5	6.4	2.8	299	ホルンフェルス	北上山地	
329	9 c	Ⅳ上	磨石	9.9	4.5	2.4	170.7	安山岩	奥羽山脈	
330	7 c	Ⅳ	凹石	12.4	6.6	4.5	416.3	安山岩	奥羽山脈	
331	10b	Ⅳ中	石皿	27.5	28.5	13	14.5	安山岩	奥羽山脈	
332	10b	Ⅳ中	台石	22.7	22.8	6.9	5100	安山岩	奥羽山脈	
333	4 S	Ⅱ	石皿	18.9	10.4	6.5	1900	石英安山岩	奥羽山脈	
334	10b	Ⅳ中	軽石製石製品	5.8	4.2	1.65	6.15	浮石(軽石)	奥羽山脈　第四紀火山	
1036	11b	Ⅳ下	調整剥片	4.8	3.1	0.6	8.54	頁岩	北上山地？	
1037	11a	Ⅳ下	敲石	15.1	13.4	7.4	1700	(赤色) チャート	北上山地	
1038	11a	Ⅳ下	敲磨器	11.1	6.5	3.5	314	角閃石安山岩	奥羽山脈	
1039	11b	Ⅳ下	敲磨器	11.2	6.9	5.7	581	安山岩	奥羽山脈	
1040	11b	Ⅳ下	円盤状石製品	5.1	4.6	1.3	47	安山岩	奥羽山脈	

写　真　図　版



調査区風景（作業風景）

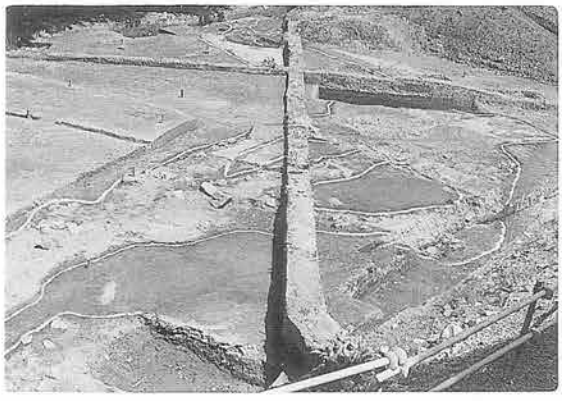


調査区近景（作業風景）

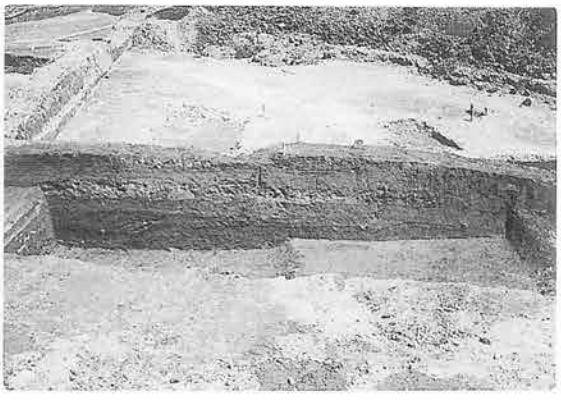
写真図版69　調査区近景

流路検出（南東から）

遺物出土状況（南から）

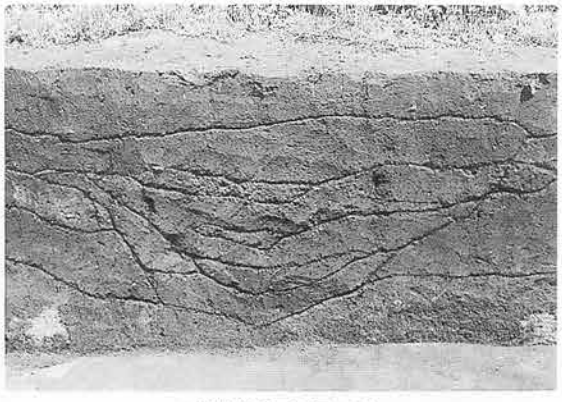


1号流路平面（南から）



1号流路断面（西から）

2号流路平面（南から）



2号流路断面（西から）

3号流路平面（南から）

4号流路断面（西から）

写真図版70　流路・遺物出土状況

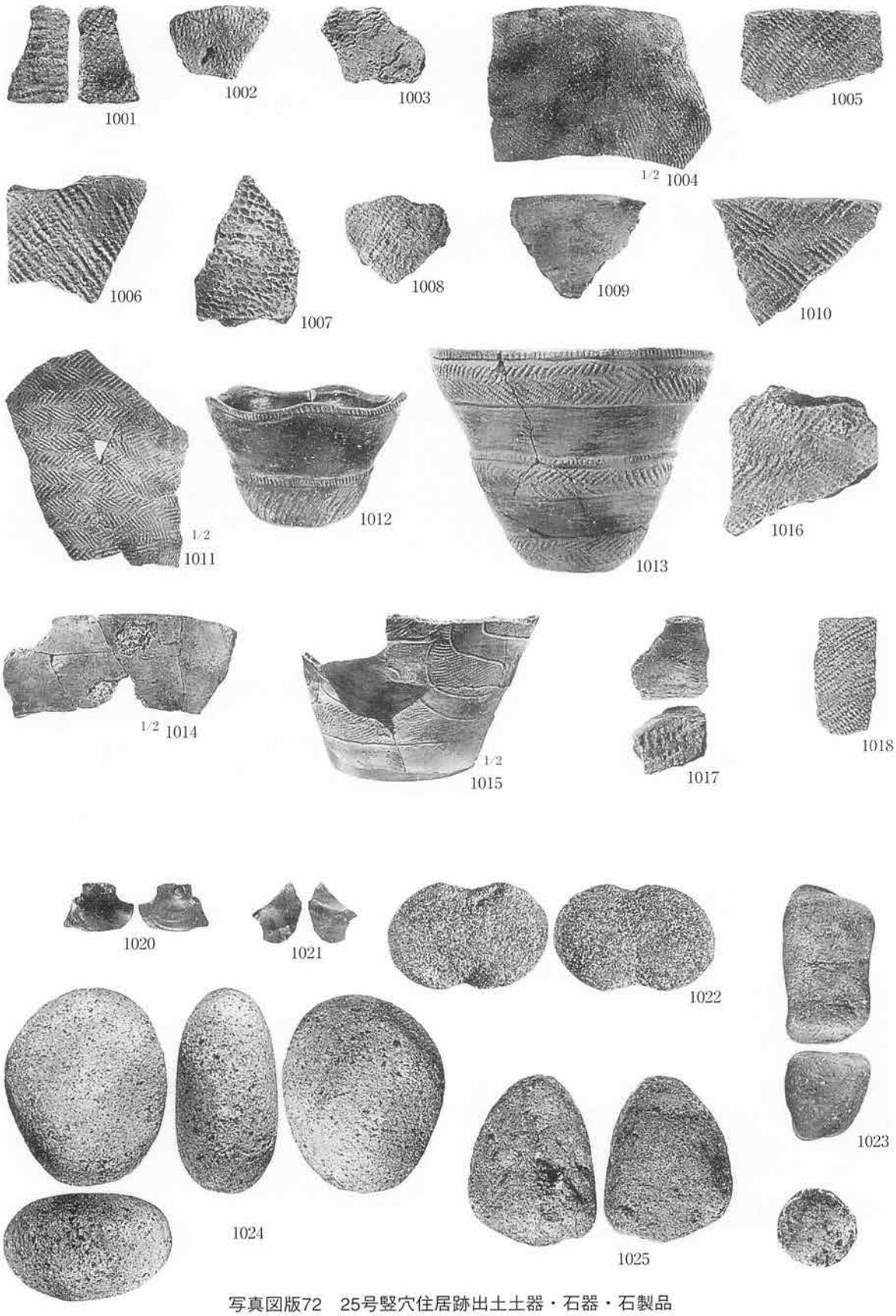
平面（北から）

埋土断面（北から）

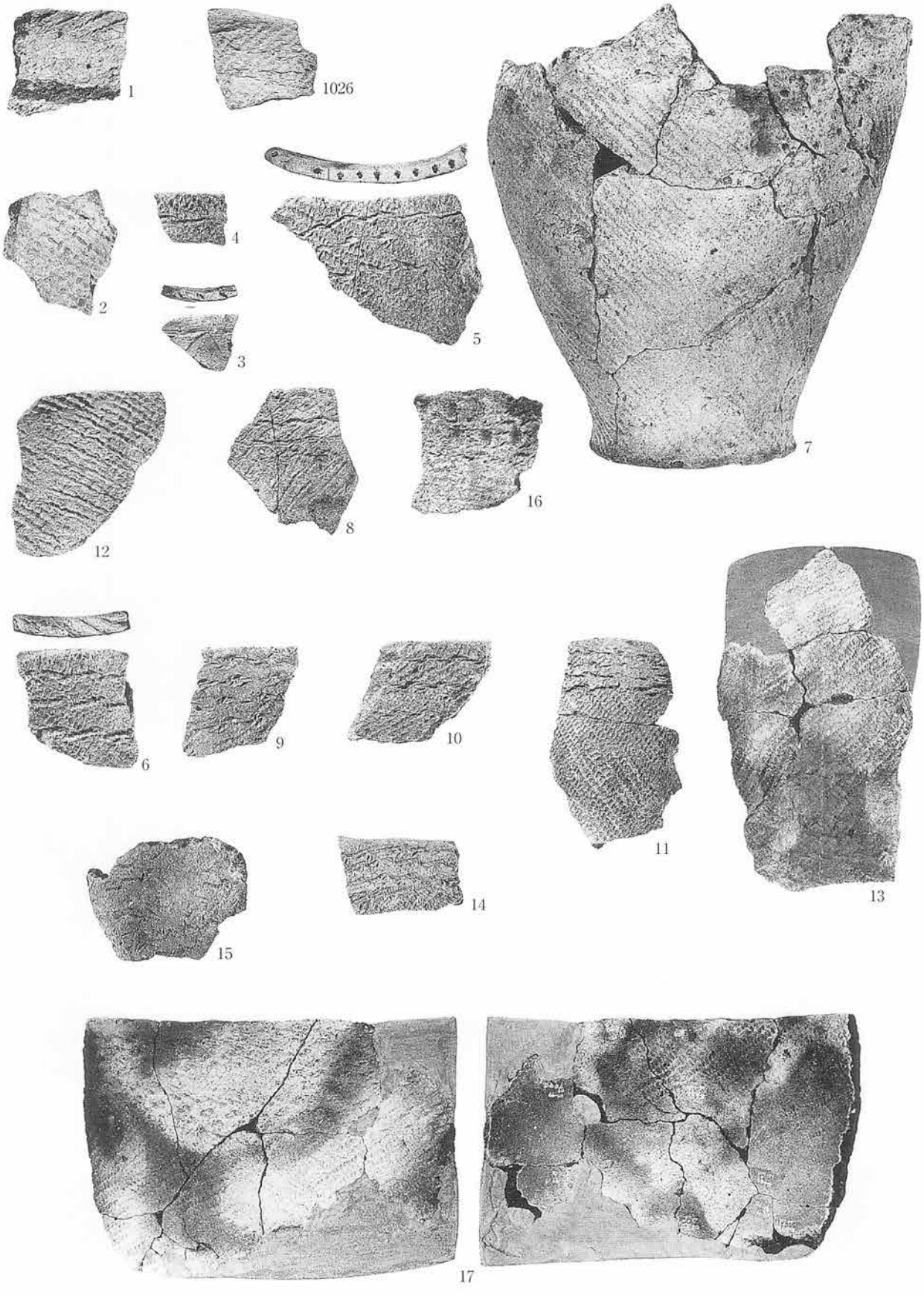
検出（北から）

遺物出土状況（西から）

写真図版71　25号竪穴住居跡

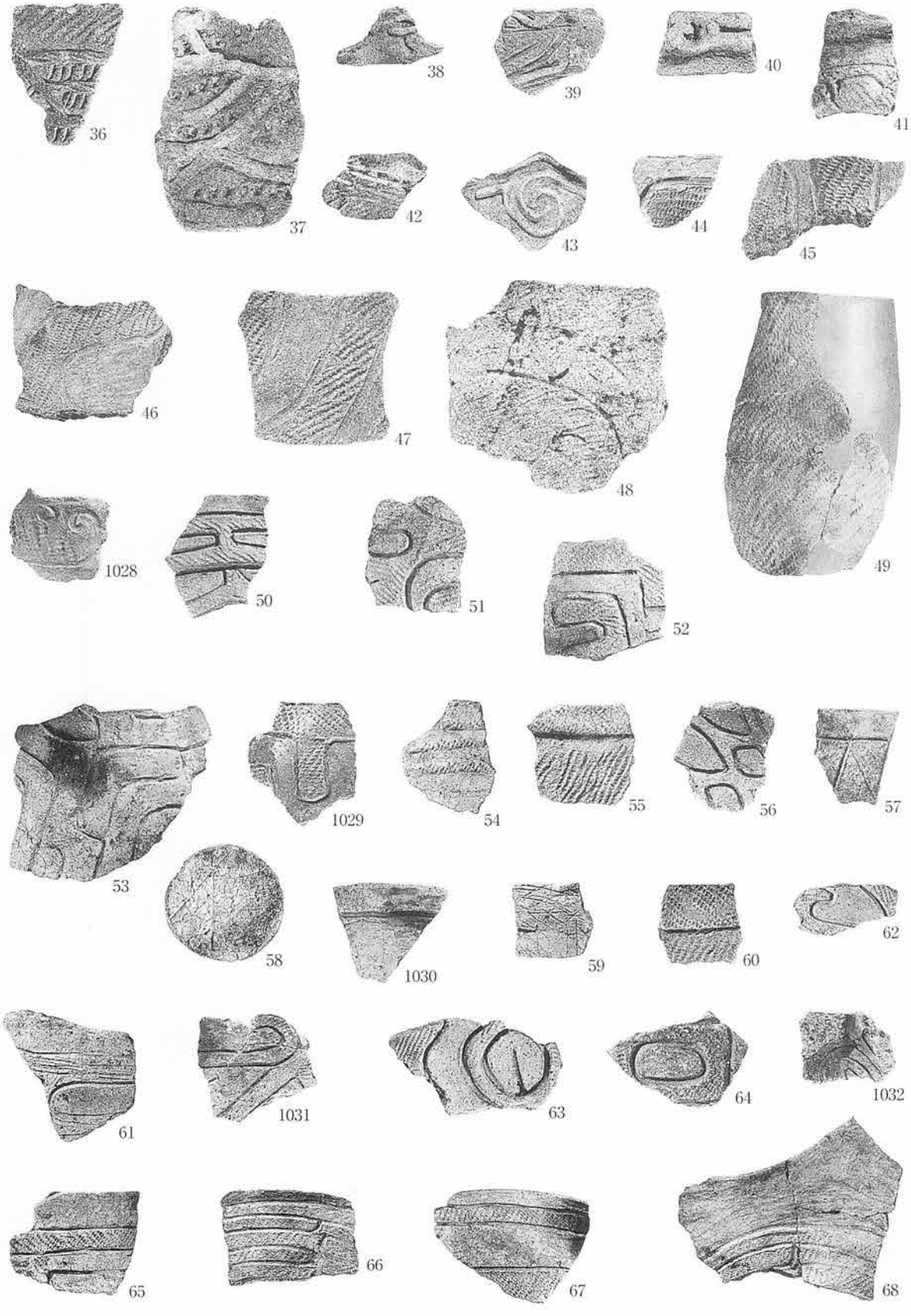


写真図版72　25号竪穴住居跡出土土器・石器・石製品



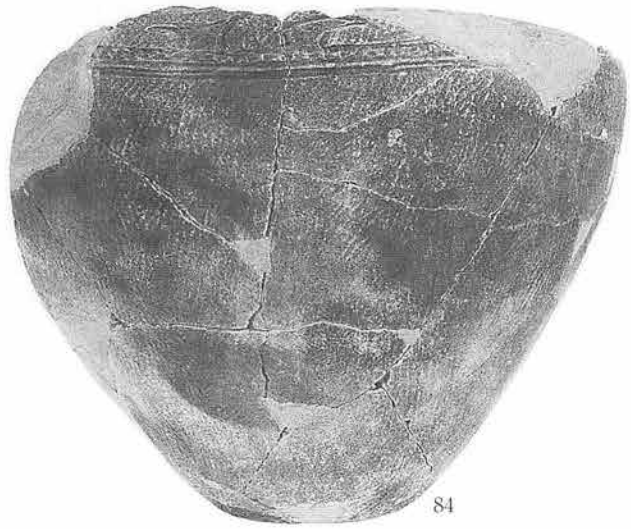
写真図版73　遺構外出土土器（1）

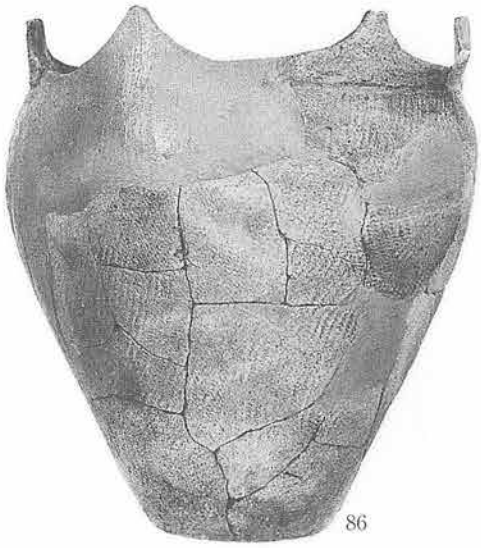
写真図版74　遺構外出土土器（２）

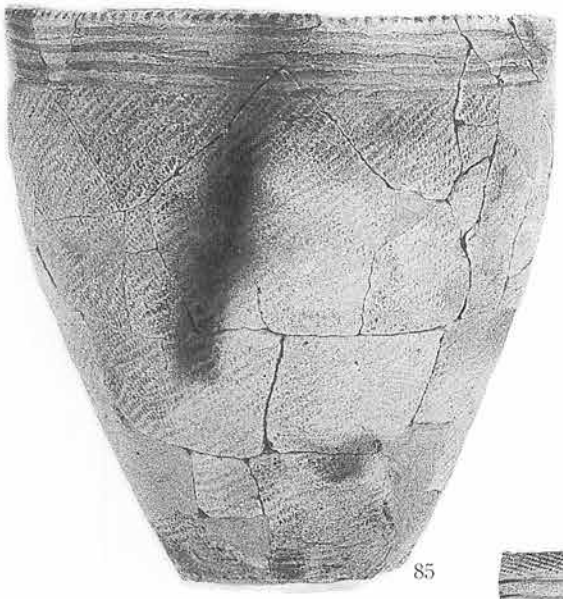


写真図版75　遺構外出土土器（3）

写真図版76　遺構外出土土器（4）

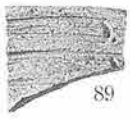

84


86


85

87

88


89

1035

90

91

92

93

94

95

96

97

98

99

写真図版77　遺構外出土土器（５）

100

101

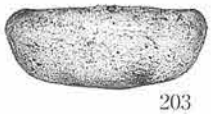
102

103

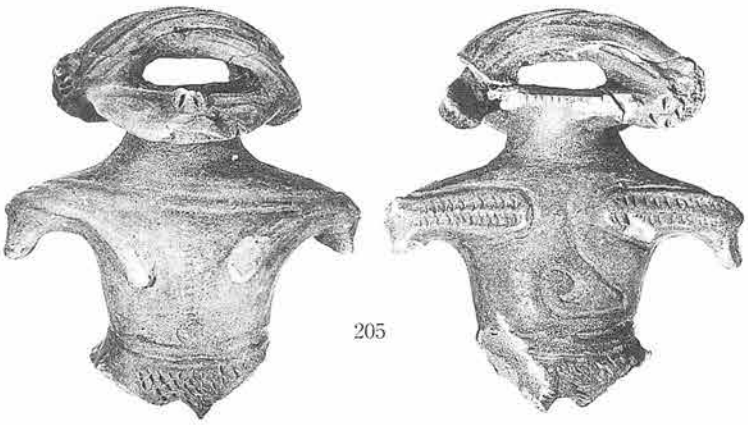
写真図版78　遺構外出土土器（6）

201

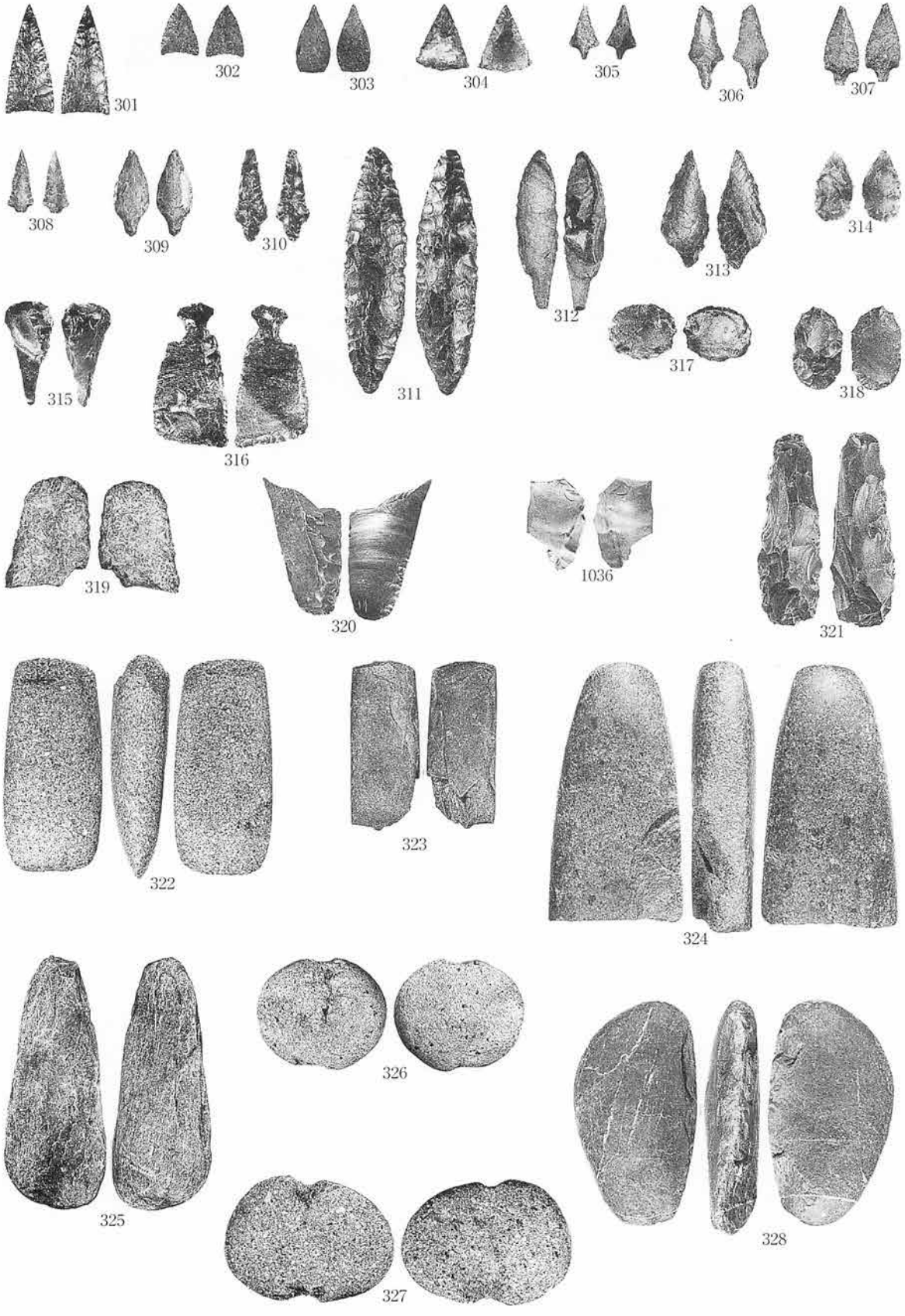
202


203

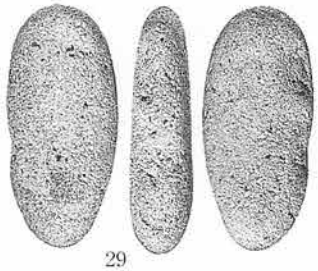
204

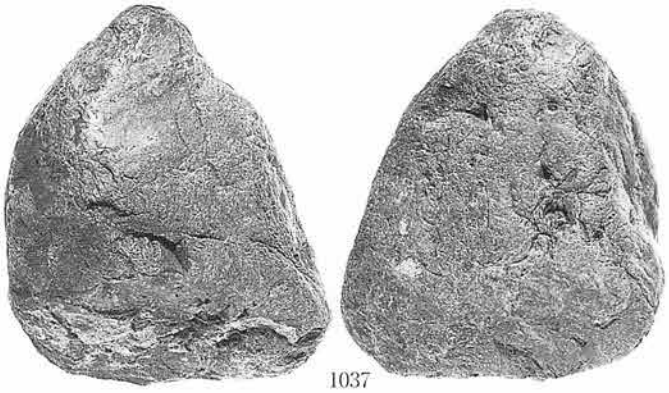

205

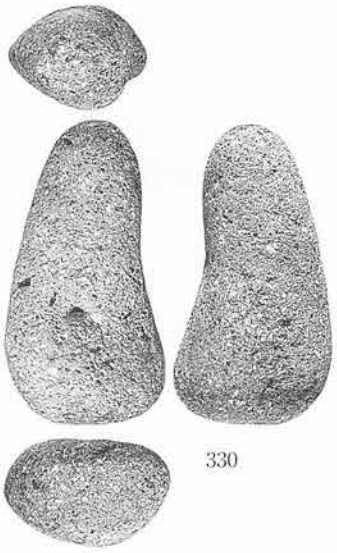
写真図版79　土製品

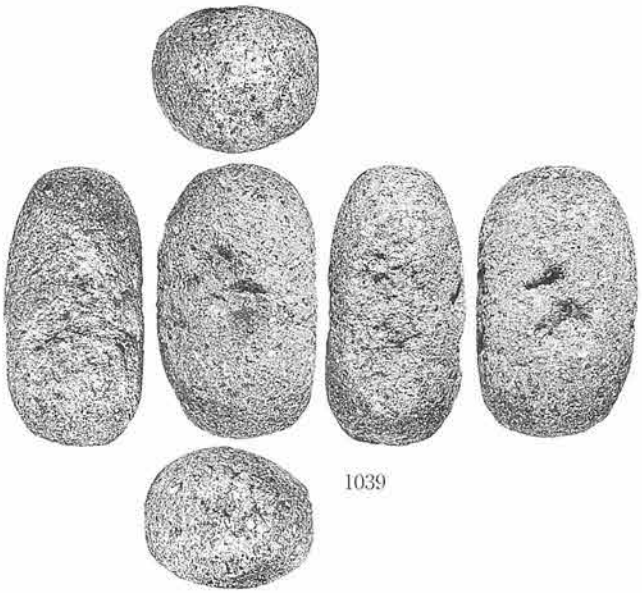


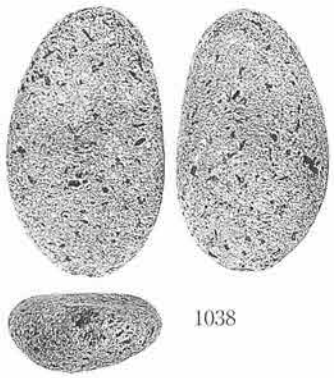
写真図版80　遺構外出土石器（1）

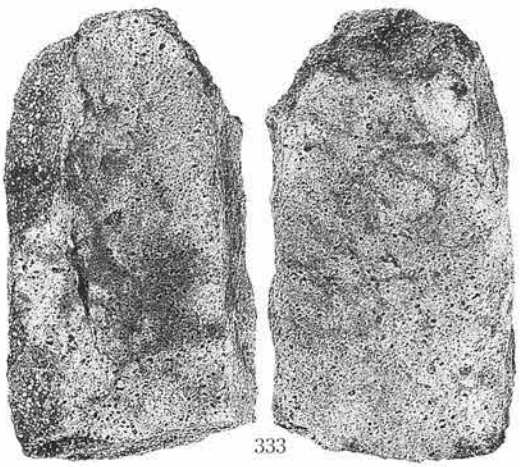

29


1037

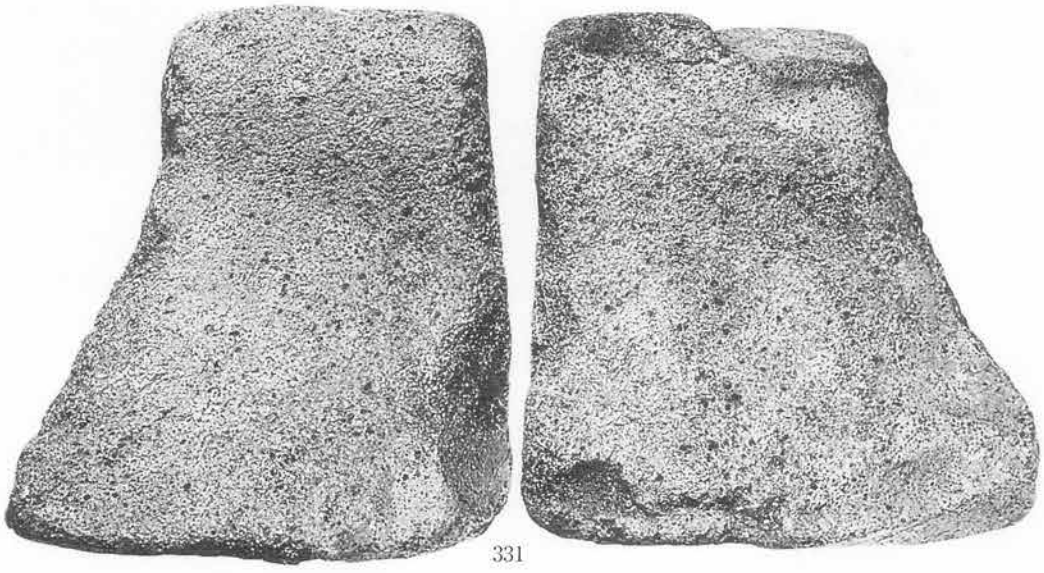

330


1039

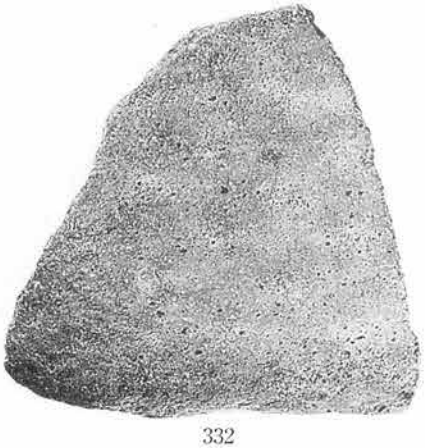

1038


333

写真図版81　遺構外出土石器（2）



331



332

334　1/4　1014

写真図版82　遺構外出土石器（3）・石製品

Ⅵ まとめ

上村遺跡は、平成９年・11年・12年の３カ年に亘り発掘調査を行った。

調査区は、馬淵川左岸沿いに発達する低位段丘裾部～中位段丘にかけて立地する。西側の丘陵裾から流れる沢に解析されるなどの地形的環境により、遺跡内は複雑な土層堆積を呈する。標高は105～120mを測り、馬淵川との比高は20～35mである。

３カ年の調査成果で、検出された遺構は縄文時代の竪穴住居跡25棟、土坑46基、竪穴状遺構２棟、焼土遺構８基、溝跡２条、埋設土器遺構７基、遺物集中区２カ所、旧沢跡に伴う流路４条である。出土遺物は、土器類約40箱（Ｔ40コンテナ：30×40×30cm）、土製品39点、石器465点、石製品29点、古銭（寛永通宝）１点である。遺跡の主体となる時期は、検出された遺構や出土遺物などから縄文時代前期・後期・晩期である。本章では３カ年分の調査成果について、まとめることとする。

１　遺構

（１）竪穴住居跡

竪穴住居跡は25棟検出した。時期による内訳は、縄文時代前期４棟、後期11棟、晩期10棟である。黒土中での調査であったことと、調査区に見られた中掫浮石粒が再堆積を呈するなど複雑な土層堆積であったことから、検出面、平面形、規模を明確に把握できたものは少なく、推定の域を出ないものが多く含まれる。また、炉や柱穴の検出されないものについても、調査方法に起因して検出できなかった可能性を否定できないことから、竪穴住居跡として報告することとする。竪穴住居跡の時期区分については、出土遺物や諸特徴を加味して行ったが、竪穴住居跡から出土した土器は時期の混在が多く、必ずしも時期の判断資料とはなり得ないことから、時期の誤認が含まれている可能性がある。ただし、本遺跡で全体的に出土している土器などを考慮すれば、前期は前期前葉～中葉（円筒下層ａ～ｂ式期）、後期は後期初頭～中葉（前十腰内式～十腰内Ⅲ式期）、晩期は晩期後葉～末葉（大洞Ａ～Ａ'式期）に比定される可能性が高いと判断される。

上述のとおり平面形や規模が明確ではないものが多いことから、各時期の竪穴住居跡の属性あるいは傾向をどう探るかは困難であるが、区分した時期毎に概要をまとめると以下のようなことが言える。

前期の竪穴住居跡４棟は、円形を基調に不整な形状のものが見られる。炉は、８号・13号竪穴住居跡で地床炉を検出した。柱穴は全般に検出されているが、配置関係などは掴めない。４棟ともに相当量の遺物が出土しているが、床面からの出土は少なく、埋土中からの出土が主体を占める。よって、これらの遺物は、住居廃絶後に廃棄されたと推定される。空間占地については言及が難しいが、８ｆグリッド付近を中心とする比較的まとまった空間（狭い空間）に分布する。

後期の竪穴住居跡11棟は、円形を基調とし、楕円形の形状を呈するものも見られる。炉は、２号竪穴住居跡で石囲炉を、25号竪穴住居跡で地床炉を確認した以外は、検出されなかったものがほとんどである。柱穴については、その配置構造などは掴めない。空間占地としては、10ｆグリッド付近を中心にランダムに分布し、晩期の竪穴住居跡群より斜面の上方域に占地し、一部分前期の竪穴住居跡群と占地を共有する。後期の居住域の西端は、平成12年度調査で検出した25号竪穴住居跡の位置付近と判断される。

晩期の竪穴住居跡10棟は、円形を基調とするものが主体で、規模的には大形（最大のもので直径7.5m）・中形（平均的には直径5.5m）・小形（平均的には直径3.5m前後）に大別される様相である。突出して規模の

大きな12号竪穴住居跡は、床面で炭化材等が出土したことから焼失家屋と推定される。床面積は約24㎡（東側は調査区外のため推定）を測るもので、その位置関係からも該期において集落の中心的な住居と思われる。炉は3号・12号・21号竪穴住居跡などで円形気味に石を配する石囲炉を検出しているが、全般に未検出なものが多い。空間占地としては、調査区東部の比較的平坦気味な地形部分に分布する。なお、平成9年度発刊の調査略報（岩手埋文第282集）の段階で弥生時代の竪穴住居跡に捉えていたものは、その出土土器を検討した結果、晩期後葉～末葉に比定されることから、本稿の記述を持って訂正とする。

（2）土坑

土坑は46基を検出した。全て縄文時代と判断されるが、詳細な時期については断定できない。平面形は円形や楕円形のものが多く、断面形はビーカー状や浅皿状を呈するものが見られ、突出して深いものや断面形がフラスコ状を呈するものはない。規模は大小様々であるが、その中で開口部の直径が200cmを越える14号、22号、30号、31号、32号、46号の各土坑は、その深さや断面形が竪穴的であることから推定して、竪穴状遺構若しくは炉や柱穴の検出できなかった小形の竪穴住居跡であった可能性もある（精査時の判断ミスにより、掘り足りないものが含まれている可能性も否定できない）。

土坑の空間占地は、一見するとランダムに分布するようにみえる。所見としては、竪穴住居跡と重複するものやその周辺に分布する傾向で捉えられる。土坑の詳細な時期区分ができないことから、多くは言及できないが、居住域（竪穴住居跡の分布）とほぼ同様の占地であることが窺える。

（3）竪穴状遺構

竪穴状遺構とした2棟については、何れも1号溝跡とした旧沢跡の流路に大部分を破壊され、一部分が残存していたものである。状況から判断して晩期後葉～末葉期の竪穴住居跡である可能性が考えられる。

（4）焼土遺構

焼土遺構8基は全てⅤ層で検出した。規模（広がり）は30～130cm、焼土の厚さは5～17cmである。時期は縄文時代前期～晩期と思われるが、詳細な時期は特定できない。空間占地が後期とした竪穴住居跡の占地と共有することなどから推定して、検出できなかった後期竪穴住居跡の地床炉であった可能性も考えられる。

（5）溝跡

平成9年度調査で溝跡として登録した1号溝跡は、平成11年度の調査結果から人為的に構築された溝跡ではなく、旧沢跡に伴う自然現象による流路跡と判明した。2号溝跡についてもその可能性が高い。

（6）埋設土器遺構

埋設土器遺構は7基検出した。全て正立で埋設されている。埋設されていた土器は、完全な形に復元されたのは5号埋設土器遺構のみで、その他は口縁部あるいは底部が存在しない。口縁部がないものについては、後世に破壊を受けた可能性が高いが、底部が存在しないものについては埋設時よりなかった（切断？）ものと思われる。　時期については、6号埋設土器遺構は後期の十腰内Ⅰ式の古い段階であることがわかるが、その他6基は粗製土器を用いているため詳細な時期は特定できなかった。

（7）遺物集中区

突出して出土遺物が多かった2地点は、捨て場の可能性があることから、他の地点と分けて捉え記述する。①調査区南端部の10a～7cグリッド付近と②調査区東部の7f・8f・7g・8gグリッド付近を遺物集中区とした。

①の地点の遺物包含層は、竪穴住居跡25号の位置付近から北側にかけて広がる。表土を除去した段階で十和田a降下火山灰（基本層序Ⅲ層）の広がり（層厚5～15cm）が見られた地点で、遺物は十和田a降下火山灰を除去した段階であるⅣ層及びⅤ層（中掫火山灰を約20パーセント混入する土層）とした土層から主体的に出土している。出土している土器は縄文時代前期～晩期で、主体は前期前葉の円筒下層a式、次いで晩期後葉の大洞A式に相当するものである。周辺の地形的条件から推定して、十和田a火山灰降下以降において、洪水的現象（大規模な水の流れ）による影響が少なかった部分に遺物包含層が残存していたものと推定される。出土状況は、晩期はⅣ層上位を主体とする傾向が窺えたが、出土量が最も多い前期はⅣ層上位～Ⅴ層中位まで認められることから、廃棄された当時の状態を土層が留めているとは思われなかった。

②の地点は、竪穴住居跡8号・17号や土坑22号付近に位置する。今回の調査で最も多量の土器や石器が出土した地点で、出土土器の主体は前期前葉の円筒下層a式に相当する。この部分に遺物を密に包含する遺物包含層の堆積が見られた要因については、斜面上方である西側から流れ込んできた土層中に遺物が包含されていた可能性と黒土中であることから特定できなかった竪穴住居跡17号の埋土上位（竪穴上部、廃絶後の竪穴住居に遺物廃棄？）である可能性が考えられるが、解明できなかった。

（8）旧沢跡に伴う流路

旧沢跡に伴う流路としたものは、平成11年度調査において、多数検出された。その中で比較的明瞭に流路のプランを把握できた4条を図化した。現在、調査区外南西から調査区西に流れる沢（小河川）の旧流路跡と、それらが大雨時に増水して洪水的現象が発生した時分の痕跡と思われる。調査区内にある現道（農作業道で南西にある山に続く）沿いの土層を観察すると、八戸火山灰土などがブロック状で黒土に混じり複雑に堆積する部分があることから、水力の強い鉄砲水的な現象が起こったことが推定される。時期については、流路内に十和田a降下火山灰の堆積が見られないことから、同火山灰降下以降の自然現象と推定される。

2　遺物

（1）土器

出土した土器は、縄文時代早期～晩期末葉までのものである。主体となるのは、縄文時代前期前葉の土器で、次いで晩期後葉～末葉、後期初頭～中葉となる。本遺跡資料は、層位的に捉えられた出土状況にはないことから、大別した分類に留めた。ここでは、時期毎に概観することとする。

＜a＞　第Ⅰ群とした縄文時代早期の土器は、破片が数点確認され、その中には吹切沢式に比定される可能性がある小破片が2点含まれる。

＜b＞　第Ⅱ群とした縄文時代前期の土器は、前期初頭～末葉までのものが出土している。

第Ⅱ群－1類とした前期初頭の土器は、円筒下層式より古い段階の土器で、長七谷地Ⅲ群や深郷田式などに比定されると思われるが、少量の出土点数であり詳細は不明である。概して、胎土中には多量の植物繊維

の混入が確認できる。

第Ⅱ群－２～３類とした前期前～末葉の土器は、円筒下層式に比定されるものを主体に大木式と思われるものが出土している。今回の調査で最も出土量の多いのが、第Ⅱ群－２類とした前期前葉～中葉の土器で、ある程度の形まで復元できた個体も多い。対して、第Ⅱ群－３類とした前期後～末葉の土器はほとんどが小破片である。よって、ここでは資料が豊富であった前期前葉～中葉を取り挙げ、本遺跡出土土器にみられた特徴を幾つか挙げてみることとする。

①；器種は、器高に最大長を持つ深鉢がほとんどであるが、若干数器高と口径がほぼ同じ数値を示す鉢的な土器が含まれる。

②；口縁部に撚糸文などを施文することで口縁部文様帯を形成する土器（幅は1.5～３cm、３cm程のものが主体）と形成しない土器（口縁部～底部まで地文のみを施文する）がある。

③；口唇部に縄文や短沈線（刺突状）を施文する土器が若干数見られる。また、口縁部に山形状の小突起を２単位で持つものがある。

④；底部～口縁部まで直線的（筒状）に立ち上がる器形が主体であるが、若干数胴部中位に幾分膨らみを持つ器形がある。

⑤；底面と底部の接着部が、若干外側に張り出し気味（突出する）を呈する土器が含まれる。

⑥；胎土中に植物繊維の混入が見られるものが、大部分を占める。その混入量は微妙に相違する傾向が感じられる。本稿の土器観察においては、植物繊維の混入量の違いを５段階（ａ多量、ｂやや多量、ｃ中量、ｄ少量、ｅ微量）に区分したが、中量～微量までが見られ、傾向としては少量と判断したものが多い。

本遺跡の所在する二戸市は、北緯40°線より北に位置する立地関係から、通常は円筒式土器文化色が強い地域に捉えられるが、本遺跡と隣接する下村遺跡出土土器や約２km離れた中曽根遺跡出土土器などを見ても、東北地方南部の大木２式の影響を受ける土器が相当数確認できる。第Ⅱ群－２類とした土器群は、本稿においてその大部分を円筒下層ａ式と捉え記述しているが、大木１式あるいは大木２ａ・２ｂ式と思われる特徴の土器も散見される。④で述べた胴部中位に幾分膨らみを持つ器形の土器や⑤の特徴を持つ土器などは、大木系の影響を受けた土器である可能性があるが、円筒系と大木系の何れの土器群であるかは筆者の観察眼では特定できず分類上の区分は行っていない。大木系の可能性が感じられる土器については、問題提起も兼ねて観察表備考の項に記載した。当該地域においては、円筒下層式と大木式は密接な関係にあるものと推定される。本遺跡における該期土器は、円筒系が優勢であることが指摘される。

＜ｃ＞　第Ⅲ群とした縄文時代中期の土器は、出土量は少量であるが、中期初頭～末葉まで全般を網羅する資料と捉えられる。出土量は少なく、遺構との係わりが少ないので多くは語れないが、傾向としては中期初頭～前葉は円筒上層式が主体（大木７式は確認できなかった）で、中期中葉以降は大木系が優勢であるが、最花式など北の影響が窺える土器も若干見られる。

＜ｄ＞　第Ⅳ群とした縄文時代後期の土器は、後期初頭の前十腰内式～後葉の十腰内Ⅳ式までのものが出土している。主体は、後期初頭～中葉の土器である。十腰内Ⅰ式の前段階と思われる後期初頭の土器については、比較的出土量を得ているが、完形資料はなく、細部の検討は行っていない。また、今回の調査からは類似するものは出土していないが、上村式と仮称される後期初頭土器の出土をみたのは、今回の調査地から直線距離にして約700mほどの地点である（岩手埋文第56集）。後期中葉の土器は、25号竪穴住居跡より1012・1013の完形資料を得ているほか、文様が明瞭な破片も比較的得られている。

＜ｅ＞　第Ⅴ群とした縄文時代晩期の土器は、大洞諸型式に比定させる分類を行った。主体は口縁部の狭い

範囲に工字文や変形工字文を施文する晩期後葉～末葉の土器群で、完形資料としては12号・21号竪穴住居跡や調査区南端部遺物集中区（①遺物集中区とした地点）などから出土している。該期遺構同士で重複関係を示すものとして、21号竪穴住居跡と22号竪穴住居跡がある。

（2）土製品

土製品は、ミニチュア土器12点、土偶３点、円盤状土製品18点、鐸形土製品３点、その他３点が出土している。

ミニチュア土器は、前期と思われるものが１点、その他は後期・晩期のものと思われる。土偶は、縄文時代後期～晩期のものが出土している。特記事項としては、晩期後葉期（大洞Ａ式の新しい段階？）と推定される髪結い土偶（下半部は欠損）が１点出土している（顔～胴部は完形で、髪の部分が２片近隣から出土し接合した）。出土状態としては、７ＣグリッドⅣ層の精査中に出土したもので、土器などと一緒に出土したものではなく、単品で出土した。埋めらたような状態ではない。また、出土地点である７Ｃグリッドは旧沢跡の流路に接する部分であるが、土偶の出土した土層は流路によって運ばれてきた土層ではない。円盤状土製品は、時期は明確ではないが、胎土の様相や調整具合から推定すると、縄文時代前期～晩期までの範疇で捉えられる。鐸形土製品は、外面の沈線による弧状の文様などから推定して後期前半のものと思われる。その他としては、後期初頭と思われる板状の土製品が出土している。

（3）　石器・石製品

石器は、石鏃90点、石槍・尖頭器10点、石錐６点、石匙45点、石篦８点、ピエス・エスキーュ（楔形石器）１点、不定形石器（削器・掻器）125点、Ｕ・Ｆ（ユーティライズド・フレーク）16点、打製石斧８点、磨製石斧15点、半円状偏平打製石器21点、石錘５点、凹石34点、磨石27点、敲石13点、台石２点、石皿７点、砥石２点、その他37点が出土している。剥片石器は、石材は頁岩が主体で、削掻器類、石鏃、石匙が多い。礫石器は、石材は安山岩が主体で、凹石、半円状偏平打製石器、磨石（磨石や敲石などは、整理作業の段階で錯綜し、本来の出土数は明確ではない。提示した点数より実数は多い）などが多い傾向で窺えられる。逆に少ない器種としては、石錘が挙げられる。石錘が少ない結果を示したことが、本遺跡の生業に反映するものかどうか興味深い事象である。

出土土器の時期幅が広いことから、時期による器種構成の内容はわからないが、前期に多くみられる木葉形を呈する石槍や円筒土器に伴い出土することが指摘されている半円状偏平打製石器などが、時期的特徴の一端を示す器種と捉えられる。

石製品は、石剣13点、石刀４点、石棒４点、円盤状石製品８点が出土している。石剣・石刀としたものは、全て欠損品である。

3　総括と所見

ここでは比較的検出数の多かった竪穴住居跡と調査で疑問点が残った捨て場、及び本遺跡に断絶する時期について、取り挙げることとする。

（1）　竪穴住居跡の占地について

竪穴住居跡の占地は、時期に関わらず平成９年度に調査を実施した調査区東部に密に見られ、また地形の

連続性から調査区外東側（建設中の新幹線路線部分の東側に広がる果樹園部分付近、地権者の話からは土器が相当量拾えるらしい）についても、かなりの密度で竪穴住居跡が分布すると推定される。第93図は、３カ年分の遺構配置図を現況地形図（調査前の地形図）に合成したものである。第93図を参考に竪穴住居跡の時期による占地を考察すると、前期と後期の竪穴住居跡は若干高位となる緩斜面地に、晩期の竪穴住居跡はそれらより低位な平坦気味の部分に占地する傾向が窺え、時期により微妙に相違する。

また、前期・後期の竪穴住居跡の占地より高位（標高が高い）となる調査区西部は、一部分に遺物集中区（遺物包含層）が確認されたものの、竪穴住居跡に限らず土坑など他の遺構も検出されていない。旧沢跡に伴う複数の流路跡の存在などから、洪水的現象が頻繁に起こりやすい地形的環境に起因し、遺構の構築が行われなかった場所と推定される。ただし、消失してしまった可能性も完全には否定できないこを追記して置く。次に、竪穴住居跡の時期による配列関係や同時期に存在した棟数について、推定から所見を述べる。

前期の竪穴住居跡の配列については、なんらかの規則性などは読み取れない。今回の調査で最も出土量の多かった土器は、前期前葉の円筒下層ａ式であるが、該期の竪穴住居跡の検出数は４棟で、少ないように思われる。

後期の竪穴住居跡の配列については、狭い空間にアトランダムに分布しているように読み取れる。ただし、後期の竪穴住居跡は、初頭～中葉の中で時期細分が可能なのは竪穴住居跡25号（後期中葉）だけで、同時期に何棟の竪穴住居跡で構成されていたものかを特定することができず、多くを言及できない。

晩期の竪穴住居跡については、調査区内における標高が低く平坦気味なスペースに、南北方向に並列気味に配列するように読み取れる。ただし、調査区外東側に居住域が広がる可能性が高く、あるいは環状に配列される可能性を残す。環状に配列されると仮定した場合、本調査区は居住域の西端付近に相当することとなる。同時期に存在した竪穴住居跡の数について、今回の調査成果（今回の調査区内）からは、大洞Ａ～Ａ'式期において、３～５棟前後で構成されていたと推定されるものの、配列関係と同様に調査区外東側に広がる可能性を考慮すればもう少し多い棟数になるであろう。なお、今回は大洞Ａ式・大洞Ａ'式土器ともに新旧細分せずに言及している。特に大洞Ａ式土器については、古い段階から新しい段階までの土器が出土している様相であるが、調査期間との関係もあり、精査時の取り上げ方法に問題があったことは否めず、竪穴住居跡の時期推定に反映できなかった。調査の反省点として踏まえたい。

（２）捨て場について

捨て場については、その所在を明言できるものではないが、本章１の（７）で上述した遺物集中区２地点に可能性がある。その内、調査区南端部の遺物集中区の位置については、竪穴住居跡の空間占地より標高的に高位な場所となることが指摘される（平成12年度調査で検出した竪穴住居跡25号１棟だけがほぼ同一の標高となる。ただし、同住居跡は後期中葉であるため、出土遺物の主体を占める時期とは相違する）。調査区南端部の現況地形は、遺物集中区付近から西側にかけて現代に盛土が施されるなど人工改変が著しい地点であるため、第93図からは傾斜の緩やかな緩斜面的な地形に読み取れるが（特に東西方向では平坦に読める）、旧地形は西側から東側に向かう斜面地である。よって、竪穴住居跡が密に検出された調査区東部よりも実際の旧地形は２ｍ以上高位な場所に相当する（平成９年度調査区と平成11年度調査区の境界付近が地形傾斜変換点となる）。このことは、本遺跡の遺物廃棄が、居住域より上方に行うなどの特殊な例である可能性が考えられると思う。

事例的にみて縄文時代の捨て場は、居住域の下方側（主に谷や沢）あるいは廃絶後の遺構中（竪穴住居や

土坑）などに形成されることが多いと思われる。調査区南端部の遺物集中区の位置より高位となる調査区西部は、復唱となるが洪水跡と思われる複数の流路が確認されたが、遺構は検出されていない。本来存在した竪穴住居跡などが大規模な洪水現象により、消失した可能性も理論的には考えられないことはない。しかし、確認された洪水現象の痕跡と思われる流路は、遺物包含層形成時期より新しいことはわかるが、上述の内容を証明できる状況ではなかった。

次に、調査外の場所に当該期集落跡の存在を模索してみる。調査区外南側の山は、起伏が険しく山頂付近には平坦なスペースがほとんどない地形であるため、該期集落の立地する可能性は低いと思われる。調査区外南西側（現在もかなりの水量のある沢の上流域）についても、沢沿いに小規模な平地（現在は小規模な水田などが立地する）が見られるものの、探査した結果からは該期集落の立地する可能性は低いと思われた。調査区外北西側については、本遺跡より一段上の段丘に相当し、現況は果樹園として利用されている。地権者の話では遺物が拾えるらしいので、該期集落の存在する可能性は残るものの、位置的にみて本遺跡の遺物集中区（遺物包含層の分布地点）の形成とは無関係と思われる。上述したような周辺の地形的環境を考えた場合、本調査区より上方の該期集落から遺物供給（土砂流出とともに遺物が流れ着いた？）された可能性は低いように思われる。

居住域（竪穴住居跡の占地）より標高が高い地点に遺物廃棄を行った県内の事例としては、大船渡市上鷹生遺跡などにその可能性が示唆されるものの明確ではなく、筆者は知り得ていない。類例の増加を待って、検討する必要があると思われるが、本遺跡についてもその一例となり得る可能性があることを述べておきたい。

（3）断絶する時期について

最後に、本遺跡は基本的に縄文時代早期～晩期末葉まで永年継続して営まれた遺跡と捉えられるが、今回の調査で検出された遺構（主に竪穴住居跡）の時期をみると、断絶する時期が存在する。幾つか挙げると、①早期、②前期中葉～末葉（円筒下層ｃ～ｄ式期）、③後期後葉～末葉（十腰内Ⅳ～Ⅴ式期前後）、④晩期中葉（大洞Ｃ１～Ｃ２式期）などである。上記した時期は、出土した土器についても確認できないかあるいは数点の出土数であり、調査地外に該期遺構の存在を示唆するにとどまる。

周辺の遺跡をみると、新幹線建設に伴い発掘調査が行われた下村遺跡（本遺跡から北に約300mに位置、平成８・９年に調査）では、上述した①～④の時期の土器は確認されている（竪穴住居跡などの遺構については前期初頭１棟、前期前葉１棟、中期後葉１棟）。また、縄文時代早期の遺構が、同じく新幹線建設に伴い発掘調査が行われた米沢遺跡（本遺跡から北に約900m、平成10～12年に調査）で検出されている。詳細については発掘調査資料の整理と増加を待って検討する必要があると思われるが、本遺跡で断絶をみる時期については、馬淵川西岸部として広い空間で捉えれば、早期から晩期まで生活空間を若干変えながらも、継続的に営まれていたことが窺える。

参考・引用文献

青森県教育委員会『長七谷地貝塚遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告集57集　1980年

小田野哲憲　「岩手の弥生式土器編年試論」『岩手県立博物館研究報告３』1978年

熊谷　常正　「岩手県における縄文時代前期土器群の成立」『岩手県立博物館研究報告１』1983年

岩手県埋蔵文化財センター（第55集）『上里遺跡発掘調査報告書』1983年

（第56集）『上村遺跡・下Ａ遺跡・下村Ｂ遺跡発掘調査報告書』1983年

（第57集）『荒谷Ａ遺跡発掘調査報告書』1983年

（第253集）『上田鷹遺跡発掘調査報告書』1997年

（第262集）『田代遺跡発掘調査報告書』1997年

（第323集）『下村遺跡発掘調査報告書』2002年

（第340集）『岩手県埋蔵文化財発掘調査報告書』2000年

高橋亜貴子「東北地方縄文時代前期前葉組縄縄文について」『東北文化論のための先史学・歴史学論集』1992年

二戸市教育委員会『中曽根遺跡発掘調査報告書』1978年

宮城県教育委員会『田柄貝塚Ⅰ遺構・土器』宮城県文化財調査報告書第111集　1986年

本間　　宏　「縄文時代後期初頭土器群の研究（1)」よねしろ考古第３号　1987年

本間　　宏　「縄文時代後期初頭土器群の研究（2)」よねしろ考古第４号　1988年

成田　滋彦　「入江、十腰内式土器様式」『縄文土器大観４巻』1989年

鈴木　克彦　「東北地方北部における十腰内式土器様式の編年学的研究・４」縄文時代第９号　1998年

前期竪穴住居跡

後期竪穴住居跡

晩期竪穴住居跡

遺物集中区

0 10 20m

第93図　時期別遺構配置図

報告書抄録

ふりがな	うわむらいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	上村遺跡発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第375集
編集者名	岩渕　計　前田　稔　星　雅之
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所在地	〒020－0853　岩手県盛岡市下飯岡11－185　TEL　019－638－9001
発行年月日	2002年3月15日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
上村遺跡 (うわむらいせき)	岩手県二戸市 米沢字上村139 ほか		IE 99－2391	40度 16分 41秒	141度 17分 41秒	19970409～ 19970703 19990413～ 19990628 20000801～ 20000810	2,000㎡ 2,585㎡ 286㎡	東北新幹線盛岡・八戸間建設事業関連遺跡発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上村遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡　25棟 土坑　46基 竪穴住居状遺構　2棟 焼土遺構　8基 溝跡　2条 埋設土器遺構　7基 柱穴状小土坑　153基	縄文土器 ……大コンテナ40箱 土製品……39点 石器……465点 石製品……29点	縄文時代前期、後期、晩期、各時期の集落

（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

所　　長　伊藤民也

〔管理課〕

管理課長　韮沢正吾
管理課長補佐　山崎善光
〃　山岸直美
主　　査　立花多加志

〔調査第一課〕

調査第一課長　佐々木　勝
課長補佐　佐々木清文
〃　高橋義介
文化財専門員　小山内　透
文化財調査員　中田　迪
〃　飯森秀文
〃　赤石　登
〃　吉田　充
〃　亀大二郎
〃　小原眞一
〃　佐々木信一
〃　小笠原健一郎
〃　金野　進
〃　小松則也
〃　岩渕　計
〃　鳥居達人
〃　金子昭彦
〃　羽柴直人
〃　千葉正彦
〃　長村克稔
〃　星　幸文
〃　佐藤あき子
〃　菊池貴広
〃　村上　拓
〃　本多準一郎
〃　村木　敬
〃　北村忠昭
〃　高瀬克範
〃　丸山浩治
〃　島原弘征
〃　中村絵美
期限付調査員　小林弘卓
〃　江藤　敦
〃　菊池　賢
〃　井上信介
〃　川又　晋
〃　吉田真由美
〃　坂部恵造
〃　木村ひかり

副所長　高橋正儀
嘱　託　高橋照雄
〃　佐々木光重
〃　加藤美代子
〃　湯沢邦子

〔調査第二課〕

調査第二課長　高橋與右衛門
課長補佐　中川重紀
文化財専門員　金子佐知子
文化財調査員　阿部眞澄
〃　飯坂一重
〃　阿部　徹
〃　濱田　宏
〃　安藤由紀夫
〃　高木　晃
〃　佐藤淳一
〃　星　雅之
〃　菅原靖男
〃　半澤武彦
〃　杉沢昭太郎
〃　溜　浩二郎
〃　中村直美
〃　西澤正晴
〃　八木勝枝
〃　（阿部勝則）
期限付調査員　吉川　徹
〃　北田　勲
〃　吉田里和
〃　原　美津子
〃　齋藤麻紀子
〃　駒木野智寛

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書375集

上村遺跡発掘調査報告書

東北新幹線盛岡・八戸間建設事業関連遺跡発掘調査

印刷　平成14年３月８日
発行　平成14年３月15日

発　行　㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020－0853　岩手県盛岡市下飯岡11－185
TEL（019）638－9001
FAX（019）638－8563

印　刷　河北印刷株式会社
〒020－0015　岩手県盛岡市本町通２丁目８－７
TEL（019）623－4256
FAX（019）623－0976

©㈶岩手県文化財振興事業団埋蔵文化財センター　2002